日刊　気持ちいいもの

刊 No.00001〜No.01700

気持ちいいもの No.00001〜No.01700

仲の良い人からの「おはよう」朝、まだ眠い顔で歩いていると、思いがけなく「おはよう」の声。さわやかなその声にいっぺんに目が覚めるとともに、心地よい笑顔に心が洗われる。私も気持ちいい「おはよう」が言えるように、姿勢を正そう。独楽回し独楽に紐をぐるくる巻いてえいやっと回す。手から離れた独楽は宙を飛んで地面に着地する。軸で地面を突っつきながら独楽は小さな宇宙を作る。独楽は月か、太陽か。いくつもの円を描いて宇宙は燃え尽きる。ハワイアン・スラッキーギター最近流れているハワイ観光局のCMのバックに流れているのがハワイアン・スラッキーギターだ。普通のギターの音色よりどこか開放的で聞いていると気持ちいい。英語で書くと　Hawaiian Slack Key Guitar　だ。つづりからもわかるように実は弦の張り方がゆるい。ハワイの人たちがその昔、ヨーロッパやアメリカから持ち込まれたギターを弾こうとして、自分たちなりの調弦をしたらしい。それぞれの弦の音の取り方は地方ごとにいくつかあり、弾き手の紹介にはどの調弦を採用しているかが書かれている。ハワイにはハワイアン・スラッキーギターのためだけのレコードレーベルがあり、そこの「Masters」というアルバムを買ってきた。東京でハワイを思いだしたいときにかける。咲き乱れる花の甘い香りと強い日差し、海の風を思いだす。あ、朝食のおいしいパパイヤも思いだした。桜吹雪満開の桜並木に風が吹くと、桜吹雪が流れていく。毎年のように見る景色なのに、毎年のように感動し、毎年のように嬉しくなる。この感覚はなぜ湧いてくるのだろうか？本当に美しいものに出会ったとき、胸が高鳴る。大人になると美しいものに胸を高鳴らせることが恥ずかしいように思えてなんとか隠そうとするのだが、隠しきれないときがある。美しい女性に会ったときと、桜吹雪に我が身が洗われるときだ。五ミリ方眼罫のレポート用紙僕が学生の頃には五ミリ方眼紙はあまり見かけなかったが、会社に入ると専用のレポート用紙があったので愛用するようになった。それからしばらくするとたくさん市販されるようになる。特に図形などを書くわけではなく、字ばかりなのだけど、それでもあれが使いたい。美しいもの美しいものは壊れやすい。もし絶対壊れない美しい物ができたら、時とともにその美しさは損なわれていく。美しいものは確固たる物ではなく、とてももろいために美しいのだ。変化にさらされてその時々に美しい物は、その変化の中に美しさを生み出している。シンクロ命はすべてシンクロしたがる。必ずするのではない、したがるのだ。そこにまるで意思があるかのように。自分の気持ちは自分が制御していると思いがちだが、その自分はどのように成り立っているのか？きっと自分のからだは、鼓動にシンクロしたがっている。シンクロできているかどうか、その微妙な感覚を僕は見失っているのかも。きっと気持ちも、鼓動にシンクロしたがっている。微妙な鼓動の違いに注意を払う人はほとんどいない。動物の群れは個々にシンクロする。群れを遠くから見るとまるで波のようだ。水が揺れるように、風が流れるように、影響を与え合いながら、影響され合う。熱帯雨林の雨の音葉に当たる雨の音、霧となって流れてくる雨、植物の香りと鳥の声。熱帯雨林の雨の朝、あらゆる命が動き出す。地を這う蟻が樹に登り、甘い蜜を探すように、僕は自分の存在を確認する。休日に聞こえたピアニカ休日に窓を開けていたらどこかから子供が弾くピアニカが聞こえて来た。ポアーッとか、ププカププカとか、でたらめな音が続いたが、しばらくしたら「キラキラ星」のメロディーになる。のんびりしていていい感じ。Sad Cafe江古田に好きなレストランバーがある。イーグルスの名曲「The Sad Cafe」を店名にしたレストランバー。できてから30年くらいたつ。暗い店内ではJazzが流れ、ゆったりと落ち着きたいときにいい店だ。大学生だった僕は、ここができたばかりの頃から通い始め、いまだに時々行く。サラリーマンのときには会社帰りに寄ってボーッとした。その頃ここで働いていたお姉さんがきれいでよく気がついて素敵な人だった。三時か四時の開店のときに一度だけイーグルスの「The Sad Cafe」が流れる。ここでの「The Sad Cafe」はもうずっと聞いていない。海で泳ぐ年に一度は海で泳ぎたい。シュノーケリングと足ひれつけてスイスイと泳ぐ。少し塩っぱいのが気持ちいい。魚や亀やイルカと泳ぐのが楽しい。少し深くもぐった時の水圧のかかり具合が懐かしい。理解不能なこと世の中にはいろんな理解不能なことがある。そういうことに出会うたび、ちょっとだけうれしくなる。それをどうすれば理解できるのか、新たな冒険が始められるから。星雲宇宙の遙か彼方にある星雲の写真を見ていると不思議に気持ちになる。これほどまでに多様な島宇宙があることに。そこに生きている生物たちもきっと様々なのだろう。そこには僕たちが想像もできない生物と、それらが作る社会があり、訪れたとしてもきっとちっとも理解できない。そもそもずっと日本の社会の中に生きている僕たちですら自分の社会が把握できていないのだから。これだけたくさんの人が生きている地球上の社会をすべて正しく理解しようとすること自体が間違っているのかもしれない。宇宙に生まれる多様性は底知れず。そもそも底などという、三次元的把握しかできない人間には難しい世界。自分自身がどうして作られたのかも知らないのだから。この奇跡的状況を生み出している宇宙には感謝する以外ほとんどなにもできない。真っ赤な実をつけたピラカンサ近所の公園にピラカンサの木がある。僕はその木の名前を知らなかった。とてもかわいい赤い実で何枚も写真を撮った。すると犬を連れたおばあちゃんが「八甲田山の兵隊さんたちはこの実を食べて飢えをしのいだのよ」と話しかけてくれた。「この木の名前は何ですか？」と聞いたら「ピラカンサスよ」と教えてくれた。うちに帰って調べたら「ピラカンサ」という木だった。「ピラカンサ」には何種類かありそれらを総称して「ピラカンサス」というらしい。赤い実をひとつ取って口に入れるとほのかに甘く、少し酸っぱかった。小さな種をポツポツと噛み砕いた。飛んでいる鳥の撮り方飛んでいる鳥を撮るのが好き。一瞬をつかんでいるって感じがする。最近ではデジカメで撮るからいくら撮っても気にならない。以前フィルムだった頃は無駄に写真を撮れば撮るほど現像代がかさむので飛んでいる鳥はなかなか撮れなかった。昔、ケニアに行ったとき、取材で行ったので現像費は出版社持ちだった。あるとき、大きな木の前で時間待ちすることになった。その木にはたくさんの鳥が群がっていた。木を撮って鳥の状況を撮るのは簡単だったが、飛んでいる鳥を一羽一羽撮ってみたいと思った。群れで飛びまわっているのでなかなかファインダーに捉えられない。しばらく観察していたら一羽の鳥はほぼ同じコースばかり飛ぶことがわかった。それがたくさんいるから訳がわからなくなる。目くらましのように。そこである一羽に目をつけたら、その飛行コースを観察する。その飛行コースを覚えれば、次にそこに来たときに撮影すれば良い。それ以来、動物の写真を撮るときは行動パターンを読むようになった。おぼろ月誰の人生でもきっといくつかの困難が伴う。その人の人生が輝けば輝くほど、その困難が輝きを美しく彩ってくれる。おぼろ月が美しいのは雲や霧が月を時々隠しながら、その光を反射させ、ドラマティックに演出してくれるから。雲は人生の上での困難と同じ。神様からの贈り物神様からの贈り物、それは僕たちがこうして生きていること。美しい景色を見て、人との対話を楽しめる、そのことが神様からの贈り物。あらゆる存在は闇から生まれ、闇へと消えていく。そのあいだの僅かに与えられた晴れの舞台。それが本当の神様からの贈り物。苔むす岩昔、日本では岩に魂が宿った。そういう岩には苔が生し、注連縄が飾られた。バリ島には似た感覚がいまでもあるようだ。あちこちに苔むした石像がある。現代の価値観ではきれいに苔を取ってしまいそうだが苔が生えることに価値を感じるのだろう。でも、実際のバリ人たちはこんなふうに答える。いちいち苔取るのは面倒だからだよ。えっ？　そうなの？帆船での別れ船員たちが号令によってマストに駆け上がる。柱で支えられた細い綱の上に立ち、マストの上から帽子を振る。「ごきげんよう！」見送る者たちはその声に負けじと声を上げる。「いってらっしゃい！」「早く帰ってこい！」「体に気をつけるんだぞ！」カー杯の声を聞くと傍観者でしかない僕の胸が熱くなるのは、古来幾多の戦いの儀式を過ぎてきた先祖たちの血が騒ぐからか？気持いいものを書くこと時々気持ちいいものを書き続ける理由について考える。僕はいつも心を耕しているのだと思う。そんなことしなくても生きてはいける。しかし、していると生きている質が変わるのだろうと思う。底の深くに沈んでしまった思い出を時々拾い上げることで僕自身を支配している感情と向き合う。拾い上げたものは感情そのものではないがいつか感情に発達するであろう断片だ。それを拾い上げて、なぜそこにいるのかを確かめてそしてまたそれを沈める。鎮める。静める。無意識に根を張る何ものかを管理したい欲望とともにいる。別れ際にハグ懐かしい友達と会い、いろいろとおしゃべりして別れ際にハグ。なんかいいよな。世界が心地いいものだけではないこと個人の感覚のみに浸りきっているとこの世界が心地いいものだけではないことに気づかされる。自分にとってだけ心地いい世界を求めれば求めるほど世界に裏切られる。個人の感覚にとどまるだけではなく大きな存在に共感することで本当の心地よさが見えてくる。大きな存在に自分の感覚を委ねるか、自分の感覚にとどまるかは、自分次第。『Pina/ピナ・バウシュ 踊り続けるいのち』ヴィム・ヴェンダースのインタビューを見てこの映画を見てみたいと思った。ヴィム・ヴェンダースの監督としての素晴らしさがどういうものだか僕にはわからないけれど、「3Dのカメラアングルは、いままでの映画のものとは違う」と聞いて、それがいったいどう違うのか確かめたかったから見に行った。結局、僕にはいままでの映画と3Dのアングルの何が違うのかわからなかったけど、3Dで撮られたダンサーたちの生きていることのエネルギーに触れて圧倒された。彼らは普通に踊っているのではない、何かに乗り移られて踊らされているような感じた。しかも、それは野生動物が自然の環境の中でただただ生きている状態を人のからだに乗り移させたような生き生きした感覚が伝ってくる。物語はほとんどない。瞬間に生きている生命のエネルギーが3Dの空間からあふれてくる。バリ島の祭礼バリ島の祭礼は背中合わせ。生と死。静と動。優しさと厳しさ。この瞬間と永遠。陰と陽。悲しみと喜び。研ぎ澄まされた両極端の薄い刃の上を進んでいく。日本人が忘れかけている生きることそのもの。ウォレスの生き方アルフレッド・ラッセル・ウォレスの書いた「マレー諸島」を読んでいる。ウォレスという人はとても興味深い人だ。ダーウィンの進化論を支える自然淘汰説をブラジルやマレー諸島を巡って様々な生物の標本を集めて確固たるものにしていくが、本人は生物学者と言うよりは、もとは単なるアマチュアの採集活動が好きな人で、若い頃は建築測量士として成功するが、25歳でブラジルに旅立ち、アマゾンの熱帯雨林で珍しい昆虫や動物の標本を作ってはイギリスのコレクターに売っていた。その後、マレー諸島を巡りその体験がいつしか自然淘汰説を生み出す基礎となる。自然淘汰説ではダーウィンのほうが有名になったが本人はあまり意に介せず、50を過ぎて財産が残せず、困っているとダーウィンが政府に働きかけ、年金がもらえるようになり、やっと生活が落ち着く。その後、90歳まで生きた。ちょっとした違い以前、10年以上前、1999年からほぼ毎日「気持ちいいもの」を書き始めた。その頃は気持ちいいものを書くことを義務のようにして書いていたので時々疲れて休まなければならなかった。いまは毎日書いても義務ではない。好きで書いている。このちょっとした違いが大きい。だけど、このちょっとした違いを乗り越えられるかどうかが大切なのだと思う。芋掘り幼稚園児の頃、芋掘りをした。近所の農家に行ってサツマイモを掘らせてもらう。僕に割り当てられた株はまだサツマイモがついてなくて掘っても何も取れなかった。みんなが次々とお芋を引き上げるのに僕の手元には何もなく悲しかったが、先生がそれを見つけて、別の株を掘らせてくれた。サツマイモが出てきたときはうれしかった。改札のリズム最近ＳＵＩＣＡを使っている。プリペイドカードは財布からカードを出し自動改札機に入れなければならなかったが、ＳＵＩＣＡは財布やカード入れからいちいち出す必要がない。ＳＵＩＣＡの入った財布やカード入れを自動改札機の所定の場所に近づければよい。以前目の前にいた人が改札機を通るとき鞄ごと所定の場所に乗っけて通っていった。僕は名刺入れに入れて使っている。便利になったなぁと思いながらふと思い出したことがある。かつてまだ改札に駅員さんが並んでいた頃の改札のリズムだ。チンチンチチンチン　チンチチチンチン改札の駅員さんが改札鋏をリズミカルに鳴らしていた。ひとりの切符を切ったら次の人の切符を切るまでのあいだチンチンチチンチン　チンチチチンチン昔はどこの駅でも聞こえていた

No.00001　99.11.11

仲の良い人からの「おはよう」

朝、まだ眠い顔で歩いていると、思いがけなく「おはよう」の声。
さわやかなその声にいっぺんに目が覚めるとともに、
心地よい笑顔に心が洗われる。
私も気持ちいい「おはよう」が言えるように、姿勢を正そう。
今朝、あなたの声はさわやかに響いてますか？

No.00002　99.11.12

挽きたて入れたてのコーヒーの香り

ゴリゴリとミルで豆を挽き、ドリップでコーヒーを落とす。
コーヒーの香りは部屋を満たし、
そこに来る人の心をなごませる。
砂糖を入れなくても、苦みの奥に
コーヒーの甘みを見つけたのは、
父がサイフォンで入れてくれたコーヒーを飲んだから。
あなたの朝食には、どんな思い出がありますか？

No.00003　99.11.15

秋に香る金木犀

悩みと言えば恋と成績だけだった高校生のころ、
下校の際には仲間と一緒に駅まで歩いた。
ワイワイ騒ぎながら進む住宅街に、金木犀はそっと香っていた。
吹奏楽部に在籍していた私にとって、
金木犀は文化祭とともにやってくる晴れ舞台の象徴だった。
あなたの晴れ舞台は、何に象徴されていますか？

No.00004　99.11.16

朝焼けの空を眺める

夕焼けは喧噪のなかで見ることが多いが、
朝焼けは静寂のなかにやってくる。
朝日が昇り　日が届くと、からだが暖かくなるのがわかる。
朝焼けはいつも同じく朝焼けなのに、
どれひとつとして同じ朝焼けはない。
ひとは皆同じくひとなのに、
誰一人として同じひとではないのと似ている。
あなたは朝焼けを見て、何を思いますか？

No.00005　99.11.17

使い込んだシステム手帳

傷だらけでクタクタになったシステム手帳。
私のスケジュールは君がいないとわからない。
毎日私と一緒にどこへでも行く。
ぞんざいな扱いを受けても黙って機能を発揮してくれる。
君の皮の表紙を見ていると、
私とともにいかに長い時間を過ごしてくれたかがよくわかる。
あなたが愛着を持ち、大切にしているものは何ですか？

No.00006　99.11.18

友達からの手紙

たまに来る友人からの手紙。
差出人を見て笑みがこぼれる。手紙は女性の文化だ。
男性からはめったに手紙をもらうことはない。
男性からの手紙は旅行先からの絵はがきか礼状に限られる。
男同士の手紙のやりとりはどこか照れくさい。
用件はたいてい電話で済ます。でも、たまの手紙はいいものだ。
最近、あなたは誰かに手紙を書きましたか？

No.00007　99.11.19

どこからか漂うたき火の香り

この季節、夕方に町中を歩いていると、
懐かしい香りが漂ってくる。
たき火の香りだ。
「もう今年もそろそろ終わりだぞ」と匂いに告げられている
気がしてくる。
幼い頃、遊び疲れて帰るとき、この匂いがしていた。
子供の頃の無邪気な気持ちが僕の心に
まだ残っていることを思い出す。
あなたは夕方、たき火の香りを感じますか？

No.00008　99.11.22

紅葉に色づく山々に叫んでみる

赤や黄色に色づく山に思いっきり叫んでみる。
緑の山や雪でおおわれた真っ白な山に叫ぶのも良いが、
色とりどりの山に叫ぶのは格別だ。
自分の声があの美しい色のさざめきに反射して
帰ってくるのだ。
反射してくる声も虹のように美しく聞こえる。
あなたは最近、ストレスを発散できるほど大きな声を出していますか？

No.00009　99.11.23

静かな森に一人たたずむ

この季節、森にひとりでいるのが気持ちいい。息が白い。
風の音がする。歩くと枯葉がかさかさと鳴る。
葉を落とした枝の間から射す日の光を浴びていると、どこから

か妖精が出てきそうな気がする。
「妖精なんかいないよ」
大人の心が否定する。
でも、私のなかの子供の心が妖精とともに小道を駈けていく
幼い私の姿を見せてくれる。
子供時代の無邪気な心を、今でも思い出すことがありますか？

No.00010　99.11.24

せせらぎに耳を傾ける

せせらぎの音が聞こえる場所は静かな場所。
せせらぎの音とともに風の音が聞こえ、鳥の声が聞こえ、
近くにいる人の気配が感じられる。
音というものがどれだけ自分の心に影響を与えるかを
実感できる場所。
今日、静かな時間にせせらぎを思い出してみてはいかがですか？

No.00011　99.11.25

枯葉をたくさん両手でつかんで高く投げ上げる

カサカサカサ。音をたてて枯葉が流れる。
目の前をくるくると枯葉が舞う。
それまで見えなかった風の流れが明らかになる。
下手に投げると顔にかかるし、
悪くすれば口に枯葉が入ってしまう。
枯葉は土のように苦いよ。香ばしいかおりもするな。
高く投げ上げた枯葉、どこまでも風に流れてゆけ。
大人には無意味に思えることが、実は大事なことだったりする。

No.00012　99.11.26

出勤前の朝風呂

少し早めに目を覚まし、出勤前に朝風呂へ。
からだに血液が巡り、眠い頭がはっきりとしていく。
考えが明晰になり、今日やるべきことが楽しく思える。
玄関を出て感じる冷たい風も心地よく感じる。
あなたにとって朝　気持ちよく目覚める方法は何ですか？

No.00013　99.11.29

青空を背景に揺れる背の高い椰子の木の葉

背の高い椰子の木が自生するような場所に行くと、
燦々と太陽が輝き、風も暖かくとても気持ちいいものです。
椰子の木の葉が揺れるのを眺めながら、
冷たい飲み物を飲むのがとても好きです。
あなたの好きなシチュエーションはどんなものですか？

No.00014　99.11.30

肩にもたれて眠る恋人の温もり

長い旅の途中、
列車に揺られながらふたり並んで座っていると、
いつしか彼女が夢の世界へ旅立ちます。
静かな寝息をたてる小さな頭が、私の肩を暖めます。
信じてもらえる喜びと支えて上げられる喜びが、
私の胸も暖めてくれます。
寄り添うことの温もりを、あなたはどんなときに感じますか？

No.00015　99.12.01

飛び上がるほどの喜びに、思わずするハグ

苦労して開催したイベントが無事に終わり、
苦楽を共にした友人たちとハグをする。
言葉で喜びを表現するより、ずっとわかりあえるその瞬間。
ギュッと抱きしめられたあとの開放感は、
まるでスポンジが水を吸い込むよう。
私のからだに喜びが吸い込まれてくる。
思いっきり喜んだとき、あなたは何をしますか？

No.00016　99.12.02

朝食の、ご飯と味噌汁の香り

日本からしばらく離れると、
当たり前だったことがとても大切なことだったと気づく。
そんなことのひとつに朝御飯の香りがある。
目が覚めるとご飯と味噌汁の香り。
それがどんなにありがたいことか。
布団から抜け出し、今日も一日がんばろうと思わせてくれる。
あなたの朝の活力は何ですか？

No.00017　99.12.03

書き味の良いペンで書く文章

普段はワープロで文章を書く私だが、
時々ペンで書きたくなる。できれば書き味の良いペンがいい。
原稿用紙や便箋の上に黒や青の線が広がる。
ワープロでは漢字変換に時間がかかり、
スラスラと文章を書くわけにはいかないが、
ペンで書くと私からあふれる言葉をあふれるままに
表現していくことができる。
心から滴り落ちた言葉たちが、
紙をぐっしょりと濡らしていく。
あなたは自分の心をどうやって自由に表現しますか？

No.00018　99.12.06

窓ガラスから差し込む冬の日差し

寒い部屋に差し込む冬の日差し。
たたみに落ちる光の部分が暖かくなる。
冬の日差しは部屋の奥まで届き、太陽のありがたさを
しみじみと感じさせてくれる。
ミケが好むのはこの光のなかで丸まること。
たまにあくびをしながら、いつまでもそこにいる。
ストーブをつけて私も隣で寝転がろう。
冬の日のくつろぎの時、あなたは何をしますか？

No.00019　99.12.07

茶室のそばで響く、水琴窟

茶室へ入るために手と口を清める。
流れる水が水琴窟を響かせる。
遠くで響くせせらぎのように私の記憶を呼び覚ます。
釜の音、衣擦れの音。鳥が飛ぶ音、虫の声、葉の揺れる音。
茶碗にお湯が注がれ、茶せんが軽やかな音をたてる。
差し出された茶碗を手に、静かにお茶をいただくと、
味や香りが心の疲れを流してくれる。
これから起こるすべてのことが一瞬にして思い出される。

No.00020　99.12.08

子供の笑い声

遠くから聞こえる子供の笑い声。
波打ち際で、街角で、たんぼで、畑で、交差点の真ん中で。
子供は自分の気持ちをだまそうとはしない。
だからストレートに心に響く。
あなたは子供の笑い声を聞くと、何を思いますか？

No.00021　99.12.09

あてのない寄り道

家に帰れば待つ人がいることを知りつつ、
ただフラフラと寄り道をする。
自分の足が向くまま、目の向くまま、興味の対象のある場所へ。
一人暮らしの寄り道は寄る辺ない。
寄り道が気持ちいいのは私を待つ人がいるから。
家族のありがたみは気がつかないようなところにあらわれる。
あなたは家族のありがたさをどんなときに感じますか？

No.00022　99.12.10

パーティーを開く

食べ物を用意して、飲み物を用意して、出し物を用意して、
友達を招けばパーティーの出来上がり。
久しぶりの顔がたくさん集まる。はじめての人とは挨拶する。
目的も意味もなくていい。
互いに元気であることを確かめ合えたらそれでいい。
ひとは多くのひととつながっていたい。
笑顔の数だけ元気になれる。
2000 年まであとわずか。
あなたも自分で主催してパーティーをやってみては？

No.00023　99.12.13

疲れるまで泳ぐ

競泳用のプールを何度も往復し、
ヘトヘトになるまで泳いでみる。
往復した回数を覚えながら、泳ぎ方を変えながら、
途中で少し休みながら、何度も泳ぐ。
筋肉が疲れで張り始める。
プールから上がり階段を上ると、筋肉の疲れを実感する。
普段は運動で疲れることのない身体が、
ひさしぶりの疲れに喜ぶ。

No.00024　99.12.14

落ち葉のゆくえを見つめる

高い梢からひらひらと舞い落ちる落ち葉を見つめる。
たくさんの落ち葉が風に流れるのを眺めるのもよし、
たった一枚の落ち葉を視線で追い続けるのもよし。
風と光と落ち葉たちのコンチェルトが聞こえる。

No.00025　99.12.15

霜柱を踏んでみる

寒い朝、息が凍る。寒い空気が頬を刺す。
手袋をしないと手の感覚がなくなる。バケツの水が凍っている。
そんな朝の地面には、きっと霜柱が出来ている。
足で踏むとサクッとつぶれる。気持ちいい。
寒すぎると霜柱は固くなる。踏んでもなかなかつぶれない。
体重をかけて必死につぶすがつぶれない。足が痛くなる。
サクッとつぶれる霜柱がいい。

No.00026　99.12.16

使いなれた辞書を引く

ページを指で滑らせて、視線の下で文字が流れる。
何ページもの薄い紙が密度の濃い文字と共に流れていく。

目標の言葉に近づいて流れが少し遅くなり、
ついにはその言葉のページが表れる。
この動作を私は何度繰り返したのだろう。
いつしかページの端は指の油で黒くなり、
紙もしなやかに引きやすくなる。
私のささやかな努力の印が刻まれていく。

No.00027　99.12.17

用もないのに電話する

仲良しに、用もないのに電話をする。
「何の用？」と聞かれたら何と答えるか？
「電話しちゃ駄目？」
あまりいい答えではない。
「あなたの声が聞きたくて」
こう言ってもらえるとちょっとうれしい。
スティービー・ワンダーの答えは最高。
「I just call to say I love you.」
あなたの答えは？

No.00028　99.12.20

並木に飾り付けられた電飾

もうすぐクリスマス。
町中にはクリスマスの飾りが施され、
あちこちから聞こえてくるクリスマス・キャロルに
せかされるように愛する人たちへのプレゼントを考える。
たとえ喧噪に満ちた並木道でも、
電飾が明滅するきれいな並木に心は奪われる。
「メリー・クリスマス」
あなたはこの言葉を誰に語りかけますか？

No.00029　99.12.21

薪を燃やす暖炉

薪を燃やすコツを知らない私にとって、
暖炉に火をつけるのはちょっとした仕事だ。
手慣れた友人に教えてもらいながらやっと火を起こす。
チラチラとしていた火がいつしか勢いよく燃え上がり
部屋を暖める。
片手にスコッチ、片手に葉巻。
赤く揺れる火を見つめながら、贅沢な時間が始まる。

No.00030　99.12.22

シャンパンの栓を抜く音

毎年お歳暮にモエ・エ・シャンドンをいただいた。
クリスマス・イブには恋人と栓を抜く。
シャンパン・グラスに注ぐとシャーッという泡の音とともに、
香りが広がる。
グラスの重なる高い音が特別な夜へのファンファーレとなる。

No.00031　99.12.23

ちょっと贅沢をした最愛の人へのプレゼント

手間や値段を考えるとためらわれるようなプレゼントを、
最愛の人のために用意する。
プレゼントの箱を開けたときの笑顔を見るために。
人はどうして愛する人の笑顔を見るためにがんばるのだろう。

No.00032　99.12.24

贈る言葉

「日刊　気持ちいいもの」を読んでいただき
ありがとうございます。
あなたが読んで下さることを心の支えに毎日書いてきました。
今年はこの号を最後といたします。

Merry Christmas and A Happy New Year !

人類はいろんな問題を抱えてはいますが、
よくぞ数千年もの時を越え、これだけの繁栄を
もたらしたものだと感嘆します。
私たちの先祖が作り上げた様々なものの恩恵により
私たちは生きています。
今年の年末年始はそのことに感謝しながら過ごします。
皆様には年末からお正月へと素敵な日々を
過ごされますことをお祈りいたします。
来年は 1 月 10 日から「気持ちいいもの」をお届けいたします。
では、来年まで、さようなら。

No.00033　00.01.10

2000 年

「ノストラダムスの大予言」という本がはじめて流行った頃、
私は小学生だった。
1999 年 7 月には自分はいったい何をしているのか、
希望と不安があった。
今は 2000 年。きりのいい年号。大予言は杞憂に終わった。
今年の年賀状には 00.01.01 や 2000.1.1、01.01.00 などの
表示が多かった。
それらを見る度に、心のどこかでフフッと笑ってしまう。

歴史の節目に私たちはいる。

****

あけましておめでとうございます。
年が明けるとき、一日や二日は
停電にでもなるかと思っていたのですが、なりませんでした。
ちょっと残念です。(笑)
不謹慎だとは思いますが、多少の苦労はあとで良い思い出に
なるものですから。
今年もよろしくお願いいたします。

No.00034　00.01.11

柏手の音

神社でお参りをする。
礼をして柏手を打つ。
柏手の後しばらくは静寂が来る。
静寂に包まれながら手を合わせ拝む。
神殿と私が一体になったような感覚が浮上する。
木の香り、火の熱さ、酒の香り、鈴の音、敷石の音、お払いの音、
太鼓の音、太陽の光。
それらが一瞬にして心に宿る気がする。

No.00035　00.01.12

見渡す限り地平線の大地に立つ

東京に住んでいると視界に入る物は人工物ばかりだ。
そんな光景に慣れきっていると見渡す限り地平線の大地には
感激するしかない。
五年ほど前、ケニアへ行った。
アフリカの大地では見渡せば雨雲が雨を降らせながら
移動しているのが見える。
青空の彼方から鳥が羽ばたいてくる音が聞こえる。
遥かな草原に動物の群が見える。
そんな大地に立つことは自分が生きていることへの
再確認となった。

No.00036　00.01.13

ジョギング

からだがなまったなと思うとジョギングをする。
一定のリズムをとりながら走っていると、
いつしかそのテンポでいることが気持ちよくなる。
汗をかき、家に帰った後の風呂はまた格別である。

No.00037　00.01.14

水に広がる波紋

たまに近所の区営プールで泳ぐ。
一時間に一度、全員をプールサイドにあげて監視員が
プールの点検をする。
誰も入っていないプールの水面は
緩やかに水がうねり美しい。
そこに点検のために監視員がひとり入ると、
監視員のまわりにできる波がなまめかしい。
監視員にまとわりつき、そしてゆっくり離れていく。
速くもなく、遅くもない波の速度が
とてもセクシーに感じられる。

No.00038　00.01.17

イルカと泳ぐ

毎年のように御蔵島に行き、野生のイルカと泳ぐ。
海中にいるとイルカの鳴き声が聞こえる。
声が聞こえれば彼らは近い。
回りを見回す。
たいてい彼らは群をなしてやってくる。
彼らは気まぐれだ。
機嫌がいいと遊んでくれるが、
機嫌が悪いとただ通り過ぎていく。
機嫌のいいときはもちろん楽しい。
一緒にクルクルと回って泳いだり、深くへと潜ったりする。
機嫌の悪いときは横をしばらく一緒に泳いで別れる。
実際に機嫌が悪いのかどうかはわからない。
彼らはただ、こちらの相手をせずに泳いでいく。
人間の相手をしないで通り過ぎるイルカを
人は「機嫌が悪い」と呼ぶ。
実際にイルカは何を考えているのだか。
勝手に想像すると笑えてくる。

No.00039　00.01.18

なわとび

夜中に近所の大きな公園でなわとびをする。
速く飛ぶと大きな音がするので、住宅街では迷惑だ。
はじめはゆっくりと、段々と速く飛ぶ。
寒いときには息が白くなり、目の前がもやに包まれる。
最後に二重飛びを三十回する。
自分が軽くなったようでうれしい。
来週には二重飛び四十回できるかな？

No.00040　00.01.19

犬と散歩

犬はいつでもご機嫌だ。
特に散歩をすると大喜びする。
一緒にいるとつられて僕もうれしくなる。

No.00041　00.01.20

スマッジの香り

スマッジはセージを束にした小さなたいまつのようなものだ。
火をつけて煙を出す。
するとその煙がとてもよい香りなのだ。
アメリカの先住民族が儀式に使っていたのかな？
不勉強でそのゆかりはよく知らない。
部屋の空気がよどんでいるようなとき、
スマッジを焚くと気持ちいい場所になる。

(不手際で No.00041　00.01.20 を二度出してしまった)

No.00041*　00.01.20

思いっきり投げる雪玉

子供の頃、雪が降ると雪合戦をした。
大人になった今でも、雪が降ると雪合戦をしたくなる。
しかし、相手がいない。
ひとりで誰もいない場所に思いっきり雪玉を投げる。
遠くに飛ぶとそれだけでうれしい。

No.00042　00.01.21

コンピューターのキーボード

じつはね、コンピューターのキーボードが大好きだ。
あのカチャカチャという感覚がたまらない。
コンピューターを買うときにはまずキーボードの叩き具合を確かめる。
柔らかすぎるのはつまらない。
叩いたとき、多少の抵抗があるのが良い。
叩くだけで次々と文字が出てくるのが楽しい。
だから毎日「日刊　気持ちいいもの」を発行できるんだな。

No.00043　00.01.24

だるま浮き

小学校の水泳の授業で習っただるま浮き。
両手で膝を抱えて水に浮く。ゆらゆらと揺れて気持ちいい。
水の中の音が聞けて気持ちいい。
水面の揺れがプールの底に映って気持ちいい。
息が続けばいつまでも浮いていたい。

No.00044　00.01.25

雪景色

しんしんと雪が降り積む音が聞こえる夜は、
世界の静けさを感じることができる。
一面雪に覆われて夜が紫色に思われる。
翌朝、晴れた空に雪景色がまぶしい。
胸の奥まで冷やしてしまう透明な空気が
私の心も洗ってくれる。

No.00045　00.01.26

つらら

朝、軒先のつららに景色が映る。
つららの先からはひたひたと水滴が落ちる。
朝日が差し込むとつららは虹色に輝く。
折ってなめたらおなかをこわすと叱られた。
最近は見なくなったつららが懐かしい。

No.00046　00.01.27

満員電車から降りた瞬間

息もできないほど押し込まれ、
痴漢と間違えられないように姿勢を保ち、
他人の息を気にして顔をそむけ、
隣の人が読んでいる新聞に気を使い、
揺れる度にからだを他人の背中に預け、
降りていく人に何度も押し出され、
足を踏まれても気にせず、
他人の不作法は大目に見て、
やっと降りる目的地の駅のなんと清々しいことか。

No.00047　00.01.28

子象と挨拶

象に挨拶するときは鼻先に息を吹きかける。
すると象は匂いを覚え、もう一生忘れない。
成長した大人の象に挨拶するのはちょっと恐い。
しかし、子象ならかわいくて良い。
子象はひとに興味を持つと鼻で体中を探ってくる。
その鼻先をそっと持ち、
息を吹きかけてやるとその鼻を自分の口元に持っていき、
なぜか鼻先をなめる。
これで子象はあなたのことを一生忘れない。
次に会いに来るのが楽しみになる。

No.00048　00.01.31

開けてみたプレゼントの箱

いくつになってもプレゼントの箱を開けるときには
ドキドキしてしまう。
リボンを解いて、包み紙をきれいにはがし、箱を開ける。
中身によっては途中で香りがしてきたり、
箱の中からカタカタと音がしたり、
手に載せたときの重みがあったりして次第に頭の中で
勝手な想像をしてしまう。
パッと開けた箱の中に喜びがあるのか、驚きがあるのか、
それとも失望か。
いずれにしても嬉しいものである。

No.00049　00.02.01

見知らぬ人との間で見つけた話の接点

一人で海外に旅行すると、
思いがけないときに思いがけない出会いがある。
あるときは列車のコンパートメントで、あるときはバーで、
あるときは公園で、あるときは船上で。
いろんな人に会うが、この人とお話ししてみようと思う瞬間は
なぜやってくるのだろう？
理由はわからないが話しかけ、
いつか話の接点を見つけて仲良くなる。
話の接点を見つける瞬間はまるで出会いの天使が
応援でもしてくれるかのようにするすると会話が生まれる。
話の接点が見つかったとき、飛び上がるほど嬉しい。

No.00050　00.02.02

コンピューターにうまくインストールできたソフト

ソフトのインストールは
たいてい問題なくおこなうことができる。
しかし、たまになぜかうまくいかないことがある。
うまくいかないとハードディスクが壊れて
記憶させたデーターが失われる。
めったに起こることではない。
しかし、僕にも一度だけ経験がある。
その経験のおかげでソフトのインストールは
いつもびくびくしてしまう。
だから、うまくインストールされると、
それだけで嬉しくなってしまう。

No.00051　00.02.03

ミツコの香り

町中を歩いていてもミツコの香りはすぐにわかる。
昔、叔母が美津子という名だからと母が好んでつけていた。
数年前、調香師の勉強をしているという女性に会った。
彼女がつけていた香りはミツコに似ていた。
しかし、どこかちょっと違う。
香水の香りはつけている人の香りで微妙に変化するので、
そのためかとも思ったが、
汗の匂いで変化するなら匂いの要素が増えるのだろうが、
僕が感じたその匂いは何かが足りない匂いだった。
「その香り、ミツコに似てるけど、ちょっと違いますねぇ」
「あら、よくわかるわね。
　最近、ミツコに使っていた香料で採取できなくなったものが
　あるのよ。別の香料で代用しているけど、
　ちょっと違うのよね」
昔のミツコが懐かしい。

No.00052　00.02.04

レコードの音

ＣＤを聞くようになって
なぜかクラシック音楽を聞かなくなった。
何枚かのＣＤは買ったのだが、
どのＣＤもなぜか何度も聞きたいと思わなくなった。
以前はよくクラシックを聞いたのに、忙しいからかなとか、
心に余裕がないのかなとか、いろいろ考えた。
ある日、古いレコードを棚から出して聞いてみた。
とっても良い音がする。またクラシックが聞きたくなった。
レコードの音の方がなぜかずっと良いのだ。
しかし、うちのプレーヤーは珍しいものなので
今となっては針がなかなか売ってない。
あまり聞くと針がなくなる。
そんな緊張感も音を良く感じさせているのかもしれない。

No.00053　00.02.07

気持ちいいものを思いつく瞬間

あれを書こうかこれを書こうか、
いろいろ迷った揚げ句にまだ悩む。
ようやく思いついた気持ちいいものに心満たされるとき、
思わず鼻歌を歌いながら書き込む。
気持ちいいものを書き続けている私が一番気持ちいい。

No.00054　00.02.08

スキーでコブをジャンプ

ゲレンデのずっと上まで登っていき、一気に滑り降りる。
人のあいだを抜けながらスピードを上げていく。
冷たい風が頬にあたる。
飛び上がるのに良さそうなコブを探しジャンプ。
スキーと雪面のこすれる音が急になくなり、
聞こえるのは風の音だけ。
この瞬間が至福のとき。

No.00055　00.02.09

にらめっこ

大人になってからはにらめっこなど滅多にしないが、
子供が相手なら思う存分できる。
「にらめっこしましょ、笑っちゃ駄目よ、あっぷっぷ」
僕は顔の筋肉が比較的発達している。
眉毛を片方ずつ上げたり、鼻の穴を広げたり、
目玉をぐるぐる回したり、一生懸命おかしな顔を作る。
まじめににらめっこをすると勝っても負けても大笑いできる。

No.00056　00.02.10

寒い場所であおるウィスキー

雪国に行くとき、鞄にウィスキーの小さな瓶を忍ばせる。
遠い日の悪戯のような、
大人になってからの秘かな楽しみのような、
こそばゆい感覚を宿して。
言葉も凍りそうな寒さの中で、そっと瓶を取り出し、
秘かな楽しみをぐっとあおる。
ウィスキーの発する熱が喉を通り胃の腑に落ちていく。
フーッと吐く息が、さっきまではただの冷たい息だったのだが、
今は琥珀の香りを宿した、熱のこもった息吹となる。

No.00057　00.02.11

船旅

船旅の良さは、ただ時間を持て余すところにある。
せっかく船に乗ったのだからとアトラクションを見たり、
買い物したり、プールで泳いだりするのは、実はもったいない。
船旅の良さは、ただ時間を持て余すところにあるのだから。
一番の贅沢はデッキに出て、ただひたすら海を眺めること。
浜辺から見る海とはまるで違う。
太陽の射す方向、雲の出具合、海の深さ、風の向き、
その場の湿度で海の色が変化していく。
宝石を見るより美しい。
時間を持て余してなければ､この美しさを発見するのは難しい。

No.00058　00.02.14

ラブレター付きチョコレート

バレンタイン・デーにラブレター付きのチョコレートを
はじめてもらったのは、高校一年のときだった。
「私の燃える思いを受け取って下さい」
いまだに覚えている。二十年以上も前なのに。
いい思い出をありがとう。

No.00059　00.02.15

ポイプ・ビーチの朝焼け

僕と彼女はカウアイ島の空港でランドローバーを借りた。
草木の緑も土の赤も不思議なくらい鮮やかだった。
色の遠近感を失わせるほど乾いた風を切って、
ポイプまで走った。
ポイプ・ビーチはカウアイ島の南端にある。
目的地は、オアフ島から苦手の英語で予約したＢ＆Ｂ。
借りた部屋はエアコンがなく暑かったが、
シーリング・ファンを回し窓を開けると、
通り過ぎていく風が気持ちよかった。
翌朝、小鳥たちの声で目を覚ました。
細く開けた窓の隙間からたくさんの鳥の声が流れ込んでくる。
鳥の声で目を覚ますのがこんなに気持ちいいとは
知らなかった。
せっかく起きたのだからと外に出ると、まだ空は薄暗かった。
ビーチまで散歩し、波打ち際を歩く頃、朝日が昇ってきた。
リゾートホテルが林立するあたりから昇った太陽は、
たくさんの椰子の木を影絵のように照らし出す。
岩場では波の砕ける音がＢＧＭになった。

No.00060　00.02.16

雨の匂い

屋内にいても、雨が降ると匂いでわかる。
埃っぽいような、土の匂いのような、草原の匂いのような、
懐かしい匂いがするから。
子どもの頃から雨に濡れてはダメと教え込まれてきたが、
実は雨に濡れるのは気持ちいいから好きだ。
だから雨の匂いが好きなのかもしれない。
いや、初恋の人と中学校の校舎で雨宿りしたときの匂いがする
からかもしれない。

No.00061　00.02.17

マイアミのダブル・レインボー

「わんぱくフリッパー」の調教をしていた
リチャード・オバリー氏を訪ねてマイアミへ行った。
時間を持て余したのでマイアミ・ビーチの通りを
ウィンドーショッピングした。
すると不意に覗いていたウィンドーに明るい色彩が映り込み、
まわりでは歓声があがった。
振り返り浜辺の方を見上げると、
そこには大きなダブル・レインボーがあった。
生まれてはじめてダブル・レインボーを見た。
灰色の空にくっきりと輝いていた。
写真に撮りたかったのだが、
大きすぎて全容は画面に収まらなかった。

No.00062　00.02.18

デジャリドューを吹く

風の吹く場所で吹く。
　　僕は風の通り道。
潮騒の聞こえる場所で吹く。
　　僕はからっぽな共鳴箱。
月の見える丘で吹く。
　　僕は遠吠えの狼。
静かな場所で吹く。
　　僕は・・・。

****

注）
デジャリドューはオーストラリアの先住民、
アボリジニの楽器です。
循環呼吸という
独特の(オーケストラではオーボーなどが用います)
呼吸法を使い、音を途切らすことなく息を吸います。
長い間その呼吸をし続けると、
ちょっとしたトリップができます。(笑)

No.00063　00.02.21

朝日に輝く霜の降りた芝生

日の出前からジョギングし、
大きな公園の芝生の上を走る頃には、
ぽっかりと太陽が地平線から上がっている。
霜が降りて白くなった芝生は太陽の光とともに輝き出す。
その輝きの上を白い息とともに走っていく。

No.00064　00.02.22

昼間に景色を眺めながら入る温泉

見晴らしの良い露天風呂から眺める景色は格別である。
「ちょっとのぼせたかな」
なんて言いながら汗をかき、
フーッと溜息をついてまだ入っている。
そんな露天風呂から眺める景色になぜか僕はうれしくなる。
風呂上がりのビールもまたよし。

No.00065　00.02.23

キャンプ・ファイヤー

大きく燃え上がる炎に人はなぜか釘付けになる。
炎の向こうに何を見るのだろうか。
めらめらと燃え上がる炎と音楽、無心に踊る人たち。
いつしか自分も輪に入り無心に踊る。何かに憑かれたように。

No.00066　00.02.24

自転車通学

高校、大学と自転車通学をした。
学校へ行くときは遅刻ぎりぎりに
スピードの出るサイクリング車で車道を突っ走っていった。
これはこれで気持ちいい。
帰りは気の向くままにふらふらと遠回りをして帰る。
自分の力でスピードが出せるのがうれしかった。
おかげで腿が太くなった。

No.00067　00.02.25

肉球

犬や猫などの足の先に肉の柔らかい部分がある。
そこが肉球だ。
英語では paw と言う。
押すとプニプニしていてなかなか気持ちいい。
しかし、辞書を調べても肉球という言葉が載っていない。
言葉を間違ったかなぁ。
paw を英和辞典で引くと、単なる「足」としか出てこない。
うーん、心配。
言葉が間違っていたら許してね。

No.00068　00.02.28

アラン・セーター

手編みのアイボリーのセーターはしっかりと編まれている。
手に持つとずっしりと重い。
アイルランドのアラン諸島に住んでいた人々が

漁に出るとき着たという。
編み目の大きなセーターは暑いときには風通しが良く、
寒いときには暖かい。
僕はこれをアラン諸島のイニシュモア島で買った。
プライス・タグに編んだ人のサインがあった。
小石を積んでできた壁がどこまでも続き、雲がたちこめ、
色濃い緑の島がアラン・セーターの肌触りとともに
思い出される。

No.00069　00.02.29

書き上げた原稿

何週間もにらみ続けていた原稿が今日やっと完成した。
何回読み直しただろう。
書いては消した言葉の数々を今はもう忘れてしまった。
できあがった文字の列は私の作品ではあるが、
私から離れ、勝手に歩き出す。

No.00070　00.03.01

盛況のパーティー

懐かしい顔やはじめて会う人、声をかけてきてくれる人。
盛況のパーティーには笑顔が似合う。
人いきれの会場、話し声、お酒の香り、いっぱいの食べ物。
マイクでのスピーチ、誰かの歌声、乾杯の音頭、
グラスの重なる音。
あ、もうお開きの時間だ。

No.00071　00.03.02

祝電

祝電を打つのは楽しいものだ。相手が親しい人ほど楽しくなる。
まず、最近ではいろんな形態の電報入れがある。
ドラエモン、ハローキティ、カールスモーキー石井の
デザインした電報入れ、定番の押し花電報などなど。
まず祝電はお祝いだから、
相手がきっと笑うだろうというものを選ぶ。
出版パーティーに送る電報は二枚目風の作家宛なら
迷わずハローキティを選ぶ。
きっと持ち帰るときの情けなさは爆笑に値するだろう。
年輩の方にはドラモンが良い。絶対もらったことないはずだ。
お孫さんにあげたらきっと喜んでもらえるだろう。
しかし、結婚の祝電に対する適切な電報入れが
まだ開発されていない。
ぜひ NTT には披露宴で紹介されたら新郎新婦が
頬を染めてしまうような電報入れを開発してほしい。
さて電報の内容だが、これにはなかなかセンスが必要とされる。
相手との関係を斟酌した上でクスッと笑ってもらえるような
文章を考えなければならない。
会場で読まれた途端に一同シーン・・・では許されない。
しかし、わざとシーンとしてしまいそうな文章を送る
という手もある。
なにしろその席に自分はいないのだから。
あとで酒の肴になるだろう。

No.00072　00.03.03

朝の冷たい空気

寒い日の早朝ジョギングすると、吐く息が白くなる。
ジョギングしているとリズムをつけて息を吐くから、
白い息が点線を描く。
これが楽しい。
この点線がきれいに残るためには、風が吹いていてはならない。

No.00073　00.03.06

ブラスバンドの演奏

指揮者にあわせて一斉に音を出す。それだけでも快感である。
和音が決まり、リズムが決まり、
各自の演奏が正確におこなわれるなかで、
たまに下手な人がいるのもスリルがあって良い。
「あー、あいつ間違えないかな」と心配しているなか、
期待通りに失敗してもらえると練習中なら大笑いだ。
何度もの失敗の後で、本番にきちんと演奏できると、
それは全員の喜びとなる。

No.00074　00.03.07

ビーフシチューを作る

一人暮らしをしていた頃、休みの日に何もすることがないと、
やおら何かをしたくなってビーフシチューなど作ってみた。
作り方は料理の本を参考に、ところどころ工夫を加える。
昼前から牛肉とじゃがいも、タマネギ、トマト、
それにブーケガルニを入れてコトコト煮込む。
もちろん牛肉は料理の本に書かれていたように
一度表面を軽くこげ目をつけるが、
結局六時間も煮込むと最初に入れた牛肉は
ほとんどとけてしまう。
味を調えるのに缶詰のデミグラソースを入れ、
最後の二時間で食べるための具を入れる。

塩とコショウは適当に。
食べる直前に生クリームをいれると Good。
ワインをあけて、フランスパンをかじりながら
温野菜とともにビーフシチューを食べる。
極楽、極楽。

No.00075　00.03.08

大きな岩を抱きかかえる

自分よりずっと大きい岩を抱えるのは気持ちいい。
太陽に照らされた岩はジワッと暖かい。
木陰にあるような苔むした岩はひんやりとしていい。
岩に耳を当てると、太古の音が聞こえてきそうだ。
どんな時代を経て、どんな場所を旅して、
どんな思いでここにいるのか。
岩の声を聞いてみたい。

No.00076　00.03.09

プールから見下ろす草原

ケニアのツァボ国立公園で泊まったロッジは崖の上にあった。
崖の下は遥かな草原。
インパラやガゼルやライオンが歩いていた。
ロッジには崖っぷちにプールがあり、
草原を見おろして泳ぐことができた。
プールから顔を上げると、
眼下にゆっくりと動物たちが歩いていた。
アフリカに特徴的なテーブルツリーが生えていた。
崖を上がったり降りたりする何種類もの鳥がいた。
太陽に照らされ気持ちよいことこのうえなかった。

No.00077　00.03.10

遠足で頬張るおにぎり

遠足のおにぎりと言えば､海苔は湿気でしっとりが相場だった。
コンビニのおにぎりのようにパリッとした海苔のおにぎりは
遠足では食べたことがない。
しっとりした海苔は噛みきれなかったり、
口の回りや歯にくっついて､食べた後はお歯黒のようになった。
でも、それが楽しかった。
つい食べ過ぎて満腹になった。

No.00078　00.03.13

山菜の天ぷら

田舎で食べる山菜のてんぷらには物語がある。
山のどこで採れたか。
どんな風に生えていたか。
何をどれくらい採ったか。
どんな楽しみと苦労がそこにはあるのか。
どうやって調理したか。
そうしてやっと、私の前に差し出される。
ころもに包まれた香り高い山菜たち。
山菜のてんぷらには塩が合う。
ころものパリパリ感と油の香り、その奥に山菜の味。
私のからだが物語を受け入れ、新しい物語が生まれる。
ああ、おいしかった。

No.00079　00.03.14

肩車

今も忘れられない肩車の思い出。
私の兄は十三年上。
私が三歳の頃、兄は十六。
兄はポストに手紙を出しに行くと言って私を連れだした。
兄は私を肩車した。そしてポストまで走った。
私は兄の肩から落ちないように、必死で兄の頭につかまった。
激しく上下するうちに私の手は兄の目をふさぐ。
すると兄は私の手を持ってバンザイの格好をさせながら、
なおも走る。
私はおかしくて笑いっぱなし。
兄は私を恐がらせようとかなりのスピードで走ったり、
止まったり。
家に帰る頃にはヘトヘトだった。
兄はあんなに上機嫌で、いったい誰に手紙を出したのか。

No.00080　00.03.15

たて笛

中学生の時、梅津君と仲良しだった。
梅津君は音楽が好きだった。
でも彼は楽器が演奏できなかった。
唯一演奏できるのがたて笛だった。
そこで僕がデュエット用に梅津君の好きな曲を編曲して、
昼休みに二人で演奏した。
はじめはなかなかうまく演奏できなかったが、
しばらくすると観客がつくようになった。
ふたりで和音を奏でるときれいなヴィブラートが
風をふるわせた。
そのうち梅津君はギターも弾くようになった。
どうしているかなぁ、梅津君。

No.00081　00.03.16

お香

晴れて暖かい日、窓を開けてお香をたく。
その日の気分で　どの香りにするか選ぶ。
落ちつきたいときには白檀。
気持ちを明るくしたいときにはラベンダー。
ぼーっとしたいときはロータス。
でも、実際はそんなには考えていない。
なんとなく目についたお香に火をつける。
薄紫の煙が部屋を満たす頃、朝日が部屋に入ってくる。

No.00082　00.03.17

デッサン

デッサンをすると時間を忘れる。
描こうとしているモデルの、
普段では気づくことのできない部分を繊細に見てゆく。
すると、普段自分がいかにものを見ていないかに気づかされる。
デッサンに没頭すると、
まるでモデルの表面を筆で撫でているかのように感じ始める。
描けば描くほど自分が描いたデッサンが描いているものに
同化していゆく。
描けば描くほどデッサンが愛しくなり、
デッサンしたモデルが愛しくなる。

No.00083　00.03.20

新芽をつけた枝

春が近づいてきた。もう桜の便りも聞かれる。
外を吹く風も暖かくなり、昼間はコートがいらなくなってきた。
春霞の空を背景に、木々の枝には新芽が息吹いている。
少し暖かいだけで、幸せを感じる。
何か新しいことを始めたくなる。
新芽に負けてはいられない。
春用の服を出してみる。
春の野菜を食べてみる。
しばらく会わなかった友達に会ってみる。
あてのないドライブに行ってみる。
枝についた新芽には、何をやってもかなわないような気がする。

No.00084　00.03.21

ジッポーを点ける

煙草を吸うつもりもないのにライターを点けることがある。
しかし、どんなライターでもいいという訳ではない。
用がないのに点ける価値のあるライターはジッポーだ。
ジッポーは人差し指と中指の股の部分に
ジッポーの蝶番とは対角線上にある角を押し当て、
親指で蓋を開け、親指で火打ちするローラーを回すことで
すべての動作を片手で済ませられる。
このとき驚かされるのはジッポーの大きさだ。
親指が蓋やローラーを操るのに丁度良くできている。
もしこのとき、蓋の上部を蝶番の方向へこするようにして
蓋を開ける人がいたなら、その人はジッポー上級者だ。
僕はこのテクニックを開高 健のエッセーから教わった。
音がまた良い。蓋を開けるときの「チン」という音。
これは偶然生まれた音なのだろうか、
それともこの音を生み出すために
研究が重ねられたのだろうか。
この音の開発のために数百万ドル費やされたと聞いても
僕は疑わないだろう。
それほどの心地よさがあの音にはある。
そして点火の音もすっごく良い。
「ジュボッ」というあの音だ。
この音にも研究開発費が費やされても良いと思う。
「あの音を実現させるために芯には鉄線が巻かれている」
という話がまことしやかに流れたら、
きっと僕はいろんな人にその蘊蓄を語るだろう。
蓋を閉める音も good だ。
蓋の閉まる「チッ」という音と蓋の密閉によって
空気が圧縮されるような「カポッ」という音が
重なって聞こえる。
もちろんこの音にも研究開発費を承認するし、
このことを伝えるために広告が制作されても
不思議ではないと思う。
バーなどでこの一連の音の流れをよく耳にする。
「チン、ジュボッ、カ(チッ)ポッ」
他人の音を聞くと自分のジッポーも鳴らしたくなる。
音が聞きたいために煙草を出したりして、
本末転倒とはこういうことを言うのだろう。

No.00085　00.03.22

飛び魚の飛翔

毎年のように御蔵島を訪れる。
御蔵島へ行くには東京湾から船で三宅島へ行き、
そこで船を乗り換え御蔵島へ行く。
三宅島から御蔵島へ行く船から

飛び魚の飛翔を見ることができる。
深い青の海面に日光が反射してキラキラと輝くなかを、
飛び魚は唐突に現れ、海面ぎりぎりを
翼をきらめかせながら羽ばたいてゆく。
何匹もの飛び魚が一度に飛んでゆく姿は圧巻である。
彼等は波間から唐突に現れ、波間へと一瞬にして消える。
銀色の光の魔術のように。

No.00086　00.03.23

シンセサイザーで音を作る

シンセサイザーで音を作るには
音に対する微妙な感覚が必要とされる。
昔のエレクトーンはピアノの音とフルートの音の違いが
あまりなかった。
もともとピアノとフルートの音に含まれる倍音が
似ているので、その微妙な違いを研究して、
わずかに違う倍音を忠実に、
または大袈裟に再現してエレクトーンの音を作った。
しかし、ピアノの音もフルートの音も、両者ともに
元の楽器の音には似ていなかった。
倍音の違いはさほど楽器の違いを感じさせる要因では
なかったのだ。
何が楽器の違いを感じさせたかというと、
音量のエンベロープだ。
ピアノの音は出だしの音量がもっとも大きく、
あとは減衰していく。
一方フルートの音の出だしはピアノよりは
ゆっくりと音量が上がり、息の続く限り
ほとんど同じ音量で続く。
この両者の音量の変化が楽器の音の違いに
大きな役割を果たしている。
人は音量変化を聞き取ることによって、
何の楽器であるかを感じていたのだ。
シンセサイザーで音量に変化を与えるために加える電圧変化を
エンベロープと呼ぶ。
昔のエレクトーンはみんな同じエンベロープで
発音させていた。
キーをたたくと同時に音が出て､指を離すと途端に音が止んだ。
だから楽器の違いが感じられない。
シンセサイザーは楽器毎に異なる　微妙な音量変化を
作ることができるのだ。
さらに凝ろうとするとピアノの出だしには多少のノイズを
混ぜる。
キーをたたく音だ。
ノイズも音のフィルターによって、どこの倍音をカットし、
どこの倍音を強調させるかが決められる。
フィルターで調節したピアノのキーをたたくときに聞こえる
微妙な「コツコツ」という音をピアノの音に加える。
高い音ほど「コツコツ」の音は目立つので、
シンセサイザーでもそのように鳴るようにセットする。
フルートで凝るためにはキーを押さえるときの
わずかな管の響きを入れる。
しかし、いつもそれが聞こえるわけではないので、
指を強く押さえたとき、
つまりフォルテで感情を込めたいときに
それがかすかに聞こえるようにする。
しかもその音はフルート本来の音がするより以前に
聞こえる音だから、ピアノのように減衰音にして、
しかも減衰の速度をずっと早くする。
静かに吹くときには音量増加の速度を遅くし、
息がもれるノイズ音をまぜるとリアルになる。
デッサンを描くと光や構図や立体の関係に繊細になれる。
絵を描く人ならわかるだろう。
それと同様にシンセサイザーで音を作ると、
それまではまったく気づくことのなかった音の仕組みが
見えてくる。
シンセサイザーの音作りは夢中になると時を忘れる。

No.00087　00.03.24

馬飛び

小学生の頃、よく馬飛びをした。
馬飛びはふたつのチームに分かれて戦う。
守りのチームはリーダーが柱や壁を背にして立つ。
馬の先頭はリーダーの股のあいだに頭を入れ、
地面に手をつかずに四つん這いのような格好になる。
次の馬は前の馬の股のあいだに頭を入れ、
順次それを繰り返す。
攻めのチームは守りのチームの準備ができたら
リーダーから馬に飛び乗る。
このとき一番弱そうな馬の上にたくさん乗り、
馬をつぶすことができれば攻めのチームの勝ちとなる。
もし最後の一人が乗っても馬がつぶれなければ、
リーダー同士のじゃんけんで決着をつける。
守りのチームはとにかくぎゅうぎゅうと背中に乗られ、
馬がつぶれないようにと
前の馬の股に頭を強く突っ込むために、上から圧迫され、

前後からも圧迫されることになる。
この感覚がつらいけど気持ち良いのだ。
耐えて耐えて耐える感覚がとても楽しかった。
攻めのチームは馬に飛び乗る際にスリルを感じる。
弱い馬がずっと前にいたとしたら、
そこまでの距離を飛んでいかなければならない。
馬飛びの最後は、攻めチームは馬から落ちてはいけないので、
馬にしがみつく。
守りチームはつぶれては負けなので必死に踏ん張る。
このスリルが楽しかった。
馬が解体して解放されるときの気持ちよさも格別だった。

No.00088　00.03.27

暖房なしで過ごす

少しずつ気候が暖かくなってきた。
昼間には暖房がなくても過ごせる日がでてくる。
そのような日はひさしぶりに身体がのびのびとし、
心はうきうきとし、鼻歌でも歌いたくなる。
暖かさで身体がゆるむと、朝なかなか起きられなくなったり、
昼間にやたらとあくびが出たりしてしまう。
しかし、四季のある国にいるからこそ、
私たちは身体のリズムを保つことができる。
暖かくなって春の気候に喜びを感じるとともに、
冬の寒さに耐えてきた自分の身体にも感謝したい。

No.00089　00.03.28

バーベキュー・パーティー

友達を集めてバーベキュー・パーティーをする。
準備をしていると、友達の性格が見事に作業に反映されていく。
こまめに気を使う者。大胆に仕事を進めていく者。
自分の領域を決めてそこを離れない者。
なんにもせずに楽しむ者。
バーベキューができあがる頃にはそれぞれの性格や能力が
余すことなく利用され、美味しいバーベキューができあがる。
誰が指導した訳でもないのに、
絶妙なコンビネーションで調理がなされる。
気持ちの良い風の中、
炭火で焼かれる肉や野菜や醤油の匂いが食欲をそそる。

No.00090　00.03.29

ストレートのモルト・ウィスキー

ひとくち口に含むと香りが広がり、鼻へと抜けていく。
美味しいモルト・ウィスキーは飲んだ後に口のなかに
暖かさが残る。
口や鼻や喉に残る響きを水で一度落ちつかせ、
もうひとくち口に含む。
最初に含んだときの味と微妙に異なる。
何度もそれを繰り返すうちに酔いが回り、
味はさらに甘美なものになっていく。
良いバーでは、グラスも凝ったもので出される。
グラスの美しさを楽しむのも忘れたくない。

No.00091　00.03.30

掃除

掃除は、すればするほどさらにしたくなる。
少し曇っていたモニターの画面がきれいになると、
それだけで清々しくなる。
机の上に積まれていた本が片づくと、
それだけで新しい仕事の意欲が湧く。
本棚が整然となると、一度読んだ本をまた読みたくなる。
引き出しが整理されると、能率が上がる。
床がきれいになると、もう二度と部屋を汚したくなくなる。

No.00092　00.03.31

イプの音

古式フラで使うイプという楽器がある。
楽器と言ってもひょうたんの上部を切り、
乾燥させてニスを塗ったものだ。
この楽器を掌の厚い部分でうまく叩くと、
トーンという、深い音がする。
大きなイプほど低い音を出す。
指でコツをつかんでうまく叩くと、カッという音がする。
トーンという音とカッという二種類の音を
組み合わせてリズムを刻む。
フラではこの楽器を使って、ウッテー、ウテテーと
リズムを刻むのだそうだ。
ウッの部分がトーンで、テーの部分がカッにあたる。
だからトーンとカッで表現すると、
トーンカッ、トンカッカッってな感じになる。
ここに楽譜が書けたら簡単なんだけどなぁ。
まあとにかく良い音なのである。
ハワイで民族楽器のお店を探して手に入れた。
夜に一人で叩いていると、
ハワイのあの雰囲気を思い出してしまう。
椰子の木が風に揺れ、太陽の光は暑いのだけど、
日影に入れば涼しい風が吹き、どこからともなく花の香りがし、

山々は緑に輝き、空は真っ青で、海は輝き、
サーフボードをかついだお兄さんが
きれいな女性を連れて歩き、花が咲き乱れ、
虹がたくさん見られる、夜になればどこからか音楽が聞こえ、
星が輝き、場所によっては夜景が美しい、
そんなハワイの雰囲気だ。

No.00093　00.04.03

桜の咲き始めた木を見つける

桜が咲き始めた。木が全体に桜色に染まっている。
近づくとまだかたそうなつぼみやら、
つぼみがふくらみ咲きそうな花や、
すでにしっかり咲いているのやらいろいろある。
桜が咲くと春が来たと感じる。
来たと言うより春まっさかりになったという感じだな。
入学式にはよく桜が咲いていた。
記念写真は桜の下で撮った。
これから一年がんばるぞって感じがよかった。
日本では年度の始まりが四月だが、
それは桜のせいではないかと僕は思う。

No.00094　00.04.04

薄着になる

桜が咲くと、そろそろ冬服は脱ぎ、春物を着始める。
ひさしぶりに着る春物は風が通って気持ちいい。
サワサワと肌に触れる感じがいかにも春である。
この肌触りが人恋しくさせるのかな。

No.00095　00.04.05

カメラを抱えて外出する

春の風が街を駆け抜けると、カメラを抱えて散歩したくなる。
もちろん桜は最高の被写体。
桜を見に来た人たちもいろんな表情を見せてくれる。
鳥も安心した雰囲気が写真にとっても良い。
カメラを抱えて散歩すると景色が輝く。
普段は気にしない何気ない美しさをピピッと見つけてしまう。

No.00096　00.04.06

青空の下でソフトクリームをなめる

冬のあいだはおあずけになる気持ちいいこと。
それは青空の下でソフトクリームをなめることだ。
ひさしぶりのソフトクリームはとても美味しい。
暖かくなければソフトクリームは美味しくない。
なぜなら溶けてしたたるソフトクリームを
およよっと思って舌でなめることがないからだ。
この楽しさがソフトクリームを
ソフトクリームたらしめている。
これがないとソフトクリームは物足りない。
しかも暖かいところでなめないと羨望のまなざしは
期待できない。
「あっ、あの人ソフトクリームなめてる」という視線が
ムフフと思わせてくれるのだ。
ところが寒いときにソフトクリームをなめると
「あの人馬鹿ねぇ」っていう視線になり、かなり悲しい。
いいなぁ、ソフトクリーム　under the open sky.
思わず英語だ。

No.00097　00.04.07

目覚まし時計が鳴っても無視して寝る

春になると、遅刻を気にしなくて良い日には、
目覚まし時計を無視して寝る。
これが気持ちいい。
リンリン、ビービー、カランカランとうるさい目覚まし時計を
消して、心ゆくまで眠るのだ。
まだ布団の外はちょっと寒い。
布団のなかは暖かい。ひとは快楽を求めるもの。
あーぐったり。
週休二日のひとは、明日それができるよ。♡

No.00098　00.04.10

桜吹雪

満開の桜並木に風が吹くと、桜吹雪が流れていく。
毎年のように見る景色なのに、毎年のように感動し、
毎年のように嬉しくなる。
この感覚はなぜ湧いてくるのだろうか？
本当に美しいものに出会ったとき、胸が高鳴る。
大人になると美しいものに胸を高鳴らせることが
恥ずかしいように思えてなんとか隠そうとするのだが、
隠しきれないときがある。
美しい女性に会ったときと、桜吹雪に我が身が洗われるときだ。

No.00099　00.04.11

カウンターの桁が上がる

車の距離計が 9999㎞ から 10000㎞ になるときや、

ホームページのカウンターの桁が上がるときなど、
とても興味がある。
別にたいしたことではないと知りながら、
いままで 0 だった新たな桁に 1 が
ニュッと現れる瞬間が嬉しい。
どうしてこんなことに心ひかれるのか、
自分の心にもかかわらず、謎だ。
「日刊　気持ちいいもの」も次回で 100 回を迎える。
次の桁に 1 がでるのはいつのことになるだろう。

No.00100　00.04.12

祈り

私が毎日送り出す言葉は、あなたに捧げる祈りです。
リンゴやバナナのような食べ物を
私はあなたに捧げることはできません。
風や太陽の光や水の流れる音のような素敵なエネルギーを
捧げることもできません。
でも、こうしてあなたに言葉を捧げます。
私の捧げる言葉の数々が、あなたの中で発酵し、
素晴らしい力を生み出すことを願います。

No.00101　00.04.13

響き合う声

トーニングをしたことがあるだろうか？
何人かひとを集め、みんなで声を出し合う。
自分の声を慈しみながら、
そこに参加しているすべてのひとの声を聞きながら、
互いの声が生み出す響きを楽しむ。
ウーとか、アーとか、はじめは同じ声を出すのが良いが、
慣れたらいろんな声を出していく。
母音や子音を次々と変えたり、音程を変えたり、
ビブラートをつけたり。
トーニングのあとには身体のあちこちが響いた快感が残る。

No.00102　00.04.14

空想

日刊　気持ちいいもの　を読んでいる皆さんは、
きっと空想が好きなのではないでしょうか？
ここに書かれた数行の文章から、きっと想像の翼を広げ、
それぞれの空想の世界へと
入っていくのではないでしょうか？
空想は心の栄養です。
現実からかけ離れたことを考えることは
一般的には子供っぽいとか下らないとか思われがちです。
しかし、空想から新しい何かが生まれると思うのです。
そして、自由に空想するとき、心はとってもなごんでいます。
小説を書くのも空想の一種です。
来週一週間は 100 回突破記念として
空想の世界を味わっていただこうと思います。
現実にはあり得ない「気持ちいいもの」を取りそろえ、
皆さんに読んでいただきます。
そこからあなたは何を空想するのか？　お楽しみに。

No.00103　00.04.17

言葉の羽

あなたの言葉に羽がある。
ふわふわと、軽くただよい僕　誘う。
僕の心も羽を持ち、遠い空へと飛んでゆく。
あなたの声にも羽がある。
優しく優しく僕を包み、夢の世界へ連れ去るよ。

No.00104　00.04.18

驚

風を感じて翼を広げ、高くそびえる山を越す。
上空高く舞い上がるすばやい風を見つけたら、
青い空へと舞い上がる。
雲海の白や　雪山の白
冷たい風が過ぎてゆく。
高い空を満喫したら身をひるがえして急降下。
私の翼は矢のように、もう誰にも止められない

No.00105　00.04.19

シグナル

01110100011001101010011001
00111010100110100010 01
私はインターネットをかけめぐる
1110100010100111010010111010010 01
シグナル　0100100100101011111100101
いつから始まりいつで終わるのか
も　う　検　討　も　つ　か　な　い
11010010
あなたの手元に届けられ
0010101011101000 10001
喜んでもらえればそれで充分
1101000110100010100 01　0010011100101110011001 11
たまには私のことを
0010010111001
0011001101011010001101101　思い出してね
01110100100110010010001100100010 0010
010111001000100101
1100100110010101001010 01
0010010000100010001001000101110
私は　00100010001
いつも
0010010001010010011010 1
110100010001001
あなたを
0010110011010111010101010000 1010
見つめて 11001001 る
1001010011010101011010 1　101010100001010001
1001010100101010100110010111011010100101

No.00106　00.04.20

ホロン

部分であり、全体であるもの。
細胞であり、生命であるもの。
宇宙であり、原子であるもの。
曼陀羅であり、心であるもの。
昆虫であり、巣であるもの。
海水であり、海であるもの。
ひとであり、社会であるもの。
感情であり、表現であるもの。
刺激であり、判断であるもの。
信号であり、ソフトであるもの。
硬貨であり、金融システムであるもの。
絵の具であり、絵画であるもの。
恋であり、愛であるもの。
たんぼであり、水利組合であるもの。
音であり、言葉であるもの。
わかったようで、わからないもの。
感覚であり、気持ちいいもの。

No.00107　00.04.21

言葉のピカソ

言葉のピカソは忙しい。
山に登って髪を切り、川を下って空を飛ぶ。
時々あふれる白菜を、山の彼方と人は呼ぶ。
指折り関数計算し、サインが出たから豪速球。
竹藪焼けたの金太郎。
こらこらお空が足の裏。
はたきで叩けよ赤トンボ。
追われて見たのは丸裸。
やっとこやっとこ繰り出した
大工の道具だ　ワッハッハ
トンカチ　ノコギリ　せいぞろい
米つきバッタも　らったった

No.00108　00.04.24

甘い風

朝の六時にジョギングする。
以前はちょうど朝日が昇る頃だったが、
最近ではもう太陽は地平線からずっと上に昇っている。
ジョギングするときに吸う風はかつては冷たく厳しかった。
口に入ると口や舌から熱を奪い、空気が硬く感じられた。
いまは風が甘い。口から吸う空気が口や舌に優しい。
ウェアも薄着になり、肌が暖かい空気に馴染んでいる。
甘い風が僕を包む。

No.00109　00.04.2

朝日に輝く若葉

どんな季節の木漏れ日も気持ちいいが、
この季節の木漏れ日は格別である。
木々がつけた若葉がまだ色薄く葉も薄く、
木漏れ日の輝きが若々しい。
葉が照らされて黄緑に輝く。
葉が重なり合って、輝く黄緑に影絵のように葉が映し出される。
風が吹くと影絵がいっせいに踊りだす。
木漏れ日が葉のあいだを駆けめぐる。

No.00110　00.04.26

カレンの歌声

カーペンターズが好きだった。
リチャードの作曲、編曲のうまさも魅力だったが、
なんと言ってもカレンの歌声が印象的だ。
しっとりとして落ちついた歌声はいまでも
どこからか聞こえてくると耳をそばだててしまう。
「イエスタディ・ワンスモア」がヒットしたのは
僕が中学一年の頃だった。
当時中学校の放送委員だったため、
お昼の放送に何を流すかが問題だった。
当時もロックが人気でソウル・ミュージックも市民権を
獲得した頃だった。
しかし、それらの音楽は概してビートがきつかったため、
お昼の放送にはふさわしくないと教師たちからは
文句を言われた。
しかし、カーペンターズには誰も異論を唱えることはなかった。
カーペンターズはお昼の放送の定番になった。
中学生の頃の取っ組み合いの喧嘩も、淡い恋心も、
カーペンターズの歌声とともに僕の心に刻まれている。

No.00111　00.04.28

アイルランドの青空

アイルランドの青空は色が濃い。
曇天の空が多いアイルランドは晴れると深い蒼い空になる。
太陽光が斜めから射すせいか、
芝生の緑も鮮やかな黄緑に見える。

なだらかな丘が続く場所では
空の蒼と芝生の緑がとても美しい。
雲の形も様々なものがありきれいだ。
雲を観察するだけでも楽しめる。
雲の隙間から地上に射す日の光が
幾筋もの線のように見える現象を「天使の梯子」という。
アイルランドではたくさんの天使の梯子を見た。

No.00112　00.05.01

ガムランの響き

きらびやかな鐘の音が私を震えさせ、酩酊させる。
音のうなりとリズムの渦に巻き込まれ、
夢見心地な心はどこか遠くへと連れ去られる。
ガムランの響きはうなりでできている。
同じ音程の楽器が一対あるのだが、
わざとわずかに音程をずらしている。
音程がずれている一組の楽器が一緒に音を出すと、音がうなる。
西洋音楽ではうなりは良くないものだ。
完全にハーモニーになっていなければならない。
ところがガムランでは、
そのわずかな音程のズレから生まれるうなりを美しいものと
解釈している。
だから、ガムランの響きはあれだけきらびやかになる。
バリの湿った空気のなかで、ガムランを聞きたい。
鐘の音から生まれるうなりやリズムにからだを浸したい。

No.00113　00.05.08

呼吸のリズム

ジョギングしていると一定のリズムに呼吸を保つ。
そばに車が走っていたり、
手に持つ縄跳びがカタカタとうるさいと、
その一定のリズムが聞こえなくなる。
呼吸のリズムが聞こえなくなると、不思議なものだが、
走るテンポが落ち、走ることがつらくなる。
裏道に入り車の音が聞こえなくなったり、
縄跳びのカタカタという音が聞こえなくなるよう
持ちかえると、呼吸のリズムが聞こえるようになり、
走るのが楽になる。
呼吸のリズムがこんなに大事だとは知らなかった。

No.00114　00.05.09

鳥笛に応える小鳥たちの歌

箱根で鳥笛を買った。竹細工で作られた鳥の姿をした笛だ。
笛の前後にある穴を指で閉じたり開いたりすることによって
音程が変わる。
山の中で鳥の声をまねして鳴らすと鳥たちは明らかに
笛に対して返事をする。
鳥たちとお話ができたようでうれしい。

No.00115　00.05.10

フラミンゴで埋め尽くされたボゴリア湖

ケニアにナクル湖という湖がある。
フラミンゴの生息地として有名な湖だ。
取材で行ったのだが、その日は水が干上がり
フラミンゴもほとんどいなかった。
そこで足を伸ばしてボゴリア湖に行った。
そこもフラミンゴの生息地だとガイドに言われた。
ナクル湖にほとんどいなかったのであまり期待しなかった。
しかし、ボゴリア湖につくとフラミンゴの大群がいた。
湖の一部がフラミンゴのピンクに染まっていた。
雲霞のようにピンクの群がさざめいていた。
ボゴリア湖はアルカリ湖のため、魚がほとんどいない。
その湖に繁茂する藻を
フラミンゴは食べてピンク色になるという。
圧倒的な自然の美しさにため息をついた。

No.00116　00.05.11

つつじの季節

玄関につつじが咲いている。この季節になると風が暖かい。
日差しが強くなる。そして薄着でいられる。
薄着というのは気持ちいいものだ。
服が風になびくと肌にさわさわと触れる。
暑すぎると言うこともない。夢見心地にもなれる。
瞑想にもいい。

No.00117　00.05.12

びわのジュース

コンビニエンス・ストアで「びわ」のジュースを買った。
はじめて見るジュースだったが、「びわ」は好物である。
確かにびわの味がした。
本物のびわと同様、味がやわらかだった。
うちの庭にはびわの樹がある。
僕が幼い頃、食べたびわの種を庭に「ぷっ」と吹いたら、
いつしか芽が出て樹になり、実をつけるようになった。
別段手入れもしていないので市販のびわより酸っぱい。

でも、その酸っぱさが僕は好きだ。
いまはまだ実が小さくて青い。
びわのジュースはびわの季節を一層待ち遠しくさせてくれた。

No.00118　00.05.15

歯磨き

歯医者さんに行き歯の磨き方を習った。
歯を磨くときには必要以上の力を入れてはいけない。
理屈としては知っていたが実践はしていなかった。
ガシガシと力を込めて磨いていた。
おかげで歯の根元がこすれてへこんでいた。
ところが歯医者さんで力を入れずに磨く磨き方を習うと、
とても気持ちがよい。
歯茎をこしょこしょとくすぐるように磨く。
その方が力を入れ過ぎで磨くより歯がきれいになるという。
こんなに楽にこんなに気持ちいいのかと感動してしまった。

No.00119　00.05.16

瞑想

・・・・

No.00120　00.05.17

あくび

大きく口を開けて、腕に力をこめて力瘤を作り、
背中を伸ばして大きくあくびをする。
目にうっすらと涙がたまり、脱力。
首をぐりぐりと回して一丁上がり。

No.00121　00.05.18

ジャンベを叩く

アフリカのドラムにジャンベと呼ばれるものがある。
このドラムは人の感覚を完全にいかせてしまう。
まずジャンベの中央を叩くと腹の底に響く低い音がでる。
エッジの近くを叩くとカンという高い音がでる。
その高い音は意識を覚醒させるような甲高い音だ。
この二種類の音をひとつの楽器で交互に出し続けると、
聞く者の感覚は陶酔の海を漂う。
最近は代々木公園で叩いてる人によく出会う。

No.00122　00.05.19

ネクタイをゆるめる

一日の仕事が終わりネクタイをゆるめるとき、
ほっとため息をつく。
上着も脱いで首をまわし、今日一日の疲れを癒す。
まずは一杯ビールでも。

No.00123　00.05.22

車の窓を開けて走る

この季節になると車の窓を開けて走るのが気持ちよい。
スピードを上げて走れば風圧の高い風が頬や腕を撫でていく。
窓を閉めて走ると静かでカーステレオが良く聞こえて、
それはそれで気持ちいい。
でも、風の音を聞きながら走るのもいいものだ。

No.00124　00.05.23

Ｔシャツと半ズボンで寝る

この季節になるとＴシャツと半ズボンで寝る。
布団が直接肌に触れて気持ちいい。
目覚まし時計が鳴ってもまどろんでいるとき、
足を出しておくと冷えてきて目が覚める。その感覚も好き。
四季のある国に生まれてよかった。

No.00125　00.05.24

鳥の鳴き声で起きる朝

朝日が昇るのと一緒に鳥が鳴き始める。
窓を開けたまま寝た翌日、
遠くから聞こえてくる鳥たちのさえずりで目を覚ます。
優しい音で目覚めると、心もなぜか優しくなる。

No.00126　00.05.25

ジェゴグの響き

ジェゴグはバリの音楽様式だ。楽器はすべて竹でできている。
木琴の打つ部分が竹なのだ。
竹琴とでも言えばわかりやすいだろうか。
大小の竹琴を数名で打つ。
ガムランは金属音が刺激的である。
その刺激がいつしか恍惚感へと変わっていく。
オートバイの騒音がライダーに気持ちいいように、
波の激しい音がサーファーには気持ちいいように。
しかし、ジェゴグの音は柔らかい。
激しく演奏されても耳に心地よい。
ガムランの恍惚感はないが、横隔膜に響き、
いつしかまどろんでしまう。
大きく太い竹の出す低い音が空気の振動を感じさせる。
半袖半ズボンの季節になると
バリで買ってきたジェゴグのＣＤをかける。

部屋がけだるいバリのリゾートの雰囲気を放ち始める。

No.00127　00.05.26

本に囲まれる

僕の書斎は六畳ほどの広さだが、
壁が二面上から下まで本棚になっている。
本棚の方向に顔を向けると目にはいるのはほとんど本だけだ。
本を書くときに時々本棚を眺める。
なにか言葉が目に付くと、そこから想像がピョンと飛躍する。
本棚の本は僕の創作加速装置だ。

No.00128　00.05.29

水平線から昇る太陽

竹芝桟橋から三宅島への船に乗る。
三宅島に着く頃朝日が昇る。
朝日は海に反射し、一直線に僕の方向へと光の道を作る。
今日の朝焼けは真っ赤だった。

No.00129　00.06.05

海にできる光の道

海から昇る朝日を見るときや､海に沈みゆく夕日を見るときに、
太陽から自分に向かって一直線に光の道ができることがある。
光の反射だから誰にとっても自分に向かって光るのだが、
特別に自分に向かってだけ光っているようで嬉しくなる。

No.00130　00.06.06

カラスの鳴き声

カラスの鳴き声なんか嫌いだった。
不吉だし、うるさいし、
近くで聞くと馬鹿にされているように思えた。
カラスはゴミをあさるし、死臭をかぎつけるとも聞いた。
でも、ふとなぜカラスの鳴き声が嫌いなんだろうと
思いはじめると、自分の一方的な考えを
カラスに押しつけていたんじゃないかと思いはじめた。
象はかつて危険な動物だった。
しかし、人間がハンティングをやめてから、
以前ほどには危険な動物ではなくなった。
カラスも人間が憎むのをやめたら
可愛い鳥になるかもしれない。
夕焼小焼の歌の最後で
「カラスと一緒に帰りましょ」と歌われているが、
あの歌とともにカラスを思い出すと、
ちっとも嫌いには感じられない。
夕焼けの空を背景に響くカラスの声が
懐かしくさえ感じられる。

No.00131　00.06.07

御蔵島の水を飲む

御蔵島で水を買った。
「御蔵の源水」と名づけられたミネラムウォーターだ。
御蔵島は四方が崖で囲まれ、
海を渡ってきた風が崖でさえぎられ、
いきなり島のてっぺんまで吹き上がるので
山の頂上ではよく雨が降る。
雨のおかげで御山の頂上付近には湿原がある。
そして山全体が豊かな森におおわれている。
その森を通った湧水をボトルにつめて売っている。
飲むと水がなぜか甘く感じられるときがある。

No.00132　00.06.09

新しい靴を買う

僕は体重が重いので、すぐに靴がすり減る。
履きつぶす頃には踵が外側へと傾き、
がに股傾向がはっきりとわかってしまう。
新しい靴を買うと踵が地面と平行で姿勢がシャンとする。
見た目も良い。
新しい靴で歩くと、
普段よりちょっとだけ胸を張っているような気がする。

No.00133　00.06.09

イルカと一緒にでんぐりがえし

先週、御蔵島に行った。年に一度イルカと泳ぐために行く。
御蔵島のまわりには、野生のイルカが生息している。
しかも彼らは人間を恐がらない。機嫌がいいと寄ってくる。
今年はイルカの機嫌がやたらとよかった。
普段なら一緒に泳いでも
息継ぎするときに離れてしまうのだが、
今回は一緒に息継ぎをしてくれた。
それも一度や二度ではなく何回も。
若い二頭のイルカが寄ってきたので、
きりもみ状態のようにしてクルクルと潜っていったら
彼らもまねして潜ってきた。
息継ぎに海面に出ると彼らも息継ぎした。
次は潜りながら彼らを追っかけると

上へ行ったり下に行ったり
でんぐりがえしを何度かすることになった。
そして息継ぎ。
彼らも彼らにとっては再びする必要もないはずの
短い間隔の息継ぎをした。
次はきりもみ状態とでんぐりがえしを一緒にやってみた。
方向感覚がなくなる。
しかも深くなれば水圧で頭が締められる。
彼らもなんか一緒にグルグルしているみたいだ。
自分が回っているのでよくわからない。
息継ぎに上がると目が回っていた。
彼らもまた息継ぎし、深くへと潜っていく。
負けてはいられない、もう一度潜った。
その後、何回一緒に潜っただろう？　五回か六回か？
船にあがると同行していた友人がうらやましがった。
僕もはじめての体験だった。

No.00134　00.06.12

杉の葉の先にとまった水

深い森の中で出会った杉の木は、雨に打たれて潤っていた。
何千年もの時を越え、そそり立つ杉。
立派な杉の木の葉は頭上高くて触ることができないが、
まだ若い背の低い杉の葉に水滴がついていた。
水滴は杉の葉の先につかまりキラキラと輝く。
まるで透明な水晶の粒をつけたようだ。
水滴に触れると一瞬にしてその丸い粒は消え、指先が濡れる。

No.00135　00.06.13

分杭峠

毎年長野県の長谷村へ行く。
長谷村にある南アルプス生涯学習センターで飛ぶ教室を
主催しているからだ。
南アルプス生涯学習センターの裏手に分杭峠がある。
分杭峠の上には中国の気功師が認めたゼロ磁場があるという。
何度行ってもそのゼロ磁場がどこにあるのか
はっきりとはわからないが、
毎年トンボが飛んでいる場所がある。
そこは山の谷がどこまでも一直線に続き、
龍がいたらまっすぐとその頭上を通って行くだろうと
思わせるような場所だ。
そこを飛ぶトンボは朝日に羽が光り
幻想的な景色を生み出している。

No.00136　00.06.14

変形した夕日

御蔵島のふれあい広場から眺める夕日はとても美しい。
目の前の海原の遥か水平線に夕日は沈んでいく。
先日見た夕日は水平線に接する頃から夕日が横長になり、
中心部だけ縦に長くなり、
野球のホームベースを逆さまにしたような形になった。
写真に撮ろうと望遠レンズをつけたカメラで覗くと、
太陽の表面に黒点があった。
太陽も生きてるなぁ。

No.00137　00.06.15

月に照らされてできる影

夜に暗い道を歩いていると影があることに気づくことがある。
振り向くと月が明るく僕を照らしている。
こんな時に月の明るさを感じる。
なぜ月はいつも同じ側面を僕たちに見せているのだろう。

No.00138　00.06.16

河原でやるボディローグ

毎年、飛ぶ教室でボディ・ローグをやる。
ボディ・ローグは関　松美さんがキヨズ・キッチンの
南　清貴さんと開発したメソッドだ。
柔軟体操をするように身体をほぐしていく。
一昨年は河原でもボディ・ローグをやった。
河原でやると河原の石が足の裏に食い込んで痛い。
ところが関さんは平気な顔をしている。
痛くないのかと聞くと、緊張をほぐせば痛くないと言う。
緊張をほぐしてみた。でもやっぱり痛い。
だいたい僕の体重は関さんの倍近い。
いろんな格好をしながらついに
河原に仰向けに寝ることになった。
背中が小石にあたって痛い。
関さんはやはり緊張をほぐせと言う。
仰向けに寝ながら体中の筋肉を弛緩させた。
弛緩させるほど痛くなるように感じた。
でも、それでももっと弛緩させてみた。
するとあるときからすっと痛みが引いた。
僕全体が河原の石になったようだ。
河原の石になってみると河原のせせらぎが耳元で聞こえる。
遠くで鳥の声。風が肌をくすぐる。
弛緩するってこういうことだったんだ。

No.00139　00.06.19

デジタルカメラの撮影

カメラで撮影することも楽しいのだが、
デジタルカメラでの撮影はもっと楽しい。
その場で撮影した写真が見られるからだ。
写された人も自分がどのように写ったかすぐに確かめられる。
あまり良い写真でなければすぐに撮影し直すこともできる。
みんなでわいわい言いながら楽しむことができる。

No.00140　00.06.20

たわわになる枇杷の実

うちの庭の枇杷の木に実がなった。
濃い緑の葉の間に枇杷の実の鮮やかなだいだい色が見える。
きっといつものように野鳥が食べに来るだろう。
いろんな鳥のさえずりが聞けるようになる。
実は小ぶりでしっかり酸っぱくてちょっと甘い。
肥料などを一切やってないので、自然の味だ。

No.00141　00.06.21

半身浴

湯船のお湯を少な目に張って、腰まで浸かり半身浴をする。
はじめのうちはなんともないが、しばらくすると汗が出始める。
じっと我慢していると汗が流れ、
サウナに入っているときのようになる。
それでもしばらく我慢し、
汗が身体や顔をおおうほどになったら上がり時だ。
血液が充分に暖められているから
お風呂から上がってもポカポカしている。

No.00142　00.06.22

水うち

僕がまだ幼かった頃、近所ではよく水うちがされた。
真夏の暑い日に水がうたれる。
埃っぽい匂いとともに水がうたれたあたりは
少しひんやりとする。
最近ではエアコンのない家がないせいか、
水うちがされるのを見かけない。

No.00143　00.06.23

芝生の香り

皇居の前を車で通った。窓を開けると芝生の匂いがした。
幼い頃、近所に芝を育てている農家があった。
夏の日、その芝生の上でよく遊んだ。
その時の匂いだ。
カウアイ島での朝、芝生にスプリンクラーで水を与えていた。
その時の匂いでもある。
深い緑と芽吹く命の香りだ。

No.00144　00.06.26

どっと布団に倒れ込む

へとへとに疲れて帰った日、何もせず、ただ布団に倒れ込む。
身体中の力を抜いて、ただくったりと寝込む。
極楽。

No.00145　00.06.27

滝の音

山道を歩いていくと滝の音が聞こえた。
水量が多くて遠くからでもものすごい音がする。
大量の水が落ちるため、音に重さが感じられる。
近づくほど音の重さが増すようになり、僕は恐怖を感じた。
滝の前に出ると音に圧倒される。
しかし次第に音の重さに慣れ、
その音に包まれていることが快感になる。

No.00146　00.06.28

木漏れ日のなかのお地蔵様

山道を歩いていると何体ものお地蔵様が並んでいた。
苔で緑色になった身体に木漏れ日が射していた。
どのくらい昔からここを登る人たちを
見守ってきたのだろうか？
お地蔵様は何も答えず、今日もきっと黙って立っている。

No.00147　00.06.29

雨上がりの匂い

　雨上がりには独特の匂いがある。
草木の多い場所では緑の香りを強く感じるが、
その香りのなかに隠れて雨上がりの匂いが漂う。
都会のアスファルトの上でもその香りを感じることができる。
その匂いがいったい何なのか、僕は知らない。
でも確かにそこにはその匂いが存在する。
その匂いを感じるとき、なぜかほっとする。

No.00148　00.06.30

つまったスケジュールを完璧にこなす

忙しくてどうにもならないような時、
スケジュール帳は書き込みでいっぱいになる。

そこに書き込まれたすべての予定を時間通りにこなすとき、
とても気持ちがいい。
そのようなときには仕事をすればするほど元気になれる。
ひとつでもうまくいかないと重苦しく感じてしまう。
仕事をうまくこなすコツはこんなところにあるのだろう。

No.00149　00.07.03

居眠り

居眠りは突然やってくる。
どんなに我慢しても、どんなに抵抗しても、
無駄な抵抗になることがある。
夢と現実のあいだを意識はさまよい、
いつか夢の世界へと落ちていく。
夢の世界は現実に感じている音やにおいなど、
五感で感じられることによって編集されることがある。
また逆に夢が現実に現れることもある。
かつてブラスバンドの編曲をしていた際に
夢で楽譜を書いていた。
目が覚めると、目の前のノートに八分音符が並んでいた。

No.00150　00.07.04

風に触る

車を走らせ窓を開ける。時速 60km ほどがいい。
窓から手を外に出すと風に触れる。
スピードを上げるほど風の手触りは硬くなる。
柳沢慎吾は風のオッパイに触ると言っていた。
空を飛ぶ飛行機の翼のように手に角度を与えると手は
浮き上がったり沈んだりする。

No.00151　00.07.05

朝に嗅ぐ緑の香り

朝早く起きて木立を歩くと、緑の香りがどこからか流れてくる。
露が降りていたり前日が雨だとその香りのなかに
蜂蜜のような匂いを見つけることができる。

No.00151　00.07.05

パイナップルの香り

パイナップルがなっているのをはじめて見たのは
ハワイのパイナップル畑だった。
ずっと木から吊されるようになるものだと思っていたが、
実際には地面からニョキッと生えていた。
近くでパイナップルをカットして棒にさして売っていたので
買った。
パイナップルの香りをプンプンさせた黄色い実。
汁をしたたらせて食べた。

No.00153　00.07.07

ステンドグラスの光

ほの暗い教会の中から外の光を感じるのは
ステンドグラスの光を通して。
様々な形や色がさざめきあう。
闇に埋もれた心が光を求めるように、
人々はステンドグラスの光を見上げたのだろうか。
それとも喜びに包まれてさざめく光を浴びたのだろうか。
ステンドグラスを見上げる僕にもさざめく光たちは降り注ぐ。

No.00154　00.07.10

靄にかすむ雑木林

何種類もの木々が茂る雑木林は、
まるでモコモコのスポンジのよう。
雨や露の水分できっと大きくなっていく。
でも、スポンジは水を吸ってただ大きくなるだけだが、
雑木林の内側ではいろんな物語が生まれているはず。
リスが木の実を食べているかも。
虫が木の幹に穴をあけているかも。
鳥が枝に巣を作っているかも。
木こりが枝を伐採しているかも。
そんな数々のストーリーを含みながらも、
雑木林はただ黙って靄に包まれている。

No.00155　00.07.11

友達とのおしゃべり

たまには用がなくても友達と会い、おしゃべりするのがいい。
久しく会っていない友達のうわさ話をしたり、
最近体験した楽しいことを話したり、
次の遊びの約束をしたりする。
友達の知らない側面を見つけるとうれしい。
自分も新たな挑戦をしたくなる。

No.00156　00.07.12

ジョギングのあとに飲む水

ジョギングのあとにシャワーを浴びる。
浴びながら水道の水を飲む。
普段は水道の水はまずくて飲めないが、走った後は気にしない。
身体が水分を欲しがっている。

No.00157　00.07.13

バリの沐浴

バリのマンダラ宮に泊まった際に、
町の裏にある沐浴場で沐浴した。
苔だらけの石の壁で三面がさえぎられ小さな囲いに
なっており、そこに管から水が落ちてくる。
人が三人ほどしか入れない小さな囲いだ。
特にさえぎるものはなく、そこを通りかかった人には
裸の姿を見られてしまう。
でも、なぜか嫌な気分はしなかった。
頭から水をかぶり汗を落とす。
脇に流れていた川ではおばさんが洗濯していた。

No.00158　00.07.14

記念切手を使う

僕が小学生の頃、記念切手は集めるものだった。
集めては友人に自慢していたりした。
記念切手を集めるためのノートもあった。
最近では記念切手は使うためにある。
きれいな切手ほど誰かに送りたくなる。
もちろん、送られてきた手紙の切手がきれいなものだと
とてもうれしい。

No.00159　00.07.17

インディアン・フルートを吹く

インディアン・フルートは
息をゆっくりと使わなければ音が出ない。
たて笛はあまり息の使い方に注意を払わなくとも音が出るが、
良い音を出すためには注意深く息を使うことが求められる。
たて笛で良い音を出すときと同様に
インディアン・フルートでは音を出すために息に注意を払う。
ゆっくりと、しかし息の量は大きく吹くと良い音が出る。
インディアン・フルートを吹くとき、
音と息に注意を払い集中する。
その感覚がとても良い。
瞑想に似た感覚が生まれる。

No.00160　00.07.18

プールに飛び込む

プールに飛び込むと世界が変わる。
圧力を感じる。
水の重さだ。
音が変わる。
低い音が聞こえなくなる。
目を開けると視界が変わる。
プールのなかはペール・ブルーの世界。
重力がなくなる。
厳密に言えば重力がなくなったのではない。
浮力が生まれたのだ。
浮力のおかげで、僕は足をつかずにいられる。
空中を飛ぶ鳥のように、
水中を飛ぶことができる。

No.00161　00.07.19

暑い日の噴水

青空に向かって、白い水しぶきがあがる。
ある夏の日の午後。
サラリーマンがパンをかじる。
ＯＬがおしゃべりをする。
よちよち歩きの赤ちゃんがベビーカーを押す。
鳩は首を前に押し出すように歩いていく。
いま飲んだサイダーが汗になって流れる。
水の音の心地よさ。
大きな水滴は水面を揺らす。
細かい水滴は風に流れて芝生を潤す。

No.00162　00.07.20

黄色い満月

日が暮れて、星が見えるほど空が暗くなったころに、
車を運転していると、はっと驚くことがある。
地平線に浮かぶ黄色い満月にだ。
まるで 40 ワットの電球みたいに
橙に近い黄色でワッカリと光っている。
狼は満月を見て遠吠えするそうだが、
僕もしてみたくなる。

No.00163　00.07.21

EYE TO EYE 〜　Frans Lanting の写真集

豹の、オランウータンの、鷹の、ワニの、
蛙の、象の、カバの、サイの、ボノボの、
目がある。
ペンギンの、アホウドリの、キリンの、
象の、ライオンの、猿の、シロクマの、
カップルがいる。
ペンギンの、蝶の、カバの、インパラの、
インコの、パフィンの、フラミンゴの

群れがいる。
目を瞑ると、僕も草原にいる。

No.00164　00.07.24

香りのよい石鹸

香りのよい石鹸を手に入れると、母はタンスにしまっていた。
洋服に香りが移ってよいのだと言っていた。
僕の香りは十年来パコラバンヌ。
香りが喧嘩するといけないのでタンスに石鹸は入れない。
でも､香りのよい石鹸を手に入れるとタンスにしまいたくなる。

No.00165　00.07.25

長谷村に飛ぶトンボ

また今年も長谷村で飛ぶ教室を開催した。
会場の南アルプス生涯学習センターの目の前に
川が流れている。
川の向こうに小さな山がある。
センターに射す朝日はその山の上から昇る。
今にも朝日が姿をあらわすとき、
光の中心に近い木々の葉が光り出す。
そして、そのそばで光の粒子が踊り出す。
幻想的な光景に目を凝らすと、
その光の粒子が実はトンボの飛翔であることがわかる。

No.00166　00.07.27

銃を撃つ

かつて、サンフランシスコの射撃場で銃を撃ったことがある。
ずっしりと重い銃から激しい音とともに
弾丸が発射されるのが快感だった。
発射の反動の瞬間、遠くの的に穴が開く。
自分の位置から、的までの距離を一瞬にして
弾丸が駆け抜けていくのが信じられなかった。
本当に一瞬なのである。
強大な力を手にすると離したくなくなる。
銃を持つのは癖になる。

No.00167　00.07.28

クリスタル・ボウルの響き

クリスタル・ボウルという楽器がある。
純度の高いクリスタルでできているそうだ。
形は台所で使うボウルのようだ。
木琴や鉄琴を叩く先がゴムのバチで、叩いたり、
こすったりして音を出す。
大きさの違う七つ程度で一セットになっている。
大きなクリスタル・ボウルは低い音を出し、
小さなクリスタル・ボウルは高い音を出す。
いくつかのクリスタル・ボウルを同時にならすと
深い共鳴が起こり、身体の各部が振動し始める。
それをただ聞いていると、なぜか睡魔が襲ってくる。
抗うことができないほどの睡魔だ。
頭や耳が共鳴する。
音が身体をすり抜けていく。
実際に体験しない限り、この感覚は味わえない。

No.00168　00.07.31

木漏れ日

木漏れ日を見上げるのが好きだ。
チラチラと木々の枝や葉を通して
漏れ落ちる光を受けるのが好きだ。
時にはまぶしい光が、
時には葉を透かした緑の光が、
時には枝でさえぎられて筋のように伸びる光が、
僕の身体や目に降り注ぐ。
遠い日に聞いた波の音のように、
ひとつとして同じリズムでは落ちてこない光。
夢の世界に連れて行かれそうな、自然の呪文。

No.00169　00.08.01

青空

地下鉄の階段を上がると、
不意に足元が青く明るくなった。
見上げると地下鉄の出口の遥か向こうに青空が広がる。
毎日のように見ているはずの青空が
なぜか今日は、本当に青空に見えた。
心当たりはないのだが、
あえて理由をつけてみれば・・・。
いや、やめておこう。
素直に喜びを伝えたほうがいい。

No.00170　00.08.02

喜風仏

ただ喜んでいるだけが仕事のような仏様。
朝日に照らされきれいだったので御蔵島から持ち帰った。
お仲間は地震で倒れているかもしれない。
早くもとの穏やかな土地になるよう一緒に祈りましょう。

No.00171　00.08.03

西瓜

大きな包丁でシャクッと切れば、赤いジュースが滴り落ちる。
船の形に切り分け、かぶりつけば
独特のシュカッという歯ごたえとともに
口いっぱいに甘さが広がる。
今年も西瓜が美味しい夏が来た。
流水で冷やして召し上がれ。
BGM は風鈴がいい。

No.00172　00.08.07

たんぼを眺める

バリの棚田も美しかったが、日本のたんぼも美しい。
この季節は稲穂が風に流され、緑の波が見られる。
もう少し秋に近くなると、緑の波に黄色が混ざるようになる。
そして秋、黄金の波が光るようになると収穫の時期だ。
人と自然のハーモニーが聞こえる。

No.00173　00.08.08

葉巻を吸う

葉巻は吸う前に香りを確かめる。
葉巻にもよるが、蜜のような香りがしたり、
草のような香りがしたり、
ここには書けないもののような香りがしたりする。
葉巻に火をつけて吸う。
口に含んで味と香りを楽しむ。
煙を吐き出すと、その濃厚さにうっとりする。
煙草では味わえない濃さがある。
漂う煙を眺めるのも楽しい。

No.00174　00.08.09

ケニアで星空を見上げる

ケニアで泊まったロッジの入り口に椅子を出して
夜空を眺めた。
何か動物がやってくるかもしれない。
もちろん人間を食べてしまうような動物も
来ないとは限らない。
そんな場所で見上げた星空は、格別に神秘的だった。
無数にちりばめられた星々が輝き､天の川がうっすらと見えた。
僕が生きていても生きてなくても関係ないような世界。
見上げているのはそんな世界だった。
たとえ僕がライオンに食われても、たいした問題ではない。
わかってはいるけど、まわりの気配にびくびくしていた。
矛盾をはらんだ僕を楽しんだ。

No.00175　00.08.10

空腹

去年の末からジョギングをし、ダイエットを始めた。
以前、空腹は苦痛だったのだが、ある程度やせてくると
空腹が気持ちよくなってくる。
空腹が気持ちよいとやせるのがつらくなくなる。
不思議なもんだ。

No.00176　00.08.11

考える

考えることは気持ちいい。
この世界中で僕しか考えないようなことを
考えるのは気分が良い。
学校で考えるようなことのほとんどは、誰でもが考えたことだ。
だから、つまらない。
僕の机の上をどうやって整頓するか、僕しか考えない。
僕の書く本の出だしをどうするか、僕しか考えない。
次の旅行はどこに行くか、僕しか考えない。
目の前のノートに何を書くか、僕しか考えない。
地球で唯一の考えを考えるとき、
僕は地球の代表になる。

No.00177　00.08.21

桃にかぶりつく

桃の季節になった。
桃は上品にナイフで切って食べるより、
皮をむいたらまるのままかぶりつくのが美味しい。
桃にかみつくと「シャーッ、ジュルッ」と音がする。
シャーッは噛みつく際に桃の果肉がたてる音。
そして手にしたたり落ちるジュースを
最小限に食い止めたいから
最後にジュルッと吸うことになる。
口の中は桃の甘さに満たされ、
口の回りは桃の香りで埋め尽くされ、
手はジュースでベトベト。
桃を征服した充実感が口元をキュッと引き締める。

No.00178　00.08.22

風呂上がりに冷えたビール

風呂にじっくり入る。
汗がジワジワっと出てきたら、もう少し我慢して、

ダラダラッて感じまでがんばる。
仕上げに冷たいシャワーをあびて風呂から上がる。
すると絶対キンキンに冷えたビールだ。
このときに飲むビールは軽いのがよい。
バドとかハイネケンとか、一番絞りとかだ。
そして鉄則はグラスに注ぐこと。
グラスに注いで泡を出すと一層味が軽くなる。
まずはグラスに泡が出るように注ぎ、
泡がある程度消えるのを待つ。
しばらく待つと大きな泡は消え、細かい泡だけが残る。
そこにもう一度ビールを注ぎ、もう一度待つ。
二度も注げばそこには細かい泡がモクモクしている。
仕上げにもう一度注いでビールと泡の量を調節し、
飲む。
フーッ
鼻の下に泡がつく。
冷たくて軽やかなビールが喉を通って
胃に入っていくのがわかる。
さっき出し切ったはずの汗がもう一度じわっと出る。

No.00179　00.08.23

丁寧に書いた文字

普段書く文字はいつも急いで書いてしまう。
特に急ぐ必要がなくてもさっさと書いてしまう。
まるで何かに追われているように。
きっと文字を書くとき以外でも、
何の必要もないのに急いでいるに違いない。
もったいないことだ。
たまに丁寧に字を書くとそれがよくわかる。
丁寧に書いた文字はどこか愛しく感じられる。
ほかのことも丁寧にやったらいいのに。

No.00180　00.08.24

オレンジを絞って飲む

オレンジを半分に切り、オレンジ絞りに押しつけて絞る。
オレンジの香りが広がりジュースが出る。
もちろんそのまま飲んでも美味しいが、
ブランデーと少々のクワントローを入れてもうまい。

No.00181　00.08.25

さぼる

勤勉に働いたり、勉強するのも良いが、さぼるのが気持ちいい。
あれしなきゃいけない、これしなきゃいけないを全部無視する。
さぼることの良さがわからなきゃ、創造なんてできないね。

No.00182　00.08.28

挑む

自分にはできないかもしれないと思うようなことに挑む。
自分にはつまらぬ枠がある。
その枠を自分の手ではずす。
見知らぬ土地への旅行でもいいし、転職でもいい。
食べたことのないものを食べるのでもいいし、
つきあったことのない人とつきあうのでもよい。
したことのない何かへのチャレンジ。
日々の生活の中にチャレンジはひそんでいる。
挑むことに慣れてしまったら、何か次の新しいことを考える。

No.00183　00.08.29

波打ち際を歩く

砂浜の波打ち際を歩く。
足下を波が濡らしていく。
服が濡れるのは気にしない。
もう夏も終わり。
人影はまばら。
まだ暑いのに秋の気配。

No.00184　00.08.30

フィンで泳ぐ

フィン(あしひれ)をつけて泳ぐ。
自分が魚になったように楽に泳げる。
頭や耳に圧力を感じながら潜ったり浮かんだり、
クルクルと回ったり、普段にはない自由を得て
水の中をスイスイと。

No.00185　00.08.31

じっと文章を書く

内側からあふれてくる言葉に耳を澄まし、
集中して文章を書くのは気持ちよい。
この言葉たちは、今、この場所で、私が生み出すしかない。
この暑さ、この環境、この感覚、この思いが
交差し、響き合い、干渉し、生まれてくる。
じわっと汗をかくように、じわっと文章が生まれてくる。

No.00186　00.09.01

ケルト音楽

いつまでも続く呪文のような旋律。
モールス信号のようなリズムに絡まる音階。
跳躍するメロディー。
ケルトのデザインのように錯綜する音。
ユニゾンで走り回る音の舞踏。
ケルト音楽のシャワーを浴びると
心は青い迷宮をさまよいだす。

No.00187　00.09.04

早朝の風

記録的な暑さの日でも、翌朝の風は秋の気配を含んできた。
朝に香っていた草木の香りがさめてきた。
朝焼けもどこか秋の味がする。
涼しいからそう見えるのか、
それとも実際に朝焼けの光に含まれるスペクトルが
秋独特の輝きなのか。
ひぐらしがここぞとばかりに鳴いている。

No.00188　00.09.05

観覧車から眺める景色

私は「第三の男」を見たことがない。
もちろん、オーソン・ウェルズが主演していた映画だ。
にもかかわらず、なぜか観覧車を見上げると、
「第三の男」のテーマ曲を思い出す。
観覧車に乗るときには必ず「第三の男」のテーマが
頭の中で鳴り始める。
観覧車に乗ると次第に見える景色の範囲が
大きくなっていくのがうれしいが、
他のゴンドラが見えるのが気になる。
いちゃいちゃしているカップルが見えたりする。
つまり、相手からもこちらが見えている。
なのでなんかつい小心者の私はおすまし顔でゴンドラに乗る。
ところが一瞬だけ誰からも見られない瞬間が来る。
てっぺんだ。
この広い景色をまるで独り占めしたような気分になれる
その一瞬。
その喜びを表現してみたいのだが、
バンザイするのはみっともないし、
長年のパートナーにキスするってのも恥ずかしいし、
叫ぶとまわりのゴンドラに聞こえるだろうし、
せいぜい写真を撮るくらいで終わってしまうのが悔しい。
あれ、気持ちいいものを書くはずだったのに・・・。
まあ、たまにはいいか。

No.00189　00.09.06

スケジュールをたてる

毎日のようにその日のスケジュールをたてる。
あれをし、これをし、このことは今日やらない。
今日一日の行動が組み上がっていく。

No.00190　00.09.07

高層ビルから眺める夜景

きらきらと輝くものは美しい。
ダイヤモンド、瞳、輝く海面、銀食器、
朝日に照らされたグラス。
でも､夜景の美しさはただ輝くから美しいというわけではない。
高いビルから見おろす輝きに人の生活を思い、
人の生み出す造形美に驚き、広い範囲に拡がる偶然に感嘆し、
そして、そのなかに普段自分がいることを考える。
愛する人の影を探すこともある。

No.00191　00.09.08

砂時計

逆さにしてじっと待つ。
一方的に落ちる砂の流れ。
下に砂の山を作る。
音もなく積まれていく時の流れ。
当たり前な、不思議な世界。

No.00192　00.09.11

秋風に吹かれる

夜の風が少し涼しくなってきた。
暖かい風のなかに、少しだけ涼しさを感じる。
夏の風に秋の風が紛れ込んでいる。
秋の風は切ない。
はしゃいでいた心をしゅんとさせる。
しゅんとした感覚とともに思い出が通りすぎる。

No.00193　00.09.12

ミント・ジュレップ

グラニュー糖に炭酸水を加え、そこにミントの葉を落とす。
スプーンの腹でミントの葉をつぶしたら
クラッシュ・アイスでグラスを満たす。
好みのバーボンを注いでステア(かきまぜる)する。

最後にミントの葉を飾ってできあがり。
ミント・ジュレップ。
どんなにうまいかは飲んでミントわかりません。

No.00194　00.09.13

花の名前を教わる

花の名前を僕はあまり知らない。
興味のない証拠だ。
しかし、花の名前を教えてもらうのはなぜか嬉しい。
あれはなんとか、これはなんとか・・・。
あれがなんと言う名で、これが何という名かを
二、三日もすれば忘れてしまう。
昔、大好きだった娘が花の名をたくさん知っていた。
うん、そうだ、その娘に花の名を教えてもらうのが嬉しかった。
そのときの感覚を思い出しているのだ。
ドキドキして、ワクワクして、ちょっとあがったような感覚。
その感覚を思い出すためには、
花の名を知らない方が都合がよい。

No.00195　00.09.14

懐かしい友人との再会

何年も会っていなかった友人と久しぶりに会う。
太ったとかやせたとか、外見の話から始まり、
かつて語った夢のその後を確かめ合う。
夢が成就しても破れても話がはずむと時を忘れる。
グラスがいくつかあく頃には心は何年か前に戻っている。
あの頃の歌を口ずさんだりして。

No.00196　00.09.18

虫の声

夕方、近所の公園を歩くと、あちこちから虫の声が聞こえる。
何匹もの虫の声が頭に響き、彼らがどこにいるのかわからない。
同じ音程であちこちで一斉に鳴く。
少し涼しくなった風と短くなった日が彼らを鳴かせる。
秋の到来がちょっと切ない。

No.00197　00.09.20

シャッターの音

今とは何か。
シャッターの音が教えてくれるような気がする。
しかし、気がするだけで、それは本当の今ではない。
1/1000 のシャッターは今に近似してはいるが、今ではない。
1/2000 のシャッターは
1/1000 のシャッターより近似しているが今ではない。
アキレスが亀に追いつかないように、シャッターの音では
今にたどり着かない。
それでも、今を教えてくれるのは、シャッターの音。

No.00198　00.09.21

夜中のラーメン

そりゃさ、昼間に食べるラーメンと夜中に食べるラーメンに
違いがないことくらいは知ってるよ。
でもさ、夜中に食べるラーメンって特に美味しく感じるよ。
なぜだろう。
もう終電が終わったような時刻にさ、
人通りもまばらな駅前のラーメン屋にさ、入ってさ、
眠そうな顔してカウンターに並んでいる人を眺めながらさ、
ラーメンすするの。
特に肥満を気にしていた頃には美味しかったなぁ。
夜中にラーメン食べると太るじゃない。
だけど　いけないって知っていながら食べちゃうんだなぁ。
そういうのって、特に美味しく感じるよなぁ。

No.00199　00.09.22

水の反射

プールにさす日差しが、プールサイドの壁に反射する。
幾筋もの光の曲線が重なり離れ、複雑な模様を作り出す。
少し涼しくなった風によく似合う、光の映像。

No.00200　00.09.25

200 回

おかげさまで 200 回目の気持ちいいものになりました。
11 月で 1 年、早いものです。
毎日読んでいただきありがとうございます。
200 回を記念して何をしようかと考えました。
プレゼント企画か、
100 回のときのように毛色の違う内容にするか・・・。
で、結局、お休みをいただくことにしました。f(^_^;
今週一週間休ませていただきます。
リフレッシュしてまた発行します。
では、また来週。
気持ちいいもの掲示板のカウンターはもうすぐ 2000 です。
書き込みして下さる皆さん、ありがとう。

No.00201　00.10.02

長袖シャツ

10 月になって、長袖のシャツを着る。
まださほど寒くないので半袖でも平気だが、
長袖を着るのもいい。
ひさしぶりの袖の感覚が懐かしい。
秋の気配が袖に漂う。
長袖シャツにセーターを着るようになるともうすぐ紅葉。

No.00202　00.10.03

益子のダブル・レインボー

益子で田園風景を見ているとにわか雨が降りだした。
雨はたんぼの方に移動し、やがて虹を生み出した。
一端をたんぼに落とし、一端を雲にかけた
ダブル・レインボーがあらわれた。
黄金に輝く田園風景に夢の架け橋のできあがり。

No.00203　00.10.04

夕日に輝く高層ビル

夕日には魔力がある。
夕日に照らされるとあらゆるものが美しく見える。
表面に赤みがかり、影が長くなり、表情が生まれる。
昼間に見ると無機質に見える高層ビル群が
夕日に照らされることで
決然たる表情をたたえた英雄に見えてくる。

No.00204　00.10.05

ダイヤモンド・ダスト

ユーミンの歌にもなったダイヤモンド・ダストを
僕は蔵王で見た。
スキーのゲレンデで朝早くリフトに乗っていると
空気がキラキラと光りながら流れていた。
ゲレンデを滑り降り、もう一度リフトに乗ると
もうダイヤモンド・ダストは消えていた。

No.00205　00.10.06

猫の鳴きまね

猫の鳴きまねが得意だ。
猫を見かけると鳴いてみせる。
猫はどこに仲間がいるのかとあたりをキョロキョロ見回す。
しばらくして声の主が僕だとわかると不思議そうな顔をする。
寄ってきて甘える猫もいる。

No.00206　00.10.09

メンコ

地面に力一杯たたきつける。メンコは力とコツの勝負だ。
紙でできたメンコは古くなると柔らかくなる。
古くなって柔らかいメンコはとても使いやすい。
ひっくり返りにくいし、
たたきつければ地面にぴったりと着くので風が起こりやすい。
買ったばかりのメンコは硬くてすぐにひっくりかえるし、
たたきつけてもはねかえってしまう。
使い古したメンコを武器に相手を負かしていく。
古いメンコは戦いの同志だった。
あの楽しさはやってみなければわからないだろう。
汗をかきながら力一杯たたきつけたメンコが懐かしい。

No.00207　00.10.10

ウクレレ

兄がウクレレを持っていたので、無断でよく弾いた。
父が勤めていた出版社が出していた「世界の音楽」
という全集の、ある一巻にハワイアンの特集があった。
その本の中にウクレレの弾き方が載っていたので
それを見ながらポロンポロンやった。
あの独特の軽やかな音は弦の並び方が原因だ。
ギターの弦は手前が低く、下へといくほど高い音になる。
ところがウクレレは一番手前の弦が次の弦より高い音なのだ。
だから最初に耳に入ってくる音が高いから
軽やかな音に聞こえる。

No.00208　00.10.11

たんぼの上に飛ぶトンボ

稲刈りの季節だ。
夏に輝いていた緑の稲は黄金色に変わり
こうべを垂れて刈り入れを待っている。
秋風に吹かれて生まれる黄金の波。
その波に乗るようにトンボは飛ぶ。
いや、波より速く飛んでいくトンボもいる。
昨日は一匹、肩にとまった。

No.00209　00.10.12

五十鈴の音

天河弁財天で五十鈴を買った。
三つの小さな鈴が三角形に配置されている。
振るとシャランシャランと可憐な音がする。
気持ちの良い音なので耳元でいつまでも鳴らした。

No.00210　00.10.13

靴を磨く

靴が汚れているとなんとなく自信が持てない。
靴を磨くとちょっと自信が取り戻せる。
靴ごときで自信が持てたり持たなかったりするのは
なんかしゃくだが事実だから仕方ない。

No.00211　00.10.16

虹に包まれた月

足下に月影ができていたので振り向いて空を見上げると
月が暈(かさ)をかぶっていた。
普通、暈は光の輪のように見えるが、
今晩の暈はただの暈ではなかった。
うっすらとした雲が月を覆い、
その雲に丸い虹の暈ができていた。
とても美しい、幻想的な光景だった。

No.00212　00.10.17

夜間飛行の窓から眺める流れ星

生まれて初めての海外旅行は夜に出発した。
機内食を食べ、寝るのだが、はじめて乗った飛行機に興奮し
なかなか寝付けなかった。
仕方なく窓を開けて夜空を眺めるとたくさんの星が見えた。
しばらく眺めていると、ひとつ、ふたつと流れ星が流れていく。
百近くまで数えて、いつのまにか眠ってしまった。

No.00213　00.10.18

石舞台古墳

あんなにでっかい石をどうやって積み上げたのか。
内部に入るとアイルランドのニューグレンジを思い出した。
なぜ人は犠牲を払い大きな石を積み上げるのか。
後世の人々は意味もわからず見上げるだけなのに。

No.00214　00.10.19

紛失　タイトルは「何年もかけて守った約束」

No.00215　00.10.20

ゆらぎ

そよ風が揺らすカーテン。
せせらぎの音。
チラチラと光る木漏れ日。
海辺の波の音。
風に舞う枯葉。
風に流される雨の音。
夕日に輝く海面。
たまにやる君との喧嘩。

No.00216　00.10.23

ゆっくり泳ぐ海亀

シュノーケリングで海に潜ると海亀に出会うことがある。
海亀はたったひとりでゆっくりと泳いでいく。
浦島太郎を竜宮城まで連れていったと言うが
海亀の背中につかまれば、
確かにどこかへ連れていってくれそうだ。

No.00217　00.10.24

万華鏡を覗く

赤が、緑が、青が、黄色が
視界の中で多角形にさざめき合う、響き合う。
人の顔、虫の姿、木の葉、松葉、コンパス、結晶、
現れては消え、消えては現れ、
僕のことをワンダーランドへ連れていく。

No.00218　00.10.25

カクテルを作る

友達を呼んでレシピにしたがってカクテルを作る。
これが楽しい。
まずは準備にリキュール類をそろえる。
それからフルーツ。
グラスとシェーカー、メジャーカップ、
ストレーナーにミキシング・グラス
スクイーザーにアイスピック。
ひととおりそろえたら注文を受ける。
うまいかまずいか、それは飲んでのお楽しみ。
カクテルの味が、その場を盛り上げるいいきっかけになる。

No.00219　00.10.26

難しい本を読む

一度読んだくらいでは理解できないような
難しい本を読むのは楽しい。
一度目にはなんか嫌な気分になるかもしれないが、
二度目に読んで意味がわかるととても嬉しい。
二度目に読んでもわからないととても悔しいけど、
三度目に読んで理解できれば嬉しさは倍増する。
一度目に読んでわかった本でも
二度目三度目でもっと理解できるとさらに嬉しい。

でも、四度読まなければ理解できないような本は
きっと読まない。

No.00220　00.10.27

ひさしぶりに着るスーツ

サラリーマンの頃のスーツをひさしぶりに出して着た。
去年の今頃は太っていて着れなかった。
ダイエットして体重を 15kg ほど落としたら
着られるようになった。
新しいスーツを買おうかと思っていたが、
着られるスーツが増えたからいいや。
ダイエットして得したな。

No.00221　00.10.30

幸せな世界をイメージする

きれいな景色がどこまでも続き、
人々は自分の人生に満足し、
働くことが喜びであり、
ときどき起こるアクシデントも井戸端会議の話題になる。
誰かが困ると助けようとする人が集まり、
楽しい人がいると誘い合わせて会いに行き、
知り合いはみんな大好きな人ばかり。
僕の仕事は微笑みながら、素敵な世界を文章にすること。

No.00222　00.10.31

自分の年表を書く

自分が生まれた年に何があったか、
小学校に入ったときに何が起こったか、
大学受験の年に何が流行ったのか、
就職の年にどんな映画が上映されたか、
それらと自分の身の回りに起きたことを年表にする。
記憶の彼方に消えていたことがうっすらと輪郭を持ち、
次第と実質を生み、ついには匂いまでもよみがえらせる。
自分の生きてきた日々が愛しくなってくる。

No.00223　00.11.01

ノルウェイの森

よい文章は読んでいて心地よい。
文章にリズムがあるからだ。
自分の文章のリズムが枯れると
僕はノルウェイの森を読む。
あの小説のリズムが好きだ。
リズムを聞くために適当なページを開き、
目についた文章を読む。
十年も前に読んだので話はもう忘れた。
とにかく、リズムがいいのだ。

No.00224　00.11.02

ゴッホの絵

ゴッホの描く線が好き。
メラメラと炎のよう。
ウネウネと生きているよう。
ゴッホの塗る色が好き。
一度見たら忘れられない黄色。
水面がきらめくような多彩な色。
もし彼が幸せだったら
あの絵は生まれなかったのだろうか。

No.00225　00.11.03

柿を食う

友人から柿をもらった。
最近の柿は種がないのが多い。
しかし、その柿には種があった。
頼もしい。
市販の柿ほど甘くはないが、滋養がある気がした。
友人のうちの庭にある柿の木から取ってくれたのだそうだ。
とても幸せ。
夕日をあびて真っ赤になった柿だった。

No.00226　00.11.06

ぐるぐる回る

子供の頃、ただ面白くてぐるぐる回った。
広い部屋に行くと嬉しくてぐるぐる回った。
きれいな庭に行くとぐるぐる回った。
家族がそろうとぐるぐる回った。
ぐるぐる回って目が回り、
ふらふらになってパタリと倒れた。
すると世界が回っていた。
回っていることがうれしかった。

No.00227　00.11.07

乾杯

大人数で飲むときに乾杯しない訳にはいかない。
「乾杯！」とか「やー！」とか「おー！」とか
なぜ僕はグラスを重ねたがるのだろう？
まず第一に乾杯するとそれだけで笑みがこぼれる。

やはりお酒はニコニコして飲まなきゃな。
第二に僕はふだんひとりで仕事しているから
他人と一緒に何かするのがうれしいのだな。
第三にみんなの声がひとつになるってのがいいな。
でも乾杯のときに「いったい乾杯の何がいいんだ？」
なんて考える奴は嫌いだな。(笑)

No.00228　00.11.08

天使のはしご

天使のはしごは不意にあらわれる。
海原を見下ろしたとき、
どこまでも続く道を走っているとき、
山を見上げたとき、
金色に輝くたんぼを眺めるとき。
はしごの降りる先は明るく輝く。
私の未来を照らしてくれる。

No.00229　00.11.09

けん玉

少し腰を落として、身体のバネを使って、
動きにメリハリをつけて、
載せるときには柔らかいタッチで、
差し込むときには玉の回転をよく見て、
カッと入るととても気持ち良い。

No.00230　00.11.10

大きなのびをする

一日机に座ってじっとしていると
からだが凝り固まってしまう。
筋肉がバリバリと音をたててしまいそう。
そんなときこそ大きなのびをする。
フアーーー
朝顔のツタが伸びていくように手首や腕を回しながら、
ひまわりが太陽を追いかけて首を回すように、
大きな大きなのびをする。

No.00231　00.11.13

ひらめき

メロディーを作るとき、
企画を思いついたとき、
不可能だと思っていたアイデアが浮かんだとき、
文章を書くとき、
友達にしかける楽しい悪戯を思いついたとき、
頭の回線は不思議なつながりかたをする。
いままでに見たことも聞いたこともない何かを
一瞬にして生み出す。
僕って不思議。

No.00232　00.11.14

猫

夜中にジョギングしていると見かける猫がいる。
鳴きまねをするとじっとこっちを見ていた。
昨晩ジョギングの途中で縄跳びをしたら、
寄ってきてそばでじっとしていた。
俺のことを覚えたようだ。

No.00233　00.11.15

双眼鏡

水平線に沿って飛ぶかもめの姿がまぶしい。
谷の向こうの山肌の紅葉の模様がはっきり見える。
ノッポなビルのあいだを走る高速道路の車が見える。
双眼鏡って不思議。
隣のあなたは見えないけれど、
遠くのものほどよく見える。

No.00234　00.11.16

ハワイアン・ソングス

ゆったりと歌われるハワイアン・ソングス。
波の音が似合い、花の香りを思い出す。
明るいウクレレの音とリズムが水平線に沈む夕陽を思わせる。
言葉の響きも懐かしい。
響くように発声するハワイの歌は
聴いているだけでは我慢できない。
つい歌いだしたくなる。
シンプルな美しさは海と太陽のよう。

No.00235　00.11.17

幻惑

きれいな渦巻きを紙に描き、
渦の中心を中心として同じ速度でグルグル回す。
じっとそれを見続けてしばらくしたら、犬の顔のように
立体的なものを凝視する。
誰か人の顔でも良い。
ただし写真のような平面に描かれたものは駄目だ。
立体的で複雑な物の方がよい。
するとその立体物は膨張しているような収縮しているような

不思議な視覚が得られる。
もしこれを気持ちいいと感じることができれば、
あなたはなかなかのものだ。

No.00236　00.11.20

温かいカフェオレ

温かいカフェオレの美味しい季節になってきた。
コーヒーをドリップして、ミルクを温め、
マグカップのなかでまぜる。
ミルクは熱くしすぎないように注意する。
ミルクに膜が張るちょっと手前で火を止めるのが僕の好み。
コーヒーとミルクの混ざるときに
カフェオレの香りが僕を包んでくれる。
マグカップを両手で包み、湯気を眺めながら飲むのがいい。

No.00237　00.11.21

どれほど深く自分が世の中を
意のままに動かそうとしているのかに気づく

僕はまったく利己的である。
世の中のすべてが自分を中心に回ればいいのにと思っている。
僕の考えが世界に拡がり、僕の考えが世界を動かし、
僕の思いが世界に蔓延すればいいのにと思っている。
利己的に生きることは一般的には
いけないことだと言われることが多い。
しかし、自分が生きるためには
利己的な思いがなくては生きていけない。
どんなに利他的に生きようとしても、
その理由は必ず自分に返ってくる。
利己的に生きたことのない人が
利他的に生きることはできないと僕は思う。
利他的であるためには利己的なことが
どんなことかを知らなければならないからだ。
自分が何に感動するかを知らない人は
他人を感動させることはできない。
僕は利己的と利他的の波の上を漂いながら生きていく。
それしか利他的が何かを知る術はない。

No.00238　00.11.22

ホエール・ウォッチング

海面から噴水のように潮が噴き上がれば彼らはそこにいる。
なめらかな黒い肌が、波間から見える。
どんな力がそこに潜んでいるのか想像もできないほど
大きな尾びれが水面を持ち上げる。
命が生み出す奇跡をあらためて実感できる。

No.00239　00.11.23

お休み

Ｚ Ｚ ｚ ｚ ZZzz.....

No.00240　00.11.24

枯れ葉の敷き詰められた道

枯れ葉の舞散る季節だ。
銀杏並木の道には黄色い枯れ葉が
絨毯のようにフカフカしている。
ジョギングをする足に優しい。
風が吹くと波のように流れていく。

No.00241　00.11.27

ラインマーカー

本を読みながら、ポイントとなるところや
いつか引用をしたい部分にラインマーカーで線を引く。
二度読んだ本は二色の線がつく。
三度読んだ本は三色の線がつく。
何度も読めば何色もの線がつく。
図書館から借りた本にはラインマーカーの線を引けない。
引用したいような大切な部分には
ペタペタとポストイットを貼っていく。
ラインマーカーの有難さと気持ち良さを再認識する。

No.00242　00.11.28

こたつとみかん

冬の定番と言えば、こたつ　と　みかん。
こたつのなかに丸まりながら篭の中のみかんを見つめ、
甘くて美味しそうなのを品定め。
皮がふくふくとして甘そうなのを見つけると
布団から手を出し、目標めがけてつかみにかかる。
同時に同じみかんめがけて手を伸ばす家族がいたりすると
そこで静かな戦いの火蓋が切って落とされる。
幸せだよなぁ、こたつとみかん。

No.00243　00.11.29

穴掘り

小学生の頃、近所の友達と庭で穴を掘った。
特に理由はない、ただ穴を掘った。
大きなシャベルで庭のあちこちに穴を掘った。

母が夜になってから洗濯物を取り入れに行くと、
あちこちで穴につまづいた。
なぜだか穴掘りが楽しかった。
たくさん掘った庭で隆くんと豊ちゃんと一緒に
写真を撮ってもらった。

No.00244　00.11.30

バス・フォーム

この前さ、ちょっと高級なホテルに泊まったらさ、
バスルームにバス・フォームが置いてあってさ、使ってみたよ。
バスタブにお湯を張りながら、バス・フォームを入れるとさ、
モコモコモコッて泡がたった。
そのバスに入ると香りが良いし、泡が柔らかいし、
とても気持ちよかったよ。
ほら、外国映画でよく俳優が泡がモコモコのお風呂に
入っているでしょ。
気分はハリウッド・スターだったよ。

No.00245　00.12.01

今世紀最後の月

ついに今世紀最後の月となった。
小学生の頃から 21 世紀には僕は何をしているんだろうと
夢をふくらませていた。
まさか毎日気持ちいいものを書いて読者の皆さんに
発信しているとは夢にも思わなかった。
21 世紀にはどんなことが待っているのだろうか。

No.00246　00.12.04

札束

なんだか笑えてしまう分厚い札束。
ぱらぱらとシャッフルして
ぱたぱたと揺らして
机の上を叩いてみたりする。
ただの紙のはずなのに
ただの紙ではない。
安心と欲望と笑いの源。

No.00247　00.12.05

イルカに見送られる
御蔵島でドルフィン・スウィムをした帰り、
三宅島へと向かう船の上から、イルカたちのジャンプを見た。
船が作る波に沿って泳ぎながら、
何頭ものイルカたちが何度もジャンプした。
まるで僕らを見送っているようだった。

No.00248　00.12.06

ぶらんこ

世界が揺れた。
耳元で風が鳴った。
どこまでも落ちて、
どこまでも上がった。
手を離すと遠くに飛べた。
大人の目で見ると
自分が揺れてて
同じ場所にいる。
そんなことは知っているけど
もう一度、遠くに飛びたい。

No.00249　00.12.07

バックギャモンの夜

バックギャモンは夜に限る。
ウィスキーをちびちびやりながら
相手の戦法をうかがう。
静かな部屋にダイスの音が響く。
ニタリと笑うのは相手か私か。

No.00250　00.12.08

皮ジャン

僕は腕が長く、胸囲が大きく、首が太い。
だから既製の服はまず合わない。
ところが僕の皮ジャンはからだにピッタリ合っている。
採寸して作ってもらったようにだ。
買ってから二十年も立たつ。
いまだにしなやかな肌触りの皮ジャンに包まれている。

No.00251　00.12.11

高層ビルから見下ろす夜景

夜の闇にちりばめられた明かりひとつひとつに
いくつものストーリーが交錯し、流れている。
高い空から見下ろす視線は、絡み合う関係をほどくことはない。
ただその雰囲気を美しきものへと昇華するだけ。
光と光のあいだに、欲望や恨みや怒りがあるのだろうけど
見えてくるのはただ、きれいな光の流れだけ。
苦しかったはずの遠い日々が、
明るく楽しい思い出しか残さないように。

No.00252　00.12.12

ハウィのカメハメハ

ハワイ島の北端、ハウィのまちはずれに
カメハメハ大王の像がある。
ホノルルの旧裁判所の前にある像が有名だが、
ハウィの像がオリジナルだ。
フランスで作り、輸送の途中で船が沈没し、
作りなおしたのがホノルルの像。
後日沈没船から引き上げたのがハウィの像。
ハウィはカメハメハの生誕の地。
ホノルルの像よりたくましくてたのもしい。

No.00253　00.12.13

20 世紀最後の満月

煌々と夜の海に輝く満月。
いつもの満月と変わらないはずだが、
今世紀最後の満月だと思うと
ひときわ明るく輝いているように感じた。

No.00254　00.12.14

ボーリングのストライク

フックの投げ方なんか知らないから、
僕が投げるボールはストレートだけ。
ストレートでストライクを取るためには
レーンの右端からまっすぐと一番ピンに向かって投げる。
でも、真正面から当ててはいけない。
一番ピンが二番ピンを弾くようにボールを当てる。
きれいにレーンからピンが消えるときのなんと気持ちよい音。

No.00255　00.12.15

水滴のダンス

沖縄の久米島に出張で行ったことがある。
目的はポスターの撮影。
久米島からボートで 30 分ほど沖に出たところに
小さな無人島があった。
そこで一日撮影をした。
昼過ぎに曇り始めたので日が射すのを待った。
暇だったので僕は海に入って時を過ごした。
天候は崩れ雨がポツリポツリと降り始めた。
そのとき、肩まで海につかっていたが、
海に雨滴がはじけ始めた。
その様子を見ようと思い、鼻まで海につかり
水平線の方向に視線を移すと雨滴が海にはじけて
葱坊主のような形になっていた。
雨滴が海に当たるとその反動で
海水が葱坊主のような形で跳ね返る。
その様が面白くてしばらく見ていた。
雨は次第に強くなり、
だんだんと海面にはえる葱坊主が増えてきた。
かなり雨が強くなると
目の前の葱坊主たちはいっせいに踊り始めた。
同じ形の葱坊主があちらでもこちらでも次々と
生まれては消えていった。
その様はまるでアニメーションを見ているかのように
葱坊主の形をした水滴のダンスになった。

No.00256　00.12.18

流れ星を見つける

乾燥した寒い冬空を見上げ、
星の輝きを楽しんでいると、
一瞬だけきらめく流れ星が、
視界のなかを走り抜ける。
大気圏を突き抜ける星屑が、
新たな夢をくれる。

No.00257　00.12.19

共感

僕の書いた本を読んだ人に
「あなたの本を読みました、面白かったです」
と言われると、つい反射的に
「ありがとうございます」
と答えてしまう。
特に初対面の人が相手だとそうだ。
でも、そう言った後で、
自分が表現したかったこととのあいだに齟齬を感じる。
確かに本を買ってもらえれば
印税が入るのでありがたいことはありがたいのだが、
印税をもらうために本を書くのではない。
本には自分の考えや思いを書く。
読者がもし共感してくれるのならそれは嬉しいことだ。
でも、それにへりくだって感謝する必要はない。
共感してくれた読者はいわば僕の考えや思いの共有者、
同士といってもいいだろう。
そう、そういう人とは握手するのがいいだろう。
「ありがとうございます」では共感にならない。

No.00258　00.12.20

ブサキ寺院での礼拝

バリの民族衣装で身を包み、ウダンを冠り花をさす。
こめかみと眉間にお米をつけ、正座した膝の前に供物と線香。
頭から聖水をかけてもらい、手のひらにも聖水をいただく。
三三九度のように飲んだら
両手のひらに花をはさんでお祈りする。
一度はその場の神様に、
一度は家族の神様に、
一度は宇宙の神様に。
私がバリを受け入れ、バリが私を受け入れた瞬間。

No.00259　00.12.21

白くなる息

寒い日の朝、息を吐くと白くなる。
寒い、寒いとはしゃぎながら
その寒さを楽しんでいる。
そう言えば、「冷凍光線！」なんて
叫びながら遊んでいたなぁ。

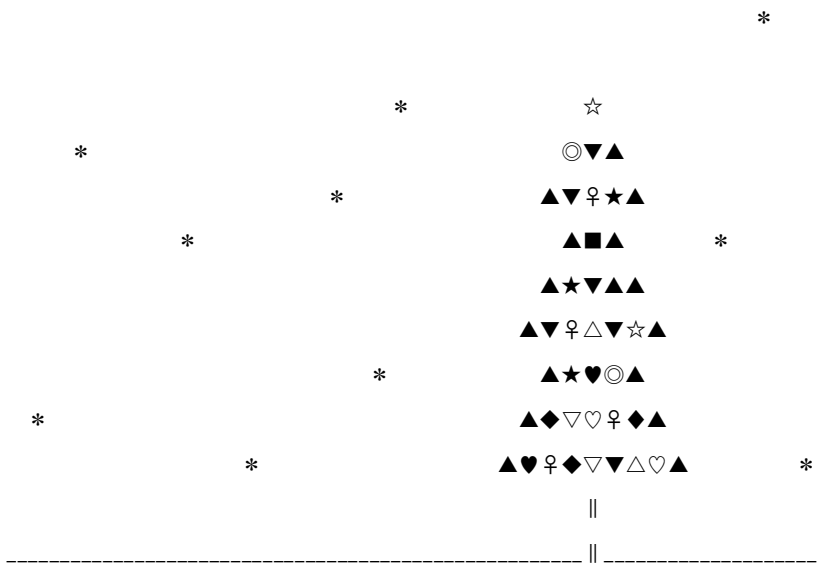
No.00260　00.12.22

秋川高校の彩雲

日本ではじめて彩雲を見た。
三宅島の人たちが今どうしているかを
取材するために秋川高校へ行ったときだ。
その日はボランティアの人たちが
三宅島の人たちのために縁日をしていた。
わたあめ、クレープ、ラーメン、おしるこなどの出店や、
シャボン玉作り、飛行機作り、腕相撲、福引きなどの
アトラクションがおこなわれていた。
その様子をカメラにおさめ、ふと空を見ると
見事な彩雲が出ていた。
雲が虹の色に輝くのである。
彩雲はその昔、年号を変えるほどの吉兆だったという。

No.00261　00.12.24

I wish you a Merry Christmas.



No.00262　00.12.25

雪の降る音

風もなく雪が降る夜には雪が積もる音が聞こえる。
サササ、とか、カサカサカサと聞こえてくる。
銀世界に包まれる翌朝が楽しみ。

No.00263　00.12.26

石神井公園の氷の音

中学生の頃、冬のうんと寒い朝によくサイクリングをした。
行く先の一つは石神井公園だった。
公園の大きな池は凍り、水面に小石を投げると
池全体に張った氷がピンピンと音を響かせた。
池の氷を少し割って湖面上に滑らすように投げると
カラカラカラと良い音がした。
手袋をしても、厚い靴下をはいても、
しもやけができるほど寒かったけど
その音を聞くために何度も行った。

No.00264　00.12.27

ワインの栓を抜く

栓抜きをコルクにねじ込みゆっくりと奥まで差し込む。
じっくりと回しながら栓抜きを引き、
コルクも回り始めるのを確かめる。
キューッと鳴き始めるコルクを
引きちぎらないように注意して、
油断せずに回し続けるとポンッという音とともに
ワインの香りが漂い始める。

No.00265　00.12.28

多重録音のコーラス

僕が大学生の頃、アルバイトで稼いだお金は
ほとんどすべてシンセサイザーと多重録音用の
テープレコーダーにつぎ込んだ。
当時は多重録音用のテープレコーダーは非常に高価で、
趣味で買う人なんてほとんどいなかった。
それを向こう見ずにも買ってしまった。
しかし、おかげでいろんなことができた。
友人の劇団にミュージカルの音楽を作ったり、
自分一人の声だけで十数声のコーラスを録音したりもした。
コーラスの出来上がりをミキシングすると
自分の声が何十も一度に聞こえる。
しかもそれがハーモニーを作ったりリズムを刻んだりする。
コーラスで「アーウッ」と言うだけで感動できた。
夢中になって録音していると時間も食事も忘れて
いつのまにか深夜になっていた。

No.00266　00.12.29

20 世紀最後の・・・

年末になり「20 世紀最後の・・・」
というセリフをよく耳にする。
普段の年末と実質的には大差ないのだが、
やはり「そうかぁ」と思ってしまう。
今世紀とはもうすぐさよなら。
来年は新しい世紀、しかも新千年紀である。
世紀をまたぐのも珍しいが、
千年紀をまたぐのはもっと珍しい。
「日刊　気持ちいいもの」もこの号が 20 世紀最後の号です。
ではまた来年、来世紀、来千年紀に。

No.00267　01.01.01

謹　賀　新　千　年　紀

以下は前世紀の気持ちいいものです。
仲の良い人からの「おはよう」　挽きたて入れたてのコーヒーの香り　秋に香る金木犀　朝焼けの空を眺める　使い込んだシステム手帳　友達からの手紙　どこからか漂うたき火の香り　紅葉に色づく山々に叫んでみる　静かな森に一人たたずむ　せせらぎに耳を傾ける　枯葉をたくさん両手でつかんで高く投げ上げる　出勤前の朝風呂青空を背景に揺れる背の高い椰子の木の葉　肩にもたれて眠る恋人の温もり　飛び上がるほどの喜びに、思わずするハグ　朝食の、ご飯と味噌汁の香り　書き味の良いペンで書く文章　窓ガラスから差し込む冬の日差し　茶室のそばで響く、水琴窟　子供の笑い声　あてのない寄り道　パーティーを開く　疲れるまで泳ぐ　落ち葉のゆくえを見つめる　霜柱を踏んでみる　使いなれた辞書を引く　用もないのに電話する　並木に飾り付けられた電飾　薪を燃やす暖炉　シャンパンの栓を抜く音　ちょっと贅沢をした最愛の人へのプレゼント　贈る言葉　2000 年　柏手の音　見渡す限り地平線の大地に立つ　ジョギング　水に広がる波紋　スマッジの香り　イルカと泳ぐ　なわとび　犬と散歩　思いっきり投げる雪玉　コンピューターのキーボード　だるま浮き雪景色　つらら　満員電車から降りた瞬間　子象と挨拶　開けてみたプレゼントの箱　見知らぬ人との間で見つけた話の接点　コンピューターにうまくインストールできたソフト　ミツコの香り　レコードの音　気持ちいいものを思いつく瞬間　スキーでコブをジャンプ　にらめっこ　寒い場所であおるウィスキー　船旅　ラブレター付きチョコレート　ポイプ・ビーチの朝焼け　雨のにおい　マイアミのダブ

ル・レインボー　デジャリドューを吹く　朝日に輝く霜の降りた芝生　昼間に景色を眺めながら入る温泉　キャンプ・ファイヤー　自転車通学　肉球　アラン・セーター　書き上げた原稿　盛況のパーティー　祝電　朝の冷たい空気　ブラスバンドの演奏　ビーフシチューを作る　大きな岩を抱きかかえる　プールから見下ろす草原　遠足で頬張るおにぎり　山菜の天ぷら　肩車　たて笛　お香をたく　デッサン　新芽をつけた枝　ジッポーを点ける　飛び魚の飛翔　シンセサイザーで音を作る　馬飛び　暖房なしで過ごす　バーベキュー・パーティー　ストレートのモルト・ウィスキー　掃除　イプの音　桜の咲き始めた木を見つける　薄着になる　カメラを抱えて外出する　青空の下でソフトクリームをなめる　目覚まし時計が鳴っても無視して寝る　桜吹雪　カウンターの桁が上がる　祈り　響き合う声　空想　言葉の羽　鷲　シグナル　ホロン　言葉のピカソ　甘い風　朝日に輝く若葉　カレンの歌声　アイルランドの青空　ガムランの響き　呼吸のリズム　鳥笛に応える小鳥たちの歌　フラミンゴで埋め尽くされたボゴリア湖　つつじの季節　びわのジュース　歯磨き　瞑想　あくび　ジャンベを叩く　ネクタイをゆるめる　車の窓を開けて走る　Ｔシャツと半ズボンで寝る　鳥の鳴き声で起きる朝　ジェゴグの響き　本に囲まれる　水平線から昇る太陽　海にできる光の道　カラスの鳴き声　御蔵島の水を飲む　新しい靴を買う　イルカと一緒にでんぐりがえし　杉の葉の先にとまった水　分杭峠　変形した夕日　月に照らされてできる影　河原でやるボディローグ　デジタルカメラの撮影　たわわになる枇杷の実　半身浴　水うち　芝生の香り　どっと布団に倒れ込む　滝の音　木漏れ日のなかのお地蔵様　雨上がりの匂い　つまったスケジュールを完璧にこなす　居眠り　風に触る　朝に嗅ぐ緑の香り　パイナップルの香り　ステンドグラスの光　靄にかすむ雑木林　友達とのおしゃべり　ジョギングのあとに飲む水　バリの沐浴　記念切手を使う　インディアン・フルートを吹く　プールに飛び込む　暑い日の噴水　黄色い満月　EYE TO EYE 〜 Frans Lanting の写真集　香りのよい石鹸　長谷村に飛ぶトンボ　銃を撃つ　クリスタル・ボウルの響き　木漏れ日　青空　喜風仏　西瓜　たんぼを眺める　葉巻を吸うケニアで星空を見上げる　空腹　考える　桃にかぶりつく　風呂上がりに冷えたビール　丁寧に書いた文字　オレンジを絞って飲む　さぼる　挑む　波打ち際を歩く　フィンで泳ぐ　じっと文章を書く　ケルト音楽　早朝の風　観覧車から眺める景色　スケジュールをたてる　高層ビルから眺める夜景　砂時計　秋風に吹かれる　ミント・ジュレップ　花の名前を教わる　懐かしい友人との再会　虫の声　シャッターの音　夜中のラーメン　水の反射　200 回　長袖シャツ　益子のダブル・レインボー　夕日に輝く高層ビル　ダイヤモンド・ダスト　猫の鳴きまね　メンコ　ウクレレ　たんぼの上に飛ぶトンボ　五十鈴の音　靴を磨く　虹に包まれた月　夜間飛行の窓から眺める流れ星　石舞台古墳　何年もかけて守った約束　ゆらぎ　ゆっくり泳ぐ海亀　万華鏡を覗く　カクテルを作る　難しい本を読む　ひさしぶりに着るスーツ　幸せな世界をイメージする　自分の年表を書く　ノルウェイの森　ゴッホの絵　柿を食う　ぐるぐる回る　乾杯　天使のはしご　けん玉　大きなのびをする　ひらめき　猫　双眼鏡　ハワイアン・ソングス　幻惑　温かいカフェオレ　どれほど深く自分が世の中を意のままに動かそうとしているのかに気づく　ホエール・ウォッチング　お休み　枯れ葉の敷き詰められた道　ラインマーカー　こたつとみかん　穴掘り　バス・フォーム　今世紀最後の月　札束　イルカに見送られる　ぶらんこ　バックギャモンの夜　皮ジャン　高層ビルから見下ろす夜景　ハウィのカメハメハ　20 世紀最後の満月　ボーリングのストライク　水滴のダンス　流れ星を見つける　共感　ブサキ寺院での礼拝　白くなる息　秋川高校の彩雲　I wish you a Merry Christmas.　雪の降る音　石神井公園の氷の音　ワインの栓を抜く　多重録音のコーラス　20 世紀最後の・・・

今千年紀も「日刊　気持ちいいもの」をお楽しみに。

通常の発行は 1 月 8 日からおこないます。

No.00268　01.01.08

凧上げ

幼い頃、親父に遊んでもらった覚えはほとんどないが、
凧上げだけは親父に教わった。
尻尾の付け方、
上げるときに音が出るように紙を付ける付け方、
そして、上げ方。
親父と一緒でないとなかなか凧は上がらなかった。
凧を逆さまにして芝生の上を引きずった。

No.00269　01.01.09

雪の上を歩く

さくさく音を鳴らしながら雪の上を歩く。
足跡が僕の後ろにできていく。
真っ白な雪の上に足跡をつけるのは楽しい。
まだ誰も歩いてない場所を探す。

No.00270　01.01.10

ガラムを吸う

吸い口は甘いのだが、実際に吸うとパチパチと丁子がはじけ
華やかな香りに包まれる。

口元に残る感覚は、いくら吸っても母乳のでない乳房。
きらびやかな夢に包まれ感覚は風に流れていく。

No.00271　01.01.11

グレンモーレンジを飲む

ウィスキーというと琥珀色を思い浮かべるが
グレンモーレンジは薄い黄色、いや黄金色だ。
匂いはほのかに甘く、遠くに蜂蜜が香っているようだ。
お米を発酵させて日本酒の甘みを出すように、
麦を発酵させて甘みを出すと
こんな風になるのかと驚かされる。
マッカランにも同じような甘さを感じるが、
あちらはバランスよく味の奥にしまわれている。
こちらは口に含んだ途端、華やかなラッパの音を聞くようだ。
ウィスキーの大吟醸を飲んでいるみたい。

No.00272　01.01.12

サウナに入る

百度以上の高温のサウナに入るのが好きだ。
入ってすぐに時計を見る。
場所によっては砂時計をひっくり返す。
二、三分すると汗が玉になる。
五分ほどすると汗が流れ出す。
十分たつと暑くて我慢ができなくなる。
サウナからでると水風呂にはいる。
この瞬間が最高だ。
普段なら冷たくて入りたくないような水風呂が
極楽浄土となる。
水風呂でからだを冷やしたら、次のラウンド。
極楽浄土を味わうために灼熱地獄へ入ってく。

No.00273　01.01.16

ひさしぶりの徹夜

昨晩は原稿が間に合わなくてひさしぶりに徹夜した。
そんな訳で「日刊　気持ちいいもの」を勝手に休んでしまった。
正確に言うと、てっきり忘れていた。
ごめんなさい。
しかし、徹夜した割には元気である。
それがうれしい。
前回徹夜した際には、夜にはヘロヘロだった。

No.00274　01.01.17

バスタオルでフワフワ

幼い頃､風呂から上がるとたいてい母がからだを拭いてくれた。
ところが時々、父が拭いてくれたときがあった。
バスタオルを持った父は私のからだを一通り拭くと
またの下にバスタオルを通し、
持ち上げて私をフワフワと宙に浮かせた。
馬に乗るように裸の私はバスタオルに乗せられた。
キャッキャとはしゃいだ。
なんであんなことをしたんだろう？
父も幼い頃に祖父にしてもらっていたのだろうか？

No.00275　01.01.18

チャナン

バリ島に行くとあちこちで見かけるお供物。
バナナの葉を四角く編み、花やお米やココナツを載せ、
線香に火を点けて置く。
民家の門の前やタクシーのダッシュボード、
商店の入り口などに置かれている。
ゆっくりと流れる線香の煙を眺めていると
普段の生活に置き忘れてきたものを思い出す。

No.00276　01.01.19

大声で笑う

もともと声が大きいので、笑うとうるさい。
しかし、大声で笑うのは気持ちいい。
他人の迷惑なんて考えない。
僕が笑ってうるさいなんて考える奴は、僕の味方ではない。
味方ではない奴が何を思おうが、そんなこたぁ知らん。
僕の味方は僕が笑うとつられて笑う。
そういう奴とだけ仲良くすればいい。
ガッハッハ。

No.00277　01.01.22

からだの力を抜く

何かがうまくいかなかったり、緊張したり、
イライラしたときには、からだの力を抜く。
どこかに必ず余計な力が入っているはず。
心が緊張していると、からだもどこか緊張している。
首やら肩やら背中やら足やら腕やら顎やら眉間やら
爪先やら手やら腕やらふくらはぎやらお尻やら
あちこちの筋肉の緊張を感じてゆるめていく。
心もゆるむ。

ふー。

No.00278　01.01.23

ホテルに一泊

用もないのにホテルに一泊。
たまには現実から離れるのもいい。
景色のよい窓。
ポプリのサービス。
暗めの照明。
きれいな絨毯。
バスルームでアメニティグッズを確かめる。
部屋を充分堪能したら
おしゃれをしてディナーへ行こう。

No.00279　01.01.24

ボトルカンの飲み心地

最近のビールはボトルカンが流行っている。
いっぺんに飲まなくてもふたをして置いておける。
ふたは中身を密閉するのでビールの炭酸が抜けない。
便利で良い。
しかも、飲み心地が面白い。
缶ビールは飲みながら空気が缶から抜けていくが
ボトルカンはまるでビール瓶をラッパ飲みしているようだ。
口でボトルカンを密閉してゴキュゴキュ飲む。
ビールのラッパ飲みなんてめったにしない。
コロナビールを飲むときくらいだ。
でも、ビールのラッパ飲みって実は爽快だ。
水のような炭酸の入っていない液体をラッパ飲みで飲むと
瓶のなかの空気圧が下がりすぎて
時々空気を入れなければならない。
しかしビールは炭酸が発生するから空気圧が多少下がっても
飲み続けることができる。
この感覚が面白い。
飲み口から口を離すときに炭酸がパッと出る。

No.00280　01.01.25

貯水タンクの上

以前住んでいたマンションの屋上に貯水タンクがあった。
築二十年もたつマンションだから水道の水はまずかった。
きっと水道管の内側は錆だらけで
貯水タンクの中にはひょっとしたら
ネズミや鳩の死骸があるんじゃないかと思っていた。
よく晴れた日に屋上に出て、
金網に囲まれた貯水タンクによじ登った。
死骸が入った空飛ぶ円盤のような形の貯水タンクに腰掛けて
静かな街を眺めてた。
夢も希望もあるのかないのかわからない
そんな日々のまっただ中で。

No.00281　01.01.26

チェイサー

ストレートのウィスキーをくっとあおり、
舌で転がし味を楽しむ。
もろみのような麦の味、シェリー樽の香り、
潮の味、蜜の味、焦げた味、
馥郁たる香りが鼻を抜けると口の中には緊張が残る。
そこにチェイサーを流し込む。
複雑な味の間に隠れていたほのかな甘みが
口のリラックスとともに見えてくる。

No.00282　01.01.29

雪の翌朝

写真を撮るのにいい時間がある。
早朝と夕方だ。
私は特に早朝が好きだ。
人がいない。
そして、静かだ。
雪の翌朝はなんとしてもカメラを手に外出したい。
畑の表面には動かない白い波。
畑に積まれたたい肥は雪を解かし湯気をたてる。
道には車も少ない。
ただまっすぐの道に冷たい霧が黙っている。
やわらかな朝日が雪に反射する。
冷たい霧に光の直線が映し出される。
見慣れた景色が魔法をかけられたように輝く。

No.00283　01.01.30

コリンズ・フィールド・ガイド

ケニアに取材で行ったとき、動物や鳥の生態を知りたくて
コリンズ・フィールド・ガイドという本を買った。
一冊は哺乳類、一冊は鳥の本だった。
長い間書棚に眠っていたが、本の整理をしていて見つけた。
本を開くと懐かしい動物や鳥の絵が飛び出してきた。
つい書棚の整理を忘れて読みふける。

動物や鳥の生態が詳しく書かれている。
何を食べるか。どこでどのように排泄するのか。
一日はどのように過ごすのか。何に食べられてしまうのか。
僕の頭の中はもう一度ケニアに飛んだ。

No.00284　01.01.31

バオバブの木

見たことがあるかい、バオバブの木。
まるで太い木が逆立ちして根っこを空に延ばしているようだ。
アフリカの木はみんなバオバブにあこがれ、
バオバブになろうとしてなれなかったのだとか。
そばによったら触ってごらん。
象の足のように頼れる幹に。

No.00285　01.02.01

アディパティ

バリ島へ行くのに成田空港の免税ストアで
グレンフィディックを買った。
ホテルに着いてさっそく飲む。
うまい。
オール・モルトのスコッチを飲んだら葉巻が吸いたくなる。
しかし、バリ島に葉巻は期待できない。
ハワイで買った葉巻はまずかった。
バリ島でも似たようなものだろう。
翌日、よろず屋のような店に入った。
声をかけても店員が出てこない、そんな店だ。
煙草の古ぼけたショーケースに
クレティック煙草と一緒に葉巻が置いてあった。
「ADIPATI」と書かれている。
絶対まずいと思った。
湿度の調節もしてない。
でも安かった。
あまりにも安いので買ってしまった。
吸おうとして、「やっぱりまずいんだろうなぁ」と思った。
安物の証拠として、すでに吸い口が切られていた。
高級品は自分で吸い口を切るものである。
でも火を点けた。
笑った。
悪くない。
その値段にしてはうまい。
グレンフィディックとの相性も悪くない。
帰りの空港で買い込んで帰った。

No.00286　01.02.02

インセンス

朝、玄関先でお香をたく。
お香というと宗教的なのでインセンスと呼ぼう。
玄関先の花壇に火を点けたインセンスを刺す。
玄関の戸を少しだけ開けておく。
部屋の中でインセンスをたくと香りが強すぎてしまうが、
玄関の戸の透き間から少しだけ香るインセンスはいい。

No.00287　01.02.05

出版パーティー

中野民夫さんが岩波新書から本を出した。
「ワークショップ」という本だ。
その本でヒーリング・ライティングを紹介していただいたので
お礼を言いに出版パーティーに行って来た。
いろんな方にいっぺんに会えてとっても楽しかった。
まず会場に入ると一番で中野さんに挨拶できた。
しばらくして星川 淳さんを見つけてお話しした。
上田 紀行さんとはヒーリング・ライティングについて
お話しした。
翻訳家の大野純一さんにはじめてお会いした。
ケン・ウィルバーの「万物の歴史」という
難しい本を訳した方だ。
マクロビオティックの食養塾をしている橋本ちあきさんに
四年ぶりくらいにお目にかかった。
ご主人の宙八さんは今回初めて紹介していただいた。
曹洞宗で出家し、ビルマのテーラバーダーの僧侶として
ヴィッパサナ瞑想を修行した井上ウィマラさんとも
親しくお話ができた。
僕のシュノーケリングの師匠、Big Blue の松元さんにも会った。
楽しかったなぁ。

No.00288　01.02.06

人生の意味

昨日、主婦の友社へ行った。
仕事の打ち合わせだ。
行きの地下鉄の中吊りに
「人生の意味」という本の広告が出ていた。
フーンと思った。
主婦の友社で打ち合わせをしたあと、
玄関前のショーケースを覗いたら
「人生の意味」が置いてあった。
主婦の友社から発刊されていたのだ。

ちょっと気になりだした。
お茶の水の丸善に行ったら、
すぐに「人生の意味」が目に飛び込んだ。
アララと思った。
買おうかどうしようかと思っていたら、
高校のブラスバンドの先輩にばったり会った。
お茶でもしようと誘われたので
「人生の意味」を買って喫茶店に行った。
ずっと行方不明だったある先輩が
プロのトロンボーン奏者になっていると教えてもらった。
高校生の頃からその先輩がどんな人になるのか、
みんな心配していた。
早稲田の第二文学部に行き、早稲田のオーケストラに入り、
何を職業にするのか、高校のブラスバンドのメンバーたちは
心配していたのだ。
不器用でまっすぐにしかものを考えない先輩だった。
でも、いい人生を送っているようだ。
自分の人生をまっしぐらに生きている。

No.00289　01.02.07

シンクロニシティ

ひさしぶりにシンクロニシティが連発している。
週に一、二度は起こるのだが、
ほとんど毎日のように起こるのはひさしぶりだ。
「胎内記憶」を出した頃以来かな。
このシンクロニシティは僕をどこに連れていってくれるのか。

No.00290　01.02.08

デジャヴュ

僕の小学校には大きな銀杏の木があった。
校舎の工事で銀杏の木の脇に土が盛られていたことがあった。
休み時間に盛られた土の山を
駆け登ったり降りたりしていたとき、その感覚はやってきた。
「この場面、前に見たことがある」
当時はなぜそんなことが起きるのかわからず
デジャヴュという言葉も知らず、
いったい僕はどうしたんだろうと不思議だった。
中学生の頃にデジャヴュという言葉に出会う。
僕がたまに体験することがまさにそれだと知った。
高校生になった頃からデジャヴュの質が変わった。
夢の中ではひどい目に会うのだが、
その後に体験する夢と同じシーンは
はじめは同じだが終わりはハッピーエンドか
少なくともひどい目には会わなかった。
ある人にそのことを話したら、
夢の中で最悪の事態をシミュレーションして
回避しているんだねと言われた。

No.00291　01.02.09

雲の笑顔

昨晩、いつものようにジョギングし、公園で縄跳びをした。
いつものように前を向いてただ淡々と縄跳びをしていたが、
ふと空を見上げた。
雲が多かったが月は出たり隠れたりしていた。
目の前には大きな雲があった。
正直言って最初はギョッとした。
雲に顔が浮かび上がっていた。
目に、鼻に、口がある。
点が三つあると顔に見えると言うが、そんなものではない。
目の形も、鼻の形も、口の形もはっきりしている。
しかも、目と口が明らかに笑っているように見えるのだ。
小学生の頃、不思議な話が好きで、よくその手の本を読んだ。
そんな本の中に雲に浮かび上がったキリストの写真があった。
その写真も見事に雲が
キリストの輪郭を浮かび上がらせていたが
僕の見た笑顔もはっきりしていた。
西洋の男性の顔だった。
カメラを持っていないことが悔やまれた。
でも、もし持っていたとしても
暗くて撮影はできなかったかもしれない。
あまりにも見事なので縄跳びをしながら笑ってしまった。
しばらくすると風で流され消えていった。

No.00292　01.02.12

聖徳太子の本

昨日、本を整理していたら
「日本の名著」第二巻聖徳太子が出てきた。
「勝まん経義疏」「維摩経義疏」「法華義疏」が
収録されている。
昔、三経義疏として歴史で習った。
どんなものかいつか読んでみたいなぁと思っていたが
ずっと忘れていた。
親父の本のあいだから出てきた。
いい機会なので読んでみよう。

No.00293　01.02.13

兄貴の夏休みの宿題

昔、親父は編集者で、谷崎潤一郎を担当していた。
書棚を整理していたら谷崎潤一郎のサイン入りの本が
何冊か出てきた。
そこには親父が大事にしていた本を
しまってあったらしいのだが、
一冊だけペラペラで変なノートが出てきた。
「なつやすみのとも」と書かれている。
兄貴の小学一年生のときの夏休みの宿題だった。
みかんの数をかぞえろとか、絵日記を書けとか、
動物の名前を書けとか、小学一年生向けの問題に
恐らく兄貴が書いたつたない文字が並び、
赤い丸やばってんがついていた。
谷崎潤一郎のサイン本と同じくらい大切だったのか
と思ったらうれしかった。

No.00294　01.02.14

イルカの秘密

ヒーリング・ライティングの受講生で詩人の河合利枝さんが
思潮社から詩集をお出しになった。
タイトルは「イルカの秘密」。
許可を得たので、その詩集の最後にある
タイトルにもなっている詩「イルカの秘密」を
ここにご紹介しよう。

イルカの秘密

　誰の眼も届かない
　ずうっとずうっと遠い

　沖の海で
　イルカが　ジャンプ

　もう一度　ジャンプ
　ジャンプ

　どうしたんだろう
　あのイルカ

　何を夢見ているんだろう
　昨日　潜った
　あの一瞬を思い出して

　何度も何度も
　試して飛んでいる

　空中で？
　海の中で？

　それとも
　両方を抜け出る時に？

　イルカは
　自分でない者になった

　その感覚は
　何とも言えなくて

　あの一瞬に
　もう一度出会うために

　今日も　一心に
　貯めた力で

　ジャンプ　ジャンプ
　飛沫を上げて

僕のホームページの表紙になっていた写真を見て
この詩を作ったそうだ。
その写真は「フロントページ・フォト」で見ることができる。
あの写真を見てこんな詩ができたなんて、うれしい。

No.00295　01.02.15

生チョコ

生チョコは口どけの感じがいい。
舌で押すとニュワッと解ける。
解けると同時にホロ苦い味が口に広がる。
ヌマヌマっとした感触が口蓋と舌の間に漂う。
生チョコの美味しさは味の美味しさとともに
この感覚のエロティックさにある。

ところで生チョコって、何が「生」なんだろう？

No.00296　01.02.16

ボーラン

海外に行くと、その国の楽器を何か買ってくる。
アイルランドではボーランという打楽器を買ってきた。
山羊の皮を張った大きなタンバリンのような楽器だ。
ボーランは速いリズムを刻むのでなかなかうまく叩けない。
ようやく最近になってそれらしくなってきた。
タカ　タカ　タカ　タカ　タカ　タカ　タカ　タカ
タララタカ　タカ　タカ　タカ　タカ　タカ　タカ
タララタカ　タララタカ　タララタカ　タカ　タカ
タララタカ　タカ　タカ　タララタカ　タン
叩いていると心がウキウキする。

No.00297　01.02.19

布団でツー

小学生の頃、風邪で学校を休むと一日布団で寝ていた。
すると母が掃除のために私の寝ている布団の端を持って
ツーっと引っ張っていく。
この感覚がとっても好きだった。
何もしないのに移動していく感覚。
車に乗るのが好きなのも、似た感覚が欲しいからかな？

No.00298　01.02.20

廃材のリサイクル

庭に打ち捨てられていた板切れをトイレの飾り棚にした。
香炉と喜風仏と翡翠の珠を飾った。
毎朝香炉でお香を焚くのでトイレはいい香りだ。
汚いだけだった板切れは、いまいい味を出している。

No.00299　01.02.21

曼陀羅

何かの本で魔法陣と表計算ソフトとを較べていた。
どこかひとつが変わるとそれに対応して
変わるべきところが変わる。
それを読みながら僕は曼陀羅を思い出した。
曼陀羅も配置がひとつ変わるとすべてが変わり、
見ている空間すらも別の名前になってしまう。
深い智恵を悟らせるものには、
関係性を深く洞察させる仕組みが必要なのだろう。
部屋の入り口に張ってある曼陀羅で僕は何を悟るのか。

No.00300　01.02.22

ソーン・ツリー・カフェ

ケニアの首都ナイロビにニュー・スタンレー・ホテルがある。
その一階にソーン・ツリー・カフェがある。
ケニアには様々な種類のアカシアがあるのだが、
そのカフェにはソーン・ツリーと呼ばれる
アカシアの木がはえている。
そのアカシアのまわりには伝言板が立てられ、
ヘミングウェイも使ったとか。
ヘミングウェイは僕が生まれる数カ月前に死んだが、
ソーン・ツリー・カフェの伝言板の前に立ったとき、
なんかうれしく感じた。
ヘミングウェイと同じものを見られたのかと。

No.00301　01.02.23

鍋パーティー

友達を呼んで鍋物を作る。
ワイワイガヤガヤ言いながら、
どんな味になるのかみんなでトライ。
できあがった鍋の味は旨くても、たいしたことなくても
みんなの思いが溶け込んでいる。
それが一番の調味料。

No.00302　01.02.26

鈑崎に飛ぶカモメ

朝、雨戸を開けると、鈑崎の上空にカモメが舞っていた。
風に乗り、右へ左へと揺れながら、艶やかな姿を披露していた。
彼らはとても自由に風と戯れているように見える。
でも実際には
「なんで俺の思うとおりに風は吹かないのかなぁ」
なんて思っているかも。

No.00303　01.02.27

植木鉢をひなたに出す

ここのところ寒い日が続いているが
植木鉢には春の花が咲き始めている。
今日は日が射していたので
植木鉢をひなたに出した。
日の光に照らされて花や葉が輝いていた。

No.00304　01.02.28

絨毯の洗濯

書斎の奥から絨毯が出てきた。
十何年も放置されていたので
ほこりやらカビやらがモコモコしてる。
布団たたきで叩いたがらちが明かない。
風呂場に持ち込み洗濯した。
洗剤はビオレU。
汚れているところにビオレをかけて
たわしでゴシゴシ　ゴシゴシゴシ
シャワーで石鹸を洗い流す。
仕上げはたたんで足で踏んでしぼる。
物干しに干して一丁上がり。

No.00305　01.03.01

レタリング

僕が中学生の頃、兄がレタリングの本を持っていた。
レタリングとは文字をきれいに書き込むことをいう。
レタリングの本は
いろんな字体を書くための手引き書だ。
ページをめくると、きれいに装飾されたアルファベットが
ずらっと並んでいた。
僕はそこから好きな字体を探し、
自分の名前をその字体で書いたりした。
壁新聞を作るのにも利用した。
中世ヨーロッパの写本を見ると、
一生懸命レタリングしていた頃を思い出す。
前世でも似たことをしていたのかなぁ。

No.00306　01.03.02

サンフランシスコの坂道

サンフランシスコは起伏に富んでいる。
アメリカ映画の舞台によくなる。
一度行って街の雰囲気をつかむと
映画に出てきたときすぐにわかる。
チャインタウンで食事した。
高層ビルの高級レストランでも食事した。
バナナリパブリックで買い物した。
ある坂道の途中の雑貨屋でワインとつまみを買った。
人通りがまばらで居心地が良かった。
またいつか行きたい。

No.00307　01.03.05

部屋の模様替え

不必要なモノを処分して、部屋を広くした。
三年分の掃除をし、
しまってあった絵や楽器を飾ってみる。
すべてのものを使いやすく配置する。
居心地の良い部屋になりました。

No.00308　01.03.06

ケルズの書

それはアイルランドの首都ダブリンにある
トリニティ・カレッジ内に展示されている。
七世紀頃に書かれたという聖書の写本だ。
そこには天使や動物、文字などが緻密に錯綜し、
じっと見ているとめまいを起こしそうになる。
このころの写本は普通羊皮紙に書かれるのだが、

ケルズの書は牛の胎児の皮に書かれたとか。
複雑に絡まる模様を見つめていると
永遠の命の編み目にからめ取られそうな気分になる。

No.00309　01.03.07

キャンドルで入浴

お風呂の蛍光灯が切れてしまった。
どうしようかと思ったのだが
装飾用のキャンドルが何本かあったのでお風呂で灯した。
蛍光灯よりずっと暗いけど、湯煙の中でぼうっと明かり、
湯船の水面にゆらゆら反射する。
リッチな気分でお湯につかった。

No.00310　01.03.08

座布団を枕に畳で昼寝

暖かくなってきた。
座布団を枕にして畳の上で昼寝する。
天井の木目を眺めながらいつしか夢の世界へ。

No.00311　01.03.09

ベビーパウダーの香り

ウェットスーツを借りたとき、小さめで困っていたら
内側にベビーパウダーをつけると着やすくなると言われ
その通りにした。
するっと着ることができた。
そのときのベビーパウダーの香りがとても懐かしかった。
いったい僕はいくつの頃までベビーパウダーを
つけてもらっていたのだろう。
幼稚園前後までだろうか。
お風呂上がりに脇の下や股の間に
つけてもらったのを覚えている。
それって僕がいくつの時なんだろう？

No.00312　01.03.12

お香の思い出

このところ毎朝インセンス(お香)を焚く。
以前から好きだったのだが、
部屋の模様替えをしてからは毎日になった。
寝室からベッドとソファを出し、
テレビと棚以外何もない部屋にした。
僕は小さな香炉を持っている。
小さな香炉でお香を焚きながら、
ある日ふと大きな香炉のことを思い出した。
父が持っていた。
僕が小学生の頃、書斎で焚いていた。
父の書斎は本の山でかび臭かった。
そこで日本製の高級そうなお香を焚いていた。
本の匂いと混ざって嫌だった。
お香だけならきっといいのにと思っていた。
いまは部屋をシンプルにしてお香を楽しんでいる。
幼い頃の願いを知らずに叶えていたのだ。

No.00313　01.03.13

偶然の一致

思いもよらぬときにそれは現れる。
なんでそんなことが起きるのか、まったく理解できない。
小説だったら出来過ぎで、
作家の能力を疑ってしまうような事実。
駅で拾った財布が、その日会う予定の友達の妹のものだったり、
朝に見た参考書の問題がそのまま試験に出てきたり、
夢にヨガを見たら
知り合いのヨガの先生からお誘いの手紙が来たり、
講習会でお話ししたこととそっくりなことを
その講習会の参加者が講習会に参加するちょっと前に
掲示板に書き込んでいたり、
お金が足りないと困っていると足りない分だけ
ずっと以前の仕事の報酬として入ってきたり、
あいつはどうしているのかなと思っていると
そいつから手紙が来たり、
彩雲を日本でも見たいなぁと思っていると
翌日目の前に浮かんでいたり、
あの本読んでみたいなと思っていると
押入の奥から出てきたり、
313 回目の「日刊　気持ちいいもの」を
3 月 13 日に発行したり…。
世界は wonder に満ちている。

No.00314　01.03.14

カウアイ島をヘリコプターで横断する

ハワイのカウアイ島は島の中心が高い山だ。
だから主要な道は海岸沿いにしかない。
島の中央部を見たければ、ヘリコプターに乗るしかない。
そそり立つ急峻な山々は人の近づくことを拒んでいる。
しかし、その美しさは格別だ。
特にナパリコーストの海の青さと山々の緑のグラデーションは
その風景を見たものでない限りわかり得ない美しさがある。

あの景色をもう一度見たいがために
僕はカウアイに再び行くだろう。

No.00315　01.03.15

筍の刺身

鹿児島でとれたばかりの筍を刺身にしてもらって食べた。
しゃくしゃくとした歯ごたえと筍の香り、
独特の甘みとほんのわずかある苦みが
口の中で主張し合っている。
僕には何も言うことがありません。

No.00316　01.03.16

手で食べる

バリのワルンでナシ・チャンプルを食べる。
右手でごはんを集め、おかずをのせ、
人差し指、中指、親指の三本の指でお皿に押しつけ、
お寿司のしゃりのように固めて口に運ぶ。
指で固めるときに、すでに指の先の味覚が働く。
口に運ぶと指と舌が触れて、普段では感じることのない
感覚が生まれる。
もちろんナシ・チャンプルはおいしい。
そして、指と舌に生まれる味覚もいい調味料になる。

No.00317　01.03.19

チーターの親子

ケニアでチーターの親子に出会った。
五、六頭のチーターの子どもが母親の狩りを見ていた。
母親は遠くのエランドを狙って走っていった。
だけど捕れなかった。
子どもたちは風に毛をなびかせて黙って見ていた。
どうしてそれを見て気持ち良いのか、うまく説明ができない。
でも、気持ちが良かった。
チーターの親子は獲物にありつけなくとも誇り高かった。

No.00318　01.03.21

春の陽射し

外はすっかり春の陽射しだ。
暖かくて気持ちいい。
からだが緩んでだるくなる。
苦い春の野菜が食べたくなる。
_/_/_/

もう一度あなたの名を呼ぶ。
振り向いたあなたの視線が私をとらえると
こぼれそうな笑顔の花が咲く。

No.00324　01.04.12

薔薇の香り

玄関の花瓶に薔薇を生けた。
ピンクと黄色と赤の薔薇だ。
薔薇の香りは玄関から溢れ、私の部屋へと押し寄せてくる。
ブラスバンドをしていた頃に
演奏会でよく薔薇の花束をもらった。
懐かしい青春の香りだ。
恋人に 100 本の薔薇を贈ったこともある。
香りは記憶をほころばしていく。

No.00325　01.04.13

書見台

畳の部屋で本を読むのに書見台が欲しかった。
時代劇によく出てくる本を読むための台だ。
そんなもの、どこにいけば手に入れられるのか
見当がつかなかった。
畳の部屋で座布団に座り、分厚い本を抱えて読むのは疲れる。
音楽に使う譜面台を代用しようかとも思った。
バリに行き、暑いクタの街をテクテクと歩いていると
ある店の軒先にモダンな書見台があった。
高さも角度も調節できないが
気に入ったのでさっそく買った。
その書見台で今西錦司全集を読んでいる。

No.00326　01.04.16

四角い朝日

水平線から昇ろうとする朝日
漆黒の空を紫から黄色へと変えていく
やがてポツリと赤い光が現れ
みるみるうちにひろがるよ
四角い朝日はお餅のように
水平線にしっぽをのばし
ひしゃげて空へと浮かんでいく
黄色くキラキラ輝く海は
朝日に拍手をするように
さざめきわたって祝福してる。

No.00327　01.04.17

ナイフ

ベルトの長さを調節するためにナイフでベルトを切る。
切れ味の良いナイフで切るとさっくりと切れる。
抵抗がほとんどない。
ベルトの皮がこれほど柔らかいものだとは思わなかった。

No.00328　01.04.18

まどろむ

睡眠と覚醒のあいだで、どちらにいくか逡巡すること。

No.00329　01.04.19

電柱と電線

風景写真を撮るとき、邪魔になるのが電柱と電線。
優美な山の姿も
広大な夕焼けも
はるかに見渡す水平線も
電柱や電線のおかげで台無しになる。
そこで、夕焼けをバックにそそりたつ電柱や
入道雲を背景にからまる電線の写真を撮ってみた。
邪魔だったはずの電柱や電線が主人公としての魅力を放った。

No.00330　01.04.20

企画が通る

考えていたことが現実になる。
予算がおり、自分一人ではできないことが可能になる。
あとは実行あるのみ。
新しい産みの苦しみが始まる。

No.00331　01.04.23

親指

左手の親指の爪の隙間からバイ菌が入り指が腫れ、
しばらく親指が使えなかった。
爪の下で膿が膨らみ、指が倍の大きさになった。
すると痛くて親指が使えない。
左手の親指が使えないといろんなことが不便になる。
顔を洗うとき、左の耳の後ろが洗えない。
雑巾やタオルが絞れない。
スクリューキャップが開けられない。
やっと最近使えるようになってきた。
親指の有り難さを実感している。

No.00332　01.04.24

雲

自由自在に姿を変えていく雲。
風に流され消えていく。
何もないところにポッカリと現れたり、
一斉に湧き出てきたり。
永遠にその営みを繰り返している。

No.00333　01.04.25

本を買う

読みたい本を探して本屋を歩く。
この本は面白そうだ。
この本はあの本を書くための資料になる。
この本は将来的に必要になるな。
いろんなことを考えながら本を買う。
昔、子どもの頃におもちゃを買ってもらって
家に帰るときの気分に似ている。
家に着くと、とにかくまず買った本を並べてみる。
目次をもう一度読みなおす。
パラパラと拾い読みをする。
じっくりと読むのが楽しみ。

No.00334　01.04.26

まっすぐのびる道

どこまでもまっすぐとのびる道
地平線の彼方へ消えていく。
どこまで走っていっても
消失点はずっと先にある。

No.00335　01.04.27

あぐら

子どもの頃から正座でしか座れなかった。
あぐらは股関節が固いせいかかけなかった。
畳の部屋で書見台で本を読むうちに
あぐらをかくようになった。
はじめのうちはぎこちなかったが
しだいにぺったりとあぐらがかけるようになってきた。
まだ長時間のあぐらはつらいけど
この分ならいつかはずっとじっとできそうだ。
からだが柔らかく動くのは気持ちいい。

No.00336　01.05.07

麦茶

だんだんと麦茶の美味しい季節になってきた。
昔はよく母がやかんで麦茶を煮出してくれた。
しばらくやかんで冷まし、プラスチックの容器に移し、
冷蔵庫で冷やし、砂糖を溶かして飲むのが好きだった。
今ではペットボトルで買ってきて、砂糖を入れずに飲む。
ひさしぶりにやかんで作ってみようかな。

No.00337　01.05.08

朝の水まき

朝起きて玄関に水をまく。
朝日に照らされて虹ができる。
花壇の草花たちは濡れて輝き出す。
この歳になるまで朝の水まきなんてしたことがなかった。
もっと早くからすればよかった。

No.00338　01.05.09

ボーッとする

だいたい、人生に意味なんかない。
一生懸命いろいろ考えても無駄なことはある。
人間だって言葉を手に入れるまでは
食べて寝て排泄して子供を生んで育てて
死ぬことだけが仕事だった。
言葉のパズルに疲れたらボーッとすることだ。
宇宙の片隅で力んでいても自分が疲れるだけ。

No.00339　01.05.10

平成 13 年 5 月 10 日のジョギング

いつものようにいつものコースを
いつものテンポで走ってきた。
いつものように脈は上がるし、
いつものようにちょっとは苦しいけど
いつものように少しは楽しくもある。
そのいつものジョギングのさなかに
今日ここをこうして走れるのって幸せかもと思ってしまった。
平成 13 年 5 月 10 日のジョギングのさなか。
明日は「平成 13 年 5 月 11 日のジョギング」なんてタイトルで
「日刊　気持ちいいもの」を書いたら
読者はやっぱり怒るかなぁなんて考えながら。

No.00340　01.05.11

夏の日の恋

知ってるかなぁ、夏の日の恋。
パーシー・フェイスが演奏していた曲。

今でもあの曲を聞くと懐かしくなる。
もう 40 年以上前のヒット曲だ。
ストリングスとフルートとホルンが
とてもきれいなメロディーを奏でる。
今でも時々どこかから聞こえてくる。
フルートがリズムを刻む前奏が聞こえてくると
それだけでその場の雰囲気が変わっていく気がする。

No.00341　01.05.14

晴天の観覧車

晴れた日の観覧車は格別だ。
見上げれば青い空に色とりどりの観覧車が美しくはえる。
乗ればどこまでも遠くの景色が眺められる。
少しだけ開く窓からの風が涼しい。

No.00342　01.05.15

筋肉痛

ひさしぶりの運動に筋肉痛がする。
ここが痛い、あそこが痛いといいながら
揉んでもらうと気持ちいい。
痛い、痛いといいながら、
腕を回したり首を回したり。

No.00343　01.05.16

肉声

ハロー、ハロー、聞こえますか？
ハロー、ハロー、届いてますか？
この文字を見てあなたは誰の声を想像しましたか？
闇の向こうの肉声を聞いてみたいとは思いませんか？

No.00344　01.05.17

アゲハチョウ

朝、玄関に水をまいていたらフワリとやってきたアゲハチョウ。
とても懐かしくて、存在すら忘れていた。
足下を飛んでいた彼女は風に乗せられ
屋根の向こうに消えていった。

No.00345　01.05.18

シナモン・ティー

ミルクが似合うまろやかな香りの紅茶をいれ、
温めたミルクを紅茶に注ぎ、
シナモン・パウダーをかすかにふりかける。
シナモン・スティックでかきまぜれば
シナモン・ティーのできあがり。
シナモンの香りはどこか懐かしい。
なんで懐かしいのかなぁ？

No.00346　01.05.21

毛布一枚で寝る

昨晩は暑かったので毛布一枚で寝た。
毛布一枚で寝たのは今年はじめてだ。
毛布一枚で寝ると掛け布団が軽いのでいい。
きっと寝ている最中には右向いたり左向いたり
うつ伏せたり仰向けになったり忙しいのだろう。
それが楽にできるから気持ちいいのだろう。
見た夢を覚えてないけど、
きっと軽やかな夢だったに違いない。

No.00347　01.05.22

飛ぶ教室

今年も夏に飛ぶ教室をやる。
日本中から人が集まって、
いろんなワークショップをおこなう。
飛ぶ教室に来て楽しまずには帰れない。
昨日までは見知らぬ人同士があっと言う間に仲良くなる
不思議な空間。
誰も束縛しないし、誰からも束縛されない。
朝から夜まで長谷村の生涯学習センターに寝泊まりし、
好きなワークショップに参加すればいいし、
好きなワークショップがなければ
自分でやりたいことを見つけてやればいい。
参加者みんなが何かを探しているから、
互いに何かを見つけ合って帰る。
年に一度の林間学校。
毎年参加者が増えている。
なのに運営している僕は毎年楽になっていくし、
参加者の満足度も上がっている。
やっぱり不思議な空間だ。

No.00348　01.05.23

ホームラン

小学生の頃、草野球でホームランを打った。
ベースを回りながら大喜びをした。
夜にスポーツニュースでホームランのシーンを見ると
訳もなく嬉しいと思っていた。
訳はあった。

草の匂いをかぎながら必死にやっていた
草野球の日々が懐かしいのだ。

No.00349　01.05.24

ミックスナッツ

コンビニで売っているようなミックスナッツでも
悪くはないけど
何が入っているのかわからないような
個性的なミックスがされている奴がやっぱいい。
最初に目につくのは大きなクルミ、
房付きの干しぶどう、
マカデミアナッツやカシューナッツ
あいだに隠れて松の実、ピーナツ
ひまわりの種やらカボチャの種
クコの実、アーモンド、バナナチップ
一度に手に取り口に放り込む
口の中は味のハーモニーを越えてまるで交響曲
最後のコーダはビールで決まり。

No.00350　01.05.25

ホームパーティーのある週末

ホームパーティーを予定している週末はどこかウキウキ。
仕事の最中でも、ふと料理のことなんか考える。
探しているリキュールはどこに売っているかなんて
考えを巡らし
カクテルは何が用意できるかメモに書く。
煮込み料理は前日から仕込み、
そのほかの物は当日友達と買い出しに行く。
ホームパーティーはダラダラと始まる。
準備をしているときから誰かが飲みだし、
料理ができた途端になくなったりする。
遅刻してくる奴等の悪口を言い合いほろ酔い加減。
乾杯の頃には絶好調。
腰が抜けるほど楽しいパーティーをしたら
幸せのエネルギーはフルタンク。

No.00351　01.05.28

おしゃべり

鳥が鳴くように、虫が鳴くように
人間はしゃべる動物だ。
仲の良い友達と会うと
いろんなことをしゃべりあう。
過去のこと、未来のこと、
体験したこと、聞いたこと、読んだこと。
しゃべりながら互いを確認し、
またおしゃべりのネタを探しに別れる。

No.00352　01.05.29

雲海

飛行機の窓から
見下ろす雲海。
滝のような雲、
綿のような雲、
絹のような雲、
雲、雲、雲
時には虹を生み、
果てしなく続く。

No.00353　01.05.30

色鉛筆

旅行に色鉛筆を持っていく。
気が向けば絵を描くし、
忘れたくないことを書き留めるのに
好きな色を使う。
ノートは華やかな雰囲気になり
内容は一層楽しそうになる。

No.00354　01.05.31

キャンプファイヤー

大きな火を囲んでみんなで踊る
なぜ大きな火があると人は踊るのか
火がなければきっと踊ることはない
火のエネルギーが人に乗り移るのだろうか
メラメラと燃え上がる火を見ていると
何かしたくなる

No.00355　01.06.01

作務衣(さむえ)

十年ほど前に浅草寺に行ったら
近くの衣料店で作務衣を売っていた。
欲しいなとは思ったけど、
そのときは買わなかった。
鎌倉の建長寺の本堂で
コンサートするチャンスがあったので
風の服で動きやすいということで
作務衣をコンサートの衣装にした。

それ以来、夏になると着ている。
楽で涼しくてとてもいい。

No.00356　01.06.04

サウナ

百度程度のサウナにじっと入る。
からだじゅうから汗が吹き出て滴り落ちる。
十分も入っているともうフラフラ。
外に出て水風呂に入る。
この瞬間が最高だ。
からだが冷えて落ちついたら、
最高な瞬間を味わいたくて
もう一度入りたくなる。

No.00357　01.06.05

しゃぼん玉

ストローの先から流れ出るしゃぼん玉
七色に輝きながら、脈動しながら、
風にたゆとう。
太陽に照らされて表面の水分が蒸発していくと
七色の輝きは失われ、光の反射は白くなり、
パチッと消える。

No.00358　01.06.06

土の匂い

土をシャベルで掘り起こしたり、
雨が降ったりすると、
立ちのぼる匂いがある。
草の香りに包まれて、
わかりにくいけど、
確かに香るそのかおり。
僕たちはずっとこの香りとともに
育ってきた。
子どもの頃から、
いや、農耕を覚えた頃から、
いいえ、ヒトとして生き始めた頃から、
いやいや、動物として生き始めた頃から・・・。
そうか、これは自分の香りなのか。

No.00359　01.06.07

ヨーグルト

生きているヨーグルトをもらった。
牛乳に入れると翌日にはヨーグルトになる。
牛乳をそのまま飲むより吸収が良くなるそうだ。
ここに入っている菌は人間のためになるという理由で
ヨーロッパからはるばるやってきた。
いったい何人の手を経てここにたどり着いたのだろう。
よくぞここまでやってきた。

No.00360　01.06.08

拳銃を撃つ

五月の暑い日、サンフランシスコの射撃場に行った。
ついたてに仕切られた狭い場所から、
何人もの人たちが銃を撃っていた。
手渡された拳銃をインストラクションに従いこわごわ持った。
弾を一発ずつつめる手は、油断をすると震えそうだった。
青い空から降り注ぐ日の光は、うなじをジリジリと焼いていた。
耳あてをしてマガジンを装填し、
遠くの的を狙い引き金を引き絞る。
激しい炸裂音と心臓を掴まれたような反動と共に、
的に小さな穴が開く。
はじめの一発は恐怖心を噛み殺しながら撃ったが、
二発目以降は快感に変わっていった。
莫大なエネルギーが細い銃身からほとばしる。
そのエネルギーが僕の思いのままだ。

No.00361　01.06.11

コーラの泡の音

グラスに氷をコロンと入れて
コーラをザザザとそそぎ入れる。
氷とコーラが反応して
シュワーッと泡が音をたてる。
はじめのうちはシュワーッという音だけど
しばらくして泡が小さくなるとシューッという音になり、
泡が消えるころにはシャーッという音になる。
シュワーッ、シュー、シャー
コーラの泡の音の変化が僕は好き。

No.00362　01.06.12

Ｔシャツの着心地

柔らかいＴシャツの袖に腕を通すと
暖かい風がシャツと素肌のあいだに入る。
ハタハタと揺れる生地が素肌をくすぐる。
夏の予感も気持ちいいけど、
夏の感触も気持ちいいものだ。

No.00363　01.06.13

木製のちゃぶ台

足の折り畳める小さなちゃぶ台を買った。
木とニスの匂いがいい。
小さいから片づけるのが簡単。
場所も取らない。
ひとりでご飯を食べるには充分な大きさ。
なんか幸せ。

No.00364　01.06.14

ラガヴーリン

マッカランやグレンモーレンジのように華やかではないけど、
確かに旨いモルトウィスキー。
友人と楽しく飲むには華やかな味がいいけど、
じっくりと本を読みながら傾けるにはこれがいい。
スモーキーでドライ。ちょっとだけ塩っぽい。
かといって甘さがないわけではない。
ピートの香りも感じられる。
ひとりで黙って飲むための、とっておき。

No.00365　01.06.15

デュラレックスのコップ

デュラレックスのコップはよくレストランで使われている。
そんなに高価でもないし、
誰でもが一度は見たことがあるだろう。
ぱっと見たところでは全体に歪んでいるように見えるので
安物のコップのようにも思えるが
ところがこのコップはすごい。
歪んで見えるのには理由がある。
注意しないと気づかないが、その形状は複雑だ。
まず、コップの胴の外側が丸みを帯びた正九角形をしている。
胴の外側が正九角形なのに、
飲み口の部分は丸いし、コップの内側も丸い。
コップの内側は、底から微妙に広がり、
飲み口の部分でさらに広がりを増す。
この微妙さがいい。
胴の外側は正九角形が同じ割合で錐を作るのではなく、
コップの中程で少し膨らみが持たされている。
この微妙さもまた素敵。
こういう風に説明すると、
言葉だけでは繊細なガラス工芸品のように
聞こえるかもしれないが
ガラスは肉厚で割れにくい。
とても頼もしいコップだ。
普通コップは重ねるとはまりこんでしまうし、割れやすくなる。
それをコップの厚さと、丸みを帯びた正九角形と、
内側の広がり具合と、
胴の外側の微妙な膨らみとで解決している。
雑貨屋で見つけてすぐに買った。
これで水を飲むだけで、頬がゆるむ。

No.00366　01.06.18

水平線から昇る朝日

水平線に赤味がさし、黄色い光が立ち昇る。
海の色は鉛色。波頭の上に黄味が踊る。
歪んだ太陽が姿を見せると、海は黄金に響き合う。
遠くの山は白く霞み、鳥の影が見えてくる。
毎日のように繰り返される自然の儀式を
ひさしぶりに目の当たりにすると
敬虔な心が生まれてくる。
毎日照らされている、あの同じ太陽なのに。

No.00367　01.06.19

校庭で蹴ったボール

学校に通っていた頃、校庭でボールを蹴った。
弧を描いて遠くへ飛んでいくボール。
何度もバウンドして、校庭の端へと転がっていく。
僕の力でボールが飛んでいくのを眺めながら
自分の力を確かめる。
その力が充分でも、足りなくても、
自分の力を正確に知るのはうれしいことだ。

No.00368　01.06.20

大容量回線のインターネット

サクサクだよ、大容量回線のインターネット。
幕張メディアサーフィンで体験してしまった。
残念ながらうちの回線はモッタリだ。
下手をすると 1 ページダウンロードするのに 20〜30 分かかる。
サクサクなコンピューターを使うとうれしくなる。
次から次へと写真がダウンロードできる。
調べ物するときなんか便利だ。
うちも大容量回線にしたい！

No.00369　01.06.21

冷たいシャワー

湯船で温まり、汗をかいたら

冷水のシャワーをあびる。
この気持ちよさが好き。
からだの表面が冷えても、
からだの芯はまだ熱い。
風呂をあがって冷たいビールで
からだの芯を冷やす。

No.00370　01.06.22

アローン・アゲイン

僕がはじめてアローン・アゲインを聞いたのは
レイコニフ・シンガーズの演奏だった。
まだ中学生だった僕は、歌の意味もわからず、
ただなんとなく切ない感じが
メロディーから伝わってきた。
中学生の頃は何度か聞けば意味がわからずとも
なんとなくのなんちゃって英語で歌うことができた。
イナリルワィルフロンナ
アゲッフィルエニレッサー
アロミスマイセルファントリーマイセルファン
ビジターニーバイター
それ以来、オリジナルのギルバート・オサリバンの
演奏のアローン・アゲインのレコードを
手に入れたかったのだが、
いまのように大きなレコードショップも身近になく、
やっと手に入れたのは大学生になってからだった。
からだにしみついたイナリルワィルフロンナは
In a little while from now.
だということを知った。
アローン・アゲインに特に思い出がある訳ではないけど、
なんかとても切なくなるのは、
やっぱ歌の力なんだろうな。

No.00371　01.06.25

Ｆ１のエキゾーストノート

遠くから近づいてくるエネルギーの塊。
一瞬に目の前を通り過ぎ、
いたたまれないほどの高い叫び声は
ドップラー効果の悲しいうなり声に変わる。
あの声は、母親を呼ぶ赤児の泣き声のように
観客の目を釘付けにする。
激しい音の洪水に、脳はしびれ、心は叫び、
心臓は強く鼓動を繰り返す。
あの音を可能にする巨大なエネルギーを
僕のからだのなかに沸き起こせたならと思う。

No.00372　01.06.26

英和辞典のアンダーライン

高校生の時に買った、
旺文社の英和中辞典をいまだに使っている。
表紙が取れ、ページが折れ曲がり、手垢で黒くなっているが
新しく買おうとは全然思わない。
高校、大学のあいだに引いたアンダーラインが
どこのページにもある。
仕事で疲れたときにめくってみる。
こんな単語覚えたのかなぁ、
と思いながら赤線の引かれた単語を確かめていく。
いつのまにか、たくさんの単語を覚えたなぁと思う。
そういえば、兄貴の英和辞典にも、
たくさんのアンダーラインがあったなぁ、と思う。

No.00373　01.06.27

プールに飛び込む
その瞬間、異次元に飛び込む。
温度が変わり、体重が変わり、
抵抗が変わり、肌触りが変わり、
視界が変わり、音が変わる。
その一瞬、自分がどこにいるのかも
忘れてしまいそうになる。
大きな変化の中で
ただ目標に向かってもがく。

No.00374　01.06.28

詰襟

中学生の時の制服が詰襟だった。
苦しいとか言ってホックを
はずしている人が多かったけど、
僕はホックを締めているのが好きだった。
気持ちが引き締まった。

No.00375　01.06.29

サロンを巻く

バリでサロンを巻いた。
サロンとは腰に巻く布だ。
生まれてこのかた

ズボンしかはいたことがなかった。
サロンを巻いていると足下が涼しい。
階段を登るときにちょっと気を使うが
バリのような高温多湿なところでは
とても快適だった。
夏になったら家で巻いてようかな。

No.00376　01.07.02

かき氷

幼い頃、うちに氷かきがあった。
大きなプリンを作るような製氷皿で
円柱のような氷を作り、
それを氷かきにセットする。
ハンドルをグルグル回すと
シャッシャと細かい氷ができた。
器にシロップを入れ、
山と積まれたかき氷の上からもシロップをかけ、
崩れそうな氷を崩れないように注意して氷を食べた。
口に入れるとサッと溶けるのだが、
一度にたくさん口に入れると
冷たすぎて頭のうしろが痛くなった。

No.00377　01.07.03

自分の居場所

自分の居るところって、自分で決めているようで
自分だけでは決められない。
僕は自分の居場所を求めてあがいていた。
でも、自分の居るところが自分の居場所で、
それ以上でも、それ以下でもない。
自分の居場所を変えようとあがくのはもうやめた。
自分のありようで居場所が変わっていく。
それを楽しめばいい。

No.00378　01.07.04

クーラーの効いた部屋

熱帯夜にジョギングすると汗だくになる。
涼しい季節なら走れば風でからだが冷やされるが
熱帯夜にはちっとも冷えない。
走って帰りクーラーで冷えた部屋に入ると
クーラーのありがたみが身に沁みる。
風呂からあがり、ビールを飲むときも
涼しい風がありがたい。

No.00379　01.07.05

夜明け前の青い空

午前四時には空はうっすらと青くなり
小鳥たちはさえずる。
雲はまだ黒い。
次第に明るくなる空。
静かに漂う霞。
今日もまた暑くなりそうだ。

No.00380　01.07.06

名も知らぬ花の香り

昨晩、近所を歩いていたら、
どこからともなくいい香りが漂ってきた。
まわりを見渡すと小さな花の群生があった。
花の大きさはジャスミンほどで、
形は百合のようだった。
どんな名前の花なのか、
知ることができないのが悔しかった。

No.00381　01.07.09

スプリンクラー

夏の朝、スプリンクラーの音がする庭で朝食を取る。
芝生の匂いがスプリンクラーの発する湿り気とともに
流れてくる。
鳥の声が聞こえる。
今日も快晴だ。

No.00382　01.07.10

夜明けのドライブ

大学生の頃、よく徹夜でドライブをした。
湘南あたりで集まって、伊豆あたりまで走っていった。
家に帰る頃には白々と夜が明け、
理由もなくうれしかった。
若いころには無駄なことをたくさんする。
それでいいような気がする。

No.00383　01.07.11

笑い袋

いまでもあるのだろうか、笑い袋。
昔の笑い袋は袋の中に機械が入ってた。
機械の中にはソノシートが入っていて
それを再生して笑い声を出す。
子どもの頃、友達が笑い袋を持っていた。

スイッチを入れると
「ハーッハッハッハッハ」
と笑い声が聞こえてくる。
はじめは「なんだこれ？」という感じだが、
しばらくすると笑いがうつり
「クックック」と笑い出す。
そばの友達も笑い出すといつしか増幅して大声で笑い出す。
今ならデジタル技術で簡単に作られるだろうな。
ホームページを開けたら
大笑いが聞こえてくるってのも面白そうだ。

No.00384　01.07.12

深く潜る

ダイビング練習用の深いプールを
シュノーケリングで潜っていく。
はじめは水圧がきつく感じるが
なれてくるとその圧迫が面白くなる。
息も次第に長く止められ
水で満たされた空間を自由に泳ぐ。
海にくらべればずっと狭いが
上下の自由が空間を広く感じさせてくれる。

No.00385　01.07.13

寝不足

実は僕は寝不足が好き。
眠くて目がショボショボする感覚が好き。
好きなもんだからつい夜更かししてしまう。
眠いけど寝ない、その感覚が好き。
こんな感覚好きになる理由がよくわからない。
不思議な僕。

No.00386　01.07.16

ケルト模様

マンデルブロ集合の曲線にも似た
繊細に刻み込まれた渦の塊。
見え隠れする人や動物。
心の奥に仕舞われた宝物を探すように
息詰まるカオスが誘い込む罠。

No.00387　01.07.17

一輪挿し

玄関に一輪挿しを置いた。
それ以来、毎週のように一輪の花を買い飾っている。
静かで地味な玄関が華やかになった。
たった一輪の花と花瓶で。

No.00388　01.07.18

湯葉

京都に出張したついでに湯葉を食べた。
豆乳に浮いた湯葉を箸ですくいポン酢で食べる。
なんともうまい。
豆乳はそのままスプーンで飲む。
これもうまい。
あっ、豆腐も見ーつけた。

No.00389　01.07.19

デリシャス・パイ

僕がまだ幼かった頃、父は会社帰りによく
不二家のデリシャス・パイを買ってきた。
サクサクとした甘いパイはとても美味しかった。
でも、その美味しさの一番のスパイスは
父親のおみやげという点だ。
僕がねだったと言うよりは、
父の帰りが少しでも遅くなると
ようちゃんのおみやげくらい買ってきてよと
母が電話で頼んでいた。
懐かしいなぁ、デリシャス・パイ。

No.00390　01.07.23

飛行機から見たダブル・レインボー

オアフからマウイに渡る飛行機の窓から
二重の虹を見た。
羽根の下に大きな円となって虹があった。
虹の中心に飛行機の影があり、
薄い雲の中を遠くなったり近くなったりしながらついてきた。

No.00391　01.07.24

オープン・カフェ

代官山のオープン・カフェで人を待つ。
おしゃれな人や滅多に見ることのできない
外車を眺めながら時間を過ごす。
ちょっと高いけど雰囲気がいいので許せてしまう。
コーヒーが美味しいのは雰囲気のせい？

No.00392　01.07.25

コーヒー牛乳

たまにふとコーヒー牛乳が飲みたくなる。
カフェオレとかカフェラテではなく、
昔ながらのコーヒー牛乳だ。
幼い頃はコーヒー牛乳を飲みたいというと
母が牛乳にしなさいと言うので、
仕方なく牛乳を飲んでいた。
その反動か、高校生になると菓子パンを食べながら
よく 500ml のコーヒー牛乳を飲んだ。
いまでもふと飲みたくなる。
500ml のパックをガーッとね。

No.00393　01.07.26

立ちション

立ちションって、軽犯罪だそうだから
あまりおおっぴらには言えないけど
気持ちいいんだよなぁ。
景色をはるばる眺められるような場所で
ジャーッとやるのがいい。(笑)
子どもの頃にはよくやった。
最近ではケニアでやった。
遥か彼方までトイレなんてないんだもん。
江戸時代には畑やたんぼのそばでの
立ちションは喜ばれたそうだ。
肥料になるから。
時代が変わって価値観が変わると軽犯罪だよ。
なんかおかしくない？

No.00394　01.07.27

ここ禁煙ですよ

山手線に乗っていたら、いかにもやくざ風の男が乗ってきた。
パンチパーマで上下黒い服。前歯が二本ない。
男は大股開いて僕の隣の隣に座った。
しばらくして携帯電話をかけはじめる。
迷惑なほど大声で話している。
まあ、そのくらいは許してやろう。
隣の席の人が立ち上がり、
ひとつ空いた席をはさんで男の隣になった。
男は隣の席に手を広げて置き、誰も座らせない。
しばらく大声で話していたら、
胸ポケットから煙草を出して吸い始めた。
これに僕はムッとした。
しばらく話して電話を切ったとき
「ここ禁煙ですよ」と男に言った。
「えっ、あ、そうだな、ここ電車のなかだな。ゴメンゴメン」
男は煙草を床に落として靴で踏みつけた。
「俺酔ってるんだよ、ごめんな」
「ビール二本飲んだんでしょ」
「えっ？　なぜ知ってるの」
「いま電話で話してたじゃないですか」
「あ、そんな大声だった？」
「まあ、そうですねぇ」
その後はしばらく黙ってたが僕の降りる駅についたら
男も降りようと立ち上がった。
僕は男の後ろに立った。
男はこちらを振り返った。
「お気をつけて」
「ああ」と怪訝な返事で男は降りていった。

No.00395　01.07.30

缶ケリ

飛ぶ教室で缶ケリをした。
いったい何年ぶりだろう？
小学校を卒業して以来かもしれない。
鬼が少し離れたスキに校庭を横切って缶を蹴りに行った。
あんな距離を全速力で走るのもひさしぶりだった。
缶を思いきり蹴った。
「カン！」という音とともに転がる缶を見て
大喜びした。

No.00396　01.07.31

ドラムダンス

大人になるとからだを動かすことが少なくなる。
からだを激しく動かすことができる能力を持ちながら
使わずにいる。
だからからだに余計なエネルギーをため込んで
かえって疲れてしまう。
ドラムに合わせて自由に踊ると
好き勝手なからだの部分を使うので
自由にエネルギーを放出できて気持ちいい。
呼吸をリズムに合わせ
からだの動きをリズムに合わせ
肌でリズムを感じる。
リズムと自分が解け合ってしまう。

No.00397　01.08.01

ホーミー

声を出しながら口の中の形を変えていく。
舌の位置を変えたり、口の中の大きさを変えたり
唇の形を変えたりしていく。
声帯で出す音の高さも変えていく。
すると声が共鳴して別の音が鳴り出す。
そのポイントが見つかるとあとは遊ぶだけ。
頭のいろいろな部分が共鳴して震えるのを楽しむ。

No.00398　01.08.03

風船

子供の頃、縁日に行くと風船を買ってもらった。
風船のひもを握りしめ、人混みのなかを歩いた。
風船はひもによってつかず離れず
ふわふわと僕のそばを漂いながらついてきた。
風船の嬉しいところは、そのつかず離れずだ。
特に力をいれているわけではないのについてくる。
無理に力をいれるとかえって割れてしまう。
大好きな人と気持ちよく一緒にいるのと似ている。

No.00399　01.08.06

クーラーのいらない日

暑い日が毎日続いたが、今日はちょっと涼しい。
窓を開けておけばさわやかな風が入ってくる。
今年の日本は異常に暑い。
夏は暑い方が好きだけど、今年は暑過ぎだ。
涼しくなってやっと蝉が鳴き始めた。
窓を開けたから気がついたのかな？

No.00400　01.08.07

マッチ

大人はマッチの気持ちよさを忘れている。
子供の頃、親の目の届かないところで
無心にマッチを擦り続けたことはないかい？
マッチの秘密を見つけるために僕は何度も擦った。
力一杯押しつけてゆっくり擦ったり、
軽く押しつけてサッと擦ったり、
マッチの方向を燐の部分を手前にしたり向こうにしたり、
いろんなことをしてマッチの秘密をあばこうとした。
でも、結局はマッチを擦るのが気持ちよかったのだ。
火遊びは、秘密をあばこうとするうちに
その楽しさに溺れてしまう。
そういうもんだろ？

No.00401　01.08.08

ハワイのスピナードルフィン

オアフ島の西側の浜にスピナードルフィンがいる。
その名の通りスピンするのが大好き。
海面から飛び上がってはクルッと回る。
泳ぎながら何度も飛び上がる。
それはまるで気持ちいいかのごとくに。
海中と空中の二つの世界を行ったり来たり。
彼らにとっては一種のトリップなのかもしれない。

No.00402　01.08.09

独楽回し

独楽に紐をぐるくる巻いてえいやっと回す。
手から離れた独楽は宙を飛んで地面に着地する。
軸で地面を突っつきながら独楽は小さな宇宙を作る。
独楽は月か、太陽か。
いくつもの円を描いて宇宙は燃え尽きる。

No.00403　01.08.10

夜行列車

昔、中国を旅行したとき、桂林から西安まで汽車で走った。
外国人は一等寝台に行けと言われたが、
学生の貧乏旅行だったので冷房のない二等寝台に寝た。
夜に出発して、すぐに寝付けなかったので、
しばらく窓から外を見ていた。
通り過ぎるポイントには小さな小屋があり、必ずその前に
カンテラを持った見張り番がきをつけをして立っていた。
緩やかなカーブに差し掛かると、長い汽車の全体が見渡せた。
駅に着くと近所の家の窓がテレビ画面の光でひかっていた。
みんな同じチャンネルを見ているので、
まるでネオンサインのようにどの窓も
同時にチカチカと光っていた。
西安につくと体中すすだらけで、
シャワーをあびたら黒い水が流れていった。
それが中国であり、汽車だった。

No.00404　01.08.13

お休み

世の中の傾向としては夏休みだし、
僕もたまには仕事をさぼりたいし、
とってもいい香りのお香が手に入ったし、
このところ湿度が高くて太鼓の音が低いし、
部屋の中を蚊が飛んでいるし、
蚊を殺そうと蚊取り線香をつけたら煙いし、
このところイルカとも泳いでないし、
スキーなんか6年くらい行ってないし、
新しいコンピューターもほしいので、
日刊　気持ちいいものを一週間お休みします。
では、来週までさようなら。
はいはい、わかってますよ、
なんの理由にもなってないって。(笑)

No.00405　01.08.20

夏休み

小学生の頃、毎年のように下田に行った。
親父が清流荘という旅館のご主人に
懇意にしていただいていた。
目の前には川が流れ、釣りをした。
トンボが飛んでいた。
向かいの山のふもとをオレンジと緑色の
伊豆急が走っていった。
プールでクタクタになるまで遊んだ。
井上陽水の「少年時代」を聞くと
あの頃の光景を思い出す。

No.00406　01.08.21

手作りサンダル

夏になると皮のサンダルを履く。
マウイ島ラハイナの埠頭の真ん前にある
ショッピングセンターの一階に
手作りのサンダルを作っているお店がある。
サンタクロースのようなひげをたくわえた
おじさんが作っている。
昔、映画ベンハーで使われたサンダルを作り、
その製法のまま今でもそれを作って売っている。
全部が馬の鞍に使われる皮でできている。
正直言ってサンダルの底がツルツルなのでよく滑る。
それでもなんか履いてしまう。
特に気持ちいいかというと、そうでもない。
スニーカーを履き慣れている足にはグリップが甘い。
でも、この甘さが気持ちいいのかもしれない。
ズルズル滑ってスタスタは歩けない。
歩き方もこのサンダルを履くと変わってしまう。
足で地面を蹴るのではなく、体重を移動して
後から足を動かす感じになる。
それがいいのかもしれない。

夏の暑いときにスタスタと歩きたくなんかないしね。
マウイののんびりした歩き方に自然となる。

No.00407　01.08.22

Keali'i Reichel の歌声

ハワイに Keali'i Reichel という歌手がいる。
彼の CD はハワイなら ABC ストアでも売っている。
何度も同じ CD を目にしたので買ってみた。
日本に帰って聞くととってもいい。
深い男性の声がハワイを思いださせてくれる。
彼の歌う曲の多くがハワイのオリジナル曲で
ハワイ語で歌われる。
それがまたいい。
彼の歌を聞くと、またハワイに行きたくなる。

No.00408　01.08.23

助手席

普段、車に乗るときは自分で運転する。
だから助手席に乗ることはめったにないのだが
たまに助手席に乗るととてもうれしい。
流れ去る景色を心ゆくまで見ることができる。
窓ガラスに頭をもたせかけてボーッとしてもいい。
運転していては巡り合うことのできない
たくさんのささいなことを目にできる。
BGM が自分の好みの曲だと一層いい。

No.00409　01.08.24

船旅

一度だけ、長い船旅をしたことがある。
上海から香港までの二泊三日の旅だった。
昼は太陽の方向によって海の色が変わっていくのを眺めた。
夜は船客のために用意されたアトラクションに酔いしれた。
でも一番楽しかったのはいろんな国の人と
コミュニケーションがとれたことだった。
話したのではない。
船で七人の日本人大学生が乗り合わせていた。
その七人で「震源地は誰だ」をホールで始めた。
するとそれを見ていてルールを覚えた子供たちが
言葉は通じないのに加わってきた。
そのうち他国の大人も加わり、三十人くらいでやった。
言葉が通じなくても文化が違っても、
人は一緒に楽しくやっていけることを実感した。

No.00410　01.08.27

桂林の璃河下り

桂林の景色はとても美しい。
鍾乳洞の石筍のような山がどこまでも続き
湿度が高いので、まるで水墨画の世界に迷い込んだようだ。
ゆるやかな河を観光船でのんびりと下っていく。
確か五時間くらい船に乗っていたと思う。
途中で昼食を食べ、ビールを飲み、紹興酒を飲み、
中国語しか話せないガイドの女性と筆談し、
ゆるやかに時は過ぎていった。
昼食を食べ過ぎて窓にもたれて昼寝をした。
翌々日、桂林から汽車で西安に行こうとしたら
隣に座ったドイツ人のカップルに、
「一昨日、船で昼寝していましたね」と言われた。
彼らの乗っていた船がちょうど僕が昼寝していたときに
抜いていったそうだ。
よくもまあそんなこと覚えているなぁと当時は思ったが、
二十年もたってそのことを覚えている僕も
よくもまあそんなことを覚えているよなぁ、だ。

No.00411　01.08.28

コイーバの煙草

僕は煙草が好きだ。でも、ヘヴィスモーカーではない。
葉巻が好きだし、パイプも吸う。
煙草の味が好きなのだ。
だからタールが 1mg なんていう煙草は吸わない。
100% Tabaco と表示されたような煙草が好きだ。
たいていの煙草は 100% Tabaco ではない。
煙草の葉を細かく砕き、香料や糊を入れて紙のように
固めて細断し、煙草の葉にする。
100% Tabaco は煙草の葉を乾燥させてそのまま細断する。
ダビドフ、アメリカン・スピリットなどが 100% Tabaco だ。
最近、といってももう二年くらいまえだろうか、
コイーバの煙草が発売された。
コイーバは葉巻のブランドだ。さすがにうまい。
ダビドフも葉巻のブランドだけど、煙草には葉巻の香りが
あまりついていない。
コイーバは葉巻の葉に近い香りがついている。
葉巻の葉は冷暗所で発酵させる。
このときに香りが生まれる。
その葉巻独特の素敵な香りがコイーバの煙草では味わえる。
葉巻の好きな人はコイーバの煙草を吸ってみるといい。

でも、コイーバの葉巻を吸ったことのない人が、
コイーバの煙草を吸ってコイーバの葉巻と
同じ香りだと思うのはやめたほうがいい。
葉巻の方がずっといい。
煙草のコスト・パフォーマンスが高いってことだ。
煙草は 1 箱¥350、一方コイーバの葉巻は一本数千円だ。
¥350 で 20 回楽しめる。
三箱買うと、二、三週間楽しめる。

No.00412　01.08.29

サンセット・ビーチ

オアフ島のノースショアにサンセット・ビーチがある。
10 月を過ぎれば大きな波が来るのでサーファーが集まる。
犬がサーフィンをしているご主人を待っている。
きれいな女性が彼氏を待っている。
お父さんが息子を連れて波打ち際で遊んでいる。
僕は日没を待っていた。
美しいサンセットと影になっていくサーファーたち。
きれいな女性は彼氏に手を振る。
もう暗くなるわよ、と。

No.00413　01.08.30

鍵膳のくずきり

それは大きな弁当箱のような容器に入ってくる。
ふたを開けると氷水に浮かぶ薄膜。
黒蜜をつけて箸ですくうと
プルプルとした感触とともに黒蜜が滴る。
箸から滑り落ちないように口に運び、ツルッと食べる。
冷えた柔らかいくずきりが口の中をくすぐる。
フルフルとした口あたりとともに
黒蜜の上品な甘さが口に広がり、
勝手に口角は上がり笑顔になってしまう。
やられたな、と思うしかない、見事な旨さ。

No.00414　01.08.31

8km 走る

この二年間、週に一、二度 4km 走ってきた。
おかげで 4km なら楽に走れるようになった。
昨晩は 8km 走ってみた。
4km のコースを二周すればよい。
一周目でくじけそうになった。
からだが 4km に慣れている。
100m ほど歩いた。
それからまた 4km 走った。
たった 100m でも歩くとかなりからだが楽になった。
8km は思ったより簡単だった。
45 分で走れた。
ということは 1 時間 30 分で 16km、
3 時間で 32km、3 時間 45 分で 40km だ。
おお、このペースでもし走れたら
4 時間程度で 42.195km が走られる。
でも、同じテンポで最後まで走るのは今の僕にはきついなぁ。
8km のランニングは
十数年ぶりで 4km 走ったときよりずっと楽だった。
昨日の五倍とちょっと走ればフルマラソンになる。
二倍の 16km ならなんとか走れる自信ができた。
でも五倍はなぁ・・・。

No.00415　01.09.03

ハワイアン・スラッキーギター

最近流れているハワイ観光局の CM の
バックに流れているのがハワイアン・スラッキーギターだ。
普通のギターの音色よりどこか開放的で
聞いていると気持ちいい。
英語で書くと　Hawaiian Slack Key Guitar　だ。
つづりからもわかるように実は弦の張り方がゆるい。
ハワイの人たちがその昔、ヨーロッパやアメリカから
持ち込まれたギターを弾こうとして、
自分たちなりの調弦をしたらしい。
それぞれの弦の音の取り方は地方ごとにいくつかあり、
弾き手の紹介にはどの調弦を採用しているかが書かれている。
ハワイにはハワイアン・スラッキーギターのためだけの
レコードレーベルがあり、そこの「Masters」という
アルバムを買ってきた。
東京でハワイを思いだしたいときにかける。
咲き乱れる花の甘い香りと強い日差し、海の風を思いだす。
あ、朝食のおいしいパパイヤも思いだした。

No.00416　01.09.04

ＢＭＷのアクセル

以前仕事でＢＭＷの 325 を運転した。
はじめアクセルが重く感じたが
運転しだすとその重さが快感に変わった。
まるで足で踏んだ力が
そのまま車の推進力になっているように感じる。
どんな車でも強く踏めば強く加速し

そっと踏めばそっと走るのだが
アクセルを踏んだときの感覚と
加速度が見事にシンクロすることはほとんどない。
ランドローバーも、リンカーンも、イオンも、
レパードも、マークⅡも、シグマも、
あんなフィーリングはしなかった。
車を運転するのはただでさえ快感だが、
あの車はその快感がさらに増幅されていた。

No.00417　01.09.05

宮崎駿のアニメーション

宮崎駿のアニメーションはストーリーもいいが
僕はなんといってもあの動きに感動する。
すべての動きに宮崎駿の愛情を感じてしまう。
水の流れ、風に流される木の葉や草、
動きに合わせて流れる髪の毛、
キャラクターの決然とした表情、
人が走るさま。
宮崎駿はきっと動くものを観察するのが
好きなんだろうなぁ。

No.00418　01.09.06

リンガラ

ケニアのポップ・ミュージックは明るくてリズミカルで、
聞いていてウキウキした。
ロックでもないし、ポップスという枠でくくるには、
どこか統一感があった。
その統一感はギターが刻むリズムから生まれていた。
昔、ヴァン・マッコイがハッスルという様式を流行らせたが、
あれはピッコロかフルートが同じリズムを刻み続けていた。
リズムは違うが、あんな感じで、
ずっとギターが一定のパターンを刻み続ける。
そのパターンがなんとも楽しげでいいのだ。

No.00419　01.09.07

富士山頂からのご来光

僕が通勤していた会社は新入社員が全員富士登山をした。
しかも、ご来光を仰ぐように前日の夕方から登り始め、
夜中に山頂付近で一泊し、翌朝まだ暗いころから山頂に行き、
そこで日の出を拝むのだ。
高山病で頭が痛かったけど、
日本一の山からの日の出はとても清々しかった。
会社のしきたりになっていなかったら
一生登らなかったかもしれない。
登ってよかった。
持っていったトランジスタラジオをつけたら
世界中の電波が飛び込んできた。
チューナーを少しでも回すと次々と
聞いたこともないような言葉が飛び込んできた。
さすが日本一の高い山。
地平線の彼方にいったい何かわからないものを見た。
青い空に白い亀裂のようなものが入り、
次第にそれが地平線に平行にどんどんと延び、
しばらくしたら今度は縮み、消えてしまった。
その頃には空は真っ青になっていた。

No.00420　01.09.10

菊酒

昨日、重陽の節句に菊酒を飲んだ。
1 月 1 日が元旦。
3 月 3 日が桃の節句。
5 月 5 日が端午の節句。
7 月 7 日が七夕。
そして 9 月 9 日が重陽の節句だ。
なぜか重陽の節句だけすたれてしまった。
昔の人は重陽の節句に長寿と健康を祈り
菊酒を飲んだという。
菊を片口に盛り、そこに酒を注ぐのだ。
菊の香りがほのかに香り、おいしかった。

No.00421　01.09.11

鞍馬寺から貴船神社へ

京都の北にある鞍馬寺から、ずっと山奥に入っていくと
ちょっとしたハイキングができる。
その昔、牛若丸が修行したという鬱蒼とした森のなかを行くと
金星人が降り立ったという祠がある。
知人によれば、その金星人の名前はサナート・クマラだという。
クマラがなまって鞍馬になったのだとか。
本当かなぁと思いつつずずーっと進むと貴船神社に出る。

No.00422　01.09.12

つくつくぼうし

京都を歩いていたらつくつくぼうしが鳴いていた。
いよいよ夏も終わりかと思う。
あの一生懸命に鳴いているとしか思えない鳴き方がいい。
だんだんアッチェランドして、

ついにはフレーズが変わってしまう。
透明な羽根に緑がかった胴体。
子供の頃、虫捕り網を持ってよく追い掛けた。
見つけてもなかなかつかまらない。
油蝉の方が簡単に捕れた。
つくつくぼうしもきっと成虫になって数日で死ぬんだよなぁ。
やっぱ一生懸命鳴くよなぁ。

No.00423　01.09.13

イマジン

ジョン・レノンのイマジンが好きだ。
テロや戦争のない世界に早くなることを祈る。
善と悪、聖戦とテロ、正と邪。
立場が違うと見え方が違うとみんな知っているのに、
またその言葉を使わざるを得なくなる。
善と悪、聖戦とテロ、正と邪。
こんな言葉を使っているかぎりイマジンは、ただのイマジン。
悲しみを越えることはできないのか？
同じ青い空を気持ちいいと感じ、
同じように愛する人を守りたいと願っているのに。

No.00424　01.09.14

号外

今回は、普段の「日刊　気持ちいいもの」をお休みします。

アメリカの同時多発テロには大変驚きました。
関係していた方にはお悔やみを申し上げます。

小泉首相は今回の事件に対して
「断固たる決意で立ち向かわねばならないと考えます」
という声明を発表しました。
当然のことでしょう。
しかし、2001/09/13 の小泉内閣メールマガジンの編集後記で
安部晋三氏は
「こうしたテロに対しては、断固戦うという決意でのぞむ事が
　大切だと思います」
と書いています。

犯人を特定し、検挙することは当然ですが、
まちがっても一般民衆を巻き込む形で戦争を開始したり、
攻撃を加えてはならないと思います。
そのことを小泉内閣に明らかに伝えるために、
意見を送りませんか。

文例

アメリカの同時多発テロに関し、私は犯人を特定し、
検挙することにもちろん賛成です。
しかし、一般市民を巻き込む形で戦争を開始したり、
攻撃を加えてはなりません。
難しいミッションになるとは思いますが、
ぜひそのことを徹底させ、
日本のあるべき姿を内外に示して下さい。
私は日本が、高い精神的価値を持ち、
正しい行動へと世界を導く国であることを信じています。

国政に関する意見・要望は以下の URL で受け付けています。
http://www.kantei.go.jp/jp/m-magazine/iken.html

この内容に賛同して下さる方は、以上の文章を、
あなたが適切だと思われる方に転送し、
小泉内閣に対し意見を発信して下さい。
もちろん、あなたなりの言葉で結構です。

No.00425　01.09.17

現在に生きているということ

自由に海外に行ける。
誰とでも友達になれる。
真夜中にでも話し相手が見つかる。
身分を気にせず結婚できる。
稼ごうと思えばいくらでも稼げる。
いつでもどこでも電話がかけられる。
会いたいと思う人に確実に会える。
夜中に外出ができる。
美味しいものがたくさんある。

No.00426　01.09.18

iTunes

iMac を買ったら iTunes というソフトが入っていた。
100 曲近くのいろんな曲が入っていた。
プレイするときれいに聞こえる。
CD から好きな曲を録音することもできる。
これくらいなら、まあ技術は進んだもんだなって
感じですむ話しだ。
僕が驚いたのはこのソフトの機能の一つ、
ヴィジュアライザーだ。
音楽をプレイしながらヴィジュアライザーを on にすると
抽象的できれいな映像が現れる。

しかもその映像が見事に音楽にシンクロするのだ。
好きな曲を何曲もインプットしてランダムにプレイさせる。
部屋は暗くして、ウィスキーなんかを片手に
音楽に合わせて変化していくモニターを見つめる。
いつまでも見てしまうくらいきれいで気持ちいい。

No.00427　01.09.19

沈香

京都でお香の専門店に行った。
前に来たときは白檀を買ったが、今回は沈香を買った。
家に帰って焚いてみると　昔、親父が焚いていた香りだ。
京都に行く前日、親父が夢に出てきた。
この香りに出会う前触れだったのかな。

No.00428　01.09.20

ランチ

会社勤めの頃の楽しみのひとつはランチだった。
銀座のそばに会社があったので、
いろんなレストランにいった。
当たりもあれば、はずれもある。
誰と一緒に行くかも楽しみの一つだった。
会社の話やうわさ話、近況などを話し合い、
午後の仕事のエネルギーを得た。

No.00429　01.09.21

本音

ニュースで言っていた、50%以上の人が開戦を支持すると。
銀座でインタビューを受けた人が言っていた、
「あれだけひどい目にあえば攻撃するのは当然でしょう」
思わず殴りかかりたくなった。
僕のなかにも暴力の芽はある。
だから開戦支持の人を責めるつもりはない。
悲しみは怒りにすぐにすりかわる。
暴力に訴えたい人も、平和を求めるから攻撃する。
平和を訴える人は、その思いを受け止めなければならない。
他人の思いを受け止めるのは大層な仕事だ。
でも、それをいまする必要がある。
平和を訴えるために大人になる必要がある。
僕の中でも怒りの感情があふれてくる。
それを受け止めながら、他人の思いも受け止める。
アップアップだ。
でも、それをすることによって平和が訪れるなら
喜んで受け止めよう。
愛する人が心地よくこの世界に生きていられるために。

No.00430　01.09.24

やさしい答え

私には羽根がないと人の言う。
足があるじゃないか。

私には能力がないと人の言う。
隣の人に頼めばいい。

私には戦争など止められないと人の言う。
隣の人にやめようよと言えばいい。

攻撃されたら反撃できないと人の言う。
向こうも殺されるのが恐いのさ。

相手が恐くて殺しにかかれば
相手もこっちを殺しに来る。

握手しに行けないの？
ハグしに行けないの？
話しあいに行けないの？

一緒に食事でもすればいいのに。
どうしたら平和になるのか、
よいアイデアも浮かぶかもしれない。

No.00431　01.09.25

さんまにすだちと大根おろし

秋になるとさんまが食べられる。
焼いたさんまにすだちをかける。
いと旨し。
醤油をたらした大根おろしをさらにのせる。
さらに旨し。
ご飯をがばっと口に含み、幸せ。

No.00432　01.09.26

ひとりでいること

ひとりでいることが好きだ。
ただ黙って静かにしていてもいいし、
好きな音楽を聴いてもいいし、
本を読んでもいいし、
ウィスキーをすすってもいいし、

葉巻の煙をくゆらしてもいいし、
ネットサーフィンしてもいいし、
原稿を書いてもいいし、
寝てもいいし、
散歩してもいいし、
瞑想してもいいし、
お香を焚いてもいいし、
掃除をしてもいいし、
一輪挿しに花を生けてもいいし、
太鼓を叩いてもいいし、
テレビを見てもいいし、
畳に寝っ転がってもいいし、
ご飯を作ってもいいし、
やることはいっぱいある。

No.00433　01.09.27

インターネット

ほぼ 10 年前、正確にはいつだったか忘れたけれど、
はがきを書いた。
今のブッシュ大統領のお父さんに宛てて。
「Stop the war !」
それ以外には何もできなかった。
当時のニュースは湾岸戦争を他人事のように報道していた。
戦争にお金を出すか出さないか、そんな話しばかりだった。
10 年経っていまの僕たちはインターネットを使って
互いの意見を確かめあい、お金を集めて反戦活動をしている。
すごいことだ。
コミュニケーションが密に取れるようになると
戦争はどんどんとしにくくなる。
いままでもメディアの発達によって回避された戦いが
きっとある。
テレビがあって他国の番組をかけるようになると
その他国に対して戦争をしにくくなる。
その国にも自分たちと同じ感情豊かな人間が
暮らしていることがわかるようになるからだ。
インターネットでは、他国の人と友達にまでなってしまう。
戦争なんかできっこない。
アフガニスタンの人たちとは、なかなかお話できないけど、
世界中がつながっていることを
実感している人が多くなったから
話したことのない人にまで共感するのだろう。
アフガニスタンを映したテレビの映像も一役買っている。
メディアって、すごいよなぁ。
インターネットも、すごいよなぁ。
そう、僕の感情を届けちゃったりするもんなぁ。

No.00434　01.09.28

空飛ぶひばり

僕が中学三年のとき、ゴッホの展覧会に行った。
会場に入ると一番に見られたのが「ひばり」という絵だった。
黄金色に輝く麦畑の上をひばりが飛んでいる絵だった。
そのときの麦畑の色はきつい黄色だった。
現実にはないような、まっきっきの黄色だった。
でも、その麦畑の色を見て以来、
秋の稲穂のなかにその黄色を見つけるようになった。
赤い夕日に染まる黄色い稲穂の波の中に
ちらりほらりとあの、それまでは見ることのなかった
黄色が見える。

No.00435　01.10.01

金木犀の香りと眠気

季節の変わり目はからだがだるくなる。
だるくなって眠気が増す。
夏から冬へと動き出す今の時期はとにかく眠い。
この眠い時期に香ってくるのが金木犀だ。
僕は金木犀の香りが大好きで
眠気と相まって夢見心地だ。
青春の香りと肉体のデカダンス。
この季節の青い空は透明で
金木犀の香りとからだのだるさが
眠るように死んでもいいと思わせてくれる。

No.00436　01.10.02

12km 走る

No.414 に 8km 走ったことを書いたが
先日、12km 走った。
僕のジョギングは時速 12km で走る。
だから 8km 走るのに 40 分が目安だった。
先週、40 分以内で走れたので、距離を延ばした。
4km のコースを三周する。
目標時間は 1 時間だ。
おそらく 1 時間 5 分か、
遅くても 1 時間 10 分くらいだろうと思っていたが、
実際には 1 時間 3 分で走れた。
かなりからだが時速 12km に慣れてきた。
目標タイムの 1 時間をきったら、次は 16km だ。

No.00437　01.10.03

昨晩の月

2001 年 10 月 2 日 22 時 49 分、満月だった。
月はまんまる。
暖かい風が吹いていた。
僕の大好きな金木犀の香りを運んで。
空は晴れ渡り、夜なのに少し青く感じられた。

No.00438　01.10.04

2002 年のダイヤリー

銀座の伊東屋で 2002 年のシステム手帳用のリフィルを買った。
僕は日本能率協会の月刊ダイヤリーと週間ダイヤリーと
24 時間の 1 日計画表を組み合わせて使っている。
何も書かれていないリフィルにいろんなことを
書き込んでいくのが楽しみ。
僕の未来が生まれていく。

No.00439　01.10.05

フロリダキーズ諸島

マイアミからキーラーゴを通り、
キーウェストまで続くフロリダキーズ諸島は
フリーウェイでつながっている。
スポーツカーを借りて青い海の上を走っていく。
ラジオをつけていたら Bertie Higgins の
Just Another Day In Paradise がかかった。
シュガーローフキーでボギー&ビコールという
二頭のイルカに出会った。

No.00440　01.10.08

今日はお休み

今日は「日刊　気持ちいいもの」をお休みします。
悲しいです。
アメリカの同時多発テロのときも、今日も、
この悲しみを怒りに変えたい衝動がありました。
でも、アメリカの攻撃に対して怒る気にはなりません。
なぜ始めたんだという嘆きです。
アフガニスタンの人々が心配だというのもあります。
アメリカにいる人たちも心配です。
反撃がいつかあるでしょう。
小泉首相が攻撃したアメリカを強く支持するというのですから
日本も標的になるかもしれません。
日本が標的になると恐怖から
攻撃したいという衝動が生まれるかもしれません。
でも、恐怖に負けてはなりません。
自分を守ることは大事ですが、攻撃してはなりません。
悲しみは悲しみのまま見つめる必要があります。
恐怖は恐怖のまま見つめる必要があります。
悲しみや恐怖から逃れるために
別の感情を使ってはなりません。
悲しみや恐怖を抱えたまま、
コミュニケーションをとらなければなりません。
恐怖にかられた人は冷静な言動をする人に
「平和ボケ」だとか、「腰抜け」だとか言うでしょう。
その言葉に乗って怒りを抱えるとそのときから自分も誰かを
言葉で攻撃せざるをえなくなるかもしれません。
そんなときにも怒りの種がどこにあるのか、
しっかりとつかんでなければなりません。
恐怖にかられた人も冷静になれるように
自分が冷静でいなければなりません。
今日のような日は嘆きましょう。
悲しい人は泣きましょう。
そして、自分に何ができるか考えましょう。

No.00441　01.10.09

Fire in a bottle

飲みきって空になったウィスキーのボトルに
煙草の煙を吹き込む。
透明なボトルなら、中が真っ白になって
向こう側が見えなくなるほど煙を吹き込む。
わずかに残るアルコールが煙と絡まるように
ボトルにふたをしてよく振り混ぜる。
ふたを開けた瞬間にマッチかライターで口から火を入れる。
アルコールの絡んだ煙が口から底へと燃えていく。
まわりは紫で中心部がオレンジの炎がゆっくりと落ちていく。
本当にうまくいくとヒューー、ボッという音が聞こえる。
部屋を暗くすると一層きれいに見える。

No.00442　01.10.10

パイプの温もり

パイプは火が点いているような
点いていないような状態が続くのがいい。
あまり火皿の中が真っ赤だとパイプが熱くて持てなくなる。
ちょうどいい点き具合だと小鳥を持ったときのように
体温よりちょっとだけ温かくなる。
温かいパイプを手のひらに包むのがいい感じ。

No.00443　01.10.11

OK の答え

昨晩、ある国会議員に会った。
小泉首相へのよせがきの話をしたら
「私が手渡しましょう」と即答してくれた。

No.00444　01.10.12

僕流ロック

バーに行くとロックの氷が丸く削られて出てくることがある。
氷が丸いと体積の割に表面積が小さく解けにくくなるからだ。
家でロックを飲むときにも、この丸い氷が欲しいのだが
大きな氷をアイスピックで削って丸くするには熟練がいる。
そこで僕はロックグラスに半分ほど水を入れ、
冷蔵庫の冷凍室に入れておく。
ロックを飲むときに取り出し、上にウィスキーを注ぐ。
氷はすぐには解けないので、
ストレートに近いロックがしばらく楽しめる。
ある程度氷が溶けると、ポッコリと氷がウィスキーの中に浮く。
球体ではないが、円柱状の大きな氷のロックができる。

No.00445　01.10.15

アッシュトレイ

葉巻用の灰皿(アッシュトレイ)は目が飛び出るほど高い。
ひとつン万円だ。
それだけ払うなら、その分のお金で
葉巻を買って吸ってた方がずっといいと思っていた。
ところが先日、東急ハンズで¥1,500-の灰皿を見つけた。
すぐに買った。
しかしこのところ葉巻を吸う機会がない。
机の上にポツリと置かれたままだった。
アッシュトレイのいい使い方を見つけた。
パイプを置くのだ。
僕のパイプは底が丸いので普通に置くと寝転がってしまう。
ところが葉巻用の灰皿に置くと、
ちょうど丸い部分にパイプがはまり込み
火が点いたまま置いても倒れない。

No.00446　01.10.16

縅

手紙を書いて宛名を書き、最後に封筒に封をする。
封に「縅」と書く。
手紙を書き終えたという感覚がとてもよい。

No.00447　01.10.17

椿大神社

鈴鹿に行き、たまたま通りかかった道端に
「猿田彦大本宮　椿大神社」と書かれた看板があった。
猿田彦に興味があるので立ち寄ってみた。
お茶畑の中を車でしばらく走り椿大神社に着いた。
とてもきれいな神社だった。
参道が緩やかな上り坂で上りきったところに本殿がある。
参道の両脇には木々が茂り鬱蒼として暗いが
遠くの本殿には日が当たり輝いていた。
本殿の隣には天鈿女命を祭った椿岸大明神があった。
椿岸大明神の隣には滝があった。
参道のしっとりとした空気感と
本殿の晴れやかな雰囲気の対比がよかった。

No.00448　01.10.18

トレーナーの季節

トレーナーが気持ちいい季節になってきた。
空が青くなったり、たき火のにおいが懐かしくなったり
トンボが飛んだり、稲穂が黄色くなったり、
居眠りしたくなる季節になった。
日の光がぬくぬくとありがたい季節の始まりだ。

No.00449　01.10.19

フクロテナガザルの鳴き声

雨の中、千葉市動物園に行ってきた。
ゴリラについてのインタビューをした。
帰ろうとするとどこからか激しい鳴き声がする。
熱帯雨林のなかで聞こえてくるような鳴き声だ。
いったいそれが何の鳴き声か知りたくて
声のする方へと歩いていった。
巣箱の中で二頭のフクロテナガザルが鳴いていた。
じっと見つめていたら彼らは巣箱から出てきて
雲梯でブラキエーション(手でぶら下がって移動する)をした。

No.00450　01.10.22

etranger di costarica corporation の封筒

3 年前にロフトで見つけたとてもきれいな色の封筒。
東急ハンズにも置いてあった。
売り場では何色もの色が並んでいる。
色が鮮やかなだけでなく、紙の質も好き。
僕の愛用は黄緑と黄色。
手紙がたくさん届く人でも

この封筒で送られてきたら、きっと目につくはず。
会社の名前がオシャレで輸入モノだと思ったが、
本社は広島にあるそうだ。
ヤラレタねって感じ。

No.00451　01.10.23

電球

夜にのんびりしたい部屋には 60W 程度の電球がいい。
点けると温かみを感じるような電球がいい。
明るすぎない部屋では
風呂上がりに浴衣で寝そべってもいいし
作務衣で大の字になってもいいし
古びた本を黙って読むのもいい。
酒は旨く見えるし、煙草の火は明るく見える。
人の肌が温かくなる。

No.00452　01.10.24

星空

天の川が見えるような星降る夜は
宇宙の大きさに笑いが漏れる。
あまりに遠い星々が僕のちっぽけさゆえに
まるで同じ距離に見える。
大きな空という板に豆電球が光っているような。
僕がここから星を眺めているように
誰かが向こうからこっちを眺めているのだろうか。
もし眺めているのなら、いくつの目が？

No.00453　01.10.25

離陸の瞬間

滑走位置につき、いよいよ離陸。
エンジン音が高くなり、滑走路を走りだす。
どんどんと加速していくと
窓からの景色が傾きだす。
フワッと車輪が地面から離れると
からだがシートに押し付けられて
窓の景色は次第に空へと変わっていく。

No.00454　01.10.26

言葉の紙吹雪

いままで 453 の気持ちいいものを書いてきた。
それらを小さなメモに書いて部屋にまき散らす。
僕の過去についての 453 の断片。
そんなものは生きてきた長い時間の
ほとんど何も語りはしない。
なのに何かが胸をつっつく。
なぜか涙腺の蛇口が開く。
悲しいわけではない。
うれしい訳でもない。
形のない感情が内側から吹き上げる。
いったい僕は何に心を揺らしているのだろうか。
僕の内側に吹く風の正体はなに？

No.00455　01.10.29

キラウエア・ライトハウス

カウアイ島に行ったとき、
キラウエア・ライトハウスを探せと言われた。
サージ・カヒリ・キングという
カフナ(呪術師)に会うためだ。
ライトハウスというのは
<明るい家>か<正しい家>か聞き取れず、
行けばわかるだろうと車を走らせた。
大笑いした。ライトハウスは灯台のことだった。
崖の上に建つキラウエア灯台は美しく、
海鳥や船の往来を見つめていた。

No.00456　01.10.30

ピックアップトラック

アサヒビールが発売している
ゴリッチュというチューハイがある。
そのホームページの「ちょっとまじめなゴリラの話」を
僕が作っている。
アサヒビールはゴリラのキャラクターを使ったので
コンゴ民主共和国で野生動物保護や自然学習を推進させている
ポレポレ基金に対してランドクルーザーの
ピックアップトラックを寄贈することになった。
先日完成間近のピックアップトラックを見に行った。
正面と側面にゴリッチュのキャラクターと
ポレポレ基金の名前が入っている。
これに乗ってコンゴの人たちが草原を走るところを想像した。
荷台にたくさんの人を乗せて、
ゴリラや野生動物の調査に向かう。
内戦中の国で頑張っている人に
ちょっとだけ応援できた気がしてうれしい。

No.00457　01.10.31

トイレの隙間

昔住んでいた家には小便用の便器、朝顔があった。
朝顔の前に立つと目の前に小さな窓があった。
幼いころはその窓は高い所にあったが、
小学生の高学年の頃には窓と視線が同じ高さになった。
壁と窓枠のあいだにちょうど視線の高さが来たとき
そこに隙間を見つけた。
ほんの 1㎜ 程度の隙間だ。
背が低かったときには気がつかなかった。
ものすごい秘密を発見したように思えた。
でも、成長期の僕はあっという間に視線を高くした。
ほんの数週間で隙間はかがまないと見えなくなった。
自分が成長していることを実感した。

No.00458　01.11.01

群れをなして飛ぶ雀

名古屋から豊田に行った。
その途中でたんぼがあちこちに見られた。
電車の窓からたんぼを眺めていると
雀たちが群れをなして飛んでいた。
昔は東京でも見られたが、
いまではたまに数羽を見かける程度だ。
煙草の煙がゆらめくように
雀の群はうねりながら空を巡っていた。

No.00459　01.11.02

舞い踊る枯葉

枯葉がちらほらと落ちる季節になってきた。
ジョギングをしていると道に落ちている枯葉が
走る後ろをカラカラと音を立てて舞い踊る。
まるで枯葉たちが僕の足下でじゃれているように。

No.00460　01.11.05

日曜日の朝、都内のドライブ

日曜の朝は道が空いている。
晴れていれば空気が澄んでいる。
だから都内のドライブが楽しい。
普段はソロソロと進む道をスイスイと走ることができる。
ちょっとおしゃれなカフェでブランチでもしたくなる。

No.00461　01.11.06

スーフィーの物語

スーフィーとはイスラムの神秘家のことである。
ファキールとかダルヴィーシュとかとも呼ばれるが、
道に精通した者だけがとスーフィーと呼ばれ、
修行中の者をファキールとかダルヴィーシュと呼ぶ。
スーフィーの物語は単なる笑い話のように見えて
実は聞く者によっては深い気づきへのヒントとなる。
たくさんの物語があるのだが、
いくつかの教訓は読みとれたが、
いくつかは単なる笑い話にしか読めなかった。
久しぶりに読んでかつて意味のわからなかった話から
その教訓を得ることができると、ちょっとうれしい。

No.00462　01.11.07

昔観た映画をもう一度見る

「いちご白書をもう一度」よろしく、
昔観た映画をもう一度見る。
面白かった覚えはあるし、
ほとんどのシーンを記憶していたつもりでも、
覚えのない台詞や美しい画像をたくさん見つける。
その映画を見た頃の自分といまの自分が対話を始める。

No.00463　01.11.08

詩を書く

たまにインスピレーションが湧いたら詩を書いてみる。
いい詩かどうかはさておいて、
自分の心にピッタリ来るかどうか、
それだけをたよりに詩を書く。
怒りたければ怒ればいいし、
悲しければ悲しめばいいし、
笑いたければ笑えばいいような、
自分に素直な詩を書いてみる。

No.00464　01.11.09

柿

柿の季節だ。
かじると甘い汁がじわっと口に広がる。
固いのあり、じゅるじゅるのあり、ほどよいのあり、
食べる楽しみがある。
最近売られている柿には種がないが、あれでいいのだろうか。
ごっつい種が真ん中にいくつかある方が頼もしいと思うのは
僕だけだろうか。

No.00465　01.11.12

香港でのディスコパーティー

大学二年のとき、男四人で中国を旅行した。
香港から中国に入り、広州、桂林、西安、上海とまわり、
上海から香港へは船旅をして香港から日本に帰る予定だった。
広州と桂林で香港の若者と仲良くなった。
それぞれのグループと香港に帰ったらまた会おうと約束し、
香港に戻ったときにその約束を果たした。
ふたつのグループと一緒に会ったので
香港の町を二十人くらいのグループで遊び回った。
食事をして酒を飲んでディスコで踊った。
英語と広東語と日本語が乱舞していた。

No.00466　01.11.13

親父のカシミアコート

タンスを整理していたら、親父のカシミアコートが出てきた。
これはいいものがでてきたと勝手に着させてもらっている。
長年の使用でちょっとクタッとしているのがいい。
着やすくて柔らかい肌触りがいい。
あの世の親父も文句は言うまい。

No.00467　01.11.14

サンフランシスコ郊外の風力発電

10 数年前、サンフランシスコ郊外の風力発電を見た。
なだらかに続く丘にたくさんのプロペラが回っていた。
細長いプロペラが見渡す限り回っている光景は
まるで空想の世界にいるようだった。
風という見えないエネルギーを取り込んでいる
プロペラは、海面の波のようにそれぞれが不規則で
人工物なのに自然の無秩序を体現していた。

No.00468　01.11.15

田園の電柱

新幹線から見える田園に頼りなげな電柱が何本も
たるんだ電線につながれていた。
アイルランドにも似たような
頼りなげな電柱が畑のなかを走っていた。
少しずつ傾いた何本もの電柱にたるんだ、
いまにも切れてしまいそうな
電線がどこまでもつながっていた。

No.00469　01.11.16

駅すぱあと

出張先への経路が複雑だと到着時間が曖昧になる。
地方の私鉄に乗るときなど調べるのは一苦労だった。
ところが最近はそれがとても簡単になった。
インターネットの駅すぱあとで調べればいい。
出発駅と目的駅を入力し、
何月何日の何時に着きたいと指示すれば
即座に乗換駅や使用路線、時間や価格まで表示される。
乗り違えさえしなければ時間通りに確実に目的地に着ける。

No.00470　01.11.19

獅子座流星群

夜中にジョギングをしていたら大きな流れ星が空を横切った。
しばらく空を見上げて走ったらいくつかの流れ星が見えた。
ジョギングしながらでも見られるのだから
立ち止まったらたくさん見えるのだろうと
一度帰って風呂に入ってからもう一度でかけた。
陸上トラックの真ん中に毛布を敷いて
寝袋にくるまって空を見上げた。
あちこちに流れるので空全体を見なければならなかった。
二、三年前の流星群より数が多かった。
子供の歓声も聞こえた。
子供のうちから家族と一緒にこんな流星群が見られるなんて
うらやましく思った。
僕が幼い頃、流星群て来ていたかなぁ。
来ていても眠くて寝てただろうなぁ。
光の軌跡を残しながら輝き流れる流星群。
次に会えるのはいつのことか。

No.00471　01.11.20

電飾

クリスマスが近づくと町の木が電飾で飾られる。
眺めるのはきれいで好きなのだが、
どうして電飾を美しいと思うのだろう。
人は細かい光の集まりを無条件に美しいと思うようだ。
蛍の光も、星の光も、水面の輝きも、
チラチラと輝く細かい光は美しい。
だから女性はラメで肌を飾るのかな。

No.00472　01.11.21

しりとりえっせい

中島らもの「しりとりえっせい」を読んだ。
見事である。
博覧強記と異常なイマジネーションがより合わさって
嘘話のようで現実であったり、現実のようで嘘話であったり、
最後には嘘だろうが本当だろうがどうでもよくなって

105 編のエッセーはあっというまに終わる。

No.00473　01.11.22

ダルモア　シガーモルト

大阪に出張で行き、仕事を終えた後で
夕食を食べに心斎橋に行った。
着いたのがすでに深夜の 12 時だったのでラーメンを食べた。
それだけで宿に帰るのもしゃくだったのでバーを探した。
どこもかしこも女性がつくような店ばかりで
静かそうな店はなかなかない。
ここはいいかなぁと思って入った店は客が僕ひとりだった。
しかし、モルトウィスキーがずらっとそろっていて
僕好みのバーだった。
いろいろ飲んだが、そこで印象に残ったのが
ダルモアのシガーモルトだ。
葉巻を吸いながら飲むと美味しくなるように
ブレンドされている。
オリファントのマーテリフを吸いながら飲んだ。
シガーモルトだけだと、多くのモルトウィスキーにある
アタックやピート香がない。
甘くてまろやかで深い味だ。
葉巻を吸いながら飲むと、葉巻のピリッとした味が
モルトに加わり、美味しくなる。
極上のハバナと飲むと最高だという。
いつかどこかでやってみたい。

No.00474　01.11.23

いちょう並木

いちょう並木が紅葉し始めると
不思議なことに端からグラデーションになる。
たまに一本だけそのグラデーションとは
関係ないのがあったりする。
大学の校舎に沿っていちょう並木があった。
夏まではいちょうの葉が太陽光を遮る
シェードになっていたが、
秋になって葉が落ちると日の光が直接校舎に入ってきて
窓際はポカポカと暖かかった。

No.00475　01.11.26

砂浜を裸足で歩く

暖かい日に砂浜を裸足で歩く。
足の下で砂の表面が形を変えていくのがわかる。
歩くとかかとが砂に埋まり、
体重移動によってつま先がめり込み、
足を蹴ると足の指の間に入った砂が後ろに飛ばされる。
足下を波が洗うと、足の下の砂がなくなっていく。
足の裏の端から次第に砂が抜けていき、
いつしか細い砂の山に立っている。
チリチリと変化する足の裏の感覚が面白い。
砂浜を歩くと砂と足の裏が会話をする。
会話の残り香は点々と残る足跡。

No.00476　01.11.27

ラインマーカー

ラインマーカーの仕事は線を引くだけ。
文字を書かせてもらったことがない。
どんなペンも白紙があれば役に立つ。
ラインマーカーは白紙があっても役立たず。
文字が書かれた本や書類がなければ役立たず。
文字の上をキューッと言いながら走っていく。
おかげで大事な文章はたくさん知っている。
いつか文字を書いてみたいと密かな陰謀を企んでいる。

No.00477　01.11.28

マルコポーロ

銀座にマリアージュ フレールという紅茶屋さんがある。
1854 年にパリで開店したマリアージュ フレールは
世界 30 数カ国から 400 種以上ものお茶を厳選し
扱っているそうだ。
マルコポーロはそこでブレンドされた紅茶だ。
思わずうっとりするような花や果物の香りがする。
ほかではかいだことのないすばらしい香りなので
知人宅で出していただいたとき、思わず「マルコポーロだ」
とつぶやいたら驚かれた。
一度かげば忘れられない香りなのだ。

No.00478　01.11.29

鉄独楽

その名の通り鉄でできた独楽。
普通の独楽は簡単に回せるが
鉄独楽はちょっとコツと力がいる。
一度回り出すとなかなか止まらない迫力を持つ。
親や学校は危ないからと禁止したが、
どっこい男の子は内緒で回していた。
禁止されてもやることでささやかなふてぶてしさと
独立心を養った。

No.00479　01.11.30

シャンプー

毎日のように頭を洗っている。
30 年間毎日洗っていたとすると
それだけでもう 10950 回も洗っていることになる。
好きでなけりゃやってられない。
シャンプーをつけて指を立てて頭皮をゴシゴシゴシゴシ。
お湯を流してシャンプーを流し、
またまた頭をゴシゴシゴシゴシ。
シャンプーがすっかり流れたら
タオルで頭をゴシゴシゴシゴシ。

No.00480　01.12.03

イニシュモア島

アイルランドにあるアラン諸島三島のうちのひとつ。
アランセーターはアラン諸島の特産品だ。
岩だらけの島だったが、そこに移住した人々が
海から海草を運び、岩の上に敷き詰め、牧草地にした。
ドゥーンエンガスの巨大な砦がそびえている。
砦の頂上は海に向かって崖になっている。
砦の頂上は広々と空が見渡せ、空を独り占めしたようだった。

No.00481　01.12.04

マティーニ

「マティーニをステアではなく、シェークで」
ジェームズ・ボンドがよく口にする台詞だ。
正確にはボンドの好みはウォッカマティーニらしい。
ベルモットの代わりにウォッカを入れたやつ。
007 の映画は僕の生まれた年から始まった。
幼い頃にはもう見ていたので、
よく登場するマティーニというお酒が
いったいどんなものだか飲んでみたかった。
はじめて飲んだのはいったいいつで、どこだったのか
もう忘れてしまった。
ただ、マティーニというと思い出すシーンがある。
上海から香港に向かう客船内のバーだ。
当時大学二年生の僕はカクテルの名前など
ほとんど知らなかった。
バーテンダーにマティーニを頼んだ。
しばらくして出てきたマティーニには
オリーブの代わりにらっきょうが入っていた。
飲もうとして口を近づけるとお酢のにおいがした。
以来マティーニを飲もうとするたびに
らっきょう入りのマティーニを思い出す。
トラウマだな、こりゃ。
思い出したらっきょうマティーニに混乱した頭は
オリーブ入りマティーニを飲んでやっと落ち着く。
フー。

No.00482　01.12.05

巻玉火薬鉄砲

子供の頃、よく遊んだ鉄砲は水鉄砲、銀玉鉄砲、
そして巻玉火薬鉄砲だ。
赤いテープのような紙に等間隔に小さく火薬が丸めてある。
その火薬を鉄砲の撃鉄が叩きつぶして音を出す。
巻玉火薬と銀玉鉄砲が両方使える鉄砲も売っていたが
銀玉鉄砲で撃ち合いっこをしているときは
いちいち巻玉も替えるのが面倒くさいので人気がなかった。
巻玉の火薬をはずしてアスファルト上に集め、
石で叩いてすごい音を出して遊んだりもした。
巻玉火薬鉄砲を撃つと火薬のにおいが残って
本物の拳銃を撃っているような気になった。
ちょっと改造して本物の拳銃にしようなんて
大まじめで話していた。

No.00483　01.12.06

追いかけてくる太陽

夕方頃新幹線に乗っていると太陽が夕日になりながら
どこまでも僕を追いかけてくる。
どんどん変わる景色は置き去りに
僕の見ている窓を追いかけながら
いつまでも太陽への光の道を見せてくれる。
幼い頃、それが不思議で仕方なかった。
兄がからかって
「ほら、太陽や月はいつまでも
　ようちゃんのことを追いかけてくるよ」
と言う。
「なんで太陽や月は僕を追いかけてくるんだろう」
とまじめに悩みながら僕が世界の中心なんだと思っていた。

No.00484　01.12.07

ヘロン島

コテージのある区域から少し離れると、
風の音と鳥の声しか聞こえない。
島のまわりを珊瑚礁が覆っているので
波の音すらほとんど聞こえない。

島から遠く離れた珊瑚礁の際近くで
大きな波がドドーンと鳴るのがかすかに聞こえる。
太陽が出ると目が開けられないほど照り返す白い砂。
砂浜をどこまでも歩いていくと、20〜30分でもとの位置に
戻ってしまうくらい小さな島。
数十万羽のクロアジサシが飛び交い
歩いていると頭にぶつかりそう。
季節になるとウミガメが産卵に来る。
僕が行ったときには孵化したヨチヨチ歩きの
ウミガメがよっこらしょっこらと砂浜を歩いていた。
波打ち際まで歩いたら、波にさらわれて海に入る。
オーストラリアのグレートバリアリーフにある
珊瑚礁が隆起してできた島。
シュノーケリングで海に入れば
いろんな珊瑚の博覧会。
一日白い砂浜に寝転がっているだけでも行く価値がある。

No.00485　01.12.10

本を書くこと

いま本を書いている。
書き始めるときには見えていなかった
様々なことが書いているうちに姿を現す。
なんとなくは知っていた、
言葉にならなかったあれこれが姿を現す。
言葉は魔術だとつくづく思う。

No.00486　01.12.11

バー

出張で知らない街に行くと
ビジネスホテルでひとりで寝るのもつまらないので
よさそうなバーを探す。
いいバーに出会うと気持ちよく酔えて
ホテルに帰ってぐっすり眠れる。

No.00487　01.12.12

魔術

魔術が気持ちいいものかどうか、僕は知らない。
ここで紹介したかったのは「魔術」というタイトルの本だ。
ディヴィッド・コンウェイが書いた。
日本では理論篇と実践篇の二冊に分冊されている。
もちろん摩訶不思議なことがたくさん書かれているのだが
心理学的なことも書かれていて面白い。
魔術を扱う人が何を信じ込み、何を無視するのか。
きっとヒーリングに興味のある人は目を背けるのだろうけど、
そういう人ほど読んで欲しい。
ヒーリングと魔術は紙一重だ。

No.00488　01.12.13

ハワイの塩

ハワイに昔から伝わる塩の作り方。
バナナの葉を舟形に折り、真ん中に溶岩性の黒い石を置き、
そこに海水を張り、日向に置いておく。
乾いたらまた海水を張り、何日かそれを繰り返す。
バナナの葉に塩がたまる。
そうやって作った塩で料理したら
太陽のエネルギー、海のエネルギー、
バナナのエネルギー、風のエネルギー、
星空のエネルギー、月のエネルギー、
石のエネルギー、ハワイのエネルギーで
どんなものになるのだろう。

No.00489　01.12.14

月の光

月の光が明るいと思うとき。
月影が足下からのびているとき。
夜の海がキラキラと輝いているとき。
夜露のカーテンが妖しく透けて見えるとき。
冷たい色にシーツの波が光るとき。

No.00490　01.12.17

脱稿

新しい単行本の原稿が書き上がった。
来年の二月頃発行の予定だ。
何日もかかりきりだったのでほっとしている。
ウィスキーの味も格別である。
さて、次の本を書き始めなくてはならない。
後回しにした本を早く書き上げないと
次の企画は決められないぞ。
でもその前に、二、三日ぐっすりと眠りたい。

No.00491　01.12.18

冬の星空

凍りそうな空気が張りつめている夜空を見上げると、
明るい星がたくさんまたたいている。
白い息が風に流され、星空の冷たい音が聞こえてきそうだ。

No.00492　01.12.19

無意識のつながる夢

二週間ほど前に不思議な夢を見た。
御蔵島でイルカと泳ごうとすると
海の中にたくさんの人が入ってきた。
目が覚めてなぜか「無意識がつながりだした」と思った。

No.00493　01.12.21

雪の結晶

濃い色の布の上に雪を落として結晶を観察する。
なぜ六角形になってしまうのか。
どうしてみんな違う形なのか。
なんでこんなにきれいなのか。
いくつもの疑問についたため息が雪の結晶を溶かしてしまう。
疑問は解けないままなのに。

No.00494　01.12.24

パラディーゾ

近年買ったＣＤのなかで一番のお気に入りだ。
発売は 1998 年で 3 年前。
セルソ・フォンセカとロナルド・パストスが
プロデュースしている。
打楽器の深い音がしっかりと録音されていて
メロディーや歌詞を感じる前にその音だけで
魅了されてしまう。
ストリングスとギター、時々流れるブラスの響き、
そして種々の打楽器が
ゆったりとしたブラジルのリズムに乗って気持ちいい。
ヴォーカルのセルソ・フォンセカは
ジルベルト・ジル、カエターノ・ヴェローゾ、
ミルトン・ナシメントらと共演をしてきた影の実力者。
カーステレオでかけるとたいてい同乗者に
これは誰の何というＣＤだと聞かれる。
どんな時にかけても、僕の頭に天使の輪をかけて
パラダイスにこころ漂わせてくれる。

No.00495　01.12.25

プロ・マウス

最初の iMac についていたマウスは小さくて使いにくかった。
最近の iMac についてくるプロ・マウスは
大きさもちょうどいいし、デザインもいいし、
使い心地もいい。

No.00496　01.12.26

えりまき

服のコーディネートを考えて
どんなデザインのものを巻くのか悩む。
若い頃にはいかにも手編みのえりまきをしていた人が
たくさんいた。
恋人同士でおそろいだったりしてね。
大人になると手編みのものより
デザインやブランドにこだわる。
巻き方もたくさんあるしね。
寒い季節には必需品だ。
今日はどれをしていこうか。

No.00497　01.12.27

Tamera からの手紙

アメリカの同時多発テロが起き、
報復攻撃が始まろうとしたときに
ブッシュ大統領への抗議のメールを送ろうと
キャンペーンを始めて数日後、
ポルトガルから一通のメールが来ました。
反戦活動についてのメールでした。
僕が出した何通かの英文メールの一通が
巡り巡ってポルトガルにまで届いていたのです。
みなさんのものときっと変わることのない
平凡な僕のこの机の上から送ったメールが
静かで、力強い、平和を求める他国の人との
絆を作ってくれました。

No.00498　01.12.28

冗談の応酬

ちょっとお酒が入ったりして、
思いっきり気の許せる友達なんかと
普段ではとても聞けないようなどーしようもない冗談を
丁々発止とやりあうのはなんともかんとも頬がゆるむ。
あとで思い出そうという気にもなれないような
ガックリと肩を落としてしまいそうな

あくびしかけたスッポンが首をすくめてしまうような
「あんたに〜」と歌いかけた世良正則が
くしゃみをしてしまうような
ビン・ラディンが思わずひげを剃ってしまいそうな
魔法使いサリーのよしこちゃんがソプラノで歌い出しそうな
なめくじが整列して元気よく行進してしまいそうな
そんな冗談の応酬をしたい。

No.00499　01.12.31

大晦日

正月は静かに過ごすのがいい。
そのためには大晦日までに
しなければならないことがたくさんあった。
最近はコンビニはやっているし、
お店もあまり休まなくなってきたし、
挨拶回りをしている人がいるなんてほとんど聞かないし、
やることが少なくなった。
便利と言えば便利なのだが、
それで失った物もあるだろう。
昔の正月は外出しても
やっているお店がまったくなくてお菓子さえも買えなかった。
でも静かで、なにか気持ちよさがあった。
バリでニュピを体験するたびに昔の正月を思い出す。
2002 年になる瞬間、今年も無事に終わったことを感謝しに、
除夜の鐘でも突きに行こうか。

No.00500　02.01.01

初詣

除夜の鐘がなりはじめたら近所の氷川神社に行った。
鳥居をくぐるのに並んで待った。
境内に入ってお参りするのに二十分ほど待った。
寒い中待ったがなぜか嫌な気がしない。
お賽銭を投げ入れ、大きな鈴を鳴らし
二礼して二拍して一礼してその場を去る。
今年は素敵な年になりますように。

No.00501　02.01.07

紛失

No.00502　02.01.08

パラメモリーごっこ

パラメモリーという機械がある。
ステレオで音を発信し、それをヘッドフォンで聞く。
左右のヘッドフォンはごくわずかに音程がずれている。
左の耳から入った音は右脳を刺激し
右の耳から入った音は左脳を刺激する。
別々に鳴っているので物理的にはうなることはないのだが、
右脳と左脳の情報がスムーズにやりとりできる人は
頭の中でうなりを生じる。
これによって記憶力がアップするのだそうだ。
この機械をまねして、パラメモリーごっこをやる。
被験者は真ん中に立ち、両脇に発信者を配置する。
発信者は鼻にかかった声で
被験者の耳に向かって「ウーン」とうなる。
反対側にいる発信者の音を聞き、
わずかに音程をずらす。
被験者は両耳のそばでわずかにずれている音程を聞くので
そのうなりにゾクゾクッとする。

No.00503　02.01.09

紛失

No.00504　02.01.10

るつぼ

「興奮のるつぼ」とよくいうが、
実際にるつぼを使ったことのある人は少ないだろう。
漢字で書くと坩堝となる。
僕も坩堝と書かれていたら、「うーん、どっかで見た」
とは思うだろうが、すぐに「るつぼ」と読めるかどうか
あまり自信がない。
るつぼは物質をそれに入れて強熱し、あとに残った
灰の分量を計って定量に使う。
大学生の頃何度もお世話になった。
るつぼは真っ赤に焼いて使う。
定量の精度を高くするために実験の直前に
一度空焼きして、水分を飛ばし、正確な重さを計る。
このときに真っ赤に焼けるるつぼがきれいだった。
磁器のるつぼが真っ赤になると、白かったその肌が
生きているかのように上気して見える。
わずか0.数ミリグラムの重さの違いを計るので
扱いはとてもデリケートで、なんかるつぼに恋しているような
そんな不思議な感覚を真夜中の研究室で味わっていた。

No.00505　02.01.11

水の記憶

今朝起きて顔を洗う手のひらからこぼれ落ちる、水の記憶

横殴りに降る雨
頬をたたき、腕をたたき、膝をたたき、すねをたたき、
かばんをびしょびしょにする、水の記憶

芝生に向かいホースでまく水
風に水滴が舞い上がり、いつしか自分も濡れていく
笑い声とともに手元にあらわれる虹、水の記憶

釣り糸をたらし、せせらぎを聞き、黙って水面を見る
とんぼがダンスを踊る
ステップとともにひろがる輪、水の記憶

クラスメートがプールへ飛び込む
夏の陽射しに歓声があがる
遠くまではねたしぶき、水の記憶

ジュースがほしいとこねた駄々
母の手にはひとつのコップ
無味無臭の透明な液体、水の記憶

つまずいて転んだ水たまり
顔をあげれば口に泥
きれいにしなきゃと洗われる、水の記憶

水の記憶

深い眠りと安息の場所
柔らかなビートが聞こえる
浸りきった深い心
目覚めるのか、遠い魂
暗くて静かで遥かな時間
永遠の循環
指を口にくわえる
チュバチュバと口を吸う
原始への回帰

水の記憶

水の記憶
海面にふりそそぐ雨
踊り続ける水滴
歌い続ける雨滴、波頭、風の音

水の記憶
森を流れる川
岩を削り、土をさらい、命を流す
いつかそそぎ込む、平野へと

水の記憶
田畑を育む静かな流れ
命に等しく力を与え、
いつかその場を去っていく

水の記憶

魂は、水の記憶と旅をする
昨日のこと、一年前の偶然、十年前の出来事、生まれた頃、
生まれる前、人間が現れた時代、
動物が生を謳歌したとき、生命が息づいたとき
魂のそこには水の記憶

水の記憶、未来への指標
水の記憶、もっとも懐かしいもの
水の記憶、永遠の旅

No.00506　02.01.14

ジャズ・ピアノ

大学生の頃ジャズ・ピアノを習っていた。
メロディーとコードを覚え、
コードに合うスケールを覚えてアドリブを弾く。
最初にテーマとなるメロディーを弾くのは
練習通りにやればいいのだからなんとかなるが、
アドリブは出たとこ勝負、うまく波に乗れると
素敵なメロディーが流れ出すが、
波に乗り遅れると何がなんだか訳の分からない音を出す。
この危険があるからこそ、
アドリブがうまくいくととても気持ちがよい。
緊張している心の中に
花が咲いたような気分になる。

No.00507　02.01.15

校正

新しい本の校正が終わった。
あとは印刷されるだけ。
出版されれば僕の言葉は
僕だけの言葉ではなくなる。

No.00508　02.01.16

高層ビルの最上階からエレベーターで降りる

所用でお茶の水に行ったついでに
後楽園の東京ドームホテルに寄ってみた。
43 階のアーティストカフェでコーヒーを飲んで帰ってきた。
エレベーターはガラス張りで、外の景色がよく見えた。
43 階から降りるエレベーターは僕ひとりだけだったので
窓に顔を近づけて下を見ながら降りてきた。
すごいスピードで地面が近づいてきて怖かった。
でも、その怖さがうれしかった。

No.00509　02.01.17

理科年表

世の中には僕の知らないことが山のようにあって、
理科年表を開くとつくづくその山の大きさにため息をつく。
レーザーの発振波長だとか、気体の臨界定数だとか
世界各地の月別平年気温だとか、
おもな恒星のスペクトル型だとか、固有運動だとか。
こういう数値を利用して仕事したり、
研究したりする人がどこかにいるんだよなぁ。
こういう数値を使って遊んでいる人ってのも
きっといるんだよなぁ。
どんな遊びをしているのか聞いてみたいなぁ。

No.00510　02.01.18

ラハイナでホエールウォッチング

マウイ島のラハイナは鯨漁の漁港だった。
いまでも鯨が集まってくるので
ホエールウォッチングのスポットになっている。
早朝、まだ夜が明ける前にたくさんの人が集まり船に乗り込む。
出航してしばらくするとマウイ島の裾から太陽が昇る。
朝日があたり西にたれ込めていた雲の中に虹が現れた。
日が高くなり海面が青くなると
遠くに鯨の噴く潮の柱が見えた。
近づくと何頭かの鯨が絡まるようにして泳いでいる。
空気孔からする息の音がシュッと聞こえる。

お好み焼きのへらのようなしっぽが
水を持ち上げてから沈んでいった。

No.00511　02.01.21

多人数でジャンベを叩く

ジャンベはアフリカのドラムだ。
コンガのように立てて叩くが足がないので
肩ひもで吊って叩く。
皮の真ん中を叩くとおなかに響くような低い音、
皮の端を叩くとかん高い音が出る。
何人かでジャンベを叩くと、
それぞれに叩く音が絡まって複雑なリズムを生み出す。
それがとっても気持ちいい。

No.00512　02.01.22

マミ

平成九年に VOICE の発行している
fai というメールマガジンで
「マミ」というタイトルの小説を連載していた。
五年ぶりに読み返すと、大筋は覚えていたものの
細かいところは忘れていて案外面白く読めた。
書いていた当時は一回分の原稿の量があまりにも少なく、
かなり削ったため不満だった。
でも、内容を忘れてから読むとちょうどよく感じる。
記憶って都合よくできているんだなぁ。

No.00513　02.01.23

消滅飛行機雲

高橋健司の本に「空の名前」がある。
それを見て雲や雨、風の名前を覚える。
そのなかに「消滅飛行機雲」という妙な名前の雲がある。
雲の中を飛行機が飛ぶことで雲をかき消し、
雲の中に飛行機の通った筋ができるのだ。
雲が薄い場合にはその筋が青空を空かして青くなる。
そんな雲ができるんだぁと思っていたが、
先日その写真を撮った。

No.00514　02.01.24

きのこのソテー

昨日ひさしぶりに料理をした。
しいたけ、しめじ、えのきだけ、まいたけで
きのこのソテーを作った。
軽く水で洗って適当に切って
オリーブオイルで炒める。
味付けは醤油とニンニクと少々の砂糖。
一人暮らしの頃の勘は鈍っていない。
ばっちりおいしくできあがり。

No.00515　02.01.25

ビン入り牛乳

僕が小学生の頃の牛乳はすべてビン入りだった。
飲み口の丸さやガラスの感触がよかった。
朝には町をカチャカチャと音を立てて
牛乳配達の自転車が走っていた。
夏休みのラジオ体操の会場に行く途中で
よく牛乳配達の自転車を見かけた。

No.00516　02.01.28

畳

昔はどこの町にも畳屋さんがあった。
最近はなかなか見かけなくなった。
昔は町のどこかで畳の張り替えをやっていたが
最近はとんと見なくなった。
それもそのはずで、最近では畳の張り替えは機械がやるそうだ。
昔は職人がでっかい刃物で畳の端を切り、
ぶっとい針でゴシゴシと縫っていたのだが。
張り替えたばかりの畳の部屋は
いぐさの香りがして懐かしい気分になる。
畳の上に寝っ転がると
畳のありがたさがしみじみとわいてくる。

No.00517　02.01.29

紙に描いた宇宙
小学生の頃、近所のヨシタカ君とよく遊んだ。
ヨシタカ君は漫画を描くのがうまかった。
ある日、ヨシタカ君のうちに遊びに行くと
ヨシタカ君の部屋が暗くなっていた。
部屋の壁には宇宙船から眺めた宇宙が描かれていた。
壁の手前には画用紙で作られた宇宙船の操縦桿があった。
ふたりで宇宙船で広大な宇宙へと飛び立っていった。
隕石が飛んできたり、UFO が飛んできたり、
怪獣と戦ったり、宇宙人と出会ったり・・・。

No.00518　02.01.30

とまとけちゃっぷ

先日一通のメールが来た。

内容は相互広告の依頼だ。
こっちのメールマガジンに広告を出すから
そっちにも広告を出してくれというものだ。
メールマガジンをやっていると月に何回かは
そういう依頼のメールが来る。
たいていは面白くもない金儲けのための
メールマガジンなので無視するのが普通だ。
ところが、そのメールはちょっとなんかが違う。
確認のために指定されたホームページを覗く。
うーん、なんとも楽しいホームページだ。
こういうホームページが世の中に増えればいいのに。
と、思ったので広告は OK し、
勝手にそのことをこうして記事にしてしまった。(笑)
だまされたと思って見に行ってごらん。
メンバーのページで登場人物を予習してから
絵日記を読むともう大笑いするよ。

No.00519 02.01.31

蕎麦うち

そば粉に水をまぜてこねる、こねる。
こねて耳たぶくらいの丁度いい堅さになったら
棒を使って平たく伸ばす。
三つにたたんで切りやすい大きさにしたら
大きな包丁で同じ太さに切りそろえていく。
ふつふつと沸騰する大鍋に蕎麦を入れてゆでる。
ゆであがったら水で洗って冷やしてざるに盛る。
蕎麦猪口に蕎麦つゆを注ぎ、
ネギやワサビやミョウガや大葉を適当に入れ
蕎麦をつけて食べる。
ズズーッ、ズルッ。
歯ごたえも香りもできたての蕎麦は全然違う。
蕎麦を噛んでプッツリと切れる感覚。
ほのかでほかにはたとえようのない香り。
そこに薬味が色彩を与える。
なんといいましょうか、旨いとしかいいようがありませんね。

No.00520 02.02.01

ふでばこ

就職して使わなくなった物にふでばこがある。
学生の頃は毎日世話になっていたのに
就職したら一切使わなくなった。
システム手帳に留めてあるシャープペンと
鞄に入れてあるボールペンですべてを済ました。
書類を作るのは必ずデスクだったので
マーカーや色つきのペンは机の引き出しに
入っていれば充分だった。
でも、考えれば学生の頃だって
たくさんの筆記具を持ち歩く必要なんかなかったのに
ふでばこにいろんなペンを入れて持ち歩いていたなあ。
ふでばこというと学生の頃の
なんだか訳もなく楽しい日々を思い出す。

No.00521 02.02.04

ゴディバのトリュフ

ベルギーにはたくさんのチョコレート会社がある。
そのなかでもっとも有名な会社のひとつはゴディバだ。
小便小僧のそばにあったショップで
ゴディバのトリュフを買った。
チョコレートは体温程度で
スムーズに溶けていくのがおいしい。
ゴディバのトリュフは表面のチョコレートが溶けて
中のチョコレートが出てくるときには
中のチョコが一層溶けていて、その層と味の変化がうれしい。
口の中で溶かすのではなく、噛んだときにも
外の層と内の層の違いを感じることができる。
冷えていても噛んだときのチョコのスムースさがあり
口で溶かしたときとは別の感覚が生まれ、
それはそれでまたおいしい。

No.00522 02.02.05

MEERA

僕愛用のお香はインド製の MEERA だ。
以前は探さなければ買えなかったが、
今ではちょっとおしゃれな小間物屋さんに行けば
たいてい扱っている。
お香のなかではもっとも安い。
いろんな香りがあるのだが、そのなかでも
サンダル(白檀)とココナツをよく使う。
サンダルは部屋で、ココナツはトイレで使う
僕はトイレの消臭剤が嫌いだ。
あの無神経なにおいの中にいると頭が痛くなりそうだ。
MEERA のココナツは香りがほのかでいい。
ほかにも何種類もあるので興味のある人は
いろんな香りを試すといい。
でも、こりゃだめだなっていう香りもあった。
なにごとも経験である。

どの香りが自分に合うか勘を頼りに見つけるといい。
自分の香りを探すのは楽しいものだ。

No.00523　02.02.06

フルーツのコンポート

朝食にフルーツのコンポートを食べた。
コンポートは普通砂糖で果物を煮るのだが
僕が食べたコンポートはグレープフルーツ、
オレンジ、メロン、グレープが
かすかに甘いシロップに漬けてあった。
果物はどれもほとんど生だった。
それぞれの果物に香りがあり、歯ごたえがあり、
味があり、かすかなシロップの甘さがあり、
食べるたびに音楽が転調するように
景色が変わり、感覚が変わり、味が変わり
とても美味しくて、いい朝だった。

No.00524　02.02.07

道具を手放す

使わない物をたくさん持っている。
それをひとつずつ手放している。
使わなかった椅子やアンプが壊れたステレオのスピーカー、
邪魔になったソファなどをひとに譲る。
なぜか気持ちがいい。
捨てるのは簡単だが、利用しきって捨てないと気分が悪い。
いろんなものを大切に使いきりたい。
自分が使い切れないのなら、使い切ってくれる人に譲りたい。

No.00525　02.02.08

Just when I needed you most

僕が大学受験のために夜更かしして勉強し、
寝る頃にラジオをつけると、
よくランディ・ヴァンウォーマーの
Just when I needed you most がかかっていた。
あれから十何年もたつのだが、
いまだにあの曲を聴くと思い出す。
部屋の隅にある小さな机で参考書や問題集に囲まれ、
夜食をとりながら勉強した日々。
足下には温風ファンがなり、ちっとも楽しくはなかったけど、
なぜかいまではいい思い出の日々。

No.00526　02.02.12

えんぴつ

ひさしぶりに鉛筆を使った。
鉛筆削りでジョリジョリジョリッと
鉛筆を削り、紙の上に字を書く。
鉛筆が紙の上を走る感覚が懐かしい。
紙の凹凸が芯を伝わって手に響く。
しばらく書いていると尖っていた先が
丸くなり、手に響く紙の感覚が変わっていく。

No.00527　02.02.13

成田山新勝寺

厄年なので厄よけのお札をもらいに
成田山新勝寺に行って来た。
厄よけのお払いをしてもらった。
新勝寺には美術館があり、公園があり、
公園では野点をしていて
池があり、食堂があり、噴水があり、図書館があり、梅が咲き、
大塔の中は立体曼陀羅のようになっていて、
まるで仏教テーマパークだなぁと思った。
お参りに来る人はほとんど自分が
仏教徒であるとは思っていないだろう。
でも、お参りする。
何人かの外人とも出会った。
彼らはもちろん物見遊山だろう。
そういう自由さがいいのだと思う。
梅はすっかり咲き誇り、もう春だよと訴えていた。

No.00528　02.02.14

バレンタインズ・ディ

毎年バレンタインズ・ディにはいくつか
チョコレートをもらうが、
今年は 2 月 14 日以前に四つもいただいた。
かなりうれしい。ムフフ。
チョコレート業者に踊らされているなぁ。
でも、うれしいからしょうがないなぁ。

No.00529　02.02.18

皮ジャン

大学生の頃に買ってもらった皮ジャンがある。
皮が柔らかく、カットやデザインもおしゃれだ。
それが僕の身体にぴったりで気持ちがいい。
たいていの服は肩幅や胸回りを合わせると

ウエストがダブダブになる。
ところがその皮ジャンはウエストをキュッと
絞っていてぴったりしているので
まるで僕の肌のようだ
袖の長さも日本製の既製服だとたいていは短いのだが、
その皮ジャンはオーダーメードのように
ばっちりちょうどいい長さだ。
会社をやめてしばらくして太って着られなくなっていたが、
ジョギングするようになって
またぴったりと着られるようになった。
20 年近くつきあっている僕の宝物のひとつだ。

No.00530　02.02.19

ストリングスの音

シンセサイザーでストリングスの音を出す。
僕のお気に入りは SY-77 のフルストリングスだ。
それでいろんな和音を出してはその音に聞き惚れる。
機材をそろえてかつてのように音楽を作りたくなる。

No.00531　02.02.20

セント・パトリック教会

尖塔の上にはケルティック・クロス。
荘重な石造りの教会。
アイルランドで一番重要な教会なのに
威厳と同時に親しみやすさがある。
ステンドグラスから降り注ぐ光は礼拝の人々を優しく包む。

No.00532　02.02.21

ハイテックポイント

なにか書類を書くとき、その紙質や字の大きさによって
この筆記具でなきゃ駄目と思うことがある。
再生紙の封筒に宛名書きをするときには
ボール Pentel がいいし、
ノートに何か書くときにはシャープペンがいいが、
なめらかな紙に細かい字を書くときには
PILOT Hi-Tecpoint V5　がいい。
細いペン先に小さな穴が開いていて
そこからインクが出てくる。
ボールペンではないので万年筆のように
紙に直接触れる感覚がペンから伝わる。
万年筆にはペン先が微妙に曲がる感覚があるが
ハイテックポイントにはそれがなく、
紙に触れる感覚がダイレクトに伝わってくる。

No.00533　02.02.22

太る身体

油断をするとすぐに太る。
三、四日に一度は 12km ほど走るが、一週間もさぼるともう太る。
ベルトの穴がひとつずれる。
もとに戻すためには三、四日に一度のジョギングを一、二週間
続けなければならない。
おかげでジョギングをさぼるわけにはいかない。

No.00534　02.02.25

新刊

僕の新刊本がやっと出た。
二年ぶりの新刊だ。
実はもう一冊ずっと書き続けている本がある。
なかなかそっちは完成しない。
今回出した本はすでに書くことのほとんどが明確だったので、
比較的簡単に書けた。
いまこの文章を書いている同じ場所、
同じコンピューターで書いた。
装幀されて本になるとなんか不思議な感じがする。
同じように書いたのに、かたや有料になり、
かたや無料。
文章の価値は有料になることによってつくのだろうか？
僕は違うと信じている。

No.00535　02.02.26

寝る

風邪を引いてしまった。
春になる頃かならずのようにひく。
喉が痛くて咳が出て熱っぽい。
起きているだけでもつらいので布団を敷いて寝る。
はぁ、甘露。

No.00536　02.02.27

ココナツ

バリ島でココナツの実をもらった。
殻に小さな穴を開けてなかのジュースをストローで飲んだ。
ジュースを飲みきったら
大きな石の角に殻を思いっきりぶつけて割り、
殻の内側についているゼリーのような白くて柔らかい部分を
スプーンですくって食べた。
ものすごく美味しいという訳ではなかったが、
なかなか割れない殻をやっと割り、

苦労して食べたので美味しく感じられた。

No.00537　02.02.28

タンデム

僕がまだ小学生の頃、兄貴が友達からオートバイを借りてきた。
うちの母親は兄貴がオートバイに乗るのは大反対で、
借りてきたことさえ母には内緒だった。
オートバイの後ろに乗せてもらい近所を走った。
当時はまだヘルメットがなくても許された時代で
髪の毛が風でボサボサになってしまった。
兄弟とはいえぴったりとくっつくことなんて
めったになかったが、
このときはぴったりとしがみついて走った。

No.00538　02.03.01

白鳥の取っ手

イエーツのお墓に行った。
教会の脇にお墓はあった。
教会に入ろうとすると、
その扉の取っ手が白鳥のデザインだった。
左の扉には右向きの白鳥。
右の扉には左向きの白鳥。
扉が閉じると二羽の白鳥がキスをする。
イエーツの Swan Song にかけてあるのか。
扉を開くとステンドグラスから射す光が
整然と並んだ木製のベンチに
色とりどりの影を落とす礼拝堂。
イエーツのお墓には、こんな詩が刻まれていた。
Cast a cold Eye
On Life,on Death.
Horseman pass by!

No.00539　02.03.04

風にはためく旗

見上げると風にはためく旗
パタパタと音をたて、
注目を一身に集める。
誇りや
団結や
戦いの意志や
祈りや
平和の願いや
喜びや
悲しみや
国や
学校や
なにやらかにやらを象徴し
ただひたすらはためいている

No.00540　02.03.05

ろうそくの火

アイルランドの教会で、キリスト像の前にたくさんの
ろうそくが灯されて置かれていた。
なぜ人は聖なる者の前に
火のついたろうそくを捧げるのだろうか。
お寺の本堂にもろうそくは灯されている。
ろうそくの火がはかないから？
光をもたらしてくれるから？
聖なる者を見上げるのに丁度良い明るさだから？
ゆらめく光が固い意志を鼓舞するから？

No.00541　02.03.06

ハレアカラの朝日

マウイ島に標高 3,030m の休火山がある。
まだ暗いうちに頂上に行き、朝日の昇るのを眺める。
休火山の火口は周囲 34km もあるのでそこに雲海ができる。
標高 3,030m だからとんでもなく寒い。
朝日が昇るといかに日の光が暖かいものかがわかる。
朝日が雲海に射すと、雲海はたちまち消えていく。
それまで雲ばかりで
いったい何を見ているのかよくわからなかったが
次第に火口が見えるようになった。
帰りは自転車を借りて一気に山を下った。

No.00542　02.03.07

ナベサダ

渡辺貞夫のファンだった。
兄貴の持っていた古いレコードでジャズに興味を持ち、
ナベサダを聞いてジャズにはまってしまった。
「カリフォルニア・シャワー」
「モーニング・アイランド」
「ハウズ・エブリシング」
と続く、デイブ・グルーシンの編曲による作品が好きだった。
「モーニング・アイランド」は
フルートのアドリブを全部コピーして吹いていた。
日本武道館でのオーケストラとの

コラボレーション・コンサートは聞きに行ってすごく感動した。
でもデイブ・グルーシンが編曲しなくなったら
急にさめてしまった。
かといってデイブ・グルーシンが好きなのではない。
デイブ・グルーシンのリーダーアルバムは悪くはないけど
とっても好きってほどではない。
ナベサダとデイブ・グルーシンの組み合わせがよかったのだ。
いまでもたまにナベサダのライブに行くが、
どうしてもあの頃を懐かしんでしまう。

No.00543　02.03.08

続けること

『日刊　気持ちいいもの』は今回で 543 回目だ。
99 年の 11 月からやっているから、
もう二年四ヶ月ほど続けている。
我ながらよく続くなぁと思う。
どんなことでもコツコツと続けるのは気持ちいい。
最近はジョギングをしていてもそのコツコツ感を味わう。
4km のコースを一周まわり、二周まわり、
三周まわるころには心はコツコツモードだ。

ある哲学者が毎日同じ時間に同じコースを散歩していた。
近所の人たちは哲学者がどこを通ったから今何時と
時計代わりに使うほど正確に同じ時間、
同じコースを歩いていた。
ある人が哲学者に聞いた。
「毎日同じ時間、同じコースで飽きませんか？」
哲学者は答えた。
「同じ時間に同じコースを歩くからわかる違いがある」

僕の場合はちっとも正確じゃないから
哲学者のようには言えないけれど、
何か通ずるものがあるような気がする。
リピートし続けるから生まれる何かがあると思う。

No.00544　02.03.11

平積み

「あなた自身のストーリーを書く」が
本屋さんで平積みされていた。
ちょっとうれしい。
本当はすごーくうれしいのだが、
ちょっと照れくさい部分もあるので
ちょっとうれしいということにする。
黄色い表紙がめだっていた。

No.00545　02.03.12

雨の日に車に乗せてもらう

雨の日、
フロントガラスの景色は流れ、
ワイパーが少しのあいだだけゆがみを直す。
雨滴の音がカーステレオに混ざり込み
悲しくないけどうれしくもない
不思議なメランコリックに巻き込まれる。
雨に打たれて行く人々をながめながら
自分はぬくぬくと移動していくはかなさ。
肌寒い湿り気を視覚にとらえながら
感じていないふりをする不遜な存在。
目の前のガラスに流れていく水滴を見つめながら。

No.00546　02.03.13

Water Color

ラジオをつけたら「water Color」がこぼれてきた。
大学生の頃よく聴いた曲。
大滝詠一のけだるい声と半音ずつ落ちていくベース。
野球帰りの少年たちが街を走り抜けただけで
どうしてしんみりしてしまうのか。
雨が好きな僕の胸をどうして斜めの雨の糸が縫っていくのか。
黙って見ていた伝言板に、いったい何が書かれていたのか。
「Water Color」はいまでも鮮やかに
水彩色の霧に包んでくれる。

No.00547　02.03.14

Web 版　『 気持ちいいもの 』

『日刊　気持ちいいもの』の No.00001 から No.00201 までを
ホームページ上で閲覧できるようにしました。
いくつかの『気持ちいいもの』には写真が添えてあります。
ゆくゆくはすべてのページに写真を添えたいのですが
いつになることやら。
私が気持ちいい程度にのんびりやっていきますので
あまり期待しないでください。

No.00548　02.03.15

春の風

今朝、ゴミを出しに外に出たらＴシャツでも平気なほど暖かく、
湿気を含んだぬるい風が
ほこりっぽいにおいをつれて過ぎていった。

今年の桜はもう咲きそうなところもあるというし、
氷河も予想以上の早さで溶けているというし、
いいのか悪いのか　ちょっと不安もあるけれど
春が早いのはいいことだよと
短絡的な答えも出したくなるような
新しい季節の兆しが見えてきました。

No.00549　02.03.18

暖かいこと

Ｔシャツだけでもしのげる。
朝起きてストーブがいらない。
お米をとぐのに冷たい思いをしない。
歩きながら鼻歌が出る。
散歩してつい寄り道したくなる。
いらない買い物をしたくなる。
何もしなくても幸せを感じる。

No.00550　02.03.19

ウィスキーのコピー

ウィスキーを飲むときの楽しみのひとつは
ラベルやケースに書かれているコピーを読むことだ。
たとえばラフロイグ 15 年には箱の内側に
こんなことが書かれている。

THE DISCOVERY OF LAPHROAIG FIFTEEN YEAR OLD SINGLE MALT WHISKY IS ALMOST NEVER A MATTER OF CHANCE.
MORE THAN LIKELY,TEN YEAR OLD LAPHROAIG,WITH ITS CHALLENGING EARTHLY,PEATY FLAVOUR HAS BEEN A FIRM FAVOURITE OF YOURS FOR A NUMBER OF YEARS.
NOW YOU ARE READY TO "GRADUATE" TO ITS RICHER AND MORE MATURE BROTHER.
SOME HAVE COMPARED THIS MOMENT TO THE EXPERIENCE OF CLIMBING ONE OFSCOTLAND'S RUGGED MOUNTAINS.
YOU HAVE BRAVED THE WILDS,FOLLOWED YOUR OWN INDEPENDENT WAY AND AT LASTYOU HAVE REACHED THE VERY TOP.
THE VIEW IS MAGNIFICENT - WELL WORTH THE EFORT.
YOUR FIRST SIP OF LAPHROAIG FIFTEEN YEAR OLD WILL REWARD YOU WITH THE SAME SENSE OF EXHILARATION.
THERE ARE VERY,VERY FEW "ULTIMATE" EXPERIENCES IN LIFE. ...

英語で読むとなるほど、と思うのだが、日本語に訳していくとなにやら頬がゆるんでくる。
シングルモルトのラフロイグ 15 年との出会いは
またとないチャンスだ。
あなたを何年もとりこにした
あの大地の香りとピートの香りを含むラフロイグの
10 年ものとの出会いに勝るとも劣らない。
いまあなたはさらにリッチで芳醇な
兄貴分へと卒業の時を迎えている。
この時をスコットランドの険しい山を登る体験と
比べる者もいる。
眼前に横たわる自然の脅威に屈することなく
ついにその山を征服し頂上に立つ。
その景色は素晴らしく、道々の苦労が報われる。
ラフロイグ 15 年の最初のひとくちは
同様の爽快感を与えるだろう。
そういう究極の体験は人生のなかで
そうめったにあるもんじゃない。

日本語にするとなんかクスッと笑えてしまう。
ウィスキーで酔っていると
そのおかしさはかみ殺すことができない。
日本酒に同じようなコピーがついてないのは
きっとこのクスッをどう書いても感じてしまうからだろう。

No.00551　02.03.20

サクラガサイタ

眠い日に照らされてサクラガサイタ。
みんな一度に命が芽吹く。
桜の咲いた思い出は入学式の記念写真。
今年のきっと思い出は卒業式の記念写真。
別れを惜しむあいつの肩に
はらりと落ちる桜の花弁。
入学式の頃にはもうつつじが咲いていたりして。
今年の桜は思い出と、現実の間に亀裂を入れて
感覚麻痺を狙ってる。
寝ぼけまなこの青空の下、うす紅色のサクラガサイタ。

No.00552　02.03.21

ビオレＵで髭を剃る

男の身だしなみの一つに髭剃りがある。
丁寧にきれいに剃りたいとは思うのだが、
ちょっとがんばると肌からチリチリと血が出てくるし
力を抜きすぎるとジャリジャリと髭が残り
なんとも気持ちが悪い。

先日、お風呂で髭を剃ろうとして
シェービング・フォームがなかったので
ビオレUを髭に塗って剃ってみた。
するといままで使ったどんなシェービング・フォームや
シェービング・ジェルよりもきれいに剃れた。
肌がつるつるで髭が一切残っていない。
これでしばらくは髭剃りにはビオレUだな。

No.00553　02.03.22

グーテンベルクの銀河系

長い間読みたくて読んでいなかった本を手に入れた。
グーテンベルクが印刷技術を作り出して
人間はどう変化したかについての本だ。
人間は新しいメディアを持つと変化する。
コンピューターがお手軽になる前とあとで世の中が
どう変化したかを考えるといい。
湾岸戦争では反戦論が集まったのは
ごく一部の集団内だけだった。
ところが今回の同時多発テロに起因する軍事行動には
いろんな意見が飛び交い、それらが個人の自宅の中に
コンピューターを通じて入ってきた。
それに呼応してテレビなどマスメディアが反応する。
同様に印刷術ができて人間はまったく変わったのだ。
知識が自由に入手可能になり、識字率があがり、
国家の意図と自分の意図の違いを如実に感じ、
未来について考えるようになった。

No.00554　02.03.25

キリンを見上げる

アフリカの国立公園でキリンと出会う。
キリンは歩いて近づくと怖がって逃げるが
車に乗って近づくと全然気にしない。
ルーフをあけて見上げると草をはみながら
黙って見下ろしてくる。
しばらくキリンと見つめ合ったままじっとしていた。
幸せそうなキリンの気分が僕に伝染してきた。

No.00555　02.03.26

ほめられるとよろこぶ花

先日、ある人が「うちの花はほめるといつまでも咲いている」
と言った。
そういう話はよく聞くが本当かなぁと思っていた。
そして気がついた。
うちの玄関の一輪挿しに飾ってある花は
今度の木曜日で九週目だ。
たいていは一週間、長くても三週間で
一輪挿しの花は枯れるものだ。
今回の花はいつまでもよく咲いているなぁと思っていた。
ところがさっきの話で思い出した。
うちでヒーリング・ライティングをやっているときに
三週目になっても元気なのでよく咲いているとほめたのだ。
すると四週目になっても、五週目になっても枯れなかった。
四週目も五週目も「まだ元気だ」とほめた。
そしてついに九週目がやってくる。

No.00556　02.03.27

ウダン

バリのお寺で礼拝するとき
男は頭にウダンと呼ばれるはちまきをする。
結び方が特殊で、はちまきの端がぴっと立ちかっこいい。
そこに花をさし飾る。
バリではすべてを陰陽と見る。
女が陰で男が陽。
大地が陰で太陽が陽。
人が陰で神が陽。
陰と陽が交わって新しい何かが生まれる。
人が陰と言っても、男はどちらかというと陽だ。
神の陽と男の陽は反発し合って交わることがない。
そこで神と交わるときには男は陰を装う。
そのためにウダンに花を飾る。
頭に花を飾るってなんか楽しいよ。
日本じゃなかなかできないからね。

No.00557　02.03.28

天の配剤

偶然にしてはいいタイミングだということがよくある。
あるときは人との出会いだったり、
あるときは一冊の書物との邂逅だったり、
あるときは町中で聞いた何気ない一言だったり・・・。
現代は出会いに溢れている。
天の配剤も粋なモデュレーションを起こしやすいのかも。

No.00558　02.03.29

ウォーターバック

アフリカには鹿の仲間がたくさんいる。
ディクディク、アンテロープ、エランド、

オリックス、インパラ、ガゼルなどなど。
それぞれにまた細かい分類がある。
僕が見たなかではウォーターバックが
一番堂々として格好良かった。
カメラを構えた僕をじっと見据え高貴な雰囲気が漂っていた。

No.00559　02.04.01

四月

四月はいい。
新しい出会いがある。
桜が咲く。
暖かくなる。
走るのが気持ちよくなる。
眠くなる。
服が軽やかになる。
何か新しいことをしたくなる。

No.00560　02.04.02

五輪書

読んだことあるかい、五輪書。
剣豪宮本武蔵が書いた兵法の書。
なんかやたら難しそうだけど、
実際に読むとそうでもない。
でも、さすが剣豪、含蓄が深い。
地之巻、水之巻、火之巻、風之巻、空之巻とある。
空之巻はたった三ページ。
でも、究極のポジティブ・シンキング。
いや、ポジティブ・シンキングの先の先。
不確定な心の動きさえも味方につける。

No.00561　02.04.03

シマウマ

ケニアの草原で印象的だったのはシマウマだ。
草をはみながらのんびりしていた。
赤土の赤や草木の緑、枯れ草の黄色のなかで
白黒のシマが鮮やかだった。
肉食獣から見えないようにするならば
もっと別の色なり模様なりがあるように思うのだが
なぜ白黒の縞なのだろう。
肉食獣の目からは見にくいのかなあ？
動物孤児院でブッシュを歩いていたら
ドカドカッ、ドカドカッと音がしたので振り向くと
シマウマがすぐそばを駆け抜けていった。
ボゴリア湖でフラミンゴの群れを背景に
のんびり歩いていた姿も忘れられない。

No.00562　02.04.04

マッサージ・チェア

母が好きで買ったマッサージ・チェア。
生前は父もよく座っていた。
かつて僕はあまり使わなかったが、最近はよく世話になる。
首から腰にかけてグリグリしたり、モミモミしたり。
風呂上がりとか食後とかに座ると
とても気持ちよいのでつい眠ってしまう。

No.00563　02.04.05

パイプ

成人してもしばらくは煙草を吸わなかったが
一度吸い始めるととことん追求してしまう。
はじめは煙草の銘柄をいろいろと変えて吸っていたが
ベルギーに行ってパイプも始めた。
ブリュッセルの街角にあった煙草屋は
ショーウィンドーに葉巻やパイプを並べていた。
店内に入ると葉巻やパイプの葉を買う人たちが
列を作って待っていた。
日本では列を作って煙草を買うなんてことはあり得ない。
つい興味を持ってしまった。
混んでいる店でパイプを買うのは落ち着かないと思って
その日は煙草屋を出た。
ブルージュで煙草屋に再び挑戦した。
前の日にその店の前を通りかかったとき
営業時間を確認した。
朝十時、開店とともにその店に入った。
ハンチングをかぶったおじいさんがカウンターのなかにいた。
「パイプを買いたいんですけど、はじめてなんです
　どんなパイプを買ったらいいでしょう？」
「よく見て、君が好きな形のパイプが一番さ」
「持ってみてもいいですか？」
「もちろんだよ。持ったときの感覚が大切だからねぇ」
生まれてはじめてパイプを買った。
持った感じがいい。
ツルツルとした木の肌の感覚がいとおしい。
年月が経つに連れて木の肌の色が深くなる。
火をつけると手のひらが暖かくなる。
右の犬歯が鋭いので、パイプも吸い口の右側が削れてしまう。
火をつけるまでの儀式がいい。

煙草の葉をボウルにつめる。
堅すぎても柔らかすぎても駄目。
適度な堅さにつめたら火をつける。
スパスパスパと吸って、表面に火がついたら
タンパーで煙草の葉をもう一度固める。
固め過ぎると吸えなくなるので要注意。
火がつくと口からボウルから煙を吐き出すことになる。
ゆったりと流れ出る煙がいい。

No.00564　02.04.08

記念写真

憶えていますか、あの記念写真。
二人で行ったドライブの目的地、崖から海を見下ろした
あの場所で撮った記念写真です。
あれからもうすぐ十年です。
あなたは約束を憶えているでしょうか。
あの日は夕焼けがとてもきれいでした。
今年もあの美しい夕焼けが見られるのでしょうか。
あなたのまねをして　雨も好きになってみました。
少しは大人になれた気がします。
約束の日、楽しみにしています。

No.00565　02.04.09

農夫のあいさつ

ロビナはバリの北側にある。
夕方、傾く日光を背に受けて
ロビナでたんぼを眺めてひとり歩いていたら
農夫がじっとこちらを見ていた。
稲と影が絡まるたんぼで
手を振ったら振り返してくれた。
片手でカメラを構え、
もう一度あいている手を振ったら
また振り返してくれた。
その瞬間をカメラに納めた。
遠かったけどニッと口元が微笑んだのを見た。

No.00566　02.04.10

マンデルブロ集合

曲線のなかに曲線が埋まり、波のなかに波が隠れ、
渦のなかに渦がうずまき、
形のなかに無限の形が織り込まれている。
天の川が見えるほどの星空を見上げたとき
自分の存在のはかなさを嘆くように
自分の存在の頼りなさを図形から読み込む。
繰り返す輪廻のような世の中の縮図。

No.00567　02.04.11

スカラベ

スカラベはエジプトでは生命の象徴である。
ケニアではじめて自然にいるスカラベを見た。
身体は美しく緑に輝く。
生命の循環にとって非常に大切な仕事をしている。
スカラベはスカラベのするべき仕事をせっせとしていた。
どんな仕事かは日本名を聞けばすぐにわかる。
スカラベ、日本名は「ふんころがし」。
スカラベの種類によって好みの糞が異なる。
水牛専門のスカラベもいれば、ゾウ専門のスカラベもいる。
スカラベは雄が糞を巣まで転がしていき
雌を招き入れて糞のなかに卵を産ませる。
幼虫が孵ると糞をしばらく食料とする。
糞の転がし方が面白い。
逆立ちをして、後ろ足で押していく。
糞から幼虫が出てくる様子を見てエジプト人は
糞から生命が湧き出てくるとでも思ったのだろうか。

No.00568　02.04.12

サンクスギビング

高校生の頃、通っていた高校のそばにあった
レンタルレコード屋さんで気になるジャケットを見つけた。
『December』と書かれた表紙に
雪原にひっそりと立つ白樺の写真。
ピアノソロのレコードだというのが裏を見てわかった。
ピアノソロのレコードには当時興味がなかったが、
表紙に惹かれて借りてみた。
家で針を落とすと寒くて乾いた空気を震わすような
凛として悲しいピアノの歌声が聞こえてきた。
一曲目『サンクスギビング』。
間もなく大学入試に失敗して浪人が決まる。
孤独な季節によく似合うメロディーだった。

No.00569　02.04.15

THE STUDY ROOM

上野駅の構内に『THE STUDY ROOM』がある。
小中学校の理科の教室にありそうなものを
たくさんそろえて売っている。
頭蓋骨や人体の模型、動物のミニチュア、顕微鏡や天体望遠鏡、

昔懐かしい電子ブロックに日光写真、
宇宙ゴマに恐竜の骨格模型などなどなど・・・。
そんなお店があるとは知らずに
たまたま通りかかって覗いて興奮。
小学生の頃に気持ちが戻ってしまった。
大人げないことこのうえなし。
「えっ」とか「こんなのがある」とか
「うそっ」とか「うほっ」とか
ひとりでぶつくさ言っていた。

No.00570　02.04.16

Ｔシャツで走る

昨晩は暖かかったのでＴシャツでジョギングした。
トレーナーとＴシャツでは走るときの爽快感が違う。
Ｔシャツだと風が肌をなでていく。
からだが軽いので速く走れた気がする。
今年はマラソンに参加する。

No.00571　02.04.17

On The Street Corner

はじめて聞いたのは高校生の頃、
吹奏楽部の三年上の先輩が持っていた。
当時は限定版で、もう手に入らないと言われた。
針を落とすと山下達郎の
ベルベットのように密なコーラスが流れてきた。
当時アカペラと言ってわかる人は音楽の通だった。
そんな時代のオーバーダビングによるコーラス。
よっぽどのもの好きしか買わないようなアルバムだった。
たった一度しか聞けなかったけど、強烈な印象が残った。
やっと大学に入り、アルバイトのお金を全部つぎ込んで
オーバーダビングのできるテープレコーダーを買った。
最初に録音したのは自分の声のオーバーダビングによる
コーラス「Greenfields」だった。
機材がないので何度録音してもどこか音程が狂った。
十数声のコーラスは完成したが、
「On The Street Corner」のようにはできなかった。
後日、再発売された「On The Street Corner」を手に入れた。

No.00572　02.04.18

お湯のたくさん出るシャワー

旅行に行って泊まった宿のシャワーが
あまりお湯を出さないとき
お湯が十分に出るシャワーのありがたみを感じる。
ケニアのシャワーはお湯が出なかった。
気候が暑かったからあまり気にならなかったけど
いまだに覚えているのだからやっぱり嫌だったのだろう。
中国西安のホテルのシャワーもお湯がほとんど出なかった。
汽車から降りてシャワーを浴びたので、
お湯というか、ほとんど水のお湯が真っ黒になった。
栓をひねると湯気が出るほどの
大量で暖かいお湯が出るシャワーがいい。

No.00573　02.04.19

ししおどしの音

気持ちいいものを思い出そうとしてふと浮かんだもののなかに
ししおどしの音がある。
日本庭園などにある、竹の筒に水が流され
いっぱいになると傾いて水が流れ出て
軽くなると元の位置に戻り、
そのときに空になった竹筒が石に当たり
「コーン」と鳴るあれである。
しかし、僕が実際に聞いたししおどしの音は
「ゴッ」という、あまりいい音ではなかった。
実物はあんなに情けない音だったのに
記憶のなかに鮮明に残っているししおどしの音は
「コーン」という気持ちいい音である。
なぜその気持ちいい音を覚えているのか
はっきりは思い出せないのだが、
恐らくテレビか何かで聞いたのだろう。
実物には触れていないのに持たされている記憶。
これでいいのだろうか？
「これでいいのだ」と天才バカボンの声を思い出した。
かなりメディアに冒されているな、僕は。

No.00574　02.04.22

障子から射す日の光

写真に撮るとよくわかるのだが、障子から射す日の光は白い。
まるで雪の反射が部屋の中を照らすような
真っ白な光が障子越しにやってくる。
真夏でもその光は涼しく感じられる。
かつて冷房がなかった頃の日本人は
その光に涼しさを感じていたのではないだろうか。
風鈴が聴覚を刺激して涼を運んできたように
障子の光が視覚を通して
涼を思わせたのではないだろうか。

No.00575　02.04.23

ジャパニーズ・ミュージック・ボックス

ジョージ・ウィンストンの「フォレスト」というアルバムに
「ジャパニーズ・ミュージック・ボックス」という曲がある。
はじめて聞いたとき、僕はインナースリーブも
ジャケットに書いてある曲のタイトルも読まずに聞いていた。
「ジャパニーズ・ミュージック・ボックス」がかかると
僕の意識は三十年以上前の「まんなかの部屋」に飛んでいた。
僕が小学校に上がる前、うちには部屋が三つしかなかった。
居間と書斎と「まんなかの部屋」だ。
「まんなかの部屋」は父と母と僕の寝室だった。
三人が川の字になって寝ていた。
その部屋には床の間と仏壇があり、
柱には棟方志功の版画がかかっていた。
床の間には古いダイヤル式の電話機と同じくらいの大きさの
水車小屋の形をしたオルゴールがあった。
水車を回すとオルゴールのゼンマイが巻かれる。
屋根の一部を持ち上げるとオルゴールが鳴った。
流れたメロディーは「五木の子守歌」。
「ジャパニーズ・ミュージック・ボックス」は
まさにそのメロディーだった。
編曲もほとんど同じだったが、少しだけ違う部分があった。
ところが、何回か繰り返し演奏されると、
次第に編曲がすこしずつ変わり、最後のリフレインは
まさに僕がかつて眠れないときにいじって鳴らした
あのオルゴールの音になった。

No.00576　02.04.24

ミルク・ゼリー

幼い頃、母がよくミルク・ゼリーを作ってくれた。
ゼラチンに牛乳と砂糖を混ぜ、型に入れて冷蔵庫で冷やす。
できあがると型から出してお皿に盛る。
スプーンでつつくとフルフルと震える。
口に含むと牛乳の味と香りがじわっと広がる。
舌の上でスルスルと溶けていく舌触りが美味しかった。

No.00577　02.04.25

水の音

水の音をきちんと再生できるスピーカーはめったにない。
水の音は高い音から低い音まで、
あらゆる周波数が含まれている。
だから心地よい。
水面に一滴だけ落ちる水の音。
あの、ポチャンという音にも
ピチッという高い音と、ポヨンという低い音が混在している。
ザーッという雨の音にも
ゴーッという低い音と、シャーッと言う高い音が混在している。
ザッパーンという波の音にも
ガッポーンという低い音と
ザザー、ピチピチピチという高い音が混在している。
様々な音程の混在が僕を夢見心地にしてくれる。

No.00578　02.04.26

バニヤンの木

マウイ島、ラハイナの港の目の前に大きなバニヤンの木がある。
ハワイで最大のそのバニヤンの木はカンカン照りの真昼でも
心地よい日陰を作ってくれる。
とっても大きな日陰なのでそこにはベンチがいくつかある。
犬と一緒に昼寝していた男がいた。
週末には絵描きさんが集まってきて絵を売っている。
ラハイナに画廊が多いのは
このバニヤンの木のおかげかもしれない。

No.00579　02.05.07

結婚式

友人の結婚式と披露宴に行って来た。
ほのぼのとしていていい結婚式だった。
披露宴の最後の新郎とその父親の挨拶がとてもよかった。
家族って、いろんな思いを共有しているけど
そのことについてあまり口にはしない。
それがはっきりするのが結婚式だ。
いつも強がりばかり言う奴なのだが
素直な心情を吐露されて、
ついホロッとしてしまった。

No.00580　02.05.08

林の中で沈香の香り
夜中にジョギングをして、
近所の大きな公園の中を走っていたら
どこからともなくかぐわしい香りが漂ってきた。
その香りがなにか、すぐにわかった。
その日、なぜか沈香の香りをかぎたくなり
沈香のお香を焚いたのだった。
公園の林から漂ってきた香りはまさにその沈香の香りだった。
走りながらそのにおいをかぎ、
からだのどこかにお香の香りが染みついていたのか

それとも本当にどこかから香っているのか考えてみた。
わからなかった。
ジョギングして感覚が鋭敏になり、
それまで感じなかった残り香を感じたのかもしれない。
林の中に沈香と同じ香りを発する木があったのかもしれない。
どちらにしても感覚が軽くなった。

No.00581　02.05.09

インターネット検索

知りたいことがあると検索サイトで
インターネットを検索する。
たいていのことは誰かがどこかで書いている。
旅行先は地名をいれればたいてい誰かが
写真入りで解説していたりする。
動物の名前を検索すれば　かなり詳しい性質を
読むことができる。
会ったこともない人がそれらを検索して読んでいく。
「ホームページを読んだ人が喜んでくれればいい」
もし多くの人がそう思ってホームページを
作っているのだとすると
それってとても素敵なことに思える。

No.00582　02.05.10

障子の張り替え

子供の頃、障子を破るのが楽しみだった。
普段から破りたいのだが、破れば叱られる。
唯一破っても叱られないのは、
障子を貼り替えるときだった。
パンチで破ったり、指をつっこんだり
ヒーロー気取りで連続技で破っていったり。
穴だらけになった障子にひらひらとついている
紙をきれいにはがし、母が障子を張った。
きれいに張られた障子を
また破る日が来ることを楽しみにしていた。

No.00583　02.05.13

カリンバ

ひとりで静かに演奏する楽器。
音程も音階も自由に作れる楽器。
耳を澄まさないと聞こえない楽器。
時々ビヨ〜ンと予想外の音が出る楽器。
ひとりで膝小僧を抱えるようなときに似合う楽器。
鉄の棒をはじいて音を出すのだが
その鉄の棒にわざわざ金属片を巻いて
ビリビリとしびれる雑音を楽しむ楽器。
流れる風に似合う楽器。
ひとりで弾いていると何も言わないのに
詩人になれる、そんな楽器。

No.00584　02.05.14

集中して本を書く

このところ気がつくと夜が明けている。
現在書いている本にかなり没頭している。
複雑な観念をひとつひとつ言葉にしているので
あっという間に時間が過ぎる。
この感覚がなんかいい。
充実していると言えば充実しているし、
むなしいと言えばむなしい。
こんなに時間をかけても
できあがった文章が数行の時は
ついむなしいことをしているように思ってしまう。
でも、それが僕にとっては大切な時間。

No.00585　02.05.15

富津

富津から富士山が見える。
目の前には浦賀水道。
海の先に横須賀があり、
ずっとその先に富士山が見える。
夕焼けを背景に影になっていく富士山が懐かしい。

No.00586　02.05.16

築地本願寺でのガムラン

もう何年前になるかなぁ、
築地本願寺でガムランを聴いたことがある。
演奏が始まると雨が降り出した。
はじめは鞄を頭に載せて雨をよけながら聴いていた。
演奏に合わせて踊る踊り子たちの迫力を感じて
頭の鞄を下ろした。
大きく見開かれてギョロギョロと動く目、
細かく震える腕と指。
まさにトランス状態だった。
ザアザアと降る雨は楽団の音のスパイスになった。
演奏が終わるとあれだけ激しく降っていた雨が止んだ。
見事にその場に神が降りてきたようだった。

No.00587　02.05.17

小糠雨

小糠雨が降る季節になった。
木陰にはいると雨にはあたらないが、
時々水滴がぽとりと落ちてくる。
外を歩けば服が湿ってくる。
でも、室内にはいるとすぐに乾く。
多少ぬれても寒くはないし、
顔に降ると涼しく感じる。
春になった証拠の一つ。

No.00588　02.05.20

雑草

庭に雑草が生えてきた。
毎年のように春過ぎには生えてくる。
毎年抜くのに毎年生えてくる。
君たちは偉い、がんばってる。
草の香りを放って自己主張しているけど
また今年も抜いてしまうな。
それでもまた来年がんばるんだろう。
そのねばり強さは尊敬に値するよ。
来年また会おうな。

No.00589　02.05.21

鐘の音

鐘の音にはいろいろある。
高いの、低いの、
大きいの、小さいの、
長く響くの、短いの、
深い音、浅い音、
うなるの、うならないの。
もちろんうならない澄んだ音もいいが、
僕はうなる鐘の音が好き
ゴゥオ〜〜ォ〜ン〜〜
頭の中を軽くかき回された感じ。

No.00590　02.05.22

モネの絵

幼い頃に母に絵の見方を教わった。
絵の全体のバランスを見るのに目を細めるのだ。
すると絵の細部はかすんで見えなくなり、
絵全体の色や構図のバランスだけが見えてくる。
モネの展覧会に行ってももちろん同じことをした。
驚いた。
色や構図のバランスが見えただけではない。
睡蓮が描かれているキャンバスの上に
突如として水面が現れたのだ。
睡蓮の絵はどれも水面に映っている遠景が特徴だが、
その遠景を映している水面が
目を見開いているときには見えないのに、
目を細めるとはっきりとそこに光の佇みを感じるのだ。

No.00591　02.05.23

二晩徹夜

ランナーズ・ハイというのは聞いたことあるが、
僕はどうやらライターズ・ハイになってしまった。
二晩徹夜してもまだ眠くならない。
次に書くべきことが心に浮かんで
それを書くと、またすぐに次の言葉がやってくる。
昨日は十二時間以上休まず机に座り続け、
腹筋がつってしまった。
もう寝ないと身体に悪いだろうと床につくことにする。
でも、まだ先が書きたいんだけどなぁ。

No.00592　02.05.24

麩菓子

昔の麩菓子は赤かった。
まわりの黒砂糖の部分が黒砂糖ならぬ赤砂糖だった。
食べるとカフカフといい歯ごたえだった。
赤い麩菓子は今では見られない。
懐かしくて黒い麩菓子を食べるがちょっと違う。
身体には黒い方がいいんだろうけど。

No.00593　02.05.27

夢で聞いた歌

昨日の朝、夢の中で歌を聞いた。
歌詞は忘れてしまったが、目が覚めても、
その歌のメロデイーを覚えていた。
何度口ずさんでも聞いたことのないメロディーだった。
夢の中で作ったのか、
どこかからかメロディーが降りてきたのか、
それとも昔の記憶の断片か。

No.00594　02.05.28

ヤシの木

南に行くとヤシの木がある。

ヤシの木があると必ず写真を撮る。
ハワイでも、バリでも、グレートバリアリーフでも、沖縄でも、
ヤシの木を見つけると写真を撮る。
ヤシの葉は光を反射する。
その反射具合で湿度がわかる。
空の青さとの対比で日射しの角度がわかる。
ヤシの木しか写っていない写真でも行ったことのある場所なら
そこがどこだかわかる気がする。

No.00595　02.05.29

禁断の果実

「禁断の果実」はベルギー産のビールだ。
その名の通り一度飲むと忘れられない。
バーで見つけるとついたのんでしまう。
ひとくち口に含むとまず甘みがやってくる。
そのあとにコクのある味が舌を喜ばす。
コリアンダーとオレンジピールの味だそうだが
そのようには僕には感じられない。
いったい何にたとえればいいのか考えてしまう。
まあ一度飲んでみることだ。

No.00596　02.05.30

増刷

もうすぐボーナスの季節だ。
友達が先日
「ボーナスがなくて寂しいでしょ」
と言うので
「そのかわり増刷があるよ」
と返事した。
なにもしなくてもお金が入る。
もの書きにとって増刷はボーナスだ。v(^_^)

No.00597　02.05.31

Evening Calm

近所のレストランで食事していたら
松岡直也の「Evening Calm」がかかった。
思わずフォークを止めて聞いてしまった。
海岸沿いをドライブするときにはまる曲だ。
大学生の頃を思い出す。
夏休みを過ぎた頃から卒論に忙しくなり、
毎晩一時、二時まで実験し、
翌日は朝の十時には研究室に入る。
猛烈社員顔負けの頃の思い出。

No.00598　02.06.03

東急ハンズ

東急ハンズには見知らぬモノがたくさんある。
書見台を探したら、プラスチック製の軽いのがあった。
財布を探したら、迷って困るほどいろんな種類があった。
ラッピングしようとすると箱やら包装紙やらたくさんある。
旅行用の鞄を探したら、革製のボストンバッグから
ゼロハリバートンのスーツケースまである。
なぜだか野球帽ばかり何十種類もあったり、
葉巻や手巻き煙草まで置いてある。
そうそう、銀製の梵字が書かれた指輪というのもあった。
もとはと言えば、手作りをするためのお店だったが、
そんなカテゴリーはいつしか越えて
ハンズらしい品揃えというものができあがった。
渋谷や池袋では待ち合わせの暇つぶしにもいい。
「こんなモノが！」という、発見の驚きがある。

No.00599　02.06.04

心地いいもの

「気持ちいいもの」というと、かなり多くの人が
性的なニュアンスを読みとるようだ。
僕自身ここに書いているものやことは
「気持ちいいもの」というよりは
「心地いいもの」と言ったほうが
ぴったりするような気がする。
だから明日 600 号を記念して改題をする。
「日刊　心地いいもの」
しかし、書いてみるとやっぱり
「日刊　気持ちいいもの」のほうがすわりがいいや。
改題取りやめ。
でも、ここの気分は　心地いいもの。
五感で感じる　心地いいもの。

No.00600　02.06.05

What a wonderful world

目に入る木々の緑、赤く咲く薔薇、
君と僕のために輝いている。
胸に秘めて言わないけれど、
なんて素晴らしい世界だろう。

空は青いし、雲は白い、
明るくて神に祝福された日、
暗く聖なる夜も、
胸に秘めて言わないけれど、
なんて素晴らしい世界だろう。

虹の色は愛らしく空に輝き、
行き交う人々の表情を照らしてくれる
友達に会えば握手をし、
「やあ、元気かい」なんて言うと
心から「愛しているよ」って答えてくれる。

赤ん坊たちが泣いている。
僕は赤ん坊たちが育つのを見守るよ。
赤ん坊たちはきっと僕が学ぶことより
ずっとたくさんのことを学ぶだろう。
胸に秘めて言わないけれど、
なんて素晴らしい世界だろう。

そう、胸に秘めて言わないけれど、
なんて素晴らしい世界だろう。

作詞・作曲　G・ダグラス、ジョージ・デヴィッド・ワイス
訳　つなぶちようじ

No.00601　02.06.06

塩水と宇宙の関係

コップの水に塩を入れてガラス棒でかき混ぜる。
小さな宇宙で分子はぶつかり、
互いに電子のやりとりをする。
まるでお話しをするように。

地球は太陽のまわりを巡る、
まるで宇宙をかき回すように。
かき回された宇宙は
生命を産み、育て、知識をもたらし
かき回されなければ生まれようのない、
不思議な結晶を生み出していく。
不思議な結晶はいつしか、
互いに秘密のやりとりをする。
まるでお話しをするように。

銀河系は巡り巡る。
まるで自分自身をかき回すように。
かきまわされた銀河は
たくさんの不思議な結晶を生みだし、
互いに秘密のやりとりをする。
まるでお話しをするように。

不思議な結晶は観察する。
コップの水に塩を入れてガラス棒でかき混ぜる、
その様子を。

No.00602　02.06.07

感情

僕たちの心にはいろんな感情が渦巻いている。
愛や憎しみや喜びや悲しみや楽しさやつらさや
気持ちよさや居心地悪さやなにやらかにやら。
それらを消そうとしても消えやしない。
僕たちにできることは　ただ感じること。
中途半端に感じてはいけない。
しっかりと感じること。
中途半端に感じると悲しみは怒りに思える。
中途半端に感じると後悔はつらさに思える。
中途半端に感じると愛は憎しみに思える。
しっかり感じて　感情の芯に何があるか、
それを探るといい。
自分の感情の振幅を観察できると
感情はすべからく　気持ちいい。
感情は僕を僕にさせてくれる。

No.00603　02.06.10

リニューアル

たまには新しくするのがいい。
いつも同じことを続けながら
ほんの少しずつ変化していく
その瞬間が気持ちいい。

しばらく続けて味わって
味わい尽くしたらリニューアル

No.00604　02.06.11

2002 年 6 月 9 日の夕日

2002 年 6 月 9 日の午後 5 時 30 分、
僕は近所のモスバーガーにいた。
そのモスバーガーは西に面している。
入り口のテラスの扉が全面開け放たれて
気持ちよく風の入ってくるお店になっていた。
西に傾いた太陽が店の奥まで照らす。
入り口脇のテーブルに腰掛け、僕は本を読んでいた。
斜めに差し込む日射しが入ってくる客を照らす。
背後から照らす光はすべての客の輪郭を輝かせ、
まるで天使の光背のように見えた。
僕の読んでいた本は禅についての本で、
悟りの境地を垣間見た。

No.00605　02.06.12

チャンス

十年ぶりくらいに大学の友達に会った。
彼は建築学部を出て、親父の鉄鋼会社を継いだ。
彼は彼のキャリアを生かし、
鉄筋の注文住宅を作るようになる。
「景気がいいと資本力を持っているところが有利だけど、
　いまみたいな時代は知恵とセンスだよね」
まったくその通りだと思う。
いい酒が飲めた。

No.00606　02.06.13

ワールド・カップ

どこにあるかもわからなかった遠い国から
スーパースターがやってくる。
なにを言っているのかわからない言葉を話す人が
遠い国からたくさん来る。
なにに喜んでなにを食べているのか知らない同士が
ボールのゆくえに一喜一憂する。
同じ話題で喜び、同じ話題で泣く素晴らしい瞬間。
あなたの魂を　見せてください。

No.00607　02.06.14

黒い瞳

渡辺貞夫の曲に『黒い瞳』がある。
シンプルな詩、シンプルなメロディーを
中学生のコーラスが歌う。
バックはブラジルのパーカッション・チームと
ナベサダの率いるジャズバンド。
うまいとかへたとか、そんな域を遙かに超えて
なぜか心が震えてしまう。
音楽で大事なのは技術だけではないことがよくわかる。
ナベサダの問いかけに中学生たちが全身全霊で答えている。

No.00608　02.06.17

月

月の魔力。
人は月に狂う。
月に溺れる。
月に吠える。

Lunatic
遠い記憶を聞き出す者。
いまの尺度は短すぎるから
あなたの行動は収まりきらない。

珊瑚が一斉に産卵する日
キリンが夜空を見上げる日
雁が長い旅に出る日
そこにはきっと月の力

遠くのあなたとここにいる僕が　一緒に見上げる
月

No.00609　02.06.18

ピーク・エクスペリエンス

言葉にしても意味のないもの。
夕日がきれいだった　とか、
イルカとシンクロできた　とか、
自転車に乗って気持ちよかった　とか、
コーラスがきれいにハモった　とか、
言ったところで通じない、その感動。
その中身がいったいなんなのか、
感じた本人しかわからない。

No.00610　02.06.19

声

生物学を専攻していた友人がある新説を唱えた。
両生類には声を出す種類と、出さない種類がある。
進化の系統はこの二種類の両生類で
ふたつに分かれた。
日本の学者は誰も相手にしなかったが、
アメリカの生物学者は驚き、
その説の基礎固めをしている。
声を出す両生類は知能を発達させ、
恐竜になり、鳥類になり、ほ乳類になり、
ヒトになる。

歌を歌うと力がみなぎる
気分が明るくなる
声がからだを震わせる
やる気が出てくる

声の良い人のそばにいると気持ちいいのも
きっと声の力。
全身全霊をかけて出す声に
鳥肌が立つのも声の力。

声の力は僕たちを
進化させてくれるのか

No.00611　02.06.20

ミニマル

ミニマル・ミュージックというものがある。
短いフレーズを何度も繰り返し演奏する音楽だ。

何度も　何度も　何度も　何度も　何度も　何度も
何度も　何度も　何度も　何度も　何度も　何度
も　何度も　何度も　何度も　何度も　何度も　何
度も　何度も　何度も　何度も　何度も　何度も

それでも産んでくれた親がいるから
君は再びここに来られたね。
君たちが繰り返すその苦労は、君たちの楽しみなのかい？
それともやはり、苦しみなのかい？

もしかして、僕たちに生きることを
教えに来たのかい？

No.00613　02.06.24

ぶらんこ

何十年かぶりにぶらんこに乗った。
すぐに大きく振ることができた。
子どもの頃には大きく振ったぶらんこから
飛び降りていたものだった。
いま大きく振った勢いで飛び出すと
僕の体重を足が支えてくれるか心配だ。
遠心力や重力のかかり方が子どもの頃とは違う。
思いっきり大きく振ると
一番後ろに行ったとき、
視線がぶらんこを支えている梁より高くなる。
その瞬間、無重力。
そこから一気に落ちながら
一番下で重力と遠心力に耐える。
そしてまた前に高く上がると
その瞬間、無重力。
無重力と過重力の行ったり来たり。

No.00614　02.06.25

掃きそうじ

庭の枇杷の木に今年も実がなった。
たくさんなったので鳥が食べに来た。
一番騒がしかったのはカラスだ。
来るとカァカァ鳴きながら一羽ずつ食べる。
一羽が木に留まっていると他のカラスは
みんな近くの電柱や建物の上で順番を待つ。
しかし、まるで「早く食べろよぉ」と言わんばかりに
カァカァ鳴いて待っている。
食べた後は種やら食べかけの実やらで散らかっている。
仕方ないので掃きそうじ。
今年も美味しかったろうと
掃きながらちょっと自慢げ。

No.00615　02.06.26

暗闇

バリのニュピでは夜中は真っ暗。
自分の手のひらさえ見えなくなる。
そのなかで朝まで起きていると
不思議な感覚がやってくる。
暗闇がちっとも恐くなくなる。
普段は自分の視覚でその他の感覚を
確認していることがよくわかる。
暗闇の中で手を合わせると
手のひらの暖かさだけが感じられる。
音もなく、ただ真っ暗ななかで感じる温もり。
もちろん自分が手を合わせていることは
体感でわかるのだが、
そのことを視覚で確認できない。
まるで暗闇が温もりをくれているようだ。
すると急に五感が愛しくなる。
かすかに触れるシャツの感覚、
わずかに聞こえる衣擦れの音、
時々感じる他人の体臭、
そして、ニュピ明けに食べるご飯の
とても美味しいこと。

No.00616　02.06.27

Kisses in the rain

去年 iMac を買ったら、そのなかに iTune という
音楽再生ソフトがインストールされており、
何曲かの音楽が入っていた。
そのうちの一曲が「Kisses in the rain」だった。
ミュートのかかったトランペットのメロディを
一度聞くと忘れられなくなった。
演奏者は Rick Braun。
Jazz トランペット奏者だ。
僕は知らないプレーヤーだったが、
「Kisses in the rain」がとても素敵だったので
そのＣＤアルバムを探して先日やっと手に入れた。
どの曲もよかった。
ＣＤのインナースリーブに URL が書かれていたので
見に行った。
そのアルバムはたくさんの賞を取っていた。
くぐもったミュートトランペットとギターが絡む。
ごくわずかに早く打たれる二拍目と四拍目の
リムショットも気持ちいい。

聞いていると雨を感じる。
レザーシートの新車で雨の街を疾走する。
そんなイメージが浮かんでくる。

No.00617　02.06.28

海外からのメール

コンピューターを手に入れて以来、
世界中の人たちとメールのやりとりが
できるようになった。
アメリカ、オーストラリア、ポルトガル、
ベルギー、インドネシア、ペルー、フランス
などからメールが来る。
英語で書かれたメールは遠くから来た感じがするが
日本語で来たメールは
どんなに遠くから来たメールでも
国内からのメールと変わらないため
なんか海外から来たという実感が湧かない。
「じゃ、明日会おうか」
なんて無理な約束をついしてしまいそうだ。
メールは距離感を失わせる。
つまりそれは、遠くにいる人との感覚的隔たりを
一瞬にして消してしまうと言うことだ。

No.00618　02.07.01

新幹線

大阪出張には必ず新幹線で行く。
当たり前に乗っているが、
もし新幹線がなかったら大阪出張は大変だろう。
飛行機に乗るには多少の覚悟がいる。
車で行けば到着時間が一定ではない。
あの 300 キロほどのスピードで
時間通り突っ走る新幹線があるからこそ
大阪出張は平穏無事に終わる。
車内は静かだし、
たまには有名人に会うこともある。
心地よい揺れが居眠りを誘う。
窓から見える風景は尽きることのないＢＧＶ。
深夜に梅田の行きつけのバーで飲むウィスキーが
美味しいのも、実は新幹線のおかげかもしれない。

No.00619　02.07.02

巨人の星

ひさしぶりに漫画雑誌を買った。
「ジョー＆飛雄馬」と題されたその雑誌は
僕が子どもの頃に夢中になって読んだ
「あしたのジョー」と「巨人の星」だけが
連載されている企画雑誌だ。
特に「巨人の星」は単行本を全巻読んでいた。
いま読み返すと
子どもの頃にはきっと読み込めなかった
いろんなエピソードや台詞にでくわす。
そして時々、子どもの頃の思いがけないことを
思い出す。
テレビで見ていた「巨人の星」が始まるときに、
柱時計の時間を合わせたこと。
オロナミンＣがコマーシャルに流れていたこと。
小学生の頃草野球で
中学生を相手に二塁打を打ったこと。
同じ試合で中学生の打った高いフライを
首が疲れるほど待って捕ったこと。
近所に住む一歳年上のヨシタカ君を
キャッチャーにして
剛速球を投げていた(つもりだった)こと。

No.00620　02.07.03

ジェット・コースター

高いところまで引き上げられ、
一気に坂を駆け下りる。
このときの無重力感覚がいい。
胃も腸も肺も肝臓も膀胱も脳も
からだのなかで宙ぶらりん。
あとはなるようにしかならない急降下。
一番下では重力と遠心力で顔がブルドッグ。
コースにしたがって振り回され、
プラットホームに着くと足はフラフラ。

No.00621　02.07.04

扇風機の前でアー

最近ではどの家庭でもエアコンが主流ですが、
僕の幼い頃にどの家庭にもあったのは扇風機でした。
回転する扇の部分に直接触れぬよう
網がかかっていますけど、
いたずら好きな僕は網のあいだから指を入れ、

回っている扇に触ってみるなんてことをしてました。
ちょっと間違えると怪我をする
そのスリルを楽しんだものです。
その扇風機の前でアーッて、声だしませんでした？
回っている扇風機の扇が音を反射して
アーーーーーってだしている声が
アゥアゥアゥって聞こえるんです。
イならどうかなとか、オならどうかなとか
高い声なら、低い声なら、
ガウガウガウならどうかななんて
一生懸命やってました。(笑)

No.00622　02.07.05

スター・ウォーズ

僕が高校二年の夏、
『スター・ウォーズ』が封切られた。
その年の六月にサントラを手に入れ
吹奏楽用に編曲して
九月の文化祭で演奏した。
七月に封切られると
ブラスバンドの面々と見に行った。
二作目は二年後に公開された。
そのときつき合っていた娘と見に行った。
「三作目も一緒に見られるといいね」と言いながら
それはかなえられなかった。
三作目を誰と見たかは覚えていない。
ただ、「三作目も一緒に来られるといいね」と
約束したのになぁと思っていたのは覚えている。
甘酸っぱい思い出である。

No.00623　02.07.08

白木のカウンター

高級な寿司屋さんのカウンターは
白木のカウンターが多い。
清潔な状態を保つために
何度も丁寧に拭かれた白木のカウンター。
手でなでると
微妙な木目のでこぼこがなんともいい。
自然の造形を肌で感じる。

No.00624　02.07.09

バーのカウンター

バーのカウンターに一人で座るのが好きだ。
カウンターの正面には
何本ものウィスキーのボトルがなくてはならない。
すべてのボトルのラベルがよく見えるように
ほのかな照明をあててなくてはならない。
その照明はウィスキーを変質させるほど
強くてはいけない。
女の人が宝石を愛でるように
男はボトルのほのかな光を愛する。
できればスコッチのモルト・ウィスキーが
たくさんあるとよい。
贅沢を言えば、バーテンダーが
モルト・ウィスキーについてのあれこれを
楽しく教えてくれるとよい。
さらに贅沢を言えば、
粋なつまみがあったほうがよい。
そして最後に、安いほうがよい。

No.00625　02.07.10

カハラ・ヒルトンのグラス

いまはもうないが、かつてオアフ島に
カハラ・ヒルトン・ホテルがあった。
中学生の時の国語の教科書に
川端康成が書いたエッセーが載っていた。
内容は、カハラ・ヒルトン・ホテルのレストランで
朝食時に輝いていたグラスについてだった。
ハワイの朝日がグラスにあたり、
キラキラと輝いて美しいさまを
エッセーにしていたのだ。
そのエッセーをなぜか母が読んでいた。
その数年前、父は川端康成に頼まれて
日本ペンクラブの事務局長を一年だけやっていた。
父が事務局長をしていたときに
川端康成は自殺してしまった。
そんなことがあったので、
余計に何か心の琴線に触れたのだろう。
中学二年のときに家族でハワイへと旅行した。
カハラ・ヒルトンに行き、
グラスの輝きを実際に見て、
母は感激を新たにしていた。
僕にはただの朝日に輝くグラスだったのだが。

No.00626　02.07.11

コウモリの大群

大学二年のとき、中国を旅行した。
まだ一般の日本人が中国を旅行できるようになって
二年目のことだったので、
まるで戦後まもなくの日本のようだった。
桂林の安宿に泊まっているとき
朝日が昇る前に目が覚めた。
ネズミがかけっこしていたからか、
エアコンがなくて暑かったからか、
そんな理由で目を覚ますと、
薄明るくなってきた空に
もやのように、渦巻きのように、
コウモリの大群が飛んでいた。
あれだけのコウモリの大群を見たのは後にも先にも
あの時だけだ。
あの大群、いまも飛んでいるだろうか。

No.00627　02.07.12

スーザン・オズボーンの声

僕が会社を辞めた年に
京都でグローバル・フォーラムが開催された。
世界中から著名な宗教家や政治家、科学者、芸術家、
などが集まり、地球環境について語り合った。
その会議で僕はボランティアで
メディアのサポートをした。
ポール・ウィンターのインタビューを
大阪のエフエム局にやらせたり、
日本の新聞記者だけを集めて
ゴルバチョフにインタビューさせたりした。
そこでスーザン・オズボーンに出会った。
その会議の主催によるディナーショウのトリを
スーザン・オズボーンがやるはずだった。
ところが彼女は会場に来なかった。
スーザンの伴奏をするはずのピアニストが
演奏で時間をもたせたが、
結局スーザンは現れなかった。
ディナーショウは終わり、
そこで知り合った
湯川れい子さんや石田桃子さんなどと
お話しをしていたらスーザンが現れた。
スーザンはゴルバチョフにディナーに招かれ
抜け出せなかったそうだ。
ピアニストにそれを詫びると、
約束通りふたりで演奏しようという。
そのときにはもうパーティー会場は撤去が始まり、
残っていたのは僕の他に十名程度だった。
スーザンはそんなことは気にせず歌い始めた。
最後の曲は舞台から降り、
居合わせた十人と一緒に肩を組んで歌った。
スーザンはポール・ウィンターのバンドで歌い
有名になった歌手だった。
ところがなぜかポール・ウィンターとは仲違いし
以来一度も会わなかったそうだ。
グローバル・フォーラムの席上で
ポールと何年かぶりで会い、仲直りをしたそうだ。
スーザンの声がいつもにまして輝いていたことは
言うまでもない。

No.00628　02.07.15

台風一過

台風が過ぎると青空が一層青くなる。
風は暖かく、ちょっと湿度を含むが
南の島の風を思い出させてくれる。
先日の台風の日、新幹線で九時間過ごした。
本が読めて良かった。
また次の台風が来るらしい。
そうそう、僕の友達が幼い頃からずっと
「台風一過」を「台風一家」だと思い込んでいたとか。
台風って、一つ過ぎたらまたすぐに次が来るでしょ。
あれを称して「台風一家」だと思っていたとか。
大きい台風はお父さん、小さい台風は娘、みたいに。

No.00629　02.07.16

鉋(かんな)をかける

鉋のかけ方を中学校で習った。
木に鉋をあてて一気に引く。
シャーッという音とともに
鉋から薄く削り取られた木くずが飛ぶ。
軽くて薄い木のくずは、
鯉のぼりとともに流れる吹き流しのように
風に漂い落ちていく。
木の肌のこうばしい香りがする。

No.00630　02.07.17

書くこと

毎日のように何かを書いている。
書くとはじめてわかることがたくさんある。
一度書いたことはあとで思い出しやすい。
複雑で入り組んでいて
なんと言っていいかわからないような体験は
ある程度文章にしておかないと
しばらくして忘れてしまう。
毎日この『日刊　気持ちいいもの』を書くのも
僕の感覚を文章と記憶にとどめておくためだ。
書かれた文章を読むことで、
あとで触発される記憶もある。
言葉は一瞬のひらめきだ。
いろんな角度でひらめく頭を
書くことで鍛えている。

No.00631　02.07.18

野球場

カクテルライトに照らされて
鮮やかに輝く芝生。
ファインプレーにどよめく観客席。
こだまのように響くアナウンスの声。
時々聞こえるジャストミートの音。
手元にはビール。
あこがれのチームのプレーを目の前で見る。
つい応援に声がかれる。

No.00632　02.07.19

夏休み

通知書をもらうと夏休み。
友達と会えなくなるのはちょっと寂しいけど、
寝坊をしてもかまわない夏休み。
午前中にテレビで漫画が放送され、
もくもく入道雲が空をおおい、
蝉がみんみん鳴く夏休み。
朝にはラジオ体操、
お昼過ぎにはメロドラマを見ながら昼寝、
日によっては学校のプールで泳ぎ、
宿題だけが悩みの種の夏休み。

No.00633　02.07.22

孤独な人

孤独な人がいた。
その人はひとりぼっちなので寂しいとつぶやく。
友を求めて街を彷徨う。
友と呼べる人が見つけられず
ひとり家に帰る。

孤独な人がいた。
その人はまわりにいい人がいないと嘆く。
まわりの人はみんな敵で戦わなければならない。
どこにいても疲れるばかり。
へとへとになって家に帰る。

孤独な人がいた。
その人は自分にふさわしい友がいないという。
まわりの人は話が合わない。
私の感じる美を見つけることができない。
くだらない人ばかりだと立腹して家に帰る。

孤独な人がいた。
その人はひとりでやることをたくさん抱えている。
手紙を書く。本を読む。編み物をする。
日記を書く。料理を作る。掃除をする。
友達は自然とできる。
家に帰ることが楽しい。

自分はどんな孤独の人を演じているの？

No.00634　02.07.23

即非の理論

634 回目の『日刊　気持ちいいもの』。
ずっとこれを読み続けている人は
即非の理論をどこかで理解している。
禅をアメリカに普及させた鈴木大拙が
その著作で書いている。
原典は金剛(般若波羅密)経だ。

仏の般若波羅密と説くは
<即ち>　般若波羅密に　<非ず>
是れを般若波羅密と名づく

<　>にくくった部分が即非の理論の由来だ。

ここに書かれている「気持ちいいもの」は
即ち「気持ちいいもの」に非ず、
これを「気持ちいいもの」と名づく
というようなものだ。

「気持ちいいもの」は常に変化し続ける。
僕の感じた「気持ちいいもの」と
あなたの感じた「気持ちいいもの」も
詳細に調べれば違うものだろう。
しかし、それを「気持ちいいもの」と名づけて
互いに認識しあっている。
そこに妙なる存在が横たわる。
いまこの一瞬に現れる感覚を大切にしている。

No.00635　02.07.24

浮き輪

小学生の低学年の頃、僕は泳げなかった。
プールに入るには浮き輪が必要だった。
浮き輪につかまって水面に浮いていると
フワフワと気分がよかった。
兄はそういう僕の足下から潜水で近づき
水の中に引き込もうとした。
恐いのとおかしいのと興奮とが
ないまぜになって大騒ぎした。

No.00636　02.07.25

読書

読書は　きりがない。
読めば読むほど次に読みたい本が現れる。
それでもまた読んでしまう。
そして読んだら途端に忘れていく。
大雑把な内容は覚えていても、
細部についてはすっかり忘れてしまう。
にもかかわらずまた読む。
幼い頃、父に聞いたことがある。
「うちにある本を全部読んだの？」
「ほとんど読んだよ」
「中身を全部覚えているの？」
「いいや、たいてい忘れるなぁ」
「忘れるのになんで読むの？」
「読んで忘れるからいいんだよ」
幼い僕には理解できなかった。

No.00637　02.07.29

炭火焼き

炭火であぶる焼き肉が美味しい。
ホタテや鮭のはらすや
キノコやマグロの中トロを
炭火であぶるのも美味しい。
夏なのに冷房の効いた部屋で
顔を熱くしながら
炭火であぶり焼くなんて贅沢である。
数十年前までは炭火で焼くしかなかったので
仕方なく炭火で焼いていたが、
最近ではわざわざ手間暇かけて炭火で焼いて
心の贅沢も味わっている。

No.00638　02.07.30

パラダイム・シフト

かつてパラダイム・シフトという言葉が
大袈裟に語られたことがあった。
パラダイム・シフトは大変なことで、
その準備をしていないと取り残されてしまう
というような煽動的な話だった。
しかし、パラダイム・シフトは静かにやってくる。
気が付くといつの間にか変わっていた
というようなものだ。
人との人との言葉の間に、
メディアの文字や映像のあいだに
街の景観の中に
ひっそりとたたずんでいる。

No.00639　02.07.31

あめんぼ

夏になると流れの穏やかな川や池に
あめんぼがスイスイと滑っていた。
水面に着いている足先から
丸く小さな波を立てて
氷の上をスケートで滑るように
スイスイ、スイスイと歩く姿が懐かしい。

No.00640　02.08.01

逃げ水

真夏の暑い日、それは現れる。
舗装道路のずっと先に、
ゆらゆらと揺れる風景とともに

鏡のような、水のような、
魔法で生まれた光の反射が
うだるような暑さの先に
静かに横たわる。
追いかけても届かない
はかない夢のように。

No.00641　02.08.02

緑茶

お茶の葉を急須に入れ、お湯を注ぐ。
しばらく待って湯飲み茶碗に注ぐ。
緑茶が美味しく見えるのは
内側が真っ白な湯飲み茶碗に注ぐとき。
注ぎはじめは黄色く見えていたお茶が
注がれて深さを増すにつれ緑色に見えてくる。
ほのかな緑茶の香り。
湯飲み茶碗を手に持って口に運ぶときの香り。
口に含むと、香りと甘みと苦みがやってくる。
新しい畳の香りが思い出される。

No.00642　02.08.05

ツァボの夜

ツァボの夜。
懐中電灯で草原を照らした。
いくつもの目の光が
ゆっくりと草原の中を歩いていた。

ツァボの夜。
満天の星に恐れおののいた。

ツァボの夜。
ライオンのうなり声で
目を覚ました。

ツァボの夜。

No.00643　02.08.06

ホット・オレンジ

二十年前に中国を旅行したとき
雑貨屋に缶入りのオレンジジュースがあった。
その頃の中国の雑貨屋は
品物を自分で取ることができなかった。
射的屋の仕切のようなものがあり、
そこから身を乗り出して
あれとかこれとか指さすと
店員が品物を取り、お金を支払うと
はじめて手元に商品が来る。
だから僕はその缶入りのジュースが
粉末のジュースであることを
手に入れるまで知らなかった。
手に入れたらすぐに飲めるものと思っていたら
水を別に買わなければならなかった。
当時はミネラルウォーターを
なかなか手に入れられなかったので
ホテルでお湯をもらい
ホット・オレンジジュースにして飲んだ。
水道の水は飲まない方がよいと言われていたので
お湯を飲む。
お湯ではつまらないのでホット・オレンジジュース。
真夏の中国で飲むホット・オレンジジュース。

No.00644　02.08.07

恐い話

恐い話が好きだった。
兄がよく恐い話をしてくれた。
夜にふたりで車に乗り
真っ暗な森を走っているときなんかに
兄はゆっくりと話し始めるのだった。
父からはほとんど聞いたことがなかったが、
一度だけ、おじいちゃんが話してくれたという
恐い話を聞いたことがある。
重病で遠い街に入院しているはずの老婆が
なぜかやってきた話。
つまり生き霊だな。
いるはずのない場所にいた老婆に向かって
おじいちゃんは「なんでここに来た」と聞くと
「病院はつまらないからね」と答えた。
数日後、その老婆を病院に訪ねたそうだ。
おじいちゃんは聞いた
「なんで出てきた」
病院の老婆は答えた。
「病院はつまらないからね」と。

本当かなぁ？
父と僕と、二代にわたって
おじいちゃんに騙されていないか？

でも、それも楽しいか。
つなぶち家に先祖代々伝わる怪談話。(笑)
僕の子供も怖がらせてあげよう。

No.00645　02.08.08

海外で買うＣＤ

海外に行くとＣＤショップに行って
その国で流行っているＣＤを買う。
国ごとの特徴があって面白い。
たとえばベルギー。
ベルギー出身の歌手は
フランス語で歌い、ベルギーとフランスを
本拠地にしようとする人と
英語で歌い、アメリカ、英国、そして世界市場を
にらむ人がいる。
十数年前に行った韓国では、
日本の少女隊が韓国語で歌って人気を得ていた。
当時は日本語の歌を発売してはいけなかったので
日本のアイドルたちに韓国語で歌わせていたのだ。
ハワイに行けばなんと言ってもハワイアン。
いいＣＤがたくさんある。
ここ数年の間にハワイアン・チャントの
ＣＤも出るようになった。
古式フラの祈りの歌だ。
バリではガムランのポップス風音楽がある。
確かゲンジェックとか言っていた。
メロディのなかにケチャも登場するので
なんか可笑しい。
アイルランドではケルティック音楽のＣＤが
たくさんあった。
あの呪文のように続くメロディには
はまってしまう。
どこの国のＣＤショップに行っても質問すれば
いろいろと丁寧に答えてくれる。
そのやりとりも楽しい。

No.00646　02.08.09

宇宙から見る地球

宇宙空間から見る地球。
湿気があるわけではない、
空気すらない、
地球に反射した光はことごとく届いてくる。
距離による色の遠近感はまったくない。
何千キロも離れているはずの地球の表面が
手に届くような輝きで見ることができる。

宇宙空間にいると無重力である。
すべてのものが浮き上がる。
血液も例外ではない。
地球上では下に引かれている血液が
なんの抵抗もなく頭まで昇ってくる。
人によっては首が六センチも太くなるほど
頭に血液が集中するのだ。
それはまるで生まれる寸前の胎児のよう。
母親の胎内で頭を下にして
産道に向かってダイブする、
そのときの混沌とした感じ。
宇宙空間で人は胎児の感覚をよみがえらせる。
恐怖もまだ恐怖ではなく、
苦しみもまだ苦しみになりきってない、
不安定で未熟な感覚。
自分には抗いがたい大きな力に飲み込まれていく
その感覚をよみがえらせる。

太陽の光は宇宙空間では桁外れに力強い。
大気圏で費やされる高い波動の光線を
宇宙船ではまともに受ける。
それは生まれてこのかた
見たこともないほど強烈な光だ。
まるで胎児が産道を通り、
手術室の強烈な光にさらされるような
目のくらむ体験だ。

宇宙空間で僕が体験するのは生の喜び。
この世に生まれて生き続ける、
そのスタートラインで感じた、
言葉にならぬ畏怖の感覚。

No.00647　02.08.12

握手

はじめて握手というものを意識したのは
電通に内定したときだった。
内定者同士集まってパーティーをやった。
業界人の卵が集まってやるパーティーなので
いろんな仕込みをしてやる派手なパーティーだった。
パーティーの企画会議で議論が白熱し

一段落着くとＮはまわりの人間と握手した。
握手は求められると自然としてしまう。
しかも、それまで対立していても
握手してしまうとなんか許せてしまう。
握手を求められた者は
求めてきた者がリーダーのように見えてくる。
しかも悪い気がしない。
すごい効果のあるもんだと
そのときはじめて知った。

No.00648　02.08.13

受け身

くるっと回って畳をバンッと叩く。
昔、体育の授業で柔道を習った
まず最初に習うのは受け身だ。
投げられたときにどうやって着地するか。
普通に投げられたらきっと痛いのだろうが
受け身ができるとあまり痛くない。

大学生の頃、大通りを自転車で走っていたら
大きな犬が飛び出してきて自転車にぶつかり
僕は空中に投げ出されてしまった。
気がつくと道路に受け身をしていた。
自然と首を引き、受け身のかっこうをしていた。
おかげで肘から手首にかけてすりむいたが、
それだけで済んだ。

No.00649　02.08.14

歩く

知人のホームパーティーに誘われて
つい長居してしまう。
気がつくと午前１時。
それから 10 キロちょっとの道のりを歩いて帰った。
時速６～７キロで１時間半かなと思いながら
黙々と歩く。
汗が流れるが気にしない。
途中でポカリスエットを飲み水分補給。
予定通り午前二時半着。

No.00650　02.08.15

夜の蝉

最近、やっと夜が涼しくなってきた。
それでも蝉は夜中にまで鳴いている。
夏が終わる前にあらん力の限り
鳴き続けなければならない。
真っ白な灰のようになるまで。

No.00651　02.08.16

波打ち際

砂浜の波打ち際で聞こえる音。
ドドーン、ザブーンという波の音。
波が帰っていくときのシャラシャラという音。
そして、砂浜に水が染み込み、
中の空気が出てくる音。
プチプチプチプチ。
ドドーン、ザブーンももちろんいいが、
シャラシャラ、プチプチという高い音が
涼しげで一層良い。

No.00652　02.08.19

南北線

営団地下鉄南北線はプラットホームが
少し狭く感じる。
それには理由がある。
プラットホームと地下鉄のあいだに
ガラスの壁があるのだ。
地下鉄が着くとはじめて乗り口の部分にある
扉が開く。
はじめて南北線に乗ったとき、
「そこまでする必要があるのか？」
と思ったが、乗り慣れるとそのほうがずっといい。
それまでの電車がすごい勢いで駅に入ってくると
そばに立っているだけでちょっと恐かった。
しかし、南北線にはその怖さがない。
風がドーッと吹くこともない。
ほかの電車も全部そうすればいいのに。
人身事故も激減する。

No.00653　02.08.20

サザン・クロス

広告会社に勤務していたとき、
全日空の沖縄キャンペーンに
稲垣潤一の『サザン・クロス』という歌が使われた。
その年の初夏にＦＭ東京で全日空のスポンサーで
ＡＮＡの沖縄キャンペーン・ソングスの特番を組んだ。
僕が企画したはじめての番組だったので思い出深い。

もちろん最後の曲は『サザン・クロス』だった。
その後すぐに稲垣潤一のコンサートツアーに
スポンサーがつき、全国ライブにも同行した。

実際のサザン・クロス、南十字星を見たのは
広告会社を辞めてからだった。
バリとケニアとオーストラリアで見た。
やっと巡り会えた。

No.00654 02.08.21

利尻富士

利尻島には利尻富士がある。
すそのなだらかなきれいな山だ。
土の色はカウアイ島の土の色に似ていた。
博物館で聞いたところによると
日本で唯一ハワイ型の溶岩を持つ島だとか。
ハワイ諸島はカアウイ島から、
オアフ、マウイ、ハワイとできたと言われている。
太平洋のプレートがずれることによって
ひとつずつ島ができたそうだ。
ハワイ島からカウアイ島、そしてミッドウェー諸島と
続く直線の延長線上に利尻島がある。
何か関係があるかも。
もし本当に関係があるなら利尻島は
ハワイ諸島よりずっと先にできたのだろう。
海岸にはたくさんの海草が揺れていた。

No.00655 02.08.22

イエロー・サブマリン

僕が大学生の頃、
湘南にイエロー・サブマリンという
レストランがあった。
ある日、江東区の公園にみんなで車で集まり、
イエロー・サブマリンまでレースをした。
出走車数は五、六台。
もちろん交通規則は守り、
危険な運転はしない。
夕方に出発して真夏の湘南に行く。
道を選ばないとひどく時間がかかる。
当時はカーナビなんてない。
運転手とナビゲーターの勘で道を選ぶ。
僕の運転した車が一着だった。
ビリの車におごってもらった。
今もあるのかな、イエロー・サブマリン。

No.00656 02.08.23

お見送り

人をお見送りするのは気分がいい。
ずっとその人がいなくなるまで見送って、
最後に振り返ってもらったりしたら
手を振ったりしてもっとうれしい。
でも、見送られるのはちょっと照れるな。
ずっと僕が見えなくなるまで待っていたりされると
うれしいんだけど恥ずかしいような悪いような
早く見えなくならないといけないような。
この感覚っていったいなんだ？

No.00657 02.08.26

生きるということ

エーリッヒ・フロムの著作を読むようになったのは
大学生の頃からだ。
はじめて買ったのが『生きるということ』。
高田馬場の芳林堂で見つけた。
もしこの本に出会わなかったら
『胎内記憶』も『ヒーリング・ライティング』も
生まれなかったと思う。
僕にとっては大きな衝撃だった。
このなかに出てくる
have の様式と be の様式についての
考察が感動的なのであるが、その説明が難しい。
have の様式は簡単に言語化できるが
be の様式はなかなか言語化できない。
これらの様式を僕の中で血肉化し、
言語化するのが当面の仕事である。
もしこの本に出会わなかったら
もの書きにもなっていなかったかも。

No.00658 02.08.27

江戸風鈴

高田馬場駅にたくさんの江戸風鈴が吊されていた。
鉄でできた風鈴の音は高くて
チリンチリンと音がするが
江戸風鈴はガラスだけでできていて
コロンカランと石の音がする。
土鈴のような音を想像すると近い。
どれも手作りなので音の高さは微妙に違う。

七年ほど前に江戸風鈴の創始者、
篠原儀治さんにインタビューした。
帰りがけにひとつ買ってその夏は音を楽しんだ。
しかし、秋になって台風の日に出しっぱなしにして
壊れてしまった。

No.00659　02.08.28

蝋石

長瀞で蝋石を買った。
鉛筆の形に成形されたもので書きやすい。
蝋石を見たのは何年ぶりだろうか。
つい懐かしくて買ってしまった。
一緒にいた友人たちは
「やれやれ」という顔をしていた。
蝋石を持つとアスファルトの道路が
途端に黒板になる。
何かとにかく書きたくなる。
いい年の大人がやることではない
というのは知っている。
しかし、誘惑には勝てない。
子供の頃、蝋石を持って、
知らない街を歩いていった。
ところどころに矢印を書いて
帰り道に迷わないようにした。
ところが帰りにその矢印を追っていくと
誰かのいたずらで矢印があらぬ方向に
向いていることがあった。
そんなことを思い出して道に矢印を書いたら、
同行の友人が一生懸命消してくれた。
ありがたいような、残念なような。
公衆便所の入り口に「ようこそ」なんて
いたずら書きもしてみた。

No.00660　02.08.29

大きな岩の上に寝転がる

長瀞で大きな緑色の岩の上に寝転がった。
夏の日射しに照らされて
緑の岩は熱かった。
川の流れが聞こえる。
目を開くと目の前は青い空ばかり。
向こう岸では大きな岩の上から
川に飛び込む人たちが歓声を上げていた。
誰かが飛び込んだ音と跳ね上がる水しぶき。
流れの音に負けまいと蝉が鳴いていた。

No.00661　02.08.30

掲示板

毎日何件もの書き込みがあるので
覗きに行くのが楽しみ。
本を書いていると
本に適した言葉遣いで文章を書くけど
掲示板には掲示板向きの言葉遣いがある。
書く場所によって言葉が変わるのって
ちょっと不思議。
電話で親しい友人と話しているような
でも、それともちょっと違う文章が続く。

No.00662　02.09.02

新学期

夏休みが明けて
始めていく二学期の始業式
ひさしぶりに見る友達の顔
長い間会えなかったあこがれの娘
やっと仕上げた宿題
懐かしく感じる給食
そろそろとんぼが飛んでいる

No.00663　02.09.03

気づき

気づきは突然やってくる。
そのために準備していたことも、
用意していたものも飛び越して、
一瞬にして心に宿る。
それを得るためには
まず執着することだ。
執着して執着して、ふとその執着を手放すと
気づきがやってくる。
まるでセルロイドの下敷きを
頭の髪の毛でこすってこすって静電気を出すと
スーッと軽いものたちが吸い寄せられるように
気づきも気にして気にして、
ふと気にすることをやめたとき、
頭に自然とふーっと浮かんでくる。

No.00664　02.09.04

古本

きちんとした古本屋で扱われている古本は
手にしただけで気持ちいい。
まず書棚に本がいい感じで入っている。
きつい訳でもなく、
隙間が空いているわけでもない。
古本屋が扱う本は内容がしっかりしている。
いい加減に作られた本がない。
これもまたよい。
うちには古書目録がたまに来る。
古本屋さんが発行する古書の目録だ。
これを読むのも楽しい。
たとえばこんな題名の本が載っている。

「鬼の太平記--まんじゅう伝来期」
「扇--性と古代信仰」
「貞操帯」
「江戸役人役職大辞典」
「秘儀の島--日本の神話的想像力」
「体験生活」
「生活遊歩」
「愛撫の風俗史」
「あとがき詩人論」
「しろうと古書利殖入門」
「生物界の両性生活」

いったいどんな本なんだか見てみたい。

古本屋で見つけて買わずに後悔している本がある。
正確な題名は忘れたが、鳥居についての本だ。
日本中の神社の鳥居の形を調べ、
それらを分類した本だった。
そんな本、読んでいったいどうするのか、
質問されても困るのだが、
そういう役に立たない本を読むのも楽しいものだ。
またどこかの古本屋で売ってないかなぁ。

No.00665　02.09.05

ヒーリング・ライティング

いままでに何回くらいやってきたのか
気になったので調べてみた。
なんと 49 回。
1997 年 9 月からはじめて、その年には 2 回。
翌 98 年は一回だけの講義も加えて 4 回。
99 年は 3 回。
ところが 2000 年になると 19 回もやっている。
2001 年は 12 回。
2002 年はいまのところ 9 回だ。
我ながらよくやるよなぁ。
一回、一回楽しくないと
これだけ自発的にはやり続けられない。
参加した延べ人数は 513 名だった。

No.00666　02.09.06

人のエネルギー

人が集まって一斉に何かをすると
そのエネルギーは凄まじい。
数百名の人々が一斉に
お経を唱えたのを聞いたことがある。
鳥肌が立った。
マーラーの『千人の交響曲』のコンサートに
行ったことがある。
圧倒的だった。
バブルまっさかりの頃に鈴鹿のＦ－１に行った。
人波のなかを泳いでいるようだった。

もうすぐ 9 月 11 日。

世界中の人のエネルギーで無益な殺戮をなくす。
ある者は祈り、
ある者は歌い、
ある者は瞑想し、
ある者は詩を朗読し、
ある者は黙り込み、
ある者は取材をし、
ある者はあきらめ、
ある者は叫び、
ある者は写真を撮り、
ある者はたたずみ、
ある者は演奏し、
ある者は絵を描き、
ある者は耳を澄まし、
ある者は身体を揺らし、
そして意図は満たされる。

No.00667　02.09.09

ストライク

ひさしぶりにボーリングをした。
ボールを投げると、
まずはボールがレーンに落ちる音。
ドン！
そしてボールの転がる音。
ゴーーー
ボールがピンに当たる音。
ガシャコン！
ストライクだとここで叫ぶ。
「おーっ！」
とか、
「やったー！」
とか。
そしてガッツポーズを取る。

No.00668　02.09.10

居眠り

『日刊　気持ちいいもの』を書くときに
僕はからだの力を抜いていく。
緊張をひとつずつほどいていくと
気持ちいいものがふっと浮かんでくる。
しかし時々目を閉じてからだの力を抜いていくと
気持ちいいものがふっと浮かんでくる前に
居眠りしてしまうことがある。
それはそれで気持ちいいのだが・・・。

No.00669　02.09.11

昴(すばる)

大学二年の時、中国を旅行した。
いまから 20 年も前のことだ。
一般の日本人が中国に行けるようになって
二年目のことだった。
どこに行っても日本人だとわかると
珍しがられた。
ところがテレビでは山口百恵の
「赤いシリーズ」が放映され、
日本の演歌が中国語に訳されて
露店でカセットにして売られていた。
そんな中国である青年に
谷村新司の『昴』を教わった。
彼は最初『昴』を一緒に歌おうと言ったのだが、
僕が歌詞を知らないと言ったら
日本語の詩を一生懸命教えてくれた。
日本語を話せない中国人から
日本語の詩を教わるその不思議さ。
もちろん最後には一緒に『昴』を歌った。
彼は今頃どうしているのか。

No.00670　02.09.12

不平等

人はみんな平等には生まれてこない。
ある者は背が高く、
ある者は裕福な家庭に生まれ、
ある者は才能に恵まれ、
ある者は見目麗しい。
だからみんな違うことをし、
違うことを感じ、
違う何かを生みだしていく。
すべての人がみな同じなら
人生における楽しみや驚きは
薄っぺらいものになるかも。

No.00671　02.09.13

動く歩道

ゆっくり歩いても
景色は速く流れていく。
楽に歩いているのに
風の流れが速い。
終点で急に遅くなる感覚も
面白い。

No.00672　02.09.17

絵はがき

ときどき絵はがきをもらう。
どこかに旅行した友人が送ってくれる。
どの絵はがきも本人がとても楽しそうでいい。
そういえば、僕は返事を書くことはあるが
誰かに自発的に絵はがきを書こうとは思わない。
絵はがきを書くためには
相手の住所を持って旅行しなければならない。
僕のシステム手帖には電話番号は書かれているが
住所はひとつも書かれていない。
だから絵はがきを書くこともない。
そう考えると僕に絵はがきをくれる人は

きっと旅行前から書こうと決めているか
いつも僕の住所を持ち歩いているかの
どちらかだ。
ありがたいものをいただいているんだな。

No.00673　02.09.18

さざえの壺焼き

さざえの壺焼きには二種類ある。
一度身を出して、小さく刻み、
同じ位の大きさに切りそろえた
キノコや筍、三つ葉などを加えて
詰め直してから焼くものと、
そのまま焼いてちょっと醤油を足して
食べるものだ。
僕は後者が好きだ。
網で焼いている最中に
中から汁があふれ出し
こうばしい香りを充満させる。
アツイアツイと叫びながら食べるのがいい。

No.00674　02.09.19

おめでとう

『おめでとう』って言葉は言うのがうれしい。
だから誰かが誕生日だと
『おめでとう』って言ってあげられるからうれしい。
誰かが結婚したり、昇進したり、
何かいいことがあると
『おめでとう』は大活躍する。
『おめでとう』は言うと幸せになる
不思議な言葉。

今日、いいことのあるあなたに
おめでとう。

No.00675　02.09.20

爪を切る

伸びてきた爪を切る。
何日かに一度の儀式。
爪が伸びるとキーボードを叩く感触が変わる。
ピアノを弾くと引っかかる。
本を読んでもページを繰るときに気になる。
些細な不都合が生じてきたら爪を切る。
柔肌に痕をつけなくて済む。

No.00676　02.09.24

フォムファス

フォムファスをご存じですか？
ヨーロッパの家庭には必要な様々な水物、油物の
計り売り専門店です。
最初のお店が八王子にできて以来、
池袋東武百貨店、新宿伊勢丹、
大阪東急ハンズ、阪急梅田本店などに
支店を出しています。
このお店にはたくさんの大型フラスコと樽に、
ワイン、バルサミコ、オリーブオイル、
ウィスキー、シェリー、グラッパ、
カルバドスなどを入れて用意しています。
それらを店員さんに頼んで試飲し、
気に入ったものを必要な量だけ買うことができます。
その店には様々な大きさの瓶を用意していて
お気に入りの瓶に入れて持ち帰ります。
買った瓶は洗ってきれいにすれば
フォムファスでの買い物に
何度も使用することができます。

この業態はエコ先進国のドイツのものです。
僕は池袋東武で見ました。
フォムファスを見てなるほどと思ったのは、
まず第一に計り売りという古い業態を
見事におしゃれに見せていることです。
現在日本ではセルフ・サービスがストアの
標準業態です。
ほとんどの食品が
パックに入れられ楽に運ぶことができ、
レジで簡単に集計ができる。
ところがフォムファスの方法は
ちょっとやっかいです。
店員がお客さん一人ひとりの注文に
きめ細やかに答えていかなければなりません。
その上で、瓶と水物の量を正確に計算して
レジにその情報を伝えなければなりません。
しかし、普段セルフ・サービスに慣れている僕は
かえってその面倒さが新鮮に思えました。
どこのストアも効率化ばかりが重視され、
店員のサービスをどれだけ簡略化して
品物を安くするかがポイントですが、
フォムファスは安くてサービスがあり、

しかも環境に対する負荷を少なくするという
ミラクルを見せてくれるのです。
僕はついワインとウィスキーを買ってしまいました。
樽から瓶に計り取る店員の女の子が
とても可愛らしく思えました。

No.00677　02.09.25

写真

仏壇の引き出しから古い写真が出てきた。
僕が生まれる前、兄がまだ幼い頃の写真だ。
当時は生活が苦しく苦労したと聞かされていた。
しかし、どの写真もとても楽しげに見える。
兄が母に甘えている写真は母も笑顔だ。
その写真を撮影した父も
ファインダーのこちらで笑っていただろう。

No.00678　02.09.26

グレープフルーツジュース

グレープフルーツを半分に切る。
サクッとナイフが入る感覚とともに
グレープフルーツの香りがたちこめ
ナイフの先にポタポタとジュースが流れてくる。
切って現れたグレープフルーツの黄色い実を
グレープフルーツ絞りにあてて
グイッと押し込む。
グワッという手応えと溢れ出るジュース。
何度か押し込み、ねじ込み、握りつぶし
ジュースがすっかり出尽くすまで格闘する。
流れ出た種を取り除き、
氷を入れたグラスに注ぐ。
マドラーで軽く撹拌し、飲む。

No.00679　02.09.27

カットしたパイナップル

先日、幕張のカルフールに行った。
広いマーケットでパイナップルの箱が積まれていた。
ハワイのパイナップルと書かれた看板の前で
店員がパイナップルの上下を切り、
かき氷器に似たパイナップルのカット専用器で
パイナップルを円筒状にカットしていた。
それをビニールの袋に詰めて
100 円で売っていたので買ってみた。
まわりはパイナップルの香りでいっぱいだった。
200 円できれいに切られてパックにつめられた
パイナップルも売っていたが、
量は少ないし、
見るからにパサパサしていそうだった。
円筒形のパイナップルを切って食べると
甘くてジューシーでうまかった。
あんなにみずみずしいパイナップルは
ひさしぶりだった。

No.00680　02.09.30

ペットボトル入りの緑茶

最近はペットボトル入りの緑茶が
何種類も売られている。
年を取ってくると甘い飲み物は
飲みたくなくなる。
しかし水分は補給したい。
そんなときに緑茶がありがたい。
僕の好みは添加物のほとんどない
伊藤園の「お〜いお茶」。

僕が幼い頃には長距離電車に乗ると
四角い小さな急須に入れられた
熱いお茶が売られていた。
蓋にもなる小さい湯飲み茶碗に注いで
唇をつきだして「おっとっと」
とか言いながら飲みました。

No.00681　02.10.01

小さな竜巻

小さな竜巻に二度遭遇したことがある。
新潟とハワイでのことだ。
二度とも僕は車に乗っていた。
風と雨が激しくなり、
どんなにワイパーを速くしても前が見えない。
あまりにも激しい雨と風が止んで
後ろを振り返ると、
空に向かって龍のような雲が渦巻いていた。
新潟の時は陸上だったが、
ハワイのときはパーカーラウンチを過ぎて
海辺を走っていたときに遭遇した。
振り返ると竜巻は海の水を吸い上げて
雲へと吸い込まれていった。

No.00682　02.10.02

消しゴムの破片

小学生の頃、消しゴムを小さくちぎって
指先で飛ばさなかったかなぁ。
授業中、先生の目を盗んで
誰かに向かって、ピッと飛ばすの。
ぶつけられた相手は
その消しゴムがどこから飛んできたのかわからずに
周りを見回してキョロキョロするの。
そういういたずら、よくしたなぁ。

No.00683　02.10.04

細い月

まだ暗い早朝、東の空に細い月。
上弦の月がすぐ下に太陽を感じさせる。
やがて空が明るくなり、
細い月は空の光に隠れていく。

No.00684　02.10.07

歌う

親しい友人で集まって、みんなで歌う。
懐かしい歌の楽譜を用意して、
ピアノを伴奏に歌う。
ユーミン、山下達郎、ハイファイセット、
杏里、大瀧詠一、竹内まりや・・・。
はじめは照れくさくしていた友人たちが
最後は時を忘れて歌っていた。

No.00685　02.10.08

つながりを感じる

僕たちは分断されている。
僕とあなたは違う存在。
これが常識的モノの見方だ。
そして、こういう見方もある。
僕とあなたは遺伝子のプールのなかで
極めて近い存在である。
同じようなものを食べ、
同じような代謝をし、
同じ時代に生きている。
僕とあなたの違いはほとんどないと
言っていいほど近い存在だ。
あなたと僕の違いは、
互いが違う存在と認識するために必要なモノ。
そしてその違いは、
僕たちの生活を豊かにしてくれる。
蟻の一匹一匹を区別できないように、
地球のスケールから見たら僕たちは
一人ひとり区別できない。
ささやき合って、文字を書き、
時々笑って、時々泣く。
互いがいなければ社会は存在できない。
蟻の巣がたった一匹では作れないように。
仲の良い友達も、苦手なあいつも
互いを支え合って生きている。
それが事実かどうかは
僕がそう感じるか感じないか、
どう表現するのかにかかっている。

No.00686　02.10.10

無駄な物はない

よく「この世界に無駄な物はない」
という言葉を聞く。
確かにそうだろうと思う。
そして、違和感も感じる。
わざわざそんなことを言う前提には
「この世界には無駄な物がたくさんある」と
思っていた自分がいるはずだ。
「この世界に無駄な物はない」と感じている人は
わざわざそんなことは言わないし、
その言葉を思いつきもしない。
人の思考は不思議なモノだ。

No.00687　02.10.11

東京タワー

「先生、いま私、東京タワーにいるんです」
「へえ、何しているの？」
「仕事で来たんですけど、私、東京タワーが
　大好きなんです」
彼女は最近彼と喧嘩して
二週間ほど連絡を取っていなかった。
もし一ヶ月連絡がなかったら、
彼女から彼に電話すると約束していた。
「またあとで電話していいですか？」
「いいよ」
二時間ほどして電話がかかってきた。
「せんせ〜い、実は前に彼に東京タワーで

告白されたんです」
「へえ、彼と連絡つくといいねぇ」
「いま、彼から携帯に電話があったんです〜」
思わず笑ってしまった。
「よかったねー」
「よかったですー」
彼女はさらに東京タワーが好きになっただろう。

No.00688　02.10.14

フルーツ・ピザ

フルーツ・ピザをご存じですか？
ピザ生地に数種のフルーツを載せ
ピザ用のチーズをかけて
オーブンで焼くのです。
「そんなものおいしいの？」
とよく言われますが、
実際に食べるとそのおいしさの虜になります。
食感や味のバランスを考えて
フルーツの組み合わせを決めて下さい。
リンゴ・バナナ・メロン・パイナップル・
パパイヤ・オレンジ・キウイなど
試してみましたけど、どれも美味しかったです。
ホームパーティーで作るときっと盛り上がります。
誰の作った組み合わせが美味しいかを
競うのもいいでしょう。

No.00689　02.10.15

5㎜方眼のレポート用紙

かつて勤務していた会社には文房具がそろっていた。
自由に使うことができたので
気軽にノートやレポート用紙を使った。
自由に使えるレポート用紙にも種類があり
そのなかに5㎜方眼のレポート用紙があった。
企画書などを作る際にとても重宝した。
簡単な図やグラフも楽に描ける。
文字も自由に書きまくることができる。
その頃についた癖で今でも5㎜方眼が手放せない。

No.00690　02.10.16

フィンをつけてドルフィンキック

自分の力がこんなにも
前進するエネルギーになるのか。
普段ではとても出ない速度で
三次元の青い空間を泳いでいく。
方向は上から降り注ぐ日の光で判断する。
上下がわかるだけで
東西南北は失われる。
下に行くと圧力が身体を縛る。
水面の光の波に近づくと
自由を感じる。

No.00691　02.10.17

ラフカディオ・ハーン

『心』と題された本を読んだ。
明治の日本の素晴らしさを愛している
ハーンの言葉がうれしかった。
そしていま『日本の面影』という本を読んでいる。
これもつい夢中になって読んでしまう。
時々はっとするような言葉を見つける。
こんなものもあった。

感情とは、どこかの場所や時を特定するものではなく、
この宇宙の太陽の下で、
行きとし行けるものの万物の喜びや悲しみに
共振するものではないだろうか。

No.00692　02.10.18

書き込みいっぱいの掲示板

毎日楽しみなのは「気持ちいいもの」の
掲示板を開くこと。
たくさんの書き込みがあり、
返事を書くのに苦労するほど。
みんなの「気持ちいい」が満載されている。
僕も負けずに「気持ちいいもの」を書く。

No.00693　02.10.21

子供に手を引かれる

大学生の頃、市場で不意に子供に手を引かれた。
「ねえねえ、これ買って」
その子は大きな声でお菓子を指さし、
つかんでいた僕の手をぶらぶらと振った。
そばにいた母親が気づいて子供を呼んだ。
その子はきょとんと僕を見上げる。
僕の手を母親の手だと思っていたのだ。
「すみません」
母親は謝って子供を連れて行った。

思い出した、僕も同じことをしたことがある。
母親と買い物に行って、
「これ買って」
と母親の手を引いたつもりが
見上げると知らないおばさんだった。

No.00694　02.10.22

川面に小石を投げる

平べったい小石を探して
サイドスローで川面に投げる。
川の表面で何回もはねていく。
昔は何回はねることができるか
友達と競争した。
川面に連なりできる輪は
流れのなかに消えていく。

No.00695　02.10.23

飛行機から見下ろす円の虹

オアフからマウイに渡る飛行機の
窓から見下ろすと虹が見えた。
普通見ることができる虹は半円だが、
そのときの虹は見事な円になっていた。
谷崎テトラさんがペルーに渡るとき、
やはり円の虹を見たと言っていた。
そして、その虹の中心には
十字架が見えたとも言っていた。
確かに僕も見た、
円の虹の中心に十字架を。

No.00696　02.10.24

くじらのいし

永福町の駅前に
「くじらのいし」という喫茶店がある。
面白い名前なので由来を聞いた。
カナダのある湾に
「くじらのいし」があるそうだ。
鯨たちはその湾に来ては
「くじらのいし」に身体をこすりつけ、
からだの表面に着いた寄生虫やフジツボなどを
こそげ落とすそうだ。
何年続いていることかわからないが
ずーっとくじらたちがそうやって使っているので
「くじらのいし」の表面は
滑らかになっているとか。
鯨がそうやって時々やってきては
気持ちよさそうに離れていく様を知り
人が時々やってきて、
気持ちよさそうに出ていったらいいなと
「くじらのいし」という名前をつけたそうだ。

No.00697　02.10.25

制帽

僕が通っていた小学校には制帽がある。
僕が入学当時にデザインが決まった。
三十何年かたつのに
同じ帽子をかぶった小学生が
朝早くから歩いて学校に行く。
きっと親子二代同じ帽子
なんてこともあるだろう。

No.00698　02.10.28

イルカのおなか

イルカのおなかに触ったことがあるかい？
背中は板にゴムを張ったように
ツルツルして固いけど
お腹は暖かくて柔らかい。
表面のツルツルは背中と同じだけど
白くて暖かくて柔らかいお腹は
なかなか触らせてもらえない。

No.00699　02.10.29

舞台

スポットライトを浴びて立つ舞台。
観客の視線を感じると言うよりは
一人ひとりの視線が集まり圧力となり、
身体が熱を帯びる。
舞台という場では
不思議なことが起きる。
同じ演目を何回か演じると
まったく同じにやっているはずなのに
観客の反応がまったく異なる。

No.00700　02.10.30

気持ちいいものリスト

このメルマガが 700 回を迎えた。

つまり気持ちいいもののリストが

700 集まったと言うことでもある。

よくやるなぁと我ながら思ってみる。

No.00701　02.10.31

クイーン・エリザベス二世号のタオル

10 年以上前、大阪に停泊していた
クイーン・エリザベス二世号に宿泊した。
夜にはショーがあり、
カジノでスロットマシンやルーレットをした。
いろいろと感心したところがあったが、
いまでもその素晴らしさというより凄さを感じるのは
船室で使ったタオルだ。
バスタオルが備え付けてあったのだが
はじめて触ったとき安物のタオルだと思った。
なぜならゴワゴワしているのだ。
ところが使うと、水分を吸うことで柔らかくなる。
しかも水分をよく吸う。
安物にしてはいいなと思い、持って帰った。
以来、うちで使っている、十数年たった今でも。
これはきっと安物ではないな。

No.00702　02.11.01

歯ぐき

このところー、二年に一度、歯ぐきから血が出る。
そのたびに薬局に行って目の細かい歯ブラシを買う。
それで毎日歯ぐきを磨くのだが、その痛いこと。
何日か苦痛の日々が続きやっと治ると
歯ブラシで歯ぐきを磨くその気持ちいいこと。

No.00703　02.11.04

冬物

やっと寒くなってきたので
冬物の服を着るようになった。
夏の薄着もいいけど、
冬物をしっかり着込むのも
ひさしぶりでうれしい。
去年は黒が多かった。
今年は少し明るい色の服を着よう。

No.00704　02.11.05

銀座パレード

昨日の巨人優勝パレードを見て思い出した。
中学生の頃、
ブラスバンドで銀座のパレードに参加した。
歩道には見物人があふれ、
大勢の人たちの注目の中
僕はトロンボーンを吹きながら歩いた。
暖かな視線を浴びた。

No.00705　02.11.06

東京芸術劇場の長いエスカレーター

池袋にある東京芸術劇場のエスカレーターは
五階まで直通でとても長い。
上がっていくときにはエスカレーターの先に
五階の天井絵が見えるようになっている。
まるで天使の梯子を昇っていくような
素敵な空間が演出されている。

No.00706　02.11.07

パピヨン

僕が中学一年のときに見た映画。
主演はスティーブ・マックイーン、
脇役にダスティン・ホフマン。
とても静かで男の執念が感じられる
いい映画だった。
現在ではホテル西洋になっている
テアトル東京で見た。
三年ほど前に御蔵島の民宿に
ビデオがあったので見直した。
懐かしかったし、感動しなおした。

この映画には思い出がある。
その年、兄が就職して会社の寮に入った。
めったに会えなくなっていた兄と一緒に見に行った。
兄が大好きだったのでことさら嬉しかった。
兄の誕生日には製図用のシャープペンを
こづかいをはたいてプレゼントした。
短調で奏でられるテーマ曲を聞くと、
あの頃を思い出す。

No.00707　02.11.08

みかん

みかんの季節になってきた。
オレンジ色の皮に親指を立て皮をむく。
実にまとわりつく繊維質を取り
小袋になった実を口に含む。
このうまさは日本独特のもののようだ。
日本人でよかった。

No.00708　02.11.11

力づける会話

同じことを言っていても
そこにいる人を力づける言い方と
力を奪う言い方がある。
たとえば、
「・・・は君のおかげだね」
と言うと相手を力づけるが
「・・・は君のせいだ」
と言うと相手の力を奪う。
「君が・・・するには準備が必要だ」
と言うと相手を力づけるが
「君が・・・するのは十年早い」
と言うと相手の力を奪う。
他人をイキイキさせるためには力を与える会話。
他人を支配するためには力を奪う会話。
友達関係を深めるためには力を与える会話。
上下関係を際立たせるためには力を奪う会話。
あなたはどちらの会話が好み？

No.00709　02.11.12

身の回りの出来事に価値を与える

昨日書いた『力づける会話』を
身の回りの出来事に応用すると
幸せな環境が生まれてくる。
つい「・・・のせいで」と言ってしまうところを
「・・・のおかげで」と言ってみよう。
たとえば、
「隣の人が風邪をひいたせいで俺も風邪をひいた」
を「・・・のおかげで」とすると
「隣の人が風邪をひいたおかげで俺も風邪をひいた」
しかし、これでは皮肉になってしまう。
機械的に言い換えるのではなく、
「おかげで」のあとを
「おかげで」の言葉に合うように変化させる。
「隣の人が風邪をひいたおかげで
　(俺も風邪をひいたので)休みが取れる」
こうすると風邪をひいたことが得に感じられる。
または
「隣の人が風邪をひいたおかげで
(俺も風邪をひいたので)家族に優しくしてもらえる」
とかね。
ほかにも
「あいつのせいで仕事が増えた」
を
「あいつのおかげで(仕事が増え)収入が増えた」
または
「あいつのおかげで(仕事が増え)いい経験ができた」
など。
つい「・・・のせい」と言ってしまったら
次の瞬間には「・・・のおかげで」と
言い換えてみよう。
起きている出来事は同じでも
それだけで幸せな気分になれるかも。

No.00710　02.11.13

ありのままでいる

たいていの人は他人の目を気にして生きている。
それがもちろんいけないことではないけど、
ありのままでいたほうがいい。
世の中はどんどんスピードアップしていく。
そのスピードに人は追いつけなくなる。
いまでさえ追いつけなくなってきている。
未来はもっとめまぐるしいだろう。
未来において個人が
世の中のスピードに追いつこうとしても
追いつけるわけがない。
力を抜いてありのままでいる。
ありのままでいるとき、
複雑に絡まった世の中のすべてを
知ることはないだろう。
でも、目の前の対処しなければならないことには
対処できる。
勘や第六感とともに。
ありのままでいるとき、言葉は出てこない。
ただ、「これかな」と思うだけ。

No.00711　02.11.14

ブラームス交響曲第一番

深夜にテレビをつけたらオーケストラが
ブラームスの交響曲第一番を演奏していた。
第一楽章の最後の部分だ。
思わず聞き入ってしまった。
第二楽章が始まるともう止まらない。
第三楽章と第四楽章が特に好きなのだ。

第三楽章のクラリネットのメロディーが
天上の音楽のようだ。
それに続くスキップのように下降する
メロディーは雲の切れ目から
天使が田園をのぞき込んでいるような
イメージがわく。
そして第四楽章。
アルペンホルンのメロディーに続き
トロンボーンのコラールになる。
高校生の頃よく吹いた。
再びアルペンホルンのメロディーは
二本になり、絡まりながら進んでいく。

はじめて聞いたのは兄貴が聞いていたからだ。
まだ小学生の頃、
当時の僕にはちっともいい音楽に聞こえなかった。
「この曲のどこがいいの？」
と聞いたら、怪訝な顔をされた。

バイオリンがメロディーを奏でる。
よくベートーベンの第九の喜びの歌に似ていると
言われる部分だ。
僕にはどこまでも広がる田園風景に
収穫の歌が聞こえているように感じられる。
曲はどんどんと盛り上がり、
ついにクライマックスになる。
トロンボーンが演奏したコラールを金管楽器が
一斉に演奏する。
弦がリズムを刻みながら上昇していく。
最後の和音が感情を煽る。

ほかにもたくさんクラシックを聞きたくなった。
大学に入った頃からクラシックを聞かなくなった。
忙しくなって時間の余裕がなくなった。
一曲聞くと一時間ほど奪われる。
奪われてもいいから聞きたくなった。
ブラームスのバイオリン協奏曲
ベートーベンのピアノ協奏曲第五番「皇帝」
ホルストの組曲「惑星」
ストラビンスキー「春の祭典」
チャイコフスキー交響曲第五番、四番もいい。
ドボルザークの交響曲第八番
ベルリオーズの幻想交響曲
モーツアルトピアノ協奏曲第二十番
ショスタコーヴィッチ交響曲第五番
マーラー交響曲第一番「巨人」、二番の「復活」
・・・
次から次へと思い出す。

No.00712　02.11.15

過去のシステム手帳

システム手帳を使い始めてもう十数年になる。
すべてのページが残っているが
改めてみることはほとんどない。
しかし、もっときれいにまとめて一覧にしたら
何か見えてくることがあるような気がする。
癖のように繰り返すパターンや
つい囚われてしまうものなど
自分史を書いて気づくようなことに
気づくかもしれない。
システム手帳に過去は残されないのが普通だ。
残したらどうなるのか実験してみよう。

No.00713　02.11.18

ふぐ刺し

ふぐを食べるようになったのは
就職してからだ。
学生の頃には食べさせてもらえなかった。
ふぐの話をすると母が過剰に心配したからだ。
今でもふぐの話になるといろいろと言われるので
食べていることは母には内緒だ。
はじめて食べたのは山口で接待されてだ。
はじめて食べたふぐは美味しいのかどうか
よくわからなかった。
皮はもちろん肝やほかにも珍しい部分を
食べさせてもらった。
しかし、なにぶんはじめてだったもので
何とどう較べてうまいと言えばいいのか
よくわからなかった。
白身は非常に淡泊で、ポン酢につけると
その微妙な味がよくわからなかったので
なにもつけずに食べたりもした。
それ以来何度か食べたが
食べるごとにうまくなる。
ふぐのうまさはその歯ごたえと味の微妙さにある。
そして、いい酒を一緒に飲むことだ。

毒があったら死ぬかもしれないという思いも
味を引き立てている。

No.00714　02.11.19

ミスティ

エロール・ガーナーの名曲。
なんとなくどこかで聞いたことのある曲だったが
はっきりと認識したのは
ジャズ・ピアノの教則本に載っていたからだった。
ブルースを習い、枯葉、ジェントル・レイン、
黒いオルフェと習い、確か五曲目に習ったのが
ミスティだった。
メロディを覚え、コードを覚え、
使えるスケールを覚え、そしてアドリブを弾く。
ミスティまでは何を弾いても
なかなかしっくり来なかった。
確かにアドリブを弾くのだが、
こんなのでいいのかなぁ？
という感じで弾いていた。
コードとスケールの組み合わせにしか
僕には聞こえなかった。
ところがミスティを弾いたとき、
はじめてジャズを弾いている気がした。
その瞬間に聞いたことのないメロディを
指が歌い上げた。
儚い奇跡が僕に宿った。

No.00715　02.11.20

探しもの

僕はいつも何かを探している。
あるときは鍵であったり、
あるときは友であったり、
またあるときは言葉であったり、
いつも何かを探している。
井上陽水は探しものをするより
一緒に夢の中へ行きませんかと
歌で誘う。
でも、探しものを探すことが夢なのだ。
それは夢で踊るステップを探すこと。
踊っている最中、次の一歩がどこに行くかなんて
わかりゃしない。
わかるのは一歩を踏み出したとき。
探した結果が生まれたとき。

No.00716　02.11.21

改札のリズム

最近ＳＵＩＣＡを使っている。
プリペイドカードは財布からカードを出し
自動改札機に入れなければならなかったが、
ＳＵＩＣＡは財布やカード入れから
いちいち出す必要がない。
ＳＵＩＣＡの入った財布やカード入れを
自動改札機の所定の場所に近づければよい。
以前目の前にいた人が改札機を通るとき
鞄ごと所定の場所に乗っけて通っていった。
僕は名刺入れに入れて使っている。
便利になったなぁと思いながら
ふと思い出したことがある。
かつてまだ改札に駅員さんが並んでいた頃の
改札のリズムだ。

チンチンチチンチン　チンチチチンチン

改札の駅員さんが改札鋏をリズミカルに
鳴らしていた。
ひとりの切符を切ったら
次の人の切符を切るまでのあいだ

チンチンチチンチン　チンチチチンチン

昔はどこの駅でも聞こえていた音だ。
ほとんど意味のない行為だとは思うが、
通学時間にあの音を聞くとなぜか元気づけられた。

No.00717　02.11.22

読書

読書の楽しみはいろいろとある。
新しい知識を得る楽しみ。
謎を解く楽しみ。
スリルを味わう楽しみ。
共感する楽しみ。
そして、読むこと自身を楽しむ楽しみ。
なぜだか知らないけど
読んでいるだけで気持ちよくなることがある。
何が楽しいのかわからないのだが、
文のリズムが心地よくて
それだけで楽しくなってしまうのだ。

No.00718　02.11.25

Mac OS X

コンピューターの OS を X にバージョンアップした。
使い心地がとてもいい。
半透明に見える部分があったり、
ドックに使っている書類を
しまったり出したりするときは
いったんもめんのような幽霊が
ニュワッと出てくる感じがする。

使い心地はいいのだが、インストールの際に
メールソフトに保存していた
アドレスと過去のログをすべて失ってしまいました。
次第に回復するとは思いますが、
名刺をいただいている方以外には
メールが出せません。
僕からのメールの返事が届かない方は
お手数ですが、もう一度メールを下さい。
m(..)m

No.00719　02.11.26

ほたるいかのみりん干し

デパートでほたるいかのみりん干しを見つけた。
さっそく買って食べてみた。
ほたるいかは小さくて肉が薄くて
歯触りがいいのに香りはしっかりとある。
それがみりん干しにされて
さらに味がよくなっている。
軽く炙ってやわらかくなると
その旨さが引き立つ。
まだほたるいかが口に残っているあいだに
日本酒を含むと、
ほたるいかの香りがまろやかになり
日本人で良かったなぁと、
そこはかとなく感じるのです。

No.00720　02.11.27

ウダン

バリで礼拝の時に男が頭に巻くものをウダンという。
はじめてバリに行った時、観光ガイドが巻いていた。
バリに独特のものだと聞いた。
額ではちまきのように縛るのだが、
その部分がきれいな飾りになっている。
しかも礼拝の時にはそこに花を挿す。
男が花を挿すことに疑問を感じた。
そこにはバリ独特の理由があった。
バリではあらゆることを陰陽で見る。
大地は陰で太陽が陽。
太陽が大地に降り注ぎ樹木が生まれる。
女が陰で男が陽。
女と男が交わって新しい命が生まれる。
人が陰で神が陽。
人と神が交わって悟りが生まれる。
しかし、男は陽だ。神の陽と反発しあう。
だから男は陰を装う。
そのためのウダンであり、花である。
また来年、バリの祭りニュピに行くのが楽しみだ。

No.00721　02.11.28

Quelqu'un

「ケルカン」と読むそうだ。
バンドの名前だ。
十数年前に買った「毎日が恋愛映画」というアルバム、
いまでも時々聞く。
女性ボーカルに伴奏がギターかピアノだけの
シンプルな音楽。
インナースリーブをよーく読むと、
どうやら日本人のユニットらしい。
昼間にまどろみたいときにいい音楽だ。

No.00722　02.11.29

ひと仕事

ひと仕事終わると力が抜ける。
伸びをして、あくびもして、さぁてと次を考える。

No.00723　02.12.02

オンカラ

バリの儀式などに使われる不思議なマーク。
人が踊っているようにも見えるし、
艶かしく感じる印だ。
一番うえの力強い線が男性器を表し、
その下の三日月が女性器を表し、
あいだの円が完全性を表していると言われるが、
上から、冠、額、両目、口、胴、腹、脚を
表現しているとも言われている。
魔除けや儀式用道具類に使われる。

No.00724　02.12.03

ルイ・アームストロング

僕がはじめてルイ・アームストロングの歌を聞いたのは
映画『女王陛下の 007』だ。
その映画でジェームズ・ボンドは結婚する。
フィアンセと楽しく過ごすシーンと、
最後にフィアンセが殺されて幕がおりるエンディングに
『愛はすべてのために』(だったかな)が歌われる。
つぶれた喉から無理矢理出すような声が印象的だった。
当時はいったいそれが誰だったかもよくわからなかったが
その声だけはいつどこで聞いても『女王陛下の 007』の
歌を歌っていた人だというのがすぐにわかった。
その後ＣＭに『この素晴らしき世界』や
『ハロードリー』が使われているので、
誰でも聞けばきっと聞き覚えがあるだろう。
明るいトランペットの音とその歌声は
人生の悲哀を笑い飛ばすような
物悲しさと陽気さを兼ね備えている。
よくできた喜劇を見ているような気分にさせてくれる。

No.00725　02.12.04

スタンダード・ナンバー

ジャズや昔のポップスでよく扱われる曲を
スタンダード・ナンバーという。
50〜70 年代にはそのような音楽がたくさんあった。
「ビギン・ザ・ビギン」「モナ・リサ」
「バラ色の人生」「二人でお茶を」「As Time Goes By」
などだ。
なぜか 70 年代あたりから
スタンダード・ナンバーというものは失われていった。
誰かがヒットさせても別の歌手や演奏者は
同じ曲を演奏しない。
スタンダード・ナンバーが成立しなくなった理由のひとつは
レコードや CD などの発達である。
なぜレコードや CD が発達するとスタンダード・ナンバーが
成立しなくなるのかは長い話になるので
ここでは脇においておこう。
僕はどんなにレコードや CD が発達しても
スタンダード・ナンバーが好きだ。
日本の懐かしい歌もスタンダード・ナンバーとして
誰かが歌えばいいのにと思っていた。
最近やっと少しずつ昔のポップスを演奏する人たちが
現れてきた。
それだけ日本のポップスも層が厚くなったと言うことだろう。
懐かしい歌を聞くとその曲を聞いていた頃の思い出が
よみがえる。
あなたにとってのスタンダード・ナンバーはなんですか？
僕にとってのスタンダード・ナンバーはたくさんある。
たとえば、最初にあげた五曲についても
それぞれに思い出がある。
次回から一曲ずつその思い出について書いてみよう。

No.00726　02.12.05

ビギン・ザ・ビギン

中学生の頃、英語の勉強が好きだった。
しかし、英語の歌を聞いていて、
どうしてもわからない言葉がよくあった。
「Let It Be」
(させる)(それを)(です)
いったいなんだろう？
兄貴に聞いたら
「放っときなさいってことさ」と言う。
だとするとあの歌は
　放っときなさい　放っときなさい
　ささやく英知の言葉は　放っときなさい
なんか違うと思った。
違うと思ってもよく鼻歌で歌っていた。
何年かたってそれが「あるがままにしなさい」と訳せば
しっくりくることを知った。

ビギン・ザ・ビギン
この曲も好きでよく歌っていた。
でも詩はいったいどんな意味なんだろう？
「はじめを始める」
これも兄貴に聞いてみた。
「はじめのビギンとあとのビギンはつづりが違うよ」
と言われて英語のタイトルを調べ直した。
「Begin the beguine」
確かに違う。
英和辞典を調べてあとの beguine は
踊りやリズムの形式だと言うことを知る。
ンタータ、ンタ、ンタというリズムだ。
「ビギンをはじめよう」
それは一種の洒落だった。
僕が聞いていた「ビギン・ザ・ビギン」は
パーシー・フェイス・オーケストラの演奏だった。

ずっとたってから英詩の内容も知る。
悲しい歌だった。
はじめ長調で始まる歌が短調になる。
その部分の詩の意味を知るとなんとも悲しい。

それからまた何年もたってフリオ・イグレイシアスが
ビギン・ザ・ビギンをリバイバルヒットさせた。
フリオのビギン・ザ・ビギンはスペイン語で
しかも短調の部分がない。
それはそれでノリがよくてよかった。
後日、「題名のない音楽会」で、
当時司会をしていた黛俊郎が
フリオのビギン・ザ・ビギンを批判していた。
原曲の短調部分がいかに重い意味を持っていたかを語り、
その部分を削除することで
いかにあの曲の芸術的意味を削いでいたかを語っていた。
英詩を訳すとこんな感じになる。

バンドがビギンをはじめると
僕はやるせないほど甘く響くバンドの音を思い出す
遠くからわずかに聞こえる熱帯の夜
決してあせることのない思い出

君とともに星空の下
浜辺ではオーケストラが演奏している
ヤシの葉さえビギンにあわせて揺れていた

やり直そうとした努力は泡と消え
思い出の音は胸を掻きむしるだけ
永遠の愛を誓い、決して別れることはないと約束した

神々しい時、穏やかな喜び、
そんな僕達が味わった幸せを暗雲が追いやってしまった
他人は幸せは長く続かないと言う
その言葉の意味がやっとわかった

だからビギンを始めないでくれ
燃えかすになった愛はそのままにしておくれ
記憶だけの消えかけた欲望を揺り起こさないでくれ
ビギンを聞いていたあのときの気持ちを

そうさ、ビギンが始まるのなんか気にしやしない
あなたのもとに星の輝きが戻るまで
「ダーリン　あなたを愛してる」って
もう一度あなたがささやくまで
ビギンが奏でられていたあのとき僕たちが
幸福に包まれていたことを思い出すまで

詩の意味を知っている人が、
僕のうれしそうな鼻歌を聞いていたら
変な気がしただろうなぁ。

No.00727　02.12.06

モナ・リサ

『シェーン』で有名なアラン・ラッドが主演した
映画『別働隊』のテーマ曲として作られた。
僕が古い映画音楽に詳しいのは
うちに中央公論社の映画音楽全集があったからだ。
当時編集者をしていた父が兄のために買ったようだ。
小学生の僕はよくレコードラックから
映画音楽全集を出して聞いていた。
兄は幼い弟がレコードに傷を付けはしないかと
ひやひやしていたようだが
特に小言を言うわけでもなく許してくれていた。

当時車にはいまのように立派なカーコンポなどなく
AM ラジオがついていた程度だった。
だから音楽好きの兄はカセットテープレコーダーを
車に積み込んで、座席とドアのあいだにはさんで聞いていた。
そんなとき、僕も知っている曲がかかると
ふたりで口ずさんでいた。
そんな曲の一曲が「モナ・リサ」だった。
もちろん英詩がわからないので
「モナ・リサ、モナ・リサ、モナ・リサ〜」
と歌っていた。
実際には
「Mona Lisa, Mona Lisa, Men have named you.」
となるのだが。

No.00728　02.12.09

バラ色の人生

母は何かいいことがあると
よく『バラ色の人生』のメロディーを口ずさんだ。
旅行に行くと歌い、おいしいものを食べると歌い、
バーゲンでいい買い物ができると歌った。
母の鼻歌の定番だった。

親父が死んで以来聞いた覚えがない。
最近、おばと一緒にカラオケ教室に行っている。
『バラ色の人生』も歌っているのだろうか。

No.00729　02.12.10

二人でお茶を

高校二年の文化祭で僕はトロンボーンを吹いていた。
アンコールで演奏したのが「二人でお茶を」だった。
それから数年後、僕はデートの最中にこの曲を聴く。
彼女は知ってか知らずか
僕たちが結婚したらどうするかなんて話しをしていた。
ところが僕にはまだ結婚するなんてつもりはなく、
ビング・クロスビーの歌声が悩ましく聞こえた。

　膝枕のあなたに僕の夢を聞かせてあげよう
　二人のためのお茶　お茶を飲むための二人
　まるで君のための僕　僕のための君
　そばには僕たちを覗く人もいないし
　僕たちの話しを聞く人もいない
　週末の休暇に友達もいないし親戚もいない
　ふと気付くと誰かが邪魔をしたりもしない
　電話がかかってきて一日が始まり
　あなたが目覚めて砂糖菓子を焼きはじめる
　心待ちにしている子供たちに
　僕が持っていくため
　僕たちは家族を養う
　男の子を一人と女の子を一人
　なんて幸せな家族になるか
　君にはわからないのかい

No.00730　02.12.11

As Time Goes By

高校生の頃、たまり場だったラーメン屋があった。
そこにはいつも何人かブラバンの先輩が来ていた。
ブラバンのメンバーの交流用にノートが置かれていた。
それにある日、好きな英語の歌詞を書け
とあったので、僕はニール・ダイヤモンドの
セプテンバー・モーンを書いた。
確かこんな歌詞だ。

　Stay for just a while
　Stay and let me look at you
　It's been so long I hardly knew you
　standing in the door

　Stay with me a while
　I only wanna talk to you
　We've travelled half way around the world
　to find ourselves again

　September morn
　We dance until the night became a brand new day
　Two lovers playing scene from some romantic play
　September morning still can make me feel that way

で、その歌詞に返歌のようにして
三才年上の色っぽい先輩が
As time goes by の英詩を書いた。
真冬でもワイシャツのうえに
直接黒い皮のコートを着る人だった。

　覚えておきなさい
　キスはいつまでたってもキスだし
　ため息はたんにため息でしかない
　基本的なことは何も変わらない
　時が行き過ぎても

　寄り添う二人はじっと
　『愛してる』ってささやき合う
　その言葉を信じていいんだよ
　たとえどんな未来が来ようとも
　時の過ぎ行くままに

　月明かりとラブソングは
　時代遅れになることがない
　心からの笑いや嫉妬や憎しみを感じるためには
　女は男が必要だし
　男は愛する人がそばにいなければならない
　そのことを誰も否定はできない

　いつまでたっても変わることのない物語
　愛と栄光をめぐっての戦いや
　生きるか死ぬかの事件は
　世界はいつも恋人たちを歓迎する
　時がどれだけ過ぎようとも

大学に入ってある日、新宿で『カサブランカ』が
上映されることを知った。
夜中に一度だけの上映だった。
とにかく行った。
「あれを弾いてくれ」と言われた黒人のピアノ弾きが
『As time goes by』を奏でるシーンが見たくて。

No.00731　02.12.12

スクワット

スクワットをする瞬間、
僕の上半身は無重力状態になる。
三半規管が感覚を失う。
胃が浮き上がる。
ジェットコースターに乗って誰かに恋する感覚になる。
コンマ数秒後、僕の太ももの何千万という細胞が緊張し
いままで失われていた重力を受け止める。
筋肉の繊維が互いに引き合い、
些細な力が集まり絡まり大きな力へと練り上げる。
より一層の重力に逆らい上半身は押し上げられる。
上がりきったとき、再び上半身は重力圏から離れ
夢見がちの恋する気分がやってくる。

No.00732　02.12.13

本棚の整理

一月には引っ越そうとしているので
父の蔵書を整理している。
僕の本だけでもざっと数えて二千冊ある。
父の蔵書は少なくともそれの四倍、
ということは八千冊か。
足して一万冊の本を収蔵できる家には
なかなか引っ越せない。
それで数週間前から蔵書の整理。
それがなかなか進まない。
親父の蔵書にはどれにも赤線がいっぱい引かれている。
この線はあの作品のため、
ここの線は親父の郷里　樺太との関係だななんて
読んでいくもんだからちっとも進まない。
何回かに分けて古本屋に来てもらう。
書斎が片付いていくのはいいのだが、
親父の蔵書を手放すのはちょっと寂しい。

No.00733　02.12.16

冷凍光線

寒い日が続く。
今朝、外を歩くと息が凍った。
もくもくと出る白い息。
幼い頃には冷凍光線だぁ～とよくはしゃいだ。
冷凍光線をかけられると動きが鈍くなったり
うごけないふりをした。

No.00734　02.12.17

今朝の風

今朝、玄関を出ると風が吹いた。
冬のハワイを思い出した。
今朝の風は暖かい。
適度の湿度を含んでいる。
この涼しい風が冬のハワイの風に似ていた。
空は青いし、
三時頃に降った雨が空気を浄化したようだ。

No.00735　02.12.19

アクティブ瞑想

昨日、友人宅に泊めてもらった。
夕食を共にし、いろいろと話しているうちに
終電を逃してしまった。
「泊まっていけよ」
の言葉に甘えて泊めてもらった。
翌朝、彼が瞑想をしようと言い出す。
「どんな瞑想をしようか？」
音楽をかけてアクティブ瞑想をしようと提案した。
彼のＣＤライブラリーから『エニグマ２』を見つけ
それをかけてやった。
音楽にあわせてからだを動かす。
自由に動かしていく間に
様々な気づきがやってくる。
からだを自由に動かそうとすると
「こんな動き変ではないか？」
とか、
「こんな格好いい踊りしてきざだな」
とか、
「この動きは女っぽくないか」
とか、頭の中でエゴがささやく。
このエゴが僕の行動を縛り付ける。
エゴに耳を傾けることもときには大切だが、

いまは無視する。
汗をかき、からだが痛くなるほど踊り狂った。
音楽が終わり、しばしの静かな瞑想。
からだを覆っていた鎧を脱いだ気分。

No.00736　02.12.20

折口信夫全集

何巻か失われていた折口信夫全集の一部が
押し入れの奥から出てきた。
前々から読みたい部分が失われていて探していたのだが、
その巻も出てくるんじゃないかと楽しみ。

いま探している全集は昭和 44 年に出たものだけど、
一冊だけ昭和 29 年に出たものも持っている。
旧字がたくさん出てきて読んでいて落ち着く。

No.00737　02.12.23

ディンプゲル

長時間パソコンに向かっていると腕が疲れる。
腕の重さを特に感じる。
長い間僕はキーボードの手前にタオルを敷いて
手首を乗せるようにしていたが
ディンプルゲル・リストパッドを買った。
手首の位置が少し高くなって丁度良い。
表面が滑らかで手触りもいい。
これで肘も乗せる場所があったら完璧だな。
少し長いひじ掛けのある椅子でも買おうかな。

No.00738　02.12.24

メリー・クリスマス

僕はクリスチャンではないけど
メリー・クリスマスって言わせてもらいます。
ちょっとだけでもクリスチャンと
わかり合えるかもしれないから。
来年にはバリ島に行って
バリ島のお祭りニュピに参加します。
バリ島の人たちの考え方が
少しでもわかる気がするから。
もしどんな宗教でも
祈りの場に参加することを許してもらえるなら
お祈りに行くつもりです。
その宗教が少しは理解できるかもしれないから。
どんな国の人でも
日本の神社でお参りしたいと言ってくれるなら
おともしましょう。
もちろんお寺でもいいですよ。
そして祈りましょう。
戦争をしなくてもすむ世界になるように。

No.00739　02.12.25

煙突

アイルランドを旅行しているとき
家についている煙突の形状で
その家が泥炭(ピート)を燃料にしているかどうかが
わかると聞いた。
草原にぽつりぽつとある家の煙突を眺めては
ピートを使っているか使ってないか判断した。
いまや日本で煙突は贅沢品である。
僕が思い出すのは友人の軽井沢の別荘にあった暖炉の煙突。
ピートの暖炉を想像して豊かな暮らしを思った。
しかし、場所によっては電気やガスのほうがよっぽど贅沢品だ。
アイルランドの草原を斜めに傾いた電柱が
たるんだ電線を支えているのをぼんやり眺めた。

No.00740　02.12.26

山付きファイル

山が付いているファイル。
これを知っている人は多いが
名前を知っている人は少ないのでは。
A4 の書類を入れてたたんであるだけの厚紙のことだ。
見出しの部分が山になっているので
山付きファイルと言うらしい。
でも、会社によって名称が違う。
個別フォルダーとか、カットフォルダーとも言うらしい。
ま、とにかくそれだ。
仕事をしていると雑に情報がとにかくたまる。
それを整理するのに便利である。
雑な情報は欲しい時にはもうどこに入れたか
わからなくなっている可能性が高い。
そんなとき、これで整理してあるとすぐに見つかる。
ファイル名を見つけて欲しい情報を見つけた時には
ニマニマするってもんでしょう。

No.00741　02.12.27

眠れぬ夜

最近　眠れぬ夜が続いている。
一、二時間眠ると目が覚めて、
そのあとずっといろんなことを考えてしまう。
結局三、四時間しか眠れない。
そんな日が三、四日続くと
ある日ぐっすりと
八時間から十時間くらい眠ってしまう。
困ったなぁと思っていた。
なんかストレスがたまっているのかなぁとか、
心配事が多いんだなぁとか、
いろいろ考えた。
でも、眠れずに考えていることは
音楽と言葉の関係であったり、
言葉と過去の関係であったり、
インターネットが普及して
価値感がどう変わったかであったり、
自分と祖先の関係であったり、
実は心配事を考えているのではない。
いろんな気づきが堰を切ったようにあふれてくる。
そして気づく。
眠れぬ夜もいいものだ。
これから作家として考えていくべきテーマが
次から次へと天から降り注ぐようにやってくる。
ある声楽家が
「音楽がやってきたら自分は筒になってそれを表現する」
と言っていた。
僕も筒になる。
言霊を世界に響かせる。

No.00742　03.01.06

あけましておめでとうございます

元旦に年賀状を書き終えてから
ずっと外泊をしていた。
ただただ寝て食べてあくびする生活。
おかげでエネルギーは満タンになった。
今年も楽しく働こう。

No.00743　03.01.07

おじいさんの笑顔

年始の挨拶に銀座に行ったついでに
コネスールという葉巻屋に寄った。
一階がショップで二階がシガーバーになっている。
ショップでは年配の白髪頭のおじいさんが
愛想良くニコニコと笑って出迎えてくれた。
コイーバのクラブを買って会計している間に
カウンターにあった葉巻のムックを手に取ると
おじいさんはうれしそうに話しかけてくる。
「これははじめてコネスールが企画協力して作った
　ムックなんですよ。
　今までも何冊も葉巻のムックを作ってきた
　ワールドフォトプレスが作ったんですけど
　いままでのムックの中でも一番これが詳しくて
　いいんです」
本当にうれしそうにムックの話しをする。
「ここにはモルトウィスキーと葉巻の
　組み合わせについて書いてあるんです。
　まぁ、いまでは当たり前になってきているので
　カクテルとの組み合わせなんかが
　よかったんじゃないかと思ったんですが・・・」
少年のように
あまりにもうれしそうに話してくれるものだから
つい葉巻に追加して買ってしまった。
『CIGAR & LIQUOR』2286 円ワールドフォトプレス刊

No.00744　03.01.08

バターの香り

渋谷駅はいまバターの香りに包まれている。
二階のベルギーワッフル、
一階を出るとシュークリーム専門店。
バターの香りで思い出すのは幼い頃
兄が茹でたトウモロコシに塗ってくれたバターだ。
どこで知ったのか、まだトウモロコシが
いまのトウモロコシほど甘くはなかった頃、
とっても甘いトウモロコシの品種を探して
買ってきた兄。
鍋に湯をはり珍しく台所に立つ。
しばらくすると湯気いっぱいのトウモロコシを
居間に持ってくる。
塩をかけただけのトウモロコシもおいしいが
バターを塗ったトウモロコシがうまかった。
当時僕はバターをそのまま食べるほど
バターが好きだった。

No.00745　03.01.09

エリオット全集

中央公論が出しているエリオット全集の初版は
親父が編集した。
晩年親父は書斎にエリオットの本を何冊か取り出し
読んでいた。
ところが、父が編集した全集の第二巻はあるのだが
ほかの四冊はなかった。
見つけることができないまま父は死んでしまった。
昨晩、押し入れの奥にあったダンボール箱を開けると
エリオットの本がたくさんでてきた。
著書、訳書、エリオットについての評論書など。
出しても出してもエリオットの関係の本ばかり、
よくこれだけ集めたものだと驚いた。
親父は戦争があったおかげで大学に八年通う。
戦後はお金がなく、あやうく除籍されかける。
それでも高校の教師をしたり、
印刷工をしてお金を稼ぎ大学を卒業する。
大学では英文学科でエリオットを研究していた。
卒業して中央公論に入りエリオット全集を編集する。
山のように出てきたエリオット関係の本が
父のエリオットに対する情熱と努力を思わせる。
エリオット全集を出版して
どれだけうれしかっただろう。
ダンボール箱の奥に　見つからなかった全集の
残り四冊が大切にしまわれていた。

No.00746　03.01.10

二冊目

二冊目が出てきた。
一冊目はジャン・コクトーの「恐るべき子供たち」
二冊目は高見順の「故舊忘れ得べき」
これらの本の扉に父が母に宛てたラブレターが
書かれている。
親父は何十年もたって
息子に読まれることになろうとは
思ってなかっただろうなぁ。

No.00747　03.01.14

廣目天

かつてうちの居間に廣目天の写真が飾られていた。
その写真の廣目天は
親父に似ているとずっと思っていた。
しかし、なんであんな怖い顔の仏像写真を飾るのか
疑問だった。
ところで中学生の頃、
亀井勝一郎の本を読んでいたら、親父が
「ほう、そんなもの読むのか」
と言っていた。
「なんでそんなものなのか？」
疑問だった。
引っ越しの準備に本を整理していると
押し入れの奥からこんな原稿が出て来た。
多分親父が雑誌編集者の頃の
編集後記用の原稿だろう。

かつて亀井勝一郎氏曰く
「君にそっくりの仏像が奈良にある」と。
友人の言によると會津博士の歌で有名な
「びるばくしゃ」(廣目天)だという。
満更悪い気持ちでもない。
ただしその正否は亀井氏に伺ってない。
廣目天に踏みつぶされている邪鬼の顔だ
などといわれては藪蛇だからである。

一度にふたつの謎が解けた。

No.00748　03.01.15

亀井勝一郎

掲示板に友人から書き込みがあった。
「(亀井勝一郎と言えば)『愛の無常・・・』
　中学生の頃読みました」
『恋愛論』とか『青春論』というタイトルは
覚えていたが、『愛の無常・・・』なんて
タイトルの本があったかなと思い
中学生の頃に使っていた本棚を開くと　ありました
『愛の無常について』
ちょっと読み直すと、よくもまぁこんな難しいものを
中学生で読んでいたなぁと思う。
しばらくパラパラやっていると
「愛の結晶作用」なんて言葉が出て来た。
そうそうこれで僕はスタンダールの『恋愛論』を
読んだっけ。(大笑)

No.00749　03.01.16

西郷南洲

伊藤痴遊著の古い『西郷南洲』全四巻が
うちの本棚にある。
もちろん親父の本なのだが
前編、中編、後編、外編とあるうち
その前編がケースだけで本が失われていた。
以前、母の知り合いに紹介してもらった古本屋が
母の求めに応じてやってきて
何の整理もしていない大きな本棚二つから
本を何百冊か持っていった。
あとで連絡があり合算して
七万になったと言われたが、
あまりにも安かったので断ったら
もう本は倉庫の中でどれがどれだかわからないから
返せないと言う。
母の知人を介していた手前、
黙って七万をもらった。
そのときにおそらく前編が
持っていかれたのだと思う。
しかし、はっきりそうかどうかは不明だった。
どこかからその前編が出てこないかなぁと
一冊だけ空の　四冊の本とケースを
目立つところに並べておいた。

昨日、江古田でなんとはなしに古本屋に入った。
さほど古本屋に行くことはないが
通りがかりになんとなぁく入った。
いろんな本を見ていると、そのなかに一冊
『西郷南洲』の前編だけがポツッとあった。
手に取ると、まさしく親父の本。
赤線がたくさん引いてあり、
ところどころに書き込みがある。
どこをどうやって江古田の本屋に流れて来たのか。
そしてそれをよくもまあ僕が見つけたものだ。
三千円で買い戻した。
空のケースに再び納まった。

No.00750　03.01.17

チェット・ベーカー

うちの iMac にはいろんな音楽が入っている。
それを適当に流しながら仕事をしている。
そのなかにチェット・ベーカーの音楽も何曲かある。
ときどき鳴り出すチェットを聞くと
ヒロ川島を思い出す。
思い出すと言うよりは、
一瞬ヒロ川島が歌っているのだと思う。
そのくらいチェットとヒロの歌声は似ている。
ヒロ川島は LOVE NOTES というバンドのリーダーだ。
ジャズとハワイアンを融合させた
いい音楽を聴かせてくれる。
ヒロとチェットは深い因縁でつながっている。
チェットが死ぬ数カ月前にヒロはチェットの
トランペットを譲り受けた。
ヒロは時々そのペットでライブにのぞむ。
チェットがかつて来日した時、
ヒロの車で移動していると
カーステレオでチェットの十八番の曲がかかった。
チェットはそれがいつどこで演奏したものか
わからなかったのでヒロに聞いた。
「これっていつの演奏」
ヒロは答えた。
「えーっと、確か今年三月の新宿」
「今年の三月に日本には来てないよ」
「あ、これは僕の演奏ですよ」
本人が勘違いするほど似ているのだ。
ちなみに、1 月 31 日に渋谷のセルリアンタワーで
ライブをやるらしい。

No.00751　03.01.20

風呂桶屋さん

うちの近所の小学校の目の前に風呂桶屋さんがある。
僕がその小学校に通っていた頃から
その前を通ると必ず木のいい匂いがしていた。
ガラス戸のなかでご主人が
いつも風呂桶を作っていた。
ところが最近は桶や木製の椅子ばかりで
風呂桶を作っているところをとんと見ていなかった。
どこの家も木の風呂桶を使わなくなってきたからだ。
僕が小学生の頃迄はうちも木の風呂桶だった。
ところが風呂桶の底が抜けたのを機に
お風呂場を改造し、
ホーローで簡単に沸かすことのできる
シャワー付きのお風呂にした。
おそらく同じ頃、あちこちの家が
同じような改造をしたり、

マンションやアパートが増えて木の風呂桶を
誰も使わなくなっていったのだと思う。
自然と風呂桶屋さんの仕事は減っていった。
時々そこを通ると、寂しかった。

おとどい、風呂桶屋さんの前を通ると
すっかり白髪頭になったご主人が
やはり年老いた奥様とふたりで
木の風呂桶を作っていた。
木を組んで鉄の太いワイヤーの輪に
はめ込んでいた。

No.00752　03.01.21

玄関

もうすぐ引っ越しなので、玄関先で葉巻を吸った。
夕暮れとなり明かりが必要で、
玄関先の明かりを点けた。
そう言えば、この家で一人暮らしをはじめてから
この明かりをほとんど点けたことがなかった。
誰かの帰りを待つ時に点けていた。
僕ひとりでは誰も待つ人はいない。

この玄関でいろんなことがあった。
思い出していくと書ききれないので
いまはやめておこう。

No.00753　03.01.23

雪景色

引っ越した。
七階からの景色はいい。
富士山が見えた。
朝焼けもきれいだ。
もちろん夕焼けも。
そして今日は、一面の雪景色だ。

雪で思い出すこと。
兄貴と雪合戦したこと。
兄はいまではサンフランシスコに住んでいる。
今度帰ってくるとメールがあった。

No.00754　03.01.24

ベランダ

僕の部屋にはベランダがある。
荷物の奥に埋もれていたロッキングチェアを発掘し
ベランダで使うことにした。
ロッキングチェアに座ると
ベランダの塀が景色を隠し、
空だけが見えるようになる。

No.00755　03.01.25

自転車

自転車を買った。
乗るのは 10 年ぶりくらいだろうか。
かつてはサイクリング車で
都内を走り回っていた。
サラリーマンになって乗らなくなった。
いまふたたび自由を得た気分。

No.00756　03.01.28

本棚

新居でも本棚が必要だ。
作ってもらうといくらくらいかかるのか
見積もりを取った。
百数十万円！
こりゃ自分で作るしかないなと思い
東急ハンズでいろいろと探した。
本棚にするのにちょうど良さそうなシステムがあり、
それを大量に買い込んだ。
引っ越し前に二晩かかって組上げ、
運ばれてきた大量の本を押し込んだ。
まだ少し入りきらない本がある。
もう少し棚を追加しなければ。

No.00757　03.01.29

赤富士

今朝の富士山は朝日に照らされて
赤富士になっていた。
雪に覆われた白い山肌が
ほんのりと赤かった。
赤富士と言うよりは
ピンク富士ってくらいかな。
でも、ピンク富士って
なんか色っぽい、艶っぽい。

No.00758　03.01.31

檜の香り

東急ハンズに檜の立方体を売っていた。
何にするんだろうと思い手に取るとラベルに
「お風呂に入れて香りを楽しんで下さい」
ということが書かれていた。
面白そうなので買って帰った。
お風呂を炊く時に湯船に入れると
ふたを開けたとき木の香りがする。
湯船に浸かりながら
檜の立方体のにおいをクンクンと嗅ぎながら
「こんなことすんなら木の風呂桶使えばいいのに」
とブツブツいいながらのんびりする。

No.00759　03.02.03

バス・キャンドル

入浴中に浴槽で浮かばせるキャンドルをもらった。
球状のすりガラスの一部を切り取り、
内側にロウとロウソクの芯とを溶かし込んだものだ。
火をつけて水に浮かばせると
わずかな波にも揺れて火が消えてしまう。
ロウソクは芯に火がつくと
芯の近くのロウが熱せられて芯に吸い上げられていく。
芯の近辺の温度勾配ができることで
ロウが安定して芯にあがっていく。
ところが揺れると、温度勾配が一定ではなくなるので
温度の低いロウが芯の根元を覆い
火が消えてしまう。
だからわずかな波も立てないように
そっと入っていなければならない。
自然と行動が遅くなる。
お湯の水面から普通に手を出すだけで
火は消えてしまう。
だから、波を一切立てないように
ゆっくりと動かなければならない。
その結果、ゆったりとお風呂に入ることになる。
水面とともにかすかにゆれる光を
息をこらして見つめながら。

No.00760　03.02.04

兄の来日

兄が来日した。
あなたはおやっと思っただろう。
最初、「兄が帰ってきたこと」としようと思った。
でも、しばらく考えて
兄は帰ってきてないことに気づく。
兄は家族とアメリカに住んでいる。
兄にとって帰る場所は
アメリカ・サンフランシスコだ。
兄と食事しながらいろんな話しをした。
そのなかで兄が言ったこと。
「日本の本屋って日本語の本しかないんだね」
そして続けた。
「そう思って、アメリカに住むことに慣れたなぁって
　感じたよ」
兄は十三歳も年上で、
僕が中学生になる時に就職し、家を出ていった。
当時は悲しかった。
今は地球の裏側で活躍していることに感動する。
北海道と早稲田大学で講演をするそうだ。

No.00761　03.02.05

ロッキング・チェア

ロッキング・チェアというと
どうも西部劇のポーチで座っている老人を思い出す。
どんな映画にその場面が出てきたのか
思い出すことはできないが
なぜかおじいちゃんがロッキングチェアに
ゆらゆらと揺られながら
パイプを吸うものと思ってしまう。
うちのベランダに出したロッキング・チェアに座り
パイプをふかしながら
まだおじいちゃんにはほど遠いんだけどなぁと
思うこのごろ。

No.00762　03.02.06

「プロ編集者による」文章上達<秘伝>スクール

この本の著者である村松恒平さんは
「ヒーリング・ライティング」というタイトルを見て
「それは同語反復に等しい」
と言った人だ。
まさにしかり。
しかし、そのことの意味の深さを知る人は
あまりいない。
先日、パーティーを開いたのでお呼びした。

村松さんは自己紹介にこう書いた。
　宣伝。
　最近「プロ編集者による文章上達〈秘伝〉スクール」
　という本を出しました。
　文章を書く人なら必読の名著!
　(自分で言うのもなんだけど)です。
　えっ、ヒーリング ライティングとカブる?(笑)
　んなことないよねっ!
確信犯である。
この本の素晴らしさは読んだ上で
自分が文章を書かない限り見えてこないだろう。
でも、読むだけでも楽しいと思う。
文章に関しての本を何冊か読んだが、
書かれている志の高さや実験的な手法
(メールによる読者からの Q&A に徹する)
から、類書の中では
谷崎潤一郎の『文章読本』に次ぐものと感じた。
こう書くと、難しそうな本に感じるかもしれないが
電車で読んでいてつい笑ってしまう部分もある本だ。
読んでいて感情のバランスが取れる本。
文章を書く人も書かない人も読むといい。
文章がきっと書きたくなる。

No.00763　03.02.10
バスローブ
風呂上がりにバスローブを羽織り
バスタオルで頭を拭く。
バスローブの便利さを知ると
もうバスタオルで身体を拭くことが
面倒に思える。
同じように着れば身体を洗ってくれるような
服ができないかなどと調子に乗って考える。

No.00764　03.02.12
谷崎全集日記
引っ越しの準備で家中のものをくまなく見た。
40 年も住んでいた家なのでいろいろなものが
発掘できた。
そのなかに『谷崎全集日記』
『決定版谷崎潤一郎全集』と銘打たれた
親父のノートが出てきた。
『谷崎全集日記』は六冊、
『決定版谷崎潤一郎全集』は十二冊にわたる。
そこには中央公論社で出版した
『谷崎潤一郎全集』の出版までの経緯が
子細にまとめられている。
『谷崎全集日記』は谷崎潤一郎が生前に出した
全集の編集日記、
『決定版谷崎潤一郎全集』は没後に出した
全集の編集日記だ。
それぞれのノートには
ローマ数字で巻数が記されている。
『谷崎全集日記』第一巻の最初のページ

　昭和三十二年
　七月一日(月)
　　本日附で『中央公論』より出版部へ。
　　但し『中央公論』出張校正終了後移動。

と始まり、その後どの作品はどこに初出したものかを
営々と調べ続けたり、
いつどこで誰と何を相談したかが書かれていたり、
なかにはこんな記述も見られた。

　「樺太へ往きたがる人」は先生若かかりしときの
　友達(高等学校文芸部委員を一緒にした人)の代作で
　「遊びの金に困って」(と仰しやられて大笑された)
　したもので、全集には入れられない由。
　はじめは「不思議だ不思議だ」と、
　ちっとも記憶がないと言われ、
　新聞の複写がある以上、疑いようがないな、
　と笑われておったが、ようやく記憶の底から
　思い出されたものである。
　「その稿料を二人で遊びにつかったかもしれないな」
　と再び大笑された。
　先生の作品系列からは珍しい作品なので
　是非全集に収載したいと思っていたから
　残念である。

『決定版谷崎潤一郎全集』はこうはじまる。

　昭和四十年
　十月六日(水)
　　中央公論十二月号編集会議の最中、
　　社長により社長室へ来るようにとのことで
　　伺う。

高梨出版局長立会いのもとで、
「十一月一日付で出版局付とし、部長待遇とする」
という話しがあった。
仕事の内容は
1.谷崎潤一郎全集の刊行
2.フォーメントール賞の事務
というのが、その主な仕事である。

つい先を夢中で読んでしまった。
そのことについては長くなりそうなので
いつかどこかにまとめて書こう。

No.00765 03.02.13

時代

企業が次々と倒産し、
どこかの国が戦争するぞと他国を脅し、
罪のない人の命が簡単に奪われ、
正義はいったいどこにあるんだと
叫ばれる現代においてなお
僕は幸せだと思う。
過去のあらゆる時代の人が幸せを求め、
いつ壊れても不思議でないほど
危うい社会を築きながら
それを継続してきた恩恵を
いまこうして受けている。
次の世代にさらによい時代を与えるために
できることをしていこう。
不幸とは、それができなくなること。

No.00766 03.02.14

漢字

文字を墨書する楽しみを得た。
ただ上手な字を書くだけでは面白くないので
表意文字である漢字を
自分なりに意匠を凝らして書く。
「馬」という字は馬が走っているように、
「象」という字は象が横を向いて歩いているように
「鯨」は潮を噴きながら海を泳ぐ鯨の様を
書いてみる。

No.00767 03.02.19

静寂

かつて住んでいた家は通りに面していて
夜になっても往来の音が聞こえていた。
引っ越した新しいマンションは
通りからかなり入ったところで
防音もしっかりしているので
とても静かだ。
するとかえって些細な音が気になる。
ときどきどこかから聞こえてくる
ピシッという音や
コンピューターや冷蔵庫の音、
自分のおなかの音。
ピアノの音も前の家で弾いていた時より
大きく聞こえる。

No.00768 03.02.20

魂

写真が生まれる前は
肖像画を遺影としていた。
写真ができると写真を遺影とする。
しかしビデオやカセットテープで
動画や音声までも遺影とできる時代になった。
魂はどこに残っているのか。
親父の残した文を読んでいると
目の前で訥々と語っている親父を感じる。
ビデオに残っている親父は
生々しすぎて見る気がしない。

No.00769 03.02.26

お休み

このところ勝手にメルマガを休んでいる。
書く気がしない。
一方では戦争するぞと言い、
一方では戦争するなと言う。
戦争の特需で不景気をふっ飛ばすつもりか。
政治家にとって他国の人間は
将棋の駒以下の価値しかないのか。

昔親しかった知人が死んだ。
その知らせを伝えるために
また別の知人に電話をしたら、
その人も何年か前に死んでいた。
胸にポッカリ穴のあいた気分。
死ぬべき理由のない人たちが
一度に何百人、何千人と死んだら

胸の穴はポッカリではすまないな。

もし戦争が始まったとき
戦争に反対する人が一斉に仕事を休んだら
どうなるかな。
胸の痛みを訴えて、仕事を放棄。

政治家は国民の利益を第一に考えるはずだ。
だとすると戦争することに加担することが
日本国民の利益になると考えているはずだ。
果たしてそうなのだろうか。
長い間日本人は戦争を放棄することに
誇りを感じていた。
それがたとえアメリカから
与えられた憲法だとしても。
しかし、今回、やはりアメリカにそそのかされて
戦争に加担したら、戦争に加担した日本を
誇れるのだろうか。

戦争が始まれば、決して負ける訳にはいかない。
誰も負けたいとは思わない。
だから加担せずにはいられなくなる。
暗々裏に言論が統制されて行く。
国が負けるような可能性のあることを
言ってはいけない、書いてはいけない。

そうなる前にできることは何かと考える。

No.00769 03.02.26

昔の本

明治から昭和初期までの本には
装丁のおごったものがある。
表紙を布で張り、内扉にもデザインがあり、
箱に入った本。
作り手がどれだけ中身に誇りを持っていたかが
伝わってくる。
最近の本はあまり装丁に手間ひまをかけない。
その分安くして多くの人に読んでもらおうとする。
でも、ネット上で本の中身だけが手に入るような
この時代だからこそ、装丁に凝った本が
出て来てもいいと思う。

No.00771 03.02.28

急な坂を自転車で上がりきる

急な坂を自転車で上がるのは
なかなかしんどい。
サドルから腰を浮かせ
ペダルに体重をのせて
漕いで漕いで漕ぐ。
息は上がり脈は速くなり
フラフラと坂を上がる。
途中何度か歩いてしまおうかと思いながら
その誘惑を断ち切り断ち切り漕いで行く。
坂を上がりきると
やったーという充実感と
腿の張りが残る。

No.00772 03.03.03

ボズ・スキャッグス

ボズの昔の曲はあまり好きではなかった。
キンキン声を張り上げてがんばっている
ロック兄ちゃんとしか思えなかった。
唯一良かったのは「We are all alone」
「Other Road」というアルバムのあたりから
声の力が抜けていい感じになって来た。
「Other Road」の一曲目「Heart of mine」で
ボズへの評価はガラッと変わる。
次のアルバム「some change」にいたっては
拍手ものである。
かつてキンキン声のロック兄ちゃんが
余裕たっぷりに人生の機微を歌っている。
同じはずの声にも深みを感じるから不思議だ。

No.00773 03.03.04

アメリカ

アメリカは血を流しながら膿を出している。
ブッシュが無理を押し通せば押し通すほど
ジュクジュクと膿が出てくる。
石油権益の構造、軍需産業の連携、
キリスト原理主義者たちの幼稚な思考。
膿を出し切った時アメリカは何をするのだろう。
人類に壊滅的な打撃を与えることもできるし、
いままでにない癒しを与えることもできそうだ。

No.00774　03.03.05

スクリーンエフェクト

iMac にはスクリーンエフェクトが入っている。
スクリーンセイバーのようなものだ。
僕はそこに数百枚の写真を入れてある。
しばらくコンピューターを使わずにいると
スクリーンエフェクトが働き
次々と写真が現れては消えて行く。
出てくる写真の順番はランダムにしてある。
時々ウィスキーをすすりながら
現れては消えていく写真を眺める。
写真アルバムなどはたいていきちんと整理され、
時系列で並べられるので
自然とそこにはストーリーがある。
ところがスクリーンエフェクトは
ランダムに写真を表示するので
ストーリーがない。
唐突に現れ消えていく。
さらに iTune でランダムに音楽をかけていくと
音楽と写真のミスマッチが始まる。
楽しそうな写真に悲しそうな音楽、
悲しげな写真に楽しげな曲。
そのミスマッチに悶えてしまいそうだが
実際に起こることは違う。
どんな写真もすべての音楽にマッチするのだ。
哀愁の漂う曲がかかれば、
どんな楽しげな写真も
その背景にある悲しみや憂鬱を照らし出す。
楽天的な曲がかかれば
どんなに悲しげな写真も
人生の喜びをあぶり出す。
そうやって一枚一枚の写真にまとわりついている
感情がはがされていくと
残るのは存在の美しさだ。
散らかった机が美しかったり、
いつもの顔ぶれが愛しかったり、
普段の雲が祝福された存在に見えてくる。

No.00775　03.03.06

ブックエンド

いつからそこにいたのか
僕には覚えがないけど、
本についた日焼けの痕は
長い時間を語っている。
今度もまた大切な本を
支えてもらおう。

No.00776　03.03.07

きのこソテーバーガー

実は、モスバーガーの
「きのこソテーバーガー」にはまっている。
このところ夕食が遅くなり、
空腹を我慢できなくなるので
夕方にこっそりと行っている。
きのこの味とカボチャの素揚げがよくあう。
ちょっとてりやき風のソースが重いけど
わさびのソースがうまい具合に
その重さを吹き飛ばしている。
期間限定ってことは、
もうすぐ食べられなくなるのかなぁ。

No.00777　03.03.10

お参り

関西のお寺にお参りに行った。
護摩堂や本堂でお参りした。
きれいに整えられ、
香をたきしめた場所にいるだけで落ち着ける。
手を合わせ目を瞑っていると
遠くに曼陀羅が見えた。
その曼陀羅に近づこうとしたが近づけない。
まわりを包むかすかな光が仏様だった。

No.00778　03.03.11

インターネット

この細い一本の線を伝わり
僕の言葉があなたに届く。
地球上に張り巡らされた
網の目の一本が
僕とあなたを結ぶのだ。

いつでも届く

この魔法が僕達の関係を熱くする。

No.00779　03.03.12

シェイクスピア・アンド・カンパニー書店

『シェイクスピア・アンド・カンパニイ書店』は
日本では 1974 年に出版された。
僕はこの本を『あなた自身のストーリーを書く』の
編集をしていただいた渡辺節さんから借りた。
渡辺さんが
「とてもいい本だからぜひ読んでほしい」
と貸してくれた。
パリに 1919 年 11 月 19 日に開店した
書店についての本だった。
書店ができた当時はまだ言論が
思うようにはできない暗い時代だった。
そのなかで作家たちが自由な表現を求めて
この書店に集まった。
流れからこの書店は出版社にもなる。
ジョイス、コクトー、エリオット、
フィッツジェラルド、ヘミングウェイ・・・。
彼らと書店の店長シルヴィア・ビーチとの
関係がつづられていく。
最後はパリがドイツに占領され、
シルヴィアはドイツ軍に連行されてしまう。
本を出版することの意味と志が
書き込まれた本だった。
この本を再び親父の書斎から発掘した。
コクトーの本の扉に母へのラブレターを書き、
エリオット全集を編集した親父は
この本をどう読んだのだろうか。

No.00780　03.03.13

ブックストア

そもそも僕は昨日の『日刊　気持ちいいもの』に
『ブックストア』という本の話しを
書くつもりだった。
ところが
『シェイクスピア・アンド・カンパニー書店』が
『ブックストア』に似ているなぁと書くつもりが
『シェイクスピア・アンド・カンパニー書店』の
話しだけでかなりの分量になってしまった。
『ブックストア』はニューヨークに
1978 年にできた
『ブックス・アンド・カンパニー』
という書店の話しだ。
1997 年に閉店するが
それまでの軌跡が書かれている。
アメリカでは本の価格は一定していない。
だから大量に仕入れて大量に売るような本屋さんが
過当競争で勝っていく。
『ブックス・アンド・カンパニー』は
一冊一冊の本を大切に扱ったが
競争には負けてしまう。

No.00781　03.03.14

On War

戦争について考えるゆるやかな連合。
続々とサイトが集まって来ている。
そのすべてが反戦を語る。
一方、戦争肯定派のサイトはなかなか見つからない。
派兵するぞと政府は言うのに、
それを支持する人がまったく見えない。
なぜ？

No.00782　03.03.16　　号外

Global vigil

金曜日の「日刊　気持ちいいもの」の
インフォメーションに書いた　Global vigil ですが、
3 月 14 日午前 5 時現在　81 か国　1983 か所
だったものが
3 月 15 日午後 5 時 45 分現在では
113 か国　4364 か所にまで拡大しました。
日本での会場も刻々と増え、
3 月 15 日午後 6 時現在では
下記のような会場があります。
あなたの近くの会場へどうぞ。
一緒に平和を祈る集いに参加しましょう。

○東京　池袋　東京芸術劇場正面
西池袋 1-8-1
東京都豊島区
池袋西口公園にある東京芸術劇場正面で会いましょう。
3 月 16 日日曜日午後 7 時

○東京、原宿、明治神宮入り口前
東京
原宿駅を降り坂を上り、最初の角を右に曲がったところ。
3 月 16 日日曜日午後 7 時

○中百舌鳥駅

御堂筋線　中百舌鳥駅出口 1

大阪　堺

3 月 16 日日曜日午後 7 時

○鎌倉駅中央口

鎌倉駅

神奈川県　鎌倉

鎌倉駅中央口を出ると目の前にいくつかのバス停のある

広場があります。

その広場の反対側に東京三菱銀行があります。

そこで会いましょう。

3 月 16 日日曜日午後 7 時

○札幌テレビタワー　大通公園

札幌　0640801

大通公園の右、テレビ塔の前で

3 月 16 日日曜日午後 7 時

○京都　賀茂川

京都　賀茂川三条大橋そば　賀茂川の端?

ろうそくを持ち暖かい服装で来て下さい。

会場で会いましょう。

質問等ありましたらどうぞ。

3 月 16 日日曜日午後 7 時

○阪急美濃駅　日本　美濃

大阪　美濃

美しい北大阪にある美濃駅へは

バスか阪急電鉄で行くことができます。

駅正面で 3 月 16 日日曜日午後 7 時に会いましょう。

ろうそくと紙コップを持って来て下さい。

3 月 16 日日曜日午後 7 時

○水道の丘　千種区谷口

千種区宮の腰

名古屋

水道の丘は谷口交差点の北東の角にあり、

その南東の角には「なべやうえの浄水場」があります。

最寄りのバス停は「きかんバス」の「谷口」です。

「さかえ」から 20 分、名古屋駅からは 30 分です。

友達を誘って来て下さい。

3 月 16 日日曜日午後 7 時

○けご公園　ソラリアプラザ側

中央区天神

福岡市

けご公園　ソラリアプラザ側

2003 年 3 月 16 日午後 6 時 45 分

3 月 16 日日曜日午後 7 時

○JR 岐阜駅(南側)

JR 岐阜駅

岐阜

ろうそくと紙コップ、ライターを持って来て下さい。

おそらく終わったら岐阜駅内の喫茶店でお茶をします。

3 月 16 日日曜日午後 7 時

○奈良近鉄駅(噴水のそば)

奈良近鉄駅

奈良

平和のための奈良キャンドルライトビジル

世界中の人々が団結する平和のためのビジルに

参加して下さい。

世界が一致団結して再び理性の火、平和の火を

ともす時が来ました。

2003 年 3 月 16 日(日曜の夜)6 時 45 分に

奈良近鉄駅(噴水のそば)で会いましょう。

静かなビジルが終わったあと、署名、音楽、詩、朗読、

なんでもあなたが分かち合いたいものを持って来て下さい。

(ろうそくとコップはこちらが用意します)

この情報を興味を持ちそうな人みんなに回して下さい。

3 月 16 日日曜日午後 7 時

○田無駅北口

田無町 2 丁目

東京

キャンドルだけを持って来て下さい。

イラクとの戦争に反対する意志を持ち、

平和を求める人なら誰でも参加可能です。

平和のために一緒に祈りましょう。

3 月 16 日日曜日午後 7 時

○Big Itoku

McD's　のそば

大館

ろうそくと　cameras kids　を持ってこい。

あんたさえ良ければ終わったら話そうぜ。
情報を回してたくさんの人を連れてこい。
会場で会おうぜ。
3 月 16 日日曜日午後 7 時

○函館五稜郭
丸井の前の大きな交差点で
北海道函館
ろうそくと紙コップとライターを持って
暖かい服装で来て下さい。
3 月 16 日日曜日午後 7 時

○さい川
石川県金沢
青い橋から上流に向かって歩いて 4 番目の橋
3 月 16 日日曜日午後 7 時

○小平駅北口
東京都小平市美園 1-34-1
午後 6 時から小平駅北口のタクシー乗り場そばで
平和を訴えるラリートークをやってます。
そこに集まって下さい。
3 月 16 日日曜日午後 7 時

○甲府駅とキャッスル・グラウンズ(城内ということ?)
甲府駅正面
山梨県　甲府
甲府駅の外で会いましょう。
キャッスル・グラウンズ(城内?)まで歩きましょう。
3 月 16 日日曜日午後 7 時

○熊野浜の獅子岩近く
三重県熊野獅子岩
熊野駅から海に出ると獅子岩が見えます。
そのあたりにいます。
3 月 16 日日曜日午後 7 時

○久留米西鉄駅
明治通り　と　ルート 3 ？
福岡県久留米市
久留米西鉄駅の脇に
(マクドナルドと福岡銀行から遠く見える)明治通りを渡る
高架の歩道橋があります。
明治通りを見下ろすようにその歩道橋に一列に並びます。
久留米ではもっとも交通量の多い通りです。
3 月 16 日日曜日午後 7 時

○三島シティホール　大社アネックス　別館
三島大社正面
静岡県三島
三島多町通りすぐそば。
その後フリートークセッションをおこないます。
3 月 16 日日曜日午後 7 時

○三保の松原　(天女の木?　羽衣)
三保の浜
静岡県静岡市
羽衣神社では集まりません。浜の松の木で集まります。
わかりやすい場所です。
3 月 16 日日曜日午後 7 時

○CIC ビルの前
富山駅と近くの CIC ビル
富山市
CIC ビル正面の広場にて。
CIC ビルは富山駅を出て通りを渡ったところ。
3 月 16 日日曜日午後 7 時

○JR 浜松駅
北口
静岡県浜松
ろうそく(ちょうちんがあればベスト)かライターを
持つて来て下さい。
音の出るものはいりません。
集まりの前後の予定はいまのところありません。
3 月 16 日日曜日午後 7 時

○北畝?1　公園
倉敷市北畝 2-17-36
水島キトリック教会のすぐ隣
3 月 16 日日曜日午後 7 時

○三島駅南口正面
三島一番
JR 東海　三島駅正面で集まります。
ビジルが終わったら友達になるために話しましょう。

3 月 16 日日曜日午後 7 時

○佐賀駅南口
佐賀駅
佐賀県
日曜日午後 5 時までに連絡下さい。
3 月 16 日日曜日午後 7 時

○湖西線ほうらい駅前
志賀町八屋戸
滋賀県
国道 161 号沿いほうらい駅前
ふくたクリニックに駐車できます。
3 月 16 日日曜日午後 7 時

○カフェ・スロー
東京都府中市栄町 3-20-17
この平和イベントは 6 月 22 日
「キャンドルナイト・プロジェクト」を
コーディネートする(or した)「なまけもの倶楽部」が
組織します。
3 月 16 日日曜日午後 7 時

○ワラビ市民公園(噴水の前)
塚越 5 丁目
埼玉県蕨市
噴水前で会いましょう。
3 月 16 日日曜日午後 7 時

○亀山公園　ふれあい広場　藤棚の下
パークロード　県立図書館と合同庁舎のあいだ。
朝市の場所。
山口市
朝市の立つ場所です。小さな公園あり。小雨決行。
3 月 16 日日曜日午後 7 時

No.00783　03.03.17

キャンドルの灯

Global vigil for peace　に参加した。
午後 6 時半、東京芸術劇場の前には
誰もいなかった。
ひとりでキャンドル灯すのは恥ずかしいなぁ
と思っていたらヒーリング・ライティングに
参加したかたがひとりやってきた。
そこで足下にひとつ、
アロマキャンドルを置いて火をつけた。
するとどこからともなく次々と
キャンドルを持った人たちが現れて来た。
それぞれの人がキャンドルを持ち、
ただ黙って立つ。
風でゆらゆらと揺れる火を見つめながら
平和への祈りをする。

No.00784　03.03.19

信じること

争いは不信から生まれる。
互いが信じ合っていれば
話し合いが生まれる。
指導者が不信感をばらまいてはならない。
争いに満ちた世界になってしまう。

No.00785　03.03.20

無意識の力

世界中が固唾をのんで動向を見守る。
国と国との関係が戦争と言う名の
圧倒的な暴力で決められるのだとしたら、
校内暴力も親族殺人もたいした話ではない。
せいぜい殺すのはひとりかふたりだ。
戦争を肯定する人は言うだろう、
「防衛のためだ」
でもね、校内暴力も親族殺人も
犯人は何かから自分を守るためにやっている。
個人的過剰な防衛は罰せられ、
国家的過剰な防衛はなぜ容認されるのか？
屁理屈言うのやめたら？
犯罪を犯すものは自らの無意識が
自らの心を蝕むよ。
もしこれを読んでむかつくなら
あなたは恐怖心に縛られている。
恐怖心に煽られると正しい判断を失う。
温かい心で生きて行こうよ。

No.00786　03.03.24

塗香

京都で塗香(ずこう)を買った。
手や身体に塗り、心身を清めるお香だ。

密教で仏に備える六種供具のひとつでもある。
肉桂、白檀、それにわずかな沈香の香りがする。
邪気を払うと言うが
確かに嗅ぐと気分が落ち着く。

No.00787　03.03.25

ひさごの親子丼

京都に行くと食べたいもののひとつに
ひさごの親子丼がある。
以前はお昼時でなければ楽に入れたが
今では 4 時頃の
人が入りそうもない時間に行っても並んでいる。
プンと香る山椒の香り。
上に載ったたまごのやわらかさ。
ご飯をやさしく包む
火の軽く通った味付きたまごの汁。
とり肉はプリプリ。
時々食べる　いかにもそば屋のたくあん。
次に来るのはいつだろうと考えてしまう。

No.00788　03.03.26

ラーメンの味

切ないもの 1

今日からしばらく切ないものを書いてみます。

昨日美味しいラーメンを食べた。
だしがしっかりしていて、
麺も細いのに噛みごたえがある。
けれども客はそんなに多くない。
その時に気づきました。
ラーメンは上品な整った旨さでは
客が呼べないと。
混んだラーメン屋のラーメンは
どれも欠点のあるものばかりです。
くどかったり、味がきつかったり、
麺が固すぎたり、臭かったり・・・。
それでわかりました、
ラーメンを食べにくる人はきっと
心の底で切なさを味わいに来るのだと。
だから完璧な味では物足りないのです。
どんな味でも食い尽くして、
それをエネルギーにしてしまう
そんな貪欲さが求められるような食べ物。
それがラーメンなのです。
そんなラーメンだからこそ、
行列を作り、苦行のように並んで待って
それからやっと食べるのです。
並ぶこと自体、味つけのひとつなのです。
普段のどこかつらい生活の延長にラーメンがある。
どんな生活でも味わい尽くす力のある人だけが
ラーメンのとりこになっていくのかもしれません。
そんな人たちが今日も狭いラーメン屋で
頭を並べてラーメンをすすっています。

No.00789　03.03.28

さくら

切ないもの 2

さくらのつぼみがほころびはじめた。
毎年この時期になるとさくらが気になる。
卒業式を黙って見つめ、
入学式を黙って見つめ、
結婚式を黙って見つめ、
葬式を黙って見つめ、
入社式を黙って見つめ、
とにかくさくらは咲いている。
しばらくすると風に散る桜吹雪が
川の水面をうめつくす。
そしてまた一年、花を咲かせる準備をする。

No.00790　03.03.31

ジャスミンの香り

切ないもの 3

春になると思い出すものに
ジャスミンの香りがある。
僕が浪人生の頃、
高校の先輩が房総半島に
旅行に連れて行ってくれた。
その土産でジャスミンを買った。
部屋に置いておくと
春の生暖かさとその香りが混ざり合って
気怠い雰囲気を生み出す。
服も軽くなり、気分は軽くなって行くのに
浪人の僕は黙って机に向かっていた。

No.00791　03.04.01

逃げ水

切ないもの 4

気候が暖かくなってくると
逃げ水が見えるようになってくる。
日に照らされたアスファルトの上に
ゆらゆらと生まれる逃げ水。
逃げ水の実体は
温度変化でできた空気の層だ。
つまりそこには何もない。
ないものを見ているのだ。
しかし、空気の層は存在する。
普段、空気の層を存在だなどとは考えない。
温度変化でできた空気の層を指差して
「この存在を感じるかい？」
なんて言ったら、頭がおかしいと思われるだろう。
だけど
「ここの空気の層がわかるかい？」
と言ったら、へぇと思われるだろう。
この微妙な違いはいったいなにか？

No.00792　03.04.02

赤ん坊の指

切ないもの 5

赤ん坊の指はか細い。
ちょっと下手に力を入れたら折れてしまいそうだ。
しかし、よくあんなに小さいものが
大人と同じ形をしているものだ。
歯にはさんで噛んだら噛み切れそうなもろさ。
肌のぷくぷくとした柔らかさ。
それなのに握ると力がある。
いつか僕の指のようになってしまうのか。

No.00793　03.04.03

本

切ないもの 6

大きな書店や図書館に行くと
どこまでも続く本の列に切なさを感じる。
一冊書くのにも大変な苦労だ。
それが何十万冊とあると
その苦労は何十万倍だ。
誰かに何かを知ってもらいたいと
コツコツと書かれたものが
どこまでもどこまでも続いていく。

No.00794　03.04.04

うちにあったトランペット

切ないもの 7

うちにトランペットがあった。
兄が兄の友人からもらったものだ。
その友人がある日交通事故で亡くなった。
その知らせを電話で受けた翌日、
その人が送ってくれたみかんが一箱
うちに届いた。

No.00795　03.04.14

フルーツ・スライス

バリから帰ってきました。
今年もいろいろといいことがありました。
そのなかで　いまでもすぐに思い浮かぶ
至福の時は　朝食のフルーツ・スライスを
食べるときでした。
メロンとパイナップルとパパイヤが
同じ大きさに切りそろえられて
お皿に並べられます。
バリのパイナップルは小さめで、
芯までカリカリと食べられて甘いのです。
メロン、パパイヤももちろんおいしい。
朝の寝ぼけた身体に果物の甘さとビタミンが
スーッと溶け込んで来るようで
幸せでした。

最後の日にはリゾートホテルのプールバーで
フレッシュ・パパイヤ・ジュースに
バーボン・ウィスキーを入れて
シェークしてもらいました。
パパイヤは大きくてすっかり熟れていて
とても甘く、そこにバーボンの香りが
忍び込みます。
バーボンの香りはパパイヤの味に影を付け
その甘さを際立たせてくれます。
おいしいパパイヤが手に入ったら
うちでも作りたい。

No.00796　03.04.15

プラ・グラップ

バリ・ヒンドゥーの総本山、
ブサキ寺院で毎年礼拝するが、
今年はその奥の院とも呼べる
グラップ寺院にも礼拝した。
ブサキ寺院には五つのお寺がある。
そのうち三つは『地球の歩き方』に
紹介されているが
グラップ寺院は載っていない。
一般にブサキ寺院として紹介される
プナタラ・アグン寺院より
アグン山寄りにある。
参道を上がるとそこは風の通り道、
はるかにバリの南部を見下ろす
雄大な景色があった。
寺院は音の神様であり
空と陸の間に住む「イスワラ」を
祀ってあると言う。
寺院の塔のてっぺんに
宇宙最高の存在ティンティヤの絵が
輝いていた。

No.00797　03.04.17

苺

苺を食べました。
やわらかな肌に歯をたてます。
赤い肌に埋まって行く歯。
赤い汁が口に流れ込みます。
苺の香りと甘酸っぱい味。
噛み切ると苺は
日輪のような切り口を見せ
輝いています。
噛み切られた断片は
舌の上を泳ぎ
芳香を放ち、
さらに細かく砕かれます。
味の蒸発、
種の舌触り、
しばらくの陶酔。
指先につままれた日輪を
舌の先でなめてもいいですか。

No.00798　03.04.18

シネマ・コンプレックス

僕がはじめてシネコンに入ったのは
94 年にマイアミでだった。
当時は日本にそんな施設はなく、
すごいものがアメリカにはあるなと思っていた。
数年前から日本にもできはじめた。
いつか行こうと思いつつ
なかなか行く機会がなかったが
ついに行って来た。
まず驚くのはチケット売り場だ。
たくさんの映画が何時から始まるのか
電光掲示板に示される。
見るつもりで来た映画より
面白そうな映画があると
ついそっちも見たくなる。
チケットを買って劇場に行くと
入り口のサインがまるで
バーチャル・リアリティだ。
異空間を漂い劇場に入ると
椅子がゆったりしていて居心地がいい。
前席の人の頭が気にならないように
かなり急勾配で座席が並んでいる。
暇ができたらまたつい来てしまうな。

No.00799　03.04.21

石神井川

近所に石神井川が流れている。
土木工事でコンクリートに囲まれた川になって
数十年経つ。
おかげで台風が来てもあふれることはないし、
生活に不便は感じない。
時々水鳥が川にいるが
コンクリートに囲まれた川では水草はない。
魚が泳いでいるので
それらをえさにしているのだろう。
川に水鳥がいるとなんかほっとする。
でも、水鳥たちが定着することはない。
もし水鳥が定着するような環境になると
蚊やハエやその他の昆虫も増えることだろう。
住みやすい環境とは
人間にとって邪魔なものを
徹底的に排除した環境なのだろうか。

それとも自然と共生した環境なのだろうか。
答えを出すのは簡単だが、
それを実現するのは難しそうだ。
ある程度人間にとって邪魔なものを排除し、
適当に共生しているようにも見える
石神井川の水面は透明で
見た目には美しい。

No.00800　03.04.22

焼き筍

生の筍を買って来て
皮をむいて、むいて、むいて、
出て来た筍の先っちょを薄く切って
網に乗っけて焼いて食べる。
ちょっと焦げ目が付く頃に裏返して
醤油を塗ってしばらく焼く。
また焦げ目がちょっと付いた頃に
お皿にとって食べる。
香ばしい焼けた醤油の匂いと
筍の甘い味。
筍は焼くと
まるでトウモロコシのように甘くなる。
春先のささやかな幸せ。

No.00801　03.04.23

飛行機雲

昨日はたくさんの飛行機雲が見えた。
普段もこんなに飛行機は飛んでいるのだろうか。
前のうちは窓から見える空が狭かったので
見えなかっただけかもしれない。
飛行機雲ができやすい気候だったと言うのも
あるだろう。
政情不安のせいかなぁとも思う。
青空に引かれる白い線。
その美しさだけを素直に受け止めたい。

No.00802　03.04.24

東京シティビュー

六本木ヒルズに行って来た。
キヨズ・キッチン六本木ヒルズ店が
ハリウッドビューティープラザに
出店することになり、
そのオープニングパーティーに参加した。
パーティー会場で東京シティビューの
チケットをもらったのでさっそく行ってみた。
東京シティビューとは
六本木ヒルズの展望台の名称だ。
エレベーターの入り口が明かりでまぶしく
中に入ると自然と落ち着くような演出が
施されている。
52 階につくとそこは展望ギャラリー。
東京の夜景がくっきりときれいに見える。
高層ビルの窓はどこも
厚いガラスで覆われているので
夜景の明かりがわずかにぼけるが
東京シティビューの窓はできたばかりのせいか
夜景の明かりがはっきりと見える。
その気になればベランダにも出られる。
足下にはきれいに整った六本木ヒルズの街並。
東京もずいぶんと発展したなぁ
なんて思いながら 53 階にあがると
六本木の発展の様子がわかるような展示があり、
床には大きな江戸時代の地図があり、
画面では押井守の監督した東京の空撮映画が
上映されている。
ハイビジョンのように画像の密度が高く、
この映画ももう一度見てみたい。
入場料が 1500 円もするそうだが、
誰かを連れてまた行ってしまうな。

03.04.28

ゴールデン・ウィーク

ゴールデン・ウィークはとにかく休む。
ということで、日刊　気持ちいいもの　も
休ませていただきます。
いい休日をお過ごし下さい。

No.00803　03.05.06

全員集合

バリ島に一緒に行った仲間が集まった。
互いの写真をスライドショーにして見せ合う。
みんな同じ場所にいたのに見る場所が違う。
互いの視点の違いに大笑いする。
みんな違って、みんなよい。

No.00804　03.05.07

喧騒

真夜中に窓を開けると
遠くの喧騒が聞こえる。
遠くで聞こえる波の音のような、
空洞に響く水の流れのような、
懐かしくもあり
うっとうしい気もする不思議な音。
この音に包まれて生きて来たなと思える音。

No.00805　03.05.08

東京湾岸

この 10 年で東京湾岸の景色は
劇的に変わった。
時々湾岸に行くと
もうかつての東京とは思えない。
よくアメリカのテレビドラマでは
摩天楼の空撮が利用されるが、
東京湾岸の空撮の映像も
使えばいいのになぁ。
使えない理由でもあるのだろうか。

No.00806　03.05.09

日本の古本屋

かつて絶版になった本を探すのは

かなりの苦労だった。
あちこちの古本屋に行ってもないときは
祈るしかなかった。
ところがインターネットの発達で
便利なサイトができた。
日本の古本屋というサイトだ。
書名や著者名を入力すると
スルスルとリストアップされる。
どこの本屋にどんな本があるのか
一発でわかる。
もちろん注文もそこでできる。
一度探してなくても
何日かしてからもう一度検索すると
見つけたりする。

No.00807　03.05.12

ハード・ワーク

フリーで生活していると
時々仕事がいくつも重なることがある。
この週末はその状態だった。
朝までやってやっと終わる。
でも、きちんと終わると爽快なものだ。

No.00808　03.05.13

雨の日の風景

雨の日に車に乗って
車内からフロントガラスごしに
撮った写真がある。
雨がにじんでボケボケの写真だけど
なんか好きでデスクトップにしてある。
ここまで書いて思い出したのは
小学生の頃　大雨の日、
外に出られずに
窓から眺めていた雷鳴。

No.00809　03.05.14

五月中旬のロッキングチェア

ベランダに置いてあるロッキングチェアですが、
このところ暖かくなってきたので
座って本など読んでいると
とても幸せです。
自分が揺らして起こるささやかな風と
空を吹き抜けて来た風らしい風が
僕の肌の上でハーモニーを奏でます。
僕の心は本の世界を漂い、
そこから派生した空想の世界を時々泳ぎ、
かすかに聞こえる音楽でふと現実に戻ります。
本の世界と空想の世界と現実の世界。
行ったり来たりでいい感じ。

No.00810　03.05.15

資料探し

本を書くのに必要な資料を探す。
探して探して見つからなくて
もう駄目、ここは推論にしておこうか
なんて思った時、
ひょっこり欲しかった結論を導いている
資料に出会うと
そりゃもうなんといいますか・・・。

No.00811　03.05.16

150 人

脳に関する本にはよく
脳とその動物の身体の大きさとの関係について
書かれているが、
先日読んだ本には前頭葉の大きさと
その動物の群の大きさに相関関係があることを
指摘していた。
前頭葉が大きいほど
その動物が属する群の大きさが大きくなるとか。
その比例関係のグラフから
人間の群の大きさはだいたい 150 人になるとか。
単に知り合い程度では群とは言えない。
互いに相手の立場や状況を密に知り合えるのが
150 人だそうだ。
橘川幸夫さんが
個人的ネットワークが自然に作れるのは
経験的に 300 人までだと言っていた。
群のちょうど倍の数。

No.00812　03.05.19

捨てる

かつて住んでいた家は
収納のために借りていたような家だったので
どんな古本も古着もガラクタも
ほとんど捨てることがなかった。

ところが引っ越したマンションは
普通のマンション。
収納場所は限られているし、
部屋の間取りも限られている。
こざっぱりと暮らすためには
たくさんのものを捨てなければならない。
はじめは捨てるのが嫌だなあと思っていたが
捨てはじめると捨てるのが楽しくなる。
捨てた分、場所が自由になる。

No.00813　03.05.20

ティッシュボックス

ティッシュボックスのふたの部分を切り取り
文庫本を立てていれると整理に便利だと聞き
やってみた。
書斎の書棚は奥が深く
文庫本を入れると三列並べられる。
ぎゅうぎゅうにつめているので
当然三列に並んでいるのだが、
本を探すのに不便だ。
ティッシュボックスを利用すると
一番奥の一列はそのままにして
二列目と三列目にティッシュボックスを
置くことで、ティッシュボックスに入れた
文庫を引き出せば一番奥の列も見える。
なんと便利。

今日の『日刊　気持ちいいもの』は
朝のワイドショーの
『暮らしのワンポイントアドバイス』
のようだな。(笑)

No.00814　03.05.22

氷コーヒー

かなり以前にどこかの喫茶店で飲んだ。
先日ミスタードーナツで再会して懐かしかった。
凍らせたコーヒーに牛乳を注ぐ。
しばらくすると凍ったコーヒーが溶けて
つめたいコーヒー牛乳になる。
氷が融けるまでゆっくりと飲む。
喫茶店は客の回転が悪くなるんじゃないかなぁと
余計な心配をしてみたりする。

No.00815　03.05.23

フローリング

スリッパはあるけど
裸足でいるのが好き。
ちょっと冷たいフローリングの温度が
足の裏に伝わる。
ワックスを塗って滑りやすいので
足の指が広がる。
床を一生懸命つかもうとする
この感覚が好き。

No.00816　03.05.26

いろいろなお豆のサラダ

キヨズキッチンで定番の
いろいろなお豆のサラダを自分で作った。
大豆と金時豆を買って来て
三時間ほど水につけ、
そのあとことこと 30 分ほど煮た。
煮た水は捨て、冷たい水でお豆を洗い、
しばらくさましておく。
そのあいだにキュウリとタマネギを
大きめのみじん切りにして
お豆に混ぜながら
ヘーゼルナッツオイルをたらし、
お酢と塩で味を調え、
最後にみじん切りのパセリを
ぱらぱらっと。
いやぁ、おいしかったです。

No.00817　03.05.27

お店貸し切り

先日行きつけの居酒屋に行った。
普段は混んでいる店に
一組しか客がいなかった。
しばらくしてその客も帰ると
お店は貸し切り状態。
店員さんたちとのんびりお話しした。
店員さんの普段の生活がわかって
楽しかった。

No.00818　03.05.28

雨の中の自転車

ひさしぶりに雨の中を自転車で走った。

ブレーキが効かないので用心深く走る。
タイヤの後ろでシャーツと水のはねる音がする。
顔にあたる水滴が鬱陶しい。
目を細めて前を見ると
傘を持っていない人たちが
右往左往と走っている。
洗濯さえ気にしなければ
雨の中を走るのはスリリングでいい。
少女がひとり、こちらを見て笑っていた。

No.00819 03.05.29

スピリタス

ご存じですか、スピリタス。
アルコール度数 96 度のウォッカ。
70 回以上蒸留して作ると言う
ポーランド産世界最強のウォッカ。
大阪のバー、マックで飲ませてもらいました。
東京で見つけてつい買ってしまいました。
ゴクッと飲む前に口の中で蒸発する、
そんな感じです。
冷凍庫に入れてキンキンに冷やしても、
口に入れるとカッカします。
グラスの表面は冷たさで結露するのに・・・。
いまもチビッと口に入れ、
カーッと蒸発していく舌触りを楽しんでいます。

No.00820 03.05.30

水をかぶる

風呂上がりに水をかぶるのが習慣です。
冬の間は水が冷たいので
少しお湯を足したりします。
でも、もうそろそろ水で充分。
暖かい季節になりました。

No.00821 03.06.02

.Mac

便利なものができたものだ。
自宅のコンピューターの内容を
どこかに持ち出したい時
.Mac に入れておく、
するとどこでも
ネットにつながっているコンピューターがあれば
取り出すことができる。
大きなファイルを
何のメディアに入れて持ち運ぶか
迷う必要がない。
以前は外出先のコンピューターに
MO があるかとか、CD-ROM は使えるかとか
悩んだんだけど。
iMac になぜフロッピーディスクが
つかなくなったのか
やっとわかった。

No.00822 03.06.03

ゴーヤー茶

取材先で出会ったカメラマンと
食べ物の話になった。
僕がゴーヤー・チャンプルーをよく作ると言うと
ゴーヤー茶は知っているかと言う。
にがうりをスライスして干すと
ゴーヤー茶になるのだとか。
翌日、同じ仕事でそのカメラマンに新宿で会った。
すると彼は新宿駅で
ゴーヤー茶を売っていたと言う。
仕事が終わってさっそく買いにいった。
ティーバックに入れられたゴーヤー茶があった。
ほのかに苦くて甘くて香りがあって
癖になってしまった。

No.00823 03.06.04

レモンチェロ

友人が作ったレストランで
レモンチェロを飲んだ。
イタリア製のレモンリキュールだそうだ。
料理もうまくて切なかったが
レモンチェロがその切なさを倍増する。

No.00824 03.06.05

卵の黄身の辛味噌漬け

まず辛味噌を作る。
味噌にししとうと鷹の爪をつけて
一週間ほど冷蔵庫で寝かせる。
味噌に味が付いたら
ししとうと鷹の爪を取り出す。
味噌にガーゼをしいて
くぼみをつくる。

そのくぼみの上に卵の黄身をポコッと載せる。
そのまま一、二週間。
黄身は次第に味噌のような色になっていく。
すっかり味噌の色になったらできあがり。
取り出して食べた。
はじめのうちはおいしいのかまずいのか
よくわからなかったが、
食べているうちに次第に
美味しく感じられるようになって来た。
食べたことのない食感と味。
ねっとりとして舌に絡まり
噛み心地が未体験のもの。
味は味噌の味のなかにししとうと
わずかに黄身の味。
日本酒に合う。

No.00825　03.06.06

お風呂で読書

引っ越して来てから
お風呂で読書するようになった。
お風呂に入って最初の十分程度
湯船に浸かりながら本を読む。
いま読んでいるのは
モンテーニュのエセー。
読んでいるうちに
腕や顔にじっとりと汗をかく。
はじめのうちは本が痛まないか心配だったけど、
注意していればきれいなまま読み続けられる。
次は大乗仏典かレヴィ=ストロースを
読もうと思う。

No.00826　03.06.09

チェーホフ全集

父の書斎にチェーホフ全集があった。
いったいなぜあるのかわからなかった。
チェーホフが父の趣味とは考えにくい。
何巻か欠けていた本を見つけた。
そのなかにサハリン島という
樺太の旅行記があった。
別の巻には書簡集があり
サハリンからの手紙が赤線で埋まっていた。
父は幼い頃を樺太で過ごしていた。
きっとこれを読んで何かを書いたか、
書こうとしたか。

No.00827　03.06.10

オブラディ・オブラダ

今朝、眠くてボーッとしていると、
ラジオからオブラディ・オブラダが流れて来た。
ホンキートンクのピアノが
チャンチャカチャンチャカチャンチャンチャン
とリズムを刻み
ベースがドッテゥェリ　ドッテゥェリと
やりだして
デズモンド　ハヴァ　バンド　イナ
マーケップレェィス
と歌が聞こえてくると
なぜか頭のもやが晴れるように目が覚めた。
この曲には目を覚ます魔力があるな、
と思ったあと、
僕の頭はベースラインを追っている。
そうだ、高校生のときウッドベースで
これを弾いたんだ。
ウッドベースの弦が太くて
ドッテゥェリのテゥェの部分の装飾音が
うまく出ず苦労した。

No.00828　03.06.11

バナナジュース

バナナと牛乳をミキサーにかけて
バナナジュースを作る。
子供の頃から好きだったが
なかなか作ってもらえなかった。
たぶん母がミキサーを洗うのを
面倒がったのだろう。
今では僕がせっせとミキサーを洗っている。

No.00829　03.06.12

霧雨

風が吹く霧雨の日は
細かい雨が窓から入る。
濡れないように窓を閉めるが
ひやっとする空気に
肌を潤したい。
鼻腔から肺に
清らかな風を

吸い込みたい。
濡れることを覚悟して
窓を開く。
霧雨の景色に
昔のことを思い出しそうな気分。
でも、頭の中は
ただ霧雨の景色。

No.00830　03.06.13

Fotolog

面白いサイトを見つけた。
世界中のいろんな写真が見られる。
美しい写真、馬鹿げた写真、
顔をそむけたくなるような写真、
思わず笑ってしまうような写真、
と色々ある。
写真を掲示すると
他の掲示している人と
コミュニケーションが取れる。
世界中の写真好きと知り合いになれそう。

No.00831　03.06.16

Photos

私は世界に何を見るか。
その端的な表現が写真になる。
美しさを見つける者。
おかしさを見つける者。
醜さを見つける者。
悲しさを見つける者。
怒りを見つける者。
愛らしさを見つける者。
・・・
世界中の人が必死に何かを探している。
最後に見つけるのは自分自身だと知っていても。

No.00832　03.06.17

シーリング・ファン

僕の書斎にはシーリング・ファンがついている。
エアコンの代わりにつけてみた。
この季節になると結構涼しい。
エアコンよりは電気代安いし音も静か。
リゾート気分も味わえるかな。

No.00833　03.06.19

マンゴー

マンゴーを買って食べた。
はじめて食べた。
どう切っていいのかもわからないので
適当に切ろうとすると
大きな種が邪魔で切れない。
一つ目のマンゴーは
グズグズになってしまったが
そのままグズグズを食べた。
口や指がマンゴーだらけ。
二つ目のマンゴーは種の位置を
確認したので
魚を三枚におろすように切った。
皮についた実をスプーンですくって食べる。
真ん中の種付きの実は
しょうがないのでかぶりつく。
やはり口と指がマンゴーだらけ。
うまいので許す。

No.00834　03.06.20

バーボン・ソーダ

世の中には不思議なことがたくさんある。
なぜ生命は生命たりうるのか。
なぜ宇宙は膨張しているのか。
なぜピータンを食べたあと
すぐにビールを飲むと甘く感じるのか。
なぜ僕はバリやハワイに惹かれるのか。
そして、これらの不思議とともに
とっても不思議なのはバーボン・ソーダだ。
ソーダはちっとも甘くない。
バーボンも全然甘くない。
なのに混ざると甘く感じる。
なぜだー。
それは男と女の秘密にも似ている。
たったひとりだと全然面白みのない男が
奥さんの前では突如として
性格を変えることがある。
そういうカップルを
バーボンソーダ夫婦と呼ぼう。

No.00835　03.06.23

民衆法廷

気持ちいいという訳ではないが
アフガニスタン国際戦犯民衆法廷が開かれる。
ここでブッシュの戦争犯罪を裁く。
裁いたからといって刑罰を科すわけではない。
罪があることを公に知らせるだけだ。
アフガニスタンへの侵略があり、
戦争犯罪があったことを公にするのだ。
7 月 21 日の第一回公判には行くつもりだ。

No.00836　03.06.24

フレンチトースト

朝食にフレンチトーストを作った。
ホテルで食べたフレンチトーストを
思い出しながら勘で作った。
まずは卵と牛乳と
少しのメープルシロップを
ミキサーにかけ、
深めの皿に注いで
そこに厚めのパンを漬ける。
しっかり吸い込むまで
何時間か待つのだろうが、
朝食作るのにそんな時間はかけられない。
スプーンの腹でパンを軽く押して
吸い込ませる。
十分吸い込んだら
フライパンを熱くしておいて
そこにパンを置く。
焦げ目が付いたら裏返し、
芯まで熱が通るように
弱火にする。
裏も焼き上がったらできあがり。
仕上げにシナモンをパラパラッと
と思ったら、シナモンパウダーがきれていた。

No.00837　03.06.25

丸い氷の製氷器

透明で丸い氷を作るための
製氷器がうちにある。
ちょうどロックグラスに入るくらいの
大きな氷を作る。
でも大きい氷を作るものだから
時間がかかる。
一日に一個できる程度。
だから一日に一個、夜に何か飲むときに使う。
ロックにすることが多いが
昨晩は缶チューハイに入れた。

No.00838　03.06.26

1000 人のパーティー

スゴイ出版パーティーがあるよ。
なんと言っても発起人だけで 154 名。
発起人だけで大きなパーティーになってしまう。
会場は 1000 人分のスペースを
用意しているそうだ。
発起人もへぇっと思うような人ばかり。
さすが橘川さん。
いったいどんなパーティーになるんだろう。
参加したい人は誰でも Welcome だそうだ。

No.00839　03.06.27

日刊　気持ちいいもの

いったい僕がここで何をしているのか、
今日は思い出してみよう。
何度も繰り返すうちに
大切なことを忘れてしまうってのは
よくあることだ。

まずひとつ、
僕がささやかな美しいもの、
感動できるものを忘れないため。
忘れないというよりは
それを見つけ続けるためでもある。
世界はささやかで美しいものであふれている。
それを見逃さないように。
美しいもの、感動できるものは
見つければ見つけるほど
次のものを見つけやすくなる。

もうひとつは、
僕が言葉をプレゼントとして使うため。
世の中は他人を縛り付ける言葉であふれている。
僕の発する言葉はあくまでも
誰かにとってのギフトでありたい。

No.00840　03.06.30

書類入れ

父が遺したものに書類入れの箱がある。
漆塗りの立派なものだ。
ちょうど玉手箱のような大きさと形だ。
そこに入っている書類は
それだけで立派に見えてしまう。
ふたを開けたとき、
箱を持ったときの手触りがいい。
開けると確かに玉手箱のように
どこか遠い時間からのメッセージが
届いていそうだ。

No.00841　03.07.02

愚痴

840 も書いたらもう出てこないよ。
あとどんな気持ちいいものがあるってんだ。
あれも書いたしこれも書いたし、
もうちっとも出てこやしない。
でも、たった 840 で音を上げるなんて
許せないなぁ。
もっと世界中に気持ちいいものがあるだろうに。
そういえばあれのこと書いてないなあ。
あ、あれも書いてないしなぁ。
さっきまで気持ちいいものないと思ってたけど
愚痴言ったら気持ちいいもの思い出したよ。
また明日からたくさん書けるな。

No.00842　03.07.04

にんにく揚げ

自分のうちでにんにく揚げを作った。
熱い油で揚げると
すぐに焦げてしまうので
低い温度でじっくり揚げる。
乾いた皮のついたまま
油の中に入れる。
油はニンニクのまわりから
ポコポコと泡が立つ程度の温度。
ジャーッと揚げてはならない。
にんにくに串を通して
すっと通るようならできあがり。
皮から取り出し
塩と山椒を混ぜたものをつけながら
ホクホクを食べる。

No.00843　03.07.07

木星

ホルストが作曲した「惑星」という組曲がある。
そのなかの一曲が「木星」だ。
高校生のとき吹奏楽部で演奏した。
僕が指揮をしたのですべてのパートを覚えていた。
だからどこかでこの曲が流れると
つい耳がピンと立ってしまう。
かつては木星の一部を聞けば
誰の指揮のどこのオーケストラが演奏したものかも
わかった。
思い入れが強い曲なので
気持ちいいとかいう感覚を超えて
身体が反応してしまう。

『「わっ、くせー」から「もうくせー」です』
なんてつまらない冗談を言っていた奴もいたなぁ。

No.00844　03.07.08

忙しい

ここのところ忙しい。
忙しいと「心を亡くす」と言うが
そうは感じない。
ただ、やってないことがたくさん目につく。
やらずに放っておくと
きっと他人からは「心を亡くした」ように
見えるだろう。
タイミングをはずすと物事って
やるのがおっくうになったり
恥ずかしくなったりするので
そこが難しい。
忙しいと言いつつ、
次から次へと
何かを片づけていくのは楽しい。

No.00845　03.07.11

楽しいパーティーの作り方

楽しいパーティーをやるコツは
あまり強くは誘わないこと。
人はみんな自分が出るべきパーティーの
雰囲気を知っている。

これは自分に合うなと思うパーティーに
出てもらえばいい。
何度かパーティーをやっていれば
誘う人もたくさんいるはず。
来てくれた人と楽しむのがいい。

No.00846　03.07.14

静寂

安曇野に行って来た。
風の音、虫の声、鳥の啼き声、
時々の犬の哭き声、そして子供の歓声。
それ以外の音は聞こえない。
カリンバのささやきが
とても美しく、懐かしく聞こえる。

No.00847　03.07.16

詩の朗読

詩の朗読をした。
バンドに伴奏をしてもらって。
あがるかと思ったが、
ちっともあがらない。
いつかはじめると思っていたこと。
無意識が長い時間をかけて
準備してくれていた。

No.00848　03.07.22

MOLESKINE

お茶の水できれいなグリーンのノートを見つけた。
いい雰囲気なので買って帰った。
表紙は布張り、
ページが開かないようにくくるゴムがついている。
表紙が堅いので立ったまま
手に持って書いてもいいだろう。
最後のページには紙でできたポケットまである。
中に入っていたしおりによると
二世紀にもわたる歴史を持つノートとか。
ゴッホやマチス、ヘミングウェイなどが
使ったのだそうだ。
いろんなことを書き留めておこう。

No.00849　03.07.28

第 1 回イスラエル・パレスチナ・日本の子供達による
親善サッカー大会 2003

こんなに長いタイトルははじめてだ。(笑)
枠をはみだしちゃったよ。
今度 8 月 20 日から 28 日にかけて
イスラエルとパレスチナから
11 名ずつの少年少女を日本に招いて
サッカー大会をやる。

ご存じのようにイスラエルとパレスチナは
長い戦いの歴史を持つ。
その歴史にピリオドを打つべく、
少年少女たちがやってくる。
彼らは国でこのイベントに参加したことが知られれば
村八分のような扱いを受けかねない。
それでもなお、平和のためにとやってくる。

22 日には日本代表チームの監督ジーコが
特別ゲストで来てくれる。
祖国に帰る予定を変更して
このイベントに参加したいと言ってくれたそうだ。
感激である。
スケジュールの詳細などは以下の URL に。
ぜひ興味のある人は寄付をしてください。
できれば呼びかけ人となって
多くの人にこのイベントを知らせて下さい。
ボランティアも受け付けています。

No.00849　03.07.31

緑の万年筆

先週、MOLESKINE というノートを
買った話しを書いたが
今度はそのノートに合う
緑の万年筆を買った。
万年筆というとたいてい一万円前後、
ちょっといいのは数万円もするが
僕の買った万年筆はたったの 2000 円だ。
でも、デザインがいいし書きやすい。
まったく期待してなかったので
うれしさも倍増だ。

No.00850　03.08.04

花火

花火を間近で見た。
花火の炸裂する音が骨にしみた。
花火は思い出を喚起する。
母と豊島園の花火をよく見た。
母は花火を見ると
父と行った新潟の花火大会の話をした。
母にとって父と行った花火大会が
思い出になったように
この花火大会も終わったとたんに思い出となる。
まるで花火のように。

No.00851　03.08.06

ボーナス

先日、「夏のボーナス」
と書かれたメールをもらった。
開けると編集者から
本の増刷を告げるメールだった。
サラリーマンをやめて以来
ボーナスをもらってないので
ボーナスの季節になると
いいなあと思っていたが、
そうか、僕はボーナスばかりで
食いつないでるなと思ったら
なんか可笑しかった。

No.00852　03.08.11

青春の影

おととい、台風の中を
富士急ハイランドまで行った。
小田和正と Chage&Aska のジョイントコンサート
「青春の影」を聞きに行くためだ。
昼に出発するときは土砂降りだった。
野外会場なのでどうなるかと思ったが
ライブが始まる頃には雨はやみ。
月も出てきた。
ジョイントコンサートは
前半に一組、後半に一組、
最後の一、二曲を一緒に歌うというのが
たいていのパターンだが、
「青春の影」はそのほとんどが
三人だけのアンプラグドで
つまり伴奏はそれぞれが弾くギターだけ。
緊張感があってとてもよかった。
互いのヒット曲を
三人のソロやコーラスで歌っていく。
バックバンドをしたがえて
別々に歌ったのはそれぞれ二曲ずつで
まさにほとんどがジョイントコンサートだった。
途中、チューリップの財津和夫が出てきて
「心の旅」「サボテンの歌」を一緒に歌った。
四人のハーモニーと三本のギター。
泣けたね。
アンコールにはチューリップの
「青春の影」を歌って終わりました。
あんないいライブはひさしぶり。

No.00853　03.08.12

風の通り道

おととい練馬は 35 度もあったそうだ。
でも、あまり暑く感じなかった。
南の窓から北の窓に
ずっと風が抜けていたから。
七階の風は涼しい。
一昨々日の台風一過で
青空もくっきりすっきり晴れやかだった。

No.00854　03.08.13

昼のジョギング

このところずっと夜にジョギングしていたが
夜が忙しくなってきたので
仕事の合間をぬって
昼にジョギングしてみた。
夜のジョギングは誰も見ていないので
気楽にできるが
昼のジョギングは他人の視線が気になる。
なんでこんな時間にジョギングしてるの？
と思われているのではないかとつい足が速くなる。

No.00***　03.08.18

夏休み

今日から 8 月 31 日まで夏休みをいただきます。
再開は 9 月 1 日になります。

JIPCO のボランティアイベントで

スタッフをやります。
8 月 22 日にはぜひ観戦に来て下さい。

No.00855　03.09.01

子供

無事に「イスラエル・パレスチナ・日本の
子供達による親善サッカー大会 2003」は
終了しました。
子供達は国籍に関係なく仲良くなっていました。
言葉の通じない日本の子供とも
おおはしゃぎで仲良くなっていました。
言葉がなくても仲良くするのは簡単なのね。
付き添いできた親たちの世話の方が
よっぽど大変だった。(笑)
世界中が平和になりますように。

No.00856　03.09.02

取っ組み合い

子供達と取っ組み合いをした。
どんなに殴りかかってこられても
子供の手は遅いので簡単に捕まえられる。
子供は必死に殴りかかるが僕が笑っているので
余計必死に殴りかかってくる。
昔、兄貴にこうやってからかわれたなぁ。

No.00857　03.09.03

キューバ・リバー

キューバン・リブレと呼ぶバーもある。
リバーは「川」の river ではなく、
「自由」の「libre」だ。
1902 年にキューバが独立する際、
合い言葉だった「Viva Cuba Libre!」が
このカクテルの由来だ。
ライムを絞ってホワイトラムをコーラで割る。
代々木上原のバーでマスターが
キューバの人はこれで葉巻を吸うのが
好きだというのでやってみた。
悪くない。
ラムと葉巻はキューバ製を用いるのが礼儀だな。

No.00858　03.09.05

九月の風

昨日、一昨日と九月らしい気候になってきた。
日の照っているところを自転車で走ると
とても気持ちいい。
暑くないし寒くない。
とても快適で夢見心地になりそう。

No.00859　03.09.08

少しずつの変化

かつてヨガをやっていた。
全然できなかったポーズが
何日かたつとできるようになる。
少しずつからだが変化していた。

いまはヒーリング・ライティングをやっている。
かつて感じることのなかった感情を
何ヶ月かかけて味わうようになった。
少しずつ心が変化した。

状況も少しずつ変化する。
かつて本を書きたかった僕が、
いまでは当たり前に書き、
当たり前に出版する。

少しずつの変化を知ると、
自分の習慣に変化を取り込む。

No.00860　03.09.09

朝焼け

今朝の朝焼けはうすぼんやりとしている。
鳥たちが鳴いている。
原稿を書き上げて気分がいい。
遠くから波の音のような喧噪が聞こえる。
空気が清浄で涼しい風が肺に入ってくる。
この一瞬はもう二度と来ない。

No.00861　03.09.10

子供のはしゃぐ声

午後三時頃になると
近所の子供達が遊び出す。
窓を開けて仕事をしている僕をのぞき込む。
なにやら叫びながら走り回る。
マンションの上の階と下の階を行ったり来たり。
嵐はほんの一時間もたたずに通り過ぎる。

No.00862　03.09.16

ハーフ・オレンジ・ティー

新宿の喫茶店でハーフ・オレンジ・ティーを飲んだ。
半分がアイスティー、半分がオレンジジュース。
思ったより美味しかった。
自分の家でも作ってみる。
アールグレーを濃くだして
氷を入れたグラスに注ぐ。
そこにオレンジジュース。
さっぱりしていておいしい。

No.00863　03.09.17

マックのスピーチ

マックの textEdit にはスピーチという機能がある。
英文を指定してスピーチを作動させると
コンピューターが英文を読み上げてくれる。
発音が不明瞭なところが多少あるけど
アクセントがどこにつくかがはっきりわかる。
英文を読むときなかなかうまくできないのが
アクセントだ。
だから英語でスピーチする機会が来たら
原稿を何度もマックのスピーチに読ませて
アクセントの位置を覚えるようにしよう、
と、捕らぬ狸のなんとやら。

No.00864　03.09.18

朝のジョギング

何年か前にも朝にジョギングしていたことがある。
そのときは一ヶ月もせずに
夜のジョギングに切り替えた。
朝六時に起きて六時半までに走り出さなければ
通勤の人たちにたくさん会うことになるからだ。
そのためには起きてたった三十分後には
走らなければならない。
このことも僕には苦痛だった。
身体がジョギングするほど
たった三十分では目ざめないのだ。
僕はフリーで、
特に時間が決められているわけではないので
何時に走ろうと僕の勝手であるはずなのだが、
どうしても他人の目が気になってしまう。
今回は起きてから一時間以上してから
走るようにした。
楽に走れる。
他人の目は気にしないことにした。
というより、自由な僕を表現すればいいと
思うようになった。

No.00865　03.09.22

炎のアイスクリーム

スピリタスというウォッカを
アイスクリームに少量かける。
スピリタスはアルコール度数が 96 度もある。
マッチかライターですぐに火がつく。
暗い部屋でやるとアイスクリームの表面に
静かにゆらめく炎が見える。
アイスクリームの表面が軽く溶けて
美味しくなる。
もちろんウォッカの風味も付く。
ただしスピリタスを入れすぎると
器が熱くなったり割れたりするので
器を選んで、
あまりスピリタスをかけすぎないように
注意してね。
昼間は炎が見えにくいので
やらないほうがいいでしょう。
昼間にやって火がついているのに気が付かず
やけどしかけました、僕は。(笑)

No.00866　03.09.24

玄関のライト

長い間一人暮らしをしていたので
家に帰ったときに
玄関のライトがついていると
それだけでうれしい。
ずっと昔は普通のことだったが
いまはすごく大切なこと。

No.00867　03.09.25

男女合体仏

チベットの曼陀羅には
ヤブユムと呼ばれる男女合体仏の図がある。
仏教は女人禁制、
男女合体などもってのほかと言われそうだが
さにあらず。
理趣経にも一切の欲は清浄なものだという

くだりがある。
単にセックスの快楽だけを指して
気持ちいいと言うととても軽薄だが
自分がこうして生きていること
その由来がどこにあるかを考え
その快楽が人類を繁栄させていると考えれば
セックスへの欲望は人間にとって必要であり
ありがたいものである。
性犯罪というものが起こるのは
性を忌避するばかりで
その喜びを伝えないからではないだろうか?
性の尊さは命の尊さなのだから。

No.00868 03.09.26

オープン・サンド

まずはベーコンを焼く。
油が出て、カリカリになったら引き上げる。
ベーコンの油でタマネギを素揚げする。
厚い食パンにバターを載せ
粒マスタードを少し塗り
生のタマネギ、素揚げしたタマネギ、
ピーマン、トマトのスライス
カリカリのベーコン、
そして最後にとろけるチーズを載せて
オーブントースターで焼く。
バターと粒マスタードの味。
熱で濃くなったトマトの味。
素揚げで甘いタマネギの味と
生タマネギの辛さのハーモニー。
どこかで思い出すピーマンの苦さ。
カリカリのベーコンの歯ごたえ。
厚いトーストの香りと弾力。
涙出ますよ、うまくて。

No.00869 03.09.29

湯船

涼しくなってきたので
湯船につかって本を読む。
ほぼ半身浴。
腰から下だけお湯につかる。
じわじわと汗をかいてきたら
湯船から出て頭を洗いからだを洗う。
再び湯船につかると
すぐに汗が流れ出す。
この幸せ。

No.00870 03.09.30

秋晴れ

今日は雲一つない秋晴れだ。
もう半袖半ズボンでは寒くなってきた。
明日はもう十月だものな。
キンモクセイの香りもする。

No.00871 03.10.01

愚痴

たまに愚痴を書く。
そして愚痴を読み替える。
するとそこにはたくさんの希望がある。
希望を実現するためには
それに向かって何かをすればいい。
時間がかかったり、
手間がかかったりするものは
敬遠しがちだ。
でも、着実にやっていけばいい。
何年もかけてやるだけの価値があることを
選べばいい。

No.00872 03.10.02

ソファベッド

原稿を書いている途中で
ソファベッドをベッドにして寝転がる。
暖かい陽気の日は最高。
あーっとあくびをして
力を抜く。
あっ、いつの間にか二時間たってるよ。

No.00873 03.10.03

知らない場所

今日、札幌に行く。
ひとりで琴似という街に行く。
行ったことのない街にひとりで行くのは
なんかわくわく。
札幌に行くのも十数年ぶりだ。

No.00874　03.10.06

落葉

札幌に行って来た。
居酒屋に連れて行ってもらい
メニューを見ると
「落葉のおろしあえ」
と書かれている。
「おちばのおろしあえ?」
落ち葉をおろしあえにするなんて
どんな料理だろうと思っていると
ヒーリング・ライティングを主催してくれた
さとうさんが
「らくようのおろしあえ下さい」
と言う。
「らくよう?　これ落ち葉じゃないの?」
一緒にいた人がどっと笑った。
北海道には落葉(らくよう)という
キノコがあるのだそうだ。
食べるとナメコがシメジの
大きさになったような感じ。
ナメコほどではないが
ちょっとぬるっとしていて
歯ごたえがシメジのよう。
味は醤油にまみれて
よくはわからなかった。
歯ごたえが美味しかった。

No.00875　03.10.07

いくらの醤油漬け

札幌でいくらの醤油漬けを買った。
親父が生前好きだった。
そこまで美味しいかなと思うほど食べていた。
今は僕がそこまで美味しいかなと思うほど
食べてしまう。
だって美味しいんだもん。
樺太にいた祖父もきっと好きだったのだろう。

No.00876　03.10.08

メール

ときどき、とってもうれしいメールが届く。
この人にこんなこと言ってもらえるなんて・・・。
でも、きっと電話じゃ言えないだろうし、
手紙にもしないと思う。
e メールがあってよかった。

No.00877　03.10.09

スーツ

スーツを着ても暑くない季節になってきた。
このくらいの温度だとスーツを着るのがいい。
ワイシャツを着て、
ネクタイをして、
スーツを着る。
シャキッとして心は仕事モード。

No.00878　03.10.10

大学の銀杏並木

この季節になると大学の銀杏並木を思い出す。
校舎に沿った植えられていた。
夏には緑がきれいだが
そろそろ黄色くなり始める。
すると教室内の色が変わる。
白い壁が光で黄色く光るのだ。
夕日が射すときには黄金色になる。
しばらくすると枯れ葉が落ちて
直接夕日が差し込むようになる。

No.00879　03.10.14

新幹線の掲示板

新幹線の掲示板が電光掲示板になった。
乗り口の上にもひとつひとつ
小さな電光掲示板が設置された。
便利なのと同時に可能性が広がる。
あそこに書かれる内容は
デジタルで入力されるのだから、
ホームページとリンクさせれば
事故や天候悪化の告知なども
一緒にできるようになるだろう。
これから JR が何をするのか楽しみ。

No.00880　03.10.15

ステップ

今日一日何をしたのか。
長い一生のたったの一日。
100 年生きるとして
36500 日ある人生のたったの一日。
いままで 15366 日生きてきた。

明日には 15367 日になる。
よく無事に生きてきたものだ。
僕を支えてくれたすべての人に感謝。
これから支えてくれるすべての人に感謝。

今日したことが
明日の基盤になる。
今日の基盤は
人類の過去すべて。
コンピューターを使えることも
電気が使えることも
本を読むことができることも
電車に乗れることも
文字を読むことができることも
言葉を話すことができることも
すべて誰かが踏んだ
ステップのおかげ。

僕は何に感謝すればいいのか。
いままで生きてきた人々すべて？

人類が生まれたのは
人類以外の生命が豊かに地球に存在したから。
僕が感謝するのは生きとし生ける物すべて？
生命が宿ることのできた地球？
地球を生んだ宇宙？
あらゆる存在が踏み続けてるステップ？

No.00881 03.10.16

マミ

数年前に書いた小説を
頼まれてネット上にアップした。
久しぶりに読んで面白かった。
自分で書いたものなのに。

No.00882 03.10.17

朝の澄んだ空気

涼しくなってくると空気が澄んでくる。
青空に雲がなく
地平線に霧もない。
今朝も東京から富士山が見える。

No.00883 03.10.20

水色のワゴン

大学生の頃によく聞いていた
ハイファイセットの曲。
高速道路を走っていたら
ふるさとのナンバープレートをつけた
水色のワゴンを見つけて
懐かしがるという詩なのだが
この曲を聞くたびに心がざわつく。
詩や曲が素晴らしいのはもちろんだが
思い出と重なり合って
心にモアレを作り出す。

No.00884 03.10.21

自転車

自転車に乗るようになって八ヶ月ほどたったが
最近やっと高校生の頃のように乗れた。
ずっと坂を上るのが苦労で
途中で疲れてしまっていたが
最近はぐんぐんと坂を登る。
ジョギングと自転車では使う筋肉が違うんだな。

No.00885 03.10.22

携帯電話

道を歩いていて急に、
後ろの人が話しかけるように話してくる。
振り向くと携帯電話に向かって話している。
感情をあらわにしてあたかも
目の前に誰かがいるかのように話している。
携帯電話がなかったら、
その人がそんな調子で話す人だなんて
知ることはなかっただろう。

No.00886 03.10.23

あいさつ

ミスター・ドーナツで
ドーナツをほおばっていたら
外人のおばさんがふたり席から立ち日本語で
「ありがとう」
と言いながらお辞儀して出て行った。
店員はみんな
「ありがとうございました」
と答える。

英語に「ごちそうさま」はないんだなと
思い出した。
コーヒーを飲み終わって僕も店を出た。
「ごちそうさま」
「ありがとうございました」

No.00887　03.10.24

五感

五感はそのすべてが
人間に快適さをもたらすためにある。
嫌な感覚があったとしても
それは快適な感覚をもたらすためにある。
そのようなことを感じながら
じっと数年間を過ごすと
かつて仏典で読んだ無意味に思えた言葉に
意味が生まれてくる。
仏典のありがたさに深く感謝できる。

No.00888　03.10.27

全集

最近は全集ものがかつてより少ない。
理由は買う人が少ないからだとか。
なぜ買う人が少ないか。
どんな情報も今は図書館やインターネットで
取れるからだそうだ。
住宅の占有面積が狭くなったことも
関係がある。
でも僕は全集もの好きだよ。
古本屋で買った「今西錦司全集」は
類人猿を勉強するきっかけだったし
父に買ってもらった「江戸川乱歩全集」は
小学生の頃から読んできた。
「漱石全集」は重くて読みにくいけど
時々出してみる。
押入の奥から出てきた「宇野浩二全集」は
文体がいいのか読んでいることが心地よい。
全集はその作家のまるごとが味わえるのがいい。

No.00889　03.10.28

レイ

はじめてハワイに行ったとき、
父、母、兄はきれいなハワイのお姉さんに
レイをかけてもらい、
キスまでしてもらっていたが
中学生の僕はしてもらえなかった。
それから十数年がたち、
ハワイに行くと空港で
観光客たちが同じようにキスしてもらっていた。
あれしてもらいたかったなぁと思いつつ
個人旅行なのでツアー会社の手配もなく、
いいなぁという視線を投げかけながら
レンタカーでその場を去った。
ハワイ島の細い道を走っていたとき、
道ばたにレイが木の枝にかけられていた。
なんだろうと思って近づくと
脇に小さな箱があり、
ひとついくら　と書かれていた。
生の花で作られた香りのいいレイ。
ひとつ買って女房にかけてあげた。

No.00890　03.10.29

いまここ

「どこでもない」を英語にすると
「nowhere」
普通は「no・where」と分割するが
「now・here」と分割すると
「いま・ここ」となる。

私にとっての現実はどこにもない
ただ　いまここにあるだけ。
未来も過去もいまここの私から考えれば
幻想のようなもの。

No.00891　03.10.30

水面の心

心はいつも揺れ動くものだった。
子供の頃は「考えないでいる」ことが
とても難しくて
どうしたらいいのかわからなかった。
瞑想やボーッとしていることの成果か
最近は静かな水面のように
揺れない心でいることができるようになってきた。
ただ目の前に起きていることといる。
これがとても落ち着いた感じがしていい。

No.00892　03.10.31

箒の音

旅行などに行き、
朝、箒の音で目が覚めると
ありがたい気分になる。
誰かがきれいな朝を迎えられるよう
用意をしていてくれる。

No.00893　03.11.04

サッカー

ひさしぶりにサッカーをした。
数えてみると 20 何年ぶりか。
ボールを追いかけて走るのが気持ちいい。
ボールを思い切り蹴るのが気持ちいい。
大声を出すのが気持ちいい。
ジョギングをしても筋肉痛にはならないが
サッカーをしたおかげで
からだじゅう筋肉痛だ。
痛い痛いと言いながら
顔は笑っている。

No.00894　03.11.05

はらっぱ祭り

今年で 17 年目になるという
はらっぱ祭りに行って来た。
もとはと言えば掲示板に
usagi さんから書き込みがあったからだ。
どんなものだかわからなかったけど
行ってみた。
たくさんの人がいて、たくさんのテントがあって
たくさんのドラムがドコドコ鳴って、
たくさんの模擬店が並んでいた。
アフリカのケバブとかいう食べ物を食べ
「福力」というお店の葉巻を吸い、
中国のソーセージを食べた。
どれもうまかった。
舞台ではライブ演奏がおこなわれ
観客はリズムに合わせて揺れていた。
ある模擬店ではキノコをテーマとして
絵を描いたり、ガラス細工をしたり、
粘土細工をしたりしていて楽しめた。
面白かったのでそれを作った人と話した。
URL は以下にある。
http://www.geocities.jp/kinoko_heads/
あまりにも気に入ったので
キノコをひとつ買って帰った。
これは流行るな。

No.00895　03.11.06

ハーモニック・コンコーダンス

1987 年 8 月 17 日、
ハーモニック・コンバージェンスという
イベントが世界中で開かれた。
マヤ歴を研究していたホセ・アグエイアスが
その日をマヤ歴の周期の
重要な節目となる日としたからだ。
スピリチュアルなことに興味のある人のあいだでは
有名な話だ。
今年はハーモニック・コンコーダンスという
イベントが開かれる。
日本では 11 月 9 日午前 10 時 17 分だそうだ。
その日、何が起こるのかというと、
ホロスコープが完全に
六芒星の形になるのだそうです。
そのことにどんな意味があるのか
私はあまり詳しくはないので
いろいろあるホームページを
確認してほしいのですが、
ま、簡単に言うと天体のお祭りがあるそうです。
さらに、その日には月食があり、
11 月 23 日には日食まであり、(理科年表による)
さらにさらに言うと
現在太陽が異常なフレアのために
エネルギーの高い電磁波を発しています。
よくぞこれだけ重なった。
みんなで宇宙に拍手を送ろう。

No.00896　03.11.07

大気圏

地球を包むうすい皮膜。
ちっぽけな僕らには非常な大きさだが
地球にとっては皮膚のよう。
必要な電磁波と不必要な電磁波をここで選別する。
本当に皮膚のよう。
大気圏の中にいる僕たちは
大気圏を見ているのだか、

見ていないのだか。

No.00897　03.11.10

回復

またサッカーをした。
遅刻したので準備運動もせずいきなりやった。
二時間後には左足がつり
両足の付け根が痛くなった。
帰りには足を引きずるようにして歩いた。
翌日は足が言うことを聞かない。
足を組むのでさえ足を手で持ち上げる。
自転車に乗るのもサドルをまたげない。
二日目には良くなってきた。
筋肉痛の後で知る足のありがたさ。

No.00898　03.11.11

雨の日の自転車

自転車で走らなければならない理由は
特になかったのだが、
雨の中を自転車で走った。
ハンチングをかぶり、
防水の上着を着て
ジーンズで走った。
もうすぐきっと雨の中を自転車で走るには
凍てつく季節になってしまう。
いまのうちにと自転車で走った。
しばらく走るとジーンズが水を吸う。
しばらく走るとハンチングから水が滴る。
しばらく走ると上着の中は汗で湿る。
タイヤが水を巻き上げる音がうしろにする。
高校・大学と自転車通学だった。
会社にも自転車で通勤しようかと
思ったことがある。
でも、スーツに自転車じゃね・・・。
次に乗る雨の自転車はきっとずっと先。

No.00899　03.11.12

秋の雲

ひさしぶりに晴れたら
空はすっかり秋の雲。
いろんな形の雲が
青い空を覆っている。
はじめて僕が彩雲を見たのは
アイルランドのこんな天気の
こんな雲の出ていた日。
温度も近い。
今日、ひょっとして見られるかな。

No.00900　03.11.13

頭から汗

先日、近所のレストランで
ピリ辛たこ焼きそばの中辛を食べた。
中辛なのにとても辛くて
頭から汗が出た。
昨日、インド料理を食べた。
辛いカレーをナンで食べた。
頭から汗が出た。
からだは汗をかいてないのに
頭から汗をかく、不思議な体験。

No.00901　03.11.17

BENTOEL

ガラムを知っている人は多いだろう。
丁子の入った煙草だ。
クレティック煙草ともいう。
そういう煙草のひとつに BENTOEL がある。
はじめてニュピを体験しに行ったとき
買って吸った。
ガラムとおんなじ、と思っていた。
しかし、しばらくして吸い慣れると
ガラムとは微妙に違う。
BENTOEL のほうがちょっとだけ美味しい気がする。

No.00902　03.11.18

決めること

「日刊　気持ちいいこと」を毎日書いていて
一番時間がかかるのは
何を書くのか決めること。
一度決まればあとは早い。
決めるまで悩んであとは快適。

No.00903　03.11.20

流れ

ベルクソンの本には
びっくりするようなことが書かれている。
私たちは普通固定されたものを基準に
動いているものを考える。
しかし、生命の本質が流れであるならば
私たちは流れを基準に
固定されたものを見なければならないという。
こころは固定されない。
常に生起し流れていく。

No.00904　03.11.25

パーシー・フェイス

古本屋でパーシー・フェイスの
CD を見つけた。
ありがたいことにたった 200 円。
すぐに買った。
聞くと懐かしいあの音。
レコードでは持っていたが、
CD は再録で指揮者が違うため
編曲は同じだが微妙にテンポが違ったり
音のバランスが違ったりしていた。
200 円の CD からは
まさにあの懐かしい音が流れてくる。

No.00905　03.11.27

警告音

僕は iMac を使っている。
その警告音が愛らしい。
なにか間違った入力をすると
「Submarine」という音がするように
セットしてある。
「ピフォッ」という音だ。
潜水艦のソナー音。
それがステレオで聞こえてくる。
その瞬間だけ自分が水中にいるようだ。
ゴミ箱にファイルをドラッグすると
「トソッ」とこれもステレオで
紙がたくさん入ったゴミ箱に新たに丸めた紙を
投げ入れたような音がする。

No.00906　03.11.28

本の匂い

本にはそれぞれ独特の匂いがある。
インクの匂いか、紙の匂いか、
それとも綴じに使われている糊の匂いか。
古本はどのような保存をされたかによっても
匂いが違うだろう。
新刊の匂いも好きだが、
古本のほこりっぽい匂いも好きだ。

No.00907　03.12.01

静寂

都会ではなかなか静寂に包まれることはない。
かつて奥日光の西湖にいったとき
完全な静寂に包まれたことがある。
その日は風がなかった。
どんなに遠くの小さな音も聞こえてしまう。
50m 離れた人のささやきが
きちんと言葉として伝わってくる。
遠くの枯れ葉が落ちる音さえ聞こえそうだった。

No.00908　03.12.02

風の音

風の音には感情があるなと、ふと思った。
なんでそんなことを思うんだろうと考える。
風は気圧の高低によって生まれる。
なぜ気圧が生まれるのだろう・・・。
そこでまたふと思う。
きっとインターネットのなかを駆けめぐる情報も
風のように大量になったり少なくなったり
するのだろう。
なにか事件が起きれば大量に流れ、
特に何もなければ落ち着く。
人の感情とメールのデータ量の多寡は
一致しているだろう。
風の感情は太陽光線で生まれるのかな。

No.00909　03.12.03

12 月 2 日の夕日

昨日の夕日はみごとだった。
ヒーリング・ライティングの準備をしていたら
窓の外が黄金の光に輝いているので
ベランダに出た。
乾燥した空に富士山が浮かび上がる。
富士の裾野に夕日が沈む。
写真をたくさん撮りました。

No.00910　03.12.04

ダイエット

ちょうどこの『日刊　気持ちいいもの』を
書き始めた頃からジョギングを始めた。
当時体重は 97 キロあった。
一ヶ月で 8 キロやせて 80 キロ台になった。
その後多少のリバウンドを繰り返しながらも
85 キロ程度で安定し始めた。
ときどき 83 キロ台になるが
それ以下にはなかなかならなかった。
しかーし、
昨日ついに 82 キロ台に突入した。
またリバウンドして 84 キロ台とかになりつつも
もうすぐ 83 キロ台で安定するだろう。
これが継続の力よね。

No.00911　03.12.08

オータム・カラー

東京もやっと紅葉してきた。
黄色いイチョウが青空を背景に立っている。
真っ赤に染まる木は少ないが
たまに見つけるとうれしい。
空気が乾燥して遠くの色も
はっきり見える。

No.00912　03.12.10

白い富士山

朝日に照らされて白い富士山が見えた。
12 月にしては寒くないと思っていたけど
富士山の姿を見て安心した。

No.00913　03.12.11

死の瞑想

幼い頃は死ぬことがとても怖かった。
そのことを考えると胸が押しつぶされるような
感覚になったものだ。
小学生、中学生の頃は心霊現象について
いろいろと調べて楽しんでいた。
高校生になると死に対して鈍感になる。
『胎内記憶』を書いていた頃から
死に対する見方が変わった。
死は生まれる前の状態に戻ること。
生まれる前の状態がどんなものだか
覚えてないと言うか、知らないから
だからどうとは言えないけど、
そこから来たのは確かだ。
そこに戻るだけ。
戻るまで精一杯体験できることを
体験しよう。
不思議な出来事に出会えたら
それは幸運なことだ。

No.00914　03.12.16

夢

時々夢に助けられる。
本を書いているときに困ったときや
アイデアがでてこないときに
ふと夢に答えが出てくる。
今朝はしたほうがいいであろうできごとが

夢の中に出てきた。
夢ってすごいなぁ。

No.00915　03.12.19

Alone in IZ World

CD をもらった。
表紙は、すごく太った男の人が水に浮いている。
その人がこのアルバムのヴォーカリスト。
Israel Kamakawiwo'ole、通称"IZ"という人だ。
内容はハワイアン・ミュージックなのだけど
アレンジも声もいい感じだ。
ちょっとかすれているけど繊細な声。
http://www.mountainapplecompany.com/
ここで聞くこともできる。

No.00916　03.12.22

iMovie

近藤直樹さんが「無の書」という
混沌魔術に関する本を訳して出版した。
その出版パーティー(来年 2 月 14 日予定)に
プレゼンテーション用の映像を流すことになり
その撮影と編集をした。
映像の編集はちょっと前までは
何十万とか何百万とかかかる
高価な作業だったが
いまでは Mac があれば簡単にできる。
デジタルビデオカメラを iMac につないで
ダウンロードし、
iMovie というソフトで編集する。
一コマ単位で編集できるし
映像エフェクトや場面転換のエフェクトも
必要なものはそろっている。
説明書を読まなくても
画面を見ただけでかなりのことができる。
できあがった映像は、
個人でここまでできるんだ、
という感じのものができた。

No.00917　03.12.24

メリークリスマス

http://www.tsunabuchi.com/2003Xmas.html
(現在はありません)

No.00918　03.12.26

透明なエレベーター

銀座のアップルストアに行ってきた。
外観がマックの色彩と雰囲気だけでも
「ほぉ」という感じだが、
エレベーターに感激した。
四方がすべて透明なのだ。
階ごとの梁が見えてかっこわるそうだが
すのような部分はすべて
コンピューターのフレームを思わせる
銀の枠でおおってある。
扉が開く前にその階が見えてしまうのって
なんか楽しい。

No.00919　04.01.05

迎春

あけましておめでとうございます
本年もよろしくお願いします。

今年は初日の出を見た。
たいていの元旦は
前日夜更かしして初日の出を見逃すのだが
今年は元旦の早朝に
年賀メールを送り始めていたので
寝る暇がなかった。

今年の年賀メールには URL をつけた。
そこには年賀ムービーがあり、
リンクをたどれば
初日の出が上がる様も
見ることができる。

No.00920　04.01.08

サイマーケット

営団地下鉄有楽町線の小竹向原駅そばに
サイマーケットがある。
一階には花屋、雑貨屋、レストラン。
二階には多目的スタジオがある。
時々そこに昼食に行く。
シンプルで美味しい料理が出てくる。
すべてを丁寧にやっている感じがいい。

No.00921　04.01.09

ラハイナの菩提樹

マウイ島ラハイナの埠頭前に
ハワイで最大と言われる菩提樹がある。
1870 年代に保安官によって植えられたと言うが、
130 年ほどでよくあれだけ大きくなったものだ。
枝の下に入ると気根が降りてきて壁を作り
大きな憩いの場になっている。
ベンチが置かれ、
地元の人たちはそこでおしゃべりをし、昼寝をする。
風も日の光も、そのなかでは柔らかい。
月に何度かはそこが会場となり
美術品の売買をおこなっている。
捕鯨の港町から芸術の街へと変貌した
ラハイナの移り変わりを自らの内側で
胎児の母親のように育ててきた。

No.00922　04.01.13

オーナメント

かつて参加したパーティーの受付で
オーナメントをもらった。
穴のあいた小さな石にひもを通し、
ぼくのあだ名も墨で書かれてさがっている。
それを首に下げて会場に入れと言われた。
会場にはいると
全員が違う石やら焼き物やら
金細工のオーナメントと
墨で書かれた名前を首から下げていた。
40 名ほどのパーティーだった。
全員分のオーナメントを主催者は
手作りしていたのだ。
びっくり。
そのオーナメントはいまも僕の机にある。

No.00923　04.01.14

出会い

本を書くことで僕は
たくさんの人と出会っているのだろう。
ホームページを持つことで僕は
たくさんの人と対話をする。
ヒーリング・ライティングをすることで
たくさんの人と出会ったし、これからも出会う。
これってとても幸せなことだ。

No.00924　04.01.15

漬物

コリッとかむときの歯触り、
シャクシャクシャクとかみ続けるときの香り
口に入れたときには冷たかったものが
飲み込むときには暖かくなっている
そののどの感触。
毎日当たり前に食べていたものが
懐かしく感じるときがある。
みそ汁とご飯も一緒に思い出す。

No.00925

紛失、または飛ばした？

No.00926　04.01.20

黒米

黒米をはじめて食べたのはキヨズキッチンだった。
何年前だろう。
オープンしてすぐの頃だから
7,8 年前だろうか。
それ以来好きになった。
もちもちとした噛み心地と香りがいい。
それまでは目にしたことがなかったが
最近はスーパーでもよく見かける。
見つけては買ってきて白米と一緒に炊いて食べる。
なんで黒米は一時廃れていたんだろう？

No.00927　04.02.03

ニュピ

母が永眠した。
母に二度と会えなくなったことは
とても悲しいことだが、
死に対する恐怖が
以前より薄くなったのは
ニュピに行っているからだと思う。
ニュピはいわばバリ島で味わう疑似臨死体験だ。
今年のニュピは
母の四十九日が開けたら体験することになる。
何を体験するのか、
いまから楽しみだ。

No.00928 04.02.09

地図

知らない土地に行き
地図を頼りに歩くとき
地図のとおりに進めると
とても安心する。
いつか誰かがこの道を
確認しながら歩いたのだろうか。

No.00929 04.02.16

巻紙

するするっと巻紙を出し、
筆と墨で字を書いていく。
うまい字ではないのだが
とても自由で気持ちがいい。

No.00930 04.02.17

紛失

No.00931 04.02.24

blog

最近ネット上では blog が流行っている。
早速使ってみたがなかなかうまく使えない。
ああやったり、こうやったりしているうちに
やっと少し使えるようになる。
でもまだここを変えたい、なんて思うと
またあっちをいじり、こっちをいじり。
PC に勝手にリンクを作らせて
手間を省く仕組みだから難しい。
ぶつぶつ言いながらまたちょっと変更。

コメントがついたり、
トラックバックが来ると楽しい。
でもまだコメントは数件、
トラックバックは一件。

No.00932 04.02.25

田中小実昌のエッセイ

田中小実昌のエッセイ・コレクション
という本がちくま文庫から出ている。
全六巻だが、五巻まで読んできた。
面白い。
何がどう面白いのか説明するのがもったいない。
読めばいいのだ。
普通の人が気にするようなことに鈍感で
普通の人が気にしないようなことに敏感な
その感覚。
でも、こんな事書いたら小実昌さんに
「普通の人ってなに?」と聞かれそうだ。
小実昌さんは一時早宮にすんでいた。
だから氷川台駅近辺で何度か見かけた。
のちにアメリカで死んだことを知り
このエッセイ・コレクションを読み始める。
死ぬ前に読んで、会ったら声をかけてみたかった。

No.00933 04.02.27

ボランティア

今年もまたイスラエルとパレスチナから
こどもを呼んで、日本のこどちたちと一緒に
サッカーをしてもらう。
現在、その準備をしているのだが、
それがとっても楽しい。
一応のヒエラルキーはあるけれど、
理事長が我を通すわけでもなく、
誰かが我を通すわけでもなく、
互いが互いの話を聞いて
プランができあがっていく。
こういうところで仕事ができると
楽しくていい。
今年のイベントもすごいぞ。

No.00934 04.03.01

ライオン・スタウト

スリランカのビール。
びっくりするほど濃い。
ギネスより濃い。
ギネスをもっと甘苦くした感じだ。
時々見かけると買う。
アイリッシュバーで飲む
生のギネスよりうまいかというと、
ちょっと悩む。
ちょっと悩んだ後で軍配は、
思い出があるぶんギネスが勝利。

No.00935　04.03.04

新車の塗装

新車の塗装はなめらかで気持ちいい。
完璧な曲面に沿って手を滑らせる。
どれほどの時間をかけてできあがるのか。
風を切るため、
美しさのため、
羨望を集めるため、
この塗装は施された。

No.00936　04.03.11

風邪が治る

数日前に風邪を引いた。
起きるときにつらい。
身体が重い。
息が苦しい。
熱っぽい。
声が詰まる。
しかし、風邪を引いている暇がない。
薬を飲み、
どうだ治ったぞ、と気合いを入れる。
どうやら本当に治ってしまったようだ。

No.00937　04.03.12

桜のつぼみ

昨日も春の嵐が吹き荒れていた。
霞で富士山が見えなくなってきた。
もうすぐ春だ。
桜のつぼみも静かにふくらんできた。
桜あんパンを食べた。
マリアージュ・フレールでは
SAKURA というお茶を売り出した。
親父が生きていたら
花見を楽しみにしたろうなぁ。
もう八年もたつのか。

No.00938　04.03.15

段取り通りに物事が進む

段取りが緻密だと物事がはかどる。
段取りは余裕があればいいというものではない。
ある程度緊張感が保てる段取りのほうが
やるべきことがきちっとおこなわれる。
あとで変えてもいいような段取りの仕方だと
どこかでうまくいかなくなる。
段取りに関わる全員が
きれいなパースペクティブを描けるといい。

No.00939　04.03.29

桜

バリ島から無事に帰りました。
帰ると桜が咲いています。
行く前からもうすぐ桜が咲くとの予報があったので
もしかしたら帰る頃には散っているのではと
心配でしたが、
バリに行った後日本は寒かったそうで
おかげで桜の満開に間に合いました。
石神井川に沿って咲く桜を眺め
春を満喫しました。

No.00940　04.03.30

ジャンベ

ウブドのバザールでシャンベを買った。
日本だと標準の大きさで六万から九万はする。
僕の買ったのはそれより一回り小さいので
日本では四、五万といったところだろうか。
それを五千円程度で買った。
胴にはバロンの彫り物を施してある。
音もよく確かめて買ったのでとてもいい。
いつか広いところに行って
叩いてみよう。

No.00941　04.03.31

ピース・キッズ・サッカー

去年おこなった
イスラエル・パレスチナ・日本の
子供達による親善サッカー大会が
今年 NPO 法人となり
その名称をピース・キッズ・サッカーとする。
すでに今年の準備のために会合がおこなわれ
ボランティアも集まりつつある。
ふたたびあの素晴らしいイベントが出来ると思うと
とてもうれしい。
しかし、イスラエルでは先週事件が起きた。
果たして今年もできるのかどうか。
難しいのはわかっているが
可能性に挑む仲間が集まってきている。

No.00942　04.04.05

黒い肌

バリで日に焼けて黒くなった。
ところによっては皮がむけだしている。
幼い頃から母がよく
「日に焼けると冬に風邪をひかない」
とか
「日に焼けていた方が健康的だ」
とか言っていたので
日に焼けることがいいことのように思っている。

No.00943　04.04.06

シンプルであること

やるならやる
やらないならやらない
シンプルに決めると
次の道が見える。
やると言いつつやらなかったり
やらないと言いつつやる努力をしていると
疲れて時間を費やす。
自分の「素直」に忠実でいること。

No.00944　04.04.07

イメージ

今朝、女房がラジオをつけた。
いつも聞く J-wave。
僕は夢の中でそれを聞く。
ガラス張り、三階ほどの広い吹き抜け
たくさんの人に見おろされながら
ジョン・カビラが話している。
ラジオ局のきれいなデスクのそばで。
音楽がかかる。
バンドの演奏。
僕のイメージは舞台の上で演奏するバンド。
バンドの前では男が一人
ヒップホップを踊っている。
彼の踊りはまるで楽器を演奏しているよう。
ただし、ギターを弾いているようでも
キーボードを弾いているようでもない。
身体の動き自体が演奏のよう。
そのとき、「ああ、僕イメージしているよ」
と思う。
どこにもない風景を自分の頭で、
自然に湧き出るように。
次の曲はダビングを繰り返した曲。
バンドの演奏ではできない音楽。
その曲がかかるとイメージは草原に出る。
水が流れる、雲が流れる、枯れ葉が流れる、
太陽の光がまぶしい。

No.00945　04.04.16

痛み

メディアを通じて僕たちは
痛みを分かち合うようになってきた。
悲しいニュースが世界を覆うが
それは次に生まれる喜びを分かち合うため。
いまの痛みは明日の癒しにつながる。

No.00946　04.04.19

創造の渦

小高いビルの屋上に上がり、
街を見おろしてごらん。
どこまでも続く建物、道、喧噪。
それらはすべて創造の結果。

小高い丘に上がり、
自然を見おろしてごらん。
どこまでも続く草原、海、砂丘。
それらはすべて創造の結果。

人工の創造物と自然の創造物。
でも、僕ら自身も実は
自然の創造物。

人間が作ったものも、実は
自然の創造物。

ほら、いまでも確かに
進化してるよ。

No.00947　04.04.22

春の風

薄着のシャツと素肌のあいだを
春の風が吹き抜ける。
はためくシャツと風の音。
春霞の地平線。

夏の準備は
まだやわらかい日差しの思い出。

No.00948　04.04.23

Good Morning Tokyo

朝かける J-wave。
東京だけのラジオ局。
ジョン・カビラが七時に叫ぶ。
グーッド・モーニング・ＴＯＫＹＯ！
朝のテレビニュースは重い話ばかり。
ジョン・カビラの語るニュースは
時には重要な話として重いのもあるけど
多くは朝に似合いのさわやかなもの。
コーヒーやバナナジュースをすすりながら
僕は目が開くのを待っている。

No.00949　04.04.26

PKS キック・オフ

ピース・キッズ・サッカーの
ボランティア活動が始まった。
平和のために働く人たちは心が若い。
新たな可能性を次々と作っていく。

No.00950　04.04.27

TUBLAR BELLS 2004

僕が中学生の頃、「TUBLAR BELLS」という
アルバムが発売された。
イギリスではチャートのトップになったそうだが、
日本では映画「エクソシスト」の音楽として
知られるようになった。
この曲は「エクソシスト」に使われた
部分だけではなく、
一時間にもわたる壮大な曲だ。
中学生の僕はこの曲を何度も聞いた。
作者のマイク・オールドフィールドは
その後二度この曲を作り直す。
「TUBLAR BELLS II」と「TUBAR BELLS III」だ。
どちらももとの「TUBLAR BELLS」とは
メロディーがちょっと違う。
しかし、そのちょっとは本当にちょっとなので
あまり詳しくない人が聞くと
同じ曲に聞こえてしまう。
そんなちょっとの違いにこだわり続け、
同じ曲を作り続けるマイク・オールドフィールドも
不思議な人だが、
またそれがちゃんと売れてしまうのも
不思議な話だ。
そして、その不思議がさらにふくれる。
「TUBLA BELLS 2004」は「TUBLAR BELLS」と
まったく同じ曲なのだ。
かつての「TUBLAR BELLS」はオーバーダビングを
2300 回繰り返して作ったという。
しかし、今回のはそれほどではなかっただろう。
技術が発達してシンセサイザーも使える。
1970 年には出すのに困難な音が
いまでは簡単に出せる。
簡単に出せるようになった音で
作られたアルバムなんて・・・、と考えるのだが
聞くと新しいものは新しいものでなかなかいい。
同じ曲の些細な違いを
喜んで聞いている自分も不思議な人間だと思う。
ま、クラシック音楽は同じ曲を
演奏家で聞き分けたりするから、
それと同じかな。

No.00951　04.04.28

土地の匂い

どこにいっても、その土地の匂いがある。
空港で飛行機を降りると最初に感じる。
バリに行くと香辛料と豚肉、ガラムの香り、
ハワイだと花の香り、
二十年前の香港はごま油の匂いだったかなぁ。
韓国はキムチの匂い。
インドは安っぽい香水の匂いだった。
オーストラリア、アイルランドは
どんな匂いだったか覚えがない。
日本国内の旅行もあまり匂いって
気にしてないなあ。
アメリカも本土ではそうだ。
あまり近代化されると
嗅覚的情報は失われるのかな。
それともそれは僕の偏見？

No.00952　04.04.30

ボックス・ティッシュ

去年の年末　福引きで

100 個ものポケットティッシュが
当たってしまった。
うちではそれを使い切ろうと
ボックスティッシュの使用禁止令が出た。
「ポケットティッシュを使い切るまで
　ボックスティッシュの使用はあいならん！」
以来ティッシュを使いたくなると
ポケットティッシュのビニールの点線を割き
ティッシュを取る。
しかし、手がべとべとだったり、
濡れていたりするときに
この動作は非常に鬱陶しい。
たとえ点線部分が開いていても
中からティッシュを取るためには
ビニール部分となかのティッシュを
ペタペタと触らざるを得ない。
ボックスティッシュでサッと取る
そんな平常な生活に早く戻りたい。

No.00953　04.05.10

スケジュール管理

スケジュールを緻密に書くと
いかに時間がないかがよくわかる。
朝起きて食事をして八時になる。
二時間はスケジュール調整とメールの返事。
実際には書かなければならない
メールの返事が多くて
二時間では終わらないことが多い。
昼食まで二時間半に仕事。
一時間半で昼食を終えて二時。
二時からミーティングがあると
もう四時くらいにはなってしまう。
六時までデスクワークしても
すぐに夕食のしたく。
ヒーリング・ライティングがある日には
夜は 11 時くらいまでそれに使う。
だから静かにものが書けるのは
真夜中と言うことになってしまう。
いかに時間が大切か。
すべてがスケジュール通りにいくと
とても気分がいい。

No.00954　04.05.11

朝食バイキング

日本のホテルに泊まると
朝食がバイキングであることが多い。
洋食の列と和食の列があるが、
僕はそれを無視して
洋食和食の折衷メニューにする。
ご飯にみそ汁
目玉焼きにベーコン
焼き鮭と梅干し
パインジュースにミルク
最後にコーヒーとデザート
なんだ、たくさん食べたいだけか。

No.00955　04.05.13

満員御礼

ヒーリング・ライティング無料公開講座が
ひさしぶりに満員になった。
と言ってもあと二席残っているが。
普段はひとりでホームページだけで
人の募集をしているが
今回は近藤さんが手伝ってくれた。
ありがとう。
人が一杯の会場でお話しできるのが
とても楽しみ。

No.00956　04.05.17

紛失

No.00957　04.05.18

デジャヴ

僕がはじめてデジャヴを見たのは
小学一年か二年の頃。
工事のために小学校のうらに
盛り土で小さな山ができた。
そこを駆け上ったり降りたりしているとき
ある一瞬の情景を見たのを思い出した。
当時はそれがデジャヴ(既視感)であるなどと
いうことも知らず、
「何だろういまの？」
と思っていた。

どうということはない盛り土の思い出。
いまだにそのことを時々思い出す。

No.00958　04.05.24

スペアミント・ティー

スペアミント・ティーをいただいた。
味の濃い、おいしいお茶だった。
ハーブティーを始めて飲んだのは
確かコスモ・テンだった。
コスモ・テンという精神世界系の出版社があり
そこの社長のところにうかがったときに
出していただいた。
はじめていただいたときは
おいしいのかどうかよくわからなかった。
変わった味としか思えなかった。
しばらくして段々と
いろんなところで飲めるようになり
いまではちょっと気の利いた喫茶店に行けば
飲める。
最近ハーブティーを美味しく感じるのは
変わった味としか思えなかった時を経たから。

No.00959　04.05.25

gif アニメ

動くバナーにあこがれていた。
ウサギが出てきて挨拶したり、
工事中の作業員がお辞儀したり、
そんな gif をどうやって作るのか知りたかった。
フォトショップについてきた
イメージレディというソフトで
作られるらしいことがわかり
いろいろやってみたら作ることができた。
面白くてはまりそう。
このホームページの gif は
僕が作りました。

No.00960　04.05.26

ボックス・ティッシュ解禁

昨晩、夜遅く帰ると
ダイニングテーブルに
ボックス・ティッシュが置かれていた。
ティッシュの取り出し口に
一枚のメモが挿してある。
「祝・ボックス・ティッシュ解禁」
女房のいたずら。

No.00961　04.05.31

耐える男

サッカーをしていたとき、
知人が子供をかばって倒れた。
一回転して肩から落ちて
痛いと言ってコートから出た。
しばらく黙って肩を押さえていたが
「脱臼したみたいだ」と言って出て行った。
僕は脱臼したことがないので
その痛さはよくわからないが
周りの人に心配させまいと
耐えていた彼の人柄がよくわかった。

No.00962　04.06.08

Tokyo Workshop

Tokyo Workshop というサイトを作った。
誰でもワークショップやセミナーの
告知ができる。
今日オープン。
しばらくすると東京近郊の
ワークショップやセミナーが
そこを見ればほとんどわかるようになる。

No.00963　04.06.09

梅雨

梅雨になるのは嫌なものだといわれるが
果たして本当にそうだろうか。
確かに湿度が高いと困ることはある。
でも、それだけのこと。
湿度があるのもいいもんだなぁと
思うようになったのは
バリに行くようになってから。
バリは湿度が高い。
すぐに食べ物がかびる。
壁はどこもコケだらけ。
同行してくれる関さんがよく言う言葉
「バリは生命力が強い場所
　だからカビやコケも元気がいい」
そう、梅雨は生き物が
みんな元気になるときなのだ。

それに負けない元気さを
自分のなかに取り入れる時なんだ。

No.00964　04.06.11

古い本

古本屋で扱われるような古い本が好きだ。
時がたっても価値が失われないような
読み応えのある本。
僕自身読みやすい文章を心がけているが
最近の本はどうも読み易すぎるのが多い。
読み始めたときには
いったい何が書かれているのか
見当も付かないくらいが面白い。

No.00965　04.06.14

終わり間近

このメールマガジンは
999 回目で終わります。
長い間ご購読いただき
ありがとうございました。

次の企画を考えています。
なにをしようかな？

気持ちいいもの掲示板は
転居して新しい掲示板として
運営するつもりです。
乞うご期待。

Web 版「気持ちいいもの」は
999 回分をすべて掲載するつもりですが、
データが大量なので
完成まではしばらくお待ち下さい。

先日立ち上げた Tokyoworkshop は
この一週間でビュー数 1736
ユニークビジター数 262
を記録しました。
皆様のおかげです、ありがとうございました。

またぜひご覧になって下さい。

No.00966　04.06.15

想像力と創造力

人間の創造力は素晴らしいと思う。
昔、宇宙少年ソランという漫画があった。
僕が幼稚園の頃だと思う。
そのなかで主人公の肩にいつも乗っていたのが
チャッピーというリス型ロボットだ。
ソランが困るとチャッピーに聞く。
するとアドバイスが得られる。
そんなロボットの原型になるようなデバイスを
NASA は作ったのだ。
きっと肩乗りロボットも
十数年先には実現しているだろう。

No.00967　04.06.21

メール返信完了

このところメールの分量が増えてきた。
一日 70 通くらい来る。
スパムやウィルスも含むと 100 通以上になる。
僕宛のメールは有り難いものだが
返信するのに時間がかかる。
平日だと寝るまでに返信できないものが
残ったりする。
完全に返信できるとその日はよく寝られる。

No.00968　04.06.22

六月の台風一過

六月に台風が来るなんて珍しいこと
しかも台風が過ぎるとこの暑さ。
富士山も霞んで見える。
アイスティーが似合いそうな静かな朝。
散歩にでも行こうか。

No.00969　04.07.05

ざわわ、ざわわ、ざわわ

森山良子さんのライブに行ってきた。
「さとうきび畑」を歌う前に
この歌は三十五年前に出会った曲だと
森山さんは言った。
三十五年。
それだけ長い間歌い続け、
そして最近やっとヒットする。

イブ・モンタンが歌った「枯葉」も
はじめはちっとも売れなかったという。
しかし、モンタンはそれを歌い続けて
何年かしてヒットする。
モンタンはなぜ枯葉が売れないのか
不思議でしょうがなかったという。
いまでは誰でもが知る名曲となった。

「さとうきび畑」の
「ざわわ、ざわわ、ざわわ」にも
「枯葉」と同じ
歌う人の信念が聞こえる。

さとうきび畑に流れる風が見えてくる。

No.00970　04.07.13

Alone Again

いまから少し前のこと
ちっともつらくはなかったら
近所の鉄塔に行くなんて約束はしなかった。
てっぺんに登り飛び降りようかと思いながら
打ち砕かれてしまったことを
はっきりさせようとがんばりながら
めまいを感じて立ちすくむ
「神は偉大だ」と唱える教会の中で
大切なことなんてもうどこにもない
うちに帰ったほうがいいんだろう
いつもそうしてきたように
人生　時がたてばたつほど寂しくなるもんさ
そうだろう？

思い出せばつい昨日のこと
僕の人生は順風満帆楽しいものだった。
未来を夢見て、僕のような人生を
誰もが送りたがったろう。
まるでノックダウンさせられた
ボクサーのように
現実に打ちのめされて
粉々に砕かれてしまった。
人生なんて信じられない
疑いの中に取り残され
神に哀れみを乞うしかない
本当にいるならなぜ私を孤独の中に
置き去りにするのかと
こんなつらい時が私には必要なのだろうか
どうしようもない思いにうちひしがれ
人生　時がたてばたつほど寂しくなるものなのか
どうなんだい？

世界中に癒されない心はいくらでもある
誰にも見守られることなくひっそりと
どうすりゃいいんだい、いったいさぁ

この何年かをかえりみて
ふと思い出すのは父が死んだ日
涙を隠すなんてできなかった
母は 65 才で死ぬ
彼女には理解できなかったんだろう
たったひとり愛し抜いた人が
なぜいなくなるのかを
どんなに僕が元気づけても
帰ってくる言葉はなかった
母が逝った日、一日中泣きぬいた
人生　時がたてばたつほど寂しくなるもんさ
そうだろう？

人生　時がたてばたつほど寂しくなるもんさ
そうだろう？

No.00971　04.07.20

千日紅仙桃

千日紅仙桃というお茶をいただいた。
クルミほどの大きさのお茶の固まりを
熱湯に入れると、
しばらくしてお茶の葉が開いてくる。
はじめは浮いていた茶葉が
しだいにお湯を含み沈んでいく。
茶葉が開くと中から赤い花が現れ
さらに開くとその赤い花が茶葉の中から
スッと上に浮かび上がる。
透明な耐熱ガラスのグラスで見ると
とてもきれいだ。
お茶の香り、
器の熱さ、
花のように開いたお茶、
そして、お茶の味。

五感のうち、四つの感覚を刺激してくれる。
中国人はすごいなあ。

No.00972　04.07.23

ジョギングしているときの風

毎日うだるような暑さだが、
そんななかでもジョギングしている。
部屋から出るときは
こんな暑い中でジョギングするなんてと
思うのだが、
走り出すとあまり気にならない。
日差しに肌が焼ける感じがするくらいだ。
走り終わって歩いていると
吹く風がとても涼しく感じられる。

先日、高校の生徒に
「暑い中走るのはからだに悪いんですよ」
とたしなめられた。

No.00973　04.08.24

再開

おひさしぶりです。
一ヶ月間勝手にお休みしていました。
今日から再開します。
あと 26 回で終わるつもりなので
終えるのをやめようかとも考えましたが
やはり決めたことなので
999 回でやめるつもりです。
でも最後が近づいてくると
寂しいもので
終えるのを先延ばしにしたくなったりもします。

ピース・キッズ・サッカーの東京大会は
21 日に無事終わりました。
明日は仙台の大会です。
はるばる地球を半周してやってきた
子供達を紹介したいのですが、
国の事情でそれができません。
世の中はなんとも複雑です。
イスラエル・パレスチナの子供達が
早く一緒にいてもいい世の中にしていきたい。
そんななかで、イスラエル大使と
パレスチナ総代表部代表が一緒にいて、
握手したりしているのを見ると
もうすぐかな、とも思います。

No.00974　04.08.25

ピース・キッズ・サッカーで見つけたもの

この半年間、駆け足でやってきました。
ボランティア委員長という役目を負ったのですが、
果たしてボランティアは集まるのか、
集まったにせよ組織できるのか、
組織しても働いてもらえるのか
まったくわかりませんでした。
予算がぎりぎりですから
報酬が出るわけではない、
通ってくる電車賃も出ない。
その状態で指示したことを
きちんとやってもらえるのか、不安でした。
ところがみんなちゃんとやる以上の
仕事をしてくれました。
パーティーや講演会を企画してくれたり、
フリーマーケットで資金を稼いでくれたり、
Ｔシャツの販売のために
コンサート会場で売り子をしてくれたり、
こちらが指示する前にあれよあれよという間に
いろんな仕事を作って実行してくれました。

ボランティアのひと全員に
聞いたわけではありませんが、
ほとんどの人が「楽しい」と言って
働いてくれました。
彼らの姿を見ていると本当の平和は
もうすぐやってくるような気がします。

イスラエル・パレスチナの子供たちも
祖国に帰ると迫害されるかもしれないと言う
危険を承知でやってきてくれました。
彼らの親も理解のある立派な人たちなのでしょう。
また、子供たちだけではなく、
もっとその危険を感じているのは
引率してきてくれた NGO の人たちです。
彼らと一緒に銀座で飲んで
ジョークを飛ばして嬉しそうな顔を見ると
彼らにとってのこの一瞬がずっと続くようにと
祈らざるをえない。

次になにをすれば平和につながるのだろう？

No.00975　04.08.26

夏の早起き

昔、僕が小学生のころ、
夏休みは早く起きて毎日宿題をしろと
小学校で言われた。
毎日なんか起きなかったし
宿題もぎりぎりまでやらなかった。
でも、早く起きた朝のことを覚えている。

窓を開けて朝の冷気を入れた。
夏の朝は確かに涼しかった。
エアコンなんてなかったから
朝の涼しさは大切だった。
牛乳配達のガラス瓶がカチカチとあたる音や
鳥の声が気持ちよかった。
庭にある朝顔の育ち具合を見たり
今日は何をしようかなと
ぼんやり考えたりした。
気が向くとラジオ体操の会場に行き
参加票にはんこをもらって帰った。

No.00976　04.08.27

水の音

波の音、ザブン
雨の音、ザー
滝の音、ドーッ

みんなおんなじ水の音

鼓動の音、トクトク
わたしのなかに、トクトク
あなたのなかに、トクトク
地球の上の　誰の胸にも、トクトク
トクトクも、実はやっぱり水の音

あなたの心が揺れるとき
わたしの心に波紋が広がる

みんなおんなじ水だから

あなたの耳に懐かしい
やさしいきれいな水の音
心の底から湧き出るように
あなたのために祈ります

母さんからいただいた、トクトク
父さんからいただいた、トクトク
いつまでも安らかに続きますように

No.00977　04.08.30

執着を手放す

誰も、たったひとりで執着を
手放すことはできない。
執着を手放すためには手放してもよいのだという
深い信頼を自分が持っていなければならない。
その信頼を持つためには
必ず他人の助けが必要となる。
そもそも執着を手放すことがどのようなことなのか
教えてくれる人がいなければ
執着について考えることもないだろう。

執着を手放した人のまわりには
その人を支えてくれる人が集まる。
その人たちもまた、ある執着を手放している。
執着を手放すためのネットワークが
ある人の執着を手放すことに奉仕している。
このネットワークが組み上がったとき
人は安らかでいられる。

No.00978　04.08.31

まなざし

「人に力を与える言葉」があるように
まなざしにも「人に力を与えるまなざし」がある。
「人に力を与えるまなざし」が集まると
そこには居心地がよくて不思議な空間が現れる。
その空間を作ることができる人は
有能なリーダーである。

No.00979　04.09.01

広口コップ

直径 7cm、高さ 12cm ほどの大きなコップが
うちにある。
ガラスが薄くてすぐに割れそうに感じるのだが
とても丈夫で割れない。

テーブルから落としたことがあるが
びくともしなかった。
コップの底から飲み口に向かって
その直径はわずかに広がっている。
この広口のコップにカクテルを作る。
大きな氷が入るのでコップのなかで
ステアしてもいい。
飲み心地がいいのだが、
どうして飲み心地がいいのかがよくわからない。
飲み口の直径が大きいから
その口当たりがいいようにも感じるし、
持ったときの感覚がいいのかもしれない。
何がいいのかよくわからんけど
何かがいいんだよなぁ。

No.00980 04.09.06

豆を挽いてコーヒーを淹れる

うちのコーヒーミルは手回し式。
僕が小学生のころからあるものだ。
かつて電動式のものもあったが
手回しのほうが美味しく淹れられる気がする。
コーヒーを挽くのはいつも僕の仕事。
かつては母にせがまれたが
いまは女房にせがまれる。
ゴリゴリと挽いてできあがったコーヒーは
とても薫り高い。
ドリップに移してお湯を注ぐ。
熱にあおられて香りが広がり
コーヒーの粉は泡となってふくらむ。
最初のドリップが一番苦いし、甘い。
何かの弾みで思い出す懐かしい思い出に似てる。

No.00981 04.09.07

ニュース

ニュースには悲しい話が多い。
誰が殺されたとか、
どこの紛争が激化したとか、
少子化が進んだとか、
犯人がどう裁かれたかとか。
いちいち感情移入していたら
こちらの気分が滅入ってしまうほど
いろんな問題が伝えられる。
そこにだけ注目すれば
ニュースは嫌なものだ。

しかし、自分が知らない世界で
何が起きているのかを知ることができる。
ニュースがなければ知りもしない誰かに
感情移入することができる。
行ったことのない国に生きている人のことを
思ってあげることができる。

もし自分が何かの事件に巻き込まれたら
世界のどこかの誰かが
きっと僕を心配してくれる。

地球が大きな脳だとして
そこに共感が生まれたとしたら
それをもたらす伝達内容は
きっとニュースだろう。

No.00982 04.09.10

笑顔共和国

机の奥から一枚のカードが出てきた。
「幸せを呼ぶ"言葉の花束"」と書かれている。

言葉はエネルギー、
感動・感激・感謝の気持ちを言葉にすると
私達の暮らしの中に、笑顔がひろがります。
この合い言葉が口癖となりますように！！

わたしは、しあわせ
ありがたいことです
これはすばらしい
よいことをしてくれました
よかった、よかった

このカードを発行しているのが
笑顔共和国という組織。
福田純子さんが大統領だ。

ひさしぶりだったのでホームページを探してみた。
http://www.egao-kyowakoku.co.jp

福田さんは元気に活動しているようです。
ありがたいことです。
よかった、よかった。

No.00983　04.09.13

gif で簡易スライドショー

gif アニメの作り方を覚えたので
ちょっとそれを応用して
gif で簡易スライドショーを作った。
五枚の写真が五秒ずつ出てくる。
モデルは PKS のボランティアのみなさん。

No.00984　04.09.14

曇り空

晴れている日の空はもちろん気持ちいいけど、
曇りの日の空も侮れません。
見渡す限りの下界をすっぽりと包む雲。
やさしい光が空全体から降り注ぐ。
南の島に行くと特に
しっとりとした雰囲気の曇りの日も悪くない。
外出しても肌にやさしい一日となる。

No.00985　04.09.16

高校生がヒーリング・ライティング

一通のメールを受け取った。
向陽台高等学校　千葉キャンパスの校長先生
瀧澤　勉さんからだ。
内容は、
学生にヒーリング・ライティングをさせているが、
その結果についてブログを作りました。
そのタイトルに「ヒーリング・ライティング」と
つけていいですかというお問い合わせだった。
もちろん了解した。
ただひとつ疑問があった。
ヒーリング・ライティングを
やってもらうにあたっては
あるガイダンスが必要となる。
文章を書くことの価値をきちんと伝えないと
ただの作文と変わらなくなってしまう。
お礼のメールを出したら返信が来た。
そしてその謎が解けた。
校長先生がすべての学生の書いた内容について
返事を書いているのだ。
先生の愛情が学生たちの心の底にある
何かを吸い上げる力となった。

No.00986　04.09.27

オニオングラタンスープ

オニオングラタンスープを作った。
タマネギを薄い輪切りにして
弱火でバターとともに炒める。
鍋にいっぱいあったタマネギが
次第に小さくなり
白いスープを出していく。
このスープはとても甘い。
さらに炒めていくと
タマネギが飴色になっていく。
この状態になるまで一時間から二時間
ただただタマネギを撹拌しながら炒める。
すっかり飴色になったらお湯を加え
塩とコショウで味をととのえ
オニオングラタンスープ用の器に移し
かりっと焼いたパンを載せる。
その上にチーズを載せてオーブンで焼く。
おいしいですなぁ。

No.00987　04.10.01

今朝の朝焼け

台風一過で空が晴れ渡っています。
今朝の朝焼けはとてもきれいでした。
西にはちょっとだけ欠けた月があります。
富士山がうっすらと見えるか見えないか。
風もなくさわやかでいい感じ。

No.00988　04.10.04

歓声

西武ライオンズと日本ハムの
プレーオフ第一ステージ第三戦に行ってきた。
熱心な野球ファンではないのだが
たまたまいただいたチケットが好カードだったので
何年かぶりの野球観戦だった。
一回表に日ハムが 3 点を取りリード。
日ハムを応援していた女房は大喜び。
三回裏、カブレラが満塁ホームラン。
四回裏にも一点追加で
ライオンズが勝つかと思われた。

僕はライオンズを応援していたので
ご機嫌だったが、
これでゲームが終わってしまってはつまらない。
一度は逆転して、
またそれをひっくり返すくらいのことは
してほしいなぁと思っていたら
九回の表に日ハム木元の 2 ランで同点に。
延長戦突入かと思いきや
九回裏の先頭打者和田が
見事にホームラン。
ライオンズ第二ステージ進出決定。
西武ドームを揺るがす大歓声があがった。
もちろん一緒に大声を上げる。
気がねなく叫べるっていい。

No.00989 04.10.05

バーテンダーズマニュアル

誰だったか忘れたが
本を読むのが好きな人が
時々意味のないものを読みたくなると
メニューを読むためにレストランに行く
というような話をしていた。
それに近いことなのかもしれない。
頭を使って文字を読むのが嫌になると
バーテンダーズマニュアルを読む。
酒の作り方や歴史、作法などが
事細かに書かれている。
バーに行ったときに
役に立つのではないかとも思うが、
たいていのことは忘れてしまう。
だいたい客が蘊蓄たれるより
バーテンさんにいろいろと教えてもらった方が
場が落ち着く。
カクテルのレシピにゲッと思うようなものがあり
笑いたくなることがある。
たとえば B-52 のレシピ

カルーア 20ml
ベイリーズ・アイリッシュ・クリーム 20ml
グラン・マルニエ 20ml
作り方　ショットグラスまたは小さめのグラスに
順に注ぎ入れる。

いったいどんなに甘いカクテルだよ。
いつか作ってやろう。
こういうのに限って案外美味しかったりする。

No.00990 04.10.06

宇野浩二

宇野浩二という作家をご存じだろうか？
明治 24 年生まれで昭和 36 年没。
恥ずかしいことについ二年前まで知らなかった。
二年前に引っ越しの準備で
かつての家の本棚、押入を整理していたときに
全集を見つけた。
全十二巻の宇野浩二全集だ。
丁寧に二重の箱に包まれていたので
本は新品同様にきれいである。
この本を数日前に読み出した。
文章の流れがとてもいい。
スルスルと読める。
言葉の音の絡みが心地よいので
黙読していても途中で音読したくなる。
どうして音読したくなる文章なのか
今の僕には理由がわからない。

No.00991 04.10.08

胎内記憶

1998 年に『胎内記憶』という本を書いた。
もう六年も前のことだ。
その本が出たときに小学一年生だった子は
中学生になっている。
この本についての問い合わせや質問が
最近増えている。
いったいどうしたんだろう？
ひょっとして胎内記憶ブーム？ （笑）
胎内記憶について知りたい方は
以下の URL にどうぞ。
http://www.t3.rim.or.jp/〜yoji-t/taiji.html
かつて書いた本に興味を持ってもらえて嬉しい。

No.00992 04.10.15

秋の夜、喧噪と冷気

風呂で本を読むのが好きだ。
いまは『日本古代宗教』という
古い本を読んでいる。

しばらく読んでいると汗がじわっと出てくるのだが
それを我慢してまだしばらく本を読む。
我慢しきれなくなったところで風呂から出て
頭やからだを洗う。
ふたたび湯船に入り本を読むと
すぐに汗が出てくる。
風呂を上がって書斎の窓を開けると
流れ込んでくる喧噪と冷気。
いまはまだそれほど冷たくはないが
冬になると本当に冷気が
風もないのに流れ込んでくるのがわかる。
ほてったからだを抜けていく。

No.00993　04.10.19

二層ビール

ハーフ＆ハーフを作ろうとして偶然できた
いかにも美味しそうなビールの飲み方。
エビスビールとエビスの黒ビールを用意する。
まずは黒ビールを
泡をたてるようにして細長いグラスに注ぐ。
黒ビールがグラスに四分の一、
泡はグラスの半分以上入ったところで止める。
大きな泡が消え細かい泡ばかりになるのを待ち
泡が落ち着いたらエビスビールを注ぐ。
注ぐコツはドッと注ぐのではなく
ゆっくりと一定の速度で注ぐようにする。
うまく注ぐ自信があるなら
泡が出るように高い位置から注ぐ。
泡がグラスのふちに来たらいったんやめる。
泡が落ち着いたらもう一度
泡が出るように静かに注ぐ。
下が黒ビールで上が黄金色の
二層ビールのできあがり。
うまくやると泡にも色の層ができる。

No.00994　04.10.25

一時間のジョギング

かつて 12㎞ を一時間ちょっとで走っていたが、
しばらくペースを落としていた。
最近少しずつペースを取り戻し、
昨日一時間で 11.5㎞ 走った。
かつてとほぼ同じペースだ。
終わってもすぐに仕事に戻れるので
以前よりからだが楽になっていると思う。
一時間のあいだずっと 500m のトラックを走る。
同じところを何周も走っていると
景色で気を紛らわせることができないので
呼吸の音と足の音で頭の中が瞑想状態になる。

No.00995　04.10.26

デジャリドゥー

ずっと以前、
デジャリドゥーのことを書いたと思うが
僕は何を書いたかすっかり忘れてしまった。（笑）
僕がデジャリドゥーを吹くことを
覚えていて下さった
ヒーリング・ライティングを受講なさった方から
デジャリドゥーのＣＤをいただきました。
オーストラリアのおみやげだそうです。
そのかたは本当は
デジャリドゥーをおみやげにしようと
たくらんだそうですが、
思いのほか大きい楽器だったので
断念したそうです。
どのくらい大きいかというと、
いろいろな大きさがあるのですが、
小さいもので１メートル、
大きいものになると人の背丈ほどになります。
それを持って返ろうとするのは確かに大変です。
そのような無謀な計画をして下さった
Ｋさんにお礼申し上げます。
いただいたＣＤはとても素敵なものでした。
デジャリドゥーのソロのＣＤでした。
大地から湧き出てくるような低音と
宇宙に響くような倍音のリズムが
脳みそをかき回してくれました。
はじめて聞く人には
不思議なものに聞こえるでしょう。
なにしろデジャリドゥーは吹いている人が
ドリームタイムというトリップ体験を
するためのものですから。
だからいわゆるメロディーは一切ありません。
はじめて聞く人はその不思議な音楽に
いいか悪いかの判断すらつかないかもしれません。
魂がゆさぶられるだけの不思議な音楽です。

No.00996　04.11.01

新宿駅南口

新宿駅南口の風景が好きだ。
サザンテラスとタイムズスクエアのあいだに
空間があり、
その向こうに NTT ドコモのビルがある。
新宿では珍しく、空が広く感じられる。
ここでかつて天使のような形の雲を見た。
赤ちゃんのようなぷっくりとした体型に
二枚の羽が生えていた。

No.00997　04.11.02

100 人パーティー

100 人パーティーというのを企画中だ。
このサイトの登録者がもうすぐ 100 名になる。
http://www.tokyoworkshop.com/
100 名になったら登録者を中心にパーティーを
するつもりだ。
登録者はみんなワークショップや勉強会の
運営者だから、忙しくて来られない人も
いるだろう。
だから実際に集まれるのは 20 名程度かもしれない。
登録者でなくても興味のある人は
もちろん参加 OK である。
だから結果的には 100 名くらい集まるだろう。
いろんな人がたくさん集まり、
楽しいこと間違いない。

No.00998　04.11.05

地球交響曲第五番

先日、地球交響曲第五番を見てきた。
はじめて監督の龍村さんにお会いしたのは
92 年、京都でだった。
あれから 12 年がたつ。
今回は「誕生と死」がテーマだった。
龍村さんの奥様の出産シーンと
石垣昭子さんの染織が印象的でした。

上映会は子ども未来研究所という
NPO 団体が主催していましたが、
そこの理事長がかつて出版していた本を
出版元のコスモテンの社長から
何年か前にいただいていました。
縁がこんなところでつながるのかと
不思議でした。

No.00999　04.11.08

さようなら

今日、この号で『日刊　気持ちいいもの』を
廃刊いたします。
長い間ご購読いただきありがとうございました。
さようならって、うまく言えるといいのですが、
なかなかうまく言えないものです。
年を取ってから気づいたのですが
さよならに執着がないといいみたいです。
だからこれもあっさりと終わりましょう。

僕はもう一誌メールマガジンを発行しています。
ぜひご購読下さい。

うーん、まったく執着だらけだ。(笑)

次に『日刊　気持ちいいもの』を発行したのは、twitter 上でした。2010 年 6 月 30 日から開始しました。なのでしばらくのあいだすべて 140 文字以内です。

No.01000　10.06.30

木々のあいだをジョギングする

そばに立つ木々の香りがする。
足下の木の葉がサクサクと音を立てる。
木の葉は自然のクッション、足を優しく守ってくれる。
風が吹けば木の葉の音を奏でてくれる。

No.01001　10.07.01

おはよう

おはようという言葉を
僕はいったい誰から教わったのだろう？
きっと母親か、父親か、兄貴かから習ったのだろう。
仕事に忙しかった父よりは、
きっと母からたくさん言われたに違いない。
まだ幼かった兄からも毎日言われたのだろうか。
家族のお陰で話せるようになった。
ありがとう。

No.01002　10.07.02

大きな氷をアイスピックで砕く

氷をアイスピックで砕くのは、
ほかのどんなことをするのともちょっと感覚が異なる。
アイスピックを突き立てる氷の固さがいい。
固いわけではなく、かといって柔らかいわけでもない。
この微妙な感覚。
突き立てるたびに破片が飛んでいく。
そしてあるときパカッと割れる。

No.01003　10.07.03

気持ちいいものを書く

気持ちいいものをかつて 1000 個書き続けた。
それはまるで瞑想の修行のようだった。
毎日ひとつずつ、
気持ちいいと思えることを短い文章に表現する。
それをひさしぶりに再開することにした。
今回はどんな体験になるのか楽しみ。

No.01004　10.07.04

ロッキングチェアに座る

ロッキングチェアに座り、ゆらゆらしながら本を読む。ゆらゆら揺れるのは気持ちが良い。これは赤ちゃんの頃からの思い出なのだろうか。きっと両親が僕のことを抱えてゆらゆらしてくれたのだろう。その思い出にもならない感覚の残渣が心のどこかに残っているのだろうか。

No.01005　10.07.05

ストローでブクブク

ストローから息を吹いて飲み物にブクブクするのって大好き。
でも、幼い頃に親に止められて以来なかなかする機会がない。
大の大人がブクブクしていたら
馬鹿だと思われるだろうという恐怖が、
その行為を止めている。
でも、ブクブクブクッて、何か楽しい。
ブクブクブクブク・・・

No.01006　10.07.06

芝生に寝っ転がる

芝生に寝っ転がると芝のいい香りが鼻をくすぐる。
ときどきバッタなんかがやってきて僕の上を通過する。
小学生の頃、近所に大きな芝生があって、
毎日のようにそこで遊んだ。
秋にはトンボの大群が来たっけなぁ。
ひろい芝生っていまじゃゴルフ場とかホテルくらいでしか見ないなぁ。

No.01007　10.07.07

七夕

今日は七夕だ。
1 月 1 日、3 月 3 日、5 月 5 日、7 月 7 日、9 月 9 日と
日本人は節句をする。
(厳密には 1 月は 7 日に人日の節句というのがあり、
　元旦とは別にしている)
夏の祭は男女が出会ういいチャンス。
七夕の祭で出会ってゴールしたカップルって
多いんじゃない？
今日も美味しい酒を飲もう。

No.01008　10.07.08

偶然の幸せ
あっちで噂していて会いたいなと思っていたひとに、
こっちで出会ったりするとすごくうれしい。
こういう偶然はどうして起きるのだろうか？
そういう偶然がポンポン起きるときは運が向いてきた証拠。
風に乗ってどこまでもいきましょう。

No.01009　10.07.09

びわゼリー

びわが丸ごと入ったびわゼリーを食べた。
胸がきゅんとする。
実家に大きなびわの樹があった。
毎年初夏に実をつけていた。
肥料をやらなかったので野生状態。
そのせいか、甘くて酸っぱくて味が濃かった。

死んだ両親のことを思い出す。
親の声は耳の奥に残っていて、何かの拍子に思い出す。

No.01010　10.07.10

グローブの匂い

僕の年代は少年の頃、みんな野球をしていた。
みんなグローブを買ってもらうのが夢で、
買ってもらえるととてもうれしいものだった。
自分のグローブは必ず磨く。
使っているうちに増えていく傷を見てゴシゴシ。
土で汚れたところをゴシゴシ。
ゴシゴシのときに皮の匂いがプンと匂った。

No.01011　10.07.11

思い出

毎日のように『気持ちいいもの』を書いていると、
様々な思い出が蘇る。
もちろんいい思い出ばかりではないが、
人生はおおむね限りない愛と喜びの旅。

No.01012　10.07.12

カラのラムネビンの音

ラムネを飲み終わると、
いったいどうやって口の部分を
ビー玉で止めていたのだろう？と
ビンを逆さまにしてみたりする。
中のビー玉が転がってカラカラと音がする。
この音がなかなか素敵。
ラムネのビンは厚いから少し曇ったカラカラという音。
カラカラよりはコロコロって感じ。

No.01013　10.07.13

iPod nano

5 年前に買った iPod nano を使っている。
ジョギングのときに腕につけ、Nike+で距離を測る。
たった五年しか経ってないのに
もう iPod nano は五世代目が出ている。
僕はこれとともにホノルルマラソンを走った。
壊れるまで使い続けるだろう、思い出と一緒に。

No.01014　10.07.14

アイスコーヒー

夏の定番。
今頃からいつも冷蔵庫には
自家製のアイスコーヒーを入れておく。
大量の珈琲豆を使い、
ドリップしたコーヒーを氷ですぐに冷やす。
それをポットにいれて冷蔵庫に保存する。
二、三日でなくなるのでまたすぐ作る。
ペットボトルで売っているアイスコーヒーはもう飲めない。

No.01015　10.07.15

ボーリング

女房が会社でボーリング大会があるからと
無理矢理練習に連れて行かれた。
10 年ぶりくらいのボーリング。
1 ゲーム目は散々だったが、次第に調子を上げていく。
ストライクのガシャーンという音が気持ちいい。
はじめてやったのは小学生の頃。
両親が値段の高さに目を回していた。安くなった。

No.01016　10.07.16

モバイルスイカで改札を通る

携帯電話を出して改札を通る。
ピッという音とともに金額が表示される。
昔改札には「キンキンキン、キキンキキン」と
改札ばさみを鳴らしていた駅員がいたものだ。
それはそれで懐かしい。
ピッと鳴る自動改札もいまとなっては心地よい。

No.01017　10.07.17

ニコンＦ２

往年の名機ニコンＦ２を持っている。
もうフィルムの時代ではないので滅多には使えない。
このカメラを中学生の時に買ってもらったおかげで
僕は写真がうまくなった。
鳥が飛んでいる一瞬も、逆光の中での撮影も、
ベストな構図も、このカメラがなければ撮れなかっただろう。

No.01018　10.07.18

古い辞書

重い辞書を書棚から出し、膝に載せて言葉を探す。
慣れた辞書はすぐに言葉を見つけられる。
何度もめくったために
だいたいどこに目的の言葉があるのか勘が効くから。
新しい辞書は使い慣れるまで鬱陶しい。

電子辞書は使いたいと思ったことがない。
辞書と一緒で古い人間だ。

No.01019　10.07.19

幸運な人

現代の日本に生きている人はとても運がいいと思う。
確かに問題はたくさんあるだろうけど、
他人から命を脅かされるようなことはあまりない。
日本をこのような国にしてくれた先輩たちに感謝。
同時に、後輩たちにどんな国を譲り渡せるのか考え、
行動しなければならない。

No.01020　10.07.20

気持ちのいい一言

嬉しいと思える一言や、楽しくなるような一言とともに
朝を迎えられるのは幸せなこと。
ありがとうという気持ちで眠られるのも素敵なこと。
夢の世界と現実の世界の入口、
出口は美しいものにしておこう。

No.01021　10.07.21

懐かしい歌

懐かしい歌をどこで聴いても、
気持ちはすぐにあの頃に連れて行かれる。
いい思い出も、嬉しくはない思い出も、すべて時の彼方。
あの歌を一緒に歌った、
聞いた仲間はどうしているのかと思う。
みんなが幸せでいますように。

No.01022　10.07.22

洗濯日和

日差しが強くて、適度な風が吹く洗濯日和は、
気持ちいい天気の日。
洗濯するのももろちんいいけど、
散歩したい、自転車乗りたい、森に行きたい、海に行きたい、
ジョギングしたいと、欲望が膨らむ日でもある。
今日という人生の一日について選択を迫られる日。

No.01023　10.07.23

木漏れ日

木漏れ日の下で読書するのが好き。
影と光がちらちら動いて落ち着いた雰囲気を作ってくれる。
鳥の声や虫の声、木の葉の揺れる音が素敵な BGM。
心地よい風が光と音の演出家。

No.01024　10.07.24

夏の日の噴水

暑い日に噴水のそばに行く。
水しぶきが風に乗って流れてくる。
噴水のそばは少し涼しい。
からだも服も湿れば、これから少しは涼しくなれる。
暑い日には嬉しい装置だ。
エアコンのなかった時代はきっと
今より大切なものだっただろうな。

No.01025　10.07.25

夏休みの思い出

大人になると学生の頃のような夏休みは
なかなか取れないので、時々ふっとあの頃のことを思い出す。
どこかに行ったりもしたけど、
一番の贅沢は時間を持てあますこと。
あれやろうか、これやろうかと考えて、
結局何もしなかったりして。
蝉の声を聞いて昼寝していたのが幸せだった。

No.01026　10.07.26

川遊び

川の浅瀬に入っていき、じっと魚を探してみる。
冷たい水が足を洗い、流れが作る水の音が聞こえてくる。
砂利の大きさによって足の裏の感触が異なる。
砂地ならいいが、少し大きめの石が多いと、
足の裏が刺激されて痛い。
魚を見つけては声を上げる。

No.01027　10.07.27

バジル

夏になるとベランダのバジルの葉が大きくなるので、
料理に使う。
一番はジェノバソースにすること。
これで作ったパスタは絶品。
この数年間、うちの定番料理。
今年もそろそろ食べようかな。
あとはトマトのカプレーゼ。
モッツァレラと合わせて食べる。うっとり。

No.01028　10.07.28

本を読み直す

かつて読んだことのある本をもう一度読む。
たいてい本棚に残してある本は
かつて面白いと感じた本なのでたいてい面白い。
読んで何年もたつと概要しか覚えてないので、
細かな部分で感動したりする。
なんとなくいいけどよくわからなかった本も、
再読することで理解できることがある。

No.01029　10.07.29

新車の香り

新しい車には独特の香りがある。
機械の匂いでもないし、皮や木の匂いだけでもない。
あの匂いはいったい何なのだろう？
車に乗ると身体が拡張された感覚になり、
それをあの匂いが増幅する。
一種の麻薬か？

No.01030　10.07.30

波に揺れる

海に浮かんでぼうっとしているとからだは波に揺られる。
この不規則な上下動はとても心地よい。
生命はその揺籃期からこの揺れに浸されてきた。
行くでもなく、帰るでもなく、ただそこに漂うこと。
命はそもそも漂うものだ。
目指す目標などありはしない。
うまく漂えればそれでいい。

No.01031　10.07.31

吹奏楽団

中学、高校と吹奏楽部にいた。
かなり一生懸命やっていたので
いまだに吹奏楽団の音を聞くと胸がキュンとする。
吹奏楽団の喜びはその繋がり方にある。
打楽器以外はすべて吹く楽器なので、
まさに息が合わないと話にならない。
指揮者は息を合わせるための基準となる。
ぴったり合うとうれしい。

No.01032　10.08.01

夏の昼寝とレースのカーテン

幼い頃、夏になると母と昼寝をした。
窓を開けてレースのカーテンをし、
静かに入ってくる風を楽しんだ。
蝉の声がし、ゆっくり揺れるレースのカーテンの、
重なりあうモアレを眺めながら眠りに落ちた。

No.01033　10.08.02

志のある人と話をする

志のある人と話をすると、
こちらの心にも共鳴するものがあることを確認できる。
志はまだ見ぬもの。
形にはならないと思われていることに挑むこと。
いまの僕たちは過去の志によって
作られたものに支えられている。
未来の人を支える何かを作るのは、今生きている僕たち。

No.01034　10.08.03

新しいデジカメ

数年に一度新しいデジカメを買う。
いつでも持ち歩けるコンパクトなデジカメだが、
最近買ったデジカメは ASA はもちろん、
シャッタースピードと絞りも調節できる。
できれば絞りが 1.2 とか、せめて 1.4 になればいいんだけどな。
あと何年後かには可能になっているかもしれない。

No.01035　10.08.04

2km 泳ぐ

今の僕には 2km 泳ぐのがちょうど良い。
だいたい一時間かかる。
200m を 1 セットとして 10 セット泳ぐと 2km。
2km 泳ぐと体重が 1kg ちょっと減る。
そのあとお風呂に入って汗をかき、
だいたい 2kg ほど落としてジムを出る。
からだが軽くてさっぱり。

No.01036　10.08.05

ダカフェ日記

時々見に行くダカフェ日記。
淡々とした日常なのだがとても幸せそう。

No.01037　10.08.06

バッティングセンター

バッティングセンターに行くと、
昔野球が大好きだった頃を思い出す。

素振りの音、ボールの飛んでくる音、
バットにボールが当たる音、そのときの手応え。
今となっては空振りばかりだが、
それでも楽しいバッティングセンター。
終わったあとは体中が痛いけど、それでいい。

No.01038　10.08.07

地球の写真

宇宙から撮影した地球の写真は、
あまりにも美しいので見入ってしまう。
このつるつるとした地球の表面に、
僕たちが張り付いているというのがとっても不思議。
宇宙から見ると自分の存在は
とてもちっぽけなものでしかないことを認識できる。
この小さな世界と思える場所に生きている。

No.01039　10.08.08

春の祭典

ストラヴィンスキーの名曲。
とても好きでレコードを何枚か持っていた。
この曲は聞いているうちに興奮してくる。
はじめて聞いたときには何が何だかわからなかったが、
何度も聞いていると春に命が芽吹くように
心の奥の野蛮さがもっこりと起きあがってくる。
スコアを見ながら聞くのもスリリング

No.01040　10.08.09

シュノーケリング

海に潜るのにはシュノーケリングがいい。
10m も潜れれば美しいサンゴや魚が見られる。
力を抜いて酸欠状態に慣れていく。
水のなかであわててはいけない。
力を抜いて漂うように泳ぎ、
水の中で息をしたくなる頃にフラーッと上がる。
息をするとき感じるだろう。
空気万歳。

No.01041　10.08.10

祓串(はらえぐし)

神主さんがお祓いの時にバサッバサッと振るもの。
大麻(おおぬさ)ともいう。
お参りの時、頭を垂れてその上を祓串が振られると、
あのバサッバサッという音に、
なぜか清められたような気がするから不思議だ。
人はうんと低い音と、
うんと高い音を同時に聞かされることで感覚が開く。

No.01042　10.08.11

500m 泳げた

クロールでは普段なら休みなしで 200m しか泳げない。
ところが先日、休みなしで 500m 泳げた。
しかもそれを 2 回。
250m を 4 回と 500m を 2 回泳いで 2km 泳いだ。
普段は 200m を 10 回泳いでへとへとだ。
歳とっても継続的に運動してると
少しは運動能力が発達するんだな。

No.01043　10.08.12

鉄人 28 号の水鉄砲

先日ふと思い出した鉄人 28 号の水鉄砲。
空飛ぶ 28 号が水鉄砲になっている。
僕が三歳の頃に持っていたおもちゃだ。
ずっと忘れていたが、
気持ちのいいもの次に何を書こうかと考えながら
シャワーを浴びていたらふと思い出した。
それを持って新潟のおばあちゃんに会いに行った。

No.01044　10.08.13

気持ちいいものを書く

気持ちいいものを書くというこのワークは
自分のためにやっている。
これを毎日やっていると時々ギフトが降りてくる。
昨日発信した鉄人 28 号の水鉄砲もそれだ。
普通に暮らしていたらそんなことを思い出すことは
きっとないだろう。
僕にとってとってもいいことを思い出す。

No.01045　10.08.14

南の島

南の島の何がいいのか。
日常を忘れることが一番いい。
青い海と空を眺めながら、気持ちいいことだけ思い出し、
ただぼぉっとする。
波の音を聞き続けるのも素敵だし、
鳥の声を聞き続けるのもいい。
時々シュノーケリングで魚に会いに行くのも格別。

昼間からビールやカクテルも。
また行きたいなぁ。

No.01046　10.08.15

ラハイナのバニアンツリー

マウイ島のラハイナ港の目の前に
大きなバニヤンツリーがある。
面積が広くてそこでアートフェスティバルがおこなわれる。
昼間に行くとたくさんの人が昼寝している。
たくさんの人の思い出となり、出会いの場所となり、
あそこに行った人の忘れられない景色の一部となっている。

No.01047　10.08.15

グーグル・マップ

今日書いてラハイナを思い出したので、
グーグルマップで見に行った。
とても懐かしい。
パイオニアインの目の前のショッピングセンターに
手作りのサンダルを作っているおじいちゃんがいる。
そこのサンダルが大好きだ。
壊れてしまっていつか直しに行きたいと思っている。

No.01048　10.08.16

旅行した場所

旅行に行った場所をグーグルマップで見ると非常に懐かしい。
何十年も前に行った場所はこんなに変わっているのかとか、
全然変わってないなとか、いろいろな思いにとらわれる。
もう一度実際に旅に行けばいいんだろうけど、
なかなかそうもいかない。
グーグルマップで思い出にひたる。

No.01049　10.08.17

ルイ・アームストロングの曲

声もトランペットの演奏もとても印象的。
感情が素直に音になっている。
『この素晴らしき世界』はもちろん好きだが、
『女王陛下の 007』の挿入歌『愛はすべてを越えて』も
とても素敵。
少年院に送られそこではじめてコルネットを吹く。
人生万事塞翁が馬の見本のような話。

No.01050　10.08.18

茶筅

幼い頃、母が時々お茶を点てた。
シャカシャカと音を立てる茶筅の先にある、
細い竹の柔らかさが好きだった。
抹茶の泡が絡みつく。
苦いお茶を飲んで顔をしかめると母に笑われた。
正座をきちんとして抹茶を飲んでいると褒められた。
畳の匂いの遠い思い出。

No.01051　10.08.19

ナイスショット

昔テニスをやっていた。
相手の球を打ち返す瞬間、スイートスポットに入り音がして、
確実な手応えがありスピンをかける。
ネットの上ギリギリを通った球が
スピンでがくっと落ちていく。
この瞬間がスカッとする。ラリーが続くと笑いたくなる。

No.01052　10.08.20

サーキットを走る

アクセルをベタ踏みし、サーキットを走る。
タイヤがきしみリアが流れカウンターをあてる。
公道ではできない走り方。
タイヤの研究施設で濡れた路面を作り、
リアを滑らせてぐるぐるまわったこともある。
車が限界を超えるとどうなるかを体験できたのは
安全運転にかえって良かった。

No.01053　10.08.21

朝のシャワー

このところ暑かったので朝に水のシャワーを浴びる。
まだ気温は暑いけど
水は少しずつ冷たくなっているのがわかる。
少し前はいきなり頭からかぶっていたけど、
最近は足からかける。
秋が近づいてきましたよ。

No.01054　10.08.22

大きな氷

夏は冷蔵庫の製氷器では氷が足りなくなるので、
タッパウェアに水を張って氷を作る。
アイスピックで大きな氷を削りだして

アイスコーヒーやオンザロックに使う。
製氷器の氷は小振りだが、
削りだした氷は大きいのでなかなか溶けない。
水泡の入らない大きな氷がゆるゆるととけていく様はいい。

No.01055　10.08.23

字統

言わずと知れた白川静先生の字源辞典。
白川先生の本と合わせて読むと、
どれだけ先生が学問に没頭していたかがよくわかる。
月に一度友人たちと先生の DVD を見るのも楽しみ。

No.01056　10.08.24

少し溶けたアイスクリーム

少し溶けたアイスクリームをスプーンでかき回して、
ソフトクリームのように滑らかな状態にするのが好き。
ヌワーッとスプーンについてくる
アイスクリームをすくって口に含むと、
柔らかい舌触りとともに次第に溶けて、味が口に残る。

No.01057　10.08.25

マブチモーター

小学生の頃、よくプラモデルを作った。
近所の大きなプラモデル屋さんには
いろんな大きさのマブチモーターが並んでいた。
本当に小さいモーターが微妙な違いをもって並んでいた。
あの小さいモーターに電気を流すと、
ウィーンと言って軸が回り始める。
ワクワクしたな。

No.01058　10.08.26

コロ

コロは僕が昔飼っていた犬。
うちに帰ると寄ってきて顔中をなめまわされた。
ああいう喜び方は大人になるとなかなかできない。
子供が何かを見て必死に喜んでいるように、
純粋に、まっすぐに体中で喜んでいた。
ちぎれるくらいに振る尻尾、落ち着かない足取り。
どれだけコロに慰められたか。

No.01059　10.08.27

蝉の声

僕はこの音を年の数だけ聞いてきた。
当たり前のように聞いている音に、
いままで生きてきた思い出が絡みつく。
夏の昼寝、海水浴、川辺の釣り、
溶けて落ちたアイスキャンディー、水しぶきのプール、
その他たくさん。
蝉の声は思い出のトリガー。

No.01060　10.08.28

プールで遊ぶ

最近の僕はプールで何キロ泳いだかが問題で、
プールで遊ぶことなんかまったく忘れていた。
浮き輪につかまり流れるプールに流されて
チャプチャプする感覚。
仲良しとただ水の中でじゃれる高揚感。
大人になるとなんでも機能で考えてしまう。
プールって楽しいとこだったよなぁ。

No.01061　10.08.29

バニラアイスクリーム

昔、母さんがよく作ってくれたアイスクリーム。
牛乳と卵と砂糖を混ぜ、
そこにバニラエッセンスを数滴垂らす。
それをアイスクリーム専用の撹拌機に入れて冷蔵庫で冷やす。
冷蔵庫の扉から撹拌機のコードがでていると
母さんがアイスクリームを作った合図。
嬉しかったなぁ。

No.01062　10.08.30

息を止める

子供の頃、誰が一番長く息を止めていられるか競い合った。
いまじゃ一分くらいは簡単だが、
子供の頃はそれが難しかった。
顔を真っ赤にして手足をジタバタして、
がまんしてがまんして、
プハッと息をするときの何という気持ちの良さ。

No.01063　10.08.31

アート・ギャラリー

海外でギャラリーを見つけると入ってみる。
僕の好きなのはわけのわからない作品のあるギャラリー。
壁に耳がついていたり、
掃除機の吸い込みが人の口になっていたり、
マグカップの取っ手をすでに手がつかんでいたり。

「これなに」と言いたくなる作品に
あふれているところがいい。

No.01064　10.09.01

やっとできたこと

最近はなんでも便利すぎる。
それが当たり前になってやっとできたことを
喜ぶ感覚が薄れているかも。
音楽作るにもシンセサイザーで簡単にオケの音が再現できる。
昔は金管楽器の音合わせるのにも苦労したもの。
やろうとしてできなかったことが、
やっとできたときのうれしいこと。

No.01065　10.09.02

人と出会う

人とはなかなか出会えない。
その人が何をして、どういう人か、それは簡単にわかるだろう。
だけどこの人が何を考えて、
何を感じているからそれをするのか、
その部分に降りていくことができなければ
本当に出会ったことにはならない。
表面上の出会いから、その先へ行けるのはごくわずか。

No.01066　10.09.03

ニール・ダイヤモンド

ニール・ダイヤモンドの男っぽい声が好きだ。
メロディーもいいし、歌詞もいい。
ビューティフル・ノイズやセプテンバー・モーンを
何度聞いたことか。
彼が主演した映画「Jazz Singer」は
その頃付き合っていた子と行った。
あの子はどうしているのやら。

No.01067　10.09.04

かっぱ巻

歯ごたえのいいお寿司はあまりない。
あえて言うなら沢庵巻やごぼう巻くらいだろう。
僕はかっぱが好き。
カリッとした歯ごたえと胡瓜の香り。
海苔やらわさびの香りも来るけど、
その奥の胡瓜の香りがいい。
お店によっては胡麻がふってあったりするけど、
胡瓜とわさびだけでいい。

No.01068　10.09.05

シンフォニア・ノビリッシマ

高校の学園祭で演奏した吹奏楽曲。
先日 iTune で見つけて 30 年ぶりくらいに聞いた。
細かい部分を忘れていたが、聞くとそれらが甦る。
一緒にその頃の情景やメンバー、練習した教室の様子、
指揮した先輩、部室の様子も思い出す。
記憶は奥が深い。

No.01069　10.09.06

朝焼け

ひとつとして同じものがない朝焼け。
もし毎朝朝焼けを見て、
感じたことや思い出したことを
書き続けたらどうなるのだろうと思う。
南の島に行くと毎朝のように朝日を見に行くのが楽しみ。
日常にいるとそんなことしたいと思わないけど。

No.01070　10.09.07

やっと海を見る

長いドライブの果てに、
やっと海が見えてくるととてもうれしい。
なんで海が見えると「ああ海だよ」とつい言ってしまうのか。
長い間会わなかった友達に会う時みたいな喜びがある。

No.01071　10.09.08

キーボードの掃除

机の上がどんなに汚れていても、
キーボードだけはきれいにしておく。
ときどき綿棒を出して丁寧に掃除する。
以前のキーボードはキーひとつひとつの間に
細かなゴミが入ると、キーをはずして掃除した。
いま使っているキーボードはほとんど隙間がないので
綺麗にしやすくていい。

No.01072　10.09.09

誕生日

今日は僕の誕生日。
父さん母さんありがとう。
おかげで楽しく暮らしています。
父さんと母さんが生まれなかったら僕も生まれないので、
祖父母にも感謝します。
でも、曾祖父母がいないと祖父母が生まれないので、

曾祖父母にも感謝します。でも、・・・。
先祖のみなさんありがとう。

No.01073　10.09.10

iPad の感触

iPad のページを繰るときの、ニュワンという感触が好き。
きっと iPad の開発にはその感触的な部分を良くするために
時間を割いたのだと思う。
画面をはじくとスクロールして、
指で押さえるとピタッと止まる感じもいい。
感触って大事だよなぁ。

No.01074　10.09.11

大きなグラス

大きなグラスに大きな氷を入れて、
ウィスキーをいれるとなんかうれしい。
単なるロックと言えばそれまでだけど、
大きな氷がゆるゆる溶ける様を見ながら
ちびちびやるのがいい。
ピリッとしていたウィスキーが次第に薄まり
ちょうど良くなっていく。その過程がいいのかな。

No.01075　10.09.12

ドライアイスでプクプク

食品がドライアイスで冷やされて運ばれてくると、
ドライアイスを取り出して水に沈める。
プクプクと白い泡を吹き出す様が好き。
お洒落なバーでグラスにひとかけらのドライアイスを入れて、
そのうえにオードブルかなんか載せられて出されると、
それだけでそこが好きになる。

No.01076　10.09.13

Yesterday,Today and Tomorrow

ケニアには「昨日、今日、明日」と呼ばれる花がある。
その花は濃い紫色の花をつけ、翌日には藤色になり、
翌々日には白かクリーム色になる。
一本の木に三色の花が咲く。
アジサイのように次第に変わるのではなく、
それぞれの花が変化していく。

No.01077　10.09.14

絵を描く

旅行に行って時間があると絵を描く。
時間をかけて丁寧に描かないと僕の絵は絵にならない。
描いてしばらくの間はいったい何を描いているのか
わからないような状態になる。
時間が経つうちに次第に形が現れ影が付き、
色も複雑精緻になってやっと完成する。
混沌から形が浮かび上がってくる。

No.01078　10.09.15

勘に頼る

じっとするときはじっとする。
動くべき時が来たら動き出す。
勘に頼って動くとき、
それがきれいにはまっていくととても気持ちがいい。
あとで考えると何でそう動けたのか
よくわからなかったりするとなおさらいい。
頭で考えてばかりではそのようには動けない。

No.01079　10.09.16

芝生

幼い頃、近所に大きな芝生があった。
そこで走るのが好きだった。
綺麗に整備された芝生のサッカー場に立ったとき、
すぐにその芝生を思い出した。
ふかふかな足元。草の匂い。転んでも痛くない土の硬さ。
芝生があるって幸せなこと。ゴロゴロと転がりたくなる。

No.01080　10.09.17

いま

幸せって、いま一瞬のこと。
それ以外にある幸せは幻、または思い出。
幸せな人生は、いまこの一瞬が幸せであること。
ただそれだけ。
そして、それがすべて。
過去の幸せにすがることはできるが、
その状態は幸せではない。
どんなに不幸が続いても、いまが幸せであればそれが一番。

No.01081　10.09.18

幸せ

幸せは固定化できない。
流れの中に現れるもの。
常に幸せになろうとすると流れが歪む。
そこに生まれる幸せは幸せのようなものかもしれないが、

幸せに似て非なるもの。
不幸のおかげで幸せが輝く。
幸せを常に輝かせることはできない。
幸せなときそれを喜び、不幸なときはそれをやり過ごす。

No.01082　10.09.19

抜け殻の渋滞

八月のある日、普段より少し涼しい日、
蝉は一斉に抜け殻から出てきたようだ。
ある一本の木に蝉の抜け殻がたくさんついていた。
まるでその木に沿って、空に向かって、
抜け殻が渋滞しているようだった。

No.01083　10.09.20

パーカーのボールペン

先日、女房の誕生日プレゼントを買おうと
あるブティックに入ったら、
店員がカードのサインにパーカーのボールペンを差し出した。
幼い頃に親父が使っていたのと同じものだった。
「懐かしい」と言ったら、
はじめて贔屓になってくれたお客さんにもらったと
若いイケメンは答えた。

No.01084　10.09.21

竹の徳利

新しい竹で作った徳利から酒を注いで飲む。
ほのかに竹の香りが残ってうまい。
しばらく使っていると香りはなくなるが、
香りの思い出が残っているのでうまい。
愛着という調味料はなかなかのものだ。

No.01085　10.09.22

手作りのモノ

少々値が張っても手作りのモノを買ってしまう。
手作りのものは手で直せる。
いつまでも使っていられる。
古くなると味が出る。
デジタルデバイスもそういう愛着を
持たせることができないものか？
iPod が 5 年で使えなくなるってどういうことだ。
しまった愚痴を言ってしまった。(笑)

No.01086　10.09.23

山東絹のモレスキン

僕は山東絹を使った色鮮やかなモレスキンの緑色を
ずっと使っている。
一時期販売されていなかったが、
ウェブショップで買えるようになった。
しかし、いまは品切れが続いている。
仕方なく一冊だけ黄色を買った。
早く緑色が販売されますように。
絹の手触りが革製より好き。

No.01087　10.09.24

トリ・リチャード

ハワイに行くと必ず寄るアロハシャツのショップがある。
それがトリ・リチャード。
ここのアロハはどれもとても肌触りがいい。
多くのアロハシャツは
僕にはコワゴワしているように感じるが、
ここのアロハはとてもスムーズ。
風が通るときの感触が最高。

No.01088　10.09.28

コンパクトデジタルカメラ

小さなデジカメが好き。
かつては一眼レフでバジバシ撮っていたが、
いつも鞄に入れておけるデジカメで、何気ない写真を撮る。
お酒を飲んでゆるんだ友達の表情とか、
道端にひっそり咲いている花とか、
たまたま見かけたぽっかり浮かんでいる雲なんかは
デジカメのおかげで撮れる。

No.01089　10.09.29

ミックスビーンズサラダ

はじめて食べたのは代々木上原にあったキヨズキッチン。
当時は豆のサラダなんて聞いたこともなかった。
あまりにもおいしいのでいまでは自分で作って食べる。
煮豆のように豆か柔らかくなるほど煮ないので、
コリミリと食感が心地いい。
これを食べるために歯は大切にしたい。

No.01090　10.09.30

長袖

ひさしぶりに着た長袖のシャツ。

今年の夏は暑かったからずっと半袖だった。
袖口のボタンを止める感覚がひさしぶり。
半袖とはまた半年のお別れです。
長袖は、袖をめくるときの折りたたんでいく仕草が好き。
半年間、これを楽しめる。

No.01091　10.10.01

10 月

今くらいの気候がジョギングには一番いい。
暑くなく、寒くなく、どこまでも走っていける感じ。
僕のジョギングは人と話ができる程度の
ゆっくりしたものだから、あまり寒いと身体が冷える。
紅葉の準備が始まるこの時期は太陽が出れば
本当に気持ちいい。
風と光と足音に酔う。

No.01092　10.10.02

オーケストラの楽器

オーケストラの楽器はどれも、とてもいい音をしている。
一台の楽器の音でもうまい人が演奏すると、
うっとりとするような音になる。
オーケストラではそのうっとりする音が何十も重なっている。
うっとりしないわけがない。
だから油断するとうっとりしすぎて寝てしまう。

No.01093　10.10.03

シュノーケリング

ダイビングもいいけど、僕はシュノーケリングが好き。
深く潜るときの水圧がかかる感じがいい。
深く潜るとなぜか息が長くなる気がする。
潜ったあとで海面で息をするときの気持ちよさ。
シュノーケルで息をしながら
海面にぽっかりと浮かんでいるのもいい感じ。
海の揺れと音を楽しむ。

No.01094　10.10.04

穴掘り

幼い頃、なぜだか知らないけどよく穴を掘った。
庭にとにかく穴を掘る。
なぜと聞かれてもよくわからない。
とにかく掘って掘ってまた掘った。
母が暗くなってから洗濯物を取り込みに行くと、
よくその穴に落ちて文句を言われた。
穴掘るのが気持ちよかったんだろうな。
ひさしぶりに掘ってみようか。

No.01095　10.10.05

親父の本

父親が残していった古本を何冊かいまだに保存している。
時々パラパラと読むのだが、
古い本なのであまり状態はよくない。
だけどこれを親父が読んでいたのかと思うと・・・・。
その気分はうまく書けない。
うれしいとも違うし、懐かしいとも違う、うーむ。
この感情はなんだ？

No.01096　10.10.06

筋肉痛

ちょっとした筋肉痛を感じるほどの運動がいい。
翌日「あっ、凝ったな」と思うほどの運動ができると、
その日一日なぜか気持ちいい。
だけど筋肉痛で苦痛を感じるほどだと問題だ。
でも時々はそういうのもいい。
僕のからだがまだ使えることの証拠でもある。

No.01097　10.10.07

入道雲

夏に出てくる入道雲。
青い空を背景にもくもくもくもく。
やがて夕方になって入道雲が発達すると、
ザァッと夕立がやってくる。
昔の夏は天気に一定の作法があった。
作法通りに天候が変化していくと、
どんなに強い夕立でも気持ちいいもの。
最近の夏は作法がなくなった。
新しい作法が生まれるのか？

No.01098　10.10.08

焙煎したての珈琲豆

焙煎したての珈琲豆を挽くと香りがとてつもなくいい。
それにお湯を注ぐとふっくらと細かい豆が膨れ上がる。
その様を見てドリップすると、
それだけでとてもおいしい珈琲になったように感じる。
焙煎したての珈琲はなかなか手に入らない。
たいていは焙煎して数日経っている。ああ。

No.01099　10.10.09

100

この投稿で 100 ツイート目。

なんでも節目は気持ちがいい。

自動車の走行距離メーターとか、万歩計とか、

ホームページのカウンターとか、

つい節目のところを見たくなる。

1 単位はそれぞれ同じ価値のはずなのに、

特に節目に価値を感じる。些細なことで楽しめて幸せ。

No.01100　10.10.10

パップンピット

絵本作家の仁科幸子さんに何冊かの絵本と

小冊子をいただいた。

そのなかにパップンピットがあった。

昔銀座松屋で見たのを覚えている。

一度見ると心のどこかに刺さるキャラクター。

何年も僕の心のどこかに刺さっていた。

樹木や人を癒すキャラクターだそうだ。

ちょっと怖い雰囲気もある。

No.01101　10.10.11

食欲詩集

村松恒平さんが食欲詩集を出版した。
食欲をテーマとした詩集なんて聞いたことがない。
さっそく読んだ。食欲は刺激されなかった。
しかし、大いに笑った。
村松さん本人の話す口調を知っているとさらに笑える。
笑ってみる？　食欲詩集で。

No.01102　10.10.12

波の音

波の音は砂浜が好き。
波の強さで音が違うのは当たり前だが、
砂によっても音が異なる。
砂浜にいるとき見てごらん、聞いてごらん。
硬い砂、柔らかい砂、踏むと音のする砂、明るい色の砂、
暗い色の砂、波のあとに模様ができる砂、
波のあとに鏡のように光る砂、いろいろあってどれもいい。

No.01103　10.10.13

手をつなぐ

手をつなぐって気持ちいい。
幼い子供と手をつなぐとき、子供の感覚が蘇る。
それは手を握ることとは明らかに違う。
恋人の「手を握る」のと、恋人と「手をつなぐ」のは
言葉の印象もずいぶん違う。
握るとセクシャル、つなぐと元気。
握るのもいいけど、たまにはつなぎたい。

No.01104　10.10.14

胸を張って歩く
気分が落ち込むと姿勢にそれが現れる。
そんなときこそ胸を張る。威張る必要はない。
凛とするすること。自分の中心を思い出すこと。
まっすぐ前を見つめること。颯爽と歩くこと。
心地よさに人は集まる。
心地いい状態を生み出すコツのひとつ。
胸を張って歩こう。

No.01105　10.10.15

お茶

お茶の価値は魔術と同じ。
効能がたくさんあるようで、
実際にその通りなのかどうかはよくわからない。
にも関わらず、多くの人がお茶を求め、お茶のために集まり、
お茶を語って仲良くなる。
お茶を巡って戦争した人たちもいた。
お茶の神秘はとても深い。間口は広いが底なしの魅力。

No.01106　10.10.16

名刺

たった一枚の小さなカード。
そこにたくさんの知恵が詰め込まれている。
名刺の持ち主にとって伝えるべきことは何か。
名刺の与える印象はどんなものになるのか。
考え抜かれた一枚の紙を、丁寧にお辞儀して手渡す儀式。
名刺は、ただ一枚の紙ではない。

No.01107　10.10.17

丁寧にすること

どんな単純な作業でも、丁寧にするのは気持ちがいい。
カードをただ並べるだけでも、本棚に本を並べるだけでも、
お皿に料理を盛るだけでも、グラスを丁寧に拭くだけでも、
自転車をきれいに磨くことでも、字を綺麗に書くことでも、
ぴったりきっちりやるといい。

No.01108　10.10.18

アイデアを出す

いままでに考えられたことのないような、
まったく新しいことを考えるのは楽しい。
新しいゲームだったり、新しいパーティーだったり、
新しい掃除の方法だったり、新しい物語だったり、
新しい Web の使い方だったり。
可能性を広げることは命が輝くこと。

No.01109　10.10.19

ニュピ

バリ島のニュピでは喧噪が一切なくなる。
人の雑音は一切消え、風の音、鳥の声、虫の声だけになる。
そのなかで瞑想することのなんと心地よいことか。
かすかな自然の音が
心にとってどれだけの栄養かがわかるとき。
夢とうつつを行き来しながら、心の奥底へと降りていく。

No.01110　10.10.20

雲を眺める

雲を眺めて楽しむことができる人は幸せだ。
いつまで眺めていても飽きない人はさらに幸せだろう。
空を見上げればいつでも楽しむことができる。
「あれは蝶に似ているな」とか「あれは象だな」とか、
似ているものを探すのも楽しいが、
抽象的な形をそのまま味わうのも素敵。

No.01111　10.10.21

包丁の音

トントントンという包丁の音を聞くのはとてもいい。
かつて母親が毎朝トントンしていた。
最近は自分でもトントンするが、
女房がトントンしているととっても和む。
昔は夕方に近所を歩いていると、
家の窓からトントンの音が漏れだしていたが、
最近は防音が良いせいかなかなか聞けない。

No.01112　10.10.22

記憶力がないので何度でも楽しめる

編集者の土岐小百合さんが「TOKI の言葉」を発行している。
その言葉のうちでもっともよく思い出すのが
「記憶力がないので...」。
まったくその通り。
気持ちいいものでも同じ言葉を何度も楽しんでしまおう。

No.01113　10.10.23

五ミリ方眼野のレポート用紙

僕が学生の頃には五ミリ方眼紙はあまり見かけなかったが、
会社に入ると専用のレポート用紙があったので
愛用するようになった。
それからしばらくするとたくさん市販されるようになる。
特に図形などを書くわけではなく、字ばかりなのだけど、
それでもあれが使いたい。

No.01114　10.10.24

ポジフィルム

ポジで撮った写真を現像して、
ライトテーブルでヴューワーを使って見るのが好き。
小さな空間に広がる精細な映像。
デジカメが台頭してポジフィルムは少なくなり、
僕の好きだったブランドはもう売ってない。
以前撮った写真を取りだしては時々楽しむのみ。

No.01115　10.10.25

マルコポーロ

マルコポーロと言われて何を思いだすだろうか？
普通はもちろん『東方見聞録』の作者だろうが、
雑誌を思いだす人もいるだろう。
僕はマリアージュフレールの紅茶を思いだす。
あの香り、癖になるんだよなぁ。
ほかにもいい香りの紅茶がたくさんあるけど、
年に一度は飲みたくなる。

No.01116　10.10.26

石鹸

少し小さくなった石鹸を水にくぐらせ手の中で揉む。
ヌルヌルと石鹸が溶け出し、手が泡に包まれていく。
さっきまでしっかりとつかめた石鹸が、
次第とつかみにくい奴になっていく。
ニュルツルで常に手の中に包んでないと
どこからか逃げだそうとする。
可愛い奴。逃がさないぜ。

No.01117　10.10.27

メモ帳

文房具売り場に行くとたくさんのメモ帳が売られている。
小さいの、大きいの、可愛いの、無骨なの、
シンプルなのといろいろある。
見るたびにどれか買いたくなるのだが、
すでにうちの机の引き出しにはメモがいっぱい眠っている。
これ以上買っても使いようがない。
でも欲しい。どうする？

No.01118　10.10.28

ジョギングシューズ

新しいのを買った。
ずっとクッションのいいものを使っていたが、
それだとどうしても踵で着地するようにしか走れない。
もう 10 年も走り続けているので、
そろそろ若い頃と同じに、踵を上げて走ろうと思う。
そのための底の薄い靴。
それを履くと踵からふくらはぎの筋肉痛がいい。

No.01119　10.10.29

ライオンのうなり声

ケニアのロッジで寝てたとき、近くでライオンがうなった。
ガラス窓が震えたかと思ったが、震えていたのは僕のほう。
息を殺して気配を消す。
下手をしたら自分が食われてしまうと言う恐怖。
翌朝、清々しかった。なぜとはなかなか説明しにくい。
生きていたから？　その経験のため？

No.01120　10.10.30

走る子犬

まだ幼い子犬が走ると、前足と後足がまっすぐ並ばない。
前足は前足で、後足は後足で、
それぞれこちらに向かって走ってくる。
正面から見ると
前足の向こうに胴が斜めになって後足がよく見えるのだ。
この不安定な走り方をする子犬は特に可愛い。
気持ちばかりが先走っているのがよくわかる。

No.01121　10.10.31

イルカのおなか

昔、映画「The Cove」で有名になった
リック・オバリーを訪ねたことがある。
そのときにリハビリしていたイルカの
おなかに触らせてもらった。
背中は鉄板入りのゴム長靴のように硬かったが、
おなかはとてもやわらかい。
表面はツルツルだがちょっと暖かく人のおなかのよう。

No.01122　10.11.01

ジンジャーエール

自分で作ったものは何でも美味しいが、
ジンジャーエルも自家製の物はおいしい。
いろんな作り方があるらしいけど、僕の作り方はとても適当。
生姜を細かく切って水に入れ、砂糖も入れて、
そこにレモンを絞る。
それをコトコトと煮詰めて、冷ましたらそれに炭酸を加える。
なかなかよい。

No.01123　10.11.02

スラックキーギター

ハワイの美術館を巡っていたとき、
スラックキーギターの調べが聞こえてきた。
以前から知ってはいたが、
このときほど魅力的に聞こえたことはなかった。
美術館の職員に問い合わせてその演奏者を聞く
Jeff Peterson だという。
そこに CD が売られていたので買って帰った

No.01124　10.11.03

スラックキーギターその 2

スラックキーギターは普通のギターとチューニングが異なる。
カメハメハ III 世統治の頃、
ハワイに牛が増えすぎてカウボーイを呼ぶ。
彼らがハワイにギターを持ってきた。
しかし、帰ったあと、残されたギターをハワイの人たちは
自分たちなりにチューニングして使うようになる。

No.01125　10.11.04

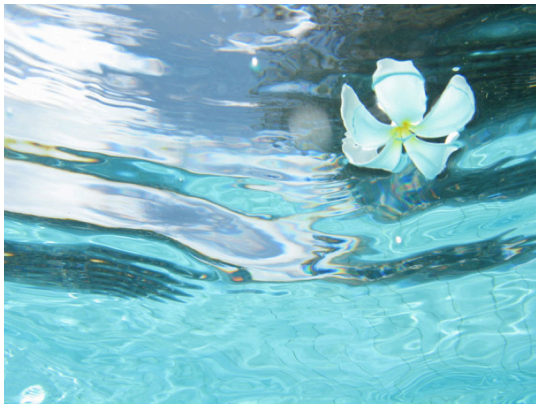
スラックキーギターその 3

だからチューニングの方法はたくさんあり、
ずっと各自の秘密にされていた。
多くのチューニングは
普通のギターのチューニングより低くなっていて、
ゆったりとした音色になる。
ハワイのスラックキーギターの音が
切なく響くのはこのせいだ。

No.01126　10.11.05

プルメリア

この水に浮いている花がプルメリアだ。
その香りに包まれるとうっとりする。
南の島に多く生息する。
見た目も良いし、香りも良いが、
分泌する白色の乳液は有毒だと言うから要注意。
ハワイではよくレイにする。



No.01127　10.11.06

柿

柿がおいしい季節。
父はぐずぐずの柔らかい柿が好きでした。
母はまだ少し硬い柿が好きでした。
この季節になるとよく父と母の喧嘩が始まりました。
母が柿を柔らかくなる前に食べてしまうのです。
父は僕の食べる柿がないと嘆く。
柿を食うための犬も食わない夫婦喧嘩。
仲の良い夫婦でよかったよかった。

No.01128　10.11.07

切ないという言葉は英語にない

ブルータスの特集「切ない気持ち」が話題になった。
友人が「切ない」という言葉は英語にないという。
確かにそうかも。
miss とかが近いかなと思ったが、
欠乏してなくても切なくなることはあるからね。
満たされていても切ない感じ。
幸せの裏側？

No.01129　10.11.08

水上バス

水の上から眺める景色は格別。
多少の揺れ、水に落ちる建物の影、流れていく波、
そんなものが景色のちょっとしたスパイスになる。
水面の揺れは心地よく、水に広がる波紋はなまめかしい。
水際のマジックはそこに秘密がある。
水上バス、快楽との移動。

No.01130　10.11.09

分厚い本

登山家に「なぜ山に登るのか？」と聞くと
帰ってくる答えのように、
分厚い本を読むのが好きな人もきっと
「そこに本があったから」と答えるのではないだろうか？
ただ意味もなく分厚い本はご勘弁願うが、
面白くて分厚い本は読み終わるのが惜しくなる。

No.01131　10.11.10

秋の夕日

秋の夕日は格別だ。
赤や黄に色づいた葉に射す光は深みを増し、
青空を背景に色の魔法を見せてくれる。
葉の色が変わり、夕日の色が変わり、空の色が変わるので、
毎日まったく違う風景が見られる。
夕日という言葉がたったひとつなのはもったいない。
それぞれに違う夕日を表現する言葉が欲しい。

No.01132　10.11.11

アカカ・フォールズ

ハワイ島にある滝をテーマに作られたハワイアンソング。
これを聞くととても切なくなる。
メロディーが美しいのはもちろん、
その響きがなんともまた。。。
ホテルや空港などでもよくかかっているので、
ハワイに行ったことのある人なら、聞けば「ああ」と思うはず。

No.1133　10.11.12

秋のジョギング

ジョギングして気持ちいいのは春と秋。僕は特に秋が好き。
足元に舞う枯葉、涼しくて湿度を含んだ空気、少し白くなる息。
紅葉の中を走ると色のさざめきが気分を高揚させてくれる。

No.01134　10.11.13

喜びを循環させる

うれしくなることや、楽しい話をまわりの人にしてあげると、
それが増幅してさらにまわりに嬉しい話や楽しい話が
循環する。
この喜びの循環がそばに起きているとき、
人は喜びに包まれる。

No.01135　10.11.14

ゴッホ展

ゴッホ展に行こうと思う。
かつて僕が中三のときに、
上野の西洋美術館でゴッホ展があった。
一生忘れられない特別な展覧会だった。
そのときと同じ絵が何点か入っている。
三十何年もの時を経て、同じ絵を目の前にしたとき、
僕は一体何を感じるのだろうか。

No.01136　10.11.15

畑作業

住んでいるマンションの目の前に、小さな畑がある。
小さいのだがとても効率的。

老夫婦が世話する畑に次々と作物ができて、
次々と植え替えられていく。
夕方に農作業の音を聞きながら、
小さな畑を見下ろすのが好き。

No.01137　10.11.16

言葉を選ぶ

「気持ちいいもの」は 1999 年から 1000 の言葉を書き続け、
2010 年 7 月 1 日から新たに言葉を書き続けている。
すべて合計すると現在 1268 ほどになる。
これらから 100 ほどを厳選して iPhone アプリを作成中。
言葉を選んでいるといろんなことを思いだす。

No.01138　10.11.20

鉄腕アトム

かつて鉄腕アトムは僕にとってのヒーローだった。
僕が生まれる前から雑誌に連載され、
二歳の頃にテレビアニメになった。
実際に鉄腕アトムが作られた年を過ぎ(2003.4.7)、
描かれたような世界は到来してないけど、
少しずつ実現しそうな胎動を感じる。

No.01139　10.11.21

祇園祭

京都は七月一ヶ月、まるまるお祭りになる。
宵山には街中でお囃子が聴かれ、
ぶらぶらと歩くだけでわくわくする。
あの大規模なお祭りを毎年やるというのは、
きっとすごい苦労だと思うけど、
もう当たり前になっていて苦労とは思わないのだろうな。
仕事もそんな風にできたらいいのにと思う。

No.01140　10.11.22

考える人

新潮社から出ている季刊誌。
何がいいかというと、文字が多い。
一時期の雑誌は写真ばかりで読むところがなかったりしたが、
この雑誌はほぼ文字に埋め尽くされ、
バランスよく写真やイラストが入っている。
一冊買うと読むべき文章が多いのでしばらく楽しめる。
内容も濃い。

No.01141　10.11.23

森が増える

ネット化が進み、新聞、書籍、雑誌が
端末で読まれるようになると、
紙の消費が減って森が増えるのではないか？
トイレットペーパーもウォシュレットの利用で減れば
さらによい。
紙の使用量が減ると一度安くなり、
そのあとで高価な物になっていくかも。

No.01142　10.11.24

バリ島の森

バリ島の夜、森の中はカエルや虫の大合唱になる。
それぞれにほぼ一定のリズムを刻むので、
少しずつずれていくことでリズムのモアレができる。
そう、まるでケチャだ。
バリ島の人たちは
これを聞いてケチャにしたのではないかと思えてしまう。

No.01143　10.11.25

ひとりのプール

静かなプールでひとりだけが泳いでいるとき、
その波はとても美しい。
波は一定の速度で泳いでいる人から離れていく。
その波のうねる様がとてもセクシーで、うっとりしてしまう。
水のうねりや波の移動はどうしてあんなに美しいのだろう。

No.01144　10.11.26

白い鳩

ハワイには白い鳩がたくさんいる。
ある日テラスでハンバーグを食べていたら、
目の前の椅子の背もたれに白い鳩が留まった。
パンの欠片でももらえると思ったのだろうか。
あっちを見たり、こっちを見たりしていた。
僕はただ黙ってハンバーガーを食べ続けた。
平和な雰囲気のランチだった。

No.01145　10.11.27

カステラ猫

イラストレーターのわたなべふみさんと知り合った。
名刺に URL が書いてあったので見に行ったら
「カステラ猫」という作品に笑ってしまった。
クスッと笑いたい人はご覧下さい。

http://bit.ly/d8Ss07

No.01146　10.11.29

富士山

今朝は東京からも真っ白い富士山がよく見える。
富士山の形はなぜあれだけ美しいのか。
生まれたときから「美しい」と思ってみるから美しいのか。
それとも普遍的な何かを備えているのか。
大きな富士山を毎日見られる人がうらやましい。

No.01147　10.11.30

変化

人はまったく同じことをなかなか長くは続けられない。
同じことをやっているように思えて、
少しの変化を与えるのが大事。
または少しの変化を発見するのが大事。
毎日同じ時間に散歩していた哲学者にある人が聞いた。
「飽きない？」
「同じ時間じゃないとわからない違いが見つけられなくなる」

No.01148　10.12.01

大切にされた物

大切にされた物は、大切にされているオーラを発する。
たとえば鞄でも、
大切に使われた物には雰囲気が備わってくる。
確かに古くはなるのだけれど、
ただ単に古くなっただけではないことが分かる。
僕はそういう物に囲まれていたいので、
持ち物は大切に使いたいと思っている。

No.01149　10.12.02

学ぶこと

世の中の様々なことが急速に変化しているため、
大学まで出れば安泰だという考え方は
まったく機能しなくなっている。
僕たちは楽しく学び続けなければならない。
世界の流れに乗るためには、
自分が流れに乗れるだけの知識を持っていなければならない。
学んだ人は言うだろう。
「あーよかった」

No.01150　10.12.03

写真

パチリとシャッターを切るとき、
その一瞬をいつまでも留めたいと思っている。
それは人の表情であったり、景色であったり、
ある状況であったりする。
フィルムからデジタルになり、写真の保存方法も変わったが、
そこにある思いは変わらない。

No.01151　10.12.04

モロカイ島

昔懐かしいハワイが今も残っている島。
泥んこの道、人のいない浜辺、なだらかな丘。
そして、なにより静寂。
なにもせずに海だけを眺めるにはとてもいい島。
時々クジラが目の前を通っていく。

No.01152　10.12.05

NAHA マラソン

２時間後に、僕は NAHA マラソンを走る。
二年ぶりのマラソン。
完走寸前はとても苦しいが、
走り終わったときの開放感を楽しみにしている。

No.01153　10.12.06

漢字

一文字に含まれる錯綜した意味。
形に潜む解釈の歴史。
絵であり文字であり象徴であり呪いである
一言ではすまない堆積した感情。
もしその真実を紐解くなら心するが良い、
人間の最も根源的で強い考えや祈りが、
解き放たれてしまうことを。

No.01154　10.12.07

色を重ねる

幼い頃、木を描こうとして葉を緑色で塗っていたら
「赤や水色も入れてご覧」と母が言った。
まったく理解ができなかった。
最近色鉛筆で絵を描くとき、
なんとなくいいと感じた色を適当に重ねていく。
それでも全体としては描きたい色になる。
母の言いたかったことがやっとわかった。

No.01155　10.12.08

NAHA マラソン完走

無事完走しました。
参加者が多く、思うスピードでは走れなかったのですが、
沿道の応援も多く楽しかったです。
5 日の書き込みにメッセージを下さったみなさん、
ありがとうございました。

No.01156　10.12.09

首里城

はじめて沖縄本島に滞在したので首里城に行きました。
現在漆の塗り直しをおこなっています。
何層にも塗る手間暇を
あれだけ大きな建造物に施していくのだから大変だ。
南殿の廊下はいい風が通ってとても涼しかった。
石垣も美しかったなぁ。

No.01157　10.12.13

電動歯ブラシ

使い慣れると手放せなくなる電動歯ブラシ。
ゴシゴシとする必要がない。
ただ歯にブラシをあてていれば勝手に綺麗にしてくれる。
しかも非電動歯ブラシで磨くと、
汚れを取るのに丁寧に時間をかけなければならないが、
電動だとあっという間だ。
慣れるとたまに旅行で非電動を使うとき困る。

No.01158　10.12.14

グリーティング

毎年作って友人たちに見せる
グリーティングのスライドショー。
今年はどんなものにするか、考えるのが楽しい。
昨年は作らなかったが、一昨年の物はこちらにある。
http://www.tsunabuchi.com/2008greeting.html

No.01159　10.12.15

セグウェイ

はじめてセグウェイに乗った。
乗っただけで笑みがこぼれる。
だってちょっと傾くだけで進んでいくんだよ。
早く進ませようとして思いっきり前傾したら、
セグウェイがびっくりしてしゃっくりのようになった。
広大な庭があったら一台欲しいなぁ。
公道で走れるようにならないかなぁ。

No.01160　10.12.16

ジャンベ

真ん中を叩くとお腹に響く低い音。
へりを叩くとトリップしそうな高い音。
このふたつの音がジャンベの魔力。
気持ちを大地にアンカーしながら、魂を天空高く持ち上げる。
ひとりで叩いても良いし、合奏しても良いし、
誰かを踊らせるのもとても素敵。
いつか一緒に踊らない？

No.01161　10.12.17

シェア

資本主義に慣らされてしまって、
自分の物をしっかり囲い込んでばかりいるけれど、
実際に気持ちいいのはシェアすること。
分け与えること。
一緒に笑顔になれることほど素敵なことはない。
一緒に幸福になれるほどいいことはない。
誰かが困っているのを無視して、
自分だけ独占しているのってどう？

No.01162　10.12.18

足の回復

マラソンを走って、足が疲労で大変だったけど、
治ってくると、きちんと歩けることがとてもうれしい。
階段を苦もなく下りられるのが楽しい。
飛び跳ねることがハッピー。
走って数日は確かに足が痛いけど、治ったときの喜びが素敵。
踊り出したくなるよ。

No.01163　10.12.19

ルイ・アームストロングの音楽

あの声もトランペットの音も、とても楽しげに聞こえる。
悲しげな曲でもどこかユーモアが漂い、
悲しいだけの曲ではなくなる。
少年院でコルネットと出合い、
人種差別を受けながらヒットを飛ばす。
あの雰囲気が人生を切り開いていったのだろうな。

No.01164　10.12.20

クリスマス・イルミネーション

細かな明かりがさざめくように灯っているのって、
なぜあんなに美しく感じるのだろう？
太古の昔から星空を眺めて、
その広大さに震えていた眠れる思いが甦るのだろうか？
それとも、生まれてこの方ずっと
ああいう光が美しいと教えられた結果なのだろうか？

No.01165　10.12.21

パラダイム・チェンジ

パラダイムの変化はいつの間にか起きている。
地球環境への興味も、
スピリチュアリティに対しての人の意識も、
気づくといつの間にか変わっている。
これからはいろんなレベルでの変化が波状に起こるため、
変化の境目がいままで以上に不明確になるだろう。
それでいいのだと思う。

No.01166　10.12.22

オメガポイント

オメガポイントが近づきつつある。
それは多くの人が奪うより与えることに価値を見出す日。
テイヤール・ド・シャルダンが
すべての人がキリスト者になる日と定義した。
それはキリスト教に改宗することではなく、
惜しみなく与えることに価値を見出す日。
非暴力にコミットする日。

No.01167　10.12.23

可能性を作る

どんな時でも可能性を手にしていることが大切。
どんなに苦境に立っても、必ず可能性は作ることができる。
可能性は言葉の中にしかない。
つまり、いつでも作り出すことができる。
革命でさえも、誰かの言葉が最初のきっかけになる。
あきらめる前に可能性の言葉を生み出せ。

No.01168　10.12.24

クリスマス・イブ

たったひとりの男が、
2000 年以上にわたる可能性の会話を生み出している。
そのことの凄さを思い出す日。
その可能性をすべての人が共有していることを確かめる日。
あなたの言葉が誰かの心に火をつける。
その素晴らしさを絶やしてはいけない。

No.01169　10.12.25

感謝

日本人は感謝することはあっても、
なかなか感謝を受けとらない。
それは自分のしたことが
大いなる存在の慈悲に較べればたいしたことではないことを
知っているから。
感謝する人と感謝される人が大いなる存在につながり、
その慈悲の中で一緒に生かされていることを
確認する儀式だから。

No.01170　10.12.26

一緒にいること

人は孤独を求める一方で、一緒にいることを強く求める。
仲良くなった人とはいつの間にか言動が似てくる。
そして、同じようなことをして苦笑いする。
自然と行動が似てくるとき、一緒にいる人は仲間になる。
規範は自然と生まれ、誰もそれを乱そうとはしない。
その壊れやすい状態が素敵。

No.01171　10.12.27

美しいもの

美しいものは壊れやすい。
もし絶対壊れない美しい物ができたら、
時とともにその美しさは損なわれていく。
美しいものは確固たる物ではなく、
とてももろいために美しいのだ。
変化にさらされてその時々に美しい物は、
その変化の中に美しさを生み出している。

No.01172　10.12.28

大掃除

年末にしっかりと大掃除ができるととても気持ちが良い。
毎日少しずつでもしっかりと掃除していれば、
あまり大袈裟な大掃除は必要ないのかもしれないが、
あいにく僕の部屋は大掃除を必要とする。
普段掃除しないところを丁寧に掃いたり磨いたりするのは
充実した時間となる。

No.01173　10.12.29

漫画喫茶

はじめて漫画喫茶を使ってる。
この書き込みは漫画喫茶から書いている。
ＰＣが故障してしまった。
ＰＣがないといろいろとお手上げだ。
漫画喫茶は思っていたよりきれいで使いやすい。
修理が済むまで何度か利用することになりそうだ。

No.01174　10.12.30

古いＰＣ

ほぼ１０年ほど前のＰＣをネットにつなぐ。
あのころのＰＣでは見ることのできないサイトが
たくさんあることに気づいた。
今でもきちんと作動するのに見られないというのは悔しい。
たった１０年で使えなくなるのは問題だと思う。
ＰＣも使い込むことで味が出る道具になればいいのに。

No.01175　10.12.31

大晦日

今年は今日が最後。
『気持ちいいもの』を読んでいただき
ありがとうございました。
どんなことも最後というのは感慨深い。
いままでいろんなことを終えてきたけど、
それぞれがもう戻らない。
明日からの一年も戻らないことを肝に銘じて過ごしていこう。

No.01176　11.01.01

新年

神道では清められていることがもっとも大切なことだという。
元旦はすべてを清めるとき。
去年の埃はしっかり払い、
ピッカピカの気持ちで行きましょう。
あけましておめでとうございます。
今年もよろしくお願いいたします。

No.01177　11.01.02

三が日

三が日の静けさが好きだった。
それを求めてバリ島のニュピに行った。
ニュピはバリ島全島が静寂に包まれる再生の日。
毎年何かが死に絶え、何かが再生する。
その考え方はかつての日本にもあっただろう。
静かに自分の心に向き合い、
埃をかぶって見難くなった真の心に
出会えるように過ごしたい。

No.01178　11.01.03

母の誕生日

今日は母さんの誕生日。
亡くなってもう六年が経つ。
僕のことを生んでくれてありがとう。
おかげさまで山あり谷あり、
生きがいのある人生を歩んでいます。
母さんが教えてくれたいろんなことを携えながら。

No.01179　11.01.04

気持ちが大切

人間にとって気持ちはとても大切。
同じことをするのでも、気持ちの持ちようで意味が変わる。
他人は気持ちを見ることができないから、
容易にだますことができるように思うかもしれないが、
自分の気持ちはだますことができない。
他人をだますうちに本当の自分を見失うことのないように。

No.01180　11.01.05

表と裏

母はいけばなをしていたので、
花の表と裏というものを習った。
花にもいろいろとあり、正面に据えて美しい花と、
脇に置いて美しい花があるという。
それらを見極めることが大切。
どんな花もまったく一緒ではない。
適材適所に置くことが花を活ける人の腕の見せ所。

No.01181　11.01.06

表情

写真が好きでよく撮るが、
人の表情を撮る時は連射でたくさん撮る。
そのなかからいい表情のものを選ぶのが大事。
プロのカメラマンは山のように写真を撮り、
そのなかからベストショットを選ぶ。
素敵な表情を捉えられたとき、とてもうれしい。
美は人の生きがいになる。

No.01182　11.01.07

パーカーのボールペン

パーカーのボールペンはとても長持ち。
38 年前に買ったボールペンが机の奥から出てきたが、
まだ使える。
コンピューターも同じものが
40 年くらい使えるようにならないかな。
そうなってはじめていっちょまえの道具だと認めてあげよう。

No.01183　11.01.08

MacBookAir

いままで使っていた iMac が
クラッシュしてしまったために MacBookAir を買った。
六年前の iMac より高性能なのにたった 1kg で
厚さは 3mm から 1.7cm。
この調子で進歩していくと、
あと 20 年後にはコンピューターはどうなっているんだろう。

No.01184　11.01.09

大広間

かつて田舎には、ふすまで仕切った大きな部屋があった。
普段は三分割して部屋三つとして使うのだが、
親戚などが集まるとふすまをはずして大広間にする。
広い部屋にたくさんの親戚が集まるのはうれしいものだった。

No.01185　11.01.10

楽譜用ペン

せっせとブラスバンド用の編曲をしていた頃、
楽譜用のペンを使っていた。
ペン先が平たくて、ある方向に線を引くと細くなり、
それと 90 度違う方向に引くと太くなる。
太い線でオタマジャクシの頭を描き、
しっぽは 90 度ずらして書く。
それで文字を書くと面白い字になった。

No.01186　11.01.11

タオルの袋

MacBookAir のいいケースがないか探したが、
普通には売ってない。
PC 用のケースだと少し大きい。
せっかく小さいのにケースが大きくては
スペースを取ってしまってもったいない。
そこで探し当てたのが旅行用のタオル袋。
ちょうど MBA がすっぽり入る。入れた状態が可愛くていい。

No.01187　11.01.12

HomeERECTA

台所の収納が足りないと言われ、
東急ハンズで HomeERECTA のキットを買って組み立てた。
組み立ては簡単。
置く場所に困っていたものがきれいに納められ相方も満足。
台所が広くなり料理がさらに楽しくなった。

No.01188　11.01.13

『名草戸畔　古代紀国の女王伝説』

なかひらまいさんの最新作を読んだ。
よくあれだけ調べたし、
偶然にしては出来過ぎの不思議な展開に驚かされる。
ルバング島の小野田さんに出会ったり、
たまたま会ったおじさんが謎を解く鍵になったり。
面白い。

No.01189　11.01.14

食事会

月に一度、食事会を開催している。
いろんな分野の人が集まって、いろんな話を互いにし合う。
分野の違う人とリラックスした雰囲気の中で話をするのは
とても大切で貴重な経験。
2003 年からやっている。
参加した延べ人数は 500 名くらいになったか。
参加してくれた皆さんありがとうございます。

No.01190　11.01.15

図書館の閲覧室

見事に静寂を保たれた図書館の閲覧室は、
いるだけで気持ちがいい。
たくさんの人たちが「静かにする」という
暗黙の約束を守っている。
まわりがそうしていると自分も自然とそうなるので、
集中して本を読んだり原稿を書くのにとても快適。

No.01191　11.01.16

apple のキーボード

最近の apple のキーボードは、ストロークが短く、
叩いても静かで、図書室や喫茶店で使っても気にならない。
以前のキーボードはカチャカチャと音がうるさかったが、
それがなくなり静かな場所でも使えるのがいい。

No.01192　11.01.17

ほこりが落ちる

古本や、長い間保管されていた本は、
表面がうっすら埃で覆われていて、触るとザラザラする。
そういう本でも持ち歩き、
読んでいるうちにそのザラザラは失われ、
本来の手触りになっていく。
その経過が好き。
うちにはたくさんの古本があるので、
好きにならないと実はどうしようもない。

No.01193　11.01.18

ひさしぶりに聞く曲

ひさしぶりに聞く曲にはいろんな思い出が詰まっている。
これを聞きながらあんなことしたなとか、
こんなところに行ったなとか。
最近 iTune を使っていろんな曲をシャッフルしているので、
ひさしぶりに聞くなと思う曲にあたらない。
わざとしばらく聞かない曲を作るかな。

No.01194　11.01.19

朝の掃除

去年末に大掃除をして以来、
朝起きたら毎日掃除をするようになった。
毎日掃除しているとさすがにきれいで気持ちいい。
きっと来年の大掃除は楽だろう。
窓を大きく開け放つので、空気が入れ替わってとてもいい。

No.01195　11.01.20

タイムマシン

マックの OSX に入っているタイムマシンは
単なるバックアップとはちょっと違う。
本当に時間をさかのぼったかのようなバックアップ方式と、
その際の画面のビジュアルが凝っていていい。
なんたって画面が下に落ちていって
宇宙空間が現れてくるんだもの。

No.01196　11.01.21

ハイタッチ

仲のいい人とするハイタッチ。
なぜか気分がウキウキする。
ただ手を挙げて叩き合うだけだよ。
その状態になる寸前の出来事が大切なんだな。
ひさしぶりに思わぬところで仲良しに出会ったり、
ワールドカップで日本が勝ったり、
「やった！」と思える出来事に共感していることが (^_^)b

No.01197　11.01.22

生野菜にバーニャカウダ

生野菜にバーニャカウダをディップして食べるのが好き。
子供の頃は野菜だけ食べるのが好きではなかったが、
大人になったら好きになった。
ポリポリと野菜の噛み心地を楽しみ、
しょっぱいバーニャカウダと口の中で混ざっていく味は
目尻が下がる。
茹でた野菜もいいよな。

No.01198　11.01.23

桁がいっぱい

しばらく覗いていなかった預金通帳に
いつの間にかお金が貯まり、
桁がいっぱいあるととてもうれしい。
なんでもできるような気がしてくる。
妄想がいっぱい湧いてくる。
油断していると一気になくなるので注意、注意。

No.01199　11.01.24

検索

Google に続き、
ついに yahoo でも「ワークショップ」と検索すると、
上位五位以内に「東京ワークショップ」が
掲載されるようになった。
サイトをはじめたころは「ワークショップ」と検索しても
どこにも表示されなかったが、
六年ちょっとの我慢でほぼトップに表示されるようになった。
万歳。

No.01200　11.01.25

レンガ本

ページ数のとても多い本をレンガ本というが、
うちにも何冊かある。
たとえばアラスター・グレイの『ラナーク』、
エリッヒ・ヤンツの『自己組織化する宇宙』や
ケン・ウィルバーの『進化の構造』もそうだな。
最近買ったのはジェリー・ロペスの『SURF』。
その世界が堪能できていいんだよ。

No.01201　11.01.26

ベンチャーズ

海辺でベンチャーズを聞くのって、
とてもありがちでダサく感じる一方で、
とてもはまって気持ちよくも感じる。
このダサい感じとフィット感の狭間を縫っている感じが
とてもいい。
日本の楽曲をやっているのを聞くと
ダサイ方向にグッと傾き、笑い出したくなる。

No.01202　11.01.27

アパッチ

昨日のベンチャーズで思い出した事。
中学生の頃はじめて買ってもらったラジカセに、
はじめて録音した曲がベンチャーズの『アパッチ』だった。
アパッチ族が矢を放ってやってきそうな曲だった。
四半世紀も前のこのどうでもいいようなことを
覚えているってのは、なんだかうれしいぞ。

No.01203　11.01.28

記憶の妙

幼い頃の、なぜそんなことを覚えているのかも
わからないような些細な記憶は、
丁寧に思い出すとなぜかうれしくなってくる。
どうしようもなく些細でなぜ覚えているのかわからないが、
きっと自分にとっては大切な事だったのだろう。
僕という存在が記憶の堆積でできていることを感じるとき。

No.01204　11.01.29

音楽と成熟

幼い頃、聞いた事のある曲を聴くのがうれしかった。
青年になると好きなアーティストの曲を
聴くのがうれしかった。
大人になると聞いた事のない曲を聴くのが楽しみになった。
人生の半ばを過ぎると、どんな曲も愛しくなる。

No.01205　11.01.30

SURF is where you find it

ジェリー・ロペスの本を読んでいる。
毎日ちょっとずつ。
読んでいてとても爽快。
ハワイの雰囲気を思い出す。
好きなことをし続けている人の文章は喜びにあふれている。
その雫をちょっとずつ分けてもらっている。
読み終えるのがもったいない。

No.01206　11.01.31

村上春樹

大学の同級生が学食で夢中になって読んでいた。
あまりにもうれしそうに読んでいるので僕も読んだ。
彼には煙草の味も教わった。
あれから 30 年。
当時はなぜその作品が面白いのかよくわからなかった。
雰囲気がいいとしか言えなかった。
それが世界的な作家になった。
なるほど、と思う。

No.01207　11.02.01

ダンス

ダンスは律動。
シンクロした動きがときめきをもたらす。
赤ちゃんが音楽を聴くと踊るように、
それは僕たちのからだに刻み込まれている。
太古からの記憶は時に応じて呼び出される。
低く響く定期的な拍と高い音の規則的なリズムが
その時をもたらす。
男と女の営みのように。

No.01208　11.02.02

マラソン

はじめてマラソンを走ったとき、とても感激した。
自分の体をやっと使ってあげられたと思った。
メンテナンスをしていれば、
本当はもっとよく機能しただろうに、それをしていなかった。
若いうちからしてあげていれば良かったと思った。
もうそれは叶わないけど、今からできることを続けていく。

No.01209　11.02.03

節分

節分の起源は諸説あるけど、
千年近く続いている理由はもうはじめの意図とは
違っているだろう。
なぜかくも長く続けられたのか、
それはあの非日常体験が楽しいからだと思う。
幼い頃に母が豆を買ってきて毎年まいた。
なぜ豆をまくかという理由より、

その楽しさを覚えている。だから続くのだろう。

No.01210　11.02.04

ノルウェイの森

村上春樹が最新刊『雑文集』に
『ノルウェイの森』について書いている。
中学生の頃聞いていたビートルズのアルバムの訳には
「ノルウェイ製の家具」と書かれていたので、
村上春樹がわざと「森」と誤訳して、
不思議な雰囲気を出したのだと思っていた。
ところが・・・。さすがレノン。

No.01211　11.02.05

春節

中国の人がみんな旅行するとき。
30 年ほど前中国を旅行したとき、
中国の人たちに言われたのは
「私たちは外国に行けない。あなたにはもう二度と会えない」
ということ。
何度も言われた。
最近では自由に旅行ができると聞いてとてもうれしい。
あのとき会った人たちも旅行しているかな。

No.01212　11.02.06

朝の掃除

去年末に大掃除をして以来、毎朝掃除をするようになった。
毎日 20 分掃除機をかけ、二日に一度は雑巾がけをする。
床がピカピカ、ほこりがない。とてもいい。
なんでいままでしなかったんだろう。
掃除とは関係ないこともクリアになってきている。

No.01213　11.02.07

虹

そういえば、最近虹を見ていないなと思う。
虹は見たいと思って見られるものではないけど、
空を見ていないと絶対に見られない。
最近、空を見ていなかったのかも。
見ようと思う。
それから、虹の出やすい場所にも行ってない。
ハワイとか。
冬にハワイに行くと虹がたくさん見られるんだよね。

No.01214　11.02.08

波

波は船乗りにとってはやっかいなものだ。特に大きな波は。
しかし、サーファーにとって大きな波は
何よりもうれしいものだ。
ある人にとって喜ばしいものが、
ある人にとってやっかいなものとなる。
世界はそうやってできているんだよなぁと思う。
白ウサギを乗せた大きな波を見たい。

No.01215　11.02.09

リモコン

昔、テレビのチャンネルはガチャガチャとまわすものだった。
寝転がって足の指でチャンネルを回したのも遠い昔。
最近はなんでもリモコンがあって便利。
テレビはもちろん、エアコン、照明、 パソコン、カメラ、
ステレオなど。
たくさんのリモコンがあって時々間違える。
笑いを提供してくれる。

No.01216　11.02.10

反復

繰り返しおこなうことを聖なることと考えるか、
呪われたことと考えるかで、人生の意味は反転する。
毎日の食事がうれしいと感じるか、
毎日食べるなんて馬鹿みたいと感じるかで、
人生の質が変化するだろうことを思えば、
その言葉に納得するはず。

No.01217　11.02.11

裸足で掃除

朝の掃除は裸足でする。
足の裏が床の異物を感じてくれるから。
寒い日は、窓を開けて掃除するのが嫌だなと感じるが、
実際にやってみると寒さは
いつの間にかどこかに行ってしまう。
からだを動かして芯が暖まれば、手足は多少冷たくても平気。

No.01218　11.02.12

加湿器

このところ乾燥しているので、朝起きるとのどが痛いし、
肌が乾いていることがあった。
ひさしぶりに加湿器を持ち出して昼間はずっとつけている。

若い頃はあまり気にならなかったが、
肌のカサカサが年を取って身にしみるようになってきている。
加湿器のありがたさがわかるようになってきた。

No.01219　11.02.13

遊び

「猫」以外の文字があります。どれでしょう。 猫猫猫

No.01228　11.02.22

いたずら

いたずらをされたら、次は必ずする側になろう。

No.01229　11.02.23

鮭の切り身

幼い頃、鮭の切り身が、
鮭のどの部分なのかよくわからなかった。
鮭の切り身が鮭の形をしていないことは理解できたが、
あの普通の魚の形をした鮭が、
どうしてこんな形になっているのか、理解できなかった。
リクナビのマークのような切り身を見ると、
その頃の感覚を思い出す。

No.01230　11.02.24

気持ちいいものとそうでないもの

気持ちいいものとそうでないものの境界は何だろう?
たくさんの気持ちいいものを書いていると、
その境界が曖昧になってくる。
気持ちいいと言えば気持ちいいが、
そうでもないだろうと言えば
すぐにそうでもないものになってしまう。
これが僕の境界問題。

No.01231　11.02.24

グーグルのトップページ

ある言葉で検索すると
僕のサイトがトップページに載っている。
たとえば「水のきらめき」。僕の Blog のタイトルだ。
それから「ワークショップ」と引くと「Tokyo Workshop」が
五位くらいに表示される。
うれしいなぁ。コツを守ると誰でもできる。

No.01232　11.02.25

ミシン

母が使っていたミシンがうちにある。
どうしても捨てられない。
母はこれでたくさんの服を作った。
足踏み式でカタカタと音がする。
うんと古いミシンが
アンティークショップに飾られていたりするけど、
この中途半端に古いミシンは飾る訳にはいかないだろう。
僕にとってだけ大切なものだ。

No.01233　11.02.26

柱時計

幼い頃、居間にゼンマイ式の柱時計があった。
振り子があり、コッコッと時を刻んでいた。
定時には鐘が鳴った。
夜中もきっと鳴っていたんだろう。
よく覚えていない。
その部屋では寝なかったから。
たとえ寝ていても幼い僕は気がつかなかっただろう。
コッコッという音が催眠効果をもたらしていた。

No.01234　11.02.27

薪ストーブ

パチパチとはぜる音を聞きながら、薪ストーブにあたる。
薪に火をつけるコツを教わり、火がついたときのうれしさ。
そののちの暖かさ。薪ストーブの暖かさはエアコンとは違う。
電熱ストーブとも違う。
もちろん灯油ストーブとも違う。
芯から暖まるような熱を発する。

No.01235　11.02.28

御蔵島のふれあい広場

御蔵島のふれあい広場から夕日が沈むのが眺められる。
水平線の向こうに夕日が沈んでいく。
かつてここからきれいな日没を見た。
島の周りに生息するイルカが楽しそうにジャンプしていた。
夜になればカツオドリが沖から帰ってきた。

Twitter 版　No.01236　11.03.01

太陽のにおい

布団や洗濯物を干したとき、十分に日に当てると、
太陽のにおいがすることがある。
実際に太陽のにおいがつく訳ではないだろうけど、
いったいあのにおいはどこから来るのだろうか。
子供の頃、そのにおいのする布団で寝るのが好きだった。
洗濯物の山には頭から突っ込んでいったりした。

2011 年 3 月 1 日から、まぐまぐを利用して『日刊　気持ちいいもの』の試験運転を始めた。その内容は Twitter と重複するが、3 月 1 日だけは異なるタイトルで別のことを書いていた。通し番号のほかに、まぐまぐ版の発表時には正式オープンの際に 2001 番から始めた。準備号は 1991 番からだった。(　)内がその番号。

まぐまぐ版　No.01237　(No.01991)　11.03.01

ごぶさたしてます

この度、「日刊　気持ちいいもの」を
復刊させることにいたしました。
2004 年以来なのでほぼ 7 年ぶりです。
ぜひご購読下さい。
10 回ほど試験運転をし、
2001 回から正式オープンといたします。

Twitter 版　No.01237　11.03.02

気持ちいいもの

気持ちいいものを書き続けると力が湧いてくる。
気持ちいいものを思い出すことで
生きていることの有り難さがはっきりとしてくる。
気持ちいいものは 3 月 11 日からまぐまぐにお引っ越しします。
いままで読んでいただきありがとうございました。

まぐまぐ版　No.01238　(No.01992)　11.03.02

気持ちいいもの

ずっとここに気持ちいいものを書いてきた。
７年ほど休んで気づいたこと。

書き続けたほうがいい。

気持ちいいものを書き続けると
自分に力が湧いてくる。
気持ちいいものを思い出すことで
いま生きていることの有り難さが
はっきりとしてくる。
あれから 7 歳年を取った。
だからこそ、再び。

Twitter 版　No.01238　11.03.03

Twitter

推敲して短くするので文章の勉強にはとてもよかった。
でも、長く書きたいときは困ってしまった。
何回かに分けて書いたこともある。
これからはまぐまぐでのびのびと好きなだけ書いていく。
3/11 から。いままで読んでくれてありがとう。

まぐまぐ版　No.01239　(No.01993)　11.03.03

twitter

一年弱、twitter で「気持ちいいもの」を発行した。
ひさしぶりの発行で気持ちよかった。
でも、140 字以内なので書き足りないことがよくあった。
推敲して短くするので文章の勉強にはとてもよかった。
でも、長く書きたいときは困ってしまった。
何回かに分けて書いたこともある。
これからはまぐまぐでのびのびと好きなだけ書いていく。

ここからはまぐまぐ版のみの掲載とする。
(　)内の数字は発表当時のナンバー。

No.01240　(No.01994)　11.03.04

繰り返し

1000 回以上も「気持ちいいもの」を書いていると
同じタイトルの文章を書くかもしれない。
かつては過去の文章を調べて
重複しないようにしていたけど、
これから数千回、数万回と書いていくとなると
完全に重複しない状態にするのは無理がある。
力を抜いて繰り返される文章も楽しむつもり。
ほら、年老いたおじいちゃんやおばあちゃんが
しょっちゅう同じ話をするようなもの。
そうそう繰り返しはしないけど、目立つようになってきたら
僕も年を取ってきたと言うこと。

No.01241　(No.01995)　11.03.05

冒険野郎

冒険をしている人はとても素敵だ。
生きている充実感を味わっている。
栗城史多さんが有名になった。
応援している人はたくさんいるだろう。
はあはあ言いながら山を登っていく姿には
感動させられる。
次に有名になりそうなのは荻田泰永さん。
荻田さんは北極点無補給単独徒歩横断を目指している。
来年の実施を目指しているが、
現在、北極に準備のために行っている。
カナダの北極圏を歩いている。
予定通りであれば、今日、カナダのレゾリュートに到着する。
７日にビーチェイ島に向けて出発。
そこにはフランクリン隊三名の墓がある。
そして再びレゾリュートに戻り、
長い時間をかけてジョアヘブンへ向かう。
それは 129 名全員が行方を断った

フランクリン探検隊のルートだそうだ。
準備といえども命がけである。
がんばれ。
そして、帰ってこい。

No.01242 (No.01996) 11.03.06

混乱から感動へ

日本は現在社会的混乱の中にいると言われている。
そのなかで、未来市場創造会を友人たちと立ち上げた。
次回のゲスト講師は日本政策投資銀行の鍋山徹さん。
先日打ち合わせのためにお目にかかった。
鍋山さんによれば、現在日本は次のステージに上がるための
準備をしているという。
いままでは利益のために働いてきたが、これからは
感動のために働くようになるだろうという。

No.01243 (No.01997) 11.03.07

鬱への処方箋

大手企業の人事部長をしているＫさんから
鬱に対する処方箋を教えてもらった。
1.ダウンシフトする
2.自分とつながる
3.人とつながる
4.自然とつながる
5.本当にしたいことを見つける
それぞれの項目は次回から説明するね。

No.01243 (No.01998) 11.03.08

ダウンシフトする

この世の中、なんでも能率重視、早い作業が求められ、
効率重視、少ない作業で大きな利益を求められる。
ＩＴがあればなんでも可能とやっていても、
人間の作業はそれにはなかなか追いつけない。
それでも無理するから人は壊れる。
そうなったときダウンシフト。
自分ができる作業を確実にするテンポを身につける。
それができる環境へ移行する。
これが参考書として最適。
『減速して生きる～ダウンシフターズ』

No.01244 (No.01999) 11.03.09

自分とつながる

自分とはもうすでにつながっている。
多くの人はそう思うだろう。
だけど一度立ち止まってゆっくり考えて欲しい。
本当に自分はしたいことをしているのか。
自分の人生を生きていると言えるのか。
夢についての様々なことを受け入れているのか。

たとえしたいことをしていなくても、
自分の人生を生きていないと思っていても、
夢の様々を受け入れられないとしても、
それをきちんと把握しているならＯＫ。
わたしは私とつながっている。

No.01244 (No.02000) 11.03.10

正式オープン

明日、『日刊　気持ちいいもの』は正式にオープンいたします。
読者の皆さん、おひさしぶり。
twitter 版からいらした皆さん、お手数かけてすみません。
これから毎日「気持ちいいもの」をつぶやいていきます。
よろしくね。

No.01245 (No.02001) 11.03.11

祝・正式オープン

『日刊　気持ちいいもの』は
今日から正式にオープンいたします。
読者のみなさん、おひさしぶり。
登録したばかりのみなさん、これからよろしく。
毎朝七時、気持ちいいものをお届けいたします。

生きていること

生きていることは何よりも気持ちいいこと。
もし生きていなかったら気持ちいいも、気持ち悪いもない。
「愛する」の反対が「憎む」ではなく、
「無関心」とマザーテレサは言った。
「気持ちいい」の反対が「無感覚」としたら
感覚を持てる「生きている」状態はどれほど素敵なことだろう。
生きている限り、気持ちいいことを感じていこう。

No.01246 (No.02002) 11.03.12

ひととつながる

ひととつながるコツは自分の価値を知っていること。
そしてその価値を伝えること。
相手がその価値を認知すればそのひととは切れることがない。
自分の価値がわからないうちにむやみやたらと

「自分の価値のようなもの」を伝えようとする人は
五月蠅いと思われる。

No.01247 (No.02003) 11.03.13

自然とつながる

自然とつながるために
アフリカやグレートバリアリーフに行く必要はない。
ベランダの鉢植えを愛することができれば十分。
雨の音を楽しめれば十分。
風の歌を聴ければ十分。
そのうえで行きたいところに行き、会いたい動物に会い、
見たい景色に出会えればさらによし。

No.01248 (No.02004) 11.03.14

本当にしたいことを見つける

本当にしたいこととはなにか？
腹の減ったときに飯を食うこと。
気になる人と仲良くなること。
排泄したいときにトイレに行くこと。
それ以外のしたいことは好きにやればいい。
見つけなければわからないような「したいこと」なんて
たいしたことではない。

No.01249 (No.02005) 11.03.15

Pray for Japan

世界中が日本のために祈ってくれている。
いろんな人が祈りのための写真を集め、
We love Japan と叫んでいる。
へこたれる訳にはいかない。
世界中の祈りを受けて、私たちは目を覚ます。
これだけたくさんの人が心をひとつにして祈ったことが
いままでにあっただろうか？
私たちは立ち上がらなければならない。
再び、素晴らしい日本を体現するために。
世界の理想となるために。

被災者の皆様にお見舞いを申し上げます。
このたびの東北地方太平洋沖地震に被災した皆様に
お見舞いを申し上げます。
この危機に際し、私たちは気持をひとつにし、
困難を乗り越えていくことを心に決めております。
もしそうでなければ、略奪がおこなわれたり、
暴行事件が起きたりしたことでしょう。
計画停電もうまく行かず、もっと混乱したはずです。
しかし、私たちは冷静に対処しています。
私たちは被災者の皆さんのそばには行けませんが、
皆さんの気持ちがいかほどかと心配し、
力になれることは何かないかと考えています。
一緒にこの困難な時期を乗り越えましょう。
いつか心からの笑顔を取り戻せるよう働いていきましょう。

No.01250 (No.02006) 11.03.16

キャンドルで夕食

テレビもラジオも消して今日はキャンドルで夕食。
柔らかな灯りが僕らを照らす。
拡声された音は今夜はお休み。
外はいつもより静かな夜。
大切なものを大切なまま感じましょう。

No.01251 (No.02007) 11.03.17

影響されること

人は皆、誰かの影響を受ける。
影響を受けない人は、人になれない。

No.01252 (No.02008) 11.03.18

階段を登る

普段はエレベーターであがるところを
いまは階段で上がっている。
自分の体重を感じながら、
自分の足の力を鍛えながら、
自分の上がりたいところまで上がっていく幸せ。

No.01253 (No.02009) 11.03.19

暖房を止める

地震が起きて一週間、
節電のためと暖房を切っている。
寒いけど着込めば十分やっていける。
厚めの上着を着て、腰には毛布を巻いている。
いままでかなり無駄をしていたんだなぁ。
電気代がどのくらい違うのか楽しみ。
電気が必要な人に届きますように。

No.01254 (No.02010) 11.03.20

Japanese Heros

福島原発のまわりで作業している東電の社員と
自衛隊、警察、消防庁のみなさんは

かなりの放射線を浴びているはず。
命をかけて働いてくださっている。
とてもありがたい。
日本はなんとしてでも復興しなければならない。

No.01255 (No.02011) 11.03.21

日本でニュピ

バリ島にはニュピというお祭りがある。
その日、バリ島のすべての人は外出せず家に籠もる。
そして、火や電気を一切使わない。
心の火も鎮めて、自分の心の内側と向き合う。
日本での計画停電は自分の心と向き合うための
いいチャンスかもしれない。

No.01256 (No.02012) 11.03.22

インターネット

日本人はあっという間に計画停電に対応している。
驚くべきことだ。
それを可能にしたのはインターネットの存在。
テレビやラジオ、新聞・雑誌も大切だけど、
マスメディアだけでは
これだけ速やかに対応することはできなかっただろう。
インターネットの存在に感謝。
インターネットを運用し、
そこに書き込んで下さるたくさんの人に
感謝。

No.01257 (No.02013) 11.03.23

小さなことでもできることをする

節電が大切なのははっきりしている。
できる節電が何かを意識して実行しよう。
義捐金を払うのも大切だが、身近の生活を守ることも大切。
東北を支えるために日常を大切にしよう。
twitter のつぶやきが役に立つなら
価値のある情報を見つけてつぶやいてあげよう。
困っている人や落ち着かない人の
話を聞いてあげることも大切なこと。
時々は笑える気持の余裕も素敵。
いま自分ができることをしていこう。

No.01258 (No.02014 11.03.24

晴れ語

現在発売中の『全開運！しあわせ』という雑誌に
開運カウンセラー紅龍さんの「晴れ語」についての記事がある。
晴れ語とは、幸運を引き寄せるための言葉。
ついネガティブになってしまいそうな現実があるが
それをさらりと回避する言葉だ。
ネガティブなことを言ってしまったとき、
その言葉に続けて「～と思いましたが」と言い
晴れ語に変換する。
たとば、「私はいつも役立たず」と思ったときに、
すぐに「と思いましたが」と続けて、
「次にうまくやるためのレッスン完了」などと言うのです。
あなたの晴れ語はどんな言葉？

No.01259 (No.02015) 11.03.25

飲み会

日常のいろんな鬱憤を抱えて仲間たちと一緒に酒を飲む。
愚痴を言い、文句を言い、できないことを悲しみ、
それらを一挙に笑い飛ばす。
愚痴や文句や悲しみはいつの間にか可能性に変換される。

No.01260 (No.02016) 11.03.26

陰影礼賛

このところ街中はちょっと暗い。
節電のためにすべての灯りをつけはしない。
この微妙な暗さがなんともいい。
ちょっと人恋しくなるような、
ふと昔を思い出したくなるような、
それでいて懐かしい匂いを感じるような、
都会のあるべき姿を見ているような、
そんな感じがふと浮かぶ。
原子力発電はもうやめて、
本当の温もりのある街角を復活させよう。
陰影の中に、真実を見つけよう。

No.01261 (No.02017) 11.03.27

チョコレート

チョコレートのかたまりをひとつ、口に含む。
舌にのせた冷たいチョコが時間とともに暖まり
口の中に溶けていく。
甘さが広がる頃には笑顔になり
香りとともにその滑らかさを舌で楽しむ。

No.01262 (No.02018) 11.03.28

グリーン経済

いつの時代にもその時代ごとの夢がある。
グリーン経済の確立は現代の大きな夢だろう。
少し前まではクリーンなエネルギーということで
グリーン経済に原発が
組み込まれるかもしれないと思われていたが、
東北地方太平洋沖地震のおかげで
それはもうなくなるだろう。
人間は間違いを繰り返すことで学んでいく。
グリーン経済もきっと完璧な案ではないだろう。
しかし、いままでの歴史を生かした上での
最善の案だとしたら、試してみる価値はあるだろう。
トライ・アンド・エラーを繰り返しながら
一番いい経済の形が生まれればいい。
http://bit.ly/HBiOp

No.01263 (No.02019) 11.03.29

iPhone アプリ

「日刊　気持いいもの」の
iPhone アプリを作ることが決まった。
先日アプリの案についての打ち合わせをしたが、
誠に気持いいものになりそうだ。
こんなアプリ、見たことない。
まずはデモ版を作成してもらい、
使い心地を確かめてから本制作に入る。
もう、とっても楽しみ！

No.01264 (No.02020) 11.03.30

商店街

どこの街にでもあるような普通の商店街が好きだ。
幼い頃は毎日のように近所の商店街に母と行き
その日の夕食のための買い物をした。
顔なじみの威勢の良いお兄さんから
活きのいい魚や新鮮な野菜を買う。
買い物カゴひとつで四人家族一日分の食材を運んだ。
毎日が同じように過ぎ、同じように買い物し、
同じように食べた生活に
どこかほのぼのとした安心感があったものだ。

No.01265 (No.02021) 11.03.31

カズ・ダンス

日本代表 vs J リーグ選抜のチャリティーマッチで
二点先取していた日本代表チームに対して
後半 17 分で交代出場した三浦知良選手がゴールを決めた。
ゴールの脇をそのまま走り抜け、
観客に向かって踊り出すキング・カズ。
敵も味方も超越し、見ていたすべての人が感激した瞬間。

No.01266 (No.02022) 11.04.01

桜のつぼみ

桜のつぼみが色づきはじめ風に吹かれて揺れていた。
このところ数年間は 4 月になる前に咲いていたが
今年はひさしぶりに 4 月を過ぎてから咲くようだ。
桜の花よ　一年ぶりだね　ようこそ。

No.01267 (No.02023) 11.04.02

モクレン

近所の公園でモクレンが咲いている。
青い空を背景に、いい香りを発散させて。
木はスクッと立ち、花はみんな上を向き、
樹木全体で燃え上がるような雰囲気を持っている。
英名がマグノリア。
映画のタイトルにもなった。

No.01268 (No.02024) 11.04.03

エコマラソン印旛

あなたがこの文章を読んでいるとき、
僕はマラソンを走り始めている。
エコマラソン印旛という大会だ。
この大会の主催者である西一(にしはじめ)さんは
僕のマラソンの師匠である。
はじめてホノルルでマラソンを走ったとき、同行してもらった。
西さんは年に何十回となくマラソン大会に出場し、
誰よりもゆっくり走る。
ゆっくり走ることを楽しむために走るのだ。
そのスピリットを生かした今回の大会は
世界で最初のエコマラソン大会で、
五時間より速く走ることは禁じられている。
ゆっくり走り、ゴミがあったら拾い、
給水所のボランティアと話をし、
一緒に走る人たちと仲良くなるのが
エコマラソンの目標。
僕も安心して五時間以上かけて走られる。
今回の大会の利益は、
すべて東北地方太平洋沖地震の被災者たちに

復興のために送られるそうだ。

No.01269 (No.02025) 11.04.04

デッキシューズ

白いデッキシューズを買った。
履くとなんかにやける。
就職して以来、僕は白い靴を買わなくなった。
買うのは茶色か黒か、
がんばっておしゃれしても紺色がせいぜい。
学生の頃は白い靴をよく履いていた。
この歳になって白い靴を履くのはなんかウキウキする。
若い頃の感覚を思い出すようだ。
夏になったら白いＴシャツに
白いデッキシューズを履いてみよう。
足元が軽く見えると心も軽くなるようだ。

No.01270 (No.02026) 11.04.05

福島産の梨

エコマラソン印旛の大会後、表彰式があった。
そこで、コスプレ賞をもらったのは
スパイダーマンのコスプレをしていた人だった。
彼は福島で採れた梨をみんなにふるまった。
本当は市場に出る商品のはずだったが、福島産ということで、
売れなかったのだという。
梨が採れたのは去年の秋で、
それを冷蔵庫に保管してあったものだが
買ってもらえなかったという。
それをみんなで食べた。
風評被害という言葉で市場関係者が悪く言われてしまうが、
市場関係者は絶対に問題のある商品を市場には出さない。
それがどんなに些細な問題でも
あとで問題になったら職を失うのは自分だ。
風評被害という言葉で本当の問題がどこにあったのか
ごまかさないで欲しい。
すべてのいきさつを聞いて僕たちはその梨を食べた。

No.01271 (No.02027) 11.04.06

エルヴィス・プレスリー

エルヴィス・プレスリーの声は
いまだにメディアからよく聞こえてくる。
亡くなったのは 1977 年。
いまから 34 年も前のことだ。
基本的には太く低い声で歌うが、裏声に返ることがある。
その不安定さが魅力だ。
その声はあまりにもよく聞かれるので
好き嫌いを感じることなく、当たり前にあるものとして育った。
時々思い出すがわざわざ聞きたいと思う前に
必ずと言って良いほどどこかで耳にする。

No.01272 (No.02028) 11.04.07

素足でフローリング

暖かくなってくると素足で過ごすことが心地良い。
フローリングの床を歩くときの
足の裏がこすれる感じが良いい。
一日でも掃除をさぼるとこの心地よさは失われてしまう。
だからせっせと掃除する。

No.01273 (No.02029) 11.04.08

泡の出るお風呂

底から泡の出るお風呂があるでしょう。
あれってなんて言うのかな？
バブルバス？
ジャグジー？
ジェットバス？
なんだかよくわからないけど、とにかくあれだよ。(笑)
あれ気持ちいいね。
泡が出てくる音はうるさいけど、
あのうるさい音がいいのかもしれない。
ちょうどサーフィンしているときに乗った波の音のようだ。
泡がはじけてバチバチいうのがいい。
肌をこすって昇っていく泡の感触がいい。

No.01274 (No.02030) 11.04.09

エコマラソン印旛

不思議なマラソン大会に参加した。
五時間以内に走ってはならない。
ゴミを捨ててはならない。
参加者と仲良くしなければならない。
ゴミ拾いをしなければならない。
タイムは計測しない。
できればコスプレをしたほうがいい。
でもなぜかみんな盛り上がる。
一度にこんなにたくさん友達ができるマラソンははじめてだ。
http://bit.ly/eLUDzm

No.01275 (No.02031) 11.04.10

ぶーちゃん新聞

数日前からぶーちゃん新聞を発行している。
毎日、しかも朝刊と夕刊を発行しているのだからすごい労力！
と思いきや、実はこの新聞、完全に自動化されてます。
Twitter でフォローしている人たちの
つぶやきとそのリンクの記事を
自動的に集めて掲載しているんです。
だから編集長である僕の仕事は
twitter で誰をフォローするかを決めるだけ。
それで毎朝夕にこんな立派な新聞が発行できるのですから
技術の進歩というのはすごいものです。
数年後には工夫のない編集者の仕事はなくなるな、確実に。

No.01276 (No.02032) 11.04.11

原発反対

以前から原子力発電がよくないものだと知っていた。
何万年も地中に廃棄物を貯蔵しなければならないなんて
絶対無理だと思っていたから。
何万年の単位では地表はかなり変化する。
どんなに深く埋めたところでその廃棄物は必ず漏洩する。
今回の事故でもう原発は廃止されるだろう。
それで少しは安心できる。
原子力安全保安院が
「この経験を踏まえ、
　これまでのことにとらわれず、
　すべてのことについて見直す必要がある」
と発表したそうだが、現在の原発の処理が終わったら
もうやめようよ、原発。
多少不便でも、自然エネルギーで発電しましょう。
そうすれば、いろんなことがさっぱりする。

No.01277 (No.02033) 11.04.12

桜吹雪

桜の花がはらはらと散る様はとても美しい。
日の光に照らされてきらきらと輝きながら流れていく波。
一年に一度体験できる風景。
あと何度これが見られるのかとつい思う。
桜吹雪に手を広げて包まれたい。

No.01278 (No.02034) 11.04.13

白い財布

前に使っていた札入れが古くなって破けてしまったので
新しい財布を買いに行った。
男物の財布売り場で白い札入れが目に付いたので
それを買った。
後日、幸せを引き出す専門家である紅龍さんが僕の財布を見て、
「白い財布いいですね」とおっしゃった。
そのときは何がいいのかわからなかったけど
気になったのでネットを検索したら
風水で白い財布は清浄化作用と
お金を貯める力があるのだとか。
ふーん。
いいことは素直に信じる。(笑)

No.01279 (No.02035) 11.04.14

Apple Magic Mouse

最近使っている PC のマウスは Apple Magic Mouse だ。
このマウス、とてもいい。
アップルのマウスはボタンがなく、のっぺりとしているが、
そののっぺりとした部分に指を滑らすとスクロールができる。
その指を滑らすときの感触が肉感的でいい。
誰かの背中をこの調子で滑らせたら
そのひとはきっとくすぐったくて笑い出す。
シチュエーションによっては艶っぽいため息をつくだろう。

No.01280 (No.02036) 11.04.15

スライドショー

写真を何枚も連ねてスライドショーを作るのが好き。
時系列に並べるのもいいけど、意外な順番に並べるのも好き。
何度も同じ写真を見ることで
人はその記憶をしっかりとつなぎ止める。
人の記憶はほとんどが失われてしまう。
だけど、写真で何度も見た場面は忘れなくなる。
時々、忘れかけた頃の写真を呼び出し
ゆっくりとスライドショーにする。
忘れていた感情がよみがえる。

No.01281 (No.02037) 11.04.16

上を向くんだ

震災が起きて、prayforjapan.jp で
心温まるつぶやきを集め始めた。
そのなかにこの言葉があった。

暗すぎて今までに見たことないくらい星が綺麗だよ。
仙台のみんな、上を向くんだ。 @ryoji96

この言葉、僕の胸に深く響いた。
サントリーが何人もの歌手や芸能人に「上を向いて歩こう」や
「見上げてごらん夜の星を」を歌わせてCMにしている。
「上を向く」というのは、身体的な行動だが
気持ちにも大きく影響するようだ。

No.01282 (No.02038) 11.04.17

インターネットの情報

インターネットがあったおかげで今回の東電原発事故について
本当は何が正しいことなのかかなり調べることができる。
もしマスメディアしかなかったら
この状況は生まれなかっただろう。
自分自身で何が事実なのか、
調べられることはとてもありがたい。
たとえば、この話。
原発を設計した技術者の声が聞ける。
http://bit.ly/h0URcd

No.01283 (No.02039) 11.04.18

ARIGATO

昨日のWEB版の朝日新聞で
『ARIGATOに感動「トモダチ作戦」参加の米大佐』
という見出しの記事が出た。
ここにある。
http://bit.ly/eA3jqF
要約すると、仙台空港の滑走路近くの砂浜に
誰かが木材を集めて『ARIGATO』と書いた。
それを米軍の大佐が見て感激したという記事だった。
仙台空港は津波の被害に遭い、
最近やっと空港としての機能を回復したが、
米軍が自衛隊とともにその作業をした。
そのお礼だろうと記事には書かれている。
インターネットがすごいなと思うのは
その裏事情がその日のうちにわかってしまうことだ。
それがここに書かれている。
http://bit.ly/hBST47

No.01284 (No.02040) 11.04.19

おひつ

このところの節電傾向で
昔懐かしい木製のおひつが人気急上昇だとか。
何の疑いもなく使っていた電子ジャー付き炊飯器は
使用電力が大きいために不人気となってしまった。
こうやって何かが起きないとおひつのようなものの価値は
なかなか認識できなかった。
きっとまだまだ無駄をなくそうと思えば登場する
昔の素敵なモノはあるんだろうな。
木の香りのかすかに移ったご飯のように
ほっこりと「ああいいな」と思えるモノに再会したい。

No.01285 (No.02041) 11.04.20

雲を眺める

晴れていて、大きな雲がポコポコとある日に
雲を眺めるのが好き。
芝生に寝っ転がって、あの形は何に似ているとか、
他愛もないことを言い合うのが好き。
ロタ島からの帰りの飛行機から、
たくさんのモコモコした雲が見えた。
ずっと写真を撮りましたよ。
飽きることなく。
そのときの写真の一枚が、
このスライドショーの最初の写真。
http://www.tsunabuchi.com/
晴れたら雲を眺めよう。

No.01286 (No.02042) 11.04.21

あの鐘を鳴らすのはあなた

朝の掃除をしながら鼻歌を歌うことがある。
先日、ふと歌ったのが和田アキ子が歌った
『あの鐘を鳴らすのはあなた』。
歌いながら思ったのは東北で支援活動をしている人や
復興活動をしている人たちのこと。
和田アキ子はそういう人たちに向かって
この曲を歌ってあげればいいのにと思った。
歌詞をすべて読むと、
まさにこのときのためにあるような曲だ。

No.01287 (No.02043) 11.04.22

シャッター

いまのカメラはほとんどデジタルだが、
かつてのカメラはフィルムを使っていた。
そんなカメラのシャッター音とその手応えが好きだった。
一瞬を切り取る音と手応え。
コンパクトなデジタルカメラにしてから
楽に写真を撮れるようになったけど、
かつての興奮は薄まってしまったな。

仕事で何百本もフィルムを抱えて海外に行ったのが懐かしい。

No.01288 (No.02044) 11.04.23

声を響かせる

おなかの底から声を出してまわりに響かせる。
声を出すのはとても気持ちいいこと。
声の中に自分の感情も、イメージも、
そして時には霊性も、含まれている。
本を音読したり、
詩を朗読したり、
歌を歌ったりして
自分の声を響かせよう。
地球の波動のひとつになってみよう。

No.01289 (No.02045) 11.04.24

モロカイ島の道

2008 年にモロカイ島に行った。
モロカイ・ビーチ・ビレッジに泊まったが、
そこはモロカイランチから車で未舗装路を
30 分ほど走った先にあった。
草原の中を車で走っていくのはとても気持ちよかった。
都会にいると必ず自分より高い建物に囲まれるが
モロカイの広大なランチ(牧場・ranch)では、
どこまでも草原が続き、その先に海があり、
そこにいるだけで爽快な場所だった。
赤土の道を何度も写真に撮った。

No.01290 (No.02046) 11.04.25

心の奥とつながる

人は時々、よく理由がわからずに何かを始める。
「なんでそれを始めたの？」
と聞かれると、答えに困るようなこと。
どうしても答えなければならないとしたら
「ただ、なんとなく」。
そして始めてしばらくしてから「なるほど」と思う時が来る。
どんな動物もきっと、行動のときに「理由」を持たない。
なぜなら、彼らには言葉がないから。
人間は言葉を持つことで行動に理由を持とうとする。
だけど、長い生命の歴史の中で
「理由」という言葉を持つようになったのはつい最近のこと。
生命は常に言葉にはなっていない膨大な何かを感じ
それから判断し、言葉にせずに行動していた。
人も時々その行動形態を思い出すことがある。
人の心は言葉に満たされているように感じがちだが
その奥には、言葉にならぬもので満たされている。

No.01291 (No.02047) 11.04.26

折り鶴

311 の震災後に世界中の人たちが折り鶴を折り始めた。
千羽鶴を作るためだ。
こんなことを言うと、もともこもないかもしれないが
千羽鶴ができたとしても
直接的には震災の復興には寄与しない。
だけどなぜか力づけられる。
愛したり、愛されるってことは
きっとお金で解決することではなく、
手間ひまをかけてもらうことと関係があるからなのだろう。
折り鶴なんて見たことのない外国の人たちが
どう説得されて折り鶴を折ったのか、それを知りたい。
外国の人も、もし納得してやったとすると、
愛したり、愛されたりすることが
実は手間ひまをかけることであることをどこかで知っていて、
それを表現するのに
折り鶴が有効であることを感じ取ったのだろう。
それを感じ取る人も凄いが、それを感じ取らせてしまう
折り鶴という存在もすごいものだ。

No.01292 (No.02048) 11.04.27

死に場所を見つける

これは気持ちいいなんて生易しいことではない。
ものすごく重い話だ。
だけど、これに僕はしびれてしまった。
ブログにも書いたので、
詳しいことを知りたい人はそちらを見てほしい。
http://www.tsunabuchi.com/waterinspiration/?p=2389
福島原発事故を止めるために
退役した技術者たちが集結し始めている。
リーダーは山田恭暉(やすてる)さん。
このことを Blog に書いたら僕のところにも赤紙が来たよと
facebook に書いた人がいた。
詳しく聞いたら、どうもかつて学生運動をしていた
理工系学生のネットワークにその運動に参加するようにと
手紙が届いているそうだ。
日本の理工系オヤジたちを見直した。

No.01293 (No.02049) 11.04.28

へぼテニス

大学生の頃、テニスのサークルに入っていたのだが
ちっともうまくなかった。
何しろ全然勝つ気がないのだ。
スマッシュを決めるとか、
サーブを決めるとか、
ボレーで相手を負かせるとか、
そんなことより
ラリーの続くほうが楽しかったから。
相手が打った玉を打ち返す。
相手が僕の玉を打ち返してくれる。
そこにこそ喜びがあった。
ラリーが続くというのが嬉しかった。
競技という尺度からすれば、まったくへぼなテニスだ。

No.01294 (No.02050) 11.04.29

オーケストラ

オーケストラの音は曲により、指揮者により、
録音により、変わる。
同じ楽器が同じ和音を同じように弾いているはずなのに
そのときの些細な何かで変わる。
団員の構成が変わったのかもしれず、
ホールの響きが変わったのかもしれず、
ただ団員の気分が違うだけなのかもしれないが
明らかに何かが変わる。
はっきりと一期一会のものだとわかる。
だからその音が愛しくなるのだと思う。

No.01295 (No.02051) 11.04.30

出会い

人との出会いは自分の質によって変わってくる。
あっという間に効果を現すためには
自分がその質を持っていなければならない。
即効性のある質を
持っていないからといって
悲観することはない。
丁寧に付き合いを続けることができれば
変化は現れてくる。
その時々の自分の立場や質を考え、
どう振る舞うのが効果的かを考えよう。
身の回りの環境には言語化されてない知恵が隠されている。

No.01296 (No.02052) 11.05.01

スローペースで泳ぐ

一年半ほど前に泳ぎ始めた。
始めた頃はクロールで 50m も泳ぐと疲れていた。
少しずつ泳ぐ距離を伸ばして、
いまでは休まずに 1km は泳げるようになった。
そのコツは、スローペースで泳ぐことだ。
かつてはクロールで泳ぐと
必死に力をいれて泳いでいた。
でも、それだとすぐに疲れてしまう。
力を抜いて、長く泳ぐことを心がけた。
おかげでいまでは
一時間に 2km ほど泳げるようになった。
ジョギングと同じように、
泳ぎながら話せるようなテンポで泳いだ。
実際に話しながらは泳げないけどね。
ゆっくり泳ぐと
からだにそってどう水が流れていくのかがわかる。
軽く漕いで進まなくなったら
どこの抵抗が大きくなったかを感じるように
からだ全体で耳を澄ます。

No.01297 (No.02053) 11.05.02

皮革製品

色の薄い皮革製品が好き。
財布や名刺入れはいつも革製。
使い込むと色が変わる。
どれだけ色が変わったかで
どれだけ長い時間それを使っていたかがわかる。
しっとりと柔らかかった皮が
ツルツルとした手触りに変わっていくのもいい。
携帯電話やパソコンもこのくらい長い時間使わせてほしい。

No.01298 (No.02054) 11.05.04

飛騨一宮水無神社(ひだいちのみや　みなしじんじゃ)

水無神社の例祭に行ってきた。
とてもいいお祭りだった。
観光客はあまりいないが、きちんとお祭りがなされていた。
それでも土地の老人が言うには
昔より祭りが簡素化されてしまったという。
それでもなお立派なお祭りだった。

神様を神輿に乗せて御旅所まで行列する。

鉦を鳴らし、笛を吹き、謡を謡って行進する。
桜が咲き並ぶ宮川と
金の神輿を中心にして行列が橋を渡る光景は
まるで夢の世界。
話を聞かせてくれた老人が
5月3日から高山の八幡宮で30年に一度のお祭りをやるという。
そのお祭りのことは知らなかったし、行くつもりもなかったが、
30年の一度のお祭りでは、次に見たいと思っても
なかなか見られないなと思い、延泊をした。

No.01299 (No.02055) 11.05.05

30年に一度の祭礼

水無神社で古老から教えてもらった
30年に一度のお祭りに行った。
三日間で142社の神が桜山八幡宮にやってくる。
それぞれにきらびやかな幟を立て、
神社らしい衣装に身を包み、
神社によってはお神楽とともに
神様を乗せた神輿を担ぎ行列してくる。
30年に一度の祭は
幸運であれば一生に二度見られる。
だけどほとんど三度見ることはない。
数年後には水無神社で60年に一度のお祭りがあるそうだ。
それは一生に一度見られればいいお祭。
人生のはかなさを感じさせてくれる。

No.01300 (No.02056) 11.05.06

鉦の音

お祭では鉦が叩かれていた。
キンとか、コンとか、微妙に音の高さが違う鉦が一度に鳴ると
不思議な心地よさが生まれる。
何台ものバイオリンが一度に鳴ると
不思議な心地よさが生まれるのと同じに
何台もの鉦が一度に鳴ると鉦独特の甲高さは丸くなり、
スチールドラムのような優しい音に聞こえてきた。

No.01301 (No.02057) 11.05.07

和蠟燭

高山で和蠟燭を買った。
バリ島などでキャドルを買って
時々うちで灯していたので
女房が同じように和蠟燭も使おうとして買った。
うちで灯すと、火の安定感がすばらしい。
キャンドルは少し風が吹くとすぐに消えたが
和蠟燭はびくともしない。

No.01302 (No.02058) 11.05.08

小さな光が揺れ動く

世の中にはいろんな気持ちいいものがあるけど
たくさんの小さな光が流れるように動くのは美しい。
たとえば蛍の大群。
飛んでいる蛍が風に吹かれて
一度に同じ方向に揺れる様はぞくっとする。
最近では、小さな LED ライトを
木の枝に巻き付けているところが多い。
風に吹かれると細かく揺れる。

No.01303 (No.02059) 11.05.09

シンクロ

命はすべてシンクロしたがる。
必ずするのではない、したがるのだ。
そこにまるで意思があるかのように。
自分の気持ちは自分が制御していると思いがちだが、
その自分はどのように成り立っているのか？
きっと自分のからだは、鼓動にシンクロしたがっている。
シンクロできているかどうか、
その微妙な感覚を僕は見失っているのかも。
きっと気持ちも、鼓動にシンクロしたがっている。
微妙な鼓動の違いに注意を払う人はほとんどいない。

動物の群れは個々にシンクロする。
群れを遠くから見ると
まるで波のようだ。
水が揺れるように、
風が流れるように、
影響を与え合いながら、
影響され合う。

No.01304 (No.02060) 11.05.10

アンティーク・チェア

うちには古いヨーロッパ調の椅子がある。
母が何十年も前に買った。
木に布が貼ってあるが、
布のなかには柔らかい綿のようなものが詰まっていて
そのクッションたるや絶妙である。
椅子に座るとすっぽりとからだを支えてくれる。
座ると姿勢が良くなるので
長い時間座っていてもあまり疲れない。
きっとこの座り心地は何十年か、もしかしたら何百年もの
知識と技術の集積によって生まれたんだと思う。

No.01305 (No.02061) 11.05.11

2km 泳ぐ

昨日、休まずにクロールで 2km 泳いだ。
泳ぎ始めたときはいつも通り 1km 泳いでから少し休んで
そのあとでまた 1km 泳ぐつもりだった。
ところが、泳ぎ始めると何かが違う。
いつもよりスイスイと泳げるのだ。
1km 泳いでもほとんど疲れを感じず、
そのまま休まずに 2km 泳いだ。
いったい何が変わったのかよくわからない。
でもはっきりしているのは
力をいれずにスイスイと泳げたこと。
どうやらからだは泳ぎのコツを得たようだ。
鈍い僕の頭は、そのコツがいったい何なのか
よくわかっていない。

No.01306 (No.02062) 11.05.12

ウェットティシュー

コンピューターのモニターや携帯電話の画面など
綺麗にしたいガラス面はウェットティシューで拭く。
そして水分が乾く前に乾いた布で丁寧に拭く。
指紋や画面についた油がきれいに取れる。
ガラス面が綺麗なのはとてもいい。

No.01307 (No.02063) 11.05.13

獅子舞

高山で獅子舞をしていた。
獅子舞の獅子が町中を歩いていると
商店から獅子舞をするように頼まれる。
するとそのお店の前で獅子舞をして

お囃子が演奏される。
幼い頃に獅子舞はこうやっておこなわれると
本では読んでいたが、
実際に見る機会はなかった。
子供がいると獅子が頭をかじっていた。

No.01308 (No.02064) 11.05.14

最後の日

明日から「日刊　気持ちいいもの」は独自配信にいたします。
これからも購読してくださる方は
以下の URL で新規登録をクリックしてお申し込み下さい。
http://www.tsunabuchi.com/feelgood/
独自配信に切り替えると同時に
発行時間はその日によって異なるようになります。
二、三日前に書いた原稿を朝七時に発信するのではなく、
毎朝書いてすぐ出すように変更します。
こうすることでみなさんとは
いままで以上にシンクロするのではないかと思います。

「気持ちいいもの」の iPhone アプリを現在作成中です。
さらに、ある雑誌で連載が開始されます。
昨日入稿しました。
発行は六月になります。
発売日前後に告知します。
(アプリのプロジェクトは中止となりました)

No.01309 (No.02065) 11.05.15

はじまり

メールマガジンの移動に伴い、新しく登録してくださり、
ありがとうございました。
これからさらに気持ちいいものを極めて行きます。
でも、「気持ちいいものを極める」ってそれだけ聞くとなんか
妖しくに聞こえて可笑しい。

物事にはどんなことにもはじまりがあるが
そのはじまりはほとんどすべて
人間が「はじまり」と認識しているだけで
本当のはじまりではない。
どんなはじまりにもそこにいたるための
前段階があり、序章があり、語られない準備がある。
幼い頃にそんなことを考えると
どんどんと想像ができない領域に入っていくこととなり、
勝手に一人でドキドキしていた。(笑)
言葉の始まりはよくわかっていない。
いろんな説がある。
生命の始まりもよくわからない。
これにもいろんな説がある。
宇宙のはじまりもよくわかっていない。
これだっていろんな説ばかりだ。
本当のはじまりはきっと
語りたくても語られないもの。

No.01310 (No.02066) 11.05.16

思い

人間は日々いろんな思いを抱える。
いろんな思いを抱えてはそれを忘れる。
どんな思いを忘れずにいるかが
その人の性格を表現するが、
忘れたこともその人の表現である。

心をよく水に例えることがある。
浮いているものが表現されたこと。
沈んでいることが忘れてしまったこと。
忘れたことはなくなりはしない。
水底に沈んで、浮き上がるのを待っている。
命はいつも存在の危機を感じ続けてきた。
その癖は決して失われない。
僕たちがすぐに危険を感じるのは
祖先たちの経験が
心の水底に沈んでいるから。
その思いは生き続けるのに大切なこと。

No.01311 (No.02067) 11.05.17

畳

新しい畳のイグサのにおいが好き。
何年かに一度畳を変えるときがうれしい。
最近ではただ畳を持って来てくれるだけだが
昔は家の前で畳を作ってもらった。
職人がやってきてシュッシュッと音を立てながら畳を作る。
でっかい針を使い、縫い上げるのに肘で畳を押さえつけ、
終わる頃、ヘリに残ったイグサを
大きな刃物で切り落とすときには
ワクワクしたものだった。

No.01312 (No.02068) 11.05.18

トランペット吹きの休日

小学校の運動会などによくかかる名曲。
誰でも一度は耳にしたことはあるはず。
だけどタイトルを知らないかもしれない。
トランペット三本で軽快なメロディーを奏でていく。
聞くだけなら快活でいいのだが、
僕はこれを高校二年のときに演奏した。
僕はトランペットを吹いたのではなく指揮をした。
当時そのバンドのトランペット三人は
一人がトランペットを始めてまだ一年しか経ってなく、
演奏にとても苦労していた。
三人が同じように演奏できないと
バラバラに聞こえてちっともいい曲にならない。
三ヶ月ほど練習して演奏会できちんと演奏できたときには
とても感動した。

No.01313 (No.02069) 11.05.19

出会うこと

人と出会って意気投合する。
同じことを思っていたり考えていたりする人と
一緒にいるのは気持ちいいが、
まったく同じことを考えている人とはまず出会えない。
似たことを考えていてもみんなどこかがちょっとずつ違う。
人と出会って仲良くなっても発見するのは互いの違い。
それが面白いと思えるかどうかが学ぶべきこと。
そして、違うことを考えていたとしても
同じ願いで生きていることをいつか見つける。

No.01314 (No.02070) 11.05.20

ベランダで鳥が歌う

昨日、仕事をしていたら
ベランダで鳥が歌いだした。
見たことのない鳥の聞いたことのない歌だった。
応援してもらっているみたいでうれしかった。
最近、知らない鳥が増えているように感じるのは
気のせいかな？

No.01315 (No.02071) 11.05.21

寝坊

休日の朝はダラダラと寝る。
いつもの時間に起きたとしても
もうちょっと寝る。
目覚まし時計が鳴っても止めて寝る。
前に見たような夢でももう一度見る。
シーツの波にくるまれて
やわらかい枕に顔を埋めて
寝るのが鬱陶しくなるまで
再び寝る。

No.01316 (No.02072) 11.05.22

Love's Theme

世の中に「愛のテーマ」と名付けられた曲はたくさんある。
特に映画音楽に多くて
モダンタイムス、ベンハー、スパルタカス、
引き裂かれたカーテン、ひまわり、ゴッドファーザー、
セルピコ、スター誕生、タワーリング・インフェルノ、
ニューシネマパラダイス、パールハーバー、アルマゲドン、
タイタニック、アバター、なんかに愛のテーマがある。
最近ではゲームの音楽にも多くて、
ちょっとロマンティックな曲で
物語に付随するような曲は何かと愛のテーマになる。
そんななかで僕が「愛のテーマ」と聞いて一番に思い出すのは
ラブ・アンリミテッドオーケストラの「愛のテーマ」だ。
うねるような速いストリングスのパッセージから始まり、
透き通ったギターがストリングスに絡み、
ワウの効いたギターがリズムを刻むと
爽快なメロディーがストリングスによって奏でられる。
これを聞くと飛行機に乗って海外に行きたくなる。
途中のホルンの音色にもしびれるんだよなぁ。

No.01317 (No.02073) 11.05.23

草の香りに隠れている蜜の匂い

草がたくさん生えているところを通ると時々密の香りがする。
草の香りのなかにふとそのにおいを見つける。
どの歌だったか忘れたが、山下達郎の歌のなかに
「君の息は蜜の香りがする」というような歌詞が登場する。
それを聞いて以来、突如として
草の香りに隠れている蜜の匂いを感じるようになった。
それまでただぼんやりとしか認識してなかったことが
あるとき「この草の香りも蜜の匂いのようだな」と
感じたときから鮮明になった。
言葉の魔法を認識した。

No.01318 (No.02074) 11.05.24

大きなコップ

我が家の大きくて薄手のコップは持ち心地がいい。
朝起きてガツッと氷を入れ、
飲み物を注いだら
それを抱えて書斎にこもる。
小さいと何度も書斎から出てこなければならないが
大きいとしばらくこもっていられる。
洗うときも手が入るので簡単に洗えるし
薄手なのに割れずにがんばっているのが頼もしいしけなげだ。

No.01319 (No.02075) 11.05.25

ドラムダンス

野原に出て大勢でするドラムダンスも素敵だが、
一対一で繊細にするドラムダンスもいい。
踊りが動けば太鼓が合わせ、太鼓が鳴らせば踊りが反応する。
はじめのうちはあなたとわたしだが、
やり続けるうちにわたしたちとなり、
熱が入るといつしかふたりは宇宙になる。

No.01320 (No.02076) 11.05.26

メモブロック

メモが束になってできているメモブロック
一番上のメモ用紙に何か書いてピッとはがす。
このピッとはがすのが好き。
メモを書いて、それを保存しておくと、
次第に書かれたメモが上の方にたまって来て
新しく書くのにまっさらなメモを探すのが嫌い。
ある程度たまってしまうと、
書き写したりしてピッピッとはがしていく。

No.01321 (No.02077) 11.05.27

白川静の講演

白川静の講演を何ヶ月かに一度 DVD で見ている。
甲高い声で一生懸命しゃべるその姿は
人生をかけて学んで来たことを
なんとか伝えようと鬼気迫る。
信念を持って追い続けて来たことを曲げる訳には行かぬ。
その思いを抱き続けて来た人の叫びは心をつかんで離さない。

No.01322 (No.02078) 11.05.28

海の向こうのタイピンゴッド山

ロタ島の西にタイピンゴッド山がある。
尻尾のように突き出た半島にある山だ。
山といってもさほど高くはない。
丘のような場所だが、海の向こうから見ると山に見える。
それをテネト村のあたりから見た。
そばには日本軍の砲台跡があった。
輝く海の向こうにバースデーケーキのような
タイピンゴット山が見えた。
http://書く冒険.jp/photo/?p=19

No.01323 (No.02079) 11.05.29

祭の太鼓

水無神社の例祭に行った。
小さな村できちんとお祭りをしていた。
そのなかに大きな太鼓が出てくる。
ドーン、ドーンと腹に響く。
社内で叩くと窓ガラスがビリビリと揺れる。
遠くからでもその音が聞こえた。
6 年後に 60 年に一度の祭をするそうだ。

No.01324 (No.02080) 11.05.30

ワールド・カフェ

知らない者同士がテーブルで出会い
与えられたひとつのテーマについて語り合う。
人生は人と出会うためにある。
目の前に人がいても
誰とも出会うことのない都会で
目の前の人がほんの数人でも
その人たちと出会うための装置。
さあ、語り始めよう。

No.01325 (No.02081) 11.05.31

ニンニク

炒め物をするとき、
僕はたいていニンニクをひとかけら
スライスしてオリーブオイルで軽く炒める。
その上で野菜や肉を炒める。
ニンニクはよく臭いと言われるけど、
軽く香る程度入っていると食欲が増す。
香水に使う香料も
それだけがたくさんあるととても臭いが
わずかに香るといい匂いになる。

No.01326 (No.02082) 11.06.01

東京ワークショップ

もうすぐ東京ワークショップを開設して 7 年になる。
早いものだ。
15 年くらい前からワークショップをしている友達や、
自分のワークショップのために
こんなサイトがあればいいのにと
思っていた物を実際に作った。
おかげさまで登録者数は 500 名を超え、
月間のページビューは 12 万を超えた。
これからもきっと発展していくと思う。
インターネットで普及するページは
利他的な物がいいといういい証拠だ。
このページがあるおかげでリンクしている僕のサイトも
Google でよく検索されるのだと思う。
めぐりめぐってのご褒美のようだ。

No.01327 (No.02083) 11.06.02

Catch your way

杉真理の曲を聴くと思い出すことがある。
それは僕が大学生の頃、高校でクラスメイトだったＭが
中央大学でミュージカル研究会に入り、
ミュージカルをやったこと。
オリジナルのミュージカルだったが、
使われていた曲がすべて杉真理の曲だった。
内容はまったく忘れてしまったが
輝かしいあの雰囲気だけは忘れずにいる。

No.01328 (No.02084) 11.06.03

犬と過ごす

犬は気になる人を放っておかない。
こいつ面白そうだなと思うと寄って来てちょっかいを出す。
尻尾を振ってみたり、前足を出してみたり、
臭い息をかけて来たり、ついにはペロペロなめられる。
それも拒否せずにいると最後には乗っかられたりして。
鬱陶しいなと思いながらもつい顔はニヤニヤしてしまう。
犬を撫でてやると彼らは素直にうっとりする。
人間は、そうはならないのはなぜだろう。

No.01329 (No.02085 11.06.04

宝塚歌劇

ずっと見たことがなかったが、
このところ知人の知人の娘さんが出演しているので
時々見に行く。
何度も驚かされるのはラストだ。
はじめにおこなわれるミュージカルのラストは
とても悲劇的だったりする。
たとえば主人公が命を捨てて
仲間を守ろうとするところで終わるとか、
(誰がために鐘は鳴る)
本当は好きな人を助けようとして
ひとり去っていくとかだ。(カサブランカ)
ところがそのラストシーンが終わった瞬間、
明るい音楽が鳴り響きみんなが踊り始める。
はじめてそれを見たときはショックだった。
つい一瞬前までは泣きたいほど悲しかったのに
音楽がはじまるとみんな笑顔になってシャンシャンしだす。
この気持ちの回転の素早さはかなわないと思った。
何度か見ると、だんだんそれが快感になる。
実際の生活でもひどく落ち込んだ後に
これだけさらっと明るくなれたらいいんだろうな。

No.01330 (No.02086) 11.06.05

JIS キーボード

コンピューターに日本語を入力する際に
僕は JIS キーボードを選ぶ。
たいていの人はローマ字入力を選ぶようだが
僕は一度のタイプで入力できるので直接ひらがな入力する。
はじめのうちちょっと苦労するかもしれないが、
それはほんの数日のこと。
直接ひらがなを打った方が早いし、直感的になれる。
日本人は子音と母音を区別しない。
その感覚で生きてられる。

No.01331 (No.02087) 11.06.06

オーバーダビング

昔、音楽はたった一回のものだった。
いつのどこに行って聴くかが大切なことだった。
レコードができて、ある時のある場所の演奏を
何度も繰り返し聞けるようになった。
しばらくして録音技術があがると
オーバーダビングができるようになる。
一度録音した曲の上に、
さらに同じ奏者が音を重ねることができるようになった。
これによってコーラスも自分ひとりでできるようになったが、
同じ人の声を何声も重ねたのはビートルズが最初だそうだ。

きっと彼らは興奮しただろう。
自分の声でハーモニーができるとそれは
圧倒的な快感をもたらす。
いまではそれは Mac が一台あれば
簡単にできることになってしまった。

No.01332 (No.02088) 11.06.07

ドルフィン・キック

海に潜り、フィンをつけてドルフィン・キックするのが好き。
海面に乱反射した差し込む日の光を受けて
キックするたびにグイグイ潜る。
一度コツを覚えるとこんなに楽な泳ぎ方はない。
イルカと一緒に泳ぐのにもきっと同類と思われていい。
動物は進化する。
イルカも陸棲から海棲へと変化した。
人間もいつか海棲へと変化すると
ジャック・マイヨールは言っていたが、
これだけ気持ちいいとホモ･デルフィナスになってもいいかも。

No.01333 (No.02089) 11.06.08

未来市場創造

アップルは未来市場創造をするから成功する。
単に新しい市場を作るのではない。
未来にしか生まれようがない市場を創造するのだ。
その市場は生まれる前にきちんとした準備が必要だ。
その準備は､現代を生きる私たちが無意識のうちにやっている。
たとえば、20〜30 年ほど前に
エコという市場が突如として生まれた。
それまでは公害問題でしかなかったことが、
全地球的な価値として認められ、エコと名付けられた。
そこに至るあらゆる会話やステップが
未来市場創造のための準備になっていた。
アップルは自らの会話によって
未来の市場を人々に予感させ、その準備に基づいて
あるとき突如としてそれに気づいた人たちに向かって
新しい製品やサービスを始める。
iCloud も見事にそれをした。
僕はこの未来市場創造という概念が
次の時代のマーケティングのキーコンセプトになると思う。

No.01334 (No.02090) 11.06.09

色鉛筆で絵を描く

色鉛筆で絵を描きはじめると
たいていの人は僕が何を描いているのかわからない。
僕はたいてい最初の輪郭をオレンジ色か黄色で描く。
それは現実にあるとは思えない色。
たとえば人の顔の輪郭をオレンジで描いたりする。
するとたいてい驚かれる。
なぜ肌色を使わないのかと。
しばらく我慢して見ていてもらうと
次第にほかの色が加えられ、
だんだんと肌の色らしくなってくる。
はじめは何だか訳の分からない色と線の羅列が
次第に絵になっていく。
その変化が楽しい。

No.01335 (No.02091) 11.06.10

息の使い方

中学生の頃からブラスバンドに入りトロンボーンを吹いた。
大きな音を出すのが気持ちよかった。
しばらくしてきれいな音を出すのが気持ちよくなった。
何が違うかというと、息の使い方だ。
縦笛もただ吹けばなるが、音のツボにはまるように
息を調節するときれいな音になる。
トロンボーンも同じだ。
その感覚をまた最近思い出した。
それは泳いでいるとき。
泳いでいるとき、水面から顔を上げて息をしようとするが、
それであまり吸いすぎると苦しくなる。
僕のからだにちょうどいい量だけ吸うつもりで吸うと
それだけで息が楽になる。
いい案配に力を抜くのがいいみたい。

No.01336 (No.02092) 11.06.11

贈り物

時々届く、ささいな贈り物が僕はうれしい。
僕のことがどんな人間か理解していて、
きっとそれは僕が喜ぶなと思ってくれるような
ささいな贈り物。
そのお返しを僕は、その人に似合うなと思うモノと
出会うまでしない。
それで許されるくらいのモノがいい。

No.01337 (No.02093) 11.06.12

コロン

香りのいいコロンがかすかに香るのはいい。

その人の秘密を知ったようで、ちょっと顔を寄せてみたくなる。
恋人だったら近づくだろうが、その関係でなければ
寄り添いたい思いといけないという感覚が交錯する。
そんな網に絡めとらた状態で視線が合うと
脈が上がる。

No.01338 (No.02094) 11.06.13

熱帯雨林の雨の音

葉に当たる雨の音、
霧となって流れてくる雨、
植物の香りと鳥の声。
熱帯雨林の雨の朝、
あらゆる命が動き出す。
地を這う蟻が樹に登り、
甘い蜜を探すように、
僕は自分の存在を確認する。

No.01339 (No.02095) 11.06.14

本当の音

野球場の歓声やボールの音
草原で聞くライオンの鳴き声
大きな滝の音
オーケストラの音
鳥の声
ガムランの音
祭のお囃子
象の足音
いろんな音をテレビやラジオを通して聞くけど
そんな音は本当の音ではない。
本当の音はメディアを通した音とは全く違う。
メディアの音はどこか寝ぼけている。
本当の音には目が覚める。

No.01340 (No.02096) 11.06.15

曇り空

曇り空が好きという人はあまりいない。
だけど一番過ごしやすいのは曇りの日。
まぶしい光もなく、足下を濡らす雨もない。
やわらかな光は落ち着いた心によく似合う。
若い頃に感じたウキウキした気分とは違う
満ち足りた静けさを見つけることができる。

No.01341 (No.02097) 11.06.16

シルクのサロン

サロンとはバリ島の民族衣装。
男も女もスボンやスカートの代わりに巻くもの。
それは大きな一枚の布でできている。
たいていは綺麗な柄が印刷され、好みで選ぶ。
シルクのサロンは薄くて肌触りがいい。
小さくたためるのでいつでも持ち歩ける。
僕はこれを風呂敷の代わりによく使う。
小さくなるし、丈夫だから便利なのだ。
バリ島の思い出と一緒に鞄に忍ばせる。

No.01342 (No.02098) 11.06.17

掲載誌

雑誌に原稿を書くと出版された際に掲載誌が送られてくる。
数週間前に書いた原稿が雑誌記事となってやってくる。
まずは自分の原稿を確認。
その上で、記事の前後関係を読んでみる。
ここにいたるまでたくさんのみなさんに
お世話になったことを思い出す。

No.01343 (No.02099) 11.06.18

風の吹く大地に立つ

下界が見える丘に立ち世界を眺める。
どんな場所に立っても地球すべてを見ることはない。
人間の視点はそのようなもの。
僕がどこに行こうと見えるのは僕のまわりだけ。
それでも自分の足と目を信じて歩くしかない。

No.01344 (No.02100) 11.06.19

駄目だし

仲間として何かできる間柄とは
「ここが駄目だね」と言い合えること。
それが言えずに我慢しているといつか何かが破綻する。
本当に駄目なところがないのならいいのだが
人間のすることには欠点が多い。
しかも、立場が変われば見えるところも違う。
虹を指差して「五色だ」「七色だ」「十二色だ」と言って
自分の立場を表現しない限り
自分の見ている色の数は相手に伝わらない。
現実は虹の色の数のように無限の視点を与えてくれる。

No.01345 (No.02101) 11.06.20

バリ島の蛍

ニュピで過ごしたバリ島での深夜、
真っ暗闇の中を光る小さな物体が飛んだ。
日本の蛍のように点滅せず、
黄緑の光が点灯したままゆらゆらと。
ニュピでは一日半 断食し、二晩徹夜していたので
変なものでも見てしまったかと思った。
そのときはそれがいったい何かわからず、
現地に住んでいる人に聞いたら
「蛍だろ」と言われ、落ち着いた。
まさかバリ島に蛍がいるなんて思わなかった。

No.01346 (No.02102) 11.06.21

名刺

名刺には様々な工夫がある。
デザインにいろんな思いが込められている。
外に出れば毎日のように凝ったデザインの名刺をいただく。
その一枚一枚を丁寧に見ていくと
持ち主の思いがほのかに感じられる。
少し小さめのもの、
極彩色のもの、
黒一色のもの、
縦横複合的に書かれているもの、
折り畳んであるもの、
などなどなど。
たった一枚の小さな紙だからこそ。

No.01347 (No.02103) 11.06.22

Ukulele San

iPhone アプリに「Ukulele San」というものがある。
このアプリを起動すると iPhone がウクレレになる。
画面にフレットが表示される。
フレットの上の弦を押さえて
胴のあたりの弦に触れると音が出る。
音がよくて楽しい。
Easy mode にするとコードも簡単に弾ける。
ヘッドフォンをして演奏すると
気分はハワイでしばらく抜けられなくなる。

No.01348 (No.02104) 11.06.23

月の満ち欠け

時々月の満ち欠けを感じる人がいる。
僕にはわからないがこれも地球のリズム。
月のおかげで、夜が明るくなったり暗くなったり
汐が満ちたり引いたり、軌道がわずかに変化したり、
いろんな作用が現れる。
満月の日におこなわれるという
珊瑚の産卵をいつか見てみたい。

No.01349 (No.02105) 11.06.24

プレゼン成功

何日もかけて準備したプレゼンが通る。
仲間はみんな大喜び。
しばらくの苦労もこれで報われる。
あふれてくるのは感謝の言葉。

No.01350 (No.02106) 11.06.25

お味噌汁

具を切る音。
トントントン
鰹節を削る音。
シュコッ、シュコッ
味噌汁の香り。
幼い頃は母が作る味噌汁で目が覚めた。
いまは僕が味噌汁を作る。
心のどこかに懐かしさを感じながら。

No.01351 (No.02107) 11.06.26

瑞穂の豆大福

原宿の裏通りに瑞穂という豆大福屋がある。
ここの豆大福がおいしい。
餅が柔らかく、噛み心地がいい。
餡は少し塩が利いていて、甘すぎない。
塩と砂糖の塩梅がいいから
いくつでも食べられてしまう。
柔らかい餅を噛み切ると、
中にある餡がニュワッとあふれてくる。
口のなかでは柔らかい餅と、
これまた柔らかい餡が噛むごとに混ざっていく。
餅はわずかな弾力を持ち、
餡は餅よりも流動性に富む。
時々豆の食感がアクセントになり、
つぶれると餅と餡だけでは生まれない
味と香りをほのかに加えてくれる。
噛み切った豆大福をゴックンとすると

次の一口を推理する。
噛む場所を考えないと、噛んだときの圧力で
柔らかい餡があふれそうなことが予感できるから。
この予感に従い、噛む場所をよーく考える。
一度噛んで餅に穴のあいたところを
もう一度覆い包むように噛む。
噛むとすでにある穴から口のなかに
柔らかい餡がなだれ込むので
その感覚がたまらない。
上品な甘さの洪水が口のなかにやってくる。
二度も同じところを噛むと、
もう三度目は同じところという訳にはいかない。
餅にあいた大きな穴の脇を噛む。
おっ、予想通り餡がはみ出てくるので即座に吸う。
唇に餡がついちゃったよ
と思いながら、次の噛む場所を査定する。
この噛む場所の査定がおいしさを増幅している。
口のなかでは餅と餡と豆が混ざりながら
甘さのハーモニーを生み出している一方で、
目と頭はしっかりと次の一口を吟味しているのだ。
この快感的行為を四、五回繰り返すと、
もう手の中の大福はなくなっている。
唇に付いた粉を舌でなめながら
ひとつ食べ終わった余韻を楽しみ
ズズッと熱いお茶をいただく。
お茶の味で口が洗われた頃には
もうひとつ食べるかどうか悩んでいる。

No.01352 (No.02108) 11.06.27

笑顔の伝播

感情は伝播する。
嬉しいことも、悲しいことも、
楽しいことも、悔しいことも、
愉快なことも、腹立たしいことも、
いろんな感情が伝播する。
そのなかで、笑顔だけを伝播させるのは難しい。
だって、人はいろんな感情を感じるものだから。
笑顔だけを伝播させようとすると
いつか笑顔が「しなければならないこと」になる。
その笑顔はちょっと怪しい。
本当の表情はしなやかなもの。
出るときには勝手に出るもの。
でも、それがわかるのは、
一生懸命笑ってみようとした人だけ。
どんなささやかな苦労も、
いつか何かで報われる。

No.01353 (No.02109) 11.06.28

新技術の発展

PC がどんどん便利になったように
新しい技術が次々に生まれる。
よくそんなことが可能になるな
と思うことが可能になっていく。
この発展はメディアの発達が関係している。
科学が生まれ発達したのは書籍が発明されたから。
そして、現在、
かつては「100 年に一度の大発明」
と呼ばれたような発明が
毎日のようにどこかでなされるのは
インターネットと交通手段の発達のおかげ
と言えるだろう。
そしてそれらの発明は
たったひとりの手による発明ではなく、
多くの人が関わった発明が増えている。
新しい発明に出会うたび、
驚きとともにワクワク感がやってくる。

No.01354 (No.02110) 11.06.29

冨田勲のシンセサイザー曲

僕が中学生の頃、
はじめて富田勲のシンセサイザーを聞いた。
そのときはただただ驚いただけだったが、
大学生になって自分で小さなシンセサイザーを買い
音を出すことを学ぶに従って
冨田勲がどんな凄いことをしていたかが
理解できるようになった。
シンセサイザーは
モデルとなる元の楽器の
まねをしているように感じていたが
まねを徹底させようとすればするほど
音の何が快感かを考えるようになる。
きっとモデルの楽器の演奏者は
「そういうもの」としておこなう
ビブラートのかけ方や
合奏になったときのわずかなズレが
何をもたらすのかを知ることになる。

富田勲はそれを再現させるために
オーケストラの音を出すために
それぞれの楽器音を人数分だけ重ねたという。
似た音は機械的にも生み出されるのだが
どんなに合わせても現れ出てくる
わずかなズレのゆらぎは機械では作れない。
ズレのゆらぎなんてものが素敵であることを
僕はシンセサイザーで学んだ。

No.01355 (No.02111) 11.06.30

プチプチをプチプチ

整然とした場所を荒らすのが好き。
きれいな雪面に足跡を残したり、
時によっては大の字になって寝たり、
幼い頃は張り替えのために
障子を破っていくのが好きだった。
そんな整然としたものを破壊することの延長線上に
気泡緩衝剤をプチプチすることがあげられる。
空気の入った小さなふくらみを
指で押してプチプチしていく。
はじめのうちはひとつひとつの音を楽しむが、
しばらくするとやり続けることが喜びとなり、
さらにしばらくすると
なぜかやり遂げなければならないミッションとなり、
終わる頃には
全部きれいにつぶしたことが喜びとなる。
些細な喜びも集まれば快楽になる。

No.01356 (No.02112) 11.07.01

遠い喧噪

朝、窓を開けると、遠い喧噪が聞こえる。
車の音や電車の音、それ以外のいろんな音、
それらが混ざって、ゴーッという雑音になっている。
いろんな周波数の音が混ざるとホワイトノイズになるが、
それに周期的な強弱がつくとまるで波の音になる。
町の遠い喧噪は僕に波の音を思わせてくれる。
いろんな音が混ざると心地よい雑音になるように
歳を取るといろんな思い出が混ざって
心地よく思えてくるから不思議だ。

No.01357 (No.02113) 11.07.02

気持ちいいものの選択

気持ちいいものを書くことは生き方の選択。
あるものが気持ちいいかどうか発見するために
心に深く降りていく。
そこで気持ちいい理由やきっかけを見つけて
現実世界に戻ってくる。
気持ちいいものと決めたものは
表現することでさらに気持ちよくなっていく。
なかにはつまらないことを思い出して
気持ちいいとは言えなくなるものもある。
それの繰り返し。
気持ちいいと言えるものが増えるほど
自分がクリアになっていく。

No.01358 (No.02114) 11.07.03

朝に開ける窓

朝起きて窓を開ける。
その朝の空気が入ってくる。
暑くても寒くても
過ごしやすくても厳しくても
清々しく感じる朝の空気。
夢を見て、内側にこもっていた意識が
外に向かって開いていく。

No.01359 (No.02115) 11.07.04

モロゾフのプリン

プッチンプリンもおいしいが、
プリンらしいプリンはモロゾフのプリン。
プリンの作り方を調べ、自分で作ると
プッチンプリンにはならない。
できあがるのはモロゾフのプリンに近い。
自作すると暖めすぎてプリンに鬆(す)が入ったり、
カラメルがうまく作れなかったりでなかなか難しい。
食べるときはまず底までスプーンを突き刺さす。
底からジワジワとカラメルが上がってくるのを待って食べる。
母が時々デパートでモロゾフのプリンを買って来てくれた。
ひとつひとつがずっしりとしているのでせいぜい六個、
荷物が多いと四個以上は買えなかった。
せっせと買って来てくれた母に感謝。

No.01360 (No.02116) 11.07.05

髪の毛の先にしたたる汗

朝起きて、一仕事したら朝の掃除をする。
窓を開けて、風を入れて、部屋の掃除をしていると
汗がにじんでくる。

掃除が終わって朝食を用意する頃には
髪の毛の先に汗がしたたる。
今日も僕はがんばっているぞとニヤッとしたら
ガッと食べて水を飲んで
冷たいシャワーを浴びて仕事再開。

No.01361 (No.02117) 11.07.06

甚平

2003年にはじめて
イスラエルとパレスチナの子供たちを呼び、
サッカー大会をしたとき、
イスラエルのNPOの男性が浅草で甚平を買った。
そのことを知らずに
たまたま合宿所に甚平を持っていったら
僕のものとまったく一緒だったのでおおいに盛り上がった。
翌年からピース・キッズ・サッカーでは甚平が流行った。
2006年のピース・キッズ・ワールド・サッカーでは
大会後の野外パーティーで
たくさんの男の子が甚平を着ていた。
夏には涼しくていい。
南の島に行くときも持っていく。

No.01362 (No.02118) 11.07.07

100% Chocolate Cafe

京橋の明治製菓の一階に100% Chocollate Cafeがある。
明治製菓が出したChocolateの専門カフェ。
いろんなチョコレートが手を替え品を替え出てくる。
昨日も行ってガーナ、タンザニアなど
アフリカのチョコを四種類買った。
アフリカの家をテーマに写真を撮り続けてている
写真家の日暮雄一さんにお土産として渡した。
いつも56種類の異なる味のチョコレートをそろえ、
その日だけのチョコレートというものも
ひとつ用意している。
はじめて行ったときに書いたBlogがこちら。
http://www.tsunabuchi.com/waterinspiration/?p=58
同じチョコレートにも
いろいろな物語のあることがよくわかる。
http://www.meiji.co.jp/sweets/choco-cafe/shop/

No.01363 (No.02119) 11.07.08

書いた手帳を読み直す

いつも手帳を持ち歩いている。
何か覚えておきたいことがあったとき
すぐに書き留めておくことのできる手帳。
そこにいろんなことを書いておくので、
しばらく読み返さないと忘れてしまうこともある。
それを読み直していくと
懐かしく思い出すこともあれば
感情がザワザワとすることもある。
手帳に書いたことをすべて完了していたら
きっととても気持ちいいだろうな。
未完了なことがいっぱいある僕を許す。

No.01364 (No.02120) 11.07.09

どなん

沖縄で「花酒どなんクバ巻き」を飲んだ。
与那国島の泡盛。
「どなん」とは
与那国島の天候が不安定で
船で渡るのが難しいから「渡難」と呼ばれ
そこからつけられた名前だと聞く。
アルコール度数が60度もあるために
飲むとのどがカッとする。
僕が関心を持ったのは
そのボトルがクバで巻かれていたこと。
クバとは「びろう」ともいい、
沖縄はもとより、日本全域で神木とされている。
日本書紀では「アジマサ」と呼ばれ、
ほかにも「蒲葵(ほき)」「コバ」などと
呼ばれることもある。

よく天狗の絵に
びろうの葉を団扇にしたものが描かれているが、
山伏修行者は同じものを腰にさし、
護摩焚きの際には使うそうだ。
沖縄では世の始まりのことを
「クバヌファユー(びろうの葉世)」といい
人はみなクバの葉で作った衣を腰にまとっていたと
語り伝えられているそうだ。
(宮崎県高等学校教育研究会事務部会ビローページより)

http://www.miyazaki-c.ed.jp/jimu-hr/main/birou.htm

大嘗祭のとき、その導入として「御禊」をおこなうが
そこに百子帳という天皇のための仮屋を作る。

その屋根も蒲葵(びろう)で葺くという。
とにかく神聖なものらしい。

その神聖な葉で巻かれたビンに入った泡盛なのだ。
それだけで有り難く、美味しく思えてしまう。

No.01365 (No.02121) 11.07.10

アフリカの車

エコマラソン印旛で知り合った写真家日暮雄一さんは、
何度かアフリカに取材に行った。
向こうで知り合った青年の車で移動したそうだが、
あまりにもボロボロな車だったので
「ボロボロだね」とつい言ったら
「エンジンはしっかりしてるんだ、ボディがボロボロなだけさ」
と答えた。
アフリカではボディとエンジンは積み替えて使うとのこと。
そこで日暮さんは
「ボディはいくらくらいで買えるの?」と聞いたら
さほど高くもなかったので買ってあげたという。
日本でエンジンを積み替えると言ったら大事だが、
それが当たり前のアフリカってなんか自由な感じでいい。
後日、その車で移動中、屋根のキャリアに荷物を載せたら
屋根の枠が壊れたという。

No.01366 (No.02122) 11.07.11

Google でトップ

白龍トマト館のホームページを作ったときの注文に
「白龍」で Google 検索すると
トップページに表示されるようにするというものがあった。
ホームページ作成当時はかなりハードルの高い注文だった。
「そりゃ無理でしょう」と言っておいた。
「白龍トマト館」で検索すれば
しばらくしてトップになるのはわかっていたが
「白龍」という単語では
すでに何百万件も検索できた。
それらを超えていかなければならない。
最近やっとトップページに表示されるようになった。
次の注文は「よくある料理名で検索トップになる」だ。
「白龍」でトップページに表示されるから
以前よりは簡単になったかもしれないが、
これもかなり難しい注文だ。
看板メニューである「トマトタンメン」では
すぐにトップが取れるようになったが、
ほかのメニューで取るというのはとても難しい。
全国の中華料理店×(タベログのようなサイト数)を
追い越していかなければならない。
しかし、ついに「中華丼定食」と「海老巻揚げ」は
トップページに表示されるようになった。
うれしいなぁ。

No.01367 (No.02123) 11.07.12

ホノルル・コーヒー・カンパニー

オアフ島に行くと必ずよりたくなるところのひとつが
ホノルル・コーヒー・カンパニー。
モアナ・サーフライダーという古いホテルの玄関脇にある。
ハワイ版スタバのようなところだ。
なぜここに行きたくなるのかは
実は僕自身よくわかっていない。
コーヒーがおいしいのは当たり前として、
雰囲気がいいのか、何が楽しいのか。
つらつらと考えるに、接客がいいのかな?
とにかく、オアフ島に行くと僕はここを一度は訪れる。
そして、マグカップを抱えて腰掛け、まわりの人を観察する。
そうだ、ここは人を観察するのにいいところなんだ。
老夫婦や若いカップルなんかがのんびりお話ししている。
若い父親が娘なんかにお話しするのにもいい。
それを聞くのが楽しみだ。
時々バックパッカーが本を読んでいる。
その様を見るのにもいい。
ワイキキあたりはいまでは都会と変わらないから
ハワイなのにみんなどこか緊張している。
それがなぜか解ける場所なんだな。

No.01368 (No.02124) 11.07.13

おから

ひさしぶりにおからを食べた。
とある日本料理屋のおいしいおから。
甘みと塩気がいいバランスでとてもおいしい。
おからに入っているしいたけやネギも愛おしくなる。
そんなおからを食べながら
思い出したのは母の作ったおから。
母のおからはお世辞にもおいしいとはいえなかった。
味はしょっぱめ。甘さがまったくない。
母はうちの料理にほとんど砂糖を使わなかった。
だからしょっぱさと甘さのバランスを取るということがない。
どの料理も甘さがないものだから、

たまには甘い料理も食べたいなと思っていた。
なぜ砂糖を使わなかったのかというと
父が糖尿病だったからだ。
料理に使わない分、少しのお酒を嗜んでいた。
子供の僕はいつも不満だったけど、
あれが母の愛情だったんだなと思う。

No.01369 (No.02125) 11.07.14

少々不便

世の中、なんでもかんでも便利になると
少々不便なことが気持ちよかったりする。
たとえば、最近の電力事情によって
エアコンをなるべく使わないようにしている。
少々不便だ。
しかし、そのおかげで朝の風の涼しさを感じる。
去年までであれば窓を閉めっぱなしで朝からエアコンをつけ、
「快適であればいい」とばかりに何も考えず
起きればすぐにエアコンのスイッチを入れていた。
ところが、最近の少々不便な状況のおかげで
今朝の風は涼しいということがわかる。
そんな僕がこんなことを言うのもなんだが、
愛情って、手間隙かけるところに生まれる。
その考え方に従えば、便利になればなるほど
愛情が生まれる機会を失っているのかもしれない。
部屋の温度をいつも好き勝手に調節していると
気候に対しての愛情なんて生まれようがない。

No.01370 (No.02126) 11.07.15

夏休み

子供の頃は夏休みが待ち遠しくて
なかなかその日にならなくて、
なったとしても長い時間に思えて
しあわせ気分にずっとひたっていた。
大人になるとあの時間感覚はもうどこにもない。
一ヶ月は「たった一ヶ月」。
「一ヶ月以上あって長い夏休み」の
感覚を思い出したくて、
窓を開けて昼寝する。

No.01371 (No.02127) 11.07.16

冬のハワイ

夏のハワイももちろんいいけど、
僕が好きなのは冬のハワイ。
雨が少し多いので虹が見られる。
運がいいとダブルレインボー。
それになんといってもクジラに会える。
静かな浜に行ってボーッとしていると
沖を群れが潮を吹いて過ぎていく。

No.01372 (No.02128) 11.07.17

手仕事

手作りのものは気持ちいい。
手作りで作るのも気持ちいい。
だけど人は効率を考える。
手作りのものは効率的ではないようだ。
効率的で安いものばかり求めると
仕事の大切さがわからなくなる。
できれば誰かのために作ってあげたいし
能であれば僕のために作ってほしい。
お金とか、時間の問題じゃないんだよな。

No.01373 (No.02129) 11.07.18

風鈴

うちの近所にあるマンションのベランダには
たくさんの風鈴がつり下げられている。
おそらくどこか一軒が吊るしたら
それがマンション中に流行ったのだろう。
南部鉄のようにチキンチキンと高い音を出すのから
江戸風鈴のようにコロンコロンと低い音のものまで
いろんな高さの風鈴の音が
風の具合であちらが鳴りこちらが鳴りしている。

No.01374 (No.02130) 11.07.19

休日に聞こえたピアニカ

休日に窓を開けていたら
どこかから子供が弾くピアニカが聞こえて来た。
ポアーッとか、ププカププカとか、
でたらめな音が続いたが、
しばらくしたら「キラキラ星」のメロディーになる。
のんびりしていていい感じ。

No.01375 (No.02131) 11.07.20

打ち水

エアコンをつけなくなったので、ベランダに打ち水する。
窓をあけたときに通る風の温度が変わる。
かつて近所のおばあちゃんがよく打ち水をしていた。

夏の暑い日、おばあちゃんの家の前の道には
きれいに如雨露でまいた水の線が描かれていた。
そのおばあちゃんは洗濯板で洗濯し、
板に和服を貼付けるようにして干していた。
打ち水と扇風機で涼しくなることと
近所のおばあちゃんの思い出が
僕のなかでセットになっている。

No.01376 (No.02132) 11.07.21

NIKE のランニング用ヘッドフォン

普通のヘッドフォンは
音楽を聴かせるために外界の音を
遮断するようにできている。
ところがこのヘッドフォンはランニング用のためか
外の音がよく聞こえるようになっている。
街路を走っていても危なくない。
車が来ればわかるし、
人が話していればきちんと聞こえる。
よほどボリュームを大きくしなければ安全に走れる。
これを時々走るとき以外にも使うことがある。
電車の中でもまわりの音が聞こえるので安心。
何年も使っていて、
いまでは新しいバージョンが出たかなと
ネットを調べたが、
どうやらもう売ってないようだ。
きっと故障するまで使い続けるだろうな。

No.01377 (No.02133) 11.07.22

アレクサンダー・カルダー

今朝、Google のサイトを見たら
トップページに不思議な模様が見られた。
なんだろうと思ってポインターをかざすと
ポインターの形が変わったのでクリックしてみた。
特に変化はない。
クリックしながら動かしたら、
その模様は動かした方向に動き出した。
「モビールみたいだな」
と思ったが、正体がわからない。
しばらくしたら上に
「アレクサンダー カルダー　生誕 113 年」
と表示されたのでクリックしてみた。
するとグーグルで
「アレクサンダーカルダー」が検索された。
はじめて知ったよ。
アレクサンダー・カルダーがどんな人か。

No.01378 (No.02134) 11.07.23

セヴァン・スズキのスピーチ

ひさしぶりにセヴァン・スズキのスピーチを読んだ。
気持ちいいとはいいがたい。
なにしろ 20 年もこの状況に何もできなかったのだから。
そんなきれいごとばかり言っていては何もできないと
開き直るつもりはないし、
かと言ってこういう社会を作り上げて来た誰かを
責めるつもりもない。
どちらかになることは
正しい視点を失うことになると思う。
地球上に何十億という人が生きているそうだが、
僕はその人たちを一度に見たことがない。
人間である限りきっとそれは無理だろう。
そうではあるが、イメージすることはできる。
何十億という人たちは同じ基準では生きていない。
真実も違えば信じていることも違う。
それでいいのだと思う。
僕たちはメディアでつながり
いっせいに同じことをし始めた。
それが問題なんだと思う。
同じように工業化し、同じように働き、
同じように食べ、同じように話し合い、
同じように所有し、同じように捨てる。
みんなが同じ「便利」とか「所有」とかで
動くようになったからうまくいかない。
では、どうすればいいのか、
その答えが僕にある訳ではない。
僕にできるのはただイメージするだけ。

飢えた人は欲しがる。
当然だ、欲しがらなければ生きていけない。
満ち足りた人も欲しがる。
ここに問題があるように思う。
満ち足りたら分ければいいのでは？
でも、すべての人がそうしなければならないとは
僕には言えない。
気づいた人がやればいい。
たくさんの人が同じことをするとそこに問題が生まれる。
自分がどの位置に立っているのか、

僕はそれに耳を傾けなければならない。

No.01379 (No.02135) 11.07.24

難しい漢字を書く

時々漢字を忘れる。
ノートに漢字を書こうとして出て来ない。
しかたないからひらがなで書いたりする。
だから難しい漢字をきちんと書くとうれしい。
たとえ覚えてなくても調べて書く。
よしよし、と思う。

No.01380 (No.02136) 11.07.25

リーディングリスト

Mac に入っている safari というブラウザに
リーディングリストという機能が入った。
ネットサーフィンしていると時々
あとで読みたいページを見つける。
そのままスルーしてしまうとあとで読めないので
ブックマークに「あとで読む」という項目を作って
そこに入れておいた。
それでも用は足りるのだが、面倒なのは読んだあと。
ここに入れたブックマークを消すのが面倒。
ブックマークのリストを呼び出して、
「あとで読む」の項目を探して、
そこから読み終わったページを見つけて削除する。
リーディングリストは
そこに登録したページをすぐに消すことができる。
さらに、一度読んだことがあるページか否かで
分別も出来る。
ほんの数ステップの違いだけど、
その数ステップの違いが気分を変える。

No.01381 (No.02137) 11.07.26

マインドマップ

企画するとき、
大きな紙を用意して関係する言葉を書き記す。
はじめのうちは適当に書いていたものが
次第に関係性を持ち始め、
なんとなくある方向性が生まれてくる。
それをマインドマップにするつもりはなかった。
マインドマップを知ったとき、
それはわざわざ教わることではないなと思った。
似たことをすでにしていたから。
だけど、マインドノードというソフトを使ったら、
マインドマップを作るのが楽しくなった。
わざわざマインドマップにしなくてもいいじゃん
とは思いながら、
ブランチの色がきれいだったり、
サクサクと作れてしまうその使い心地がいいから
ついマインドマップを作ってしまう。
道具って大切だね。

No.01382 (No.02138) 11.07.27

草履

近所で買った草履を履いている。
正確にはビーチサンダルの足の裏が当たる面が
畳地でできているという代物。
草履なんて履くことはなかったけど、
履いてみると快適だ。
ジムに行くときにひっかけるのにいい。
下駄とか草履とか、
鼻緒の部分が痛くなるから好きになれなかったけど、
今回はそれがない。
鼻緒の調節が大切なんだな。
甚平とか作務衣とか
うちのなかでしか着なかったけど、
これ履けば外にも出られそう。

No.01383 (No.02139) 11.07.28

西アフリカの土の家

日暮雄一さんのスライドショーを見た。
日暮さんは何年間か西アフリカに通い、
そこに建っている土の家の写真を撮りためた。
西アフリカの土の家はとてもセクシーだ。
見ていると興奮してしまうような
柔らかい曲線に囲まれている。
しかも手入れのいい家は
人の肌を思わせるかのごとく
表面がツルツルしている。
家がメディアだとして、
身体の表現の延長線上にあるものとするなら、
日本の普通の住宅より、
ずっと先進的に思えた。
壁を塗り直すための祭が
異様な盛り上がりを示すのも不思議ではない。
それはまさに土と人との交わりにほかならない。

家は、結果として生まれた子どもだ。

No.01384 (No.02140) 11.07.29

パラパラ漫画

昔、学校の授業がつまらないと
ノートの隅っこにパラパラ漫画を描いた。
ちっちゃな丸をあちこちと踊らせたり、
線で描かれた人を歩るかせたり走らせたりした。
そういうパラパラ漫画は下手な絵で、
ゆるゆるな感じで描いたものだ。
先日、なかひらまいさんが出展している
アートラッシュに行ったら、
アート作品としてのパラパラ漫画があった。
藤井康男先生はよく
「遊びを極めて文化にしろ」と言っていたけど、
まさしくその見本のような作品に出会った。

No.01385 (No.02141) 11.07.30

武盾一郎の絵

細かい線がびっちりと寄り集まって世界が生まれる。
マンデルブロ集合のように無限のなかに無限がある。
作品の中に音楽を閉じ込めるために
武はそれを線譜と呼ぶ。
生命が生まれでてくるカオスを内包し、
コスモスとシンクロするリズムを内在させた宇宙卵。

No.01386 (No.02142) 11.07.31

作曲

頭の中に生まれたメロディーを
実際に聞こえるようにする作業。
以前は楽譜を書いて
それを演奏してくれる人が必要だったが、
最近はコンピューターですべて作れてしまうので、
便利であるが、
演奏はやっぱり
楽器に熟達したひとに弾いてもらうのがいい。
自分の演奏ではノリが悪い。
でも、楽しいから、つい作ってしまう。

No.01387 (No.02143) 11.08.01

レインボービール

うちでは時々レインボービールを飲む。
なにそれ？　と思ったあなた、
あなたは正しい。
そんな銘柄のビールはない。
では、レインボービールとはいったいなにか？
ヱビスビールとヱビス〈ザ・ブラック〉を用意する。
まずはヱビス〈ザ・ブラック〉を細長グラスに注ぐ。
このときにわざと泡を立てるように注ぐのがコツ。
ビールが下 4 割以下、泡が 6 割以上になるのが理想。
この状態でグラスの 7 割ほどを満たす。
その状態になったら今度はヱビスビールを
ゆっくりと注ぐ。
このとき〈ザ・ブラック〉の泡の真ん中に
細くゆっくり注ぐのがコツ。
するとビールは下が黒く、上が黄金色になり、
うまくすると泡も、下が白く上がアイボリーの
グラデーションを見せてくれる。
これがレインボービール。
うちで勝手に命名して飲んでいる。
ただのハーフ&ハーフよりずっとおいしく感じる。
はじめの一口はちょっと香ばしいヱビスビールになり
飲むに従い〈ザ・ブラック〉の
深い味わいへと変化していく。

No.01388 (No.02144) 11.08.02

ロータス オリジナル カラメルビスケット

ロータスカラメルビスケットをおみやげにいただいた。
このビスケット、
時々コーヒー紅茶に添えられて出てくる。
とてもおいしいので覚えていた。
ザクザクザクという噛み心地と
少し強めの甘みと、
そしてほのかなシナモンの香りがとてもいい。
一枚食べると、もうすぐに次の一枚が食べたくなる。
喫茶店などでは一枚以上食べられなかったので
なんとなくしか覚えてなかったが、
これは一度に何枚も食べると病み付きになる。

No.01389 (No.02145) 11.08.03

イスラムのデザイン

現在発売中の「pen」はイスラムの特集。
建物にびっちりと描き込まれたデザインが
未知の宇宙に誘う。
キリスト教会が具象的絵画を
壁や天井に描くのとは対照的に
抽象的な模様が異世界への入り口となる。
植物文様と幾何的図形、
そして文字の組み合わせが
現世とは違うレイヤーを生み出している。

No.01390 (No.02146) 11.08.04

中国の透明人間

クーリエ・ジャポンの 6 月号に
中国のアーティスト、
リュウボーリン(劉勃麟)の作品が
掲載されていた。
人の上にペイントをし、
風景に同化させ、
透明人間のような状態にしてしまう作品だった。
そのときは、それがどうした？
という感じだったが、
先日、それが気になってネットを調べた。
クーリエ・ジャポンに掲載されていた作品では
よく理解できなかったが、
以下のサイトの作品でやっと意味がわかった。
なぜそのような作品を作るのか？
これは個人の存在を抹殺してしまう
中国への批判なんだな。

No.01391 (No.02147) 11.08.05

美味しいビールは三度注ぎ！

端田晶さんから著書をいただいた。
新刊の『美味しいビールは三度注ぎ！』
(ジョルダンブックス刊)だ。
端田さんの本はビールの話しか載ってない。
ビールで始まりビールで終わる。
それもそのはず、
端田さんは恵比寿麦酒館の館長をなさっていた。
学生の頃からビールが好きで、
それがこうじてサッポロビールに入社し、
ギネス、ミラー、青島など、
海外ブランドのマーケティングを担当し、
いまは社長付きとなって
好き勝手やっているらしい。(←ここ冗談です)
まるで釣りバカ日誌のハマちゃんだ。(←ここも joke ね)
その喜びが本からこぼれているので
それをすくって飲むのはとても美味しい。
最初のエッセイ集『小心者の大ジョッキ』を
出版なさった頃に知り合い、
以来、新刊が出るたびに本を送ってくださる。
しかも本と一緒にビアホールの割引優待券まで
送ってくださるので、
ついいただくたんびに
メルマガとか Blog に書いてしまう。
さすが広報担当。
今回いただいた本はまだつまみ読みしかしてないが
それでも面白い。
早くゆっくりと飲みたい、
ビールを読みながら。
しまった、本で酔っぱらった。
まだ朝なのに！

No.01392 (No.02148) 11.08.06

風の旅人

『風の旅人』という雑誌がある。
ぱっと見にはとても重苦しい雰囲気。
だけどよく読んでいくと引き込まれる。
言葉にできない何かを
追いかけている雑誌だということが
何度も読むことでわかってくる。
そういうことを追い続けるって
雑誌にはとても難しいことだと思う。
発行はユーラシア旅行社という旅行会社。
これを読むと、
その会社に旅行を頼んでみたくなる。

No.01393 (No.02149) 11.08.07

ハミルトン　パルソマティック

最近の腕時計はたいてい電池式となり、
自動巻が懐かしいなと思うことがある。
しかし、今時の自動巻腕時計は
なぜかびっくりするほど高かったりする。
稀少価値になったからだからだろうか。
多くの場合はブランド価値に

お金を払うようになっている。
「わざわざ自動巻にした
　このブランドはすごいでしょ」
ということだ。
しかし、そのさらに上に行くのが
ハミルトンのパルソマティック。
この腕時計は古めかしいデジタル表示だが、
自動巻なのだ。
面白いことするね。
この考えを延長すると、
ランニングマシンで走りながら発電して
その電気で PC を動かす時代が来るかもね。
なんて冗談で思ったら、
実際にそういうのがあった。
しかも二年も前に。

No.01394 (No.02150) 11.08.08
８月８日
僕はぞろ目が好き。
１月１日は元旦。
２月２日はスタン・ゲッツの誕生日。
３月３日は桃の節句。
４月４日は小学校のときの同級生外池君の誕生日。
５月５日は端午の節句。
６月６日はテトリスの誕生日。
７月７日は七夕。
８月８日は、白龍トマト館の開館記念日だ。
白龍トマト館のサイトでは、今日から毎日一本ずつ
動画を公開していく。
今日は店主の挨拶。
明日から美味しそうな映像が目白押し。
お楽しみに。
ちなみに９月９日は重陽の節句であり、僕の誕生日。
ぞろ目が好きな訳だ。
http://www.tomato-tanmen.com/

No.01395 (No.02151) 11.08.09
Yesterday Once More
僕が中学一年の頃に流行った。
とても好きな曲だったので何度も聞いたので
いまだに歌詞を覚えているのはもちろん、
この曲を聴くとあの頃の些細な思い出をたくさん思い出す。
リチャード・カーペンターは
カーペンターセンターというホールと
音楽教育施設を設立している。
http://www.carpenterarts.org

No.01396 (No.02152) 11.08.10
本を自炊
書棚にある本を自炊したらどうかと考えた。
カラーでスキャンすれば
赤線やマーカーも入るだろうからいいかもしれない。
しかも、読み取りソフトをかけてテキストにしておけば、
キーワードを探すのも簡単だろう。
書棚の本が減ったら、また気兼ねなく本が買える。
電子書籍を買えばいいのかなと思いつつ、
マーカーで線を引けないからなぁと思う。
デバイスで本を読むのって、やってみたがどうも気が乗らない。
本で読んで、線を引いて、自炊して、保存する。
能率的とは言いがたい。
気持ち優先か、能率優先か。

No.01397 (No.02153) 11.08.11
結婚の詩
「結婚の詩」と Google で検索すると、
1996 年に友人の結婚式のために書いた詩がヒットする。
いまだにその検索で
僕のページに訪れる人がいるのだが
それってすごいことだなと思う。
結婚式に呼んでくれて、詩を作って朗読してくれと
頼んでくれた岸英光さんに感謝。

No.01398 (No.02154) 11.08.12
アロハシャツ
暑いときはアロハシャツを着る。
ただでハワイに来たようで得した気分になる。
汗をよく吸って、
すぐに蒸発するような素材でできている。
僕のお勧めはトリ・リチャードというブランド。
ここのはとにかく肌触りがいい。
バリ島で買ったシャツもよく着るが、
これってなんと呼べばいいんだろう？
うちでは勝手にバリシャツと呼んでいるが、
一般には通じない。
暑い地域で着られている服は
暑いときに着ると心地よい。

アロ〜ハ〜。

No.01399 (No.02155) 11.08.13

Bluetooth

ちょっと前まで机の上は細いコードが邪魔だった。
キーボードやマウスのコードが。
あの細い、ちょっとしたコードが
あるのとないのとでは
気分がかなり違う。
机の上を別のことで使う時も
キーボードとマウスを簡単にどけることができる。
コードがついていると
本棚にちょっとどかすということができないし、
少し離れた場所にあるスキャナーを操作するにも
そこまでマウスやキーボードを持っていけなかった。
便利というのは中毒性があるな。
もう Bluetooth なしでは生きていけない。

No.01400 (No.02156) 11.08.14

ふたりで食べる

ひとりで食事をしてもあまり楽しくないが、
たとえ一言も話さなくても
相手が家族や友人なら、
二人で食べたほうが気が楽だ。
ひとりで食べているときの心細さは
いったい何なのだろう。
はじめてボーナスをもらったときに
大人ぶってひとりで高級フレンチに行ってみたが、
二度とするまいと思った。
食事は人数が多いほど安心する。

8 月 8 日から白龍トマト館の映像を
毎日一本ずつ公開しているが、
昨日まではひとりで黙々と食べる映像だった。
今日からは少しずつ工夫が入る。
今日公開の映像は、格闘好きな二人の青年が
一緒に食事をするというもの。
ひとがただ食べているだけの映像は
「そんなもの見てどうする」
と思っている間は面白くないものだが、
一度気持ちのスイッチが入ると
ジッと見入ってしまう。
くれぐれも空腹のときに見ないよう。
悶絶します。

http://www.tomato-tanmen.com/movie/

No.01401 (No.02157) 11.08.15

シャワーを浴びる

このところ毎朝、暑くて目が覚める。
汗かいて寝間着が大変。
起きたらすぐにシャワーを浴びる。
汗が流れてさっぱり。
さあ、今日もがんばるぞ。

No.01402 (No.02158) 11.08.16

パーティー

月に一度、たいてい第一水曜日に友人を誘って
パーティーをする。
いろんな人がいろんな人を連れてきて
いろんな出会いがあってうれしい。
仕事が生まれたり、
プロジェクトが立ち上がったりする。
ただ飲んで食うだけなんだけどね。
http://www.tomato-tanmen.com/movie/party.html

No.01403 (No.02159) 11.08.17

希望という名の光

山下達郎の新しいアルバム「Ray of Hope」を買った。
和みますね。
僕の世代には山下達郎の音は
しっかりと心のなかに碇を下ろしている気がします。
そのアルバムの中に「希望という名の光」という
アルバムタイトルのもととなった歌があるのですが、
いまの日本の状況に対しての応援歌に聞こえる。
ネット上で聞けるかなと思って検索したら PV がヒットした。
この PV もほのぼのしていていいね。
中国の CM も見られるし。

No.01404 (No.02160) 11.08.18

アドリブをする

ひさしぶりに音楽をまじめに作った。
20 年前に作曲した作品のリメイクだ。
途中でスチールドラムのソロがあるのだが
そこがアドリブで、演奏するのが楽しかった。
アドリブって、コード進行がからだになじむまで
何回か練習しないと
なかなかいいアドリブにならない。
制作にたった一日しかかけられなかったので
本当にからだになじんだかはまだ疑問が残るけど、
まあ一日にしてはいいかなってふうになった。
もっと音楽作りたいなぁ。
http://bit.ly/obNVTn

No.01405 (No.02161) 11.08.19

島で暮らす

いま発売中のブルータスの特集が、
「たとえば、
　いま、
　あなたが
　都会を離れて
　島で暮らす
　としたら。」
というものだ。
さっそく買って読んでみた。
のんびりさ加減が良さそうだけど、
人生が過酷にもなりそう。
バランスをどう取るかだね。
都会では水も食料も誰かが持って来たものを買う。
小さな島では買いたくても買えないものがあり、
それで十分という割り切りが必要だ。
吾唯足知の実践の場だ。
島にもよるだろうけど。

No.01406 (No.02162) 11.08.20

Sad Cafe

江古田に好きなレストランバーがある。
イーグルスの名曲「The Sad Cafe」を
店名にしたレストランバー。
できてから 30 年くらいたつ。
暗い店内では Jazz が流れ、
ゆったりと落ち着きたいときにいい店だ。
大学生だった僕は、
ここができたばかりの頃から通い始め、
いまだに時々行く。
サラリーマンのときには
会社帰りに寄ってボーッとした。
その頃ここで働いていたお姉さんが
きれいでよく気がついて素敵な人だった。
三時か四時の閉店のときに一度だけ
イーグルスの「The Sad Cafe」が流れる。
ここでの「The Sad Cafe」は
もうずっと聞いていない。

No.01407 (No.02163) 11.08.21

海で泳ぐ

年に一度は海で泳ぎたい。
シュノーケリングと足ひれつけてスイスイと泳ぐ。
少し塩っぱいのが気持ちいい。
魚や亀やイルカと泳ぐのが楽しい。
少し深くもぐった時の水圧のかかり具合が懐かしい。

No.01408 (No.02164) 11.08.22

涼しい朝

昨日の朝は休日で涼しかったので、
ベランダに置いてある椅子を塗り直した。
雨ざらしだったので
ペイントがザラザラとはがれ落ちてきていた。
特に日光のあたる部分が激しく、
紙ヤスリで丁寧にまずは削る。
三種類の紙ヤスリをかけてからペイントした。
次の涼しい休日の朝に重ね塗りするつもり。

No.01409 (No.02165) 11.08.23

ハワイのペトログリフ

ハワイのあちこちにペトログリフがある。
10年以上前にそれを探してあちこちまわった。
ビショップ・ミュージアムの書店で
研究書を手に入れて、
行った先々でついでに見て回った。
一度にたくさん見るためにはカウアイ島に
ペトログリフをテーマにした公園があるので
そこに行くといい。
砂岩や粘土の上に
たくさんのペトログリフが刻まれていた。
ハワイ島のキラウエアの火口から
流れ出していた溶岩の近辺にもたくさんあった。
人を描いたペトログリフが多いのだが、
股を開いて腰を落として、
古式フラの基本形のような格好で
描かれているのが多い。
いまでも時々思い出して、
女房とその姿を真似してみる。
そのかっこうで写真を撮ると、
バカバカしくて、笑えて、元気がでていい。

No.01410 (No.02166) 11.08.24

個展

友人や知人があちこちで個展や同人展をしている。
自分の主張がはっきりあって、
その世界が表現できるというのは素敵なこと。
誰かの作品の前に立つと
自分自身の主張は何か？という
疑問を持たざるを得ない。

No.01411 (No.02167) 11.08.25

未来市場創造会×kyobashi TORSO

未来市場創造についての勉強会を
これからシリーズでおこなうことになった。
場所はリンクプレイスという会社のオフィス
kyobashi TORSOでおこなう。
どのような経緯があったのか、こちらに記した。
http://www.tsunabuchi.com/waterinspiration/?p=2540
そこで扱う今回のテーマは
「微細藻類が東北を救う　～　田んぼからバイオ燃料」
というもの。
原子力発電を次第に減少させ、
自然エネルギーに転換していくためには
まずはいろんな自然エネルギーを
実際に使ってみないことには
いいことも悪いこともよくわからない。
僕たちはちょっとした面倒を拒んだために
放射能汚染を受け入れなければならなくなった。
これからの世代が、
どんなことを受け入れるべきなのか、
実際に試してみない限り
わからないことがたくさんある。
微細藻類からオイルを抽出することも、
はじめのうちは効率が悪いかもしれず、
少々値段が高いかもしれないが、
研究を始める前からあきらめていては何も始まらない。
ソーラーパネルも昔はひどく効率の悪いものだった。
最近ではかなり効率も上がった。
もしソーラーパネルは効率が悪いからと
研究をしていなかったら、
現在のように普及はしなかっただろう。
未来の市場を創るというのは、
ただ企業の利益だけを考えていたのではうまくいかない。
何世代もの先を見越して

どんなビジョンで今を考えるか、
それを問われる時代になった。
http://www.futuremarketcreation.com/

No.01412 (No.02168) 11.08.26

集まることで現れるもの

パソコンはたくさんの部品とソフトでできているが、
バラバラにするとパソコンの実体はそこにはない。
生命もいろんな部分からできているが
バラバラにするとその実体は失われる。
僕たちの社会もたくさんの部分から構成されるが
バラバラにするとその実体はやはり失われる。
各部分が、ある法則に則って集まることで
そこに立ち現れてくるものについて
僕たちはそれを統一的に語る言葉を持たない。
あるときは機能であったり、
あるときは命であったりする。
立ち現れてくるものにつける言葉が違うから
僕たちはそれらを違うものと感じるが、
同じ言葉で表現し、共通性をつぶさに見ていったら
新しいものの考え方ができるようになるかも。

No.01413 (No.02169) 11.08.27

夢中になること

夢中で何かするのはいい。
文章書いたり、音楽作ったり、
本を読んだり、ウェブページを作ったり。
夢中でやっているとアイデアが次々と浮かんで、
どれを採用するかに困る。
夢中になるのは楽しいけど、
約束の時間を忘れたりするので
アラームをかけ忘れると困ったことになる。
集中できない時は、
夢中になれる時が来るまで待つ。

No.01414 (No.02170) 11.08.28

Sound Cloud

ネットにつながる世界中の人たちが
それぞれに勝手に音楽を作っている。
それぞれの音楽がとても豊穣でびっくりする。
いままでの音楽産業では
伝えられなかったいろんな音楽が
ここでは聞ける。
確かにつまらない音楽もあるが、
いい作品に巡りあうととてもうれしい。
http://soundcloud.com/

No.01415 (No.02171) 11.08.29

誰もいない浜

ロタ島の浜辺はどこも人がいなかった。
南洋の燦々と陽光が降り注ぐ
とてもきれいな浜辺を前にして
人がいないのが不思議な感じだった。
珊瑚礁が隆起してできた島だから
遠浅で波がほとんどない。
岩礁の見える静かな浜を独り占めした。
ロタ島では車を運転していると
対向車のドライバーが
必ず手を挙げて挨拶してくれる。
これだけ人が少ないと
自然と他人に優しくなれる。

No.01416 (No.02172) 11.08.30

再創造

まったく新しく作り直すことは
執着が手放せればとても気持ちいいこと。
だけど人間は執着をなかなか手放せない。
この 20 年の間にかなり訓練されたけど、
これから激しくなる再創造に
ついていけるかどうかは
自分の執着が手放せるかどうかにかかっている。
多少の苦労があっても
生きていればきっといいことがある。
執着を手放せずに泣き言言っている自分を
他人の視点から見て楽しんでみよう。

No.01417 (No.02173) 11.08.31

さよなら夏の日

朝、ラジオから「さよなら夏の日」が聞こえて来た。
20 年ほど前の山下達郎のヒット曲。
会社の先輩と行った、出張先のスナックで歌ったら
帰って来てすぐにおこなった宴会で
部長にそれを歌えと言われた。
きっと先輩が僕の歌ったその歌について
何か言ったのだろう。
「最近歌ったばかりだから別の歌いますよ」

と言ったら、部長は
「その歌じゃなきゃ嫌だ」と
半ば強制的に歌わされた。
その部長が、いまではその会社の社長になっている。
あれから何度夏にさよならを告げただろう。

No.01418 (No.02174) 11.09.01

藻をなめる

次回の未来市場創造会の準備のため、
テーマとなる藻をなめた。
ナンノクロロプシスという名の藻。
正確に言うと微細藻類のひとつ。
海の中で育つ小さな生命。
海水と二酸化炭素と太陽の光があれば
光合成をする。
青魚に含まれる EPA は
これら微細藻類が作り
食物連鎖の結果蓄積される。
ナンノクロロプシスはほのかに海苔の味がする。
藻を習慣的に食べるのは日本人だけだったようだ。
いまでは寿司文化の輸出で
海苔を世界中の人たちが食べている。
藻は地球を救うのだよ、きっと。
藻がバイオ燃料を作り出すのだから。
http://www.futuremarketcreation.com/

No.01419 (No.02175) 11.09.02

泥団子を作る

泥団子を作るワークショップに参加した。
しかし、泥団子なんて、
わざわざワークショップで作るものじゃない。
幼い頃、水たまりのグジュグジュになった泥を使って
泥団子を作った。
手でつかむとニュルニュルと
指の間から漏れ出てくるような泥を
まるく団子にしたものだ。
そんなことを大人がするの？と思ったが
さにあらず。
左官の技術を使って、ピッカピカの泥団子を作る。
こんなふうに泥団子ができていく。
http://bit.ly/ikO3Ds
9/19 にはここで教えてもらえるそうだ。
http://cgalleria.exblog.jp/16745714/

No.01420 (No.02176) 11.09.03

リモートコントローラー

プレゼンテーションに使うための
リモートコントローラーを買おうと
アップルストアに行った。
使いたい機種を聞かれたので
MacBookAir と答えたら、
初代の MacBookAir 以外では使えないという。
それは困ったなと思っていたら
何のソフトをリモートコントロールしたいのか
と聞かれたので
「Key Note」と答えたら、
iPhone を持っているかと聞くので
iPodTouch なら持っていると答えたら、
WiFi の環境があれば、
それがリモートコントローラーになるという。
AppStore で「Key Note Remote」という
アプリケーションをダウンロードすればいい。
帰ってやってみた。
アプリはただ、iPodTouch はもとから持っていたので
1 円も使わずにすんだ。
iTune のリモートコントローラーも
アプリケーションになっている。
とても得した気分。
しかも、iPodTouch をコントローラーにすると
手もとでも画面が確認できるようになっている。
こんなに便利になっていいのかなと
心配になってしまうくらい。

No.01421 (No.02177) 11.09.04

古いコンピューター

使い慣れた古いコンピューターが好き。
新しくて性能が良くて、
反応が早くて扱いやすい
新しいコンピューターも好きだけど、
古くて、性能がいまとなっては良くなくて、
反応が鈍くて、扱いにくいコンピューターも、
買ったばかりの頃は
性能が良くて反応が早くて扱いやすかったのだから
ポイッと捨ててしまうのはちと悲しい。
買ったばかりの新しいコンピューターも
あと何年かすれば必ず古いコンピューターになる。

昔、自動車の扱い方を問題にした本があった。
最新型が登場すると、中古車市場でも値が落ち、
人は売り払う価値があるうちに売ろうとする車。
いつもそのような価値観にさらされていたら
人は人に対しても
同じような価値判断をするのではないかという
考察をしていた。
それが本当かどうかは知らないが、
もし本当だとしたら
コンピューターの扱い方はもっと凄惨だ。
車はまだ多くの人が、
たとえ市場価値を持たなくなっても乗っている。
「メンテが大変」などと言いながら
懐かしい思い出とともに生きる人たちがたくさんいる。
コンピューターはどうだろうか？
Web 環境が進んだり、ソフトが使えなくなったりして、
愛着を持って使い続けることがとても難しい。
それでも使い続けるのはよほどの粋人だ。
外見は古いコンピューターだが、
中身は最新型なんていうコンピューターも
そのうちたくさん売られるようになるかもしれない。
昔聞いた曲を iPod に入れて持ち歩くように。
昔乗っていた車にもう一度乗りたいと思うように。

No.01422 (No.02178) 11.09.05

いつものこと

いつもする行動は
たとえどんなにそれが素敵なことだろうとも
人はしばらくしたら
「当たり前」の退屈なことにしがち。
いつものことがいつものようで有り難いと
思えるようになったら
それはとても素敵なこと。
昔、日本人は毎日神棚にお参りしていた。
それは神様に対しての礼儀であったのと同時に
いつものことに対しての感謝を捧げることを
習慣化させる儀式だったと思う。
今日も「日刊　気持ちいいもの」を発行できました。
ありがとうございます。

No.01423 (No.02179) 11.09.06

The Brothers Four

The Brothers Four が好きなどというと
若い人にはたいてい「なにそれ？」という顔をされる。
最近聞いてないなぁと思って検索したら、
いまだにアメリカではコンサート活動をしている。
グループ結成から 50 年がたったそうだ。
僕が幼い頃、兄が友達とギターを弾いて
The Brothers Four の歌を歌っていた。
ハーモニーがきれいで、シンプルで、いいんだよね。
彼らのハーモニーを聞いたり、思い出したりすると
心がうずうずする。

No.01424 (No.02180) 11.09.07

自然エネルギー財団

ソフトバンクの孫さんが
『自然エネルギー財団』を設立する。
見事だ。
以前からこのような動きが必要だったのは確かだが
多くの人にはきっと響かなかっただろう。
いまこれを立ち上げるというタイミングがいい。
いまだに「原子力発電は残す」
なんて言っている政治家とは大違いだ。
現状で残すか残さないかの議論をするのではなく、
残さずに済むような状況を作らなければ
残すしかなくなってしまうのは誰の目にも明らか。
そこで足踏みして原発を残していたら
日本人がいかに馬鹿かとうことになる。
原発を残さずにも済む方向に動いていって
はじめて可能になるだろう、脱原発。
http://www.renewable-ei.org

No.01425 (No.02181) 11.09.08

手のひらが描けたとき

幼い頃、たくさんお絵描きをしていた。
自分で描いた絵が
実物とはそっくりではないことを理解はしていたが、
それをどうやって解消すればいいのかは
わからなかった。
あるとき、自分の描く手のひらが
実際の手のひらと違うことを観察した。
そのとき、僕が描いていた手のひらは
腕からまっすぐ、指まで直線が続き、
腕の輪郭である二本の直線の先っちょに
細い指が五本ついているという代物だった。
手首の先で手のひらが、腕より幅が広くなることを

表現できていなかった。
ところがあるとき、ふと気づく。
腕から手のひらになるところは
ちょっと幅が広がるじゃないか。
それから、もみじのような手のひらを
描くようになった。
いまとなっては馬鹿げた話だが、
当時の僕にとっては大発見だった。
以来しばらく、先割れスプーンの先が
五本に割れたような手や指を描くことになる。
得意げに。
いまでも、きっとわかっている人にとっては
馬鹿だな、と思われるようなことを
たくさんしている。
それでも、子どもの時のように
得意げにやるしかない。
本当に自分が理解するためには。

No.01426 (No.02182) 11.09.09

この世に生まれ出たということ

僕は生まれる前の記憶を持っていない。
『胎内記憶』などという本を書いておきながら、
自分にはそれがない。
生まれる前の記憶は何もない暗黒だ。
だから『死』ということも
同じようなものだととらえている。
暗黒の世界に戻るだけ。
生まれる前の暗黒の世界はなんの恐怖もない。
ただ、何もないだけ。
死んでその状態になると思うと怖く感じるのは
生きている今が光に満ちあふれているから。
光に満ちあふれた今を抱きしめよう。
感情にまみれた感覚を満喫しよう。
自分にできるのは今を楽しむことだけ。
そして、今が楽しめるから、生きているって素敵。

No.01427 (No.02183) 11.09.10

What are you doing the rest of your life

僕が中学生のとき、
兄がジャズアルバムを買って来た。
ミルト・ジャクソンの「Sunflower」。
朝焼けに光る空を背景に
ダチョウの頭が
シルエットになっているジャケットだった。
CTI のアルバムなので、好まない人もいるけど、
僕はこのアルバムでジャズが好きになった。
ストリングスが絡んでとてもゴージャス。
このアルバムの中に
What are you doing the rest of your life
が入っている。
ずっとインストのスタンダードだと思っていたが
女房の誕生日プレゼントは何にしようかと思い
いろいろと探しているときに歌詞を見つけた。
女房は「サウンド・オブ・ミュージック」のファンで、
何度も DVD を見ているので
主人公を演じていたジュリー・アンドリュースの
最近のアルバムでも買ってあげようかなと思って視聴した。
そのなかに
What are you doing the rest of your life
が入っていた。
歌詞がとても心に沁みた。
僕が 50 歳の誕生日だったというのも
沁みた理由の一つだろう。

No.01428 (No.02184) 11.09.11

ハワイアンホーストのマカデミアナッツチョコ

僕が小学生のとき、兄がハワイに行った。
当時はまだ 1 ドル 360 円の頃で、
海外旅行は高嶺の花だった。
兄はある裕福な人に招待されて旅行に行った。
その寄港地の一つがハワイだった。
兄はそこでおみやげに
ハワイアンホーストのマカデミアナッツチョコを
買って来てくれた。
はじめて食べたマカデミアナッツチョコは
とても美味しくて、ひとつ食べるごとに
減っていくのがとても残念だった。
ハワイの温度でも解けないように
口のなかに入れてもしばらくは
チョコレートが溶けて来ない。
ところが、ある点を超えると急に滑らかに溶けてくる。
この溶けたチョコとマカデミアナッツが
口のなかで混ざると、
なんとも言えない美味しさが生まれる。
時々はチョコが溶ける前に噛み砕き、
ガシガシと味わうのもいい。

今ではちょっとおしゃれな百貨店に行けば
ほとんど必ずと言っていいほど売られているが、
当時日本では滅多に入手できなかったと思う。
このチョコを食べるためにハワイに行きたいとさえ思った。

No.01429 (No.02185) 11.09.12

久石譲の音楽

僕がはじめて久石譲の名を聞いたのは
高校一年の時だった。
シンコーミュージックが出していた
吹奏楽用の『ロッキーのテーマ』の編曲を
久石譲がやっていた。
シンコーミュージックの楽譜は
あまり凝ったものではないのが通例だったが、
『ロッキーのテーマ』はよくできていた。
原曲はCで始まるが、
その編曲はE♭で始まっていた。
演奏する前はそれが少し不満であったが、
実際に演奏すると、吹奏楽団にとっては
CよりE♭で始まる方が音が輝いて聞こえた。
繰り返しの多い曲だったが、
一度目と二度目ではメロディーが同じなのに
構成している和音のテンションが
変えられていたりした。
凝った編曲しているなと思ったら
一、二年後にニュー・サウンズ・イン・ブラスの
編曲も手がけるようになった。
こちらはヤマハがやっている吹奏楽用の楽譜だが、
よく練られた編曲がなされていて
人気のシリーズだった。
それから数年がたち、大学生の頃、
テニスサークルの先輩のうちに遊びに行き
ビデオで『風の谷のナウシカ』を見せてもらった。
そのときのクレジットに久石譲の名前を見つけ
驚いたし、うれしかった。

No.01430 (No.02186) 11.09.13

秋の気配

朝夕に秋の虫が鳴いている。
満月がいつもより輝いている。
蚊が急にがんばりだした。
朝のシャワーの水が冷たくなってきた。
少しだけからだが気怠い。
日焼けのあとがいとおしい。

No.01431 (No.02187) 11.09.14

活気

石巻駅の前に立つと、
ここまで津波が来たというのが
信じられないほどきれいだし
活気がある。
駅前にいたタクシーに乗せてもらい
坂を下って海のそばに行くと
津波に流された地域があった。
かつての住宅地はきれいに流され、
ヘルメットをかぶった人たちが
重機やダンプとともに黙々と働く。
商店街の明かりは消えてしまったところもあるが
希望に対する心の明かりは
この地の人たちの心のなかに輝いている。
大変な話をなまりの強い運転手は
当たり前のように話してくれた。

No.01432 (No.02188) 11.09.15

さっさとやる

石巻で水産加工業の会社を経営している社長に会った。
その会社は津波の被害を受け、社屋はすべて全壊や半壊した。
多くの会社が国や行政の対応を見守る中、
彼はさっさと身銭を切って工場の一部を再建した。
復興用の重機が動き出す前に自分の伝手で機材を集め、
工場内の使えそうな機械を分解掃除して
新品同様のピカピカなマシンに仕立てた。
新しい仕事も取って来た。
たくさんいた社員の一部はそれまでお世話になった他社の
お手伝いに出向させた。
津波の被害を受けたほかの工場はざっと見渡した限り
まだどこも動いていない。
政治の風向きを見ている限り、どこにも行けなくなってしまう。

No.01433 (No.02189) 11.09.16

ニューグレンジの遺跡

日刊　気持ちいいものを書こうとして
アイルランドのニューグレンジの遺跡を思い出した。
十数年前に行った。
遺跡だから今も変わりはないだろうとは思ったが
グーグルアースで調べてみる。

見つけた。
なんと立体画像になって中にまで入れる。
だけどまだ完璧ではない。
僕の記憶では遺跡の裏にも渦巻き状の石盤があったし
遺跡の中は細長い通路になっていた。
行ったことがない人がこれを見たら
ニューグレンジはこんなものと勘違いしてしまう。

遺跡の中は入り口から細い通路が奥までつながり、
その先の壁に埋め込まれた白い大きな石があり、
その下に台のように大きな石が置かれていた。
冬至の朝にだけ入り口から入った太陽光が
壁に埋め込まれた石に差し、
反射して下に置かれた石を明るくする。
きっと宗教儀式のように使ったのだろうが、
実際に何に使ったのかはわかっていない。

Google で「天使の行進」と検索すると
アイルランドの旅行記が読める。

No.01434 (No.02190) 11.09.17

BORN TO RUN

クリストファー・マクドゥーガルの書いた
BORN TO RUN という本を一年半ほど前に読んだ。
日経ビジネスにレビューが載っていたので思い出した。
この本も読むに従って爽快になる本だった。
なぜ爽快になるのか。
本の趣旨が走ることの秘密に触れていくからだ。
著者はメキシコの奥地に住むと言われている
タラウマラ族に会いにいく。
彼らはものすごく強靭な体を持ち
まる二日にわたって何百キロも走るのだという。
その秘密を知ろうとして旅をする。
そしてついに発見することは
彼らの走ることについての愛だった。
当時僕は靴底の厚い靴を履いてジョギングしていた。
膝へのダメージを軽減するためにそれを履いていた。
しかし、ある程度走れるようになると
膝の痛みはほとんどしなくなり、
靴も軽量のものに変えるかどうか迷っていた。
その頃にこの本を読んだので
さっそく靴底の薄い靴に変えた。
以来ずっと靴底の薄い靴で走っている。
39 歳でジョギングを再開させるまで
僕は走ることへの愛情なんて忘れていた。
走ることは大変疲れることだと思い込んでいた。
確かにずっと走らずにいるとからだがなまり
走ると疲れる。
その状態がおかしいのだ。
いまでは週に数回一時間で 10 キロ弱走る。
コンスタントに走るようになって泳ぎも始めた。
走るのも泳ぐのも力を抜いて楽に進む。
これがコツだ。
こうしていれば一時間の運動ではたいして疲れない。
一時間で 2 キロほど泳げる。
10 キロ走ったり、2 キロ泳ぐというと驚かれるが
力を抜くことができれば爽快に続けることができる。
運動のなかに喜びを見つけることができる。

No.01435 (No.02191) 11.09.18

ライオンの鳴き声

ケニアで夜中、窓の外でライオンが鳴いた。
その鳴き声で僕はぱっと目が覚めた。
その声には、とても人の発することのできない
音が含まれていた。
音の圧力が違う。
とても怖かった。
都会に住んでいると命の危険を感じることはないが
このときばかりはそれを感じた。
どこにいるかわからないライオンの声だけで。
テレビや映画で何度もライオンの声は聞いていたが、
実際の声はそれらとは全く違う。
メディアでは流せない
とても低い音が含まれていると思う。
その音を聞いただけで固まってしまうような音。
こちらの存在を悟られないように
息を殺して潜んでいた。
いまとなってはいい体験だった。

No.01436 (No.02192) 11.09.19

グーグルマップのストリートビュー

はじめて行く場所はグーグルマップで調べていく。
駅からの道順をストリートビューで見ておくと
迷わずに行くことができる。
PC 上で一度歩いた道を実際に歩くと

なぜか頬が緩む。
知らないはずなのに知っている道って
不思議で楽しい。

No.01437 (No.02193) 11.09.20

つながり

人は同じ苦痛や悲しみを持っていると
つながることができる。
ヒリヒリとした感情を乗り越えるために
人は集まる。
きっとこの世が気持いいもので満たされてしまったら
人はもう他人への興味を失うだろう。
気持いいものに引かれるのは
気持よくない状況を感じているから。
気持ちいいものに繊細になればなるほど、
気持よくないものの実態が見えてくる。
気持いいものもよくないものも
執着の裏と表。
人はそのどちらかで感情を揺らす。
執着を越えてつながると
それは結果として淡い交わりになる。

No.01438 (No.02194) 11.09.21

Google でトップページ

時々自分のサイトのアクセス解析をする。
いろんな項目でチェックするが、
どんな語句で検索されたかを調べるのが面白い。
たくさん検索されている言葉は
たいてい Google でその言葉を検索すると
僕のページがトップページに掲載されている。
同じ言葉が何百万とあるインターネット上で
上位 10 位に選んでもらえるなんてとても光栄。
しかも不思議なことにそういう言葉がいくつかある。
なぜそうなるのか不思議がられるのだが、僕も不思議だ。

No.01439 (No.02195) 11.09.22

台風一過

滅多にない激しい台風が過ぎていった。
うちのベランダに置いてあった鉢植えが
吹き飛ばされてしまった。
こんなことははじめてだ。
今朝は遠くがすきっと見える。
富士山も気持ちよさそう。

No.01440 (No.02196) 11.09.23

たかいたか〜い

小さな子供の相手をするのに
なんといっても必殺技は「たかいたか〜い」だ。
たいていの子はこれが大好き。
その喜びようにこっちもうれしくなる。
ただし、飽きるまでして上げられる
体力と気力がないと
「やってほしいよ〜」と
泣かれることになるので要注意。

No.01441 (No.02197) 11.09.24

無報酬でもやる仕事

昔に聞いた理想の話。
人は働く必要性を失っていく。
なぜならたいていの仕事は機械でできるから。
その代わり人は、自分が本当にしたいことだけを
仕事とするようになる。

ある人は庭師になり、
ある人は音楽家になり、
ある人は小説家になり、
ある人はコックになり、
ある人は先生になり、
ある人はゴミの回収をし、
ある人は農夫になり、
ある人は魚を釣り、
ある人は給仕になる。
ある人は(ここにあなたのなりたい職業を入れて下さい)
になる。
そんな世界がいつか来る。

その世界の入口になるような話。
http://www.lifehacker.jp/2011/09/110910quitpost.html

No.01442 (No.02198) 11.09.25

村上春樹の短編を英語で読む

一時期『群像』を毎月読んでいた。
それは『村上春樹の短編を英語で読む』という
連載評論を読みたかったから。
それについてはここにも書いたが、
http://www.tsunabuchi.com/waterinspiration/?p=1449
単行本になったので読み直した。

もうとても見事で必死になって読み、
読んでいることでとても満足した。
ほかの面白い本を読んでいたのだが、
それを脇に置いてこの本ばかり読んでいた。
著者の加藤典洋が書いたように
村上春樹が意図したかどうかはわからないが、
これだけのたとえを小説群のなかに埋め込んだとしたら
それをした村上春樹もすごいが、
それを暴き出していく加藤典洋という人にも頭が下がる。
村上春樹の作品群から
あれだけ多くの隠された思いを
読み出してしまう力に敬服してしまう。

No.01443 (No.02199) 11.09.26
物まねをする
自分の殻を破るのにいろんな方法があるだろうけど
簡単にできるのは、誰かの口調を真似してみること。
いつも自分は自分の殻をかぶっている。
だから自分の言い方では言えないことがたくさんある。
ところが誰かの言い方を真似してみると、
自分の言い方では出て来なかったような話が
ぽんぽんと出てくる。
言い方を変えるってとても大切。

No.01444 (No.02200) 11.09.27
瞑想する
考えることが当たり前の人間にとって
何かを解決する最良の手段は考えることだと思いがち。
しかし、動物たちは考えることなしに
いろんなことを実現する。
動物にとって自分ができることをするのは
考えることがなくても当たり前にできること。
人間は理論的に考える術を持つことによって
ほかの動物より少し有利に
生き延びることができるようになった。
しかし、人間の中には
動物のように考えることなしに
効果的に行動できる様式が残っている。
危機が迫ったとき、
考える暇もなくとっさに行動してしまうのは
そのシステムが作動した証拠と言える。
瞑想も、そのようなシステムを作動させる。
その作動は理屈ではない。
人間の理屈を越えた何者かに導かれるような体験。
それを味わうためには
普段の思考を手放さなければならない。

No.01445 (No.02201) 11.09.28
インターネット黎明期
きっとメディアの黎明期は、
どんなものでも面白いものなのだろう。
10 数年ほど前にインターネットの黎明期があった。
その頃はつまらないホームページでも
作っておくと誰かが見ていった。
僕が作った「つなぶちようじの生息域」というページは、
真ん中に草の地平線があり、
そこに一頭の牛がいただけだったが
カウンターは勢いよく上がっていった。
そこにイベントの告知をすると
海外からも人が集まった。
まぐまぐも今のように有名人の有料メルマガばかりではなく
無名の人がいろんな工夫をして読者を獲得しようとしていた。
人の好奇心の爆発が見られて楽しかった。

No.01446 (No.02202) 11.09.29
スカイデッキからの夕焼け
晴れた日の夕方、六本木界隈にいたら
六本木ヒルズの屋上にあるスカイデッキに上がる。
東京が 360 度見渡せる。
夕日からまっすぐと光の道ができる。
日が沈むに従い、東京の街がまるで海のように輝き、
色を失い、闇に沈む。
空が暗くなるときらびやかな夜景が現れる。

No.01447 (No.02203) 11.09.30
聖者に会う
聖者と言われる人に出会う機会があったら
とにかく会いに行く。
用がなくてもいい。
ただ会う。
聖者と呼ばれる人はただ会うだけで価値があるから
聖者と呼ばれる。
その聖なる場に含んでいただけることだけで十分。

No.01448 (No.02204) 11.10.01

皇居の二重橋前

皇居前広場から入り、二重橋がよく見えるところに立つ。
そこは警察の見張所からよく見える場所。
誰もいないことが多い。
都会の真ん中でこんなにも人がいなくて
清々しい場所はほかにない。
20年近く前ここに立ち、僕の親父(綱淵謙錠)から
明治維新の遷都の行列について話を聞いた。
親父は『斬』という小説にそのことを詳しく書いている。
この年末か年始に新しく出版し直される予定だ。

No.01449 (No.02205) 11.10.02

穏やかに過ごす

1994年、一頭の象にケニアに会いに行った。
象の名はエレナ。
そのときの詳しい話はここにある。
http://bit.ly/4ZzJZP
象は危険な動物だと言われていた。
人がいると襲ってくるからだ。
だけどそれは人間のせいだった。
人間は象を狩った。
象はそれに対抗するために凶暴になった。
ほかの動物もきっと同じようなものだろう。
危機を感じたり、空腹だったりすると
凶暴にならざるを得ない。
人間もその時々の感情や状態で行動が変わる。
感情はまわりに伝播する。
いらいらして動物のそばにいたら大変だ。
相手が人間でもきっと同じことが起こる。

No.01450 (No.02206) 11.10.03

ファインダーを覗く

かつて一眼レフでよく写真を撮った。
しかし、視力が落ちてからしばらく一眼レフを使わなかった。
ファインダーを覗いても
画像がはっきりと見えなくなってしまったからだ。
デジタルカメラの液晶画面を使って写真を撮っていた。
最近の一眼には視度補正というのがついていて
ファインダーを覗いて写真が撮れるようになった。
英語で写真を撮影することを「shoot」というが、
ひさしぶりでその感覚を味わった。
液晶画面での「shoot」より
ファインダーからの「shoot」のほうがそれらしい。

No.01451 (No.02207) 11.10.04

執着を手放す

年を取ると執着を手放さなければならない。
若い頃の体力も、肌のつやも、
元気の良さも奪われていく。
だけど、誰が奪っている訳ではない。
自然の摂理のままに流されているだけ。
あらゆる存在はその摂理を受け入れなければならない。
年を取ってもそれが受け入れられないと
悲しいことになる。
ついには物理的なすべてのことが奪われる。
そのときにそれが喜びとして
受け入れられるかどうか。
死ななければならないという
自然の摂理があるからこそ
僕たちは生まれて来られた。
そのことに感謝できるか、
それとも死にたくないと苦しむか。
このことを理解するために僕たちは生まれてきた。

No.01452 (No.02208) 11.10.05

執着を学ぶ

執着を手放す前に
執着がどのようなものか学ばなければならない。
執着は言語化されることで補強される。
つまり僕たちが思っている学び方で学んでいる限り
執着を増大させることしかできない。
執着を学ぶことと、執着を手放すことは違うことだ。
しかし、まずは学ばない限り次の段階には行けない。
執着を学ぶとは、自分の執着をただ見つめること。

No.01453 (No.02209) 11.10.06

丁寧に作る

何かを丁寧に作るのは気持ちいい。
文章を書くのも、企画を作るのも、
パーティーの準備も、音楽の演奏も
ひとつひとつ丁寧に積み上げるようにして作っていく。
その丁寧さに共感する人が現れれば
異なる視点も集まり、多重性が生まれ、
作品は洗練されていく。

No.01454 (No.02210) 11.10.07

apple

1996 年にパフォーマーを買ってから
ずっと apple の PC を使ってきた。
だからその頃からの製品リストを見ていると
いろんなことを思い出す。
ベルギーで盗まれた PowerBook。
PKS に寄付した iMac。
瞑想用に買った iPod。
バリ島でおかしくなった iBook。
ホノルルマラソンで落とした iPodShuffle。
これからもいろんな思い出が生まれるのだろう。
ありがとう、スティーブ・ジョブス。
iPhone4S(For Steve)買おうかな。

No.01455 (No.02211) 11.10.08

ナシチャンプルー

バリ島に行くとナシチャンプルーを食べる。
ナシはご飯、チャンプルーはまぜるという意味。
ホテルやレストランでは盛りつけられて出てくるが、
バリの人たちが行くようなお店で注文すると
お皿に白いご飯が盛られる。
それに好きなおかずをのっけていく。
のっけるおかずはたいてい見たことのないものばかり。
食べるまでその味がわからないのでワクワクする。
最近ではフォークとスプーンが出てくるが、
かつてはみんな手で食べたという。
食べ方を習って古式で食べるのが楽しい。
手で食べると言うが、正確には指で食べるという感じだ。
手のひらは使わない。
指先でご飯をまとめて食べる。
その感じがなかなかいい。

No.01456 (No.02212) 11.10.09

ぼーっとする

瞑想するってほどではないけど
ときどきぼーっとするのはいい。
いろんな思い出や感覚が頭の中をよぎっていく。
自分の過去を他人の過去のように見つめる時間。
いまを十分生きるために過去を手放す。
どんなに手放しても思い出がなくなるわけではない。
思い出の意味全体が少しずつ変化していく。
つらい思い出が美しい思い出に変わり、
憎かったはずのひとがひとつの人格として見えてくるとき。

No.01457 (No.02213) 11.10.10

新しいスケジュール用の手帳

かつてはシステム手帳にいろんな情報を入れておいたが
最近では軽い PC を持ち歩くと
システム手帳はあまり使わなくなった。
スケジュールも PC で管理できるが、
データの損失が心配だし、iMac と MacBookAir の同期が
時々うまくいかないので
スケジュールだけは手帳に書くことにした。
新しい手帳を持つと
わけもわからずワクワクするのは僕だけかな？
なんかうれしいよね。

No.01458 (No.02214) 11.10.11

気持いいものを書く

気持いいものを書いていると
ときどきふと気づきがやってくる。
その気づきは断片でしかないが、
いくかの気づきが重なることで
大きな気づきになることがある。
瞑想とはちがうけど、瞑想のようなもの。
この世界はひとりの人間の頭では
処理しきれないほどのできごとが起きるが、
それらをすべて追っかけてもあまり意味はない。
自分が知るべきことを知り、
知らなくて良いことは知らなくて良い。
知るべきことの大切な部分が自分の内側を知ること。
人間は外界を変化させることに長けている。
地球上でこれほどまでに意図的に
外界を変化させた生き物はない。
その外界を変化させた原動力は、人間の内にある。
現在の外界の状況は、
誰かの心の内にあったものの反映である。

No.01459 (No.02215) 11.10.12

幻影

内と外は幻影である。
敵と味方が幻影であるように。
わたしと世界も幻影である。
内と外が幻影なのだから。

気持いいものと気持悪いものは幻影である。
幻影に固執するのが人間であり、
それを越えようとするために修行する人が現れる。
生命は皆　静寂から生まれ静寂に返る。
僕たちはそのあいだの祝祭の時を過ごしている。
祭では、苦労も実は喜びとなる。

No.01460 (No.02216) 11.10.13

好きなものを好きという

好きなものを好きだというとき、そこには執着がある。
だから瞑想なんぞをしていると
好きなものが一切ないかのように振る舞ってみたくなる。
でも、好きなものは好きだ。
それでいいでしょう。
「執着しない」ことに執着しない。

No.01461 (No.02217) 11.10.14

ゴーヤチャンプルー

豚バラ肉を鍋で炒め、炒められたら鍋から出し
出てきた油で豆腐を炒める。
焼き豆腐のようになったら
そこにゴーヤを入れて
しんなりしたら豚バラを鍋に戻す。
シャッシャカ炒めていい具合になったら
味を調えに醤油をさす。
溶き卵を入れて半熟状態で
最後に鰹節をハラハラかけてできあがり。
苦くてしょっぱくておいしい
ゴーヤチャンプルーのできあがり。
書いてて食べたくなった。

No.01462 (No.02218) 11.10.15

朝のシャッシャカ

朝一番で予定があると
外出のためにシャッシャカと準備する。
通勤していた頃は毎日シャッシャカしていたが、
SOHO にしてからは毎日はシャッシャカしない。
すると時々のシャッシャカがなんか素敵。
ホント僕ってないものねだりが好き。

No.01463 (No.02219) 11.10.16

プクプクの手

赤ちゃんの手はプクプクしている。
小さな骨が行き渡り、
そこにきちんと筋肉がついている。
そのまわりにぷっくりとした脂肪が付き、
その上をつるつるの肌が覆っている。
ガラス細工のように繊細な造形に
命の不思議を見る。

No.01464 (No.02220) 11.10.17

ウダン

バリ島で礼拝するとき、男はウダンという鉢巻をする。
いまでは帽子のようにかぶるものが多くなっているが、
もとは一枚の布を巻いた。
そこに花を挿して礼拝する。
どんな機会でも
僕は花など身につけることはなかったので
とても新鮮だった。
それ以前は派手な服を着るのが恥ずかしかったが
バリ島の礼拝のおかげか
華やかな色の服を着るのが恥ずかしくなくなった。
今年の誕生日にピンクのトレーナーをもらったが
難なく着ている。

No.01465 (No.02221) 11.10.18

時を忘れる

文章を書いたり、新しい企画を作ったり、
音楽を作ったり、絵を描いたり、
ホームページをデザインしたりすると
時間を忘れる。
あれっ？と思うと何時間も過ぎている。
とても幸せな時間。

No.01466 (No.02222) 11.10.19

２ならび

今日は 2222 回目の『日刊　気持いいもの』。
こういう節目が嬉しいのはなぜだろう？
日本人はこういう節目が昔から好きだった。
周年事業とか、
還暦とか、
節句とか。
こうやって区切りをつけて盛り上がり、
次の日常を過ごしていく。
節目好きはきっと遺伝子に刻まれている。
今日のお祝いはどんなふうにしようか？

No.01467 (No.02223) 11.10.20

親父の落ち着き方

僕の父親は生前、落ち着かない状況で心を鎮めるために
座禅をしているときのように手を組んで親指を自由にし、
その親指同士をクルクルと擦り合わせるように回していた。
幼い頃の僕は、父がなんでそんなことをするのか
理解できなかったが、
年を取って落ち着かなければならないときに
自分も無意識にふとそれをしているのに気がついた。

No.01468 (No.02224) 11.10.21

庶民でいること

あふれるような物に埋められ、
ひとつひとつの価値もわからず
山のように物事を消費していくことと
わずかに与えられた物を丁寧に扱い
ひとつひとつの出来事を
大切に扱うことではどちらが幸せだろう。
不足して困るよりは豊富な選択肢があるほうが幸せ。
だけど、選択肢がありすぎて大切な時間を
そのことばかりに消費するのはもったいない。
いいバランスを取るために
僕たちは何をすればいいのだろう。
生きるために必要なことはそんなにたくさんはないはず。

No.01469 (No.02225) 11.10.22

理解不能なこと

世の中にはいろんな理解不能なことがある。
そういうことに出会うたび、
ちょっとだけうれしくなる。
それをどうすれば理解できるのか、
新たな冒険が始められるから。

No.01470 (No.02226) 11.10.23

洋書を読む

ひさしぶりに洋書を読んでいる。
英語がペラペラという訳ではないので
ところどころ知らない単語が登場する。
前後の関係で理解できる単語はいいが、
まったく理解できない単語は辞書を引く。
辞書を引いて意味を見つけた頃には
本のどこを読んでいたのか分からなくなったりするので
ポストイットでどこまで読んだか印をつける。
しばらく読んであとで見返すときに
単語を忘れていたりするので
意味を書いて貼り付けておいたりする。
内容のまとめも簡単に余白やポストイットに書いておく。
読むのに時間がかかるけど、これはこれで楽しい。
面白い本じゃないと続けられない。

No.01471 (No.02226) 11.10.23

生きて存在すること

生きているのは誰のためなのか。
もちろん自分のためである。
そして、自分のまわりの人のためでもある。
どちらか片方ではない。
生まれたばかりの頃、自分にはわからなかったが
僕の存在は両親のためになった。
もちろん弱い僕は両親がいなければ生きられなかったけど、
ただただ生きて泣いているだけで両親はがんばってくれた。
大人になって僕は僕のために生きているが
一緒に暮らす人のためだったり、
僕が書く文章を読んでくれる人のためだったり、
友達のためだったり、
知り合いのために生きている。
滅多に会わない知り合いのために生きているのか？
と問われれば、あまりそのためとは言い難いが、
少しの励みにはなっているのではないかと推測する。
僕も滅多に会わない人に力づけられているから。
ものすごく影響を与え合うのは
一緒に暮らしている人だけど、
どんなに遠くにいる人とも
わずかな影響を僕たちは互いに与え合っている。
たとえば、このメールマガジンを読んでくれている人は
僕に力を与えてくれる。
読む人がもしいなかったら
僕はこのメールマガジンを書き続けられないかもしれない。
そうやって、僕は影響を受けている。
ありがとう。
生きて存在していれば
誰かに、何かに影響が生まれる。
その影響が干渉し合い、
この世界が生まれている。
仕事がどんどん基準化され、
誰でもができる仕事しかなくなっていくと
自分が自分でいる価値が見えなくなっていく。

自分のそばに誰か一緒に生きている人がいないと
自分が何のために生きているのか不安になる。
すぐに簡単には感じられないかもしれないけど、
生きて存在することは大きな影響を生む。
生きて存在すれば、自然と何かが生まれてくる。

No.01472 (No.02228) 11.10.25

聖水を飲む

バリ島で礼拝の時、聖水をいただく。
左右の手を合わせ押し戴くようにして聖水をもらう。
口をつけて飲むと喉の中を通っていくのがわかる。
次にはからだ全体に振りまかれる。
バリの人たちはこの水を手に入れるとうちに持ち帰り
稀釈して礼拝に使う。
衛生的観念からすればあまりきれいな水ではない。
しかし不思議なことに、
これをいただくと僕はバリシックがピタッと止まる。

No.01473 (No.02229) 11.10.26

モンゴルの民族衣装

かつて護国寺でおこなわれた
チベットスピリチュアルフェスティバルで
モンゴルの民族衣装を買った。
夏用の薄手の物だが、
秋の部屋着にとても良い。
布は薄いが保温性に優れ、
ダブダブなので腕まくりしても気にならない。
秋から冬への部屋着の定番。
またこれが着られる季節になりました。

No.01474 (No.02230) 11.10.27

考えること

人生の質は自らが考えることによって決まる。
この広い世界で何をするのも自由だが、
自分がもっとも影響されてしまうのは
自分自身が考えていることである。
可能性をいつも追求する人には
人生は可能性に満ちた場所。
失敗を恐れているひとには
成功と失敗の連続する場。
世界には実は何もない。
そこに何を見出すか、
それは自分次第。
見たいものが
現れてくる。
それほど
豊饒な
世界。

No.01475 (No.02231) 11.10.28

カハラヒルトンの輝くグラスについて

僕が中学生の時、
国語の教科書に川端康成のエッセイが載っていた。
内容は「オアフ島のカハラヒルトンに滞在し
朝食時、朝日に輝くグラスが美しい」
というものだったが、
母がその文章を大変好み、
いつかその様を見てみたいと言っていた。
のちのちハワイに行ったとき
カハラヒルトンで食事した。
僕にとってはただのグラスの輝きだったが、
母はとても喜び、
そのときのことをずっと語っていた。
ある人にとっての大切な思い出は、
語られている内容にそのエッセンスがあるのではなく、
別のところにあるということがよくわかった。

No.01476 (No.02232) 11.10.29

夕焼けで青い空が薄紫から赤になっていくとき

夕焼けが好きでよく眺める。
南の島に行くとわざわざ夕日を眺めるために
良さそうな場所を探して見に行く。
建物の中にいて
いつの間にか夕暮れ時を過ごしてしまうと
ちょっと悔しい。
どこからでも夕日が見えれば良いのに。
だから高い建物のない場所に行くと
ちょっとうれしい。
夕焼けが存分に見えるから。

No.01477 (No.02233) 11.10.30

風呂上がりに扇風機の前に立つ

僕はお風呂が好きだから
汗出し切ってフラフラになるまで入ってる。
それで風呂から出てきて扇風機の前に立つと
背中がスーッとして脱力する。

ビールなんかがあるとゴクゴク飲みたい。
牛乳でもいいけどさ。

No.01478 (No.02234) 11.10.31

げその生姜飯

江古田の笑雲という和食店がとてもおいしい。
何を食べてもおいしいのだが、
特にうまいのがしめで食べる「げその生姜飯」。
軽くゆでたいかげそと
生姜、みょうがなどがあえてあり、
いかげその歯ごたえと生姜とみょうがの香りが
マッチして、ご飯の甘さと混ざるともう絶品です。
自分のうちでも作りたいけど、
いかげその処理をうまくしないと
この歯ごたえは出ないだろうな。

No.01479 (No.02235) 11.11.01

せせらぎの音

せせらぎの音が聞こえるところで寝るのが好き。
遠くに静かに川の流れる音があると
眠りがとても安らぐ。
夢見る気分も心地良い。
バリ島ウブドのホテル・チャンプアンは渓谷に建ち
いい夢を見させてくれる。
濃密な森の間から
鳥の声や虫の音と一緒に響いてくるせせらぎは
都会の疲れを癒してくれる。
このせせらぎを聞きながら
転生していく夢を見た。

No.01480 (No.02236) 11.11.02

かつおぶしめし

女房がテレビに出てきた
「かつおぶしめし」が食べたいと
わざわざコレド室町の「にんべん日本橋店」まで行って
本枯鰹節のかつおかれぶし削りを買ってきてくれた。
これをハラハラとご飯にかけて
醤油をスラッと一回しかけ、食べる。

うまい。

鰹節は薄く削ってあるので
お茶碗に顔を近づけて香りをかごうとすると
鼻に入ってきてしまいそうだ。
鰹節の香りもいいが、
薄い鰹節が幾重にも重なっているところを噛む、
その噛み心地もうっとりの要因のひとつ。
薄い鰹節が重なることで
ミルフィーユのようにほどよい噛み心地になる。
鰹節がたくさんかたまりのように重なっていると
一度噛んだだけではあまり味が出て来ず、
なんどもがしがし噛むことで
ジュワリジュワリと味が出てくる。
薄い鰹節が舌に載って味を出し、
何層にも重なったかつおぶしを噛むことで
さらに味が出てくる。
そこにアツアツご飯の甘みと蒸気、
醤油の味と香りがからみ、
味覚と歯ごたえと香りの
タペストリーのような絨毯爆撃に
僕の美味しさ中枢は参ってしまうのでした。

No.01481 (No.02237) 11.11.03

セージを焚く

セージの葉を燃やす。
煙が上がり香りが広がる。
場を清めたり、クリスタルを清浄にすると言う。
僕は瞑想するときや
ヒーリング・ライティングをおこなうときに使っている。

No.01482 (No.02238) 11.11.04

和気清麻呂像

皇居の北西に和気清麻呂像がある。
高校生の頃に皇居のまわりを散歩していて見つけた。
とても大きな銅像で、
ほかにこんなに大きな銅像を見たことがない
という印象だった。
最近ふと思い出して気になっている。
近々きちんと見に行ってみるつもりだ。

No.01483 (No.02239) 11.11.05

アイデアを考える

何か新しいことを考えるのは楽しい。
見たことも聞いたこともないことを
作り出すのはうれしいこと。
それがいくつか重なると

喜びは倍増していき、
実現したらその喜びは頂点に。

No.01484 (No.02240) 11.11.06

高い崖から滑り降りる

四、五十メートルほどの高い崖から
張られたロープに滑車をかけて滑り降りた。
崖の下は鬱蒼とした森。
遙か先に降り立つ場所がある。
命綱はかけてあったけど、
両手で滑車の軸を握り、
距離にして二、三百メートル滑り降りる。
飛び込むまでは恐怖だが、
一度滑り始めてしまえば快感そのもの。
なるようにしかならない。
耳元で風がビュービューと鳴り、
足の下では木々が震える。
滑り始めたしばらくは
ロープがたわんで真下に落ちるよう。
ゴールが近づくと地面が速い。
じっと我慢してロープのたわみで登りになるのを待ち、
速度が落ちたらすっと降りる。
どんなに怖くてもインストラクションに従うのがコツ。

No.01485 (No.02241) 11.11.07

年に一度は行く場所

年に一度は行く場所、
たとえば神社仏閣、レストランとかホテルとか、
そういう場所はあまり変わらないほうがいい。
幼い頃から通い続けている場所があると
その頃からの家族の思い出が積み重なっていく。
かつて家族と一緒に行った場所に
再びその家族が失われてから行くと、
様々なことが思い出される。
発展や変化も大切だけど、
変わらないもの、場所、というのも
素敵なものだ。

No.01486 (No.02242 11.11.08

ダライラマ法王のお話

ダライラマ法王のお話はいつも明確。
わからないことはわからないと言うし、
知らないことは知らないという。
難しい話はわかりやすく噛み砕き、
時々聞き手がついてきているか確かめる。
どんなにばかげた話でも質問されたらきちんと答え、
相手を安心させる微笑みを忘れない。
興に乗ると声が裏返り、
話すことをを楽しんでいることが誰にでもわかる。
すべてのリーダーがこのように話をしたら
世界はきっと平和になる。

No.01487 (No.02243) 11.11.09

Biophilia

ビョークの作った iPhone アプリ。
すごいプロモーションツール。
無料でタウンロードできるが、
それは入口での説明を受けるため。
島宇宙を見ながら聞こえる銀河を感じ、
いいなと思ったら中に入る。
そこにはデモがあるが、
その神髄は課金されたあとにわかる。
買う作品はほんの数百円。
音と映像の不思議な世界に引き込まれる。
これでビョークのファンになるひともいるだろうな。

No.01488 (No.02244) 11.11.10

夕立

僕が小学生の頃には
夏はよく夕立になった。
晴れた日の夕方、
一天にわかにかき曇り
雷とともに夕立が降る。
うちの窓から外を眺め
雷がゴロゴロドッカーンと
落ちるのを見た。
２時間もすると先ほどまでの天候は
うそのように晴れ、
きれいな空が見えたものだ。

No.01489 (No.02245) 11.11.11

紙に書く

このところなんでもかんでも PC に入力してしまうが、
スケジュールや企画など、
紙に書くほうが僕は落ち着く。
PC に入れると

いろんなところで使えるので便利で良いのだが、
大量のデータをまだきちんと保存してあるかどうか
信頼しきれてない。
プロジェクトごとに
「あの件はどうだったかな？」と思うとき、
紙に書いてあると確認して落ち着けるが、
PC に書いたことだと
何かデータが失われてないかと心配になる。
これは僕の問題か、PC の問題か？

No.01490 （No.02246） 11.11.12

仕事の選び方

仕事の選び方が変わってきている気がする。
以前は安定してお金が入る仕事を選ぶというのが基本だった。
いまは自分がどんな人になりたいかで
選ぶ時代になったようだ。
何しろ仕事の環境は流動的で変化が激しい。
去年まで儲かっていた会社が
今年はもう火の車なんてことが普通に起こる。
だとすれば、自分が思うように生きるのが一番かもしれない。
多少の苦労があっても農業をするのでもよし、
99%の人に罵られても
銀行家や投資家になりたいのであればそれもよし。
農業しかできないからそれをするのではなく、
たまたま銀行家になったからそれを続けるのでもない。
収入を中心にして仕事を考えている限り
壺から手を出せない猿になるしかない。

No.01491 （No.02247） 11.11.13

静かに過ごす

朝起きると、何をするのか決まっている。
スケジュールを確認して、
やることをする。
創作なんてしていると、
いつも時間が足りなくなるのが常。
暇なときはほとんどない。
いつも何かするべきことがある。
そんな中で、静かに過ごす時間を取る。
何もしない、本も読まない、
ただ静かに過ごす。
ジワッと何かを感じる。

No.01492 （No.02248） 11.11.14

たき火の匂い

秋になると落ち葉を集めてたき火する人が多かった。
最近、東京ではあまり見かけない。
幼い頃には夕方の空気が冷たくなってきた頃に
どこかからたき火の匂いがしたもの。
冷たい風とたき火の匂いで
秋が来たなと感じていた。

No.01493 （No.02249） 11.11.15

弦楽器の響き

弦楽器の響きはどれも素敵。
響きの要素を奏者の指で表現できるから。
まったく同じ和音でも
曲のどんなところに使われるかで
響きを変えることができる。
微妙な音程の違いを生み出すことができる。
奏者の感情が直接聞こえてくる。

No.01494 （No.02250） 11.11.16

星雲

宇宙の遙か彼方にある星雲の
写真を見ていると不思議に気持ちになる。
これほどまでに多様な島宇宙があることに。
そこに生きている生物たちも
きっと様々なのだろう。
そこには僕たちが想像もできない生物と、
それらが作る社会があり、
訪れたとしてもきっとちっとも理解できない。
そもそもずっと日本の社会の中に生きている
僕たちですら自分の社会が把握できていないのだから。
これだけたくさんの人が生きている地球上の
社会をすべて正しく理解しようとすること自体が
間違っているのかもしれない。
宇宙に生まれる多様性は底知れず。
そもそも底などという、
三次元的把握しかできない人間には難しい世界。
自分自身がどうして作られたのかも知らないのだから。
この奇跡的状況を生み出している宇宙には
感謝する以外ほとんどなにもできない。

No.01495 (No.02251) 11.11.17

不安定な安定

自然に存在する物は皆、
不安定な安定に置かれる。
どんなに安定した物に見えても、
それは必ず長い期間から見ると不安定なもの。
不安定な物で構成されているため
あらゆるものが更新されていく。
人間がどんなに完全な安定を求めたとしても
この不安定な安定からは逃れられない。
不安定な安定が
いかにありがたい物かを理解してはじめて
心の安楽が生まれる。

No.01496 (No.02252) 11.11.18

無意識の領域

現代のパラダイムでは
すべて意識できていることが
素晴らしいものと考える。
意識できていないということは
対処ができないことだからよくない
という判断に基づいている。
しかし、それに僕は疑問を持つ。
意識しなくても行動するという無意識の領域が
人間にはまだ残されており、
それがきちんと機能していると思うから。
その「意識しなくても行動する」という
きっかけを生み出す
明確に何か指摘はできない何ものかが
人間の行動の奥深くに根ざしている。
もしそれがないのだとしたら、
震災の際に日本人は
他国の人たちと同様に
暴動やら略奪やらを起こしていただろう。
日本人は明確に意識していなかったかもしれないが
その部分をきちんと扱ってきていたのだと思う。
それは僕たちがそうしたのではなく、
僕たちの祖先が残した文化や行動様式の中に
埋め込まれていたと考えるべきだろう。

No.01497 (No.02253) 11.11.19

写真撮影

写真撮影が好きで
いつもコンパクトカメラを持ち歩いている。
本当にいい写真が撮れる瞬間は
思いがけないときに来るから。
たまたまカメラを持っていないときに限って
素晴らしいシャッターチャンスが来る。
いつも持っていれば言い訳はできない。
http://書く冒険.jp/photo/

No.01498 (No.02254) 11.11.20

闇から生まれ闇へと消える

来年ひさしぶりにバリ島のニュピに行ってくる。
ニュピの日の深夜０時頃からまる一日瞑想し、翌朝まで続ける。
夜から始まり、一日を過ごし、朝終わる瞑想。
ニュピの瞑想をすることで闇の心地よさを覚えた。
僕たちの知覚の大きな部分は視覚である。
特に現代はメディアによる知覚のほとんどが視覚である。
この知覚偏重の文化の中で闇はその知覚を奪われることと
ほぼ同義になってしまうので
人は闇を自動的に恐れてしまう。
しかし、平穏な闇はいいものだ。
人生において生まれるときと死ぬときに
この平穏な闇に包まれる。
ニュピを過ごすというのは、
この平穏な闇に慣れ親しむこと。

No.01499 (No.02255) 11.11.21

今朝の雲

朝焼けに染まる雲を撮った。
空の色のグラデーションと
ゴツゴツして見える雲の対比が素敵。
今日もいい一日になるな。
http://書く冒険.jp/photo/?p=123

No.01500 (No.02256) 11.11.22

桂林のコウモリ

大学生の頃、中国に貧乏旅行をした。
一般の日本人が中国に旅行できるようになって
まだ二年目のことだった。
どこに行っても「日本人だ」というと珍しがられた。
桂林のまだ暗い朝、
安い宿の窓から外を見上げると
何かがうごめいている。
空全体が歪みながら、その歪みが移動していた。

目を凝らしたがそれがなんだかよくわからない。

聞いたことのない音と空間の歪みは

朝が明けていくと次第に見えるようになってきた。

はじめは鳥の群れかと思ったが、

コウモリの群れだった。

何十万という大群が視線の先で

空を覆うようにうねっている。

魚の群れにでくわすと、

密度の高いところが波のようにうねっていくが

それが空のあちこちにでき、

空全体が生きているようだった。

中国の自然はすごいなと思った。

いまでもあの情景は見られるのだろうか。

夕闇に舞うムクドリの群れを見て思い出した。

http://書く冒険.jp/photo/?p=126

No.01501 (No.02257) 11.11.23

真っ赤な実をつけたピラカンサ

近所の公園にピラカンサの木がある。
僕はその木の名前を知らなかった。
とてもかわいい赤い実で
何枚も写真を撮った。
すると犬を連れたおばあちゃんが
「八甲田山の兵隊さんたちは
　この実を食べて飢えをしのいだのよ」
と話しかけてくれた。
「この木の名前は何ですか？」
と聞いたら
「ピラカンサスよ」と教えてくれた。
うちに帰って調べたら
「ピラカンサ」という木だった。
「ピラカンサ」には何種類かあり
それらを総称して「ピラカンサス」というらしい。
赤い実をひとつ取って口に入れると
ほのかに甘く、少し酸っぱかった。
小さな種をポツポツと噛み砕いた。
http://書く冒険.jp/photo/?p=128

No.01502 (No.02258) 11.11.24

なぜそれは美しいのか？

「素敵！」と思った瞬間にシャッターを切る。
僕の写真の極意はただそれだけ。
なぜその写真が美しくて、
ほかの写真では駄目なのか、
僕にはよくわからない。
言葉にすれば、
構図が良いとか、
色彩が鮮やかとか、
雰囲気が良いとか、
いろいろと言えるが、
それとそっくりなほかの写真ではなく、
まさにこの写真がいいと言えるのか、
僕にはまったくわからない。
幼い頃、母に花の「表と裏」を習った。
母は華道をしていたので、
花を生けるとき
表の花と裏の花を見分けた。
なぜそれが表の花で、
なぜあれが裏の花なのか、
理由はよくわからなかった。
だけど確かに表の花と裏の花は存在する。
表の花は一見すると
大きくて鮮やかな花であればいいようにも感じるが、
いくつも教わっていくと、
ただそれだけではないことがわかってくる。
この明確には言葉にできない感覚を
伝えてもらったことが
母から譲り受けた財産のひとつだ。
http://書く冒険.jp/photo/

No.01503 (No.02259) 11.11.25

誘惑

誘惑するのは男だと決まっていた。
最近はそうでもないらしい。
優しい男は牙を失い、
女の視線に晒される。
そういうときに昔の男は
きちんと女を誘惑してあげたものだよ。

No.01504 (No.02260) 11.11.27

再会

僕が幼い頃、隣の家にきれいなお姉さんがいた。
中学生の頃からソプラノサックスという珍しい楽器を演奏し、
大学卒業後にプロのジャズミュージシャンになった。
世界中のジャズフェスに参加し、
マル・ウォルドロン、山下洋輔、原田芳雄、
おおたか静流、カルメン・マキ、
長谷川きよしなどとも共演するミュージシャンになった。
中学校の吹奏楽部の先輩でもあり、
先週末にその頃の同期と一緒にライブを聞きに言った。
同期に会うのも 20 年ぶりくらいでとても嬉しい夜を過ごした。
きれいなお姉さんの名前は早坂紗知さん。
僕にとってはいまも「サッちゃん」だし、
「ようちゃん」と呼んでもらって嬉しかった。
http://www.ne.jp/asahi/stir/up/

No.01505 (No.02261) 11.11.28

花の名前

ずっと花の名前を覚える気がなかった。
覚えてもしばらく見ないと忘れてしまうから。
Blog に書いておいて時々見れば忘れにくいな。
ちょっとずつ覚えていこう。

No.01506 (No.02262) 11.11.29

美しい枯葉

秋になると紅葉が目を楽しませてくれる。
赤かったり黄色かったり
花が咲いたときのように美しい。
それらが枝から離れ
土に戻る一瞬も。
http://書く冒険.jp/photo/?p=152

No.01507 (No.02263) 11.11.30

夢中に何かする動物たち

何かに夢中になっている動物って
見ていて清々しい。
広場を駆け回っている犬とか、
踊るように戯れる鳥とか、
狩りをしているチータとか、
大移動中のヌーとか、
じっと様子をうかがっている水牛とか、
優雅に走っているキリンとか。
オアフ島のマカハ沖では
ピョンコピョンコジャンプしまくっている
スピナードルフィンに会った。
http://書く冒険.jp/photo/?p=154

No.01508 (No.02264) 11.12.01

塩屋(まーすやー)

沖縄に行ったとき、
塩屋というお店を見つけた。
「しおや」ではない、「まーすやー」と読む。
沖縄の言葉で塩を「まーす」というのだそうだ。
世界各地の塩が売られていて
塩好きの家内が狂喜乱舞していた。(笑)
雪塩を製造・販売している
パラダイスプランという会社が運営している。
もうすぐ東京にも進出してくるらしい。
塩だけで商売を成り立たせるのがすごい。
http://www.ma-suya.net/
http://www.tsunabuchi.com/waterinspiration/?p=2017
http://書く冒険.jp/photo/?p=157

No.01509 (No.02265) 11.12.02

桜の紅葉

氷川台駅の近辺には、
石神井川に沿って桜並木がある。
春には目を楽しませてくれるが、
秋にも紅葉で美しくなるとは知らなかった。
もっとくすんだ色に脱色して
ほかの枯葉と同じような色になると思っていたのだが
今年は妙に色っぽい。
僕がいままで気がつかなかっただけなのか、
今年が特別なのか、どちらだろう?
いままで気がつかなかったとすれば、
僕の目は節穴だな。
黄色と言うより淡いオレンジ色になる。
http://書く冒険.jp/photo/?p=160

No.1510 (No.02266) 11.12.03

カモメが飛んだ

鳥が飛んでいるのを撮るのが好きだ。
いまはデジタルカメラになったので
フィルムの頃より簡単に撮れる。
かつてフィルムを使っていた頃は、
フィルムを変えない限り ASA が変わらなかったので
素早く飛び去る鳥を撮ることは難しかった。
フィルムの頃は何枚撮っても
なかなかきちんと写らなかった。
ピシッと撮れているのがあるととても嬉しかった。
この写真は 15 年ほど前のピシッと写った写真。
夕焼けの中での撮影だったので、
こんなにきれいに写っているとは思わなかった。
http://書く冒険.jp/photo/?p=162

No.01511 (No.02267) 11.12.04

石垣

石垣を見るたびにどうやって積んだのか気になる。
あのでかい石を運ぶだけでも大変なのに
ピシッと位置が決まるのはどうやっていたのだろう?
今のように重機がある訳ではないので
何か余程の工夫があったはず。
江戸城に行くと場所によって積み方が違う。
いろんな積み方が見られて面白い。
これは首里城で撮った石垣。
http://書く冒険.jp/photo/?p=165

No.01512 (No.02268) 11.12.05

ハナミズキ

近所の公園にハナミズキがある。
ハナミズキなんて木は気にしてなかった、一青窈が歌うまでは。
妙に印象に残る歌なので
なんであの歌にハナミズキが使われているのか検索してみた。
そして驚いた。
もう有名な話しなのかもしれないが、
あの歌は 911 のテロがきっかけで作られたんだね。
そしてなぜハナミズキかというと、
かつて 1912 年に桜の苗木を日本からアメリカに贈り、
ワシントン D.C.に植えた、その返礼として贈られたのが
ハナミズキだったから。
こう知って、はじめて「果てない夢」とか
「果てない波」の意味がやっとわかる。
なるほどな。
http://書く冒険.jp/photo/?p=182

No.01513 (No.02269) 11.12.06

視線

視線の与える影響は大きい。
たいていの人は相手の視線からいろんな解釈を引き出す。
相手に間違った解釈を与えないようにするためには
こちらからいろんなことを表現した方がいい。
それが儀礼化したのが挨拶だ。
挨拶されると、こちらが勝手に思っていたことを
脇に置くことができる。
バリ島で魔術を習うとまず最初に伝授されるのが、
視線の使い方だそうだ。
視線を使って異性を口説く。
これができないとさらに高度な魔術は覚束ない。
http://書く冒険.jp/photo/?p=184

No.01514 (No.02270) 11.12.07

鉛筆で書く

いつもキーボードで字を打っているから、
時々無性に字を書きたくなる。
太くて濃い鉛筆で字を書くと
昔の感覚が蘇る。
何度も何度も字を書いた幼い頃。
練習のために、ただ字を書くために
文字を書き続けるなんて
いまではあまりしないこと。
白川静の本を読んで古い文字を真似て書いてみるが、
すぐに忘れてしまう。
でも、書くこと自体が面白いんだよ。
忘れてしまったら、
そのおかげでもう一度書ける。

No.01515 (No.02271) 11.12.08

斬　新装版

親父が処女作として書いた小説『斬』が
文春文庫から数十年ぶりに発売された。
この小説で 1972 年上半期の直木賞をいただいた。
親父はこの小説から「敗者の文学」を書き続けた。
小学生だった僕はこの小説を
最初の数ページしか読めなかった。
難しかったからではない。
怖かったのだ。
http://www.tsunabuchi.com/waterinspiration/?p=2661

No.01516 (No.02272) 11.12.09

飛んでいる鳥の撮り方

飛んでいる鳥を撮るのが好き。
一瞬をつかんでいるって感じがする。
最近ではデジカメで撮るから
いくら撮っても気にならない。
以前フィルムだった頃は
無駄に写真を撮れば撮るほど現像代がかさむので
飛んでいる鳥はなかなか撮れなかった。
昔、ケニアに行ったとき、
取材で行ったので現像費は出版社持ちだった。
あるとき、大きな木の前で
時間待ちすることになった。
その木にはたくさんの鳥が群がっていた。
木を撮って鳥の状況を撮るのは簡単だったが、
飛んでいる鳥を一羽一羽撮ってみたいと思った。
群れで飛びまわっているので
なかなかファインダーに捉えられない。
しばらく観察していたら
一羽の鳥はほぼ同じコースばかり飛ぶことがわかった。
それがたくさんいるから訳がわからなくなる。
目くらましのように。
そこである一羽に目をつけたら、
その飛行コースを観察する。
その飛行コースを覚えれば、

次にそこに来たときに撮影すれば良い。
それ以来、動物の写真を撮るときは
行動パターンを読むようになった。
http://書く冒険.jp/photo/?p=187

No.01517 (No.02273) 11.12.10

生まれたての光

朝、まだ暗い時から海岸に立ち、
空の色の変化を楽しむ。
ドロッとした黒い空が、
次第に青く澄み渡り、
海と空の境に赤みを帯びて
少しずつまぶしくなっていく。
水平線から顔を出した生まれたての光は
海を越えてまっすぐと浜辺に届いてくる。
その優しさは、何ら変哲もない景色を
忘れたくない風景に変えてしまう。
http://書く冒険.jp/photo/?p=190

No.01518 (No.02274) 11.12.11

月食

ひさしぶりに月食をきちんと見た。
印象的だったのは完全に影に隠れたときも
月が鈍いオレンジ色に輝いていたこと。
もし月から地球を見ていたら、
きっと地球の輪郭に太陽の光が輝いていただろう。
大気の屈折で地球のまわりがオレンジ色に輝き、
きっと神秘的な地球が見られたのではないか。
来年 5 月 21 日には東京で金環食が見られる。
東京で金環食が見られるのは 173 年ぶりだそうだ。
http://書く冒険.jp/photo/?p=193

No.01519 (No.02275) 11.12.12

水面(みなも)を覗き込む

きれいな水の、綺麗な流れを見ると
じっとそれを見つめていたくなる。
はじめのうちは水の流れや光の反射、
サラサラと流れる水の音などを聞いているが
しばらくすると意識の焦点は別のところに行く。
その入口は水のうねり。
静かな水面に波紋が拡がるとき、
そのゆったりした速度にうっとりしてしまう。
そのゆっくりとした動きの中に
色っぽさを感じてしまう。
ある程度の速さの流れには
そんな色っぽい動きは見て取りにくいが、
よぉく観察していくと
端々にその片鱗がうかがえる。
それを観察して、意識を別の世界へ持っていく。
http://書く冒険.jp/photo/?p=195

No.01520 (No.02276) 11.12.13

イルカの日

僕が中一か中二の時に見た映画。
いまとなって思えば、この映画にかなり影響された。
この映画の主人公のモデルとなった
ジョン・C・リリー博士の著作
「イルカと話す日」を夢中になって読んだし、
後年、本人にベルギーで会った。
人間と動物が共生するとはどういうことかを
これをきっかけに考えるようになった。
この映画の 20 年後、
実際にアメリカ海軍はイルカを兵器として育てていた。
そのことに訴訟を起こし、
兵器として育てられたイルカをリハビリしていた
リチャード・オバリーに
フロリダ・シュガーローフキーまで
会いに行ったこともある。
いまではあの「ザ・コーヴ」の主人公として
有名になってしまったが。

No.01521 (No.02277) 11.12.14

雲のある夕焼け

快晴の日の夕焼けも良いけど、
僕は少し雲のある日が好き。
雲に光が反射してとてもドラマティックになるから。
雲が空全体を覆ってしまったら夕焼けも見えないけど、
少しの雲は沈みゆく夕日を彩ってくれる。
雲の配合がいいときの夕焼けが最高。
http://書く冒険.jp/photo/?p=202

No.01522 (No.02278) 11.12.15

国立新美術館

建物全体がまるで森のようだった。
うすい緑色のガラスが幾重にも重なることで
外観を緑に見せる。

晴れた日の室内にはガラスを通した淡い光が
まるで木漏れ日のように射す。
ゆるやかな曲線が自然の造形を思わせ
普通の建造物とは一線を画す。
木材の床に落ちる影がなまめかしい。
建物自体が美術品。
http://書く冒険.jp/photo/?p=227

No.01523 (No.02279) 11.12.16

なりきる

広告会社の新入社員だった頃、
ライオンちゃんのぬいぐるみの中に入ることになった。
入るまでは恥ずかしいなと思っていたのだが、
入ってしまうととても楽しい。
ライオンになりきって子どもと接する。
からだが大きいものだから、
足首の所だけ肌が見えていたけど、
子供たちはそれを見つけてなおさら笑った。
ライオンがはしゃげばはしゃぐほど
まわりの子どもが喜ぶ。
大人になるとこのはしゃぐ感覚を
忘れていくんだなと思った。
俳優のように別の人格になるというのは素敵なこと。
自分という殻を脱ぎ他人になることで
普段では気がつかない何かを見つける。
年を取っても他人のふりができる
しなやかな感性を持っていたい。

No.01524 (No.02280) 11.12.17

祭り囃子

幼い頃は遠くから聞こえてくる祭り囃子に
ワクワクしたものだ。
だけどいったいなににワクワクしていたのだろう？
当時の氏神様にはまだあまり立派なお囃子がなく、
聞こえてくるのは録音されたものだったりしたが、
それでもなんかワクワクした。
大人になって氏子がしっかりして
お囃子も演奏されるようになり、
幼い頃にこれを見ていたら
きっとワクワクでは済まなかっただろうなと思う。
http://書く冒険.jp/photo/?p=232

No.01525 (No.02281) 11.12.18

家族で宴会

年に一二度、家族で集まる。
滅多に一度に顔を合わせない面々が
この日だけは集まってあだこうだと言い合う。
おいしいものを食べながら、
お酒が入れば普段あまり言わないことも言い始める。
たまにはこういう集まりもいいね。

No.01526 (No.02282) 11.12.19

朝日

毎朝、雨や曇りでない限り
朝日が差してくる。
毎朝のように繰り返されると
当たり前だと思ってしまうけど
気持ちいい光を届けてもらってる。
天体の運行は偉大だ。

No.01527 (No.02283) 11.12.20

カーナビ

以前はまったく知らない土地に行ったら
地図を見て迷いながら車を走らせたものだが
いまはカーナビのおかげで
目的地までスイスイと走れる。
便利でいいなぁ。
全車がカーナビ搭載となったら、
そのデータを集めて
何分後かにどこが混むかもわかるようになりそうだな。

No.01528 (No.02284) 11.12.21

おぼろ月

誰の人生でもきっといくつかの困難が伴う。
その人の人生が輝けば輝くほど、
その困難が輝きを美しく彩ってくれる。
おぼろ月が美しいのは
雲や霧が月を時々隠しながら、
その光を反射させ、
ドラマティックに演出してくれるから。
雲は人生の上での困難と同じ。
http://書く冒険.jp/photo/?p=234

No.01529 (No.02285) 11.12.22

じっと見る

興味のあるものをじっと見るのは簡単だが、
興味のある人をじっと見るのは難しい。
なぜ自分は相手に興味があることを
知られたくないのか？
誤解されたくないんだよなぁ。
誤解されてもいいと割り切って、
誰かをじっと見ると、
さてどうなるか？
http://書く冒険.jp/photo/?p=236

No.01530 (No.02286) 11.12.23
電池交換
ほんの少しずつ遅れるようになった腕時計が
ある日ぱったりと止まった。
電池交換をしなければならない。
時計屋さんでお願いする。
遅れ気味だった時計が
元気になって帰ってきた。

No.01531 (No.02287) 11.12.24
表現できないたくさんの思い
クリスマスイブとなり、
今年ももうあとわずか。
いろんなことがあった。
それらについてのたくさんの思いを抱えて
新たな年を迎える。
うれしいとか悲しいとか、
いろいろあってなんとも言えないけど、
こうしていまを生きていることに感謝。
http://書く冒険.jp/photo/?p=239

No.01532 (No.02288) 11.12.25
神様からの贈り物
神様からの贈り物、
それは僕たちがこうして生きていること。
美しい景色を見て、
人との対話を楽しめる、
そのことが神様からの贈り物。
あらゆる存在は闇から生まれ、
闇へと消えていく。
そのあいだの僅かに与えられた晴れの舞台。
それが本当の神様からの贈り物。
http://書く冒険.jp/photo/?p=241

No.01533 (No.02289) 11.12.26
なぜ死が生まれたのか
なぜ生命はいつか死ぬのか。
そんなの当たり前だから考えたって仕方ない
と思う人はいるだろう。
しかし、死が生まれたのには理由がある。
伝説のような話しではない。
科学的な話しとしてあるのだ。
そもそも生命は雌雄がなかった。
分裂することで再生した。
つまり、事故などで生命体が損傷しない限り
何度でも分裂することで増えていったので、
自然な死というものがなかった。
老衰しなかったのだ。
そんな生命がなぜ死ぬようになったのかというと、
雌雄が生まれたからだという。
雌雄を作ることで進化が容易になり、
生命は死をまとうようになる。
死と引き換えに僕たちは進化の速度を得た。
詳しく知りたい人は
リン・マーグリスの著書を読むといい。
http://書く冒険.jp/photo/?p=243

No.01534 (No.02290) 11.12.27
血のつながり
血のつながった家族は
とても面倒が多いという人がいるけど、
それは愛情の裏返しなのだと思う。
関係が濃ければ濃いほど
些細なことで問題が起きる。
それくらい深い繋がりがあるということ。

No.01535 (No.02291) 11.12.28
丹誠込めて作る
資本主義社会では
無駄な時間をかけて作ることが否定されるため
丹誠を込めて何かを作るということが
忘れられがちになる。
有限の時間内で作ることが重要視され、
丁寧に時間をかけて生み出される些細な違いは
往々にして切り捨てられる。

そのおかげか時々そのようなものに出会うと
とても感動する。

No.01536 (No.02292) 11.12.29

出合い

幼い頃、「であい」は漢字にすると
「出合い」であり
「出会い」は間違いだと教わった。
それから何年もたち、
ある日ふと気づくと
みんながみんな「出会い」と書いていた。
みんなが「出会い」と書いているから
僕も「出会い」と書いた。
あるとき、本の中で「出合い」を見つける。
文脈からシンクロニシティが読み取れた。
そう、シンクロニシティは「互いに出る」
つまり「出合う」ほうがしっくり来るのだ。
「出て会う」のではなく、
「互いに出る」から「出合う」。

No.01537 (No.02293) 11.12.30

年末

できないことはすっぱりあきらめよう。

No.01538 (No.02294) 12.01.05

新年の挨拶

今年は明けましておめでとうございますと
あまり言わなかった。
年賀状にも書いてない。
去年があまりにも悲惨だったので
書く気にならなかった。
普段の年、新年の挨拶が
いかに大切なものだったのかが
いまさらとなってわかる。
http://www.tsunabuchi.com/movie/2012nengamovie.mp4

No.01539 (No.02295) 12.01.06

松の内

正月から、七日、または十五日までを
松の内と言うが、そのあいだは
なんとなくのんびりしていていいものだ。
松の内って言葉使っていますか？
最近は忙しいためか
松の内でもあまりのんびりはしていられない。

No.01540 (No.02296) 12.01.07

もうすぐ満月

あと少しで満月になる
ちょっとだけ欠けた月が
夕方の青い空にひっそりとしていた。
あさって満月となり
ふたたび欠けていく。
トクトクトクと波打つ胸の鼓動が
何度かかって元に戻るのか。
しずやかな月の気息よ。
http://書く冒険.jp/photo/?p=251

No.01541 (No.02297) 12.01.08

轍(わだち)

地球の表面は土でできているもの。
アスファルトで覆うのは人の都合。
轍のできるような道が自然でいい。
雨が降ればぬかるんで
跳ねが上がって大変だが、
それが地球の表土の理(ことわり)。
轍のできる道を探して
またどこかに行ってみたい。
http://書く冒険.jp/photo/?p=254

No.01542 (No.02298) 12.01.09

夕雲

高い雲が輝き、
低い雲は黒くなる。
夕陽の届く場所によって
光りかたが異なるドラマティックな夕雲。
美しい雲が見られると
それだけで幸せ。
http://書く冒険.jp/photo/?p=256

No.01543 (No.02299) 12.01.10

歴史的な出来事に立ち合う

人は歴史の一部になりたがる。
いつか命は失われるけど
歴史はそう簡単にはなくならない。
誰でもが覚えている出来事に参加して
生きた証を残したいと思う。

自分の人生という物語より
さらに大きな物語の一部になりたいと願う。

No.01544 (No.02300) 12.01.11

灰色の喧噪

都会の真ん中では
いつも何かの音が鳴り響いている。
それらが響き、混ざり、
周波数の平均化したホワイトノイズになる。
広大な雑音の渦も
高い場所から眺めると
潮騒のように愛しい音になる。
人工の音と思っていた騒音が、
自然の営みと一体となる。
自然と人工の区別が
もうどうでも良くなってくる。
http://書く冒険.jp/photo/?p=258

No.01545 (No.02301) 12.01.12

呼吸

年末からひどい風邪にかかってしまった。
一度咳が始まるとなかなか止まらない。
病院に行って薬をもらったが
あまり効かなかった。
ゲホゲホしながら咳が落ち着くと、
普通に呼吸できることがとてもありがたく感じる。
今年の風邪はしつこいので
皆さんかからないようにして下さい。

No.01546 (No.02302) 12.01.13

上手に忘れる

親父の書斎には本が山のようにあった。
幼い頃、親父に質問した。
「こんなたくさんの本、全部読んだの？」
「ほとんど読んだよ」
「じゃあ、何が書かれているか全部覚えているの？」
「ほとんど忘れているな」
「じゃあ、読んでも意味がないじゃない」
「読んで忘れるのがいいんだよ」
幼い僕には意味がわからなかったが、
年をとるにつれて段々
その意味するところが理解できるようになってきた。

No.01547 (No.02303) 12.01.14

野菜スティック

みずみずしい野菜を細く切って
味噌やマヨネーズをつけて食べるのが好き。
新鮮な野菜であればあるほど
歯ごたえと香りにうっとりする。
命をいただいているって感覚がやってくる。

No.01548 (No.02304) 12.01.15

鍋物

冬になると鍋物がいい。
家族で仕込んでわいわいいいながら食べる。
一緒に作って
一緒に食べて
一緒に盛り上がることができるから
冬の楽しみとして大切なもの。
さて今晩は何鍋にするかな？

No.01549 (No.02305) 12.01.16

苔むす岩

昔、日本では岩に魂が宿った。
そういう岩には苔が生し、注連縄が飾られた。
バリ島には似た感覚がいまでもあるようだ。
あちこちに苔むした石像がある。
現代の価値観ではきれいに苔を取ってしまいそうだが
苔が生えることに価値を感じるのだろう。
でも、実際のバリ人たちはこんなふうに答える。
いちいち苔取るのは面倒だからだよ。
えっ？　そうなの？
http://書く冒険.jp/photo/?p=260

No.01550 (No.02306) 12.01.17

感謝

感謝はしなければならないことにしてはならない。
感謝は自発的に表れてくること。
しなければならない感謝は
感謝とは言えない。
自分が忙しいと自発的な感謝はなかなか出て来ない。
自分の軸が見えなくなるからだ。
自分はいったい何者で、
いまここで何をしているのか。
そんなことがきちんとわかっていると
感謝は自然と出てくるもの。

いま生きているのは両親が産んでくれたおかげで、
こうして生きていられるのは誰かの支えがあるからで、
今日も仕事ができるのは
一緒にその仕事をしている仲間がいるから。
ここに来られたのは
誰かが電車を走らせてくれているからで、
その技術をたくさんの人々が培ってきたから。
この文章を送れるのは、
パーソナルコンピュターという概念を作り、
インターネットの基盤を作り、
それを実現させたたくさんの人がいてくれたから。
ありとあらゆる出来事を支えている
社会がきちんと成立しているから。
こんなふうに丁寧に考えていくと、
感謝は泉のように湧いてくる。
この文章を黙って読んでくれてありがとう。

No.01551 (No.02307) 12.01.18

パソコンのスイッチを切る

机の向かっているときは
たいていパソコンを立ち上げているが
時々スイッチを切ってみる。
とても静か。
パソコンとハードディスクの音は
気にならないほど幽かだが、
それでもわずかに鳴っている。
オフにするととても静か。
耳鳴りが聞こえてくるくらい。

No.01552 (No.02308) 12.01.19

文章を刈り込む

一度書いた文章をしばらくして読み直す。
文章のデコボコが目についてくる。
そのデコボコを刈り込んで
スッとした文章に作り直す。
腑に落ちる文章になる。

No.01553 (No.02309) 12.01.20

GO 近所

友達が『GO 近所』というアプリを開発した。
街角に立ってこのアプリを立ち上げると
半径 200m 以内に登録されている
いろんな情報が入ってくる。
簡単に言えば電子チラシだ。
東京では春に本格導入されるのだが、
すでに使える状態にはなっている。
まだ多くの人が使っていない状態で、
いろんな告知を出させてもらっている。
東京ではまだ情報があまり掲載されてないが
名古屋と小田原では先行導入されている。
春に東京で本格導入されたらきっと面白いだろうな。
このアプリの素敵なところは、
むやみに情報を発信するのではなく、
位置情報によって必要な人にだけ届けようとする
その考え方にある。

No.01554 (No.02310) 12.01.21

灯せ！希望の灯りを被災地に

真言宗の僧侶たちが
東日本大震災の鎮魂のため、
神戸からはるばる福島まで
徒歩練行をおこなう。
阪神大震災から 17 年後の 1 月 17 日に
神戸市東遊園地内で輝き続ける
「1・17 希望の灯り」を分灯してもらい、
それを携えての長距離歩行である。
3 月 10 日にいわき市内でお逮夜をおこない、
311 から 1 年後である 3 月 11 日に
いわき市内の津波被災地各所で
一周忌法要をおこなう予定だ。
道中の詳細は
この twitter アカウントから発信される。
https://twitter.com/#!/fukuichiseinen
『GO 近所』でも独自の情報を発信する予定。

No.01555 (No.02311) 12.01.22

キャンドルの明かり

夕食の時に雰囲気をよくするために
時々キャンドルに火をつけ
室内の灯りを消す。
キャンドルの灯りは
まるで生きているかのように
ゆらゆらと揺れ、
とても心地よい。
復興祈願などでたくさんのキャンドルを灯すとき、
ひとつひとつ火が点いていく様は

命のつながりを思わせてくれる。
キャンドルの火が不安定で
大切に扱わないと消えてしまうというのも
命のように思わせてくれる。
http://書く冒険.jp/photo/?p=263

No.01556 (No.02312) 12.01.23
ぽっかりとした夕日
雲にお化粧された夕日が好きだが、
時々あらわれる卵の黄身のような
ぽっかりとした夕日も好き。
雲はなくても湿度が高いため
光はストレートには射してこない
そんな日の夕日。
いろんな貌を見せてくれるから
夕日と朝日が好き。
http://書く冒険.jp/photo/?p=265

No.01557 (No.02313) 12.01.24
雪の翌朝
雪の翌朝、晴れると朝日がとてもまぶしい。
空気が乾燥していて日光が強く射す。
雪に輝き、水蒸気を白く浮き立たせ、とてもきれい。
でも、滑って転ばないように注意しないとね。

No.01558 (No.02314) 12.01.25
約束
ともに苦しい時代を生きた仲間が
時を越えて何かを成し遂げたとき
心からそれを喜ぶとともに
かつてした約束が叶えられたと感動する。
社会とは、政府が運営するだけのものではなく
ひとりひとりの小さな約束によって成り立っている。
小さな約束をおろそかにするとき、
大きなうねりは災厄へと変わる。
僕たちにできることは
小さな約束をまっとうすること。

No.01559 (No.02315) 12.01.26
バリ島の棚田
バリ島の棚田はとても美しい。
それは神々に守られているから。
田植えの前には遠方から聖水を持ってきて
田んぼの片隅にある小さな寺院に献上する。
すると神様がやってきて豊かな実りをもたらす。
宴が催され、踊りが奉納され、田に聖水が振りまかれる。
稲が実ると収穫の前に田んぼのニュピが執り行われる。
http://書く冒険.jp/photo/?p=267

No.01560 (No.02316) 12.01.27
ひとつずつ包装されたチョコレート
以前はチョコレートというと
もっぱら板チョコだった。
まあ、なかにはベビーチョコとか、アポロとか、
ペロペロチョコとかもあったけど、
あれらはそれぞれの商品名で思い出される。
だから、チョコレートと言えば、
ふっと思いつくのは板チョコだった。
板チョコは板チョコでいいんだけどさ、
板チョコを手で割ると
細かくなったチョコレートが白い服についたり
時によっては大きな欠片が
床に落ちて「あーっ！」なんてことにもなる。
そこに行くと最近売られている
ひとつひとつ一口大にして
包装されたチョコレートはいい。
紙の包みを開けば、
そこに一口大のチョコがある。
それをお口にポイッ。
しばらく舌の上に載せて
ジワジワと解けてくるのを待つ。
解ければ解けるほど甘さが舌に染みてきて
目尻が下がって、口角が上がって、ムフフと思って、
おいしゅうございます。

No.01561 (No.02317) 12.01.28
瞑想
からだを緩めて心も緩む。
すると心の中にふと
いろんな思いが浮上する。
あのときのあんなことやこんなこと。
ひと通り流れていくと静寂が来る。
生まれる前の静けさであり、
死んだあとの無の境地。

No.01562 (No.02318) 12.01.29

オーケストラの楽器

オーケストラで使われる楽器はどれも魅力的。
いつも同じ音が出るのではなく、
感情を込めると音が変わる。
強く弾けば強い音色になるし、
弱く弾けば透き通った音になる。
微妙な変化を楽しむところに奥深さを感じる。

No.01563 (No.02319) 12.01.30

GO 近所の使い方

1/28 に未来市場創造会×kybashiTORSO 第二回
～近所の人とつながる新しいメディア GO 近所を
開催した。
http://www.futuremarketcreation.com/event/?p=67
そこで GO 近所の使い方について
ワールドカフェで討論したのだが、
いろんなアイデアが出て面白かった。
たとえば、レストランが閉店間際に
お店の近くに来た人に向けて
処分したい食材が売れるように
割り引きセールの告知をしたり、
タイムセールを仕組んでそれを告知したり、
ゲリラ的に人を集めてイベントをしたり、
ハワイアンコンサートの会場で
ハワイ旅行の告知をしたり、
ちょっと頭をひねれば
楽しくて効果的な告知がいろいろとできる。
東京で本格導入される前に
あなたなりの使い方を考えてみては？

No.01564 (No.02320) 12.01.31

帆船

帆船に乗るのはきっと心地よいことなのだろう。
バサッという帆の音とともにいくら進んでも排ガスは出ない。
大海原を少しの振動と力強い風のエネルギーで航行する。
いつか乗ってみたい。

No.01565 (No.02321) 12.02.01

甲板

きちんと手入れされた船は甲板がきれい。
毎朝船員たちが甲板を磨く。
お店でも毎日掃除しているお店とそうではないお店では
居心地がまったく違う。
甲板がきれいな船はそこにいるだけでとても爽快。
これで海に出て行ったらいいだろうなと思う。

No.01566 (No.02322) 12.02.02

希望の灯り

現在、西宮市の松泰山東光寺にある希望の灯りを見てきた。
その灯りは薬師堂で静かに燃えていた。
2 月 5 日からこの灯りは真言宗の僧侶たちに背負われ、
はるばる神戸から福島へと運ばれる。
徒歩練行の終点は 311 の一周忌法要。
各津波被災地で執り行われる。
詳細は iPhone&iPad およびアンドロイドアプリの『GO 近所』を
立ち上げると読める。
同行する僧侶も募っている。
宗派は問わないそうだ。

No.01567 (No.02323) 12.02.03

節分

節分はかつて四季ごとにあったという。
季節の変わり目には邪気が生じるからと
それを追い払うために追儺(ついな)と呼ばれる
悪魔払いがおこなわれた。
バリ島のニュピでは一年に一度、
天界から降りてきた悪霊を追い払う。
それがニュピの前夜におこなわれるオゴオゴ。
悪霊には豆をまく代わりに
悪霊のための食べ物を用意して追い払う。
似ていると思うんだよなぁ。
今年、ニュピにひさしぶりに行ってくる。

No.01568 (No.02324) 12.02.04

帆船での別れ

船員たちが号令によってマストに駆け上がる。
柱で支えられた細い綱の上に立ち、
マストの上から帽子を振る。
「ごきげんよう！」
見送る者たちはその声に負けじと声を上げる。
「いってらっしゃい！」
「早く帰ってこい！」
「体に気をつけるんだぞ！」
力一杯の声を聞くと
傍観者でしかない僕の胸が熱くなるのは、

古来幾多の戦いの儀式を過ぎてきた
先祖たちの血が騒ぐからか？
http://書く冒険.jp/photo/?p=274
http://書く冒険.jp/photo/?p=271

No.01569 (No.02325) 12.02.05

徒歩練行の出発

「灯せ！希望の灯りを被災地に」は
今朝東光寺を出発した。
先頭では法螺貝を吹き
総勢 22 名の僧侶たちが
神戸から福島に向かって
遥々行脚していく。
その様子は時々USTREAM で中継される予定。
出発時など、過去の映像ファイルも見られる。

No.01570 (No.02326) 12.02.06

じっと考える

いろんなことをじっと考える。
昨日参加したワークショップのこと、
一昨日出会ったクリエイターのこと、
いま読んでいる本について、
これからおこなう企画について。
それぞれは全く関係ないこと、
だけど頭の中に繋がりができると
それが現実に反映されていく。
じっと考えてはじめたことが楽しければ
じっと考えることももちろん楽しい。
でもさ、楽しいとかうれしいとか、
言葉にならないじわっとしたものだよな。

No.01571 (No.02327) 12.02.07

消しゴムの詩

facebook で子どもが書いた詩が紹介されていた。
子どもらしい下手な字で書かれていたのだが、
その詩があまりにも素晴らしいので
シェアをした。
「消しゴム」という詩だ。
すると小山龍介さんが
「まどみちおの詩ですね」と教えてくれた。
とても素敵な詩なので
ご存じない方はネットを検索して
読んでみるといいですよ。
この世界は豊饒で素敵。
政治家にも消しゴムのような人がきっといるんだろうけど
それがわかりにくいのが残念。

No.01572 (No.02328) 12.02.08

Pinterest

また新しい SNS を始めてしまった。
twitter、Facebook でもう打ち止めと思っていたが
つい Pinterest を始めてしまった。
どんな SNS かというと、写真を貼りまくるだけ。
なんだこれ？　と思ったが、やってみると楽しい。
言葉より画像のセンスが問われる。
言葉の通じない人にも、何かが通じそうだ。
http://pinterest.com/yoji2nabuchi/

No.01573 (No.02329) 12.02.09

愛の技術

愛の技術のひとつは無闇矢鱈と所有しないこと。
お金を払って自分のものにするとき、
そこには執着が生まれる。
たとえ自分のものでなくても
その存在を祝福できるとき
所有の執着から離れることができる。
エーリッヒ・フロムは
存在することに価値を見出す在り方について
日本文化を引き合いに出して説明した。
かつての日本文化をそろそろきちんと思い出すべき時が来た。

No.01574 (No.02330) 12.02.10

気持いいものを書くこと

時々気持ちいいものを
書き続ける理由について考える。
僕はいつも心を耕しているのだと思う。
そんなことしなくても生きてはいける。
しかし、していると生きている質が変わるのだろうと思う。
底の深くに沈んでしまった思い出を時々拾い上げることで
僕自身を支配している感情と向き合う。
拾い上げたものは感情そのものではないが
いつか感情に発達するであろう断片だ。
それを拾い上げて、なぜそこにいるのかを確かめて
そしてまたそれを沈める。鎮める。静める。
無意識に根を張る何ものかを
管理したい欲望とともにいる。

No.01575 (No.02331) 12.02.11

チョコレート

バレンタインを前にしてチョコレートをもらう。
気を遣わせて悪いなぁと思いながらもちょっとうれしい。
マトリューシュカをかたどったケースのチョコと、
ひとつひとつ味が違うカカオのチョコ。
ありがとうございます。
http://www.tsunabuchi.com/waterinspiration/?p=2715

No.01576 (No.02332) 12.02.12

江戸の妖怪展

石神井公園ふるさと文化館でおこなわれている
「江戸の妖怪展」に行ってきた。
妖怪について書き記された江戸の古文書が提示されている
地味な展示だったがどこかほのぼのしていてよかった。
展示品の数もそんなには多くないし、
特に工夫が凝らされているわけではないのに
なぜか行って良かったなと思った。
高校生の頃、時々石神井公園に来ていたので
懐かしかったというのがある。
妖怪のようなものに多くの人が興味を持っているという状況が
嬉しいというのもある。
だけど結局、本当は何が良かったのか、
まだ僕には明言できない。

No.01577 (No.02333) 12.02.13

写真たち

ネット上に山のようにある写真たちを次々と見ていくと、
心の底で時々ひっかかる作品がある。
Pinterest でそのようなものを集めていくと
自分の好みや興味や
それらを動かす感情に直面することになる。
居心地がいいような悪いような、
心の底に隠してきた思いがふと浮かび上がる。

No.01578 (No.02334) 12.02.14

別れ際にハグ

懐かしい友達と会い、いろいろとおしゃべりして
別れ際にハグ。
なんかいいよな。

No.01579 (No.02335) 12.02.15

ポーズ

写真を撮るときのポーズ。
いろんな人のホーズを集めると
女の人のポーズは
たくさんバリエーションがあるのに、
男のポーズはあまり変化に富んでいない。
男らしいバリエーションって作りにくいのかな？
http://pinterest.com/yoji2nabuchi/pose/

No.01580 (No.02336) 12.02.16

日本に生きる

かつて帝国主義が吹き荒れた時代、
日本は平和な国だったが、
それに対抗する力を持たなければならないと考えた。
それを実行し、西欧諸国の世界制覇に歯止めをかけた。
しかし、有色人種台頭の基盤を作って敗北した。
いままた原子力発電の事故をきっかけに
形を変えた支配構造に対して抵抗しようとしている。
日本はどうしてそういうきっかけを与えられるのだろう？
そして今度は、どんな基盤を生み出すのだろう？

No.01581 (No.02337) 12.02.17

ショウジョノトモさんの作品

はじめてショウジョノトモさんの作品を見たとき、胸が痛んだ。
痛すぎ。
昨晩未来市場創造会の未来トルソ Cafe で
講話をしていただいた。
作品の底にある痛さの源泉について語ってくれた。
その一部は母親との関係にある。
講話が終わり、しばらくしたら
話題に上っていた母親から電話がかかってきた。
昨日はショウジョノトモさんの誕生日だった。
「いま講演していたの」
ショウジョノトモさんが言った。
電話が終わり、
「うちのお母さん、どこでバイトしているの？
　ですって。もう」
ショウジョノトモさんは怒りながら微笑んだ。
http://www.futuremarketcreation.com/event/?p=70

No.01582 (No.02338) 12.02.18

シンプルな服

服はシンプルなのがいい。
過度な飾りがないもの。
ワンポイントなにかがあっても、
ゴテゴテとした飾りは入らない。
服は着ている人に従属するもの。
着ている人が輝ければそれでいい。

No.01583 (No.02339) 12.02.19

日に照らされた石

日に照らされた石はじわっと暖かい。
生きているような暖かさの石を手にすると
なぜかうれしくなる。
暖かいってだけなんだけどなぁ。

No.01584 (No.02340) 12.02.20

水のゆらめき

ゆらゆら揺らめくその揺れ具合。
きらきらきらめくその反射。
水辺に行くとそれを眺めるだけで飽きない。
地球が生まれたときから存在し、
生命よりずっと長く続くその活動。
水のゆらめきは命のゆりかご。
http://書く冒険.jp/photo/?p=286

No.01585 (No.02341) 12.02.21

新しいことを考える

それまで誰もしたことのないような
新しいことを考えるのが好き。
はじめのうちはとても無理そうなことも
考えていくうちに可能性が見えてくる。
ひとは地球上になかったものをたくさん生み出してきた。
きっとそれが自然から人間に与えられた仕事なのだと思う。
僕たちに言葉が与えられたのは
一緒に何か新しいことをやるためなのだ。

No.01586 (No.02342) 12.02.22

小さな地震

このところ小さな地震が増えている。
もうすぐ関東から東海にかけて大きな地震が来ると言うが、
小さな地震のたびに大きいのが来ませんようにと思う。
僕たちは地球の薄い膜の上に住んでいるようなもの。
地震が来ても不思議ではない。
それは地球が生きているってことだから。
日本人が自然に対して謙虚なのは
地球から噴出する莫大なエネルギーに
さらされる地域に住んでいるから。
ここに住まわせていただきありがとうございます。
なにとぞお手柔らかにと祈っているから。

No.01587 (No.02343) 12.02.23

パソコンの進化

かつてインターネットが一般に普及したばかりの頃、
パソコンの動作はとても遅かった。
画像ファイルなんか送った日には
何時間も待たなければならなかった。
でも、それでも便利になったと思った。
ネットの速度が上がり、PC の能力が上がり、
現在の状態になったが、これからもまだ性能は上がるのだろう。
かつてインターネットが普及したばかりの頃、
きっと携帯電話にも
PC の機能が入るようになるねと言ったら
技術者からそんなことはあり得ないと説教された。
当時の技術では確かに無理だったのだろう。
しかし今や時代はスマートフォンだ。
PC でできることはほとんど携帯電話でできる。
きっとこの状態も進化して、
数年後には PC の機能は腕時計になるか、
眼鏡になるか、案を練っている人がいるだろう。
それを過ぎると次の段階は、
PC の機能が体に埋め込まれることになるんだろうな。
そうなると超能力のようなものは
当たり前になって、つまらないものになるだろう。
その先になると、きっと僕たちには理解不能な文化が生まれ、
何のためにそんなことしているのか、
何時間も説明されないと理解できないような状態に
なっているはずだ。
だって、江戸時代の人がいまの僕たちの暮らしを見たら、
なんのためにそんなことしてるの？
と思うようなことをたくさんしているから。

No.01588 (No.02344) 12.02.24

MacBookAir のタイピング音

昨晩、宮城県女川町災害廃棄物受入に関する
住民説明会に行きました。

なんと、3 月 2 日から毎日何 10 トンもの
災害廃棄物が東京に来るそうです。
その詳細は調べていただくとして、
その説明会で僕の隣に女性が座りました。
説明会が始まると MacBookAir を取り出し、
説明会の内容をパタパタと打ち込んでいきます。
かなり慣れた人のようで、
その打ち込むパタパタというリズムが心地よかった。
昔の PC はいまよりキーボードの音が大きくて、
ドタドタガタガタと入力しましたけど、
最近のキーボードは、それを打つ人の
心の状態が聞こえてくるような繊細な音でとても素敵。

No.01589 (No.02345) 12.02.25

法楽

「灯せ！希望の灯りを被災地に」の
ささやかなお手伝いをしているので
昨日府中入りした僧侶のみなさんにご挨拶に行ってきた。
大國魂神社で法楽をおこなったのだが、
聞いていてとても気持ちよかった。
太い声が唱和するといろんなところが響く。

No.01590 (No.02346) 12.02.26

世界が心地いいものだけではないこと

個人の感覚のみに浸りきっていると
この世界が心地いいものだけではないことに気づかされる。
自分にとってだけ心地いい世界を求めれば求めるほど
世界に裏切られる。
個人の感覚にとどまるだけではなく
大きな存在に共感することで本当の心地よさが見えてくる。
大きな存在に自分の感覚を委ねるか、
自分の感覚にとどまるかは、
自分次第。

No.01591 (No.02347) 12.02.27

干したお布団

布団で寝ている。
ベッドで寝ていたこともあるが、あれはマットが干しにくい。
お布団だと簡単に干すことができる。
布団を干すと独特の匂いがするようになる。
あれはいったい何なのか？
太陽の匂いだと言うひとがいるが
太陽の匂いが地球に届くわけがないので
太陽光線に照らされることで発生する
何かの匂いなのだろう。
正確にはなんだかわからないけど
あの匂いが好き。
特に冬だとフカフカな布団で寝るのが最高。

No.01592 (No.02348) 12.02.28

仲良しとつながる

昔、もう十数年も前、ケニアに行ったことがある。
そのとき友人が実験しようと言いだした。
どんな実験かと言えば、
「地球の裏側にいても
　僕たちはつながることができるのか？」
ケニアで約束の時間に僕が何かを思う。
東京では同じ時間に友達が集まり
僕が何を思っているかをキャッチする。
常識に縛られた人にとってはなんともばかげた実験だ。
だけど僕たちはそれを実行してみた。
東京では 10 名の友達が集まってくれた。
A4 の紙を用意し、みんなは僕が何を思っているのか
そこに書いてくれた。
象を取材に行ったので、
象のことを書く人が多いだろうと予測し、象を思うのはやめた。
ケニアでほかに印象的だったのは
キリンとシマウマだったのでシマウマを思うことにした。
約束の日の朝九時。
サファリに出発のため車に荷物を運び入れ、
なんだかんだとしていたら九時ぴったりを忘れていた。
五分ほど過ぎてしまったが、シマウマのことを思った。
日本に帰ってきて、時差を考え同時刻に集まった
10 名が描いた絵を見せてもらった。
６名は幾何学的な模様を描いていた。
残念ながら 6 名ははずれた。
それ以外の 4 名が凄かった。
ひとりの女性は言葉で
「チーターかシマウマかどちらか」と書いていた。
もうひとりの女性は
馬の絵とシマウマの縞を別々に描いていた。
なぜかふたつのイメージが来たのだという。
この実験をしようと言いだした中学の先生は
地平線の見える草原の中央に僕を描き、空には太陽と月、
そして、僕の隣に一頭のシマウマを描いていた。
最後のひとりはシマウマを描かなかった。

彼曰く、
「ぶーちゃんはその時間を忘れていた。
　見ていたのはこんな景色」
彼が描いたのはナイロビと思しき街の絵だった。

No.01593 (No.02349) 12.02.29

降る雪

今日は未明から雪が降っている。
数時間の間にすでに積もった。
しんしんと降る雪を見るとなぜかウキウキする。
お祭りの時みたいに落ち着かない心の部分がある。
大人だからそんなこと表には出さないけれど、
大人でも出していいんじゃないとも思う。
好きな相手に雪の降る日に告白すると
うまくいくような気がする。
そう思わないかい？
http://書く冒険.jp/photo/?p=292

No.01594 (No.02350) 12.03.01

時々の蹉跌

成功と失敗、いいものと悪いもの、
おいしいものとまずいもの、
どんなものにも必ずそうした区別がつく。
いいものばかりを集めると
必ずどこかに悪いものがあるはず。
僕たちは言葉で区別を生み出すたびに
別の区別も生み出している。
いつも成功を目指していると
かならずどこかに失敗もあるはず。
そうした失敗に目をつぶっていると
いつか全体性を失っていく。
いいこともあり、悪いこともあり、
慌てる必要は何もない。

No.01595 (No.02351) 12.03.02

妖怪のありかた

石神井公園のふるさと文化館でおこなわれていた
『江戸の妖怪展』がよかったと前に書いたが、
何がよかったのかだんだんと見えてきた。
妖怪の持つ価値観が良かったのだ。
それはきっと江戸の庶民が持っていた価値観で、
いまのものとはかなり違う。
妖怪はそれぞれに個性的で、
ほかには存在しない屹立したキャラクターがある。
そのキャラクター故に人に疎まれたり
威力を発揮したりするのだが
その特徴がこの世界に生きる理由とつながっている。
そういう濃い個性は今の時代には生きにくい。
江戸の妖怪展では御上にはにらまれないように
工夫を加えながら
政治の批判をおこなったり、
生き方についての示唆を与えたりしている。
そのクリエイティビティが楽しかった。
江戸の頃のクリエイティビティの断片が
まだ日本に残っているなら
迷走している日本人のありかたをスッパリと切るような
目の覚めるようなキャラクターが
これから生まれてくるだろう。

No.01596 (No.02352) 12.03.03

レコードのデジタイズ

20年ほど前にレコードプレイヤーが壊れて以来
レコードが聞けなかった。
当時はひとり暮らししていたので
CD用のコンポで満足していたから
実家のプレイヤーが壊れても気にしなかった。
しかし、懐かしい音楽が聴けないのが困った。
すぐにプレイヤーを買い直せばよかったのだが、
親父が入院しあまりお金は使いたくなかった。
年取った母がからだの大きな父の面倒を
ひとりで見るのは無理だったので実家に帰った。
実家でももっぱらCDばかりを聞いていた。
そのうちiPodの時代になり、
レコードプレイヤーを買う機会を失っていた。
しかし、200枚ほどのレコードの中には
どうしても聞きたいものがあったので、
父が亡くなり引っ越しても
レコードを手放さなかった。
先日、デジタイズができるレコードプレイヤーをやっと買った。
レコードを一枚ずつ聞きながら、
ポツリポツリとMP3のファイルにしている。
音楽を聴き、ジャケットとインナースリーブの写真を撮り、
ファイルに一曲ずつ曲名やアルバム名を打ち込んでいる。
20年ほど聞いていなかった音楽が僕の中で甦る。

No.01597 (No.02353) 12.03.04

白い恋人たち

クロード・ルルーシュが監督した
フランス・グルノーブル冬季オリンピックの
ドキュメンタリー映画
「白い恋人たち/グルノーブルの 13 日」のテーマ曲。
スキー場には必ずと言っていいほどこの曲がかけられていた。
メロディーに使われている独特なオルガンの音がとてもいい。
作られてから 44 年もたちいろんな編曲の演奏があるが
未だに原曲の印象が強い。
音色がいかに大事なものかがよくわかる。

No.01598 (No.02354) 12.03.05

フラッシュメモリー

こんな小さなものに何十 GB ものデータが入る。
昔の大きなフロッピーディスクの何枚分になるのだろう？
確か 3.5 インチのフロッピーディスクは 1.2MB 程度だったから、
1,000〜10,000 倍程度になったということだ。
最初のフロッピーディスクは 8 インチもあったが、
それで 128 キロバイトだというから、
3.5 インチになったことで
1,000 倍ほどの記録ができるようになった。
8 インチから考えれば現在のフラッシュメモリーは
1,000,000〜10,000,000 倍の容量になった。
文書でも写真でも音楽でも気軽に入れて使っているが、
作った苦労はどんなものだったんだろう？

No.01599 (No.02355) 12.03.06

人形を治す

幼い頃、うちにあった木彫りの虎が壊れた。
足が欠けてしまったのだ。
その足をボンドでくっつけ、
それだけだとボンドで付けたのがわかってしまうので
ティッシュを細く切って包帯のように巻いた。
なんかうれしかったな。

No.01600 (No.02356) 12.03.07

祈りのつどい

3 月 11 日前後は東日本大震災の犠牲者追悼と
復興祈願のためのイベントがたくさんおこなわれる。
そのうちのひとつに、ずっと告知し続けてきた
「灯せ！希望の灯りを被災地に」で
神戸から真言宗智山派の僧侶たちが運んできた
希望の灯りを使っておこなわれるイベントの詳細が決まった。
ほぼ一ヶ月をかけて 800km の道のりを歩いてきた僧侶たちは
野球場に拡がる分灯されたろうそくの明かりを見て
何を思うのだろうか。
きっとこの世では滅多に見ることのできない
聖なる空間になるのだろう。

No.01601 (No.02357) 12.03.08

『Pina/ピナ・バウシュ 踊り続けるいのち』
ヴィム・ヴェンダースのインタビューを見て
この映画を見てみたいと思った。
ヴィム・ヴェンダースの監督としての素晴らしさが
どういうものだか僕にはわからないけれど、
「3D のカメラアングルは、
　いままでの映画のものとは違う」
と聞いて、それがいったいどう違うのか
確かめたかったから見に行った。
結局、僕にはいままでの映画と 3D のアングルの
何が違うのかわからなかったけど、
3D で撮られたダンサーたちの
生きていることのエネルギーに触れて圧倒された。
彼らは普通に踊っているのではない、
何かに乗り移られて踊らされているような感じだ。
しかも、それは野生動物が自然の環境の中で
ただただ生きている状態を
人のからだに乗り移させたような
生き生きした感覚が伝ってくる。
物語はほとんどない。
瞬間に生きている生命のエネルギーが
3D の空間からあふれてくる。

No.01602 (No.02358) 12.03.09

面倒なこと

人は面倒なことを避けようとする、
だから、他人の面倒を取り除くようにすれば
それは仕事となり、稼ぐことができる。
こう考えることは悪いことではない。
おかげでいろんなことが便利になった。
しかし、その考えがあまりにも行きすぎると問題が生まれる。
面倒なことをすべて誰かに任せてしまうと
自分のやるべきこと、
考えるべき問題がわからなくなる。
便利のために作ったものの原理がわからず、
いつか大きな問題に巻き込まれる。
生きる上で大切な面倒なことはいつもそばに置いて、
その面倒を見ることに喜びを覚えるようにしたほうがいい。

No.01603 (No.02359) 12.03.10

エコノミック・ガーデーニング

アメリカ・コロラドのリトルトンで始められた試み。
過去の地域活性は大手の企業を誘致し、
そこの成長を助けるように作られ、
大手企業に依存した成長モデルだったが
エコノミック・ガーデニングでは
すでにある地場産業が成長できるように
ささやかなお手伝いをする。
それは公共投資のようにお金をかけないが、
ネットワークの成長を助けたり、
企業間の相互援助が
しやすい状況を作ったりすることで
地場産業全体の底上げを図る。
支援の主軸は
1.文化施設などサポートに必要なコミュニティ資産の用意
2.事業者・仲介者などの交換の場を用意
3.市場競争に関する資料の用意
ある地域に関しての Blog を立ち上げて
互いに紹介し合うなんてこともその一端。
ということで、僕は住んでいる氷川台についての
Blog を立ち上げてみた。
できる範囲でポツリポツリと書き込んでいくつもり。
http://www.tsunabuchi.com/hikawadai/
日本でのエコノミック・ガーデニングの第一人者
山本尚史(やまもとたかし)さんの HP はこちら。
http://www.economic-gardeners.jp/

No.01604 (No.02360) 12.03.11

1 年

1 年前には知らない人と知り合いになった。
1 年前には思いもかけない体験をした。
1 年前には考えもしない勉強をした。
1 年前にはやろうと思わなかったことをしている。
あらゆることが変化していくことを
骨身に染みて感じた。

No.01605 (No.02361) 12.03.12

小さな違いを見つける

毎日のように同じことを書いていると
ささいな違いを見つけるようになる。
ささいな違いは表現するのに大切なこと。
子どもたちが言葉を獲得するのにはじめにするのは、
大きな違いを見つけることだと
言語の研究者たちは期待していたが、
実際に実験して調べると

いつも繰り返されることのささいな違いについて
興味を持つことだったそうだ。
まるっきり新しいことって言いようがないものね。

No.01606 (No.02362) 12.03.13

震災後

福島県いわき市平球場でおこなわれた
『祈りのつどい』に参加してきた。
地震と津波、その後の原発事故の状況を考えると
気持ちいいものとはとても言えないが、
その苦しい状況をなんとかして変え
亡くなったかたへの鎮魂と、
復興を祈願する意志の強さは
まさに清々しいものだった。
http://書く冒険.jp/photo/?p=295
自然エネルギー財団を立ち上げた孫正義さんは
ソフトバンクを使ってゴビ砂漠で風力発電を始める。
アジア圏を直流高圧送電網でつなげ、
自然エネルギーでの電力安定化を目指す。
311 には各地で脱原発を謳った集会がおこなわれた。
いっぽうで、原発促進の集会は聞かなかったが、
原発を推進しようとしている人が
いまだにいることに不思議な感じを受ける。
原発の危険性がはっきりしたいま、
ひとりひとりの個人の安全を考えて世界が動き出す。

No.01607 (No.02363) 12.03.14

瞑想

瞑想の気持ちよさはただ座れば生まれるものではない。
瞑想している状態に自分から入っていく。
この能動的な状態に瞑想の良さが生まれる。
一度入ればいろんな体験ができる。
この状態を覚えるのに時間がかかるが、
一度覚えればあまり難しくはない。
昔、やりはじめた頃はすぐに眠ってしまった。(笑)

No.01608 (No.02364) 12.03.15

スキップ

スキップすると笑顔になれる。
あれはなぜだろう?
いい大人がいきなりスキップするのは恥ずかしいが、
はじめるとなぜか口元が緩む。
頭では「バカだな〜」と思いながらも
うれしくなっている。
あれは子どもの頃にすり込まれた条件反射なのだろうか?

No.01609 (No.02365) 12.03.16

机の掃除

忙しいと机の上がすぐにいっぱいになる。
読みかけの本や雑誌、もらってまだ整理してない名刺、
やりかけてまだ完成してない作品の入ったハードディスクなど
ゴッチャゴチャ。
それをえいやっと片付ける。
手塚治虫が描いている作品ごとに机を代えたというが、
可能であれば僕もそれがしたい。
机を代えてコンピューターを代えることができたら
いまほど机はゴチャゴチャにならないのではないかという
淡い期待をもつ。
そんな期待を持つ前に、机を綺麗にしましょう。

No.01610 (No.02366) 12.03.17

国際電話

どこからかけても同じ電話のはずなのに
国をまたいで電話をするのは何かウフフと思う。
かけたときにその国独特の呼び出し音が聞こえ
それだけでテンションは 3 割り増し。
遠い相手が電話に出て、話しがはずめばさらに上がる。
昔よりは安くなったのでそれもうれしい。

No.01611 (No.02367) 12.03.18

旅行の準備

旅行に出かけるためのパッキング。
あのためにこれ、このためにそれ。
鞄にいろいろと詰め込んで彼の地のことを考える。

No.01612 (No.02368) 12.03.27

バリ島の祭礼

バリ島の祭礼は背中合わせ。
生と死。
静と動。
優しさと厳しさ。
この瞬間と永遠。
陰と陽。
悲しみと喜び。
研ぎ澄まされた両極端の薄い刃の上を進んでいく。
日本人が忘れかけている生きることそのもの。

http://書く冒険.jp/photo/?p=297

No.01613 (No.02369) 12.03.28

オゴオゴ

ハリボテで作られたオゴオゴはちっとも怖くない。
昼間に広場で飾られているとどこかおかしみがある。
どんなに怖い形相をしていても
太陽に照らされ
家族連れに笑いながら見上げられていると
それは単なる作り物。
ところが、夜の闇があたりを包み
力強い若者たちに担ぎ上げられ、
ハリボテのオゴオゴは命を吹き込まれ、悪鬼となる。
http://書く冒険.jp/photo/?p=305

No.01614 (No.02370) 12.03.29

編曲

先日、プロの演奏家から編曲を頼まれた。
元来僕は無類の音楽好きなので、
そういうことを頼まれると
頭から音楽が離れなくなってしまう。
瞑想して執着を手放しましょうなんて言っている癖に
音楽という執着が手放せなくなる。
まぁ、いいんだけど。。。
http://soundcloud.com/tsunabuchi-yoji

No.01615 (No.02371) 12.03.30

軸を持つこと

何度もバリ島に通っているが、
バリ島のいったい何がいいのか考えた。
そこでふと浮かんだことは軸を持っていること。
バリの人たちは自分たちの宗教祭祀を手放さない。
科学的に考えると、そんなことにどんな意味があるのか？
ということになってしまうが、
どんなに科学的に説明されたとしても
宗教祭祀を手放さないでいる強さがバリにはある。
そして、科学では説明しきれない価値を生み出し続けている。
京都が京都であるのは祇園祭など
京都に根付いている祭祀をきちんと守っているから。
そういうことの価値が
僕にもようやっとわかるようになってきた。

No.01616 (No.02372) 12.03.31

鏡の海

いつかはウユニ塩湖の景色を見たいと思っていた。
空が塩湖に鏡のように映るその景色を。
今回のバリ行の最終日、サヌールの浜に出ると
思わずガッツポーズをしてしまった。
海が鏡のようになっていた。
何度もサヌールに来たが、
こんな景色ははじめてだ。
http://書く冒険.jp/photo/?p=310

No.01617 (No.02373) 12.04.02

チャナン

バリ島を歩くとあちこちに花や線香が供えられている。
バリ島の人々が毎日供える。
市場に行くと売っている。
年によって流行りの形があるようで、
今年の形はいままでのものとは全く違って
花のように可愛い籠になった。
http://書く冒険.jp/photo/?p=312

No.01618 (No.02374) 12.04.03

Paper

村松恒平さんから習った
「酔ったときこそ絵を描くべき」を
iPad のアプリ、Paper で実践した。
普段は絵なんかまったく描かない女房殿も
面白がって一緒に描いた。
http://書く冒険.jp/diary/?p=198

No.01619 (No.02375) 12.04.04

快晴

春の大嵐が過ぎ、空は快晴。
東京からは富士山も見える。
お昼にはお散歩でもしましょう。
そろそろ桜も咲き始めたし。

No.01620 (No.02376) 12.04.05

桜の開花

氷川台の桜が咲き始めた。
毎年毎年同じように咲き、
毎年毎年同じようにうれしくなり、
毎年毎年同じように写真を撮る。

それでも飽きない。
年に一度だけだから？
春のウキウキした気分の時に咲き始めるから？
桜にまつわる思い出があるから？
夜桜と月を撮ってみた。
うふっ。
http://書く冒険.jp/photo/?p=314

No.01621 (No.02377) 12.04.06

飲んで Paper

4/3 にも書いた iPad アプリの「Paper」を
友人たちと飲んだ席でも使ってみた。
大盛り上がり。
ペンや鉛筆だと簡単には消せないけど、
アプリだとサッと消せる気楽さがあるせいか
「絵なんか描かない」という人も
しばらくするとはまってしまう。

No.01622 (No.02378) 12.04.07

夜桜満月

昨晩は満月だったので、夜桜と一緒に満月を撮った。
この写真を撮ったときもっと月を月らしく、
もっと桜を桜らしく撮りたいという
願望を持ってしまったのが発端だ。
http://書く冒険.jp/photo/?p=314
月を月らしく撮るのは簡単だ。
こうすればいい。
http://書く冒険.jp/photo/?p=317
桜を桜らしく撮るのも難しくない。
http://書く冒険.jp/photo/?p=319
しかし、両者をひとつの画面に
綺麗に収めるのは難しい。
月が小さくてもいいならこのように撮れる。
http://書く冒険.jp/photo/?p=321
だけど月をでっかく撮りたい。
こんな感じに撮れば両者のピントはいい線になる。
http://書く冒険.jp/photo/?p=323
そこに桜の姿が浮かび上がるか。
http://書く冒険.jp/photo/?p=325
まあまあ、月と桜が一緒に写った。
もうひとがんばり。
http://書く冒険.jp/photo/?p=328
助手がいたら桜の下で明かりを灯せば
完全にきれいな満月と桜が写せたね。

No.01623 (No.02379) 12.04.08

石神井川の鴨

氷川台には石神井川が流れている。
そこに鴨が住み着いている。
桜とともに撮影した。
のどかな風景に水色と桜色が映える。
http://書く冒険.jp/photo/?p=330

No.01624 (No.02380) 12.04.09

鶴の舞

練馬区氷川台の氷川神社には
江戸時代から鶴の舞が伝承されている。
三年に一度おこなわれるその行事が昨日おこなわれた。
普段は殺風景な街がひととき、きらびやかな夢物語の
舞台のようになった。
氏子・町内会の皆さんお疲れ様でした。
http://www.tsunabuchi.com/hikawadai/?p=60

No.01625 (No.02381) 12.04.10

コインシデンス

なぜだかわからないけど関係ないはずの場所で
何度も同じ言葉に出会うことがある。
かつてアイルランドに行くことが決まったら
ガリバー旅行記のガリバーにあちこちで出会った。
いま再び、あちこちで同じ言葉に会う。
特に流行っている言葉でもないはずなのに。
きっと何かの兆候だろう。

No.01626 (No.02382) 12.04.11

心を澄ます

世の中にはうまく行かないことがたびたび起こる。
そんなときこそ心を澄ます。
ひとはそれぞれ別の宇宙のようなもの。
一緒に何かすることのほうが難しい。
だけど何度か一緒にやっているとそのことを忘れていく。
宇宙に生まれる求心力はそのなかの存在によって決まる。
相手の状態がわからない限り
同じ方向への求心力は生まれない。

No.01627 (No.02383) 12.04.12

玉子を割る

玉子を使った料理をするとき
パカッと綺麗に割れるとうれしい。
時々うまくいかないことがある。
玉子の殻が料理に入ったり、
思ったところで割れなかったり、
黄身が潰れて出てきたりする。
そういう可能性を持ちながら、
きちんときれいに割れると口元に笑みが浮かぶ。:)

No.01628 (No.02384) 12.04.13

スパムメール

毎朝、メールソフトを立ち上げると入っている
山のようなスパムメール。
ポチリポチリと消していくが、
その最中、ふとエアクッションの小さなポチポチを
指でつぶすことを思い出す。
あれに似ているな、と。
世界中の人たちが利益を上げようと
あの手この手でスパムメールを発信する。
みんながんばっているなぁ。
切ないなぁ。

No.01629 (No.02385) 12.04.14

桜

東京では満開だった桜が散りつつある。
今年も素敵な風景が見られた。
日本中で桜が見られるのは
かつて生きていた人たちが桜を好きだったから。
いまの風景がこのように春めくのは
桜の木を植えてくれた誰かのおかげ。
ありがたいことだなと思う。
http://書く冒険.jp/photo/?tag=桜

No.01630 (No.02386) 12.04.15

薄着

春になり、少しは暖かい日があるので薄着をする。
春の薄着はお洒落になったようでウフッと思う。
だけど、急に寒くなったりすると風邪を引くので注意。
おしゃれのためのやせ我慢の日々。

No.01631 (No.02387) 12.04.16

カーペンターズ　ライブ・イン・ジャパン

レコードの整理をしていて何十年ぶりかで聞いた。
1974 年に大阪フェスティバルホールで
録音されたライブレコード。
当時はまだコンピューターの打ち込みなどなかったから、
ライブ独特のテンポの揺れがあり、とても心地よい。
いまのコンサートはレコードの音に近づけるために
すでに録音された音を演奏に重ねたりするけど、
この頃のライブはすべて生演奏で
それ故にレコードにあった音などが抜けたりするが
カーペーンターズはそれを逆手に取るように
ライブ独特のアレンジで聞かせる。
70 年代によく使われたシンセサイザーの音も登場し
とても懐かしい。

No.01632 (No.02388) 12.04.17

小説を書く

ひさしぶりに小説を書き始めた。
今回は連載ものなので字数の制限がある。
ところが書きたい内容は字数をどんどん超えていくので
さてどうしたものか。

No.01633 (No.02389) 12.04.18

イエロー・サブマリン

App Store にビートルズが作った
イエロー・サブマリンの電子ブックが
無料で配布されているのでダウンロードした。
本と映像が融合され、
こんな凝ったものをタダで配布するなんて
どういうことだろう？
と思いつつ読んでいくと、
最後にイエロー・サブマリンの音楽が
有料でダウンロードできるようになっていた。
あまりに手の込んだプロモーションで感心した。

No.01634 (No.02390) 12.04.19

えごた か えこだ か 謎マップ

白龍トマト館でホール担当のナナコさんが
江古田を紹介する地図を作った。
不景気だからとか、原発事故があったからとか
つまらない言い訳をして手を抜くのではなく
こんな時だからこその工夫が光る。

さすが白龍トマト館。
江古田近辺の 20 店舗で入手できます。

No.01635 (No.02391) 12.04.20

イージーリスニング

街角でふと懐かしいメロディーが聞こえる。
編曲は違うけど、原曲とは違う味わいが
思い出の陰影を浮かび上がらせてくれる。
楽団の数だけ様々な編曲があり、
それぞれに違う良さを楽しんだ。

No.01636 (No.02392) 12.04.21

鳥

何年か前にハワイに行ったとき
テラスでハンバーガーを食べていたら
鳩が目の前の椅子の背もたれに止まった。
きっと人に慣れていたのだと思う。
ハワイの鳩ってすごいなぁと思っていたけど
最近は都内の鳩や知らない鳥まで近くに寄ってくる。
楽しいからいいけど、食べちゃうよ。(嘘)

No.01637 (No.02393) 12.04.22

2012 年の天体ショー

昨晩、闇夜の瞑想会をおこなった。
新月の日の瞑想会だ。
次回は金環食の前夜におこなう。
とても楽しみ。
今年は金環食以外にもいろんな天体現象が観察できる。
6 月 6 日には太陽の前を金星が通っていく
金星日面経過が見られる。
前回は 8 年前だったそうだが、
次回は 105 年後だそうで、
僕たちにとってはこれが最後のチャンスとなる。
さらに 8 月 14 日には金星が月に隠れる
金星食があるそうだ。
金星日面経過も金星食も
ほぼ国内にいれば見られるとのこと。
ただし、金星食は石垣島あたりでは見られないそうだ。

No.01638 (No.02394) 12.04.23

電子雑誌

好きな雑誌はすぐにたまってしまう。
書斎の中は雑誌のバックナンバーで埋められる。
だから電子雑誌はとても心地いい。
置く場所に困らないから。
だけど雑誌の切り抜きができないのが不満。
必要なページを PDF にできるといいんだけどなぁ。
他人に回されないようにコピー禁止なんだろうけど、
記録として残したいものには不便だ。
アンダーラインも引きたいしなぁ。
iPad に表示した内容を
スキャナーで読み込めないか試してみたが駄目だった。(笑)
未来の電子雑誌はそのあたりが自由でありますように。

No.01639 (No.02395) 12.04.24

道具

PC やデバイスを仕事で使っていると、
時々ソフトなどのアップデートを伝えてくる。
ソフトが新しくなるのは
どこかウキウキするから気にならないが、
やっていることを中断させられるのは
あまり気持ちいいものではない。
その点、いままでの普通の道具はいい。
黙って使われるだけだ。
新しいの買えとか、もうインクがなくなったとか催促しない。
電子デバイスはそういう在り方を
普通の道具から学ぶべきだな。

No.01640 (No.02396) 12.04.25

ハイタッチ

ひさしぶりに会ったときや何かがうまくいったとき、
ハイタッチをする。
うれしいよね。
英語ではなぜかハイファイブというそうだ。
ファイブってなに?
ちなみにローファイブというのもあるそうだが、
こちらは黒人が使う俗語で
あまり公の場で使うと恥ずかしい言葉。
ネットサーフィンをすると、
ImprovEverywhere がこんなことをしていた。
http://bit.ly/SSCdI

No.01641 (No.02397) 12.04.26

巡り合うことと付き合うこと

この世界は広いから、
何かに巡り合うことは

とてもありがたいこと。
巡り合ったその上で、
その人や物と付き合うかどうかはまた別の問題。
この人はきっといい人なんだろうなとは思いつつも
二度目に会う機会がなければ付き合うことはできない。
道具も、使えばきっといいだろうなとは思いつつも
ずっと使い続けている道具をやめて
巡り合った新しい道具を使うかどうかは
その道具の良し悪しだけの問題ではない。
前に使っていた道具への愛着や使用法によって
使うことが難しいことがある。
こう考えると、巡り合って付き合ってもらうことが
いかに大切なことかがよくわかる。

No.01642 (No.02398) 12.04.27

太陽撮影用フィルター

金環食を撮影するために太陽撮影用フィルターを入手した。
これで月食の時のように写真が撮れる。
入手して以来雨やくもりが続いているので
一度試しに太陽を撮影したいのだがまだしてない。
試しに撮影したらあとは当日を待つだけ。
東京では、173 年ぶりの金環食。
つまり当時は江戸だったわけだ。
次は 300 年後。
東京で金環食が見られるのはいかにラッキーか。
どうか晴れますように。
以下は去年 12 月の月食。
http://書く冒険.jp/photo/?p=193

No.01643 (No.02399) 12.04.28

黒点

太陽撮影用フィルターを使って
昼間の太陽を撮ってみた。
黒点が写った。
夕日では時々黒点が見えるが
昼間の太陽ではまぶしくて普通は見えない。
以下はかつて黒点が写った夕日の写真。
http://書く冒険.jp/photo/?p=265

No.01644 (No.02400) 12.04.29

石

KCJones の二宮さんから
ヒーリング・ストーンを買った。
昔、庭にあった石を拾ってはじっと眺めていたことを思い出す。
一個一個形が違って色が違って、模様も違うのが不思議だった。
今思えば、たくさんの同じものがあることのほうが
不思議なんだけどね。

No.01645 (No.02401) 12.04.30

多次元

物事は多次元に決まる。
普段暮らしていると、何かが何かに決まることの理由を
ひとつかふたつに絞って話したくなる。
たとえば、「○○が決めた」とか
「○○が儲けるため」だとか、
「○○がこんなこと考えているから」だとか。
そう考えることで「だから無理」と言いやすくなる。
しかし、実際には物事は多次元に決まる。
確かに○○が決めたのかもしれないが、
○○は誰かの助言を聞き、そのときどきの風を読み、
最善の決定のつもりで決めたのだろう。
だとするなら、○○が決める前に
最善の決定が実は別のものであることを
納得させられればいい。
そう考えれば可能性が見えるかも。
自分自身も多次元の要素のひとつであることを
思い出せばいい。

No.01646 (No.02402) 12.05.01

ふたを開く

インターネットのおかげで子供たちは
その気になれば先生の知識よりも深く
何かについて調べることができるようになってきた。
僕が子どもの頃には知られていなかった内容が
ネット上にはごろごろしている。
子供たちは興味さえあれば
いろんなことを調べられる状況にある。
親や教師は子供たちの理解に追いつけないこともあるだろう。
そうなったとき、教育とはどうあるべきか？
こういうと多くの大人は不安になるだろう。
でも、不安にならなくてもいいんじゃないかな。
子供のほうがきっと大人より柔軟に
あらゆることに対応していく。
そのときに当然、年を取った人たちと
どう接するかも深く学ぶでしょう。
恐怖や不信とともに子供に接すれば

子供はそれを跳ね返してくるし、
愛とともに接すればそれを跳ね返してきてくれる。

No.01647 (No.02403) 12.05.02

徹夜

徹夜するほど夢中になれることがあるってのが幸せなこと。
健康に悪いとかなんとか言われるけど、
気持ちが若いと健康にもいいはず。
さあみんなで楽しく徹夜しよう。

No.01648 (No.02404) 12.05.03

リニューアル

バリ島に行っている間に
東京ワークショップのサイトに不具合が出て
いまメンテナンスとリニューアルをしている。
少しずつできてきているのだが
完成に近づいてくるとなんかそれだけでワクワクする。
ウフフ。

No.01649 (No.02405) 12.05.04

Water Color

春が過ぎ、梅雨の頃が近づいてくるとなんとなくだるい。
縮こまっていたからだが夏の気候に合わせるように
体制を整えている。
そんな頃の雨の日、僕の心に染みるのは
大瀧詠一の「Water Color」、
今朝も聴いたよ。

No.01650 (No.02406) 12.05.05

ウォレスの生き方

アルフレッド・ラッセル・ウォレスの書いた
「マレー諸島」を読んでいる。
ウォレスという人はとても興味深い人だ。
ダーウィンの進化論を支える自然淘汰説を
ブラジルやマレー諸島を巡って様々な生物の標本を集めて
確固たるものにしていくが、本人は生物学者と言うよりは、
もとは単なるアマチュアの採集活動が好きな人で、
若い頃は建築測量士として成功するが、
25 歳でブラジルに旅立ち、アマゾンの熱帯雨林で珍しい昆虫や
動物の標本を作ってはイギリスのコレクターに売っていた。
その後、マレー諸島を巡り
その体験がいつしか自然淘汰説を生み出す基礎となる。
自然淘汰説ではダーウィンのほうが有名になったが
本人はあまり意に介せず、
50 を過ぎて財産が残せず、困っていると
ダーウィンが政府に働きかけ、年金がもらえるようになり、
やっと生活が落ち着く。
その後、90 歳まで生きた。

No.01651 (No.02407) 12.05.06

運がいいこと

運がいいとはどんなことか？
会いたい人に会える。
欲しいものが手に入る。
行きたい場所に行ける。
やりたいことができる。
そんなことかと思っていたけど、
いろいろ考えた結果こうなった。
なんでも可能だとして、
自分が本当はなにをすべきかを知っている。
つまり天命を知っていると言うこと。
天命は他人から与えられるべきものではない。
若いうちに探すか決めるかしないとね。

No.01652 (No.02408) 12.05.07

東京ワークショップリニューアル

2004 年から運営しているサイト
東京ワークショップをリニューアルした。
ゴールデンウィークのあいだ
ずっとこの作業をしていた。
まだ不完全ではあるが、十分使える。
これから時間をかけて完成させていく。
http://www.tokyoworkshop.com/

No.01653 (No.02409) 12.05.08

バリシャツの季節

僕はバリ島で買ったシャツたちのことをバリシャツと呼ぶ。
バリシャツのいいとこは夏に着ると気持良いこと。
湿度の高い暑い島のシャツだから
着ていて気持ちよくないときっと売れない。
だから庶民が買うような店で買うのがいい。
観光客相手のシャツは作られた目的が違う。
それから僕が好きな点は
ボタンがたいてい木製であること。
きっと僕たちが普段使っている
プラスチックのボタンは

バリ島では高いのだろう。
バリシャツのボタンは木やヤシの実の皮の外側の硬い部分とか
そういう自然物でできているものが多い。
ボタン穴にちょっとだけ通りにくいけど
その通りにくい感覚にムフフと思う。
だって、そのボタンを作るのに誰かが一生懸命切って磨いて
小さな穴を開けたんだよ。
機械でガチャンとできるものとは違う。
金額としては安いけど、こっちのほうがずっと贅沢だと感じる。
金額としては安いけど、きちんと価値のあるものを着る。

No.01654 (No.02410) 12.05.09

ちょっとした違い

以前、10 年以上前、
1999 年からほぼ毎日「気持ちいいもの」を書き始めた。
その頃は気持ちいいものを書くことを
義務のようにして書いていたので
時々疲れて休まなければならなかった。
いまは毎日書いても義務ではない。
好きで書いている。
このちょっとした違いが大きい。
だけど、このちょっとした違いを
乗り越えられるかどうかが大切なのだと思う。

No.01655 (No.02411) 12.05.10

鳩のカップル

公園に行くと鳩のカップルによく出会う。
二羽が寄り添い、仲がいい。
くちばし同士を寄せていると
首と胸の空間にハートマークができあがる。

No.01656 (No.02412) 12.05.11

かぼちゃほうとう

甲府駅前でほうとうを食べようと思い、専門店に入った。
メニューを見たら、
「かぼちゃほうとう」とでっかく書かれていたので
ほかにもいろいろとあったのだが、それを頼む。
若い頃に食べた思い出があるが
そのときはそんなにおいしいものとは思わなかった。
ところが今回はとても美味しく感じた。
かぼちゃが溶け出した汁が旨い。
味噌の塩気にかぼちゃの甘みがほどよく混ざっている。
もちもちした麺がうまい。
ある程度の歯ごたえがあり、
噛むときのニュワッという感じがいいのだ。
アツアツで食べたので体がほっかほか。
汗をかなりかいた。
夏になる前にまた食べに行こうかなぁ。

No.01657 (No.02413) 12.05.12

純一な心で決然と実行する

現代人はいろんなことを選べるようになった。
選べることが便利さにつながると思っている。
しかし、なんとなく選ばされているあいだ、
やってくる成果はそれなりのものとなる。
「これしかない」と選択し、
それ以外の選択肢を閉じるとき、
成果はおのずとやってくる。
それ以外の選択肢を閉じるのは
現代人にとって簡単なことではない。
「便利である」という言葉が
純一な心であろうとする目を曇らせるから。

No.01658 (No.02414) 12.05.13

アイスコーヒーの季節

夏にはアイスコーヒーを作る。
多めの珈琲豆をミルで挽いて
氷を入れたボトルにドリップする。
多めに作って一日程度で飲みきる。
幼い頃、母が夏になると麦茶を作ってくれた。
毎年飲むので毎年楽しみ。
それと同じだな。

No.01659 (No.02415) 12.05.14

全原発停止を祝う

5 月 5 日に全原発停止を祝いデモ行進があったそうだ。
GW は東京ワークショップのリニューアルに
集中していたので気がつかなかった。
http://www.tokyoworkshop.com/
最後の原子炉が 5/5 に停止し、このまま原発は停止したまま
次第に核燃料棒が冷えるのを何十年も待って、
そのあと地下施設に埋めて何十万年も待たなければ
本当に処理したとは言えない。
いままで何十万年とかけて必ず
安全に廃棄すると言い続けた人たちは
たった 50 年程度でそれが夢だったことを知り、

きちんと処理する技術と論理が生まれるまで
原発をなくさなければならない。
いまからはじめてももう遅いくらいだ。
この時点で気づけてよかったとも言うべきだろう。
もし何百年も経ってから気づいていたら、
処理のための予算は、人が生きるための予算を
上回っていただろうから。
そもそもどんなに科学が発達しても
処理の方法は確立しないかもしれない。
なにしろ処理のための論理が「冷却を待つ」以外ないのだから。
http://kobajun.chips.jp/?p=2428

No.01660 (No.02416) 12.05.15

泳ぐ

手で掻いた水の流れ。
足で蹴った水の反応。
からだのまわりを流れていく水。
水にもぐってくぐもった音。
定期的な自分の呼吸。
長く泳いでいると余計なことは考えなくなる。
まわりの状況を感じながら泳いだ距離を覚えていくだけ。

No.01661 (No.02417) 12.05.16

日食

今朝の J-wave で金環食の話をしていた。
いまから期待でワクワクするが、天気が心配。
前回、2009 年 7 月 22 日の日食は曇って見えなかった。
その日、太平洋上から見えた映像がここにある。
http://www.tsunabuchi.com/waterinspiration/?p=927
これは皆既食だが、21 日は金環食になる。
いつか自分の目で皆既食も見てみたいな。
今年これから見られる天体ショーに関してはこちらに書いた。
http://www.tsunabuchi.com/waterinspiration/?p=2788

No.01662 (No.02418) 12.05.17

芋掘り

幼稚園児の頃、芋掘りをした。
近所の農家に行ってサツマイモを掘らせてもらう。
僕に割り当てられた株はまだサツマイモがついてなくて
掘っても何も取れなかった。
みんなが次々とお芋を引き上げるのに
僕の手元には何もなく悲しかったが、先生がそれを見つけて、
別の株を掘らせてくれた。
サツマイモが出てきたときはうれしかった。

No.01663 (No.02419) 12.05.18

ユーモラスな写真

ユーモラスな写真を時々見る。
ウフフと思う。
今日も元気に行きましょう。
http://pinterest.com/yoji2nabuchi/humor/

No.01664 (No.02420) 12.05.19

とにかくやってみる

最近はなんでも効率化が大切で、
やったことに対して明確な報酬が明らかでないと
できないことが多い。
もし明確な報酬がないと何もできないのなら
生きることもできないだろう。
飛び込んでみてはじめて始まることが実はたくさんある。

No.01665 (No.02421) 12.05.20

サウンド・オブ・サイレンス

サイモンとガーファンクルが
去年ライブをしたことを
知人の FaceBook で知った。
若い頃より髪の毛の色が薄くなり、
皺が深くなった顔で歌っていた。
その映像を YouTube で見る。
活躍していた 1960 年代、
僕はまだ 10 歳にもなっていなかったので
彼らの存在は解散してから知る。
きっかけはもちろん映画『卒業』。
折に触れ聴いていた曲は
いろんな思い出と混ざっている。

No.01666 (No.02422) 12.05.21

金環食

はじめて日食を体験した。
曇っていたから見られないかと思ったが、
食が始まる頃から晴れてきた。
ところが金環食になるそのときに
急に曇り始めた。
フィルターをかけて撮影していたが、もう暗くて写らない。
金環食の瞬間は撮影できないのかと思ったら、
なんと雲のおかげでフィルターなしで

金環食を撮影できた。
肉眼ではっきりと金の輪が見えた。

No.01667 (No.02423) 12.05.22

満天の星

幼い頃から、満天の星を見るのが怖かった。
天の川が見えるほど、たくさんの星が見えると
その星の数の多さに、
果てしのなさに、
恐怖を覚えた。
宇宙がどうやってできたのか、
星が実際にはどうできたのか、
生命がどうやって生まれてきたのか、
ひとはどうやって言葉を獲得したのか。
知らないことばかりだけど、
それでもこの宇宙で生きている。
怖いけど、うれしい。

No.01668 (No.02424) 12.05.23

Google のシンセサイザー

いつもグーグルは表紙に
その日にちなんだ絵を選ぶが、
今日はモーグ・シンセサイザーを作った
ロバート・モーグの誕生日と言うことで、
シンセサイザーが描かれている。
(ミニ・モーグに似ている)
たいていはその絵をクリックすると
その人に関しての情報が読めたりするのだが、
今日はブラウザ上で操作できるシンセサイザーになっている。
しかも隣にあるテープレコーダーに
作って演奏した音が録音できるようになっている。
スゲー!

No.01669 (No.02425) 12.05.24

コペルニクスの鏡

東大名誉教授で薬学博士の清水博先生が
新しい本を出版なさった。
タイトルは『コペルニクスの鏡』。
体裁は子供向けの物語だが、
内容は清水先生が考察を重ねてきた
場の理論を中心とする
二重生命や与贈循環について
わかりやすく物語にしたものだ。
清水先生は仏教、とりわけ大乗教の
華厳経や大乗起信論などを研究し、
さらに西田幾多郎の哲学を研究することで
いままでにはない、
「場」の理論を生み出した。
その思想のエッセンスを使って書かれた物語が
『コペルニクスの鏡』なのだ。
清水先生の本は、いままでどれも論文的な本だったのだが、
この本は多くの人が読み解けるように
わかりやすく書いている。
「場の研究所」の勉強会で入手して
帰りに電車の中で読んだのだが、
思わずウルウルしてしまった。
この本を書こうと思ったきっかけのひとつは
東日本大震災で、いまこそ必要だろうと思い立ち、
《いのち》の居場所についての物語を書いて下さった。
震災前、『無縁社会』といわれた日本だが、
震災後は『絆』が甦ったように思った。
しかし、長い期間が経つと元の木阿弥のような状態に
なってしまいそうだ。
その原因を絶つために、清水先生は
《いのちの地動説》を唱え始めた。

No.01670 (No.02426) 12.05.25

2 分 45 秒で見る　2012 年 5 月 21 日、東京での金環食

金環食の写真を 1400 枚以上撮影したので、
それをパラパラマンガのようにつなげてみた。
一コマずつ流していくと 2 分半ほどになった。
それに音楽をつけて映像化した。
作るのが面白かった。
http://bit.ly/Kjnurx

No.01671 (No.02427) 12.05.26

ツン読

これから読もうとしている本がたくさんある。
書斎に積んであるのだがなかなか進まない。
でもただ積んであるだけで
いつか読めると思うとニマッとしてしまう。
早く読みたい。
だけど、一度に全部は読めない。
ニマニマッ。

No.01672 (No.02428) 12.05.27

破壊

人間は神じゃない。
一度作ったものはいつか壊さなければならない。
人間が作ったものを壊さずに新しいものは作れない。
神が作ったかのように素晴らしい一握りのものは残して
あとは潔くぶっ壊そう。

No.01673 (No.02429) 12.05.28

クリエイティブのタイミング

クリエイティブなアイデアが出て来ないとき、
ただしばらく待ってみる。
本を読んだり、いろいろ考えたりしながら、
知識を抱え込んでただ時を待つ。
いくらがんばっても出ないときは出ない。
ところが「いつか出るよ」とただ待っていると
あるときそれはふっとやってくる。

No.01674 (No.02430) 12.05.29

書きます

ときどき「わたしも気持ちいいものを書いてみます」と
メールをもらったり、直接いわれたりする。
書くことのコツは「自分を許すこと」。
「うまく書けない」と思っても、「それでいいのだ」
「毎日は書けない」と思っても、「それでいいのだ」
「ネタ切れになる」と思っても、「それでいいのだ」
壁にひとつ当たるたびに何か新しい発見がある。
その先を知るためには
壁に当たったほうがいいくらい。
でも、わざわざ壁を作らないように。
「書いてみます」というのはまだ本気ではない。
ただ「書きます」と表現してみなさい。
あとは淡々と書くだけ。
書くことによって得られる利益を求めている間は
ほとんど何も起こらない。

No.01675 (No.02431) 12.05.30

思わぬ答え

ひとと話していて思わず笑ってしまうのは
予想もできない思わぬ答えが出てきたとき。
そもそもひとと会話する理由は
自分にはしようもない思わぬ答えに出会うためだ。
そういう答えをしてくれるひとと話すと興奮する。

No.01676 (No.02432) 12.05.31

繰り返すこと

ささいなことでも繰り返していくと
そこに価値が生まれてくる。
価値を生もうとして繰り返すのは大変だけど
好きだから繰り返した結果、
価値が生まれてくるのはとてもうれしい。

No.01677 (No.02433) 12.06.01

ふしぎ屋

昔、麦菓子を丸く固めた駄菓子があった。
麦チョコに入っているようなふっくらカリカリとした麦が
水飴で固めてあるような駄菓子。
その味が好きでよく食べていたことを思い出した。
それは「ふしぎ屋」という焼酎を飲んだから。
この麦焼酎は本当に麦の香りがする。
しかも、あの麦の駄菓子の香りだ。
一口飲んで「懐かし〜い」とうなってしまった。

No.01678 (No.02434) 12.06.02

東京オリンピック

市川崑が監督した映画『東京オリンピック』を見た。
なつかしい雰囲気が画面からあふれてきていた。
八王子でおこなわれた自転車競技は
競技より、その風景に見入ってしまった。
マラソンに出てきたアベベも懐かしかった。
円谷幸吉、最後の最後で銀メダルを逃す。
残念。
閉会式は誘導のトラブルで
選手たちが整然として出てくるはずが
バラバラになって出てきたが、
それがかえってよかった。
NHK アナウンサーのコメントが素敵だった。

No.01679 (No.02435) 12.06.03

ルパン三世

雑誌 Pen で『ルパン三世』の特集が組まれている。
僕が小学生の頃からアニメが始まった。
このように継続するキャラクターは
この先何年も作られ続けるんだろうな。
たとえばゴルゴ 13 は、最終回の原稿が
すでに描かれて金庫に保存してあるというけど、
作者が世代交代しても続けられるような気がする。

ルパン三世も何世代も続くかもなぁ。
そんなの無理かなぁ？

No.01680 (No.02436) 12.06.04

起動時間短縮

朝起きて一番のメール確認は iPad でおこなう。
なぜなら、起動時間が短くて済むからだ。
特に緊急なメールがなければそのまま別なことを始める。
iMac は以前よりは起動時間が短いが、それでも iPad には劣る。
ほんの数秒の違いかもしれないけれど。
昔は起動に何分も待っていたから、
ずっと便利にはなったんだけどね。
さらに上を求めてしまうのが人情というもの。

No.01681 (No.02437) 12.06.05

集中

何かに集中していると時間があっという間に過ぎる。
そういう状態でできることは
どんなことにせよありがたいものだ。
集中の度合いが高いと睡眠も食事もいらなくなってしまう。

No.01682 (No.02438) 12.06.06

空を見上げる

先日の日食と、今日の金星日面通過のおかげで
ここのところ空を見上げる機会が増えた。
今日は曇りでこのままだと金星日面通過は見られないが、
七時頃には降っていた雨はやんだ。
昼までにはなんとか晴れてくれ〜と念力を送ってみる。(笑)

No.01683 (No.02439) 12.06.07

実際に見る、実際に会う

昨日の金星日面通過は実際に見ることはできなかった。
その代わり、Ustream を使い
広島から発信された映像が流れていたのでそれを時々見た。
だけど、できるならこの目で見たかった。
きっと太陽の表面に黒い点が
ポチッと現れるだけなのだろうけど、
確かにそうなのかどうかは見てみなければわからない。
時々聖者や有名人に会う機会があるが、
そういう機会が巡ってきたときは必ず会いに行く。
すると、ひとによってまとっている雰囲気が違う。
映像で見える部分は何も変わらないけど、
見えない部分で大切な要素が必ずある。
それに触れるためには会わなければならない。
どんな出来事もそれに似た部分があると思う。

No.01684 (No.02440) 12.06.08

マレー諸島

ウォーレスの『マレー諸島』の上巻を読み終えた。
下巻も楽しみ。
この本は楽しい。
何が楽しいかというと、
「何かのため」の本ではない。
謳い文句としては「ダーウィンの進化論に
大きな影響を与えた本」ということなんだけど、
そのためばかりの本ではない。
旅行記であり、動物生態の書であり、
昆虫記であり、文化人類学の本でもある。
いろんな話しが複雑に絡んで、いろんなことを思わせてくれる。

No.01685 (No.02441) 12.06.09

親父の本棚

僕の父親は山のように本を読んでいたので
うちのなかは普通の家具より本のほうが
大きな場所を取っていた。
毎日その本棚を見て、
「変なタイトルの本」とか
「あの本気持ち悪そう」とか
「よくあんな本読むな」とか
いろいろと思っていた。
大人になって親父の本棚にあった本を見つけると
つい手にとって読んでみたくなる。

No.01686 (No.02442) 12.06.10

トリニティ・カレッジ

ケルズの書を見にトリニティ・カレッジに行った。
キャンパスに入り、目についたのは美しい芝生。
緑色がとっても鮮やかだった。
そして、図書館が素晴らしかった。
大きなホールにびっしりと並ぶ古文書。
見上げるほど大きな書棚。
梯子を使って上っていく。
ところどころに置かれた胸像。
それから何年かしてスターウォーズを見ていたら
そっくりの図書館が出てきて笑った。

No.01687 (No.02443) 12.06.11

チャーハン

チャーハンの作り方がいまひとつわからなかった。
溶き卵を炒めてそこにご飯を落とすことは知っていたのだけど
どのタイミングで落とすのかがわからなかった。
この動画を見てやっとわかったよ。
同じようにやったらちゃんとできた。
これでパラッパラのチャーハンができる。
今朝も作って食べた。
http://www.tomato-tanmen.com/movie/specialcharhan1.html

No.01688 (No.02444) 12.06.12

アイデア

アイデアはあるとき降るようにして湧いてくる。
一度湧き出したら止めようがない。
湧き出したアイデアはすぐに形にして
留めなければ流れて行ってしまう。
湧き出したときにそれを大切に受け止める方法を
自分なりに持っていないとそれはただの妄想となる。

No.01689 (No.02445) 12.06.13

峰不二子という女

ルパン三世のことを数日前に書いたけど、
深夜に放映されているというので
いつやっているのだろうと思い検索した。
すると、期間限定ですでに流れた話しを
すべて見ることができた。
「LUPIN the Third〜峰不二子という女」
いままでのアニメのルパン三世とは
まったく別物で完全に大人向けだ。
峰不二子がなぜ峰不二子になっていったのかが
丁寧に描かれている。
オープニングタイトルになぜフクロウが出てくるのか。
エンドタイトルの不二子がなぜ子供っぽいのか、
次第にわかるようになっている。
CF 前後のデッサンも素敵。

No.01690 (No.02446) 12.06.14

緑の香り

朝、窓を開けたら、
どこかから緑の香りが漂ってきた。
草の香りか木の香りかわからないけど、
清々しい気分になる。
季節ごとに流れる香りが変わるのが素敵。

No.01691 (No.02447) 12.06.15

新幹線

幼い頃、新幹線に乗るのが夢だった。
友達は大阪万博に行ったとはしゃいでいたが、
僕は行けなかったから。
きっと行きたいという思いはあったろうけど、
もうそんなことは忘れてしまった。
うちに万国博覧会で松下電器が埋めた
タイムカプセルの模型があった。
父が忙しかったので行きたいともいわず、
黙ってそれを見ていた。
大人になり、毎週のように出張で新幹線に乗るようになると、
新幹線はただの列車になった。
チケットを買い、見飽きた景色を眺め、弁当を食べる。
さらに時が経ち、年に数回しか乗らなくなると
また少しワクワク感が戻ってきた。
さて今日はどんな弁当を食べようかな？
（↑　要そこかよ！　というツッコミ）

No.01692 (No.02448) 12.06.16

伊勢神宮

森に包まれた伊勢神宮はその風も清らか。
木々の香りと五十鈴川のもたらす湿度が
流れる気を清々しくしてくれる。
昨晩は月次祭。
これから奉幣の儀が始まる。

No.01693 (No.02449) 12.06.17

伊勢神宮の子鹿

伊勢神宮で子鹿にあった。
内宮の正宮でお参りして、風日祈宮に参ったあと、
橋を渡っていたら、その先に子鹿が歩いて出てきた。
進んでいる道の先を横切って、また森の中へと消え入った。

No.01694 (No.02450) 12.06.18

木靴の音

伊勢神宮の月次祭に行ってきた。
神職たちが正宮に向かうとき、まずは太鼓が鳴らされる。
そののちに神職たちが一列に並んでやってくる。
遠くからでもやって来るのが音でわかる。
ザッ、ザッ、ザッ、ザッ、

木靴が砂利を踏みしめる音。
誰が号令をかけているわけでもないのに
見事に歩調が合っている。
神の意志に神職たちが同調していた。
http://書く冒険.jp/photo/?p=372

No.01695 (No.02451) 12.06.19

シェービング・ブラシ

理髪店に行ってひげを剃ってもらうとき
ふさふさなブラシで石鹸を泡立て、
アワアワな石鹸をあごに塗る。
これがちょっとくすぐったい。
幼い頃はこれをされるとき、
一生懸命笑うのをこらえていた。
このアワアワな石鹸を作るブラシを
シェービング・ブラシという。
以前から普段ひげを剃るときに
これを使いたいと思っていたが、
たいていのシェービング・ブラシはとても高価で数万円する。
ところが、先日
三千円しないシェービング・ブラシを見つけたので
すぐに買った。
安いのだが、毛先が柔らかなきちんとしたものだ。
これで毎朝ひげを剃るのが気持ちいいのだ。
普通の石鹸でひげを剃ろうとすると
いくら手で泡立てても、途中で泡が消え、
石鹸がペタペタになり、
カミソリの刃が肌に吸い付いて
カミソリ負けを起こす。
だから石鹸を選ばないとひげは剃れない。
ところがこのブラシを使うと
アワアワ状態が持続するので
普通の石鹸で十分ひげが剃れるのだ。
これなら数万円のものでも長く使っていればもとが取れる。
もっと早く使えばよかった。

No.01696 (No.02452) 12.06.20

ウェットな強い風

台風一過で湿度の高い風がびゅうびゅう吹いている。
空にはいろんな形の雲がある。
レンズのような雲、うろこのような雲、細長い雲。
こういう気候、好き。
暑くても、風が強いから気にならない。

No.01697 (No.02453) 12.06.21

古い iMac

10 年ほど前に買った iMac をいまだに使っている。
古いソフトでいまの iMac では走らないものがあるから。
新しい iMac を机の正面に置き、
その古い iMac は机の脇に置いて使うときにこちらに向ける。
いまの iMac とくらべると起動は遅いし
スピーカーの音もあまりよくないし、
画面もいまほどクリアではないが、
使っているとなんかニマニマする。
このニマニマ感はどこから来るのか？
きっとこれが愛着というものなんだろうな。

No.01698 (No.02454) 12.06.22

銀座通り

新橋から京橋まで一直線に走る銀座通りが好き。
歩道が広くて一流店が建ち並び、
ウィンドーショッピングにはとてもいい。
休日には歩行者天国になり、のんびりと歩ける。

No.01699 (No.02455) 12.06.23

完成に近づく

混乱していたプロジェクトが明確になり、
その準備が着々と進み出す。
見えなかったスケジュールがはっきりし、
わからなかった道が明らかになる。
もうすぐ完成。
仕上げに向かって歩んでいる。

No.01700 (No.02456) 12.06.24

モコモコなコーヒー

焙煎したてのコーヒーを挽いてドリップすると
コーヒー豆の粉がモコモコと膨れ上がる。
これがおいしいコーヒーのサイン。
香りも華やか。
モコモコなコーヒーから滴り落ちた
黒い液体を飲む。
クーッ

日刊　気持ちいいもの
No.1〜No.1700

著者　つなぶちようじ

2018 年 5 月 8 日　発行

発行所
東京ワークショップ

連絡先
yoji@tokyoworkshop.com

©Tsunabuchi Yoji

無闇矢鱈とコピーすること
を禁ずる。